

# 新東京国際空港 埋蔵文化財発掘調査報告書 XIX

— 東峰御幸畑東遺跡（空港No.62遺跡） —

平成16年3月

新東京国際空港公団  
財団法人 千葉県文化財センター

# 新東京国際空港 埋蔵文化財発掘調査報告書 XIX

とうほうみゆきばたひがし  
- 東峰御幸畑東遺跡 (空港No.62遺跡) -



## 序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告第483集として、新東京国際空港公団の新東京国際空港建設事業に伴って実施した成田市東峰御幸畑東遺跡（空港No.62遺跡）の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、旧石器時代の多量の石器群、縄文時代の石器群・土器や弥生時代・古墳時代後期から奈良時代初期にかけての竪穴住居跡、中・近世の野馬除け上手・溝状遺構が検出されるなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また文化財の保護・普及のための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成16年3月25日

財団法人千葉県文化財センター  
理事長 清水新次

## 凡 例

1. 本書は、新東京国際空港予定地内の成田市東峰字御幸畑29他に所在した<sup>トウキョウコクサイクウコウ</sup>東峰御幸畑東遺跡（空港No.62遺跡）の発掘調査報告書で、新東京国際空港関連の発掘調査報告書の第XIX集にあたるものである。
2. 発掘調査から報告書作成に至る業務は、新東京国際空港公団の委託を受け、千葉県教育委員会の指導のもとに、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
3. 調査で使用した遺跡のコード番号は211-008である。
4. 発掘調査は昭和53年度から55年度にかけて実施し、整理作業は昭和56年度から平成15年度にかけて断続的に実施した。また各年度の担当者は第1章に記した。
5. 本書は東部調査事務所折原 繁の指導と助言のもとに、室長宮 重行・研究員永塚俊司が編集した。なお各文章の執筆分担は以下のとおりである。  
宮 重行 第1章第2節、第3章第1節1-1・2、第3章第4節第2類以下、第2節2、第7章第2節1・2・4、第5節  
麻生正信 第2章 第1章、第3章第1節、第4章、第5章  
鳴田浩司 第2章 第6章、第7章第5節  
横山 仁 第3章第3章第2節1-3の第IV群土器第2類以下を除いた以外  
永塚俊司 第2章、第3章第2節3、第7章第1節、第2節3
6. 炭化種子の分析・同定は、バリノ・サーヴェイ株式会社に依頼した。
7. 本書で使用した地形図は下記のとおりである。  
第2図 国土地理院発行 1/25,000地形図「新東京国際空港」(NI-54-19-10-10, 「多古」(NI-54-19-10-2), 「五辻」(NI-54-19-10-1), 「成田」(NI-54-19-10-3), 「酒々井」(NI-54-19-10-4)  
第3図 新東京国際空港公団発行 1/2,500新東京国際空港平面図8・9  
第286図 新東京国際空港公団発行 1/5,000 新東京国際空港平面図  
明治15年参謀本部陸軍測量局発行 第一軍管地方迅速図の大里村
8. 周辺地形航空写真は京葉測量株式会社による昭和52年撮影のものである。
9. 本書で使用した図面の座標は、日本(旧)測地系の公共座標に基づく。また方位は、すべて座標北である。
10. 挿図に使用したスクリーントーンの利用例は、下図のとおりである。



焼土



カマド・砂



繊維を含む土器

11. 本書では旧石器時代の各石器集中地点について、「出土状況図」「垂直分布図」「同ヒストグラム」「石器実測図」「石器組成表」「石器一覧表」「出土状況写真」「出土石器写真」を作成した。

**出土状況図** 縮尺100分の1を基本とし、器種別と石材別の2枚を作成した。ただし、小規模な石器集中地点については器種別の出土状況図のみを掲載した。出土状況図には挿図No.と接合No.を器種マーク・接合線にそれぞれ記入した。器種マークは各出土状況図に凡例を示した。

**垂直分布図** 縮尺100分の1を基本とし、器種別のものを作成した。セクション図作成位置によって、東西・南北方向のどちらかを選択し、必要に応じて両者を作成した。同図には、調査区内で作成されたセクション図の一部を柱状図として遺物ドットの両端に配置した。セクション図作成位置は平面図上に・ーという記号で両端のポイントを示した。

**ヒストグラム** 遺物の出土レベルを5cm刻みで区切った出土点数をグラフ化したものである。ヒストグラムの横には、セクション図を用いて作成した各層の垂直分布範囲を示している。これは、セクション図で同一層位の最高地点と最低地点を結んでその範囲を示したものであるため、境界が液状に接していたり、地形の傾斜等により上下の層はそれぞれ重なることとなる。そして、各層が2本示してあるものについては、セクションが東西・南北方向、複数で記録されている場合に限って両者を示したものである。

**石器実測図** 縮尺5分の4を基本とするが、大形石器については3分の2、または2分の1にしたものがある。各図面にはスケールを示した。挿図No.・接合No.は各石器集中地点毎に1～付けたが、石器集中1～3のみ、集中地点間で接合関係が確認されたため、接合No.のみ通し番号とした。

**石器組成表** 石材と器種の組成表を上段に、母岩No.と器種の組成表を下段に作成した。母岩の抽出がなかった石器集中地点は上段のみで構成される。各セルの上段は点数、下段は重量〔g〕を示している。

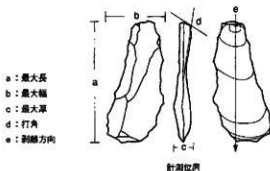
**石器一覧表** 挿図No.は実測図を掲載した遺物の通し番号である。平面分布図に付した番号、写真図版の番号と一致する。実測図を掲載しなかったものについてはグリッド、遺物No.順に続けて並べた。

器種の中で破片については、最大長・最大幅の両者が10mm以下のものとした。

なお、編集の都合上、器種名を以下のように記号化した。

ナイフ形石器：Kn, 台形様石器：Tr, 尖頭器：Po, 尖頭器未製品：(Po), 有槌尖頭器：F-Po, 角錐状石器：Kak, 楔形石器：PE, 楔形石器剥片：PE-f, 彫刻刀形石器：Bu, 削器：SSc, 掻器：ESc, 石刃：Bl, 細石刃石核：Mc, 石核：Co, 原石：R-Ma, 石斧調整剥片：Ax-f, 使用痕のある剥片：Uf, 二次加工のある剥片：Rf, 剥片：F, 破片：C, 礫：Gr, 礫片：(Gr), 敲石：Ha, 有舌尖頭器：TPo

最大長・最大幅・最大厚の計測方法については下図に示した。



石材名については各石器集中地点の本文で、その特徴を記した。あくまで考古学的な名称であるため、厳密には岩石学的な特徴を反映していないものもある。石材名の後にアルファベットを付け、大別したものがあつたのでここで簡単に紹介する。安山岩はA・Bに分けられ、前者は「ガラス質黒色安山岩」「黒色緻密質安山岩」と呼称されているもので、後者はいわゆる「トトロ石」を指す。珪質頁岩もA・Bに分けられ、珪質頁岩Aはいわゆるチョコレート色を呈したもので、珪質頁岩Bは青灰色を基本とした風化剥離面に黄土色の自然面・節理面が特徴的な、房総半島南部嶺岡産と考えられている珪質頁岩を一括した。

なお、編集の都合上、石材名を以下のように記号化した。

黒曜石：Ob [Obsidian]、安山岩：An [Andesite]、流紋岩：Rh [Rhyolite]、砂岩：Sa [Sandstone]、頁岩：Sh [Shale]、珪質頁岩：S-Sh [Siliceous-shale]、ノジュール：No [Nodule]、凝灰岩：Tu [Tuff]、チャート：Ch [Chert]、メノウ：Ag [Agate]、玉髄：Cha [Chalcedony]、オパール：Op [Opal]、粘土板岩：Cs [Clayslate]、ホルンフェルス：Ho [Hornfels]、不明：？

接合No.は原則として、各石器集中地点毎に接合No.を1～付けた。石器集中1～3のみ、前述した理由で石器集中地点間を通し番号とした。

母岩No.は、複数で同一母岩を認識したものについてのみ、各石器集中地点毎に母岩No.を1～付けた。これも石器集中1～3のみ通し番号とした。

出土層位は調査当時の層名を記した。

標高は遺物の出土レベルを記した。

出土状況写真 各石器集中地点で調査時における出土状況写真を掲載したが、適当なものがない場合は省いた。

出土石器写真 挿図に実測図を掲載したものについて、ほぼ全てのモノクロ写真を掲載した。縮尺は2分の1を基本とする。

12. 本書に収録した遺物及び記録類は、当文化財センターで保管している。

13. 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、下記の諸機関・諸氏から多くのご協力・ご指導をいただいた。それぞれ記して謝意を表する次第です。(順不同・敬称略)

千葉県教育庁生涯学習部文化課、成田市教育委員会、新東京国際空港公園の関係者各位、岡本東三氏、二宮修治氏

# 本文目次

第1章 はじめに .....	1
第1節 調査の概要 .....	1
1 調査の経緯と経過 .....	1
2 調査の方法 .....	3
第2節 遺跡の位置と環境 .....	5
1 遺跡の位置 .....	5
2 周辺の遺跡 .....	5
第2章 旧石器時代	
第1節 立川ロームと文化層 .....	11
第2節 第1文化層 .....	13
1 石器集中1 .....	13
2 石器集中2 .....	21
3 石器集中3 .....	21
4 石器集中4 .....	92
5 石器集中5 .....	97
6 石器集中6 .....	103
7 石器集中7 .....	108
8 石器集中8 .....	117
9 石器集中9 .....	120
第3節 第2文化層 .....	137
1 石器集中10 .....	137
第4節 第3文化層 .....	141
1 石器集中11 .....	141
2 石器集中12 .....	143
3 石器集中13 .....	147
4 石器集中14 .....	147
第5節 第4文化層 .....	150
1 石器集中15 .....	150
第6節 石器集中地点外 .....	204
第3章 縄文時代	
第1節 遺構 .....	212
1 陥穴 .....	212
2 炉穴 .....	220
3 土坑 .....	220
第2節 遺物 .....	227

1	縄文土器	227
2	土製品	312
3	石器	313
第4章 弥生時代後期		
第1節	遺構および遺構内出土遺物	356
第2節	グリッド出土遺物	356
第5章 古墳時代後期から奈良時代初期		
第1節	遺構および遺構内出土遺物	360
1	竪穴住居	360
2	スラグ溜まり	378
第2節	グリッド出土遺物	382
第6章 中近世		
第1節	遺構	383
1	方形竪穴状遺構	383
2	野馬土手	384
3	溝	384
第2節	遺物	390
第7章 まとめ		
第1節	旧石器時代	392
第2節	縄文時代	399
第3節	弥生時代	406
第4節	古墳時代後期から奈良時代初期	407
第5節	中・近世	408

## 挿 図 目 次

第1図	周辺地形と調査範囲	2	第12図	石器集中1 出土石器(3)	19
第2図	グリッド呼称図	3	第13図	石器集中2 出土状況	22
第3図	確認調査グリッド	4	第14図	石器集中2 出土石器	23
第4図	周辺遺跡分布図	7	第15図	石器集中3(北) 器種別出土状況	25
第5図	下層本調査範囲	12	第16図	石器集中3(北) 石材別出土状況	26
第6図	基本層序	11	第17図	石器集中3(南) 器種別出土状況(1)	27
第7図	石器集中1 器種別出土状況	14	第18図	石器集中3(南) 器種別出土状況(2)	28
第8図	石器集中1 垂直分布と地点間接合状況	15	第19図	石器集中3(南) 石材別出土状況(1)	29
第9図	石器集中1 石材別出土状況	16	第20図	石器集中3(南) 石材別出土状況(2)	30
第10図	石器集中1 出土石器(1)	17	第21図	石器集中3(南) 石材別出土状況(3)	31
第11図	石器集中1 出土石器(2)	18	第22図	石器集中3(南) 地点間接合状況	32



第23回	石器集中3(北)出土石器(1)……………38	第60回	石器集中3(南)出土石器(38)……………75
第24回	石器集中3(北)出土石器(2)……………39	第61回	石器集中3(南)出土石器(39)……………76
第25回	石器集中3(北)出土石器(3)……………40	第62回	石器集中3(南)出土石器(40)……………77
第26回	石器集中3(北)出土石器(4)……………41	第63回	石器集中3(南)出土石器(41)……………78
第27回	石器集中3(北)出土石器(5)……………42	第64回	石器集中3(南)出土石器(42)……………79
第28回	石器集中3(北)出土石器(6)……………43	第65回	石器集中3(南)出土石器(43)……………80
第29回	石器集中3(北)出土石器(7)……………44	第66回	石器集中3(南)出土石器(44)……………81
第30回	石器集中3(北)出土石器(8)……………45	第67回	石器集中3(南)出土石器(45)……………82
第31回	石器集中3(南)出土石器(9)……………46	第68回	石器集中3(南)出土石器(46)……………83
第32回	石器集中3(南)出土石器(10)……………47	第69回	石器集中3(南)出土石器(47)……………84
第33回	石器集中3(南)出土石器(11)……………48	第70回	石器集中3(南)出土石器(48)……………85
第34回	石器集中3(南)出土石器(12)……………49	第71回	石器集中3(南)出土石器(49)……………86
第35回	石器集中3(南)出土石器(13)……………50	第72回	石器集中3(南)出土石器(50)……………87
第36回	石器集中3(南)出土石器(14)……………51	第73回	石器集中3(南)出土石器(51)……………88
第37回	石器集中3(南)出土石器(15)……………52	第74回	石器集中3(南)出土石器(52)……………89
第38回	石器集中3(南)出土石器(16)……………53	第75回	石器集中4 器種別出土状況……………93
第39回	石器集中3(南)出土石器(17)……………54	第76回	石器集中4 石材別出土状況……………94
第40回	石器集中3(南)出土石器(18)……………55	第77回	石器集中4 出土石器(1)……………95
第41回	石器集中3(南)出土石器(19)……………56	第78回	石器集中4 出土石器(2)……………96
第42回	石器集中3(南)出土石器(20)……………57	第79回	石器集中5 器種別出土状況……………98
第43回	石器集中3(南)出土石器(21)……………58	第80回	石器集中5 石材別出土状況……………99
第44回	石器集中3(南)出土石器(22)……………59	第81回	石器集中5 出土石器(1)……………100
第45回	石器集中3(南)出土石器(23)……………60	第82回	石器集中5 出土石器(2)……………102
第46回	石器集中3(南)出土石器(24)……………61	第83回	石器集中5 出土石器(3)……………103
第47回	石器集中3(南)出土石器(25)……………62	第84回	石器集中6 器種別出土状況……………104
第48回	石器集中3(南)出土石器(26)……………63	第85回	石器集中6 石材別出土状況……………105
第49回	石器集中3(南)出土石器(27)……………64	第86回	石器集中6 出土石器(1)……………106
第50回	石器集中3(南)出土石器(28)……………65	第87回	石器集中6 出土石器(2)……………107
第51回	石器集中3(南)出土石器(29)……………66	第88回	石器集中7 器種別出土状況……………109
第52回	石器集中3(南)出土石器(30)……………67	第89回	石器集中7 石材別出土状況……………110
第53回	石器集中3(南)出土石器(31)……………68	第90回	石器集中7 出土石器(1)……………112
第54回	石器集中3(南)出土石器(32)……………69	第91回	石器集中7 出土石器(2)……………113
第55回	石器集中3(南)出土石器(33)……………70	第92回	石器集中7 出土石器(3)……………114
第56回	石器集中3(南)出土石器(34)……………71	第93回	石器集中7 出土石器(4)……………115
第57回	石器集中3(南)出土石器(35)……………72	第94回	石器集中7 出土石器(5)……………116
第58回	石器集中3(南)出土石器(36)……………73	第95回	石器集中8 出土状況……………118
第59回	石器集中3(南)出土石器(37)……………74	第96回	石器集中8 出土石器……………119

第97図	石器集中9	出土状況	121	第131図	石器集中15	出土石器(12)	178
第98図	石器集中9	出土石器(1)	122	第132図	石器集中15	出土石器(13)	179
第99図	石器集中9	出土石器(2)	123	第133図	石器集中15	出土石器(14)	180
第100図	石器集中9	出土石器(3)	124	第134図	石器集中15	出土石器(15)	181
第101図	石器集中9	出土石器(4)	125	第135図	石器集中15	出土石器(16)	182
第102図	石器集中9	出土石器(5)	126	第136図	石器集中15	出土石器(17)	183
第103図	石器集中9	出土石器(6)	127	第137図	石器集中15	出土石器(18)	184
第104図	石器集中10	出土状況	138	第138図	石器集中15	出土石器(19)	185
第105図	石器集中10	出土石器(1)	139	第139図	石器集中15	出土石器(20)	186
第106図	石器集中10	出土石器(2)	140	第140図	石器集中15	出土石器(21)	187
第107図	石器集中11	出土状況	142	第141図	石器集中15	出土石器(22)	188
第108図	石器集中11	出土石器	144	第142図	石器集中15	出土石器(23)	189
第109図	石器集中12	出土状況	145	第143図	石器集中15	出土石器(24)	190
第110図	石器集中12	出土石器(1)	146	第144図	石器集中15	出土石器(25)	191
第111図	石器集中12	出土石器(2)	147	第145図	石器集中15	出土石器(26)	192
第112図	石器集中13	出土状況と出土石器	148	第146図	石器集中15	出土石器(27)	193
第113図	石器集中14	出土状況と出土石器	149	第147図	石器集中15	出土石器(28)	194
第114図	石器集中15	器種別出土状況(1)	153・154	第148図	石器集中15	出土石器(29)	195
第115図	石器集中15	器種別出土状況(2)	155・156	第149図	石器集中15	出土石器(30)	196
第116図	石器集中15	石材別出土状況	157・158	第150図	石器集中15	出土石器(31)	197
第117図	石器集中15	垂直分布図と周辺セクション	159	第151図	石器集中地点外(1)		205
第118図	石器集中15	主要石器(1)	160	第152図	石器集中地点外(2)		206
第119図	石器集中15	主要石器(2)	161	第153図	石器集中地点外(3)		207
第120図	石器集中15	出土石器(1)	167	第154図	石器集中地点外(4)		208
第121図	石器集中15	出土石器(2)	168	第155図	石器集中地点外(5)		209
第122図	石器集中15	出土石器(3)	169	第156図	石器集中地点外(6)		210
第123図	石器集中15	出土石器(4)	170	第157図	縄文・弥生時代検出遺構配置		213
第124図	石器集中15	出土石器(5)	171	第158図	1号～5号陥穴		214
第125図	石器集中15	出土石器(6)	172	第159図	6号～13号陥穴		216
第126図	石器集中15	出土石器(7)	173	第160図	14号～20号陥穴		218
第127図	石器集中15	出土石器(8)	174	第161図	21号～23号陥穴		219
第128図	石器集中15	出土石器(9)	175	第162図	1号・2号炉穴, 1号～10号土坑		221
第129図	石器集中15	出土石器(10)	176	第163図	11号～23号土坑		224
第130図	石器集中15	出土石器(11)	177	第164図	24号～40号土坑		228
				第165図	上: 第Ⅰ・Ⅱ群土器の分布		230
					下: 第Ⅲ群土器の分布(1)		230
				第166図	上: 第Ⅲ群土器の分布(2)		231

	下：第Ⅲ群土器の分布(3) .....	231	第199図	第Ⅳ群土器(15) .....	284
第167図	上：第Ⅲ群土器の分布(4) .....	233	第200図	第Ⅳ群土器(16) .....	286
	下：第Ⅳ群土器の分布(1) .....	233	第201図	第Ⅳ群土器(17) .....	287
第168図	上：第Ⅳ群土器の分布(2) .....	234	第202図	第Ⅳ群土器(18) .....	288
	下：第Ⅳ群土器の分布(3) .....	234	第203図	第Ⅳ群土器(19) .....	290
第169図	上：第Ⅴ群土器の分布(1) .....	235	第204図	第Ⅳ群土器(20) .....	292
	下：第Ⅴ群土器の分布(2) .....	235	第205図	第Ⅳ群土器(21) .....	293
第170図	上：第Ⅴ群土器の分布(3) .....	236	第206図	第Ⅳ群土器(22) .....	294
	下：第Ⅵ・Ⅶ群土器の分布 .....	236	第207図	第Ⅳ群土器(23) .....	295
第171図	第Ⅰ群土器(1) .....	239	第208図	第Ⅳ群土器(24) .....	297
第172図	第Ⅰ群土器(2) .....	240	第209図	第Ⅳ群土器(25) .....	298
第173図	第Ⅰ群土器(3) .....	241	第210図	第Ⅳ群土器(26) .....	299
第174図	第Ⅰ群土器(4)、第Ⅱ群土器 .....	242	第211図	第Ⅴ群土器(1) .....	301
第175図	第Ⅲ群土器(1) .....	243	第212図	第Ⅴ群土器(2) .....	302
第176図	第Ⅲ群土器(2) .....	246	第213図	第Ⅴ群土器(3) .....	304
第177図	第Ⅲ群土器(3) .....	247	第214図	第Ⅴ群土器(4) .....	305
第178図	第Ⅲ群土器(4) .....	249	第215図	第Ⅵ群土器(1) .....	306
第179図	第Ⅲ群土器(5) .....	250	第216図	第Ⅵ群土器(2) .....	308
第180図	第Ⅲ群土器(6) .....	253	第217図	第Ⅵ群土器(3) .....	310
第181図	第Ⅲ群土器(7) .....	256	第218図	第Ⅶ群土器 .....	311
第182図	第Ⅲ群土器(8) .....	257	第219図	土製品 .....	312
第183図	第Ⅲ群土器(9) .....	258	第220図	縄文石器 群別石器構成 .....	314
第184図	第Ⅲ群土器(10) .....	260	第221図	縄文石器グリッド別分布状況 (剥片・礫) .....	315
第185図	第Ⅳ群土器(1) .....	262	第222図	縄文石器グリッド別分布状況 (器種別) .....	316
第186図	第Ⅳ群土器(2) .....	264	第223図	縄文石器グリッド別分布状況 (剥片-石材別) .....	317
第187図	第Ⅳ群土器(3) .....	266	第224図	A群 出土石器(1) .....	319
第188図	第Ⅳ群土器(4) .....	268	第225図	A群 出土石器(2) .....	320
第189図	第Ⅳ群土器(5) .....	269	第226図	A群 出土石器(3) .....	321
第190図	第Ⅳ群土器(6) .....	271	第227図	B群 出土石器(1) .....	323
第191図	第Ⅳ群土器(7) .....	273	第228図	B群 出土石器(2) .....	324
第192図	第Ⅳ群土器(8) .....	274	第229図	B群 出土石器(3) .....	326
第193図	第Ⅳ群土器(9) .....	276	第230図	B群 出土石器(4) .....	327
第194図	第Ⅳ群土器(10) .....	277	第231図	B群 出土石器(5) .....	328
第195図	第Ⅳ群土器(11) .....	278	第232図	B群 出土石器(6) .....	329
第196図	第Ⅳ群土器(12) .....	280			
第197図	第Ⅳ群土器(13) .....	281			
第198図	第Ⅳ群土器(14) .....	283			

第233図	B群	出土石器(7)	330	第265図	15号竪穴住居	374
第234図	B群	出土石器(8)	331	第266図	16号竪穴住居	375
第235図	B群	出土石器(9)	332	第267図	16号竪穴住居鉄滓分布図	376
第236図	C群	出土石器(1)	334	第268図	17号竪穴住居	377
第237図	C群	出土石器(2)	335	第269図	17号竪穴住居鉄滓分布図	378
第238図	C群	出土石器(3)	336	第270図	18号竪穴住居	379
第239図	C群	出土石器(4)	337	第271図	スラグ溜り鉄滓分布図	380
第240図	C群	出土石器(5)	338	第272図	グリッド出土遺物	382
第241図	C群	出土石器(6)	339	第273図	1号方形竪穴状遺構	383
第242図	C群	出土石器(7)	340	第274図	2～4号方形竪穴状遺構	385
第243図	C群	出土石器(8)	342	第275図	1号野馬土手, 1号溝(1)	386
第244図	C群	出土石器(9)	343	第276図	1号溝(2), 2・3・5・13号溝	388
第245図	C群	出土石器(10)	344	第277図	4・～12号溝	389
第246図	C群	出土石器(11)	345	第278図	出土銭貨・キセル	391
第247図	C群	出土石器(12)	346	第279図	東峰御幸畑東遺跡 第1文化層 主要石器	394
第248図	C群	出土石器(13)	347	第280図	木の根拓美遺跡 第1文化層 主要石器	394
第249図	C群	出土石器(14)	348	第281図	東峰御幸畑東遺跡 第1文化層 主な接合資料	395
第250図	C群	出土石器(15)	349	第282図	橋木県鳥羽新田榎神社 主要石器	395
第251図	D群	出土石器	350	第283図	東峰御幸畑東遺跡 第4文化層 主要石器	398
第252図	弥生時代竪穴住居と出土遺物	357	第284図	上余三稻荷峰遺跡 第5文化層 主要石器	399	
第253図	グリッド出土弥生土器	359	第285図	東峰西笠峰遺跡 一括集中4 主要石器	399	
第254図	古墳時代以降の遺構配置図	361	第286図	縄文時代遺構の種別配置	400	
第255図	5号竪穴住居	362	第287図	弥生時代住居跡分布	406	
第256図	6号竪穴住居	363	第288図	迅速園と遺跡周辺馬土手・溝の配置	409	
第257図	7号竪穴住居	365				
第258図	8号竪穴住居	366				
第259図	9号竪穴住居	367				
第260図	10号竪穴住居	368				
第261図	11号竪穴住居	369				
第262図	12号竪穴住居	370				
第263図	13号竪穴住居	371				
第264図	14号竪穴住居	373				

## 表 目 次

第1表	年度毎調査面積	1	第3表	新旧遺構番号対応表	5
第2表	年度毎実施内容及び担当職員	1	第4表	周辺遺跡一覧	6

第5表	第1文化層	石器組成表(1)	20	第36表	第4文化層	石器一覽表(3)	201
第6表	第1文化層	石器組成表(2)	21	第37表	第4文化層	石器一覽表(4)	202
第7表	第1文化層	石器組成表(3)	90	第38表	第4文化層	石器一覽表(5)	203
第8表	第1文化層	石器組成表(4)	91	第39表	石器集中地点外	石器一覽表	211
第9表	第1文化層	石器組成表(5)	91	第40表	縄文土器出土量		237
第10表	第1文化層	石器組成表(6)	97	第41表	A群	石器組成表	322
第11表	第1文化層	石器組成表(7)	101	第42表	B群	石器組成表	325
第12表	第1文化層	石器組成表(8)	108	第43表	C群	石器組成表	341
第13表	第1文化層	石器組成表(9)	117	第44表	D群	石器組成表	350
第14表	第1文化層	石器組成表(10)	117	第45表	E群	石器組成表	350
第15表	第1文化層	石器組成表(11)	128	第46表	A~E群	石器組成表	350
第16表	第1文化層	石器一覽表(1)	128	第47表	群別	剥片の大きさ頻度	351
第17表	第1文化層	石器一覽表(2)	129	第48表	礫石器	組成表(A~C群)	351
第18表	第1文化層	石器一覽表(3)	130	第49表	群別	礫石器の出土点数・重量	351
第19表	第1文化層	石器一覽表(4)	131	第50表	群別	礫・礫片の出土点数・重量	351
第20表	第1文化層	石器一覽表(5)	132	第51表	群別	石鏃形態組成表	352
第21表	第1文化層	石器一覽表(6)	133	第52表	石材別	石鏃形態組成表	352
第22表	第1文化層	石器一覽表(7)	134	第53表	群別	石鏃折面状況	352
第23表	第1文化層	石器一覽表(8)	135	第54表	A群	石器一覽表	353
第24表	第1文化層	石器一覽表(9)	136	第55表	B群	石器一覽表	353
第25表	第2文化層	石器組成表	137	第56表	C群	石器一覽表	354
第26表	第2文化層	石器一覽表	141	第57表	D群	石器一覽表	355
第27表	第3文化層	石器組成表(1)	143	第58表	16号竪穴住居出土	鉄滓等磁着力・分類 個体・重量表	379
第28表	第3文化層	石器組成表(2)	143	第59表	17号竪穴住居出土	鉄滓等磁着力・分類 個体・重量表	381
第29表	第3文化層	石器組成表(3)	147	第60表	スラグ溜まり出土	鉄滓等磁着力・分類 個体・重量表	381
第30表	第3文化層	石器組成表(4)	150	第61表	出土銭貨一覽表		390
第31表	第3文化層	石器一覽表	150	第62表	周辺の縄文土器出土遺跡一覽		404
第32表	第4文化層	石器組成表(1)	166				
第33表	第4文化層	石器組成表(2)	198				
第34表	第4文化層	石器一覽表(1)	199				
第35表	第4文化層	石器一覽表(2)	200				

## 図 版 目 次

図版1 遺跡空撮写真

図版2 空撮写真(確認調査時)、遠景

図版3 石器集中1, 石器集中2

図版4 石器集中3, 石器集中4

図版5 石器集中5, 石器集中6

石器集中7, 石器集中9・14

- 図版6 石器集中10, 石器集中11  
石器集中12, 石器集中15
- 図版7 2号陥穴, 3号陥穴, 4号陥穴  
5号陥穴, 6号陥穴, 7号陥穴  
8号陥穴, 14号陥穴, 15号陥穴  
16号陥穴
- 図版8 17号陥穴, 18号陥穴, 19号陥穴  
20号陥穴, 21号陥穴, 22号陥穴  
23号陥穴, 1号炉穴, 2号炉穴  
8号土坑, 9号土坑
- 図版9 12号土坑, 13号土坑, 14号土坑,  
16号土坑, 17号土坑, 18号土坑  
19号土坑, 20号土坑, 21号土坑  
22号土坑
- 図版10 23号土坑, 24号土坑, 25号土坑  
26号土坑, 27号土坑, 28号土坑  
31号土坑, 32号土坑
- 図版11 33号土坑, 34号土坑, 35号土坑  
36号土坑, 37号土坑, 38号土坑  
2号土坑, 3号土坑, 4号土坑  
5号土坑, 40号土坑
- 図版12 1号竪穴住居,  
2号竪穴住居・13号竪穴住居  
4号竪穴住居, 5号竪穴住居
- 図版13 5号竪穴住居・カマド  
6号竪穴住居・カマド  
7号竪穴住居・カマド  
7号竪穴住居炭化材出土状況
- 図版14 8号竪穴住居  
9号竪穴住居・カマド  
10号竪穴住居
- 図版15 11号竪穴住居, 12号竪穴住居  
13号竪穴住居, 14号竪穴住居
- 図版16 15号竪穴住居・カマド  
16号竪穴住居・カマド  
17号竪穴住居・カマド
- 図版17 18号竪穴住居
- 1号方形竪穴, 2号方形竪穴  
3号方形竪穴, 4号方形竪穴  
スラグ溜り
- 図版18 1号野馬土手,  
1号溝, 2号溝
- 図版19 3号溝, 5号溝, 6号溝  
7号溝, 8号溝
- 図版20 10号溝, 11号溝, 12号溝  
11号溝セクション
- 図版21 石器集中1, 石器集中2  
石器集中3-北(1)
- 図版22 石器集中3-北(2)  
石器集中3-北(3), -南(3)
- 図版23 石器集中3-南(2), 石器集中3-南(3)
- 図版24 石器集中3-南(4), 石器集中3-南(5)
- 図版25 石器集中3-南(6), 石器集中3-南(7)
- 図版26 石器集中3-南(8), 石器集中3-南(9)
- 図版27 石器集中3-南(10), 石器集中3-南(11)
- 図版28 石器集中3-南(12), 石器集中間接合資  
料(石器集中-1・2・3北)
- 図版29 石器集中4, 石器集中6, 石器集中5
- 図版30 石器集中7(1), 石器集中7(2),  
石器集中8
- 図版31 石器集中9(1), 石器集中9(2)
- 図版32 石器集中10, 石器集中11, 石器集中12,  
石器集中13, 石器集中14
- 図版33 石器集中15(1), 石器集中15(2)
- 図版34 石器集中15(3), 石器集中15(4)
- 図版35 石器集中15(5), 石器集中15(6)
- 図版36 石器集中15(7), 石器集中15(8)
- 図版37 石器集中15(9), 石器集中15(10)  
石器集中15(11),
- 図版38 石器集中地点外(1), 石器集中地点外(2)
- 図版39 第I群土器(1), 第I群土器(2)
- 図版40 第I群土器(3), 第II群土器, 第III群土  
器(1)
- 図版41 第III群土器(2), 第III群土器(3)

- 図版42 第Ⅲ群土器(4), 第Ⅲ群土器(5)
- 図版43 第Ⅲ群土器(6), 第Ⅲ群土器(7)
- 図版44 第Ⅲ群土器(8), 第Ⅲ群土器(9)
- 図版45 第Ⅳ群土器(1), 第Ⅳ群土器(2)
- 図版46 第Ⅳ群土器(3), 第Ⅳ群土器(4)
- 図版47 第Ⅳ群土器(5), 第Ⅳ群土器(6)
- 図版48 第Ⅳ群土器(7), 第Ⅳ群土器(8)
- 図版49 第Ⅳ群土器(9), 第Ⅳ群土器(10)
- 図版50 第Ⅳ群土器(11), 第Ⅳ群土器(12)
- 図版51 第Ⅳ群土器(13), 第Ⅳ群土器(14)
- 図版52 第Ⅳ群土器(15), 第Ⅳ群土器(16)
- 図版53 第Ⅳ群土器(17), 第Ⅳ群土器(18)
- 図版54 第Ⅳ群土器(19), 第Ⅳ群土器(20)
- 図版55 第Ⅳ群土器(21), 第Ⅳ群土器(22)
- 図版56 第Ⅳ群土器(23), 第Ⅳ群土器(24)
- 図版57 第Ⅳ群土器(25), 第Ⅳ群土器(26)
- 図版58 第Ⅴ群土器(1), 第Ⅴ群土器(2)
- 図版59 第Ⅴ群土器(3), 第Ⅴ群土器(4)
- 図版60 第Ⅵ群土器(1), 土製品, 第Ⅵ群土器(2)
- 図版61 第Ⅵ群土器(3), 第Ⅶ群土器
- 図版62 A群出土石器, D群出土石器  
B群出土石器(1)
- 図版63 B群出土石器(2), C群出土石器(1)
- 図版64 C群出土石器(2), C群出土石器(3)
- 図版65 礫石器(1), 礫石器(2)
- 図版66 弥生土器, 古墳時代以降住居跡出土遺物  
(1), 古墳時代以降住居跡出土遺物(2)  
グリッド出土遺物
- 図版67 出土銭貨, 近世金属製品, 8号竪穴住居  
出土炭化種子

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査の概要

### 1 調査の経緯と経過

財団法人千葉県文化財センターでは、新東京国際空港予定地内及び関連事業地内に所在する遺跡について、千葉県教育委員会の指導のもとに、新東京国際空港公団の委託により、昭和51年度から計画的・継続的に発掘調査を実施してきている。また、これらの発掘調査成果の一部は既に報告書として刊行されている<sup>1)</sup>。

今回報告する東峰御幸畑東遺跡（空港No.62遺跡）についても、千葉県教育委員会が新東京国際空港公団と遺跡の取り扱いについて慎重に協議した結果、計画変更等が無理であるため、やむを得ず、記録保存の措置がとられることとなった。そこで、当センターは新東京国際空港公団と発掘調査の実施について調整を行い、新東京国際空港建設事業地内埋蔵文化財調査業務として昭和53・54・55年度に実施することになった。その後年度計画に基づき、昭和56、平成5・9・10・11・14・15年度にわたって整理作業を実施した。各年度毎の実施内容及び担当職員は下記のとおりである。

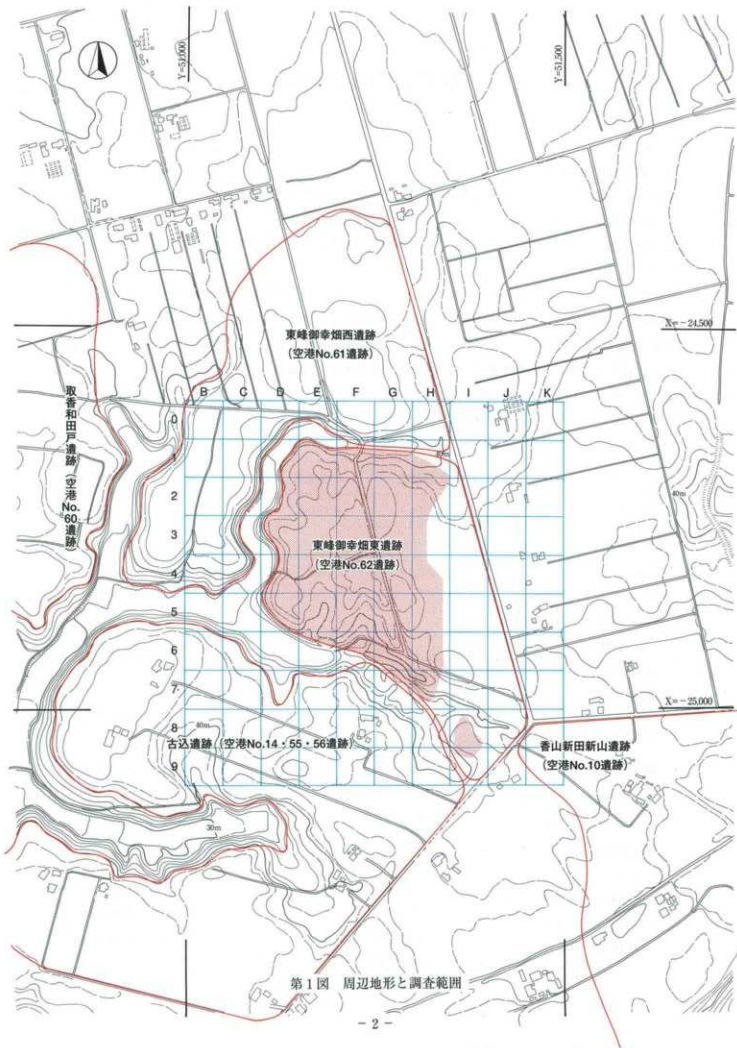
第1表 年度毎調査面積

年 度	対象面積	上層確認	下層確認	上層本調査	下層本調査
昭和53年度	84,000㎡	6,720㎡	6,720㎡	—	—
昭和54年度	36,000㎡	—	—	5,000㎡	2,880㎡
昭和55年度	31,000㎡	—	—	31,000㎡	4,250㎡

第2表 年度毎実施内容及び担当職員

年 度	期 間	業務内容	所 長	担 当 者
昭和53年度	53.7.8～53.8.5	確認調査	杉山晋作	野口行雄
昭和54年度	55.2.13～55.3.31	本調査	杉山晋作	野口行雄
昭和55年度	55.4.1～56.3.6	本調査	西山太郎	三浦和信、野口行雄、 西口 徹
昭和56年度	56.4.1～57.3.31	水洗・注記	西山太郎	野口行雄、西川博孝
平成5年度	5.10.1～6.3.31	図面・写真整理～ 復元の一部	矢戸三男	小久貫隆史、新田浩三
平成9年度	9.4.1～10.3.31	復元の一部～実測 の一部	石田広美	麻生正信、永塚俊司
平成10年度	10.4.1～11.3.31	実測の一部～図面 作成の一部	三浦和信	宮 重行、麻生正信、 平野雅一、永塚俊司
平成11年度	11.4.1～12.1.31	図面作成の一部～ 原稿執筆の一部	三浦和信	宮 重行、鳴田浩司、 永塚俊司





平成14年度	14.4.1～15.3.31	原稿執筆の一部	折原 繁	横山 仁, 水塚俊司
平成15年度	15.4.1～16.3.31	原稿執筆の一部～ 刊行	折原 繁	宮 重行, 水塚俊司

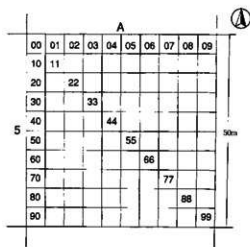
※所長は平成5年度から、平成4年度以前は班長

## 2 調査の方法

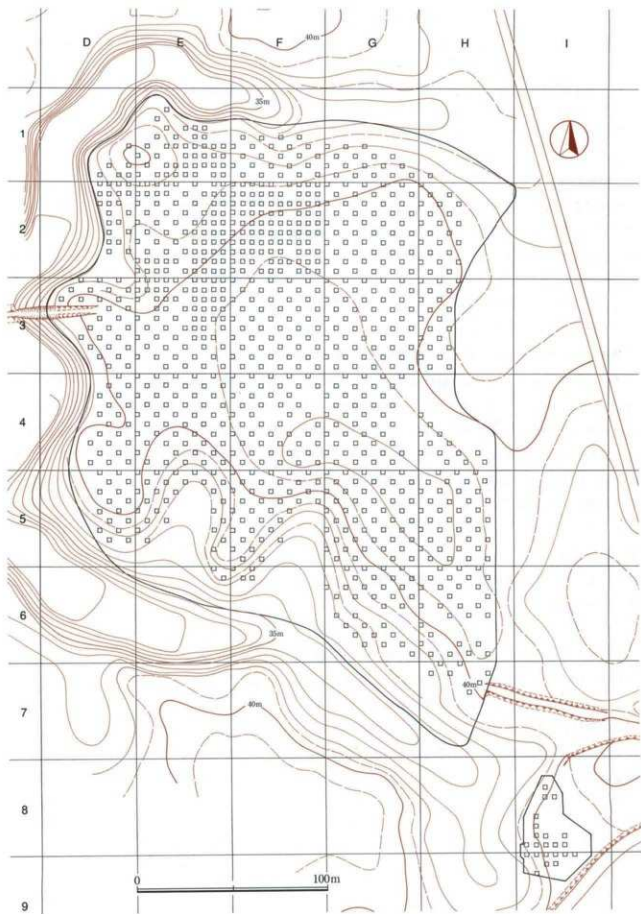
発掘調査を始めるにあたり、調査対象区域に公共座標に合わせて、50m×50mの大グリッドを設定した。さらに、その大グリッド内を5m×5mに分割し、100個の小グリッドとした。大グリッドX=-24.60・Y=50.95を基準点0 Aとし、北から南へ0, 1, 2, 3……、西から東へA, B, C……と記号をつけ、小グリッドについては北から南へ00, 10, ……、90, 西から東へ00, 01, ……、09と番号をつけ、これ等を組み合わせて呼称することにした。この結果、調査地点は1 D～1 H, 2 D～2 H, 3 D～3 H, 4 D～4 H, 5 D～5 H, 6 D～6 H, 7 G・H, 8 I, 9 I大グリッド内に包含される(第1・2図)。

調査は、上層・下層確認調査、上層本調査、下層本調査の順に実施した。上層確認調査は、2m×2mのグリッドを基本とし、対象面積84,000㎡の8%を設定して遺構と遺物の分布を確認した。下層確認調査は、2m×2mのグリッドを基本とし、対象面積84,000㎡の8%を設定して遺物の分布を確認した(第3図)。それぞれの確認調査後、本調査に移行し、遺構や遺物の分布状況を詳細に調査した。成果のうち、遺構は旧石器時代石器集中地点15か所、竪穴住居跡18軒(弥生後期4, 占墳時代後期から奈良時代初期14), 炬穴2基(縄文), 土坑40基(縄文), 陥穴23基(縄文), 馬上手1条(近世), 溝13条(中・近世)を検出した。遺物は、旧石器時代石器(石斧, ナイフ形石器, スクレイパー, 剥片等), 縄文土器(押型文, 田戸上層, 鶏ヶ岡台, 茅山, 阿玉台), 石器(石鏃, 剥片等), 弥生土器, 土師器(古墳, 奈良), 鉄器, 鉄滓, 銭貨, 煙管等が出土した。

なお、遺構番号は調査時に大グリッド毎に通し番号を、例えば1 E (大グリッド番号に当たる)イ(遺構の意味)001(通し番号)と付していたが、整理にあつて本書では第3表のように遺構番号を変更した。各遺構説明は新番号を基準に記述したが、遺物番号と照合する際の混乱を避けるため参考のため旧番号も併記している。



第2図 グリッド呼称図



第3図 確認調査グリッド

第3表 新旧遺構番号対応表

縄文時代						弥生時代後期		中近世	
新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧
1号輪穴	1F/001	1号土坑	4E/005	24号土坑	4D/002	1号竪穴住居	2D/002	1号方形竪穴状遺構	1E/001
2号輪穴	2D/010	2号土坑	5F/002	25号土坑	4D/004	2号竪穴住居	2E/007	2号方形竪穴状遺構	7H/001
3号輪穴	2E/012	3号土坑	5F/003	26号土坑	4D/006	3号竪穴住居	2E/008	3号方形竪穴状遺構	2H/002
4号輪穴	2E/014	4号土坑	5F/004	27号土坑	4D/007	4号竪穴住居	2E/010	4号方形竪穴状遺構	7H/002
5号輪穴	2F/001	5号土坑	5F/005	28号土坑	4E/002			1号溝	溝1
6号輪穴	2G/001	6号土坑	1E/003	29号土坑	4E/004	古墳時代後期から 奈良時代初期		2号溝	溝2
7号輪穴	3D/001	7号土坑	1G/002	30号土坑	4E/006		新	旧	3号溝
8号輪穴	3E/002	8号土坑	2D/003	31号土坑	4E/007			4号溝	溝4
9号輪穴	3E/003	9号土坑	2D/004	32号土坑	4F/001	5号竪穴住居	2D/001	5号溝	溝5
10号輪穴	3E/004	10号土坑	2D/005	33号土坑	4F/002	6号竪穴住居	2E/001	6号溝	溝6
11号輪穴	3E/008	11号土坑	2D/006	34号土坑	4F/005	7号竪穴住居	2E/002	7号溝	溝7
12号輪穴	3E/009	12号土坑	2D/009	35号土坑	5D/001	8号竪穴住居	2E/003	8号溝	溝8
13号輪穴	3F/001	13号土坑	2F/002	36号土坑	5E/002	9号竪穴住居	2E/004	9号溝	溝9
14号輪穴	3G/001	14号土坑	2F/003	37号土坑	5E/003	10号竪穴住居	2E/005	10号溝	溝10
15号輪穴	4D/005	15号土坑	2H/004	38号土坑	5E/007	11号竪穴住居	2E/006	11号溝	溝11
16号輪穴	4E/001	16号土坑	3D/003	39号土坑	5G/003	12号竪穴住居	2E/009	12号溝	溝12
17号輪穴	4E/008	17号土坑	3D/004	40号土坑	5H/002	13号竪穴住居	2E/011	13号溝	
18号輪穴	5F/006	18号土坑	3D/005	1号炉穴	4E/003	14号竪穴住居	2H/001	馬土手1	馬土手1
19号輪穴	5G/001	19号土坑	3D/006	2号炉穴	5F/001	15号竪穴住居	3E/001		
20号輪穴	5G/002	20号土坑	3E/005			16号竪穴住居	5E/004		
21号輪穴	5H/001	21号土坑	3E/006			17号竪穴住居	5E/005		
22号輪穴	6H/001	22号土坑	3E/007			18号竪穴住居	5E/006		
23号輪穴	8H/001	23号土坑	4D/001			スラグ溜まり	6E/001		

## 第2節 遺跡の位置と環境

## 1 遺跡の位置

千葉県北部の下総台地と呼ばれる広大な洪積台地は、大小の河川の浸食により樹枝状の谷によって深く刻まれ複雑な地形をなしている。成田市の東部に位置する新東京国際空港予定地内の本遺跡もこの下総台地上に位置する。この周辺は、利根川水系と太平洋に注ぐ水系との分水界に位置しており、河川の開折の激しい下流域に比べると、標高40mのあまり開折を受けていない平坦で広い台地が広がるのが大きな特徴となっている。

今回報告する東峰御幸畑東遺跡（空港No.62遺跡）は、空港予定地内の中央やや北よりに位置し、利根川水系の根本名川支流である取香川に開折された支谷の最奥部に西へ舌状に張り出している台地部分にある。標高は約40mで、周囲の水田面との比高差は約10mを計る。この支谷に面しては、取香和田戸遺跡（空港No.60遺跡）<sup>1)</sup>、東峰御幸畑西遺跡（空港No.61遺跡）<sup>2)</sup>、本遺跡、古込遺跡（空港No.14・55・56遺跡）<sup>3)</sup>という大規模な遺跡が取り巻くように位置している。

## 2 周辺遺跡（第4図）

本遺跡の周辺には多くの遺跡が所在しており、空港予定地内だけでも30あまりを数える。特に、旧石器時代から縄文時代早期にかけての遺跡が数多いことが目につく。これらの遺跡群については、既刊の報告書に詳しく重複するが、再度それらを基に空港予定地内の遺跡を中心に、時代毎に概観しておく。

旧石器時代 本遺跡の周辺には空港予定地内を代表する石器群が集中している。

小谷を介して北西に面する東峰御幸畑西遺跡（空港No.61遺跡）では、3文化層があり、Ⅸ層段階には40地点に及ぶ石器集中地点が形成されている。環状石器集中群が2地点みられた。また、北方系の細石刃石器群がみつかった。その西となりの取香和田戸遺跡（空港No.60遺跡）はアメーバ状に広がった広大な台地上にある大規模な遺跡で、立川ルームⅨ層～Ⅲ層にかけて6枚の文化層と、46か所に及ぶ石器集中地点が検出されており、有髄尖頭器を主体とする第2文化層が質量ともに充実している。同様に南には古込遺跡がある。上層調査中に検出された細石刃石核、ナイフ形石器、尖頭器などがある。立川ルーム層最下部からは、局部磨製石斧・ナイフ形石器・楔形石器をはじめとした小規模な石器集中地点が1か所検出されている。学史的には「No.55遺跡」として著名である。これらの出土石器は、県指定文化財となっている。上記の遺跡と本遺跡を含めた4遺跡を合算すると、1万点以上の出土石器、120か所前後に及ぶ石器集中地点が検出されており、取香川最奥部に位置する遺跡群の一翼を担っている。

さらに北側、取香川最奥部の異なる支谷を取り囲むもう一つの遺跡群の存在も注目される。十余三稲荷峰遺跡（空港No.67遺跡）<sup>41</sup>、十余三稲荷峰西遺跡（空港No.68遺跡）<sup>42</sup>、天神峰最上遺跡（空港No.64遺跡）<sup>43</sup>などが属する。十余三稲荷峰遺跡では旧石器時代の石器集中地点が48か所が広範囲に分布し、特に、信州産黒曜石を主体とする細石刃石器群は、資料的に充実したものであり注目される。

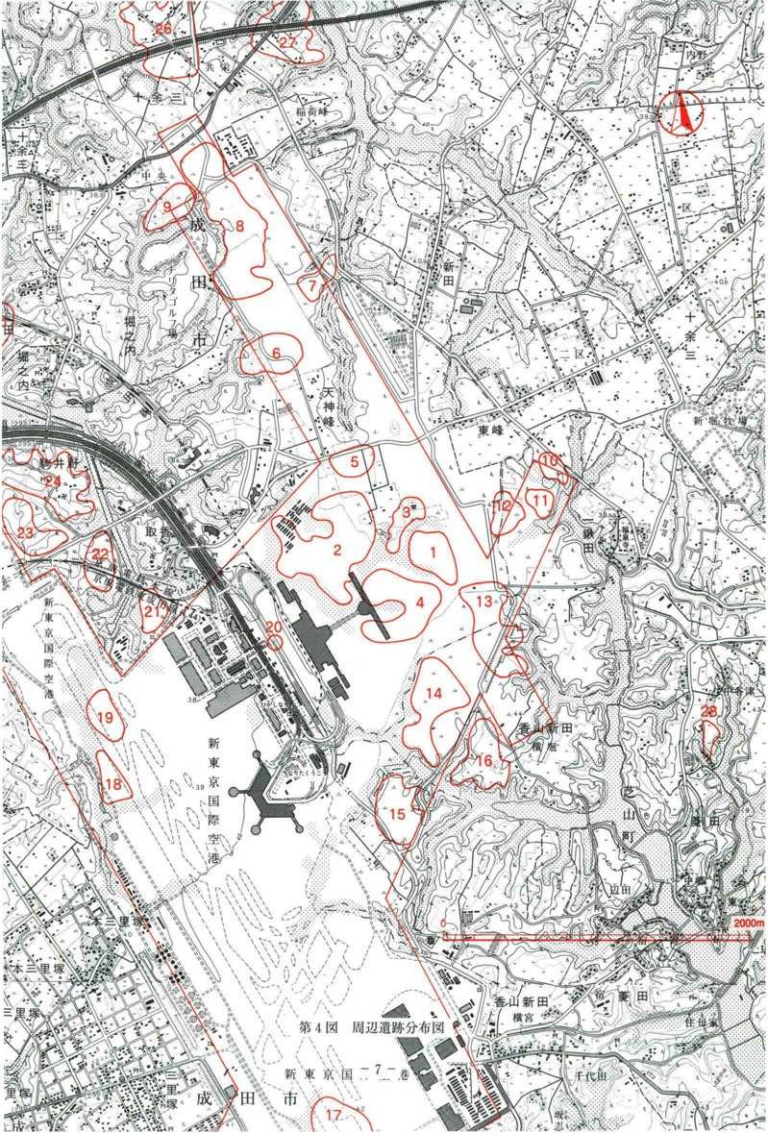
根木名川支流の尾羽川沿いにある天神峰奥之台遺跡（空港No.65遺跡）では、3つの文化層で台形石器を主体とする石器群、石刃を主体とする石器群、ナイフ形石器を主体とし礫群を伴う石器群を検出した<sup>44</sup>。

利根川へ北流する河川に対して太平洋へ南流する河川に面した遺跡からも多くの旧石器時代の石器群が検出されている。高谷川最奥部の台地上に位置する一飯田甚兵衛山北遺跡（空港No.11遺跡）は、ナイフ形石器を主体とする文化層と尖頭器を主体とする文化層があり、小型の剥片を素材にして石器製作を行っていた遺跡である<sup>45</sup>。香山新田新山遺跡（空港No.10遺跡）では、10期に細分され、主として尖頭器を主体とする石器群、細石器を主体とする石器群、石刃を主体とする石器群、礫群で構成されていた<sup>46</sup>。香山新田中横堀遺跡（空港No.7遺跡）は、有髄尖頭器を主体とする石器群と大型の石刃を主体とする石器群の存在が特徴である<sup>47</sup>。一飯田甚兵衛山西遺跡（空港No.16遺跡）<sup>48</sup>、木の根拓美遺跡（空港No.6遺跡）<sup>49</sup>でも石器集中地点が見つかった。この地域の遺跡では、先に述べた取香川・尾羽根川流域の遺跡と比較して第2黒色帯及びそれより下位の石器群が少ないことが注意される。

縄文時代 縄文時代の遺跡としては、ほとんどの遺跡がこの地域特有の縄文土器（早期・前期）の包含層

第4表 周辺遺跡一覧

No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	東峰御幸畑東遺跡 (空港No.62遺跡)	15	木の根拓美遺跡 (空港No.6遺跡)
2	取香和田戸遺跡 (空港No.60遺跡)	16	香山新田金沢台遺跡
3	東峰御幸畑西遺跡 (空港No.61遺跡)	17	東三里塚吉野台遺跡 (空港No.3・51・52遺跡)
4	古込遺跡 (空港No.14・55・56遺跡)	18	天浪大里遺跡 (空港No.18遺跡)
5	東峰西空峰遺跡 (空港No.63遺跡)	19	天渡須丘遺跡 (空港No.19遺跡)
6	天神峰最上遺跡 (空港No.64遺跡)	20	古込込前遺跡 (空港No.22遺跡)
7	天神峰奥之台遺跡 (空港No.65遺跡)	21	台の田Ⅰ遺跡
8	十余三稲荷峰遺跡 (空港No.67遺跡)	22	駒井野荒迫遺跡
9	十余三稲荷峰西遺跡 (空港No.68遺跡)	23	駒井野西ノ下遺跡
10	一飯田甚兵衛山北遺跡 (空港No.11遺跡)	24	駒井野城
11	一飯田甚兵衛山南遺跡 (空港No.12遺跡)	25	長田砦
12	一飯田甚兵衛山西遺跡 (空港No.16遺跡)	26	十余三四本木Ⅱ遺跡
13	香山新田新山遺跡 (空港No.10遺跡)	27	稲荷峯Ⅱ遺跡
14	香山新田中横堀遺跡 (空港No.7遺跡)	28	夢田梅ノ木遺跡



第4圖 周辺道跡分布圖

新東京国際空港

成田市

新東京国際空港

成田市

を作っている。

南側に接する古込遺跡では、沈線文土器を主体に分布する地区と石鏝製作跡を伴う条痕文土器が主体とする地区に分かれていた。前期浮島式から中期五領ヶ台式土器の出土も顕著である。本遺跡も古込遺跡同様、条痕文土器・沈線文土器を主体とする包含層が検出されている。また北西に接する東峰御幸畑西遺跡では、早期前半（燃糸文期）の竪穴住居跡が5軒と炉跡が検出され、燃糸文土器、沈線文土器、条痕文土器を主体とする包含層が検出された。取香和田戸遺跡では、早期前半（燃糸文期）の竪穴住居跡が6軒、沈線文期のもので1軒検出され、炉穴や焼窯の礎群がまとまって出土した。早期燃糸文土器、沈線文土器を主体とする包含層も検出された。また草創期多縄文土器の出土があった。

取香川流域の十余三稲荷峰遺跡を中心とする地区では、旧石器同様の遺跡集が見られる。十余三稲荷峰遺跡で縄文時代早期三戸式土器を主体とした沈線文土器と条痕文土器を伴う多数の住居跡などの遺構群をはじめ、良好な土器包含層が検出されている<sup>14)</sup>。現在整理中であるが、表裏燃糸文の土器の存在は注目される。また後期の土器が比較的集中して出土した。隣接する十余三稲荷峰西遺跡からも良好な三戸式土器・条痕文土器の包含層が検出された。両遺跡の南側にある天神峰最上遺跡では、燃糸文土器を主体とする包含層がある。

本遺跡からさらに取香川の下流の成田市台の田Ⅱ遺跡では燃糸文期の包含層が検出されている<sup>15)</sup>。また成田市長田和田遺跡では前期黒浜期・関山期の集落跡が検出されている<sup>16)</sup>。三里塚周辺地区は取香川の南端部にあたり、天浪浪丘遺跡（空港No.19遺跡）、天浪大里遺跡（空港No.18遺跡）、東三里塚吉野台遺跡（空港No.3・51・52遺跡）などで早期の竪穴住居跡が検出された<sup>16)</sup>。

また十余三稲荷峰遺跡北側の、利根川支流の尾羽根川西岸にある稲荷峰遺跡では、早・前期（条痕文期から黒浜期）の竪穴住居跡15軒が検出され、本格的な集落跡となってる。包含層からは、沈線文・条痕文が主体として出土した<sup>17)</sup>。根木名川支流の荒海川最上流にある十余三四本木Ⅱ遺跡では、燃糸文・沈線文土器主体の包含層が検出されている<sup>18)</sup>。

九十九里浜へ南流する高谷川水系では、まず取香郡多古町一畝田周辺の遺跡群が挙げられる。一畝田甚兵衛山遺跡では燃糸期の住居が検出されている。一畝田甚兵衛山北遺跡では燃糸文期をはじめとする早前期の包含層が検出されている。一畝田甚兵衛山南遺跡（空港No.12遺跡）では草創期隆起縄文土器が、有舌尖頭器・尖頭器の石器製作跡と併伴して出土している<sup>19)</sup>。香山新田新山遺跡は従来多数の陥穴や中期阿玉台式の古手の土器の出土で知られていたが、近年草創期から早期初頭の表裏縄文土器が発表された<sup>20)</sup>。

香山新田中横堀遺跡で、早期前半（燃糸文期）の井草式期と子母口式期の竪穴住居跡を検出し、住居形態が明らかになった他に前期と中期の土器が検出された。木の根柢美遺跡で燃糸文土器が井草Ⅰ式から花輪台式までの土器がそろって出土した<sup>21)</sup>。特に沈線文の施文された「木の根柢土器」とも称される類が印象的である。燃糸文期の土偶は文化財として県指定された。なお、事業地内ではまれな縄文前期の住居跡も検出されている。また菱田梅ノ木遺跡でも燃糸文土器の包含層が検出されている<sup>22)</sup>。

中期以降では、完形に近い土器が小規模にまとまって出土する傾向があるものの、至近には集落を伴う遺跡はなく、長田雉子ヶ原遺跡<sup>23)</sup>や古宿上谷遺跡<sup>24)</sup>のように、分水界から谷を下った地区に集落は所在するようだ。

弥生時代から平安時代 弥生時代の集落跡としては、新東京国際空港予定地内では後期の竪穴住居跡を18軒検出した東峰御幸畑西遺跡と、後期の竪穴住居跡を4軒検出した本遺跡との2遺跡が知られているだけ

である。他の集落跡は取香川を長田和田遺跡まで下った地区に出現する。伊藤沼周辺及び利根川周辺には弥生時代の遺跡は比較的多いが、空港周辺の台地分水嶺付近ではこの2遺跡だけ存在し、特異な遺跡の所在例と思われる。なお芝山町井森戸遺跡から弥生中期の地点が検出された<sup>20</sup>ことは、注目される。

古墳時代の遺跡としては、河川水系の最奥部にあるためか、古墳や集落遺跡は発見されていない。東峰西笠峰遺跡（空港No.63遺跡）<sup>21</sup>と香山新田中横堀遺跡で1軒ずつがみられるのみである。駒井野西ノ下遺跡・堀之内古墳群での古墳、駒井野荒追遺跡での集落跡<sup>27</sup>のように、両者とも河川を若干下った地域から出現する。奈良・平安時代の遺跡は、事業地内では古墳時代と同様に大規模な集落は発見されていない。しかしその一方で、多くの製鉄関連遺跡が存在し、工房跡と思われる住居跡が多数存在する。

本遺跡では8世紀前半の住居跡群とともに、住居内に廃棄されたスラグとスラグ溜まり土坑を検出している。西隣の東峰御幸畑西遺跡では8世紀前半の住居跡8軒と、南側の斜面に製鉄関連遺構を検出した。取香和田戸遺跡では8世紀前半と9世紀前半の住居跡10軒と製鉄関連遺構を検出した。一飯田甚兵衛山北遺跡では、8世紀前半の住居跡10軒と製鉄関連遺構を検出した。香山新田中横堀遺跡では10～13世紀の製鉄関連遺構を検出した。

中・近世 下総台地最奥部である事業地内には、谷との比高がないためか中世館跡などの目立った遺跡は所在していない。少し下った取香川側では駒井野城や長田砦跡があらわれる。駒井野荒追遺跡・駒井野西ノ下遺跡では中・近世の遺構が多数みられる。また同じく高谷川側には芝山町岩山城がある。中世末には千葉氏が北条氏の命を受け、牧を開始したとされるが、この地域でも経営が始まった可能性は十分考えられよう。

近世には、事業地内の大半の地域は官営牧の範囲内に含まれており、「駒井野」、「古込」などの牧に関連した地名も残されている。本遺跡は佐倉七牧の一つ矢作牧の西辺で、取香牧との境界付近に当たり、調査の結果、野馬土手と野馬堀の溝等を検出した。野馬土手自体はほとんど後世に削られてしまい、残存している箇所は少ないが、近隣の取香和田戸遺跡では部分的に残されている。一方、土手に伴っていたとみられる溝は、比較的残りやすいこともあり、本遺跡を始め事業地内の各遺跡から多数検出されている（第286図）。また本遺跡に隣接する古込地区に矢作牧の捕込跡のひとつがあったとされているが、この地区の西端には土手を持った捕込跡が空港建設前まで残存しており、古込込前遺跡（空港No.22遺跡）として調査されている<sup>28</sup>。なお牧は明治初期で廃止されてしまい、以降は矢作牧は十余三開墾地へ、取香牧近辺は官立の牧羊場・種畜場となり三里塚御料牧場へとつながる<sup>29</sup>。

注1 宮 重行・新田浩三 1994「新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ 取香和田戸遺跡（空港No.60遺跡）」千葉県文化財センター調査報告第244集

2 宮 重行・麻生正信・水塚俊司 2000「新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ - 東峰御幸畑西遺跡（空港No.61遺跡） -」千葉県文化財センター調査報告第385集

3 野口行建他 1983「新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ No.14遺跡」

西野元他 1971「三里塚 新東京国際空港用地内の考古学的調査」(財)千葉県北総公社

4 森本和男 1992「コンピューターによる細石器遺跡の分析」[研究連絡誌]第34号 (財)千葉県文化財センター

5 宮 重行・水塚俊司 2000「新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ - 十余三稲荷峰西遺跡（空港No.68遺跡） -」千葉県文化財センター調査報告第386集

6 水塚俊司他 2001「新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ - 天神峰上遺跡（空港No.64遺跡） -」千葉県文化財センター調査報告第405集



- 7 横山 仁 1997「新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書X - 天神峰奥之台遺跡(空港No.65遺跡) -」千葉県文化財センター調査報告第304集
- 8 新田浩三 1995「新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書IX - 一飯田甚兵衛山北遺跡(空港No.11遺跡) -」千葉県文化財センター調査報告第264集
- 9 川島利道・雨宮龍太郎 1985「新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書V No.2遺跡 No.10遺跡」
- 10 西川博孝他 1984「新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書IV - No.7遺跡 -」
- 11 永塚俊司他 2001「新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書XIV - 一飯田甚兵衛山西遺跡(空港No.16遺跡) -」千葉県文化財センター調査報告第404集
- 12 宮 重行・池田大助・野口行雄 1981「木の根」
- 13 石橋公文 1988「新東京国際空港No.67遺跡出土の三戸式土器」研究連絡誌第22号 千葉県文化財センター
- 14 鎌谷孝之・矢本節朗 1997「成田市台ノ田Ⅱ遺跡」成田国際物流複合基地埋蔵文化財調査報告書1 千葉県文化財センター調査報告第302集
- 15 喜多圭介 1989「千葉県成田市長田和田遺跡 ニュー東京空港ゴルフ場造成地内埋蔵文化財調査報告書(1)」財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第30集
- 16 注3 西野文献
- 17 斎木 勝ほか 1985「東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書-成田地区-」(千葉県文化財センター)
- 18 宮 重行ほか 2002「成田市十余三四本木Ⅱ遺跡」航空無線施設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 千葉県文化財センター調査報告第425集
- 19 鈴木道之助 1976「新東京国際空港No.12遺跡の有否失頭器をめぐって」研究紀要10 (千葉県文化財センター)
- 20 石倉亮治・鳴田浩司・永塚俊司 2002「新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書XⅧ 香山新田新山遺跡(空港No.10遺跡)・十余三福荷峰西遺跡(空港No.68遺跡)」千葉県文化財センター調査報告第447集
- 21 池田人助 1984「北総台地における沈線文土器群の出現 木の根Ⅰ式及びⅡ式土器の提唱」研究紀要8 (千葉県文化財センター)
- 22 岡田誠造 1993「菱田梅ノ木遺跡」菱田梅ノ木地先宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書 千葉県文化財センター調査報告第228集
- 23 喜多圭介 1989「長田埴子ヶ原遺跡・長田香花田遺跡」ニュー東京空港ゴルフ場造成地内埋蔵文化財調査報告書2 財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第31集
- 24 鳴田浩司・岡田光広 1998「空港南部工業団地埋蔵文化財調査報告書1 - 山武郡芝山町古宿・上谷遺跡 -」千葉県文化財センター調査報告第304集
- 25 平成14年度の空港南部工業団地の調査で検出された。
- 26 平野雅一・永塚俊司 1999「新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書XI - 東峰西笠峰遺跡(空港No.63遺跡) -」千葉県文化財センター調査報告第363集
- 27 林田利之 1993「千葉県成田市駒井野荒追遺跡 マロウドインターナショナルホテル成田建設予定地内埋蔵文化財調査報告書」財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第64集
- 西口 徹 2003「成田市駒井野荒追遺跡・成田市台ノ田Ⅱ(2)遺跡」成田国際物流複合基地埋蔵文化財発掘調査報告書2 千葉県文化財センター調査報告第452集
- 28 注3 西野文献  
酒々井町 1979「酒々井町史 史料集(3)(佐倉牧関係(2))」  
先述の古地図や「三里塚」、「酒々井町史」等の資料では、遺跡の近辺に矢作牧の捕込跡があったことが記されている。牧の範囲図から検討すると、古込込前遺跡が相当しそうである。
- 29 成田市 1994「市政40周年記念 図説成田の歴史」

## 第2章 旧石器時代

### 第1節 立川ロームと文化層

東峰御幸畑東遺跡（空港No62遺跡）の位置する周辺の台地は下総台地と呼ばれ、更新世中期～後期の海成砂質堆積物（下総層群）を主体として、その上位に風成層である「新規ローム層（主に武蔵野ローム・立川ローム）」及び黒色土が覆っている。下総層群の最上部には湿地性の堆積物と考えられている常総粘土層（青灰色の火山灰質粘土層）が堆積するが、これは下末吉ローム起源のものと考えられている。

こうした堆積物からなる台地の地形面は、海や川の浸食・堆積作用が働かなくなった時期（離水期）によって区分され、古い方から下末吉面（下総上位面）、武蔵野面（下総下位面）、立川面（千葉面）などに分けられており、それぞれの地形面に堆積するローム層の層序が異なっている<sup>1)</sup>。

本遺跡の調査地点は下末吉面（下総上位面）に対比され、標準的には上記のような堆積物が観察されるが、遺跡内では立川ロームの堆積を確認したにすぎない。以下に、2F48グリッド北壁（第6図）の立川ロームの層序について、調査当時の注記を掲載しながら解説する。

#### I 層 表土層

#### II b 層 褐色土層（新規テフラ）

#### II c 層 黒褐色土層

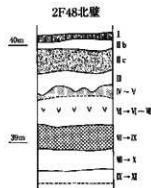
#### III 層 ソフトローム層

#### IV～VI 層 ハードローム層 クラックが顕著に発達。

#### AT包含層

#### VII 層 第2黒色帯に相当。VIII層とは色調による分層はほとんどできない。多量の赤褐色のスコリアと、少量の青褐色スコリアを含む。

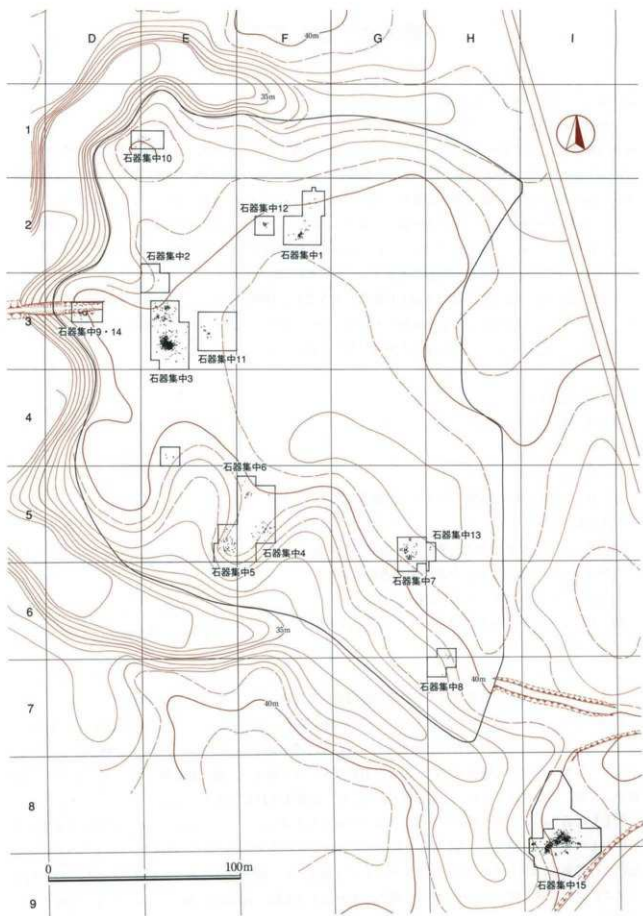
#### IX 層 赤褐色・青褐色スコリアをほとんど含まない。立川ローム最下層。



第6図 基本層序

平成4年に提示された立川ロームの標準的な層序<sup>2)</sup>と比較すると、やはりVII層が厚く捉えられ、第2黒色帯の上半部（VIII層）を抽出できていない。土層断面乾燥後に分層していることが大きな原因と思われる。第1・第2黒色帯の色調はそれほど暗色とならず、第2黒色帯はスコリアの含有量で分層を行っている。つまり、標準的なローム層区分では、旧IV～VI層はIV～VI・VIII層の一部、旧VIII層はIX層の一部～IX層、旧IX層はX層（武蔵野ローム最上層）に対比されると考えられる。

出土した石器群は、出土層位をもとに、第2黒色帯を主体に立川ローム最下層に広がる第1文化層に石器集中1～9の9ブロック、ATより上位でハードロームとソフトロームの境界付近で検出された第2文化層に石器集中10の1ブロック、ソフトローム層（III層）から検出された第3文化層に石器集中11～14の4ブロック、III層上部～II c層にかけて検出された第4文化層に石器集中15の1ブロックと、分離された（第5図）。



第5図 下層本調査範囲

## 第2節 第1文化層

第2黒色帯から立川ローム最下層を中心に検出された石器集中地点で、石器集中1～石器集中9の9ブロックが検出された。黒曜石を主体とした石器集中1～4と非黒曜石を主に用いる石器集中5～9に大きく分かれる。分布についても石器集中1～3・9は調査区北側、石器集中4～8は調査区南側に分かれ、前者には石器集中3を中心として石器集中1～3に接合関係が確認された（接合No.・母岩No.は原則的に各石器集中地点毎に付したが、石器集中1～3については両No.ともに連番とした）。黒曜石は豊富な接合資料により剥片剥離の工程が明らかとなり、折断を多用した台形様石器が多数残されている。また、黒曜石を主体とする石器群には非黒曜石製の石刃が搬入される特徴的な傾向が指摘できる。非黒曜石石器が主体となる石器集中5～9は、各ブロックで石材構成を始めとする石器群の様相が異なり、同一文化層に一括したものの、石器集中1～3のようなまとまりは見いだせない。出土層位にもやや幅が見受けられることから時期的な細分が可能なのかもしれない。

### 1 石器集中1（第7図～12図、第5・14表、図版3・21）

分 布 調査区の北縁中央、北側に支谷を望む台地縁辺の平坦地に立地する（第5図）。2F56・66グリッドの境界に径約3mの範囲で密集域を形成しているが、周辺の径約10mの範囲にやや散漫な分布域を形成する。さらにその密集域から北側に約20m程、点在して出土した遺物分布を含めて、石器集中1と呼称する。

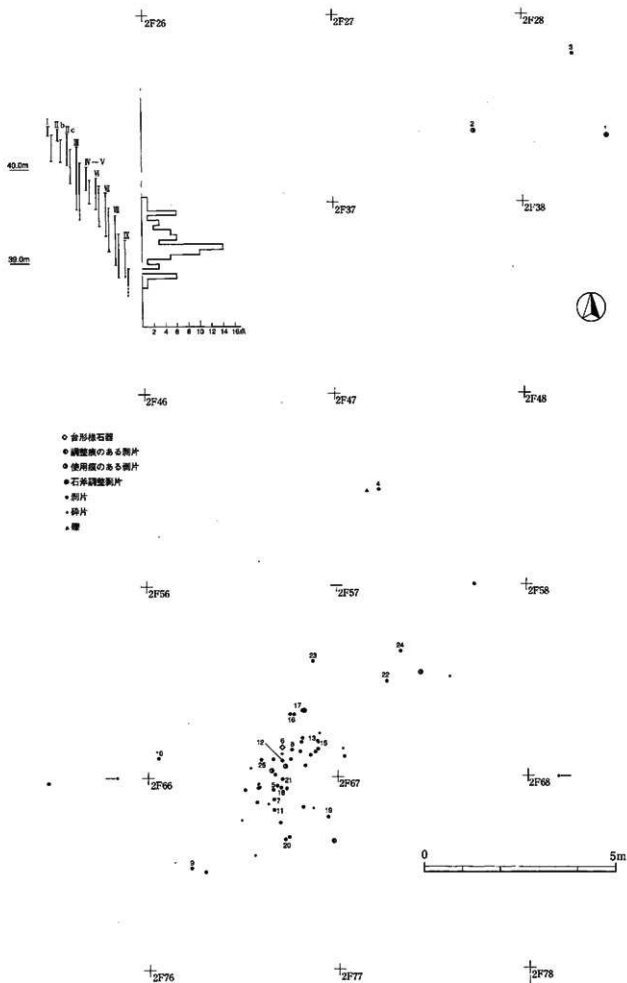
出土層位は、調査時の見解では旧Ⅵ層を主体としているが、垂直分布図・ヒストグラム・出土状況写真を見ると比較的上下に分散していることが分かる（第8図）。これは南北に広がる遺物すべてを対象としているため、当時の地形の傾斜による上下差も取り込んでしまっていることが原因の一つとしてあげられる。よって、Ⅵ層を厚く捉える当時の分層を勘案すると、標準的分層による出土層位はⅩ層上部～Ⅸ層上部で、その中心はⅨ層下半部にあると推測される。なお、遺物の出土レベルは最大値39.645m、最小値38.705m、平均39.158mである。

接合資料は9個体が確認され、接合資料1・2は石器集中3とのブロック間に接合関係が認められた。接合距離は約90mである（第8図）。

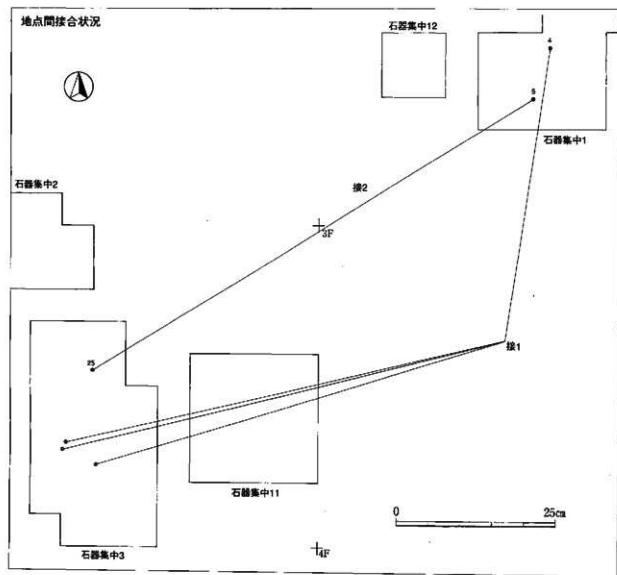
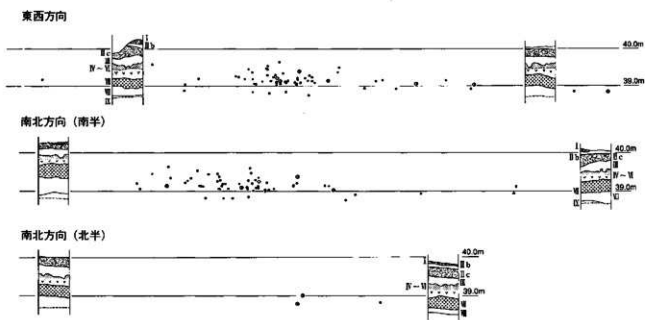
器 種 台形様石器1点、石刃1点、調整痕のある剥片1点、使用痕のある剥片5点、剥片45点、碎片14点、石斧調整剥片1点、礫1点を含む合計69点が出土した（第5表）。碎片を始めとする微細な剥片が比較的まとまって出土していることから、同地点で剥片剥離が行われたのは確実だろう（第7図）。

第10図1は背面に研磨面が見られる局部磨製石斧の調整剥片である。薄手で打面側が欠損している。背面に残る研磨による稜が緩やかに弧状を呈していることから、実測図正面右方向が刃部であった可能性が高い。2は両側縁に微細剥離痕が観察される上下折断された凝灰岩製の剥片である。風化が著しく白色を帯びた単独母岩を用いている。3は安山岩B（いわゆるトロトロ石のことを示す）の縦長剥片で、これも単独母岩を用いている。

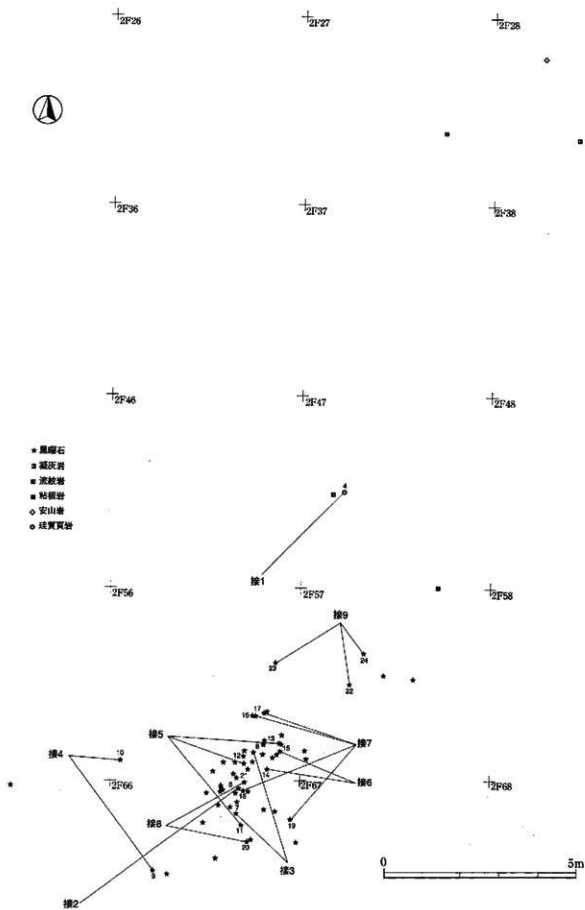
接合資料1は石器集中3とブロック間で接合が認められた（珪質頁岩母岩No.12）。接合距離は約95mを測る。珪質頁岩を用いた石刃同士の接合資料であるが、本石器集中からは下半部が欠損した石刃1点（4）が出上した。頭部調整が顕著なやや幅広い石刃が両設打面をもつ石核から剥離されている。右側縁には微細な剥離痕が観察される。接合資料2も石器集中3とブロック間で接合したもので、接合距離は約81mを



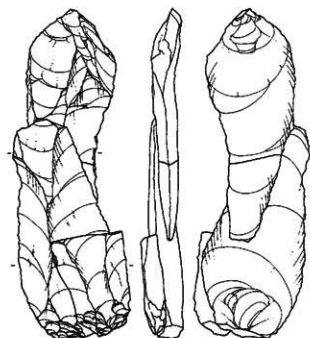
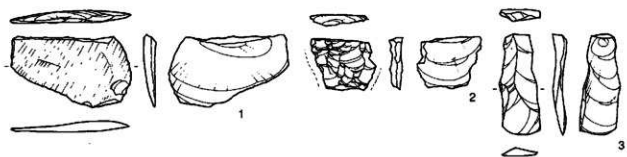
第7図 石器集中1 器種別出土状況



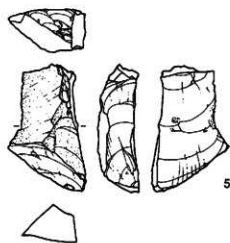
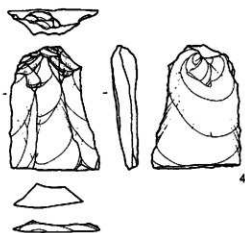
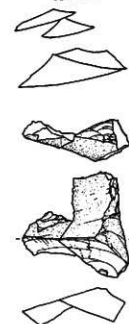
第8図 石器集中1 垂直分布と地点間接合状況



第9圖 石器集中1 石材別出土狀況



接合資料1  
(4+墓中3-298~300)

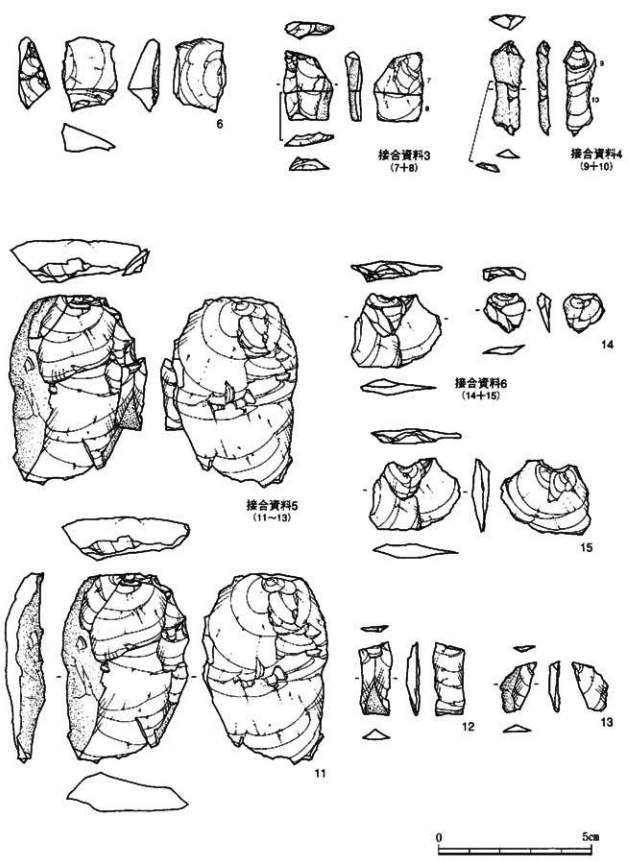


接合資料2  
(5+墓中3-25)

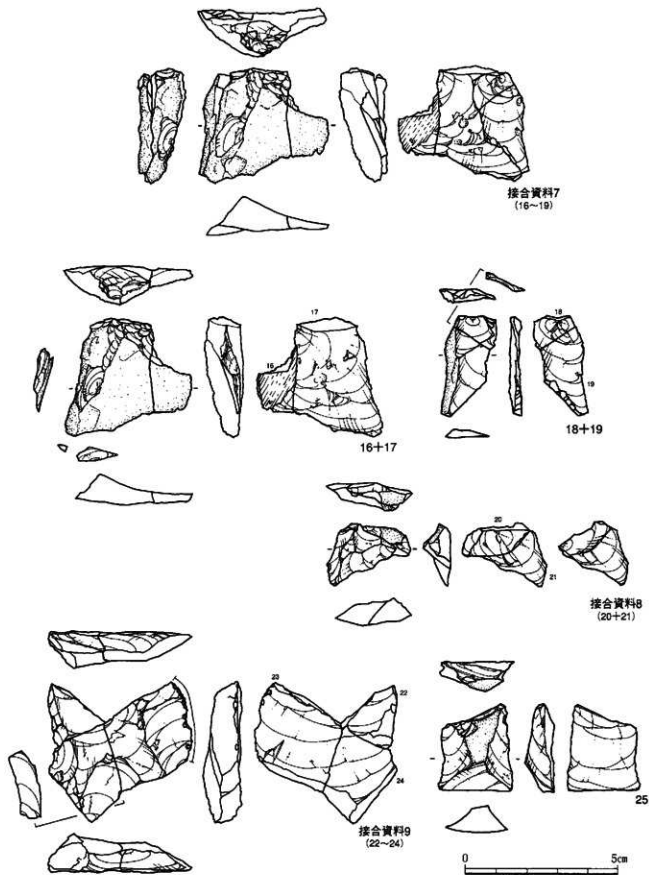


第10圖 石器集中1 出土石器(1)





第11圖 石器集中1 出土石器(2)



第12図 石器集中1 出土石器(3)

測る（黒曜石母岩No.2）。剥片同士の接合で、5の右側面にボジ面が残っていることから、分厚い剥片素材の石核を用いていることが理解される。同様の石核から剥離された分厚い剥片の主要剥離面を打面として集中3-25が剥離された。

第11図6は小型剥片の端部を折断して側面を形成した台形椀石器で、折断面の一部に急角度調整が施されている。素材剥片の打面側には背面からの調整が見られるが、剥片が剥離される前か後か断定は出来ないものの、微細な調整は剥離後のものであると思われる。

接合資料3・4・8・9は折断面同士の接合資料で、特に接合資料9は厚みのある大型の剥片を縦横に折断し、未調整の縁辺には使用によると思われる微細剥離痕が観察される（第12図23）。

接合資料5～7は剥離面同士の接合資料で、いずれも数点の接合関係のため剥片剥離を復元するまでには至らない。

石材 黒曜石63点、凝灰岩2点、流紋岩1点、安山岩B1点、粘板岩1点で構成される（第5表）。平面分布は特徴的で、黒曜石がブロックの中心部に全て集中し、北方向へ点在する石器は全て非黒曜石の凝灰岩・流紋岩・珪質頁岩・安山岩B・粘板岩で占められる（第9図）。

黒曜石が点数比で全体の約9割を占め、さらに、1点を除いて全て同一母岩に属する（母岩No.2）。母岩No.2は霜降り状に灰色が混じり潰れた斑晶が散る特徴を持った母岩である。ただし、黒曜石の母岩分類については厳密な意味で単一の母岩を形成しているのか断定はできないため、あくまでも類似した特徴を持つものについて細分を行っている。なお、石器集中1～3については接合関係が認められ、母岩を共有していることから母岩No.を連番としている。母岩No.2には台形椀石器1点、調整痕のある剥片1点、使用痕のある剥片3点、剥片43点、砕片14点があり、剥片の大きさも微細なものから大型のものまでそろっていることから、同母岩を用いた本地点での剥片剥離は確実になされたものと考えられる。しかしながら、接合関係が単発で、残核も出土しなかったことから、本地点での剥片剥離は一時的な小規模なものであったと理解され、剥離された剥片の一部は別地点へ搬出されたことを示唆している。

凝灰岩・流紋岩・粘板岩は単独母岩で、珪質頁岩は母岩No.12として単独で本石器集中地点から1点が出土しているが、石器集中3に3点の石刃が出土し全点が接合関係にある（接合資料1）。

第5表 第1文化層 石器組成表(1)

石器集中1	合計母岩No.	石刃	石器調整 剥片	使用痕の 剥片	調整痕の 剥片	剥片	砕片	總	合計	構成比
黒曜石	1			43	14			63	91.3	
	2.76		6.37	1.03	99.32	1.64		111.12	83.4	
凝灰岩		1						2	2.9	
		3.67	1.33					5.00	3.8	
安山岩B					1.60			1	1.4	
								1.60	1.2	
珪質頁岩	1							1	1.4	
	8.56							8.56	6.4	
粘板岩						1		1	1.4	
						0.41		0.41	0.3	
流紋岩								1	1.4	
								6.54	4.9	
合計	1	1	1	5	1	48	14	1	60	100.0
	2.76	8.56	3.67	7.70	1.03	101.33	1.64	6.54	133.23	100.0
構成比	1.4	1.4	1.4	7.2	1.4	65.2	20.3	1.4	100.9	
	2.1	6.41	2.0	5.8	0.8	76.1	1.2	4.0	100.0	
母岩No.1										
黒曜石				1.37					1.37	
母岩No.2				3	1	43	14		62	
黒曜石	1			5.90	1.03	99.32	1.64		109.75	
母岩No.12		1							1	
珪質頁岩		8.56							8.56	

## 2 石器集中2 (第13・14図, 第6・14表, 図版3・21・28)

分布 調査区の西縁, 北上する支谷を西側に望む台地縁辺の平坦地に立地する(第5図)。石器集中3の北側に隣接し, 3E01グリッドから出土した石器2点は, 両者ともに石器集中3の出土石器と接合関係が認められた。出土層位は, 調査時の所見でⅡⅧ～ⅡⅨ層であるが, ローム層の堆積が他の地点と異なっているようで, ⅡⅧ～Ⅹ層の分層については注意を要する。これは本ブロックが浅い埋没谷の谷頭に立地していることが原因と推測される。接合関係が認められた石器集中3の出土層位と同一とすれば, 標準的分層による出土層位はⅡⅨ層下半部にあると考える。出土レベルは0.053mの差しかなく, 平均は38.937mである。

器種・石材 黒曜石製の剥片2点が出土した(第6表)。

第14図接合資料10は石器集中3の北集中域と接合関係が認められた(接合距離24m)。母岩No.1に属する資料で, 自然面近くにある斑品の集合部分が残る剥片が接合した。1は厚みのある大型の剥片で左右両方向からの剥離痕が背面に残っている。接合資料11は石器集中3の南集中域と接合関係が認められた(接合距離30m)。母岩No.3に属する資料で, 分厚い大型剥片を素材とした石核の縁辺を桶状に剥離している。背面には石核に施された後調整が顕著に残っている。柱状を呈した本資料の主要剥離面の縁辺は潰れたような微細な剥離痕が断続的に見られる。下半部が本石器集中地点から出土した(2)。

母岩の特徴については石器集中3で述べることにする。

第6表 第1文化層  
石器組成表(2)

石器集中2	剥片	合計	組成比
黒曜石	2	2	100.0
	50.25	50.25	100.0
合計	2	2	100.0
	50.25	50.25	100.0
組成比	100.0	100.0	
母岩No.1	1	1	
黒曜石	26.15	26.15	
母岩No.3	1	1	
黒曜石	24.10	24.10	

## 3 石器集中3 (第15図～74図, 第7～9・16表～23表, 図版4・21～28)

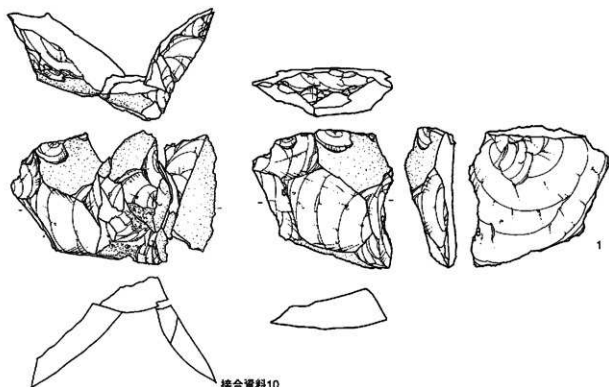
分布 調査区の西側, 北上する西側の支谷からはやや離れた台地平坦地に立地する。3E31～33・3E41～43グリッドを中心にやや散漫に分布する北集中域と, 3E62・72・82に密集して分布する南集中域に大きく分かれる。北集中域は散漫ながら径3m内外の小さな集中域にさらに分かれて, 隣接して分布している(第15図)。分布域は南北約12m・東西約14mを測る。南集中域は, 3E72・73グリッドの境界上に径約2.5mに密集する集中域と, 西側に隣接して南北6mの範囲に密集する集中域がある(第17図)。分布密度は前者が圧倒するが, 後者も北集中域と比較すればその密度は濃いといえることができる。つまり, 径8m内外に密集する二つの集中域の周りに点在する遺物分布を含めると, 南集中域は南北17m・東西16mの範囲に広がる。

出土層位は, 調査時の所見でⅡⅧ層下部～ⅡⅨ層上部である。出土レベルは最大値39.777m, 最小値38.319m, 平均値38.919mである。

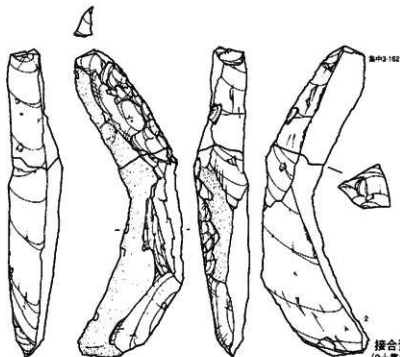
石器集中地点間の接合関係は石器集中2・石器集中1に合わせて4個体が確認され, 最大100mの接合距離が認められた(第22図)。

器種 台形石器30点, ナイフ形石器1点, 彫刻刀形石器2点, 掻器2点, 削器3点, 石刃12点, 石斧調整剥片1点, 調整痕のある剥片15点, 使用痕のある剥片107点, 剥片760点, 砕片287点, 石核6点, 礫・礫片11点の合計1237点が出土した(第7・9表)。実測図掲載遺物のうち, 第23図1～第30図43が北集中域, 第31図44～第74図303が南集中域から出土した石器である。





接合資料10  
(1+集中3-28~31)



接合資料11  
(2+集中3-162)



第14圖 石器集中2 出土石器

北集中域では、北側に台形椽石器、南側に石刃が分布している(第15図)。南集中域を見ると東西に分かれる剥片・碎片密集部に台形椽石器・掻器・削器・彫刻刀形石器・石核が偏在することなく分布し、外縁部の分布密度が粗の部分に石刃・ナイフ形石器が点在する傾向が指摘できる(第17・18図)。

石材は1237点中1184点が黒曜石で占められ(95.7%)、他に珪質頁岩、チャート、凝灰岩、流紋岩、玉髄、安山岩類、砂岩、メノウが僅かに伴う(第7・9表)。

第23図～第28図は北集中域の黒曜石製石器、第29・30図が北集中域の非黒曜石製石器、第31図～第70図は南集中域の黒曜石製石器、第71図～第74図が南集中域の非黒曜石製石器を掲載した。

**台形椽石器** 北集中域で3点が出土した(第23図1～3)。1はやや厚めの幅広剥片を素材とし、左側縁は縦位からの加撃による折断面、右側面は背面からの調整が施され、逆三角形状を呈している。2・3は剥片の端部(2)、打面部(3)を折り取ったものを素材としており、それぞれ折断面同士の接合関係が確認された(接合資料13・19)。両者ともに、その折断面を片側面に当て、もう一方の側縁は細かい調整が施され、基部はV字状となる。折断面を「切る」調整が見られないため、器種認定には不安が残る。

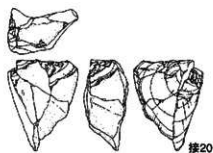
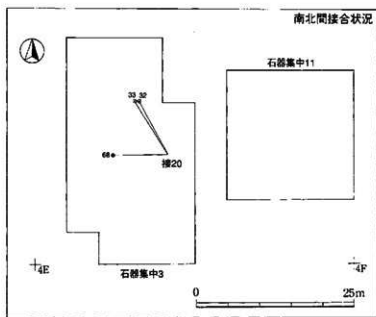
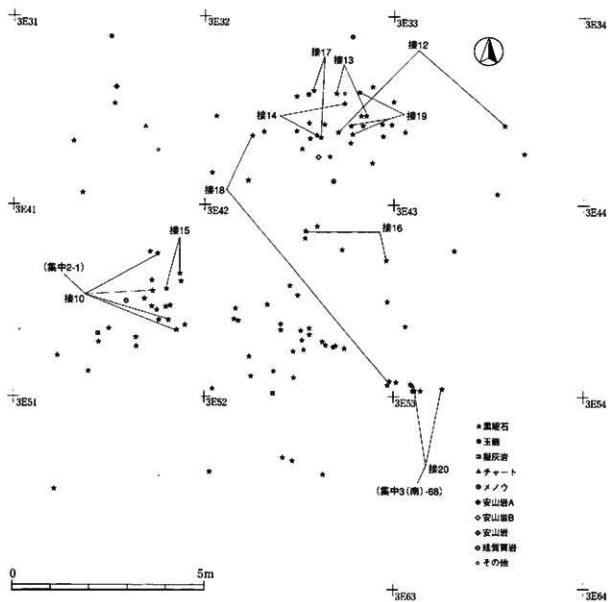
南集中域からは27点が出土した。26点が黒曜石製(第31・32図44～67)で、1点が珪質頁岩製である(第72図296)。

44～49は逆三角形状を呈する資料で刃部は器体に対して直行するものと斜刃を呈するものがある。

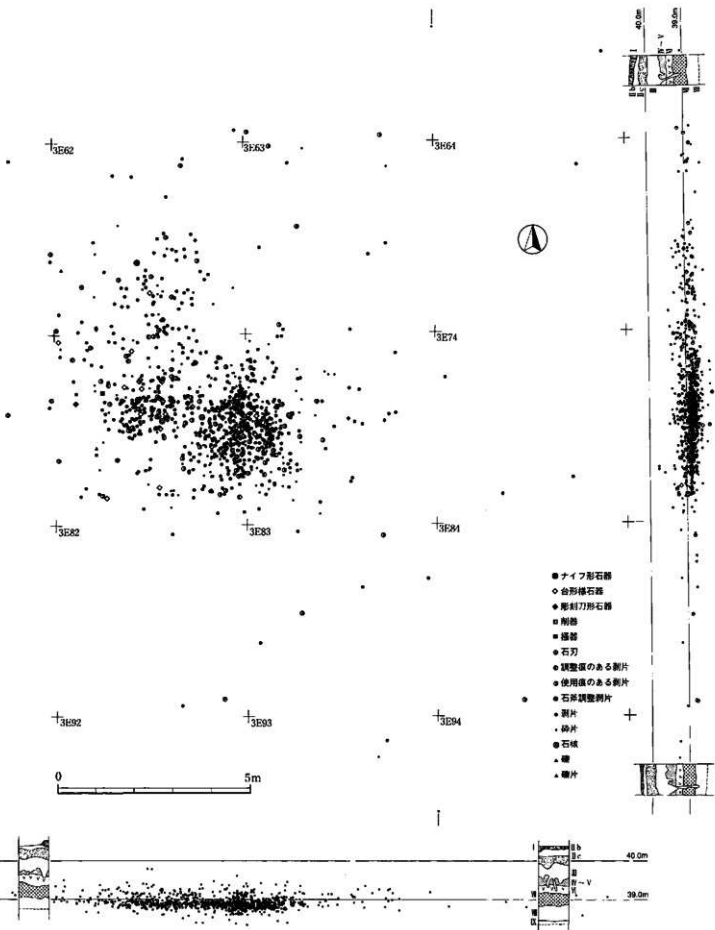
44は素材剥片の打面を片側面に、折断面をもう片側面にあって、折断面には微細な調整が施されている。45は素材剥片の打面側を折断面し、折断面から主要剥離面側に調整が施されている。47は縦長剥片の端部を折断面したもので、片側縁が折断面に当てられ、もう一方の側縁には微細な急角度調整が施されている。48は素材剥片の端部を折断面し片側縁にあって、もう一方の片側縁は細かい調整によって打面を除去している。49は両側縁とも折断面によって形成されたもので、素材剥片の側縁部が刃部にあってられている。50～57は台形あるいは不整四角形を呈する資料である。50は素材剥片の打面側に背面側から調整が加えられた資料である。51は素材剥片の打面を右側面に設定し、左側面は折断面が当てられ、折断面から背面・腹面に向かって調整が施されている。52は素材剥片を縦位に折断面して折断面を右側面にあって、左側面は背面側からの急角度調整によって形成している。53は素材剥片の打面直下にある球顆による折断面を左側面にあって、折断面から背面側へ調整が施されている。右側面は素材剥片の端部側を折断面したものである。54は、素材剥片の打面を左側面にあって、基部側から若干の調整が施されたもので、右側縁はヒンジを呈した剥片の端部が当てられている。55は素材剥片の打面部とヒンジを呈した端部を両側面にあてた資料で、打面から主要剥離面側に微細な調整が施されている。56は石核の側面を一纏に巻き込んだ資料で、それを左側面にあって背面から側面に若干の調整が施されている。打面は基部側に設置されている。57は薄手の剥片のヒンジを呈した端部を左側面にあって、右側面は打面側の折断面によって形成している。基部側には鋸歯状(ノッチ状)の急角度調整が施されている。58は素材剥片の打面部に対して、主要剥離面側に斜めに急角度調整を施して片側縁を整形している。59・62は小型縦長剥片を斜めに折断面し、微細な調整剥離を施したものである(接合資料41)。60は横長剥片のヒンジを呈した端部を左側面に、打面を右側面にあてたもので、右側縁の上部には微細な調整剥離が施されている。61は素材剥片の打面を左側面にあてたもので、両側縁の上部には微細な調整が施されている。63は左側面に鋸歯状となる急角度調整が施され、右側面は折断面によって形成された資料で、打面は左側縁の上部に残置している。64・65は小型の縦長剥片を斜めに折断面し、両側縁を形成した資料で、折断面以外は調整らしい調整が施されていない(接合資料21)。66・67も同様に縦長剥



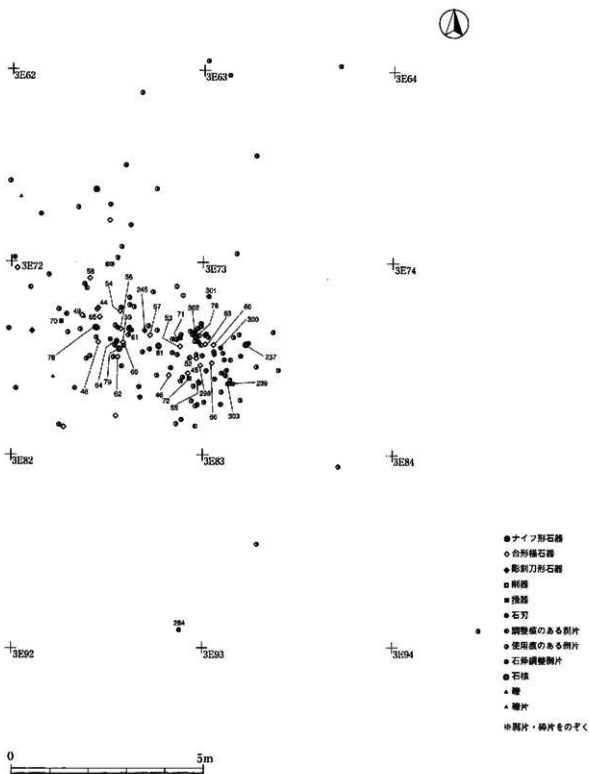




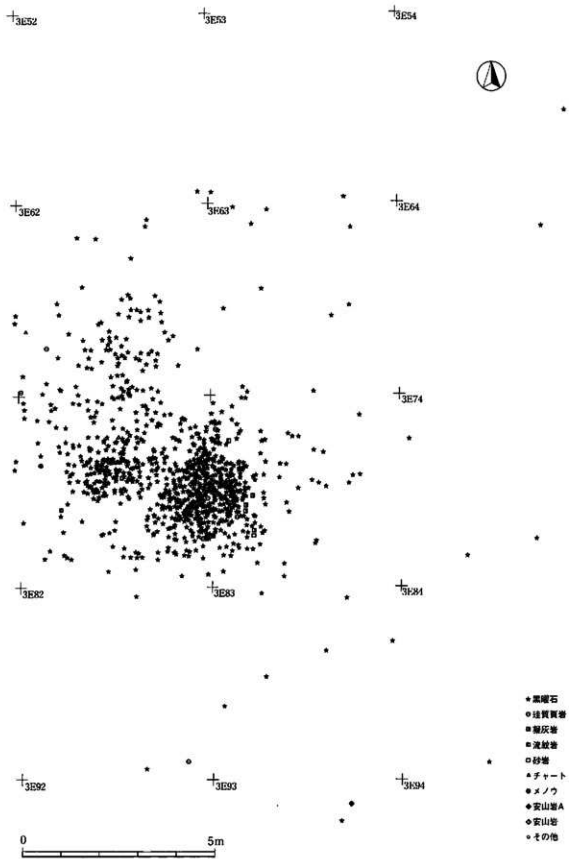
第16図 石器集中3(北) 石材別出上状況



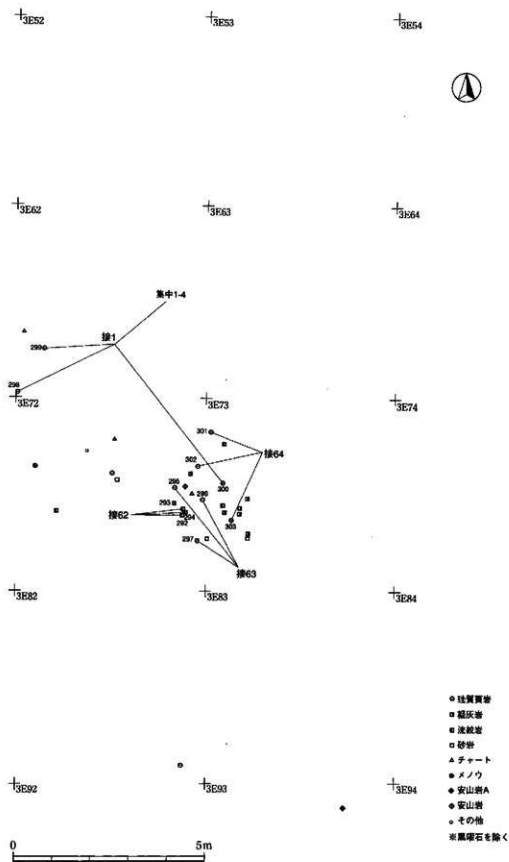
第17図 石器集中3 (南) 器種別出土状況 (1)



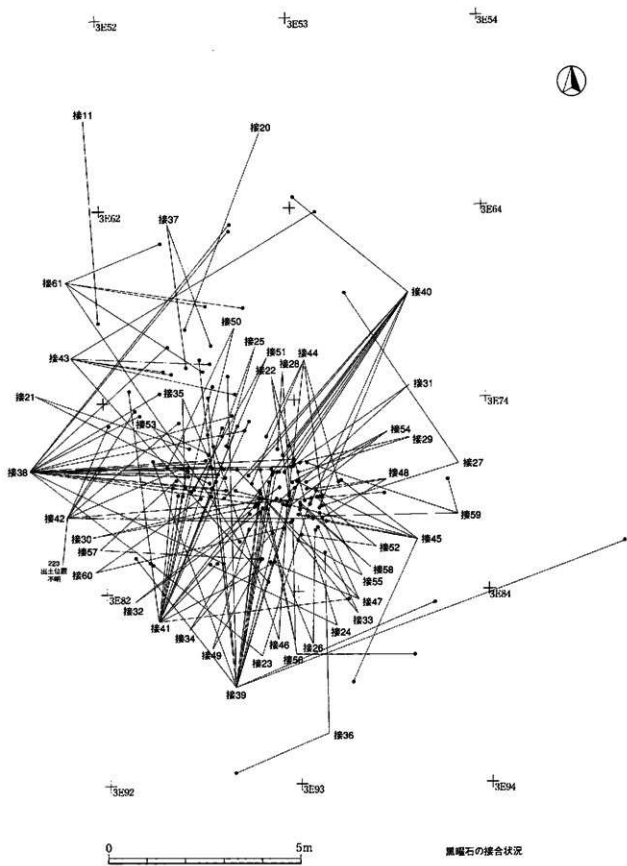
第18図 石器集り3 (南) 器種別出土状況 (2)



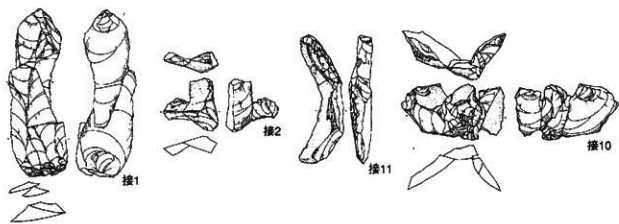
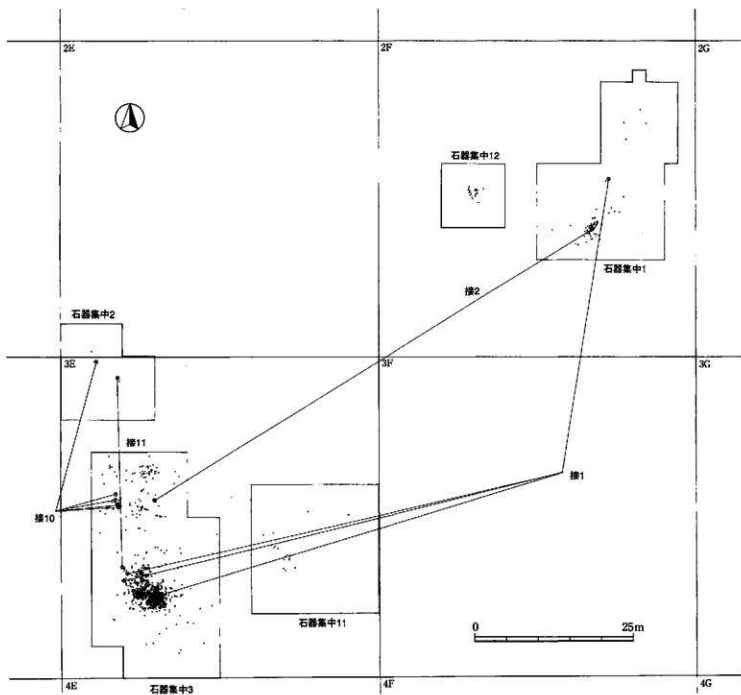
第19図 石器集中3(南) 石材別出土状況(1)



第20図 石器集中3（南） 石材別出土状況（2）



第21図 石器集中3(南) 石材別出土状況(3)



第22図 石器集中3 地点間接合状況

片を斜めに切断することで側面を形成し、その一部に微細な調整痕が観察される資料である。

以上、24点の黒曜石製の台形椽石器について述べてきたが、側面形成には折断が多用されていることが明らかとなった。大きくは、折断によって片側縁が整形されているもの(44・52・57・59・62・63・66・67)、折断によって両側縁が整形されているもの(53・64・65)、側面形成に折断面があてられないもの(54・55・56・58・60・61)にわかれる。そしてそれぞれ様々な部位に細かな調整剥離痕が施されるが、鋸歯状となる明確な急角度調整が見られる資料もある(52・57・63)。

**ナイフ形石器** 南集中区から1点が出土した(第33図68)。幅広剥片の打面部を基部とし、左側面基部側に抉るような調整が施された資料である。先端は尖り、直線的な刃部には微細剥離痕が断続的に観察される。

**彫刻刀形石器** 南集中区から2点が出土した。第63図245は縦長剥片を横位に折断し、折断面から側縁に沿って彫刀面が形成された資料である。彫刀面が形成された側縁には微細剥離痕が観察される。黒曜石製である。第71図282は石刃を素材としたメノウ製で、先端から左肩に彫刀面が設けられている。右側縁に微細剥離痕が観察され、左側縁には主要剥離面側からのノッチ状の調整も一部見られる。両資料とも彫刀面の形成は一度のみで、彫刀面形成のための調整などは施されていない。

**搔器・削器** 南集中域から削器3点、搔器2点が出土した。第33図69は削器の刃部片で、元々主要剥離面側に急角度調整が施された削器から剥離された刃部片と思われる。やや抉れた部分は発掘時の「ガジリ」の可能性もある。第33図72は左側縁に急角度調整が施された削器であるが、調整は極めて部分的である。先端部を欠いた一側縁加工のナイフ形石器と分類した方がよいか。第62図239は分厚い剥片の端部片の一部に急角度調整が施されたものである。調整は極めて限定的であるが、削器とした。70・71は柱状を呈する縦長剥片の端部に弧状に急角度調整が施された搔器である。刃部調整の多くが深部に及ばないものである。両者は黒曜石製の同一母岩(母岩No.8)で接合関係にある(接合資料39)。

**石刃** 北集中域から4点が出土した(第29図34-37)。打面はいずれも平坦な単一剥離打面で打面調整は施されていない。石刃の側縁には少なからず微細剥離痕が連続し、特に35・37に著しい。37の背面には上下方向からの剥離痕が見られることから、石刃石核は両設打面をもつものであったことが理解される。34・37は凝灰岩(同一母岩で母岩No.15)、35は珪質頁岩(単独母岩)、36は安山岩B(単独母岩)を用いている。

南集中域からは8点が出土した(第71-74図283・284・298-303)。接合資料62・63のように、接合によって石刃素材を用いたものであることが判明したものもある。ほとんどの打面が平坦な単一剥離打面で、打面調整が施されないが、295には僅かに調整痕が見られる。ただしこの調整は石刃剥離後、台形椽石器として用いられる際に施されたものかもしれない。283・284の形態、背面の稜から、左右両側面が平行するような端正な石刃剥離を見ることはできない。接合資料62は凝灰岩を用いたもので上半部は横位に分断されている。それぞれが台形椽石器として用いられたかもしれないが、風化が著しいこともあり、あえて積極的に取り上げなかった。一方で、接合資料63は石刃を横位に折り取ったものを素材として、未調整の側縁を刃部とした台形椽石器が接合したものである。296は両側面ともに折断面で下端部に急角度調整が施されている。第73図接合資料1は石器集中1から出土した石刃と接合関係が認められたもので、接合距離は約100mである。石刃は両設打面をもつ石刃石核から剥離されたもので、集中1-4と300が剥離された打面部には頭部調整が顕著に施されている。各石刃の主要剥離面の打瘤裂痕は大きく発達している。形



態的にはやや幅広であるが、背面に残る剥離面から、安定した石刃生産がなされていたことが想像される。石刃縁辺には微細剥離痕が断続的に観察される。接合資料64は石刃剥離初期の段階で剥がされたものと背面中央に稜が走る断面三角形の石刃との接合資料である。303は黄褐色を呈した節理面が走り、縁辺には目立った微細剥離痕は観察されないが、301+302の右側縁には微細剥離痕が表裏に連続している。

石刃もしくは石刃素材の彫刻刀形石器に用いられた石材は、メノウ（282）、珪質頁岩（283・284・接63・接1・接64）、凝灰岩（接62）で、黒曜石以外の石材のほとんどが石刃で占められる。なお、接合資料63と同64は同一母岩である。

両集中域から出土した石刃は全て搬入品で、遺跡内での石刃剥離は全く見られない。

石核 北集中域から1点が出土した（第23図10）。それほど厚みのない幅広の剥片の打面部分を折断して、折断面を打面として剥片の主要剥離面側を作業面としている。剥片の端部には微細剥離痕が観察される。

南集中域からは5点の石核が出土したが、その内3点に剥離された剥片との接合が確認された（接合資料38・41・44）。接合関係が確認できなかった第34図76は作業面と打面を入れ替えながら、打面転位を頻繁に繰り返した石核である。基本的に打面調整は施されず、平坦な単一剥離面もしくは自然面を直接敲いている。

剥片類 黒曜石を用いたもので、剥離面同士の接合関係が認められなかった剥片類を第35図～第44図に掲載した。82～113には剥片の縁辺に微細剥離痕が観察される資料、接合資料23～37は折断面同士のみ接合した資料を掲載した。剥片は、自然面を残す中～大型剥片と矩形の小型剥片もしくは折断によって矩形を呈するものが特徴的である。剥片の縁辺には微細剥離痕が連続するもの、断続的に見られるものがあるが、発掘時の「ガジリ」と見られるものもあり注意を要する。

北集中域での接合資料は折断面同士の接合資料（第24図接合資料12～16）の他、背面に礫面をもつ剥片が少数接合したものが確認されている（第25～27図接合資料17～20）。接合資料13は剥片の端部を折断して逆三角形に整え、台形様石器としている（2）。接合資料19では、剥片の打面側を折り取った資料を台形様石器と理解した（3）。接合資料20は、北集中域の剥片2点と南集中域のナイフ形石器1点が接合したもので、接合状況から、32+33と68は一回の加撃で同時に剥離されたものと考えられる。北集中域で、ある程度の大きさをもつ剥片（30～40mm以上）の大半に接合関係が認められるが、図示したようにいずれも単発的のものであり、剥片剥離を復元できるようなものではない。北集中域では原石搬入後の礫面除去という初期の剥片剥離の工程が僅かに行われていたと理解される。黒曜石の母岩も少数で、母岩No.1・2を主体として母岩No.3・4・9が僅かに伴うという状況である。黒曜石以外は全て搬入品で北集中域において剥片剥離は見られない。

南集中域を主体とする接合資料について、ある程度剥片剥離工程を復元できるものを以下に挙げる（第45図～70図）。

接合資料38は母岩No.1（黒曜石）に分類され、剥片類21点・石核1点の合計22点が接合した。分布は3E62・3E72グリッドにまとまり、特に3E72グリッドに集中する。163～170・173・179+180は早い段階で分割された個体と思われるが、節理面による同時割れとも見られ、はっきりしない。ただ、厚みのある一枚の剥片（79+80+167+179+180）を石核として、上下に打面を設け、主要剥離面を作業面にあて剥片を剥離している（167・179+180）。さて、分割されたもう片方はというと、大きな単一剥離面を打面とし

て、打点を左右に振りながら、181+182→174→177+178→175+176→171or172の順序で縦長剥片を剥離している。

接合資料39は母岩No.4(黒曜石)に分類され、台形様石器1点・搔器2点・剥片類12点の合計15点が接合した。分布は3E72グリッドの東側密集域の狭い範囲に集中するものと、その周囲3～5m離れて点在して分布するものがある。前者には長さ30mm以下の小型剥片がまとまり(71のみ例外)、後者は例外なく30mm以上のもの(183・185・70・47+189・191・192)で、大きさによって明瞭に分布状況が異なる点は注意される。厚さ40mm前後の板状の原石素材を用いて、まず最初に、短軸方向に打面設定のための剥離が施される(183)。打面調整の施されない平坦な剥離面を打面とし、板状剥片の幅狭い面を作業面として184→185→186と剥離している。その後、180°打面転位を繰り返しながら、187→70→71→(打面転位)→47+189→(打面転位)→190→192→(打面転位)→193→191と剥離が進行していく。下設打面は平坦な自然面がそのまま用いられている。また、187を剥離後、作業面の調整を行うために90°打面転位して188が剥離されている。194は192より後に剥離された剥片であるが、接合状況からは剥離順序を特定できない。

接合資料40は母岩No.1(黒曜石)に分類され、剥片類11点が接合した。200以外は全て3E72・73グリッドの密集部に分布している。未調整の平坦な剥離面を打面とし、195→196+197と縦長剥片が剥離された後に、下設打面の設定のために198が剥離された。そして、下設打面から199以外に数枚剥離されたが、再び上設打面へ戻って200→201→202→203の順に、打点を左右に振りながら矩形的剥片を剥離している。

接合資料41は母岩No.2(黒曜石)に分類され、台形様石器3点、剥片類13点、石核1点の合計17点が接合した。3E72グリッドの密集部に径5m内外の範囲に分布している。両設打面をもつ石核から180°打面転位を繰り返しながら、小型剥片を剥離している。上設打面は、幅広の分厚い剥片を剥離して(206・207→208+209)形成されるが、下設打面も同様の剥片剥離によって比較的早い段階で形成されたものと推測される。両打面ともに、打面調整は基本的に施されていない。打面形成後、上設・下設両打面を転位しながら、210(上設打面から剥離)→211+212(下)→59+62(上)→213(上)→214(下)→215(下)→216(上)→217(下)→218(下)→61(下)と剥離を繰り返している。その中で、折断・調整が施され、刃部に微細剥離痕が観察される資料を台形様石器とした(59・61・62)。

接合資料42は母岩No.8(黒曜石)に分類され、調整痕のある剥片1点・剥片8点の合計9点が接合した。3E72・3E73グリッド内で大きく2カ所の分布域を形成し、東側に225～227が分布する。これらは、現状で接合したものであるのは後半期の剥離工程によって剥離されたものである。角張った径100mm以上の礫を素材としたもので、稜上調整後(219)、上下の打面から荒々しく剥離が進行するが、中央に列状に密集する球礫のところでほとんどの剥離が止まっていることから正確な剥離順序を把握することは困難である。おそらく220→221→222+223+224→225+226と剥離された後に、剥離作業面を打面として剥片剥離が継続し(頭部調整が著しい)、さらに打面再生がなされたものと思われる(227)。

接合資料20は母岩No.1(黒曜石)に分類され、ナイフ形石器1点、剥片2点の合計3点が接合した。剥片2点は北集中域、ナイフ形石器は南集中域に分布している。礫面除去のための荒い剥離によって剥がされた剥片と(32+33)、それなりに整えられた打面から剥離された剥片が接合している(68)が、両者は1回の加撃で同時に割れたものと考えられる。68は基部側に抉るような調整が施され、ナイフ形石器とした。

接合資料43は母岩No.4(黒曜石)に分類され、剥片類6点が接合した。分布は3E62グリッド南側に小

型のものが分布し、やや離れて南集中域の外縁部に232と233が点在する状況である。剥片剥離は大きな単一剥離面を打面として、同一打面から全て剥離されたもので(228→229・230→232→233or231)、230には自然面からの稜上調整が残っている。

接合資料44は母岩No.2(黒曜石)に分類され、剥片類3点、石核2点の合計5点が接合したものである。分厚い柱状の剥片を素材として端部に打面形成のためと思われる剥片剥離が行われたが(235)、うまくいかず端部全体を折断している(237)。その後、折断面を打面として木口面に縦長剥片を剥離している(236)。

接合資料45は母岩No.4(黒曜石)に分類され、台形様石器1点、削器1点、剥片類4点の合計6点が接合した。分布は、ほとんどが3E72・73グリッド境界の密集域にまとまっているが、240だけやや離れて3E83グリッドから検出された。238+239は打面形成剥片で背面には自然面が残る分厚い資料である。打面調整は施されずに、240→241→63→242という順序で、同一打面から剥離されている。63は片側縁に急角度調整が施され、台形様石器として用いられている。

以上、剥片類・接合資料を見てきたが、以下に剥片剥離の特徴を挙げておきたい。

・素材は角礫状の原石もしくは分割礫が用いられている。遺跡には原石状態もしくは荒削りしたものが持ち込まれているようであるが、残核が少ないことから、剥片剥離可能な石核の多くは遺跡外へ搬出されたものと推測される。

- ・石核には剥片素材のものもあり、折断面・節理面を打面としている。
- ・角礫状の原石の礫面除去は比較的荒々しく行われ、打面形成・側面形成を兼ねる。
- ・打面は単一剥離打面もしくは平坦な自然面があてられ、打面調整は施されない。
- ・両設打面は珍しくなく、180°の打面転位が頻繁に行われる。
- ・打点を左右に移動させながら剥片剥離を進行させていく。
- ・稜上調整は自然面から行われることが多く、後付き縦長剥片がしばしば剥離されている。

接合資料46～60は剥離面同士の間接合資料であるが、接合点数が少なく剥片剥離工程を復元できるまでのものではないが、上記の特徴をほぼ表現するものとして理解することができる。

接合資料61は球顆が原石の芯まで混在し、剥片剥離には不適な原石を用いたものであり、敲打によりグシャッと割れた印象を受けるものである。

南集中域で黒曜石以外の石材を用いた剥片類は第71・72図286～291に掲載した。これらは全て同一母岩で(母岩No.10(凝灰岩))、背面に礫面を残し、未調整の礫面をそのまま打面とした資料が大半を占めることから、扁平礫の周縁から剥離された剥片と捉えられる。石斧の調整剥片の可能性も指摘される。

石 材 黒曜石1184点、珪質頁岩12点、凝灰岩9点、流紋岩6点、チャート8点、メノウ3点、玉髄4点、砂岩3点、安山岩2点、安山岩A2点、安山岩B1点で構成される(第7・9表)。点数比で全体の約96%、重量比で約85%が黒曜石で占められる。

黒曜石は9母岩が抽出された(母岩No.1～9)。黒曜石の母岩分類は正確に一母岩を分離することは困難であったため、接合資料を基本にして色・縞模様・球顆・自然面・透明度等の特徴が似たものを分離したにすぎない。また小型剥片・碎片の大半は分類困難なものが多いことから、これを分類の対象から除外したため、黒曜石1184点中552点のみを母岩分類の対象とした。

母岩No.1は黒色不透明で不規則に線状の模様が入り、径1mm以下の球顆が均一に混じる。厚みのある資料は、黒光りするような光沢が特徴的である。薄手のは比較的透明である。自然面は、基本的には明灰色を早した平坦なものであるが、剥離面が風化した面も見られる。台形様石器7点、ナイフ形石器1点、彫刻刀形石器1点、削器1点、剥片類188点、石核1点で構成され、接合資料10・14・19・20・22・24・26・29・38・40・47・49・58・59を含む、合計199点が属するが、接合資料から同母岩は複数母岩によって構成されていることは明らかで、正確に1母岩を抽出することはできていない。あくまで特徴の似たものを選別したということを確認したい。

母岩No.2は灰色が霜降り状に混じる資料で、径1mm～2mm前後の球顆が点在する。全体に灰色帯びた資料であるが、その濃淡は均一ではない。自然面は母岩No.1と同様に、明灰色を早した平坦なものもみられるが、剥離面が著しく風化したものの方が目立つようである。台形様石器8点、剥片類110点、石核3点で構成され、接合資料2・12・13・16～18・23・36・41・44・46・50・52・57を含む、合計121点が属する。

母岩No.3は母岩No.1よりもやや濁った感じの黒色不透明を呈した母岩で、母岩No.1で顕著な光沢感はない。薄手の剥片を光にかざしても曇った感じである。球顆は約1mm以下のものが見られ、自然面も明灰色を呈した平坦面で母岩No.1と同じである。台形様石器2点、剥片類43点、石核1点で構成され、接合資料11・15・25・30・37を含む、合計46点が属する。

母岩No.4は一見、黒光りする光沢ある母岩No.1に似ているが、剥片の縁辺を見ると黒色を早した縞模様が集まっている点に特徴がある。径1mmの球顆が均一に混じるが、なかには径2mm程度の球顆が点在する資料も見られる。台形様石器7点、削器1点、搔器2点、剥片類85点で構成され、接合資料39・43・45・55を含む、合計95点が属する。

母岩No.5は霜降り状の灰色部の割合が著しく高い母岩で、径1mmの球顆が点在する。自然面も特徴的でややザラついた感じの灰色を呈し、爪形状の裂痕も一部に見られ、全体的には穢が潰れた状況となっている。剥片10点で構成され、接合資料51・53が属する。

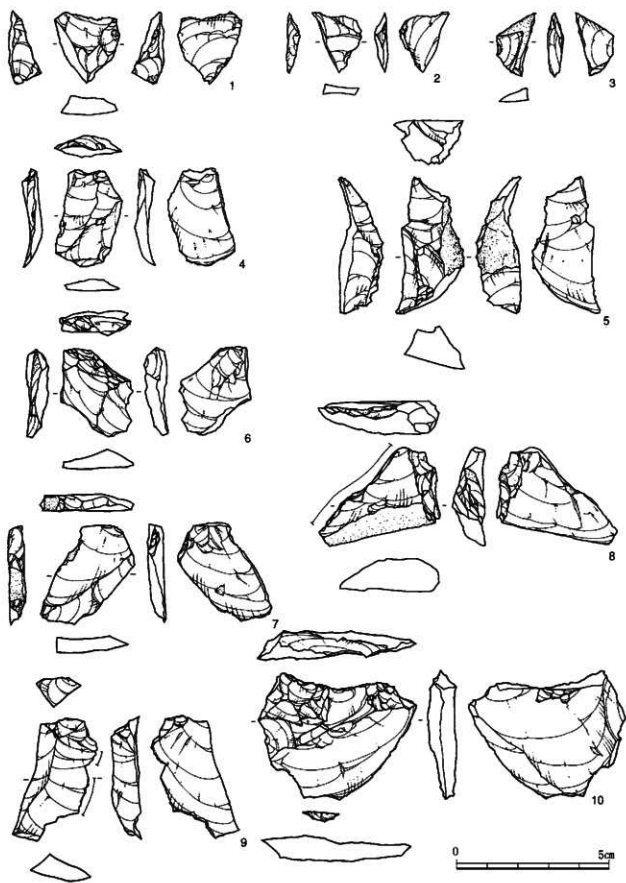
母岩No.6は黒色不透明で、剥離面は黒光りする光沢をもつ。径1mm～2mm程度の球顆が帯状に密集するのが特徴である。台形様石器1点、剥片13点で構成され、接合資料56・60を含む、合計14点が属する。

母岩No.7は表皮から原石の芯に至るまで、径1mm～2mmの球顆が全体に密集する、非常に質の悪い母岩である。剥片14点が本母岩に属する。打撃によって幾つかに分離されているが、有効利用できそうな剥片は得られていない（接合資料34・61）。

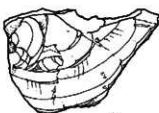
母岩No.8は黒色不透明で、剥離面は黒光りする光沢をもつ。径1mm～5mm以上の球顆が帯状をなして分布するのが特徴である。削器1点、剥片類21点で構成され、接合資料31・33・35・42を含む、22点が属する。

母岩No.9は光沢が全く見られないものを一括した。その程度は様々であるが、「ガジリ」痕を観察すると中から光沢ある剥離面を見ることができることから、風化によるものというよりも熱を受けた資料である可能性が高い。そのため、本来は母岩No.1～9に分類されるべき資料が被熱により、ここに一括されていると理解される。台形様石器3点、剥片類29点で構成され、接合資料21・32・54を含む32点が属する。黒曜石以外では6母岩を抽出した。

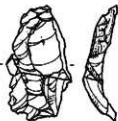
母岩No.10（凝灰岩）は薄い緑色を早した粗粒なもので、剥片6点が出土した（第71・72図286～291）。



第23圖 石器集中3(北) 出土石器(1)



11

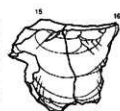
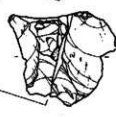
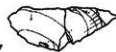


12

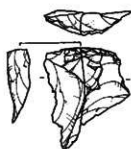
接合資料12  
(12+13)



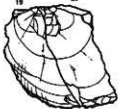
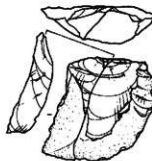
接合資料13  
(2+14)



接合資料14  
(15+16)



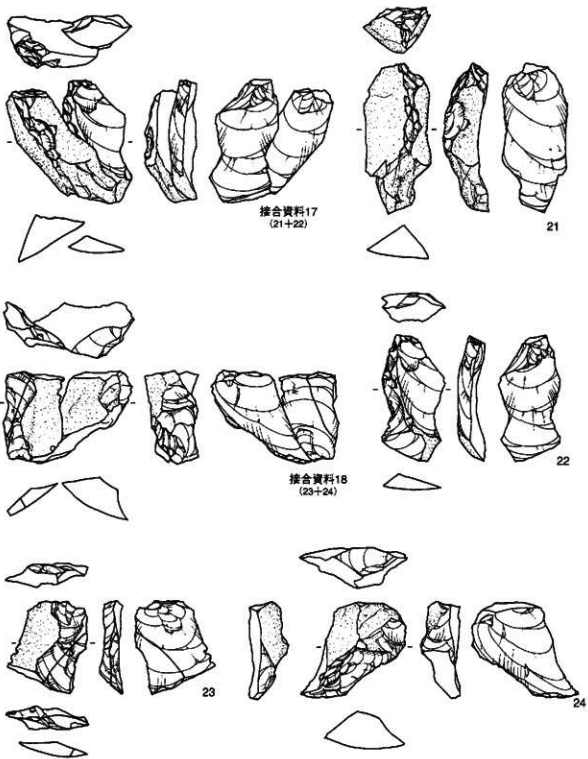
接合資料15  
(17+18)



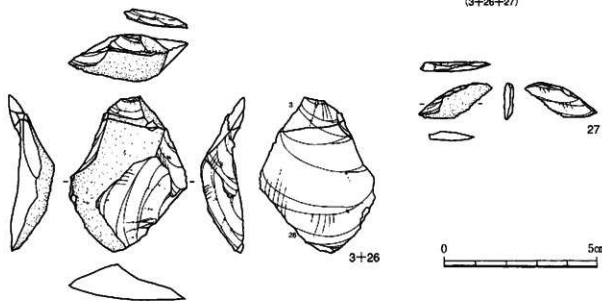
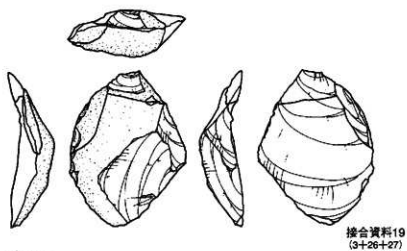
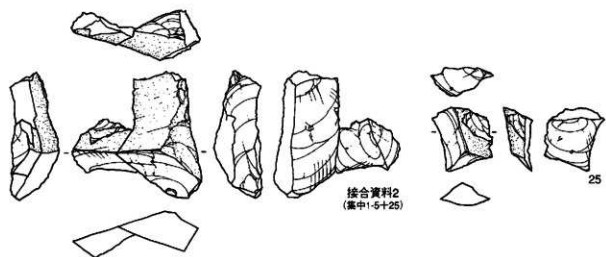
接合資料16  
(19+20)



第24圖 石器集中3 (北) 出土石器 (2)

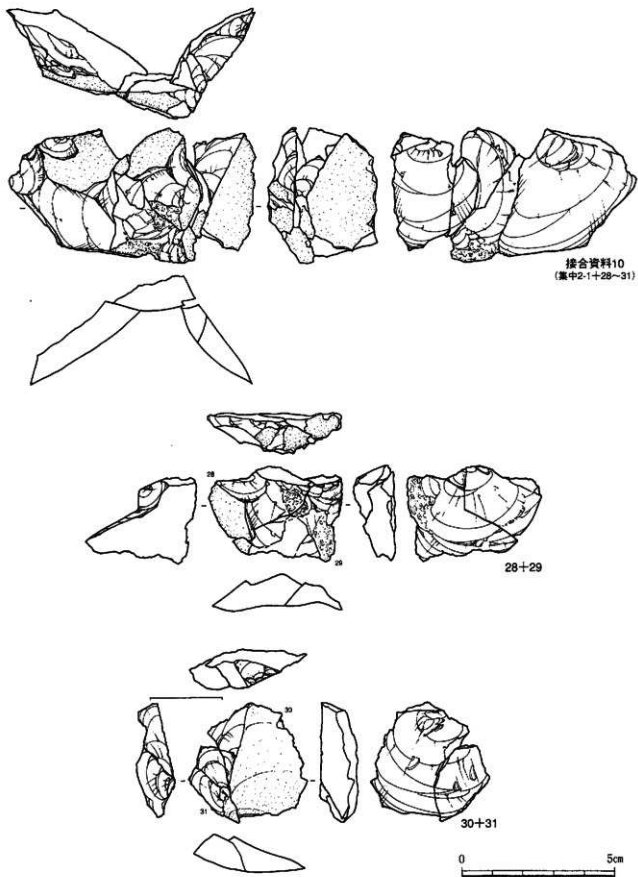


第25図 石器集中3 (北) 出土石器 (3)

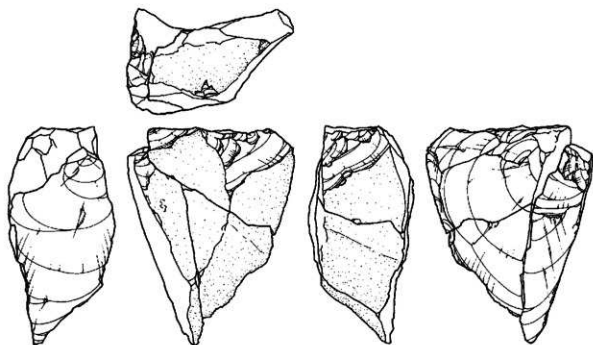


第26图 石器集中3(北) 出土石器(4)

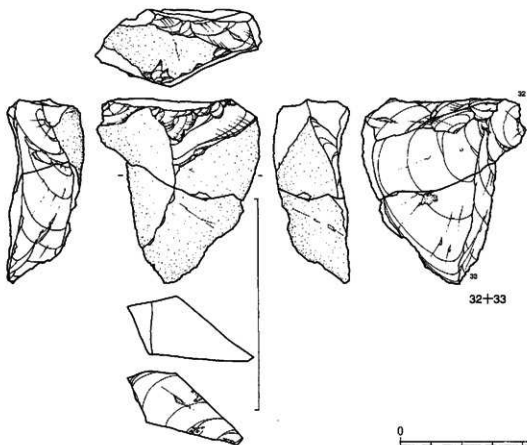




第27图 石器集中3 (北) 出土石器 (5)



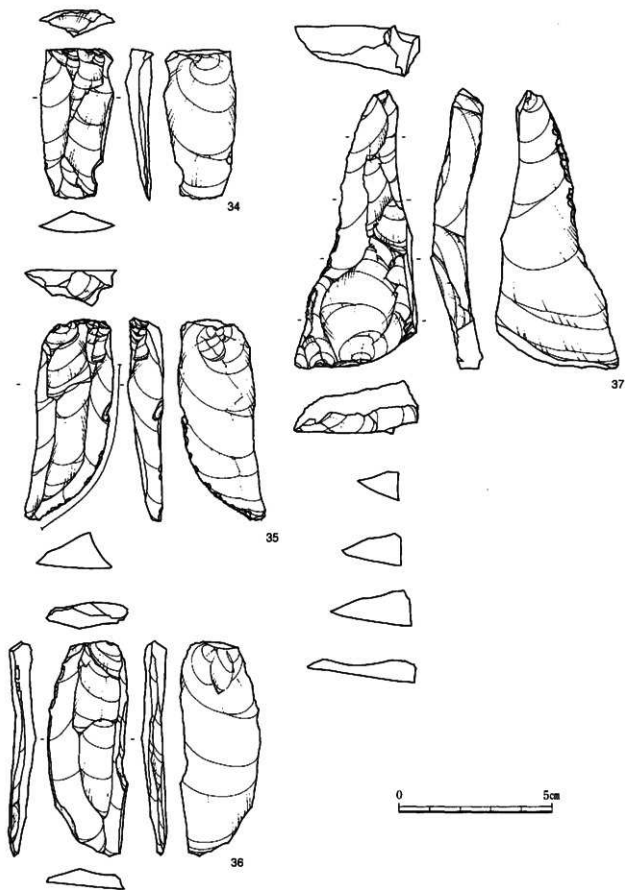
接合資料20  
(32+33+68)



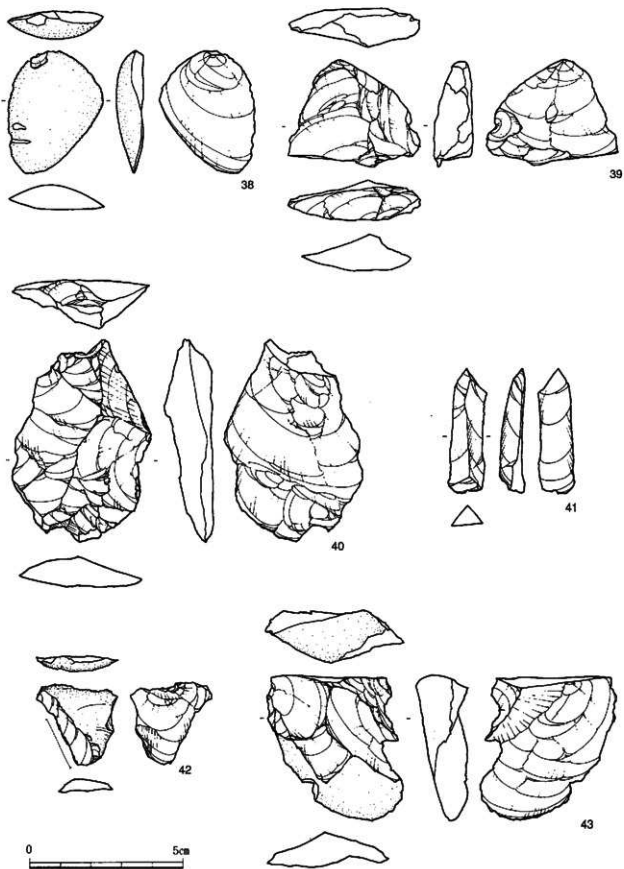
32+33

0 5cm

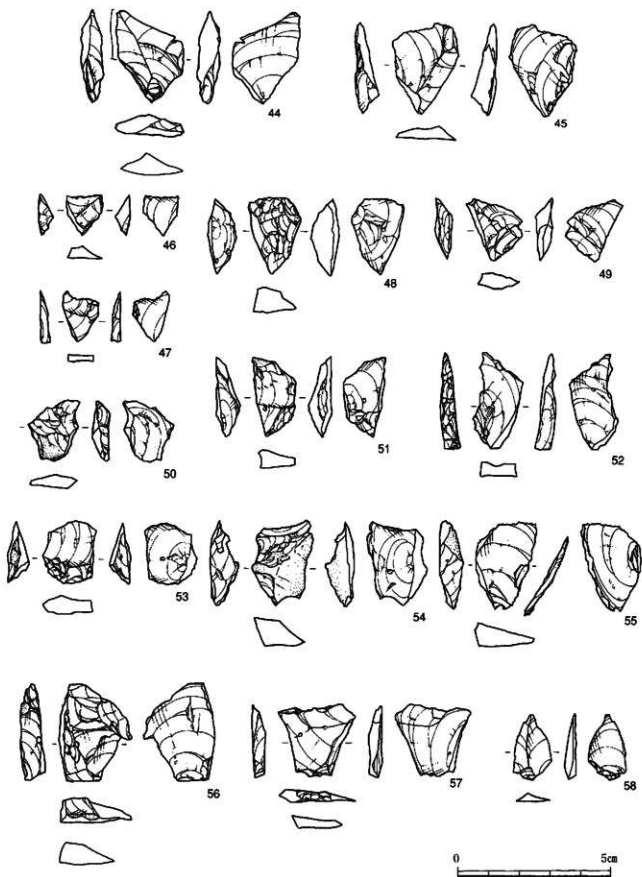
第28図 石器集中3(北) 出土石器(6)



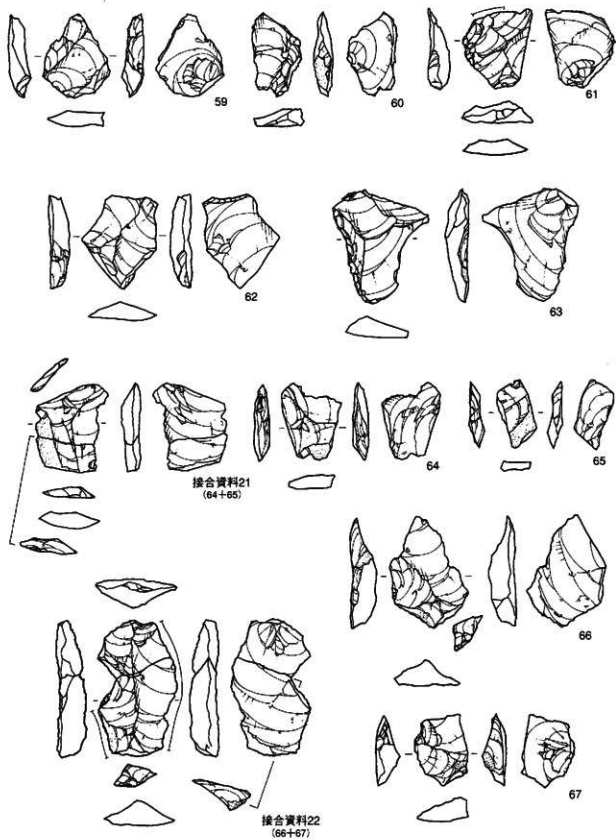
第29图 石器集中3(北) 出土石器(7)



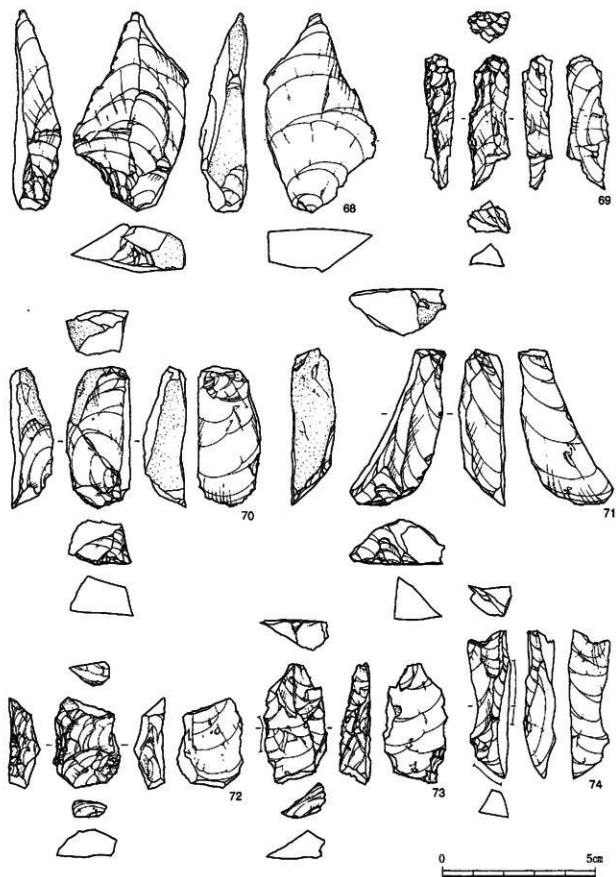
第30图 石器集中3(北) 出土石器(8)



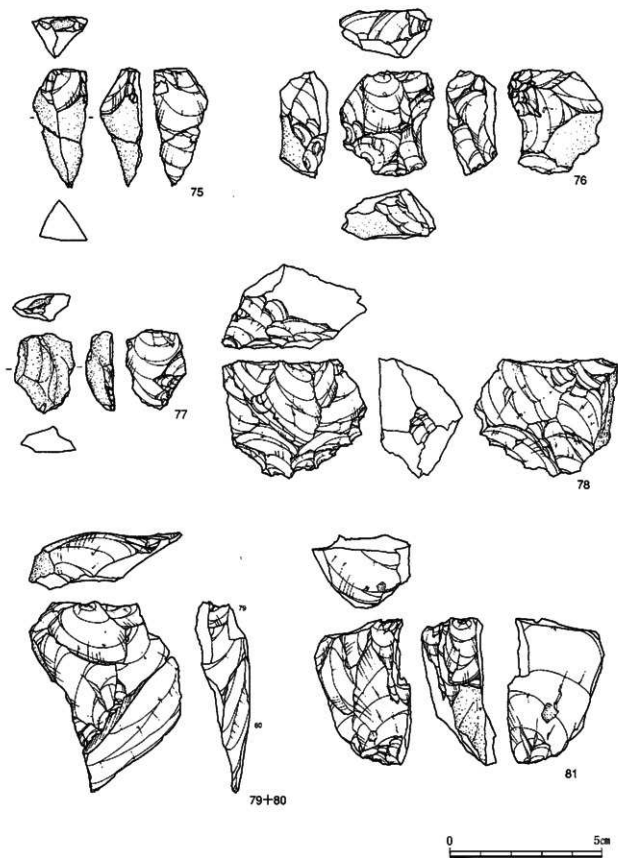
第31图 石器集中3(南) 出土石器(9)



第32图 石器集中3(南) 出土石器(10)

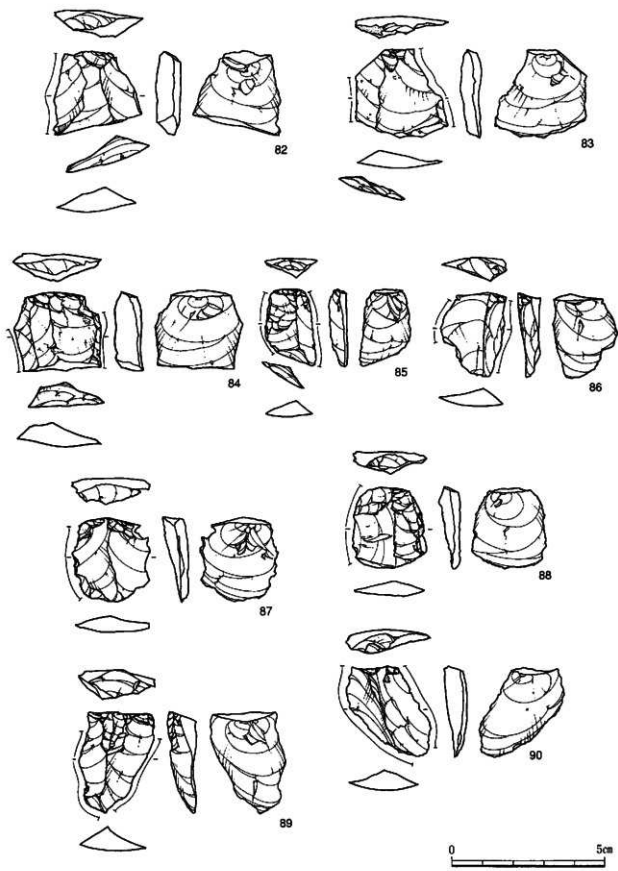


第33图 石器集中3(南) 出土石器(11)

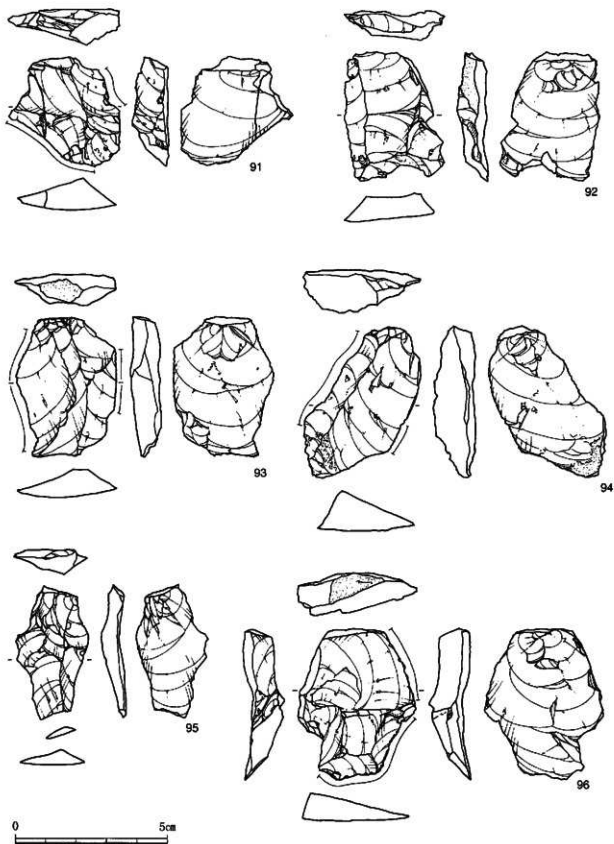


第34图 石器集中3(南) 出土石器(12)

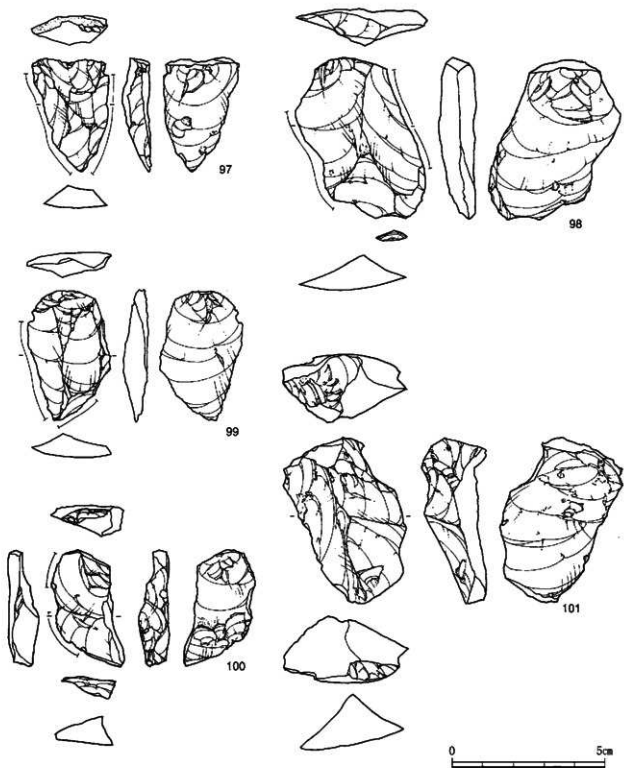




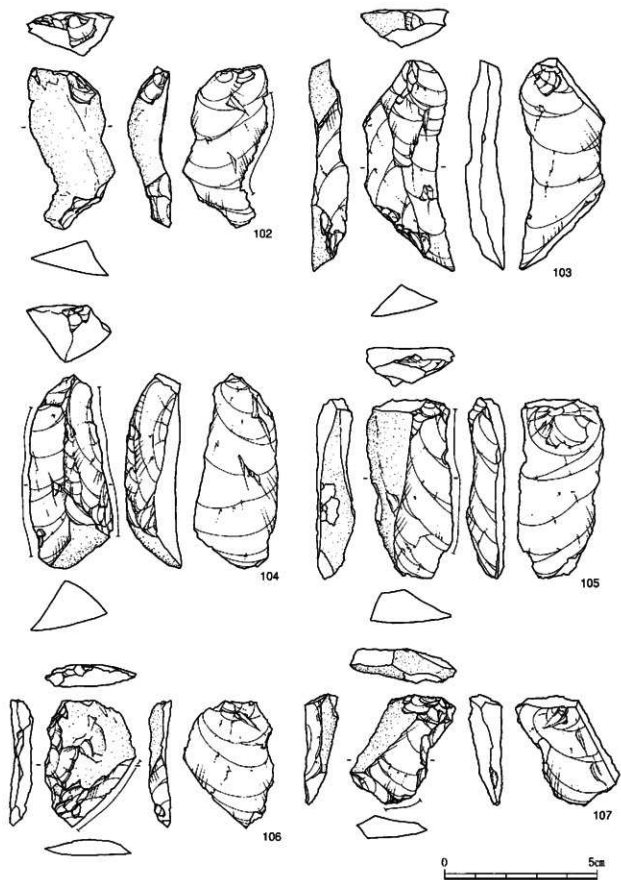
第35网 石器集中3(南) 出土石器(13)



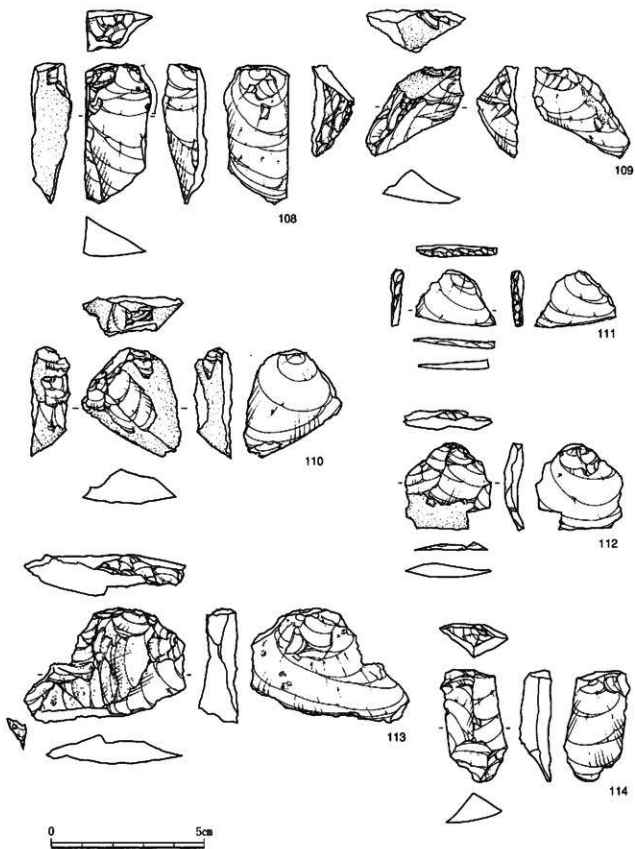
第36图 石器集中3(南) 出土石器(14)



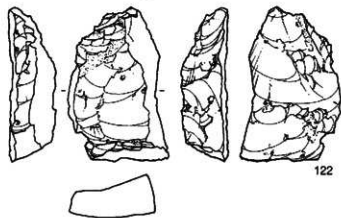
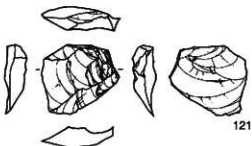
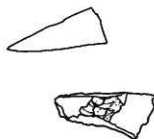
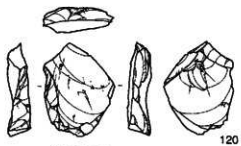
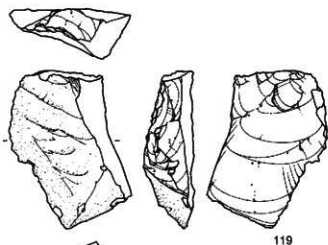
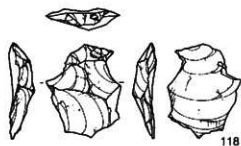
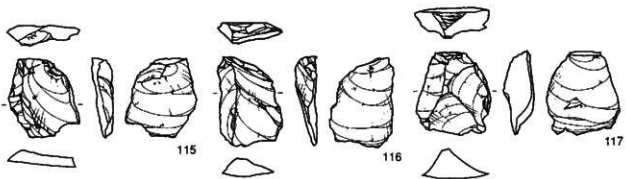
第37图 石器集中3(南) 出土石器(15)



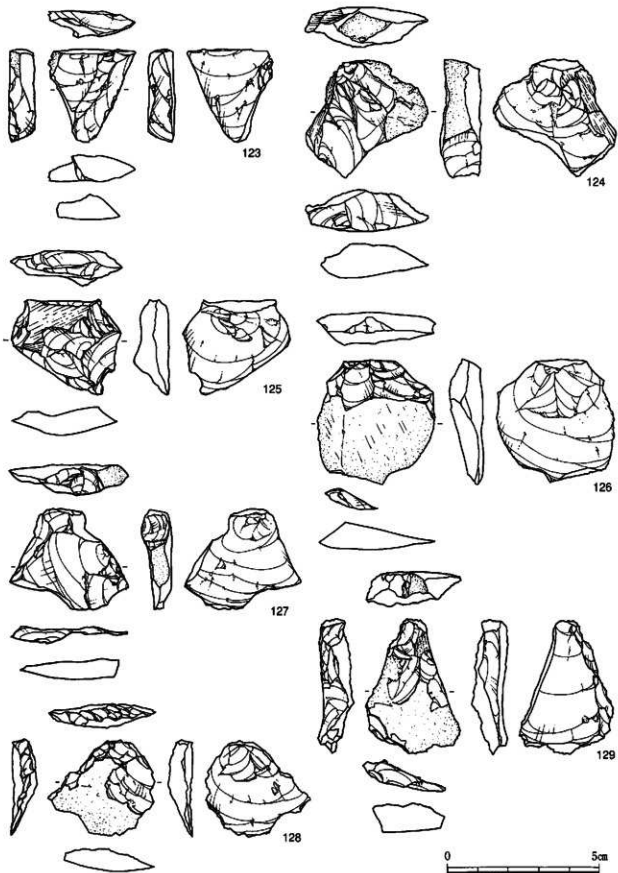
第38图 石器集中3(南) 出土石器(16)



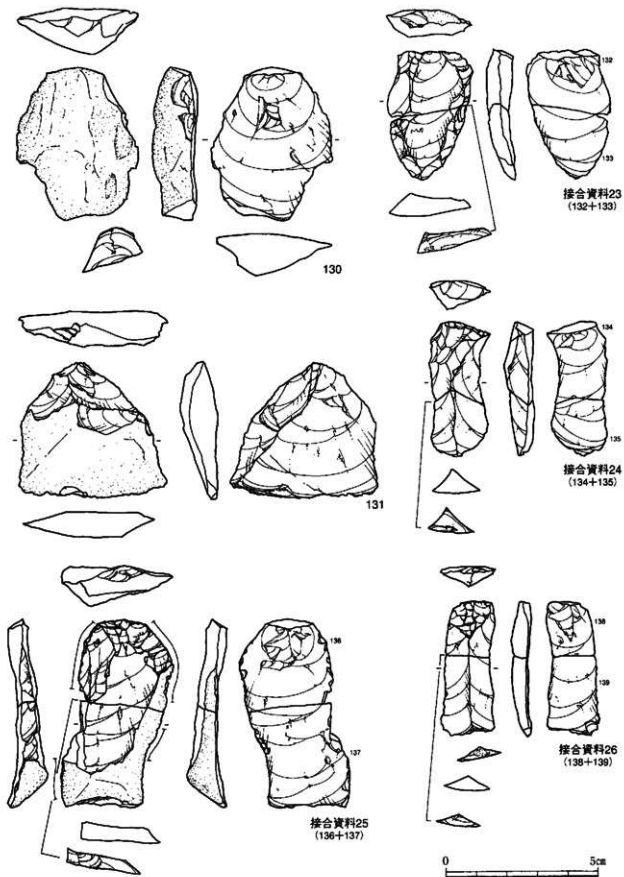
第39图 石器集中3(南) 出土石器(17)



第40图 石器集中3(南) 出上石器(18)

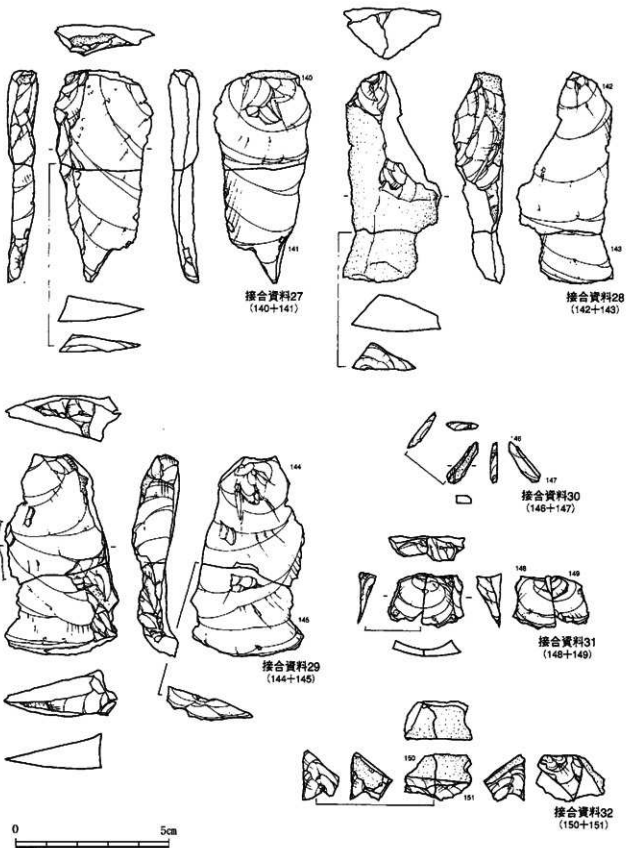


第41圖 石器集中3(南) 出土石器(19)

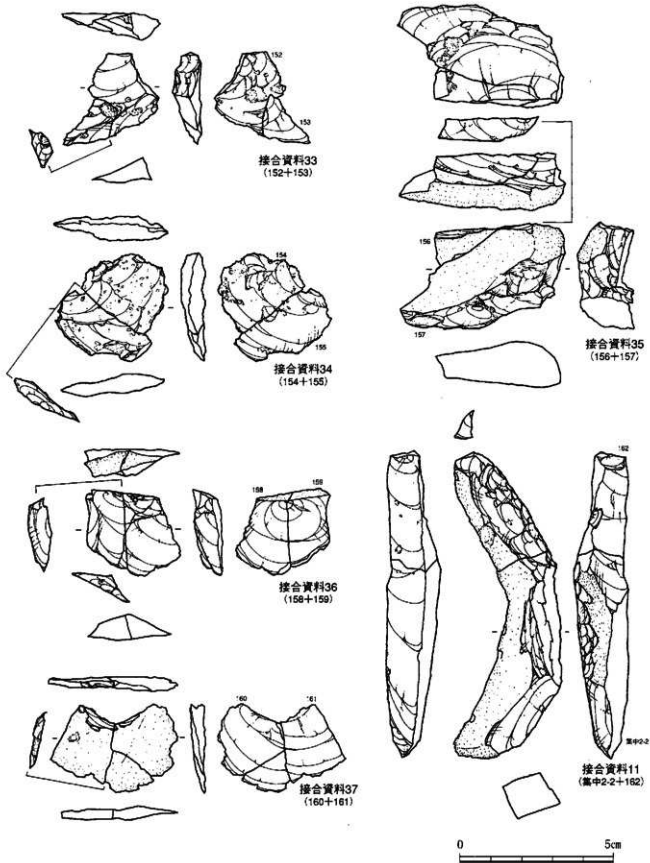


第42圖 石器集中3(南) 出土石器(20)

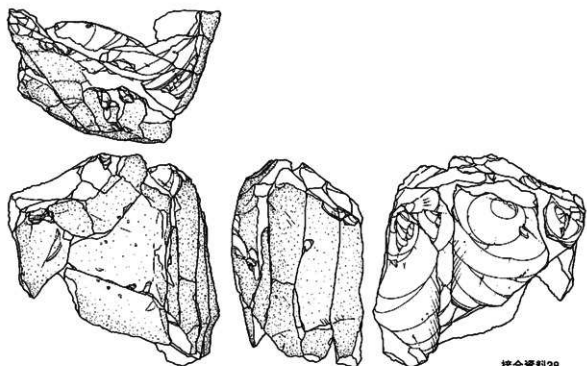




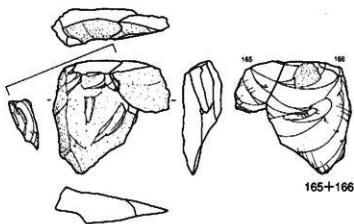
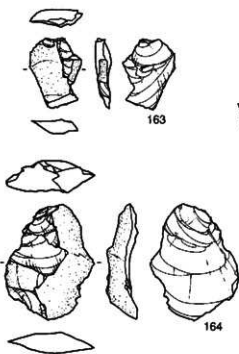
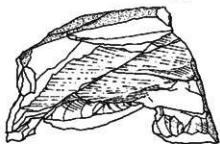
第43図 石器集中3(南) 出土石器(21)



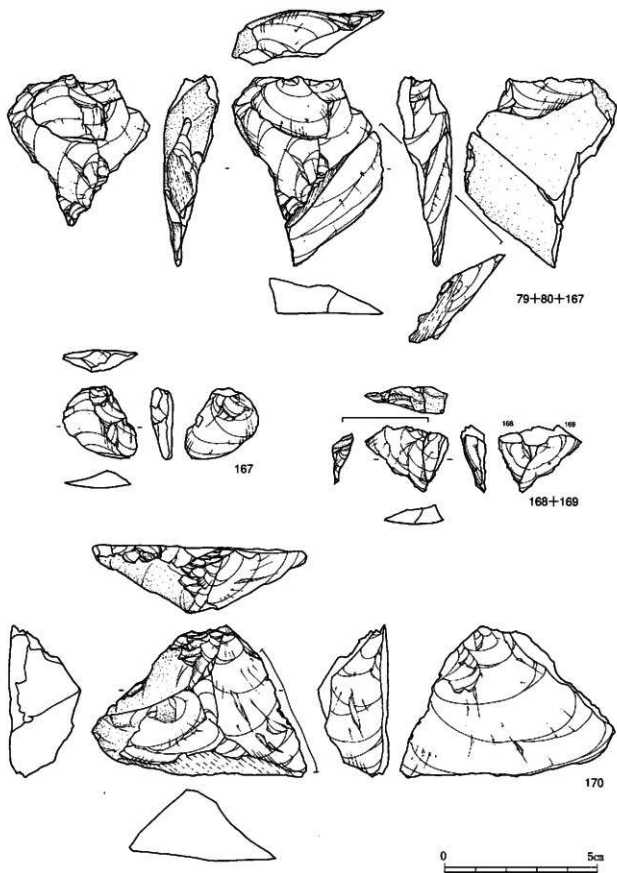
第44図 石器集中3 (南) 出上石器 (22)



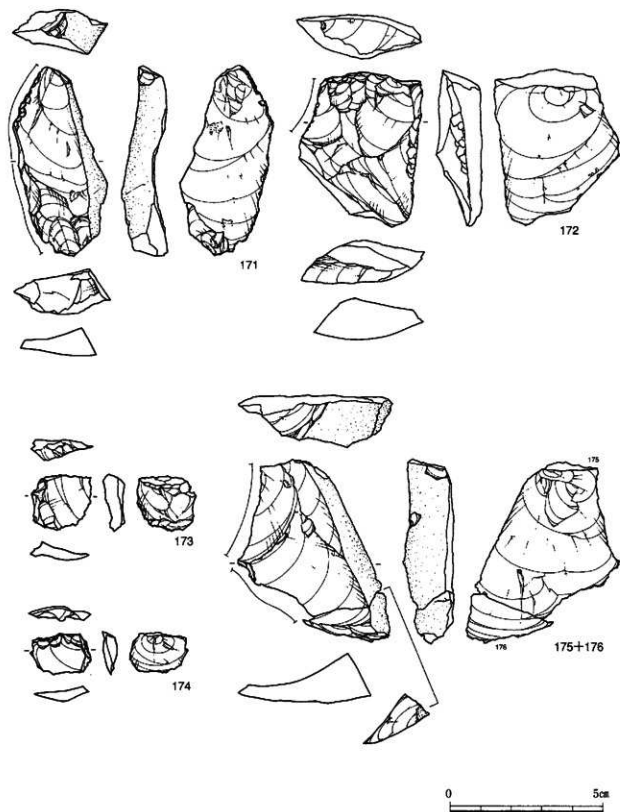
接合資料38  
(79+80+163~182)



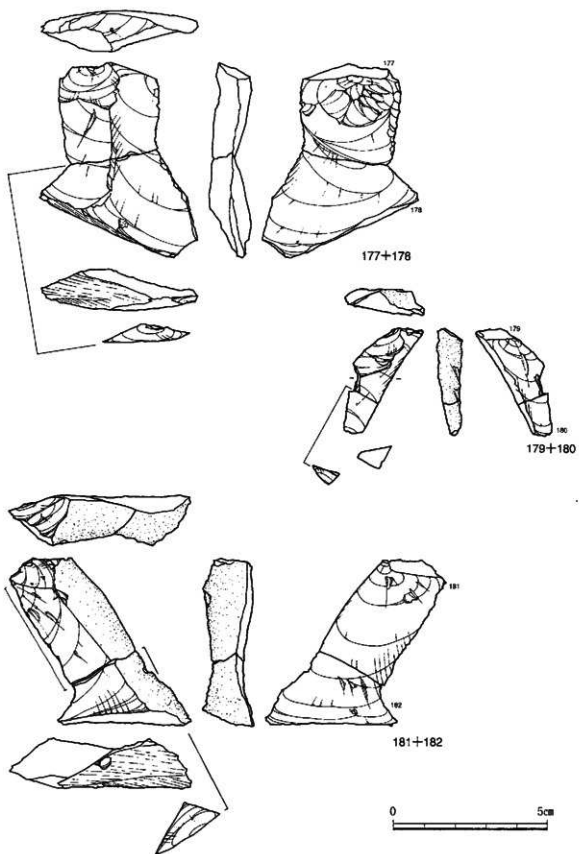
第45圖 石器集中3(南) 出石器(23)



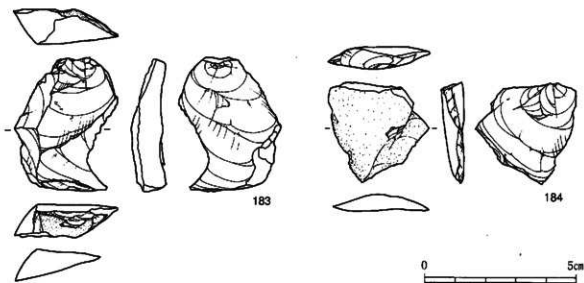
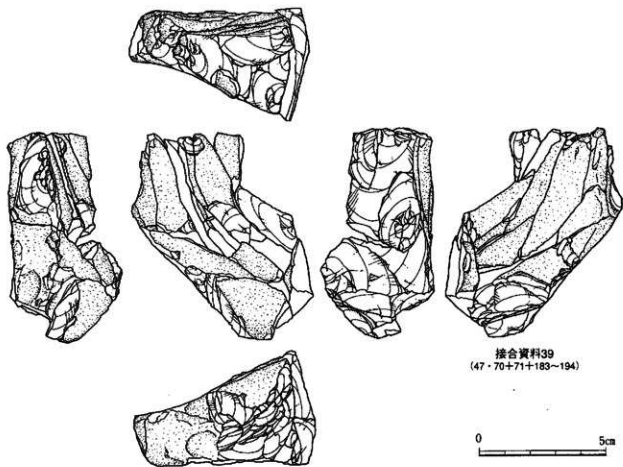
第46图 石器集中3(南) 出土石器(24)



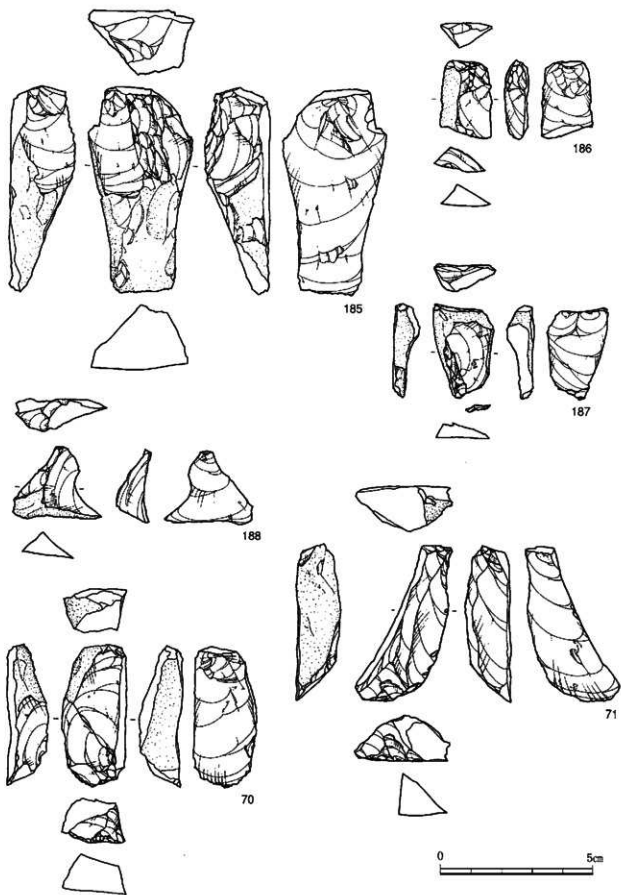
第47图 石器集中3(南) 出土石器(25)



第48图 石器集中3(南) 出土石器(26)



第49圖 石器集中3(南) 出土石器(27)



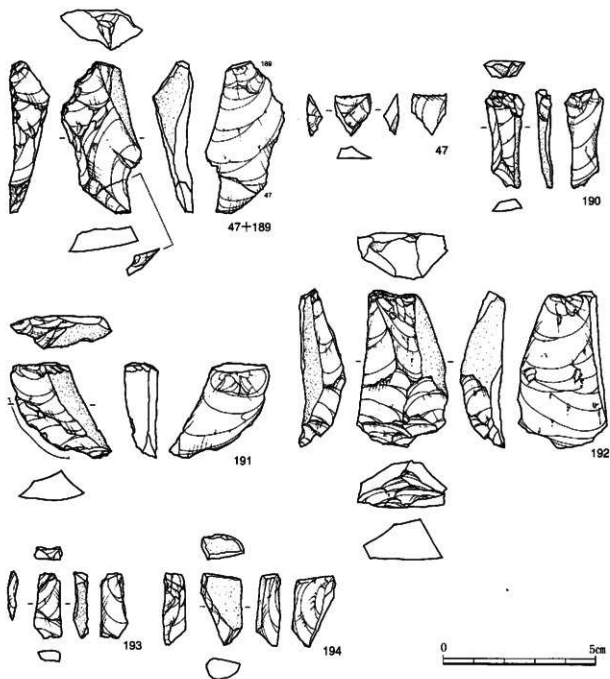
第50网 石器集中3(南) 出石石器(28)



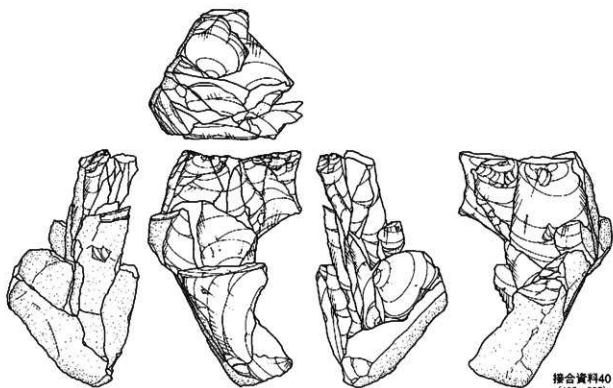
大半が、礫面を打面とし、背面に礫面を残した剥片で、扁平礫の周縁を順次剥離した様子が窺える。石斧の周縁調整剥片であった可能性が高い。

母岩No.11 (流紋岩) は風化により白色を呈した資料で、石刃を横位に折断したものが全て接合したことから (第72図接合資料62)、本来的には単独母岩の石刃が搬入されたということである。

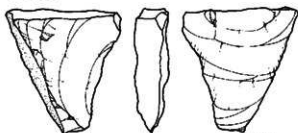
母岩No.12 (珪質頁岩) は、薄黄褐色と薄緑色を呈する部分がみられる特徴的な資料で、全体に粗粒な印象を受ける。石刃3点が搬入され、石器集中1との接合関係が見られる (第73図接合資料1)。遺跡外で剥離されたものを搬入したものと理解される。



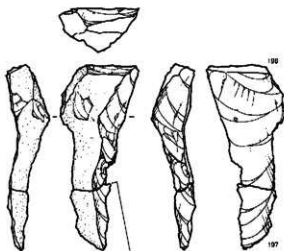
第51図 石器集中3 (南) 出土石器 (29)



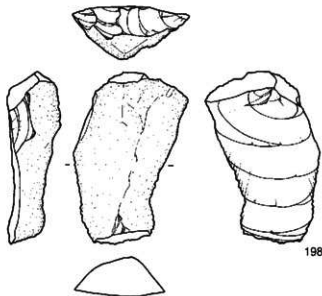
综合资料40  
(185~205)



195



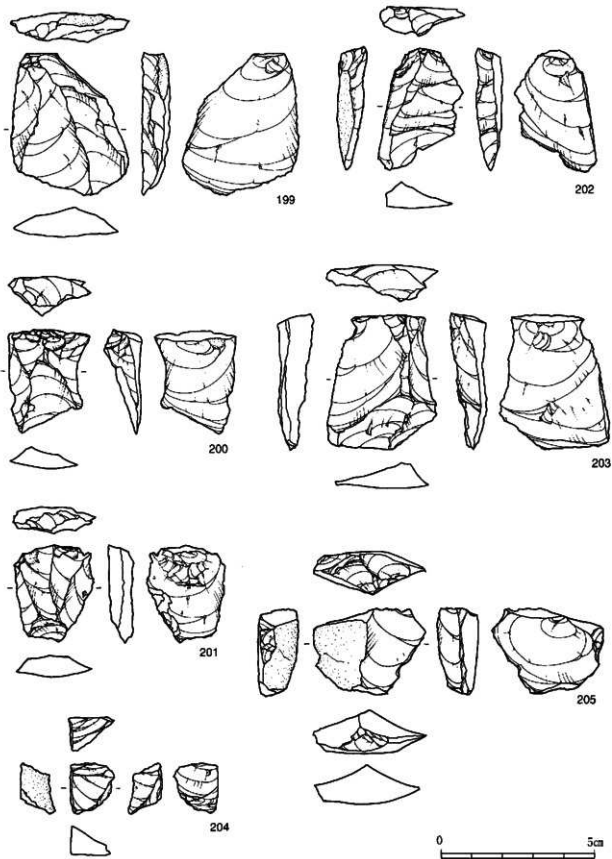
196+197



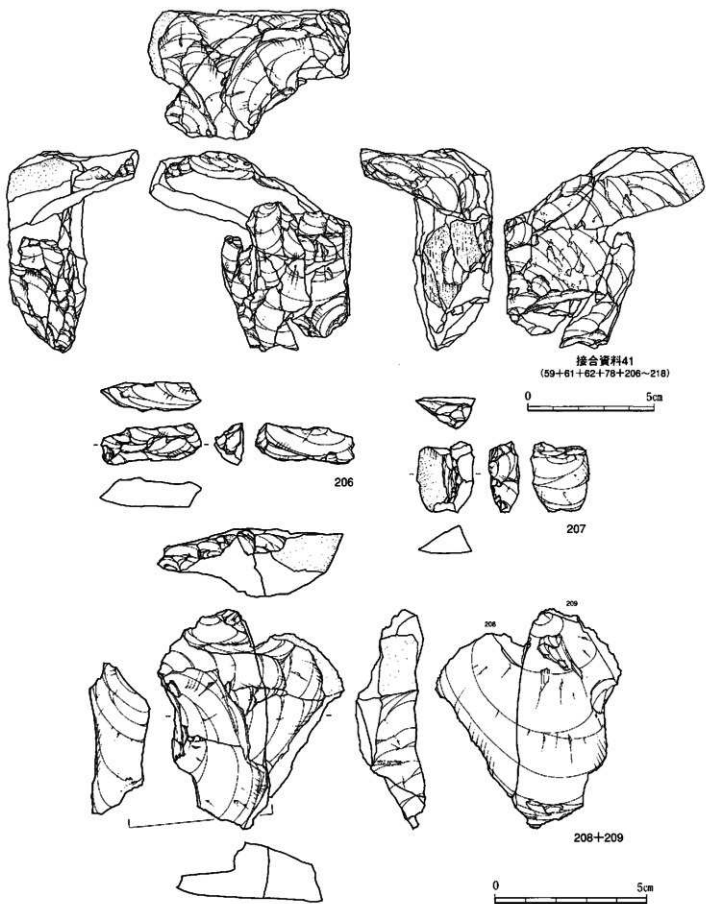
198



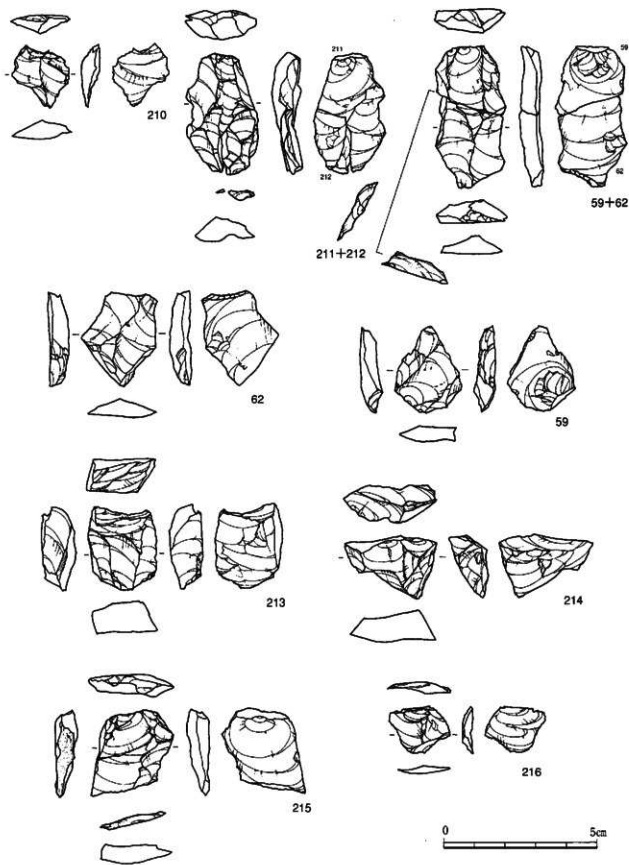
第52图 石器集中3(南) 出土石器(30)



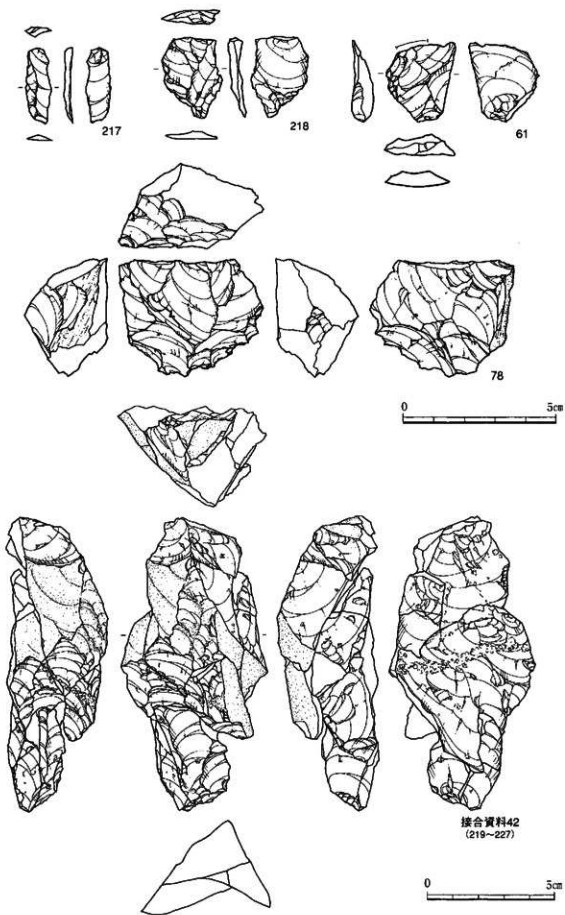
第53图 石器集中3(南) 出土石器(31)



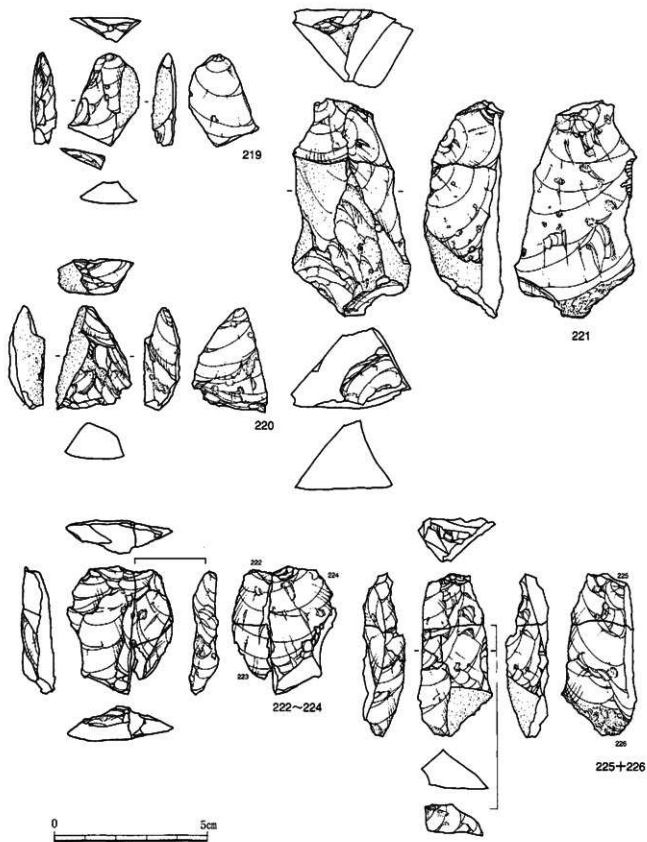
第54図 石器集中3(南) 出上石器(32)



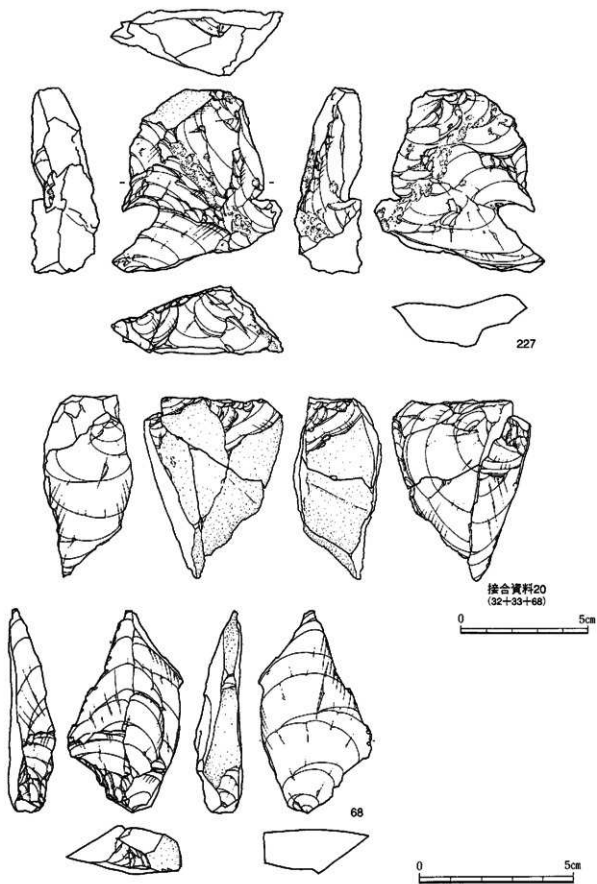
第55圖 石器集中3 (南) 出土石器 (33)



第56図 石器集中3 (南) 出土石器 (34)

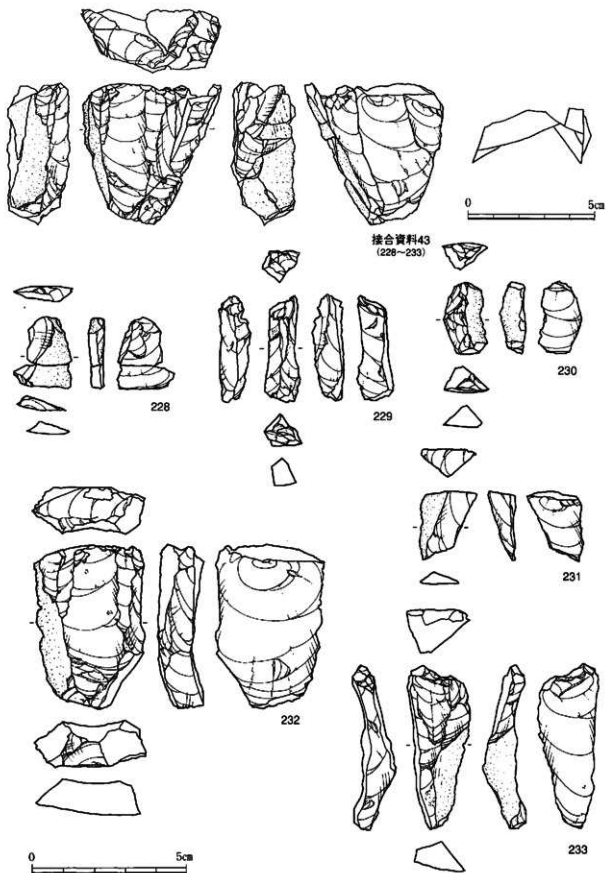


第57岡 石器集中3(南) 出土石器(35)

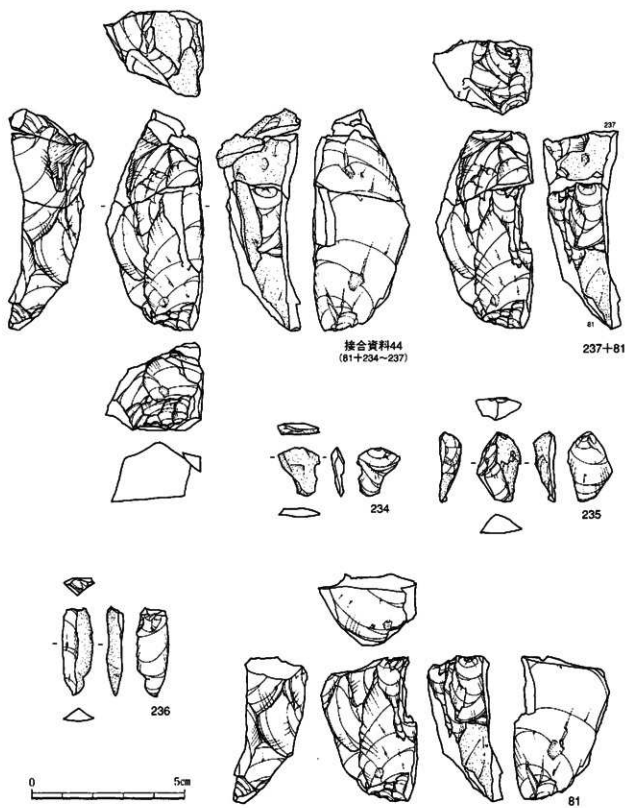


第58図 石器集中3(南) 出土石器(36)

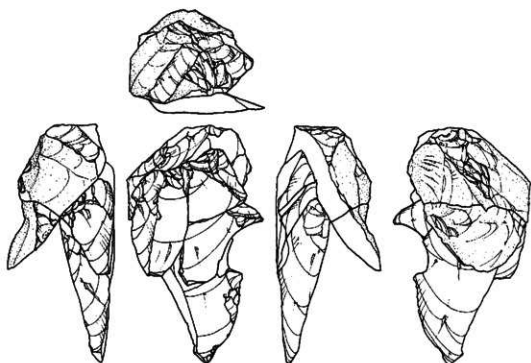




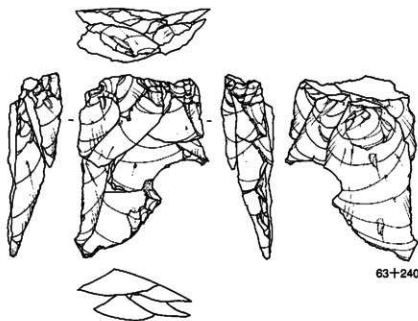
第59圖 石器集中3 (南) 出土石器 (37)



第60图 石器集中3(南) 出土石器(38)



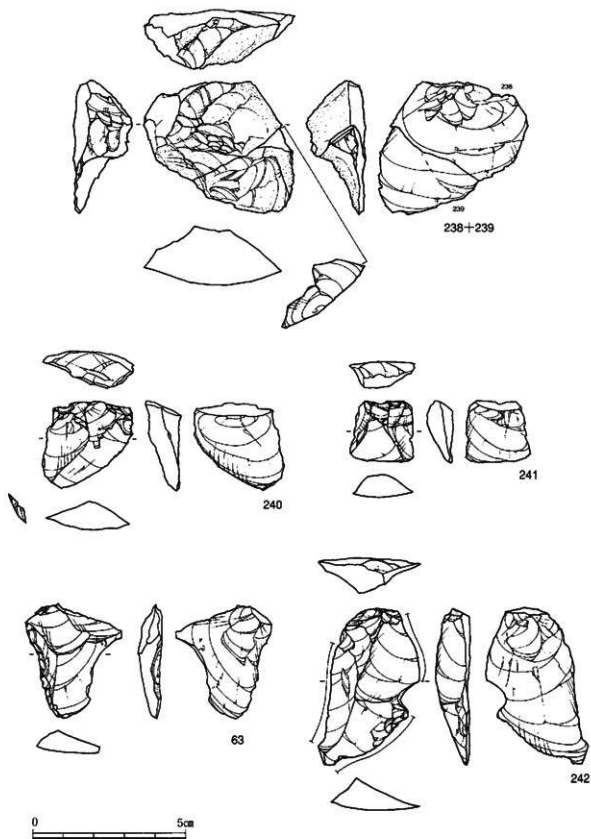
接合資料45  
(63+238~242)



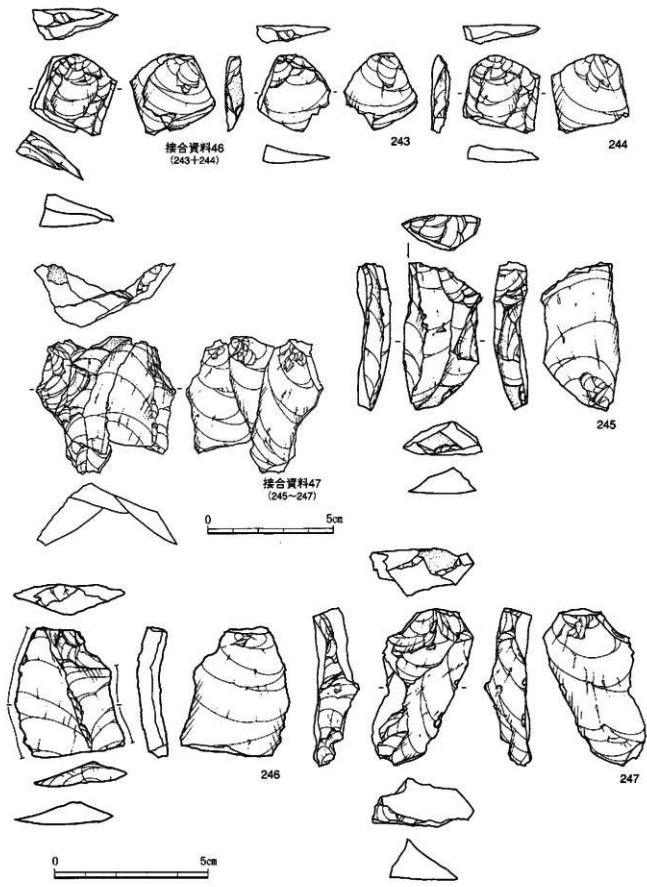
63+240~242



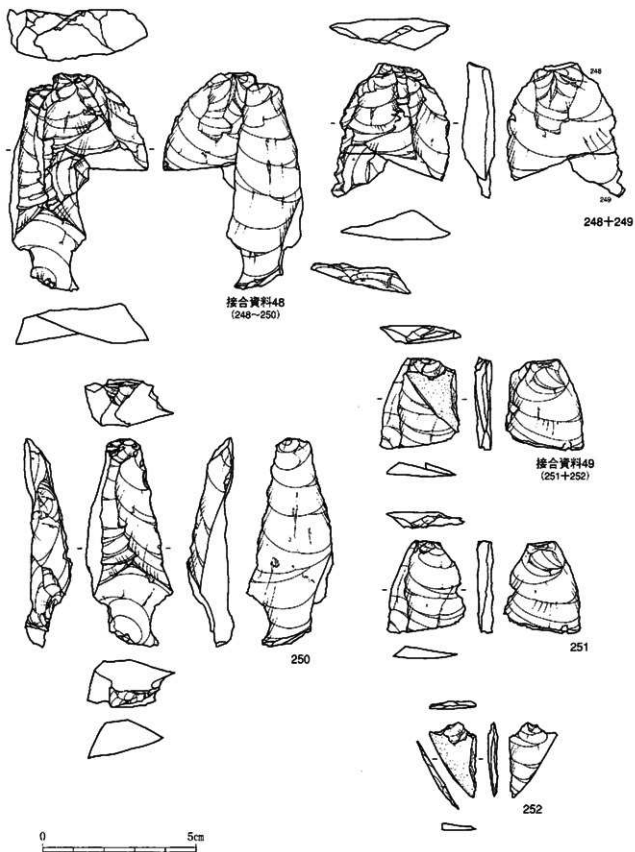
第61図 石器集中3 (南) 出土石器 (39)



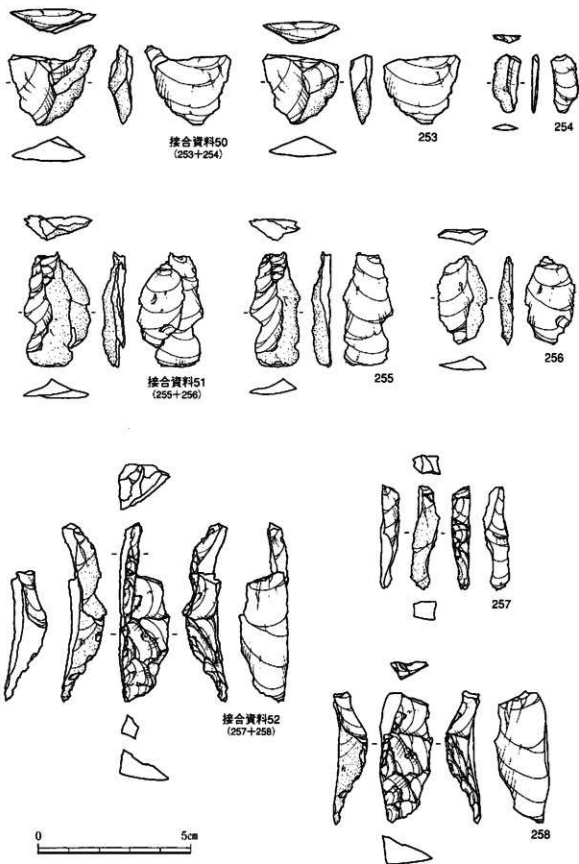
第62图 石器集中3(南) 出土石器(40)



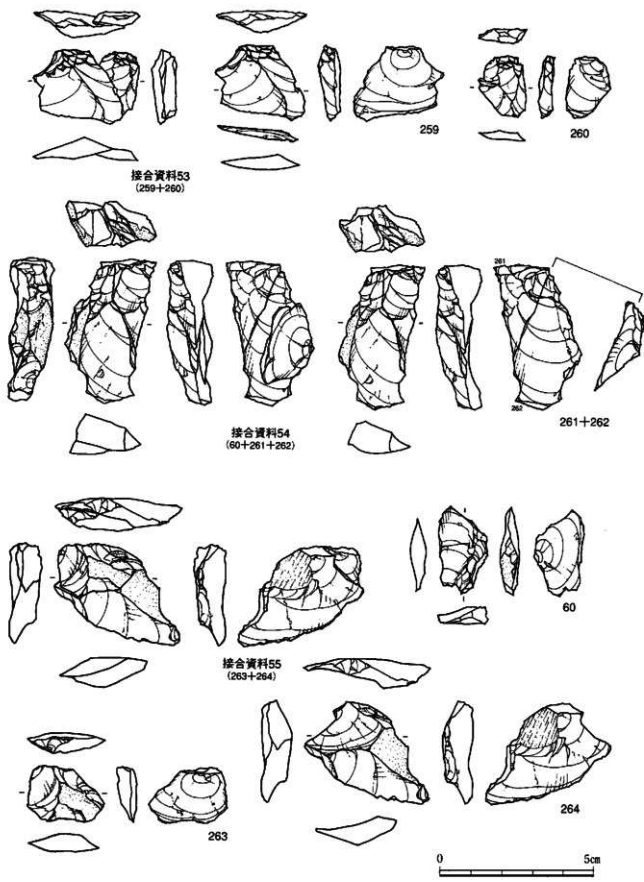
第63図 石器集中3 (南) 出土石器 (41)



第64図 石器集中3 (南) 出土石器 (42)

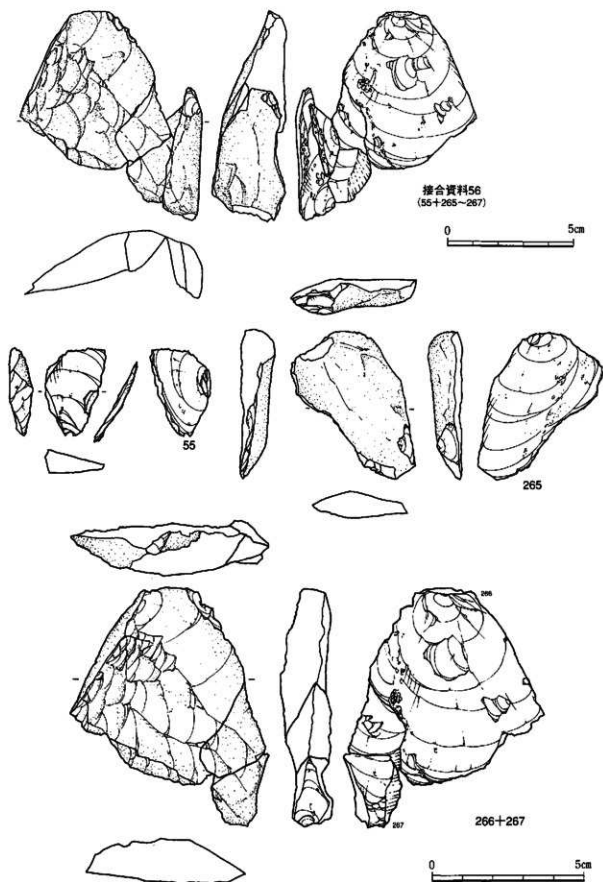


第65図 石器集中3 (南) 出土石器 (43)

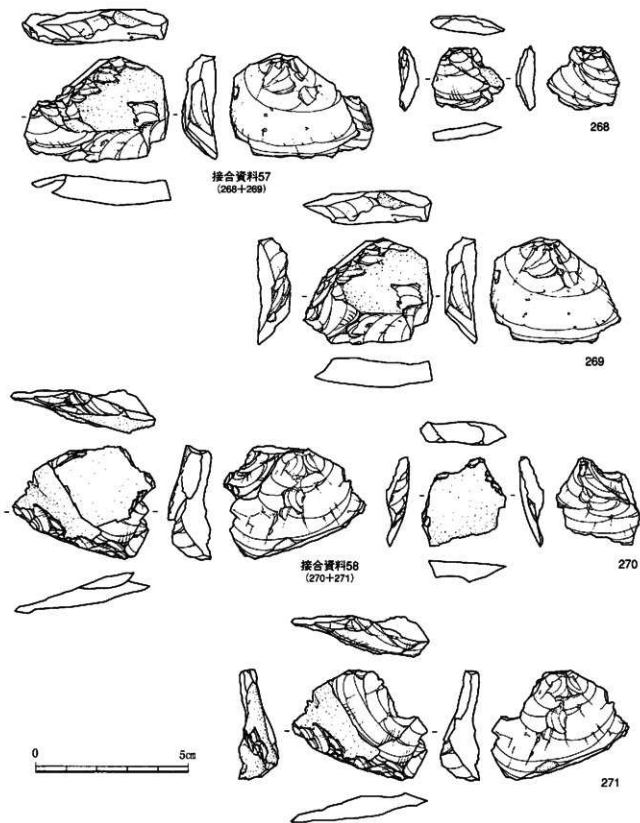


第66図 石器集中3(南) 出土石器(44)

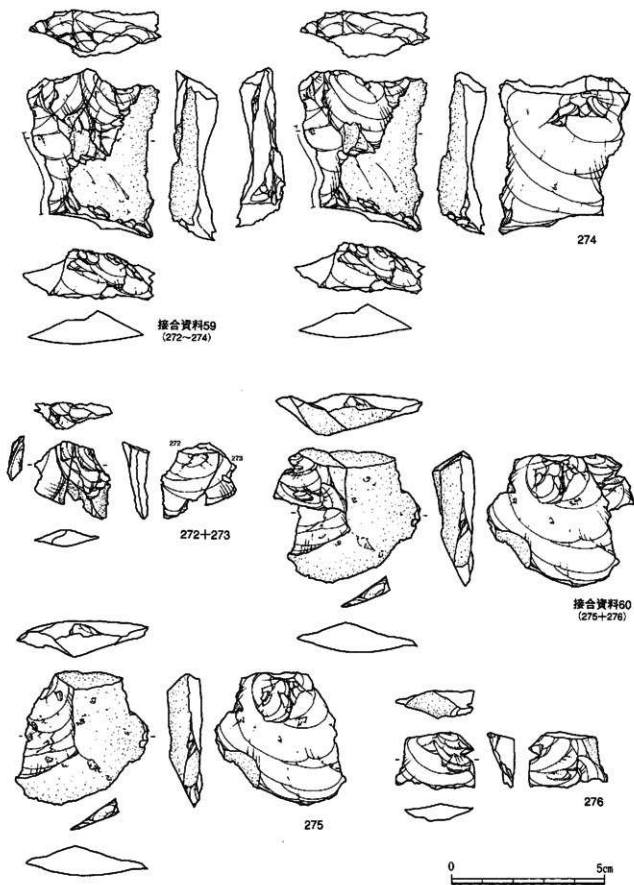




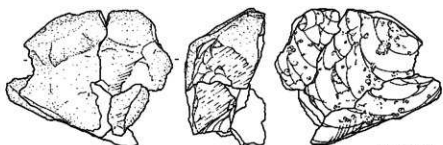
第67圖 石器集中3(南) 出土石器(45)



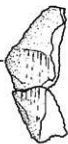
第68図 石器集中3(南) 出土石器(46)



第69図 石器集中3 (南) 出土石器 (47)



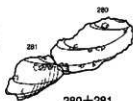
接合資料61  
(277~281)



277+278



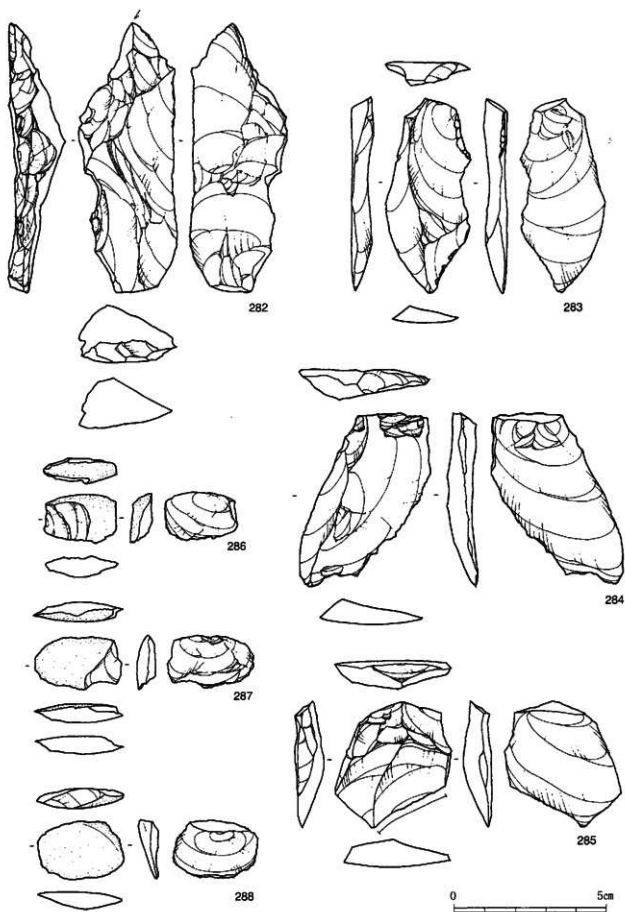
279



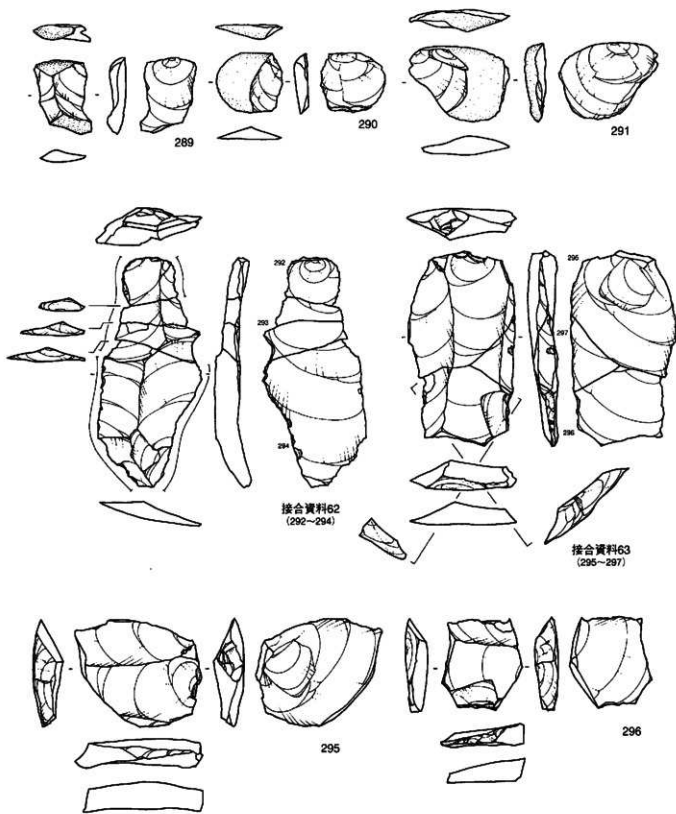
280+281



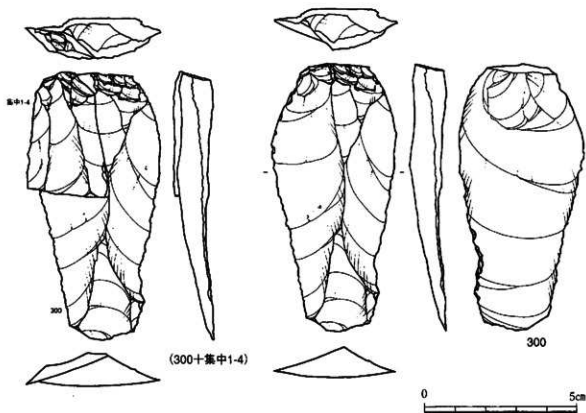
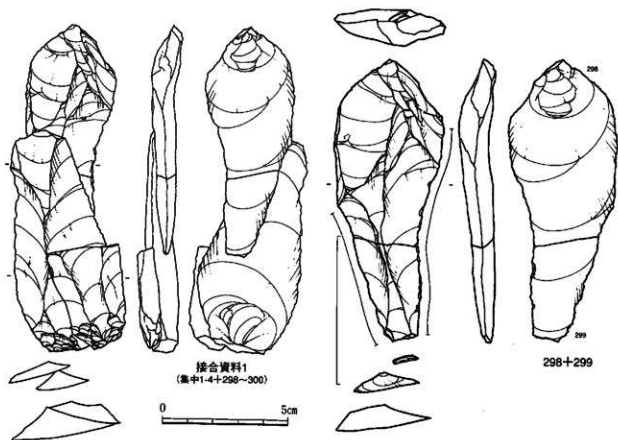
第70圖 石器集中3(南) 出土石器(48)



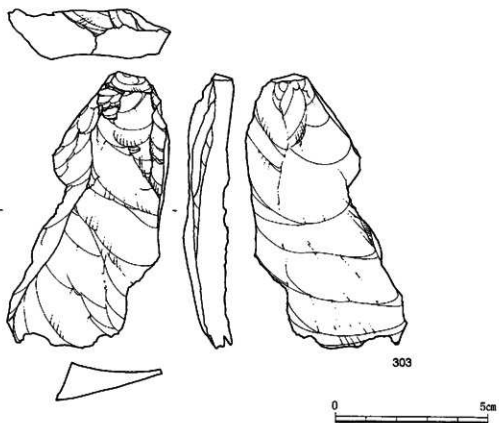
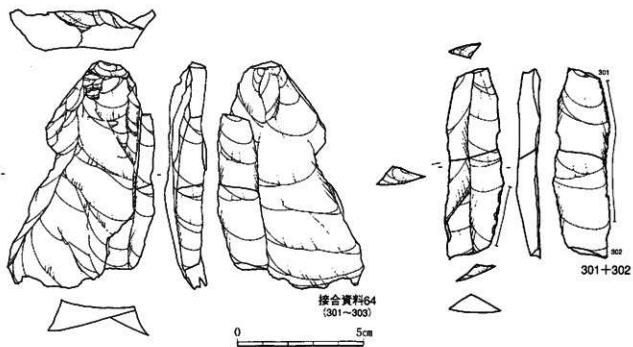
第71图 石器集中3(南) 出土石器(49)



第72図 石器集中3(南) 出土石器(50)



第73圖 石器集中3 (南) 出土石器 (51)



第74圖 石器集中3(南) 出土石器(52)



母岩No.13(珪質頁岩)は灰色帯びた薄緑色を呈するもので、赤褐色が縞状に混じっている。均質で良質の部類に入るであろう。節理面は黄褐色を呈する、やや荒れた面である。遺跡外で剥離された石刃が3点搬入され、折断によって側面を形成し台形様石器となっている(第72・74図接合資料63・64)。

母岩No.14(玉髄)は北集中域から検出された剥片類2点で構成される(第30図39・40)。色調は乳灰色を呈し節理が発達し良質のものとは言えない。遺跡外で剥離されたものが搬入されたものと思われる。

母岩No.15(凝灰岩)は北集中域から検出された石刃2点で構成される(第29図34・37)。クリーム色を呈した均質なものであるが、全体にザラつきある特徴を有する。石刃はやはり外部で剥離された搬入品である。

母岩別の分布状況を見ると、南北両集中域に分布するのは母岩No.1~4・9で、母岩No.5~8・10~13は南集中域、母岩No.14・15は北集中域にのみ分布する。その中で、分布状況に顕著な偏在性を認めることができるのは、母岩No.9ぐらいで、同母岩に属する多くの資料が3E72・73グリッドの境界に径1m程の狭い範囲に集中している。同母岩は被熱によると思われる光沢のない風化剥離面に覆われた資料で、厳密な意味で同一母岩を構成しているものではないが、この密集域を中心に火が焚かれた可能性が高い。

第7表 第1文化層 石器組成表(3)

石器種別	ナイフ	台形棒石	彫刻刀形石	刺片	機軸	石刃	石片	石核	剥片	石核	機軸	剥片	合計	構成比
高野山3	1	26	1	3	2		95	12	663	262	5		1070	96.5
高野山1	26.86	84.25	11.51	16.18	20.58		759.98	79.32	1372.79	22.06	122.10		2801.61	89.6
高野山2		5.71				136.14	14.56						156.6	5.6
チャート											4	2	6	0.5
凝灰岩							0.98		17.93				18.91	0.7
珪質岩								1					6	0.5
砂岩							0.32		3.87	1.24		3.11	8.64	0.8
砂岩							1		1				2	0.2
砂岩							11.23		0.14	0.09			11.46	0.4
安山岩A									0.12				0.12	0.0
安山岩										0.13		23.55	23.68	0.8
メノウ			1									35.54	36.54	1.3
その他			31.73										31.73	2.9
合計	1	27	2	3	2	8	99	12	674	265	5	7	1109	100.0
構成比	29.85	69.96	46.24	18.18	20.56	136.14	0.98	788.09	79.32	1394.85	23.62	122.1	63.35	100.0
	0.1	2.4	0.2	0.3	0.2	0.7	0.1	8.9	1.1	60.9	23.9	0.5	0.6	3
	1.0	2.5	1.7	0.6	1.0	4.9	0.0	28.1	2.6	49.9	0.8	4.4	2.3	0.0
高野山1	1	6	1	1	1		40	3	121				174	17.4
高野山2	26.86	84.24	11.51	4.49			411.12	8.56	343.89		26.6		851.3	85.1
高野山3		6					18		73				91	9.1
高野山4		14.28					64.59		181.18				245.77	24.6
高野山5		2					7	1	26		1		37	3.7
高野山6		6.64					80.16	1.73	87.61		13.99		126.13	12.6
高野山7		7		1	2		16	1	59				86	8.6
高野山8		15.04		5.69	26.56		168.87	6.2	192.56				367.43	36.7
高野山9									10				10	1.0
高野山10									44.78				44.78	4.5
高野山11									13				14	1.4
高野山12									117.54				128.84	12.9
高野山13									14				14	1.4
高野山14									106.48				106.48	10.6
高野山15									2				2	0.2
高野山16									40.99	51.16	153.79		255.94	25.6
高野山17									27				30	3.0
高野山18									50.1				85.41	8.5
高野山19									6				6	0.6
高野山20									17.93				17.93	1.8
高野山21									1		1		2	0.2
高野山22									0.32		2.07	1.34	3.73	0.4
高野山23									3				3	0.3
高野山24							87.54						87.54	8.8
高野山25									3				3	0.3
高野山26									2				2	0.2
高野山27									82.57		14.56		97.13	9.7

第8表 第1文化層 石器組成表(4)

石器品中の 名称	石刀	石斧	石鏃	石錐	石棒	石鏃	石錐	石棒	石鏃	石錐	石棒	石鏃	石錐	石棒	合計	組成比
黒曜石	3	6	2	80	22	1									114	88.1
	4.92	48.36	13.80	207.92	2.28	17.57									295.36	99.4
玉髓			1	1	2										4	3.1
			30.82	16.07	35.30										82.19	16.6
チャート			2,87		9,33										12,20	2.5
凝灰岩	2														2	1.6
	36.64														36.64	7.4
安山岩A				1											1	0.8
				11.73											11.73	2.4
安山岩B	1														1	0.8
	14.47														14.47	2.9
建賀頁岩	1														1	0.8
	16.30														16.30	3.3
メノウ				1											1	0.8
				2.82											2.82	0.6
その他										1					1	0.8
										24.85			0.35		25.20	5.1
合計	3	4	8	3	80	22	1								139	100.0
	4.92	67.41	82.55	29.87	291.97	2.28	17.57			0.35					496.33	100.0
組成比	2.3	3.1	6.3	2.3	87.2	17.2	0.8	0.8							100.0	
	1.0	13.6	16.6	8.0	58.2	0.5	3.5	0.1							100.0	
母岩地1	1			21	1										22	2.3
黒曜石	0.80		16.46		105.02	0.34									122.64	12.4
母岩地2	2		1	1	19										23	2.3
	4.12		4.67	4.39	70.79										83.57	8.3
母岩地3			3		6										9	0.9
黒曜石			27.71		8.28										35.99	3.5
母岩地4					6										9	0.9
黒曜石					11.25										11.25	1.1
母岩地5					1										2	0.2
黒曜石				9.41	2.78										12.19	1.2
母岩地14				1	1										2	0.2
玉髓				30.82	16.07										46.89	4.6
母岩地15	1	2													3	0.3
凝灰岩			36.64												36.64	3.6

第9表 第1文化層 石器組成表(5)

石器品中の 名称	ナイフ形 石鏃	有柄種石 鏃	扇形刀形 石鏃	削物	錐物	石刀	石斧頭類 片	使用後の ある片	調整後の ある片	削片	砕片	石核	鏃	片	合計	組成比
黒曜石	1	29	1	3	2		101	14		743	284	5			1184	95.7
	26.86	69.17	11.51	16.18	26.56		806.84	93.12	1600.71	21.35	139.67				2796.97	86.0
建賀頁岩		1				8	2								12	1.0
		5.71				152.44	14.56								172.71	5.2
チャート								2,87		9,33					12,20	8.6
								2,87		9,33			1.15	0.89	14.24	0.5
凝灰岩						5									9	0.7
						36.64	0.98			17.30					55.55	1.7
安山岩A										3					6	0.5
								0.33		3.87	1.34		3.11		8.64	0.3
安山岩B										2					2	0.2
						14.47				11.87					11.87	0.4
安山岩												0.13			23.65	0.7
															23.65	0.7
玉髓							30.82	16.07	35.30						82.19	2.5
砂岩										1					1	0.1
									11.23	0.14	0.09				11.46	0.3
メノウ										1					1	0.2
						34.73				2.89				35.54	73.09	2.2
その他										1					1	0.1
										24.85				0.35	25.35	0.8
合計	1	30	2	3	2	12	1	107	15	760	287	6	8	3	1237	100.0
	26.86	74.88	46.24	16.18	26.56	203.55	0.99	868.64	109.19	1686.82	25.91	139.67	63.70	1.04	3296.22	100.0
組成比	0.1	2.4	0.2	0.2	0.2	1.0	0.1	8.6	1.2	61.4	23.2	0.5	0.6	0.2	100.0	
	0.8	2.5	1.4	0.5	0.9	8.2	0.0	26.4	3.3	51.3	0.8	4.2	1.9	0.6	100.0	

#### 4 石器集中4 (第75図～78図, 第10・23表, 図版4・29)

分 布 調査区南側, 東西に走る支谷に向かって小さく突出する台地上に立地する(第5図)。5F62・63グリッドを中心に散漫な分布状況を示し, 南北14m・東西13mの範囲に広がる(第75図)。

出土層位は, 調査時の所見で旧Ⅲ・Ⅳ層を主体とする。出土レベルは最大値38.619m, 最小値38.103m, 平均値38.334mである。

器 種 ナイフ形石器1点, 楔形石器1点, 楔形石器剥片1点, 石斧調整剥片2点, 使用痕のある剥片5点, 調整痕のある剥片1点, 剥片・碎片13点, 石核1点, 礫・礫片3点の合計28点が出土した(第10表)。器種別の平面分布に偏在性は看取できない(第75図)。

第77図1は左側縁に顕著な調整が見られるナイフ形石器である。器体長軸に対して斜刃となる刃部は使用によると思われる微細剥離痕が連続して残されている。横長剥片の打面側には細かい調整が施され(左側縁), 剥片端部には抉るような粗い剥離によって整形がなされている(右側縁)。2は縦長の剥片で打面部は右側縁の折断によって除去されている。両側縁には微細な剥離痕が器体中央に見られ, 剥片端部の縁辺に僅かながら使用痕らしき微細な剥離痕が観察される。3は上下両端に剥離痕が残された楔形石器としたが, 両極によるものであるか断定できない。この上下からの剥離痕を切るように, 実測図左側縁からの器体を横断する剥離が施されている。裏面の大きな剥離面(ネガ面)の周辺には, 表面を覆う剥離痕の打面がそれぞれ独立してあることから, 残核として位置づけることもできるかもしれない。下端部の一部は調査時のものと思われる欠損が見られる。4は頭部調整が顕著な剥片で, 1～4は全て黒曜石の同一母岩である(母岩No.2)。

5は横長剥片の縁辺に微細剥離痕が観察される資料で, 6は背面に自然面が残る棒状の剥片である。第78図7は片側縁に連続する顕著な微細剥離痕が見られる。5～7は黒曜石の同一母岩である(母岩No.1)。

8～10は珪質頁岩の同一母岩(母岩No.5)を用いた資料で, 8・10の縁辺には断続的な微細剥離痕が観察される。9は直線的な線状打面をもつ楔形石器剥片である。

11は背面に研磨面が残る小型剥片で, 局部磨製石斧の調整剥片と考えられる。他に同様の剥片・碎片が3点出土している。全てホルンフェルスの同一母岩である(母岩No.4)。

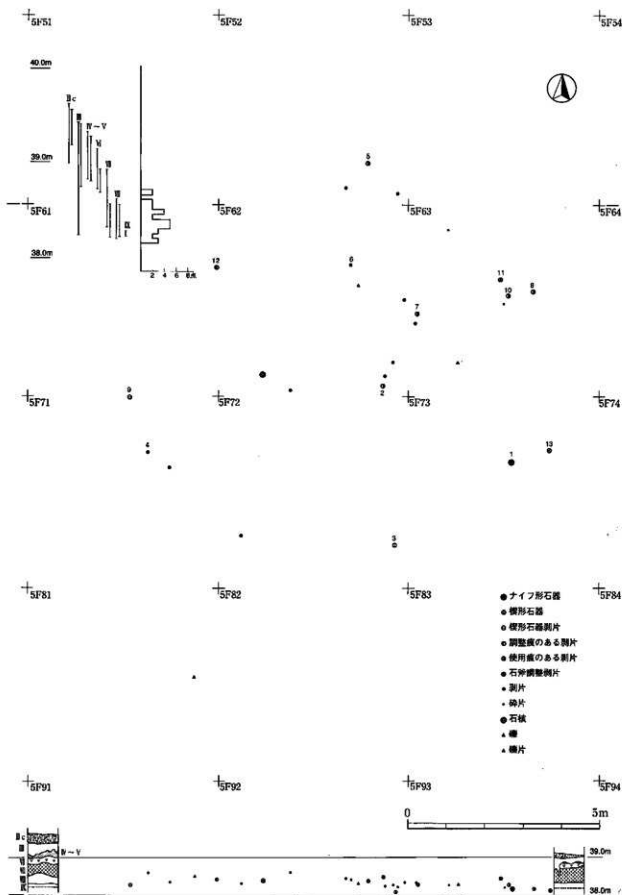
13は凝灰岩製の剥片で, 背面の凸部に僅かな光沢が見られる。これも局部磨製石斧の調整剥片と考えられる。単独母岩である。

12は珪質頁岩製の剥片で, 自然面を打面として直角に近い角度で剥離されている。

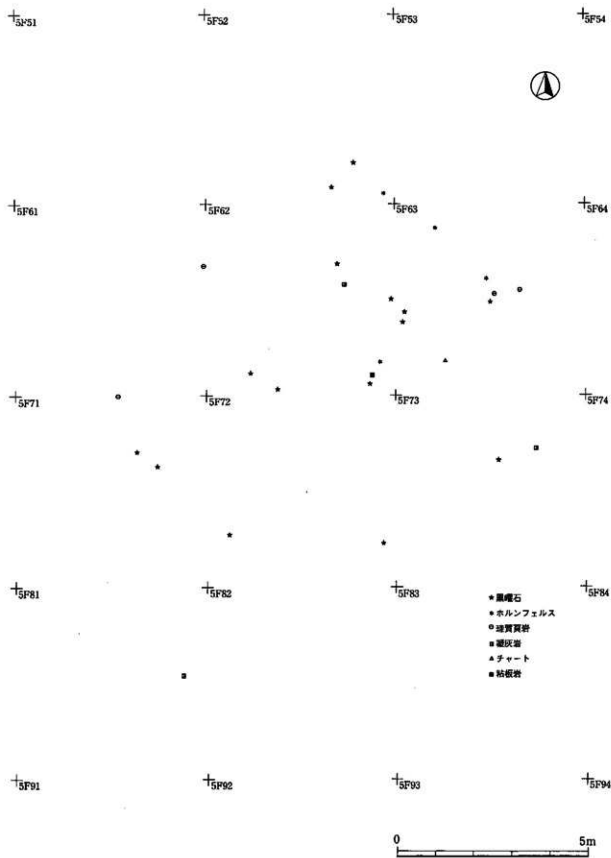
石 材 黒曜石15点, 珪質頁岩4点, ホルンフェルス4点, 凝灰岩3点, チャート1点, 粘板岩1点で構成される(第10表)。

黒曜石は3母岩に細分される。母岩No.1は網目状もしくは波紋状に赤褐色が混じる特徴的なもので, 小さい白色の斑晶が散っている。自然面は水磨により爪形の裂痕が平滑となった灰色帯びたものである。使用痕のある剥片を含む, 剥片6点で構成される(5～7)。母岩No.2は母岩No.1と同様に小さい白色の斑晶が散っているもので, 色はかなり灰色帯びており, 風化が著しい。ナイフ形石器1点, 楔形石器1点, 使用痕のある剥片1点, 剥片1点で構成され, トゥール類が嵌入されていることが分かる(1～4)。母岩No.3は透明度の高い資料で, これにも小さな白色の斑晶が散っている。剥片・碎片4点で構成されるが, いずれも小型のものである(実測図は未掲載)。

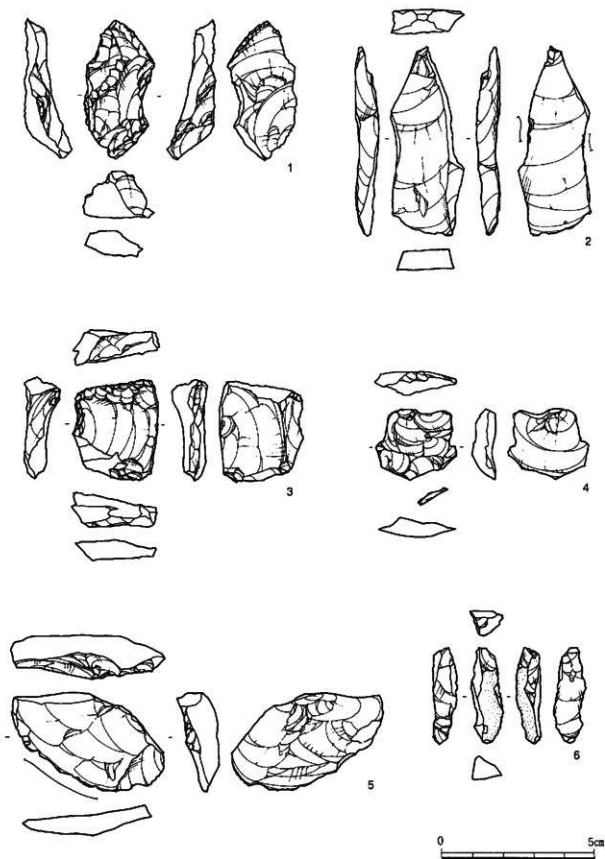
ホルンフェルスは1母岩を抽出した。母岩No.4は内部が黒色を呈した資料で風化剥離面, 研磨面は僅



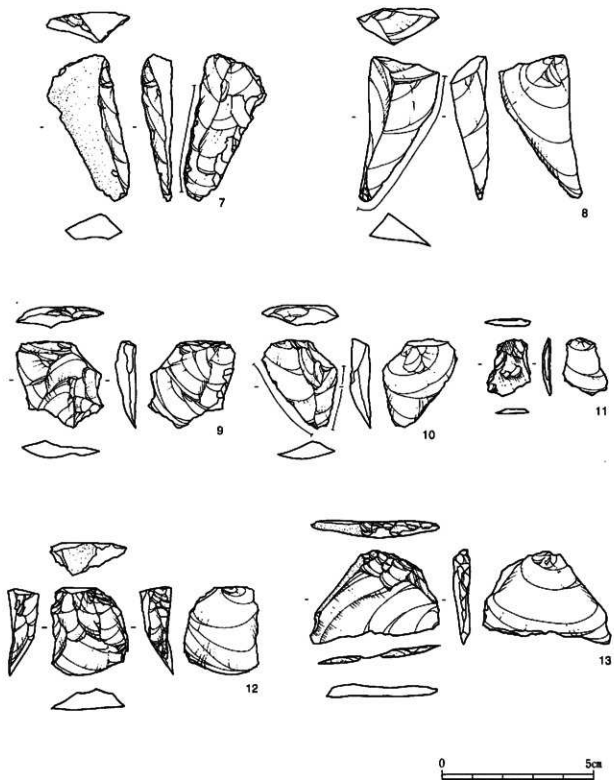
第75図 石器集中4 器種別出土状況



第76図 石器集中4 石材別出土状況



第77图 石器集中4 出土石器(1)



第78圖 石器集中4 出土石器(2)

かに緑色を帯びた灰色を呈している。剥片・砕片4点で構成されるが、その内1点に顕著な研磨痕が観察されることから(11)、それらは局部磨製石斧の調整剥片と理解される。

珪質頁岩は1母岩を抽出した。母岩No.5は灰色を帯びた濃緑色を呈する均質で良質な母岩である。楔形石器剥片1点(9)、使用痕のある剥片2点(8・10)で構成される。

各母岩は本石器集中地点のみで完結するもので、ほぼ同一層序から検出された石器集中1～3とは、接合関係はもとより母岩の共有もみられない。製品類の搬入がほとんどで、本地点での剥片剥離はほとんど見られず、局部磨製石斧の調整が僅かに行われた程度である。

第10表 第1文化層 石器組成表(6)

石器集中4	ナイフ形 石斧	楔形石器 剥片	磨製石器 剥片	石斧調整 剥片	使用痕のある剥片	剥片	砕片	石核	礫	燧石	合計	組成比
黒曜石	1	1				8	1	1			15	52.6
	8.88	8.97			29.88	11.07	0.02	4.70			63.56	56.3
ホルンフェルス				1		2	1				4	14.3
				0.56		0.50	0.09				1.15	1.0
珪質頁岩			1		2						4	14.3
			3.32		10.56	6.68					20.56	17.9
凝灰岩				1					1	1	3	10.7
				7.14					2.13	2.13	11.40	9.9
チャート										1	1	3.6
										16.88	16.88	14.7
粘板岩						1					1	3.6
						1.42					1.42	1.2
合計	1	1	1	2	5	11	2	1	2	1	28	100.0
	8.88	8.97	3.32	7.70	40.44	6.68	12.99	0.11	4.70	19.01	71.93	100.0
組成比	3.6	3.6	3.6	7.1	17.9	3.6	39.3	7.1	3.6	7.1	3.6	100.0
	7.7	7.6	2.9	8.7	35.2	5.8	11.1	0.1	4.1	16.5	1.9	100.0
母岩No.1				2							2	6
黒曜石				18.84							18.84	22.66
母岩No.2				1							1	4
黒曜石	8.88	8.97			11.04						20.89	22.49
母岩No.3						3	1				4	4
黒曜石						3.69	0.02				3.71	3.71
母岩No.4				1							1	4
ホルンフェルス				0.56		0.50	0.09				1.15	1.15
母岩No.5			1		2						3	3
珪質頁岩			3.32		10.56						13.88	13.88

## 5 石器集中5 (第79図～83図, 第11・23・24表, 図版5・29)

分布 調査区南側, 東西に走る支谷に向かって小さく突出する台地の先端に立地する(第5図)。南西に向かって下る傾斜地にあり, ローム層の堆積も芳しくない。5E78・79・88・89グリッドを中心として, 南北14m・東西10mの範囲に散漫な分布状況を示している(第79図)。

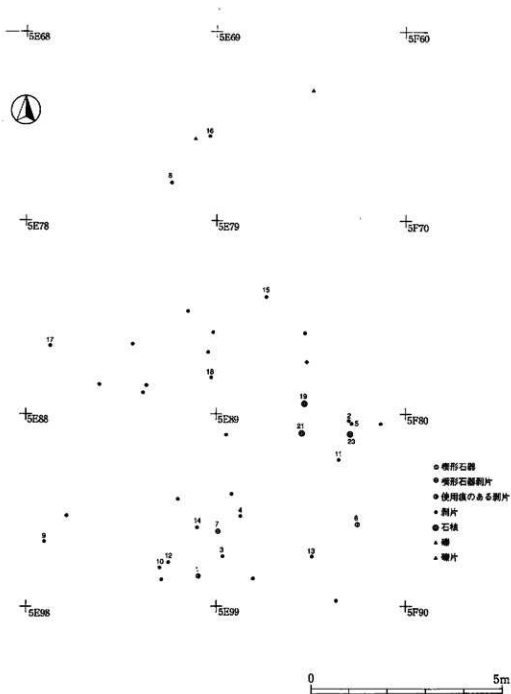
出土層位は, 調査時の所見でⅧ層であるが, レベル的にはややばらつきが見られる。出土レベルは最大値39.340m, 最小値38.120m, 平均値38.631mである。傾斜面に立地していることから, セクションとの対応関係に問題が残る。

器種 楔形石器1点, 楔形石器剥片1点, 使用痕のある剥片1点, 剥片32点, 石核3点, 礫・燧石2点を含む40点が出土した(第11表)。器種別の平面分布は, 石核が中心部東寄りにまとまって検出された(第79図)。

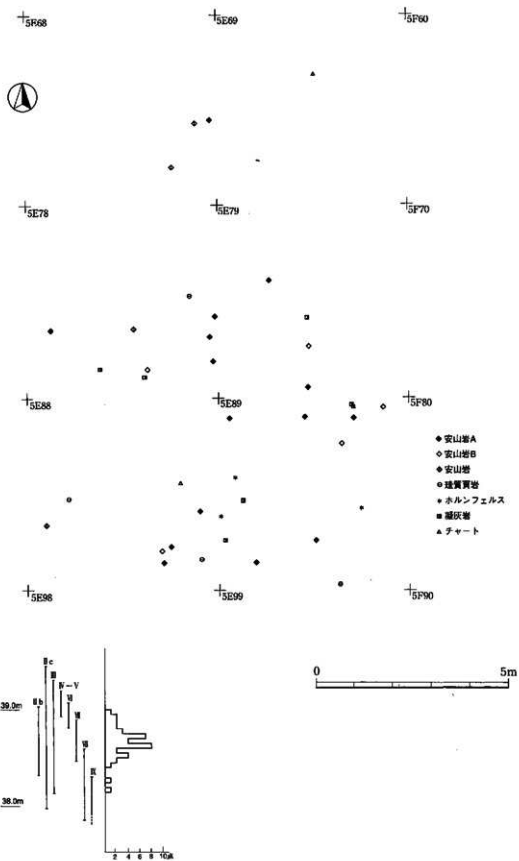
第81図1は背面に自然面を残す爪形の剥片で, 主要剥離面右側縁に微細剥離痕が観察される。左側縁には調査時のものと思われるガジリが連続してある。珪質頁岩製である(単独母岩)。

2～5は凝灰岩の同一母岩を用いた剥片で, 2・3・5の端部はヒンジフラクチャーを呈した幅広剥片となっている。4の背面にもヒンジフラクチャーを呈した剥離痕が見られる。通常の剥片剥離によって得られたものとは異質で, 細粒の凝灰岩を用いている点からも, 石斧整形段階の剥片ということも考えられる。

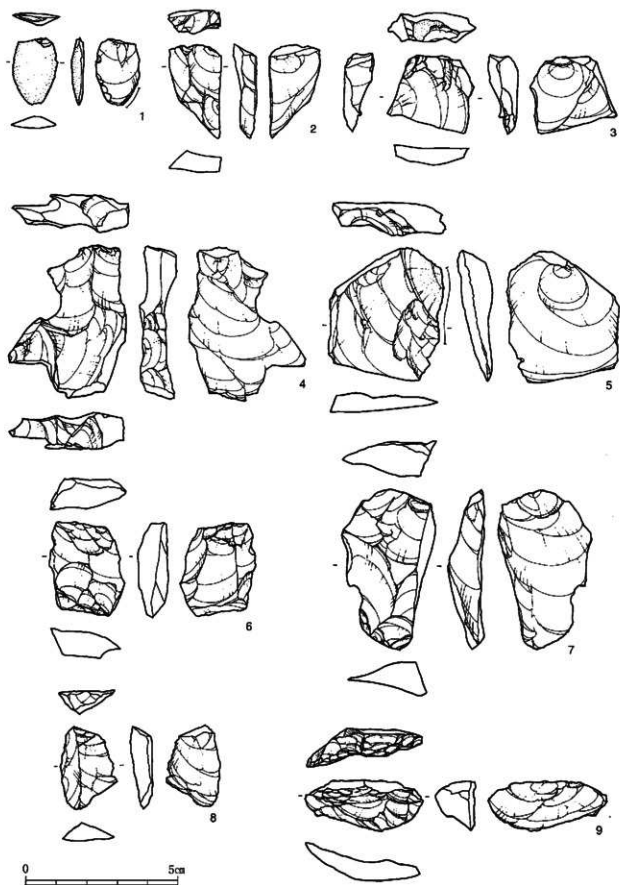




第79図 石器集中5 器種別出土状況



第80図 石器集中5 石材別出土状況



第81圖 石器集中5 出土石器(1)

6・7は風化の著しいホルンフェルスを用いた楔形石器と楔形石器剥片である(同一母岩)。6の楔形石器は一方向からの打撃によるもので、7も同様に一方向からの両極剥離により剥離された楔形石器剥片である。

8・9は安山岩を用いた剥片で同一母岩である。9の打面と背面の稜には顕著な調整が施されている。

第82図10・11は安山岩Bを用いた剥片で10の背面、11の左側面に自然面が残っている。

12~21は安山岩Aを用いた剥片と石核である。剥片は打点から縦位に折れているものが目立つ(12~15)。石核は扁平礫を用いて打面と作業面を入れ替えながら進めていくタイプで、3点とも自然面を残置する(第83図19~21)。

石 材 安山岩A 15点、安山岩B 5点、安山岩 4点、凝灰岩 7点、珪質頁岩 4点、ホルンフェルス 3点、チャート 2点で構成される(第11表)。

安山岩A・安山岩Bが主体を占めるが、風化が著しいため母岩分類は行っていない。

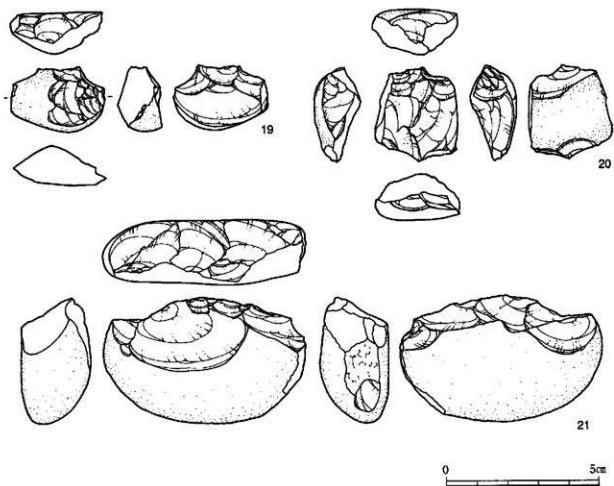
凝灰岩は2母岩を抽出した。母岩No.1は灰色を呈する細粒のもので、剥片4点で構成される(2~5)。母岩No.4は緑色帯びた灰色を呈したもので、小型剥片3点で構成される。その内2点の背面には中央に研磨痕と思われる光沢面が観察される。局部磨製石斧の調整剥片と考えられる(実測図未掲載)。

第11表 第1文化層 石器組成表(7)

石器名中5	楔形石器		[ 楔形石器 使用面のみ ] 剥片 剥片		石核	礫	礫片	合計	組成比
	剥片	剥片	剥片	剥片					
安山岩A			12	3			15	37.5	
			65.57	104.98			170.55	52.9	
安山岩B			5				5	12.5	
			13.61	3			16.61	4.2	
安山岩			9.74		63.70		73.44	22.8	
			7				7	17.5	
凝灰岩			37.56				37.56	11.7	
			1	3			4	10.0	
珪質頁岩			1.64	2.71			3.75	1.2	
				1			1	2.5	
ホルンフェルス	8.64	12.71		0.40			21.75	6.7	
				1			1	2.5	
チャート				1.15			0.43	1.38	0.5
				1			1	2.5	
合計	1	1	1	32	3	1	40	100.0	
	8.64	12.71	1.64	130.74	104.98	63.70	222.24	100.0	
組成比	2.5	2.5	2.5	90.0	7.5	2.5	100.0		
	2.7	3.9	0.3	49.6	32.8	19.8	109.0		
母岩No.1							4		
凝灰岩				35.78			35.78		
				1			1		
母岩No.2							3		
ホルンフェルス	8.64	12.71		0.40			21.75		
				3			3		
母岩No.3							9.74		
安山岩				9.74			9.74		
				1			1		
母岩No.4							1.78		
凝灰岩				1.78			1.78		
母岩No.5				2			2		
珪質頁岩				1.21			1.21		



第82图 石器集中5 出上石器(2)



第83図 石器集中5 出土石器(3)

ホルンフェルスは1母岩を抽出した。母岩No.2は風化が著しく灰色を呈した風化剥離面で覆われるが、ロームがこびりついているため全体的に黄土色を帯びている。楔形石器1点(6)と楔形石器剥片1点(7)と剥片1点で構成される。

安山岩は1母岩を抽出した。母岩No.3は明灰色を呈するもので、全体に白色粒子が散っているが、内部は黒色を呈するものである。剥片3点で構成される(8・9)。

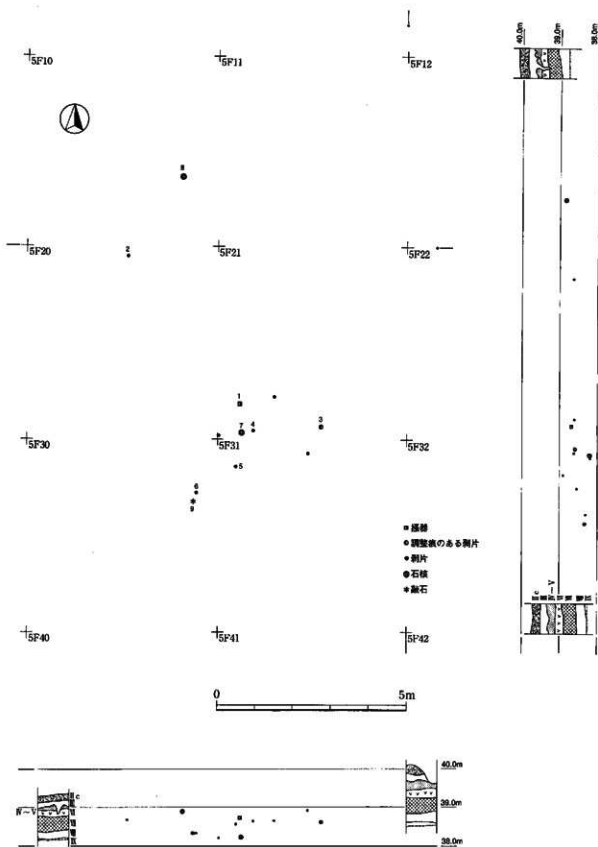
珪質頁岩は1母岩を抽出した。母岩No.5は緑色を呈した母岩で、背面に自然面を残した小型剥片2点を伴う(実測図未掲載)。

#### 6 石器集中6 (第84図～87図, 第12・24表, 図版5・29)

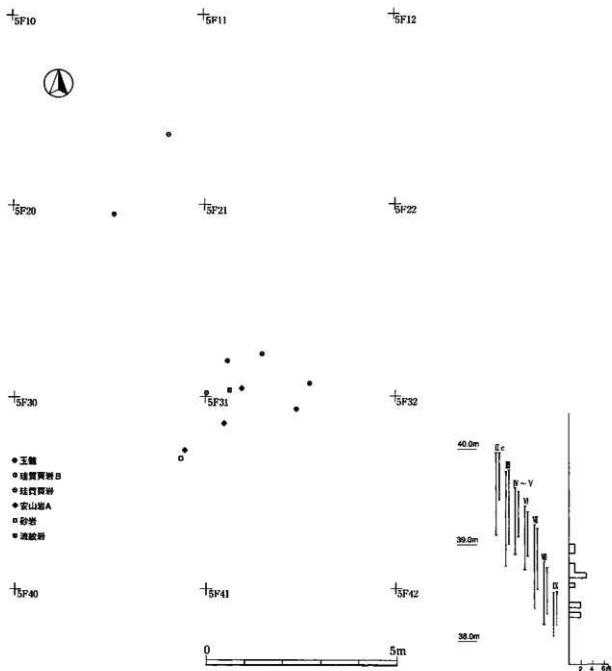
分布 調査区南側, 東西に走る支谷に向かって小さく突出する台地の付け根付近に立地する(第5図)。西に向かって下る傾斜地にあることから, 遺物の出土レベルのヒストグラムを見ても分かるように, 垂直分布にはばらつきが見られる。遺物の平面分布は, 5F21グリッドを中心に南北9m・東西6mの範囲に散漫に広がる(第84図)。

出土層位は, 調査時の所見で旧Ⅲ・Ⅳ層となっているが, 上下に高低差をもって出土している。出土レベルは最大値38.921m, 最小値38.203m, 平均38.556mである。

器種 掻器1点, 調整痕のある剥片1点, 剥片7点, 石核2点, 敲石1点の合計12点が出土した(第



第84図 石器集中6 器種別出土状況

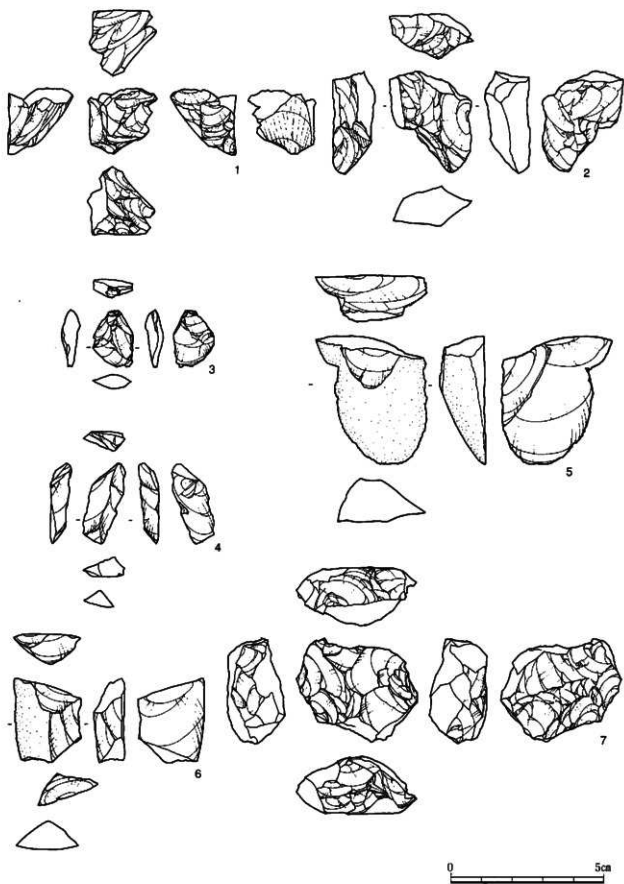


第85図 石器集中6 石材別出土状況

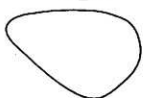
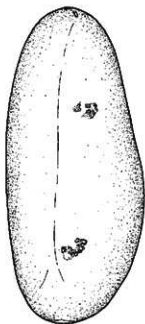
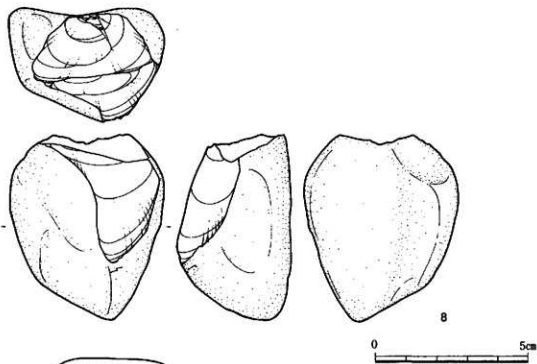
12表)。

第86図1は玉髓製の掻器の刃部片である。刃部は節理面からの急角度調整によって形成されているが、あまり安定したものではない。2・3は1と同一母岩の剥片で、3の縁辺には微細剥離痕が観察される。4～6は安山岩Aを用いた剥片で、6は上下両端が折れている。5の主要剥離面には一枚のネガ面があるが、剥片素材の石核として機能したのかもしれない。7は流紋岩製の石核である。周縁に打面を設定して、打面を転位しながら小型剥片を剥離している。第87図8は珪質頁岩製の石核で自然面を直接敲いて2枚の剥片を剥離したが、それ以上剥片は剥離されなかった。石質は比較的良好である。9は砂岩製の敲石で、





第86图 石器集中6 出土石器(1)



9



第87图 石器集中6 出土石器(2)

長軸端部に敲打痕が観察される。裏面の平坦面には引っ掻きキズ様の線状に重なる敲打痕があるが、両極剥離の際の台石として用いられたのかもわからない。

石 材 玉髓5点、安山岩A 3点、珪質頁岩1点、珪質頁岩B 1点、流紋岩1点、砂岩1点で構成される(第12表)。

玉髓は1母岩を抽出した。母岩No.1は乳白色を呈し、灰色が網目状に混じる資料で、ロームの影響からか黄色帯びている。搔器1点(1)、調整痕のある剥片1点(3)、剥片3点(2)で構成される。

安山岩Aは風化が著しいため、母岩分類を行っていない(4~6)。

#### 7 石器集中7(第88図~94図, 第13・24表, 図版5・30)

分 布 調査区南側, 東西に走る支谷の先端で、埋没谷に向かって緩やかに傾斜する地形面に立地する(第5図)。5G87グリッドと5G98グリッドを中心とした径2~5mの複数の小さな集中域からなり、全体で南北13m・東西10mの範囲に広がる(第88図)。

出土層位は、調査時の所見で旧V層である。斜面地形の影響で、垂直分布・ヒストグラムでの遺物の出土状況は上下に高低差をもって検出されていることが分かる。出土レベルは最大値40.621m, 最小値39.209m, 平均値39.557mである。

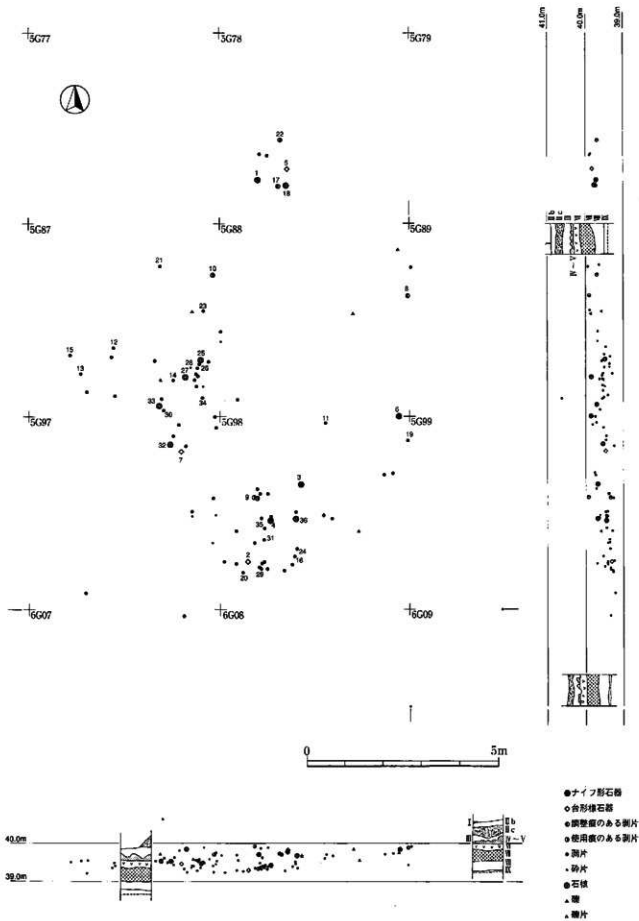
器 種 ナイフ形石器5点, 台形様石器2点, 調整痕のある剥片2点, 使用痕のある剥片4点, 剥片62点, 碎片6点, 石核6点, 礫・礫片5点の合計92点が出土した(第13表)。5G87グリッドを中心とする集中域に石核が比較的集まっている(第88図)。

第90図1は打面側を斜めに折断し、急角度調整を施して基部をV字状に整形したナイフ形石器である。調整は右側縁が背面側へ、左側面が腹面側へ施されている。折断面から背面側への調整も見られる。刃部は左側縁の上半部で、器体に対してほぼ並行関係にあり、使用によると思われる微細剥離痕が観察される。背面には自然面が残置する。2は1と同様の平面形を呈したナイフ形石器であるが、側縁の調整は主に右側面のみ施され、左側面は石核の稜を巻き込んだもので未調整ながら急角度を呈している。刃部形態は節理面で折れているため不明である。3は先端の尖った小型剥片の先端部に調整を施したナイフ形石器である。基部は打面部分を僅かに折断し、折断面から背面側に向かって調整が施されている。4は端部が軽くヒンジを呈した剥片を素材とし、基部端に急角度調整が施されたナイフ形石器である。左側面は節理面となっている。基部端の調整は背面側と腹面側の両方向から施されている。5は安山岩A製の台形様石器で、右側縁は素材剥片の背面側へ、左側面は腹面側へ調整が施されている。後者の腹面側への調整は急角度ではなく比較的平坦な剥離である。6は安山岩B製のナイフ形石器で、右側縁の腹面側へ急角度調整が施されているが、風化が著しく剥離の稜は潰れている。7は両極剥離によって側面が調整された台形様石器であるが、刃部は欠損している。安山岩A製である。

8は節理面によって分割された剥片の端部に調整が施されたものである。メノウ製である。9は黒色頁岩製の剥片で、打面は平坦で頭部調整が顕著である。10はメノウ製の矩形を呈した剥片である。打面は平

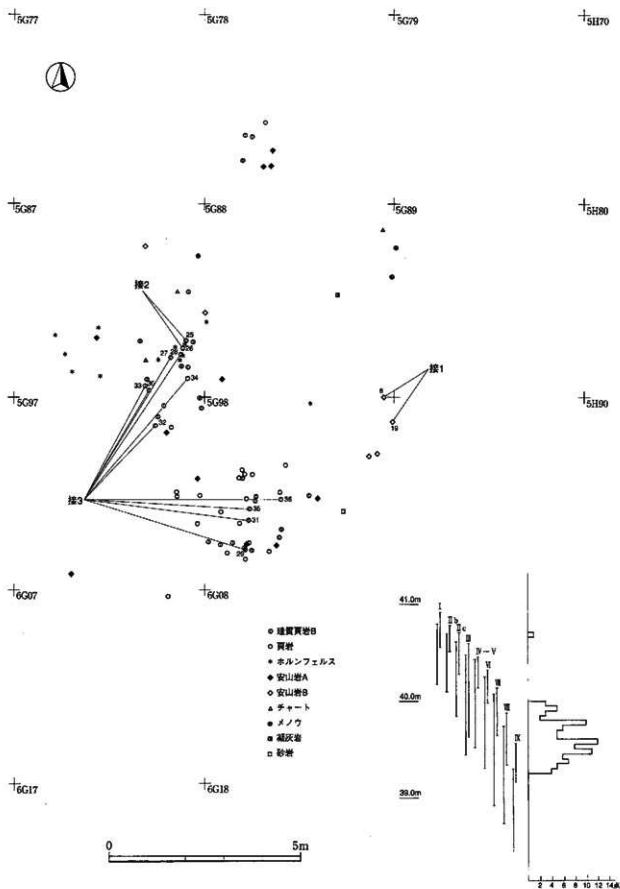
第12表 第1文化層 石器組成表(8)

石器集中	搔器	調整痕のある剥片	剥片	母岩	石核	合計	組成比
玉髓	1	1	3			5	41.7
	5.76	1.17	12.52			19.45	2.1
安山岩A			27.03			27.03	2.9
珪質頁岩			1			1	8.3
			2.66			2.66	0.3
珪質頁岩B					1	1	8.3
流紋岩					128.90	128.90	13.6
砂岩					1	1	8.3
					24.93	24.93	2.6
砂岩				1		1	8.3
				744.00		744.00	78.6
合計	1	1	7		2	12	100.0
	5.76	1.17	42.21	744.00	153.83	946.97	100.0
組成比	8.3	8.3	58.3	8.3	16.7	100.0	
	0.6	0.1	4.5	78.6	18.3	100.0	
母岩No.1	1	1	3			5	
玉髓	5.76	1.17	12.52			19.45	



第88図 石器集中7 器種別出土状況

- ナイフ形石器
- 斧形棒石器
- ◐ 調整痕のある剥片
- ◑ 使用痕のある剥片
- ◒ 剥片
- ◓ 石核
- ▲ 礫
- 礫片



第89図 石器集中7 石材別出土状況

坦な自然面となっている。11はホルンフェルス製の横長剥片である。第91図12~15はホルンフェルスの同一母岩を用いた剥片である。12・13は11と同様に打面の平坦な部分ではなく「角」の部分の蔽いて剥離したもので、その形状は三角形となり、末端はヒンジを呈している。15の縁辺には微細剥離痕が観察される。16~18は安山岩Aを用いたもので、17の縁辺には粗い調整が施されている。第92図接合資料1は安山岩Bを用いた縦長剥片同士の接合資料で、片方には調整が施されていることからナイフ形石器とした(第90図6)。21は背面が自然面に覆われた分厚い剥片である。安山岩B製である。20は頁岩製の剥片で末端はヒンジを呈している。22・23は1のナイフ形石器と同一母岩を用いた剥片で、両者ともに縁辺に微細剥離痕が観察される。緻密で非常に良質な母岩である。

第93図接合資料2は、節理面で分割された分厚い剥片を素材とした石核(25)と剥片(26)の接合資料である。短軸方向と、長軸方向からの剥離痕が観察されることから、打面転位を頻繁に繰り返した石核であることが判明する。

接合資料3は剥片6点、石核4点が接合したもので、接合資料2と同一母岩である。まず、自然面を直接蔽って節理面に沿って数個体に分割する。分割された27・28は短軸方向に折断され(28を剥離)、折断面を打面として長軸方向に剥片剥離を試みている。31も早い段階で剥離されていたようであるが、接合資料が断片的であるため詳しくは述べられない。32+33+29+30も節理面で分割されたもので、分割後、短軸・長軸両方向から打面を転位して小型剥片が剥離されている(29+30)。32+33は接合資料2と酷似した石核である。平坦な未調整打面が準備された石核(36)は連続的に縦長剥片が剥離できるようになり、34→35についで数枚の剥片が剥離されているが、これらは本地点から搬出されたようである。また、下端にも打面が設けられているが、満足できる剥片は剥離できなかったようである。平面分布は、集中域2箇所に分けて分布している(第89図)。

石材 珪質頁岩B42点、頁岩13点、ホルンフェルス12点、安山岩A11点、安山岩B6点、チャート3点、メノウ3点、凝灰岩1点、砂岩1点で構成される(第13表)。

珪質頁岩Bは2母岩が抽出された。母岩No.1は、風化剥離面は灰色帯びた濃緑色を呈し、表面はザラザラしているタイプである。節理面は黄土色を呈した特徴的なものである。自然面も同様の色調であるがツルツルした平坦面を形成している。いわゆる嶺岡産の特徴を有する母岩である。ナイフ形石器1点、剥片・碎片28点、石核5点で構成され、本石器集中地点の中心的な母岩である(2・4・接合資料2・接合資料3)。分布は5G87グリッドと5G98グリッドを中心とする2箇所の集中域に分かれている。母岩No.2は母岩No.1と同様の色調を呈する嶺岡産の珪質頁岩であるが、節理面の見られない良質なもので表面がツルツルし光沢をもつタイプである。ナイフ形石器1点、使用痕のある剥片1点、剥片3点で構成される。分布は5点中4点が5G78グリッドの小範囲にまとまっている。

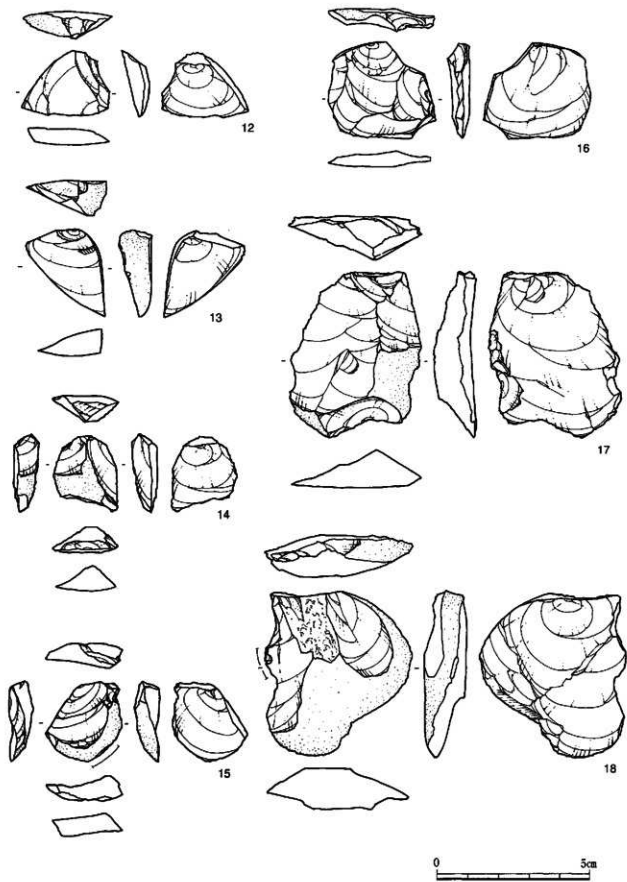
ホルンフェルスは1母岩を抽出した。母岩No.3は風化剥離面が青色帯びた灰色を呈したもので、細粒で緻密な特徴を持つ。剥片・碎片11点で構成される。石斧によく用いられる石材である。

頁岩は1母岩を抽出した。母岩No.4は風化によって明灰色を呈している。剥片・碎片11点で構成される。5G98グリッドを中心とする集中域に偏在して分布する。

安山岩A・Bは風化が著しいため母岩分類を行っていないが、接合が確認された安山岩Bの一個体には母岩No.5を付した。

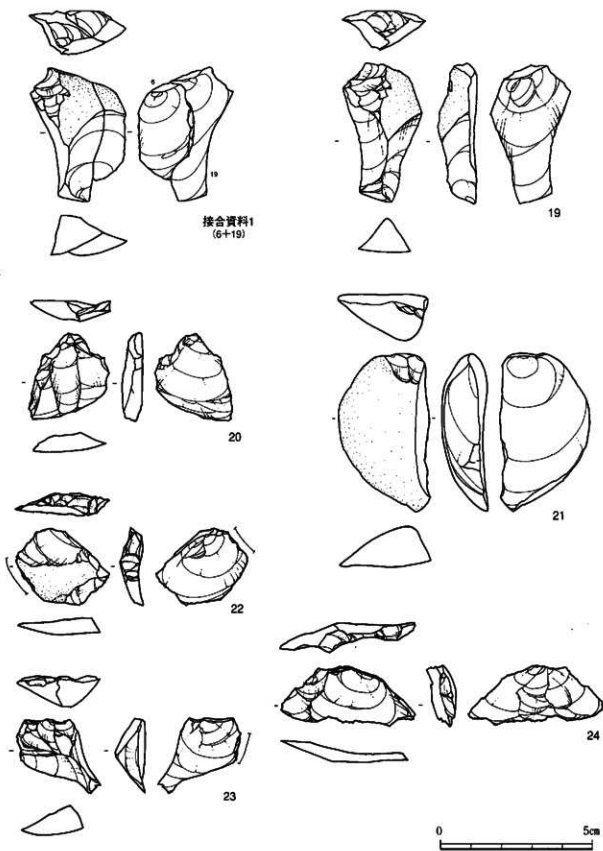


第90圖 石器集中7 出土石器(1)

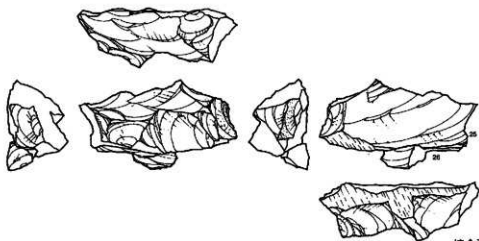


第91圖 石器集中7 出土石器 (2)

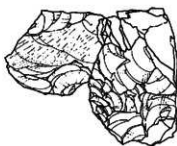
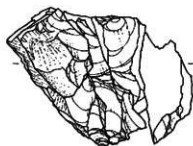
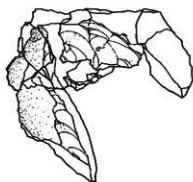




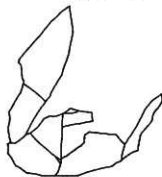
第92图 石器集中7 出土石器(3)



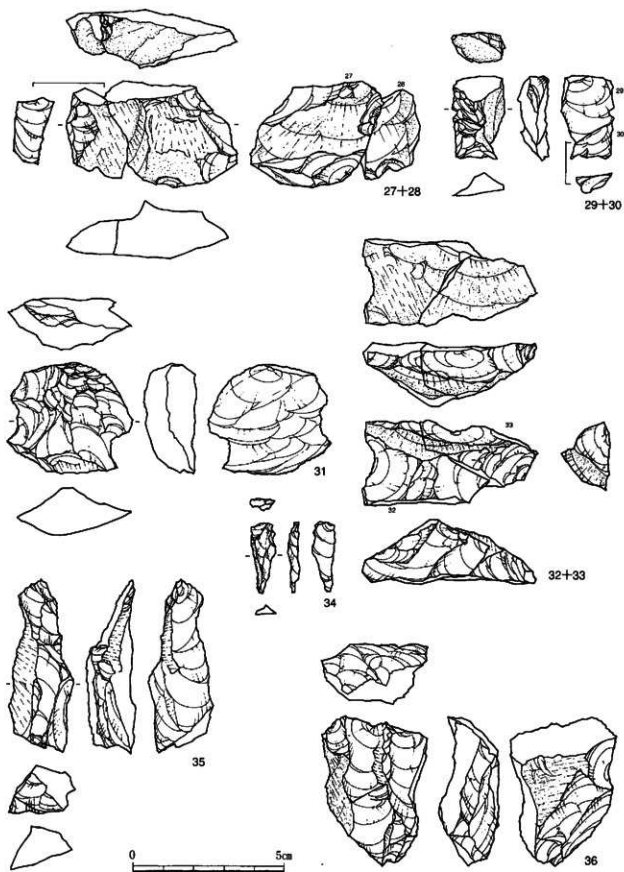
接合資料2  
(25+26)



接合資料3  
(27~36)



第93図 石器集中7 出上石器(4)



第94图 石器集中7 出土石器(5)

第13表 第1文化層 石器組成表(9)

石器集中7	タイプ別		使用痕のある剥片		剥片	砕片	石核	器	燧片	合計	組成比
	石器	台形器	ある剥片	ある剥片							
透貫貝殻B	3				30	2	5			42	43.7
	10.95		5.67		97.25	0.29	104.45			218.33	44.2
安山岩A		2		1	7					11	12.0
		8.98		27.25	20.50		40.80			97.43	18.7
安山岩B					5					6	6.5
	4.88				33.45					38.33	7.9
貝殻					9	2				13	14.1
	1.51		7.68		9.50	0.5				19.20	3.9
ホルンフェルス					10	2				12	13.0
					31.87	0.27				32.14	6.5
チャート								2	1	3	3.3
								72.06	0.17	72.25	14.8
メノウ										3	3.3
			7.65	3.71	1.07					12.43	2.5
凝灰岩									1	1	1.1
									3.57	3.57	0.7
砂岩									1	1	1.1
									0.90	0.90	0.2
合計	5	2	4	2	62	6	6	3	2	92	100.0
	17.02	8.98	20.72	30.96	193.64	1.07	115.28	72.98	3.74	494.28	100.0
組成比	5.4	2.2	4.3	2.2	67.4	6.5	6.5	3.3	2.2	100.0	
	3.4	1.8	4.2	6.3	39.2	0.2	20.4	14.8	0.8	100.0	
層位No.1	1				26	2	5			34	
	3.91				88.29	0.29	104.16			196.96	
層位No.2	1				3					5	
	4.54		4.24		4.5					12.83	
層位No.3					9	2				11	
					25.52	0.27				25.79	
層位No.4					9	2				11	
					9.50	0.51				10.01	
貝殻					1					2	
安山岩B	4.58				9.33					13.91	

8 石器集中8 (第95・96図, 第14・24表, 図版30)

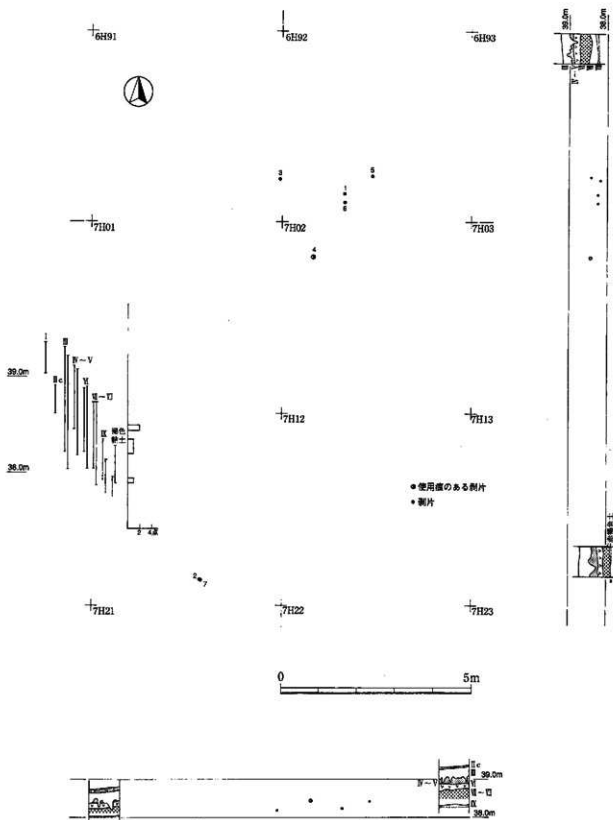
分布 調査区南端, 石器集中7と同様に, 東西に走る支谷の先端で現在はかなり埋没しているため緩やかとなっているが南西に下る傾斜面に立地する。石器集中8のほうが支谷のさらに奥部に低位に位置する(第5図)。6H92を中心に3mの範囲に少点数が散漫に出土するが, 1点だけ南側に約10mほど離れて検出された(第95図)。

出土層位は, 調査時の所見で旧Ⅴ~Ⅵ層となっており, 傾斜面でのローム層の堆積であるため旧Ⅴ・Ⅵ層の分層は困難だったようである。おそらくは, 水付き状となったロームとの境界を立川ロームと武蔵野ロームの境界としているものと思われるが, 水付きローム状に立川ロームが変質した可能性が高く, 両ローム層の境界はさらに下位になるものと推測される。出土レベルは最大値38.448m, 最小値37.866m, 平均値38.239mである。

器種 使用痕のある剥片1点, 剥片6点の合計7点が出土した(第14表)。出土石器全ての実測図を掲載した(第96図)。いずれも小型で, 打面が残っているのを見ると平坦な未調整打面のものが多い。6は打面再生剥片で, 打面を斜めに裁ち落としていることから, 剥片の背面には作業面と打面のなす稜が残っている。石核の打面はやはり未調整の単一剥離面である。4の縁辺には微細剥離痕が観察される。

第14表 第1文化層 石器組成表(10)

石器集中8	使用痕のある剥片	剥片	合計	組成比
透貫貝殻	1	5	6	85.7
	3.02	23.62	26.64	76.7
安山岩A		1	1	4.3
		8.10	8.10	23.3
合計	1	6	7	100.0
	3.02	31.72	34.74	100.0
組成比	14.3	96.7	100.0	
	8.7	91.3	100.0	
層位No.1	2	21		
	5.23	5.23		



第95図 石器集中8 出土状況



第96図 石器集中8 出土石器

石 材 珪質頁岩6点(1～6)、安山岩A1点(7)で構成される(第14表)。

珪質頁岩は1母岩を抽出した。母岩No.1は風化剥離面が僅かに光沢をもつ焦げ茶色を呈した母岩で、剥片2点で構成される(1・2)。他は単独母岩と思われるが、3・9と4・6はそれぞれよく似た個体であることから同一母岩の可能性もある。前者は灰色帯びた薄緑色が網目状に混じるやや乾いた剥離面を持った個体で、後者は光沢のあるツルツルした青灰色を呈した剥離面をもつものである。

## 9 石器集中9 (第97図～103図, 第15・24表, 図版5・31)

分布 調査区の西縁部, 支谷へ向かって突出する小さな台地上に立地する(第5図)。3D43・44グリッドを中心として, 径5m内外から比較的まとまって検出された。周囲に分散したものを合わせて南北5m・東西8mの範囲を石器集中9とした(第97図)。

出土層位は調査時の所見ではⅣ～Ⅵ層となっているものの, セクションに投影させた垂直分布図・ヒストグラム・出土状況写真等から判断すると, 旧Ⅵ層の下部～旧Ⅷ層の上部を中心に出土していることが分かる。つまり, 標準的層名に直すとⅤ層～Ⅵ層上部に相当する石器群と理解される。出土レベルは最大値39.820m, 最小値39.427m, 平均39.592mである。平面分布が小範囲にまとまっているからか, 垂直分布もそれほど目立った高低差がない。

なお, 同調査地区からはソフトローム中から別時期の石器群が検出されている(石器集中14)。  
器種 楔形石器1点, 調整痕のある剥片1点, 剥片32点, 石核8点, 原石1点の合計43点が出土した(第15表)。

第98図1は楔形石器である。やや厚みのある素材を用いているが, 両極剥離は一方のみで, 長軸方向の断面形は楔形石器に特徴的な紡錘形をなしている。2は凝灰岩製の縦長剥片で, 背面には自然面が残っている。3は珪質頁岩製剥片で, 線状打面や腹面の特徴から両極剥離による扁平礫の分割片と考えられる。

第99図接合資料1は楕円礫を素材とした石核(4)と剥片の接合資料である。まず長軸方向に両極剥離を行い, その剥離面を加撃して短軸方向に打面を形成する(5)。打面形成後は, 長軸方向に数枚の剥片剥離を試みている(6)。石核下端部の敲打痕は最初の両極剥離時に残されたものと考えられる。

第100図7～12は安山岩A製の剥片類である。いずれも背面に自然面を残している。

第100図～102図13・15～18・20は安山岩を用いた石核である。

13は裏面に自然面を残した石核で, 自然面を直接, 打面に設定している。接合資料3は石核と打面形成剥片の接合資料である。14を剥離後, 打面は作業面側からの調整によって整えられている。16は接合資料3と同様の素材, 工程で剥片剥離を開始させたものと思われるが, 作業面の後退により作業面と打面を入れ替えたり, 打面転位を繰り返した結果, このような残核として残されたものと考えられる。17は最初の礫分割の際に板状に剥離されたものを素材として, 分割面側から自然面へ調整が加えられた後に, そこを打面として小型剥片を剥離している。13のように自然面を直接, 敲いている箇所もみられる。18は分割礫の一部に剥離面がみられるため石核としたが, 連続した剥片剥離はみられない。接合資料4は打面形成剥片と石核の接合資料で, 打面転位を繰り返すことによってサイコロ状の形態を呈しているのが分かる。

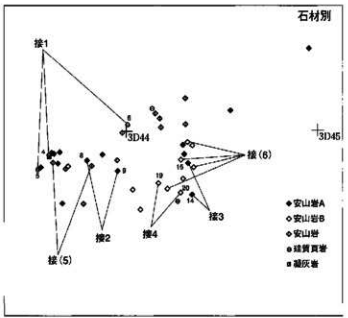
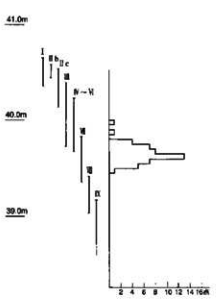
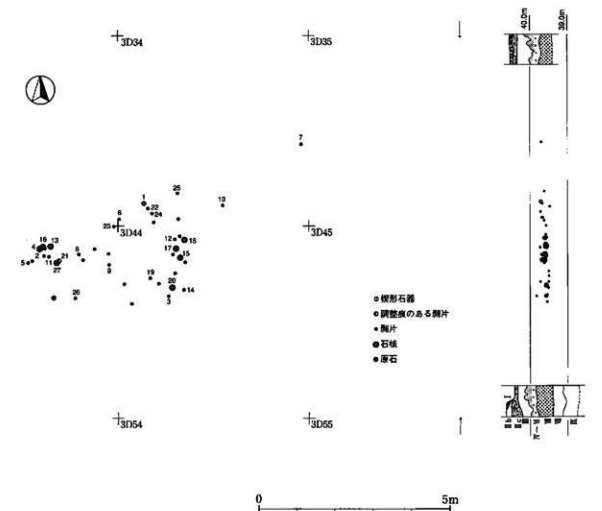
21は剥片の縁辺表裏に粗い調整が施された石器である。

第103図22～25は赤褐色を呈した安山岩を用いた剥片である(母岩No.7)。打面の大きさはそれぞれであるが, 打面調整が施されない平坦打面である。24の背面には下端部からの剥離痕もみられることから, 打面転位を繰り返した剥片剥離が窺える。

26・27は明灰色を呈した安山岩を用いた剥片と石核である(母岩No.6)。27は自然面側に打面を形成し, 作業面は周辺から打撃により, 小型剥片が剥離されている。

石材 安山岩A15点, 安山岩B11点, 安山岩11点, 珪質頁岩5点, 凝灰岩1点で構成される(第15表)。

安山岩A・Bは風化が著しいため母岩分類は行っていないが, 接合が確認された接合資料2・3・4についてはそれぞれ母岩No.1・2・4を付けた。実測図は掲載しなかったが, 安山岩Bで扁平礫の自然



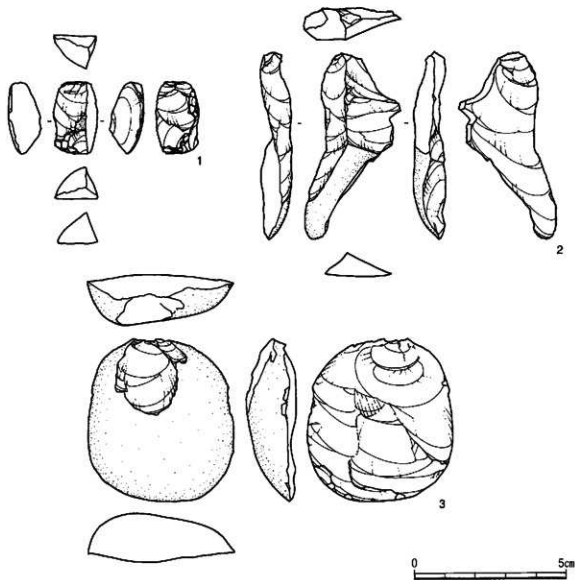
第97図 石器集中9 出土状況



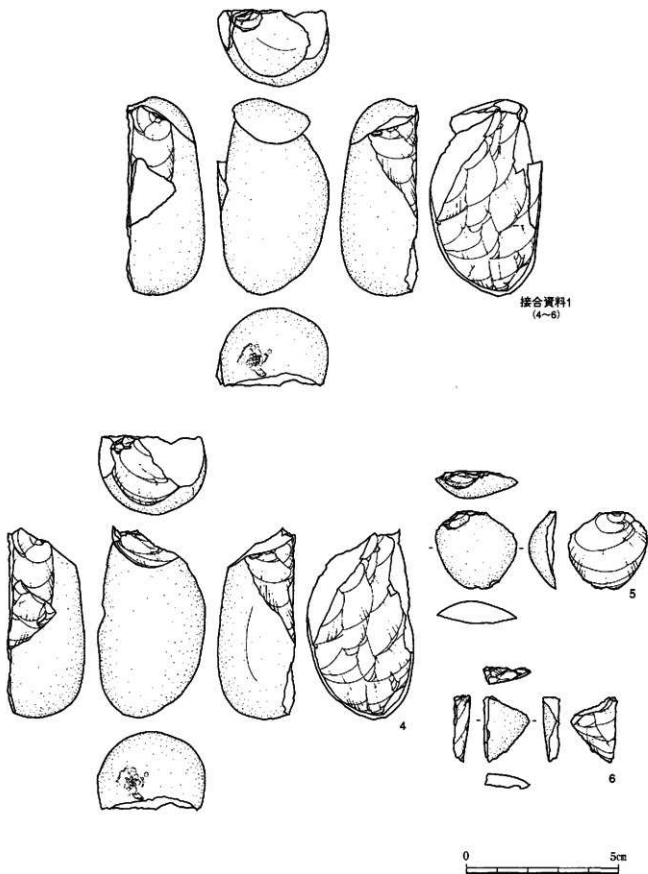
面を剥くような形で接合したものがあがるが、これを母岩No.3とした（接合資料（6））。安山岩Bは所謂トトロ石のことであるが、通常明るい灰色を呈するのに対して、本集中地点のものは安山岩Aと同様の色調を呈する。原産地が異なるということなのであろうか。分布は集中地点の南東側に寄っている。

安山岩A・B以外の特徴を有する安山岩は3母岩に分離された。母岩No.5は明灰色を呈したもので、自然面には爪形状の裂痕が顕著に残っている。全体的にザラつき感はあまりないのも特徴の一つである。分割礫状の剥片2点と通常の剥片1点が出土した。分割礫状の剥片2点は接合した（接合資料（5））。母岩No.6も明灰色を呈したもので、母岩No.5よりも強烈な爪形状の裂痕で自然面が覆われている。石核1点と剥片1点で構成される。母岩No.7は赤褐色を呈したもので、内部はさらに鮮やかな色調となっている特徴的なものである。剥片5点で構成される。集中地の北側の狭い範囲にまとまって分布している。

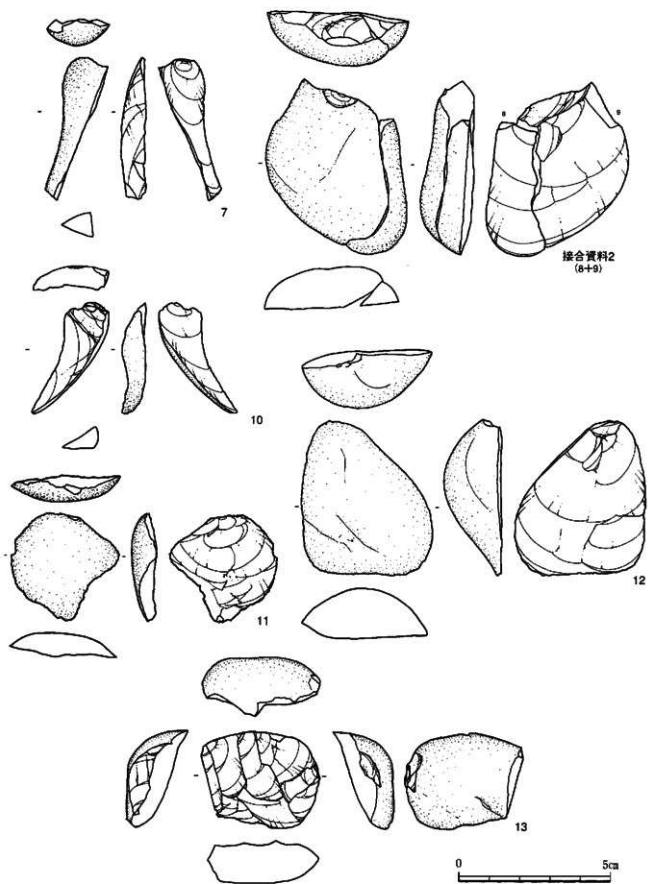
珪質頁岩は1母岩を抽出した。母岩No.8は石核1点、剥片2点で構成され、全て接合した（接合資料1）。濃緑色を帯びた母岩で、両極剥離によって長軸方向に半割している。



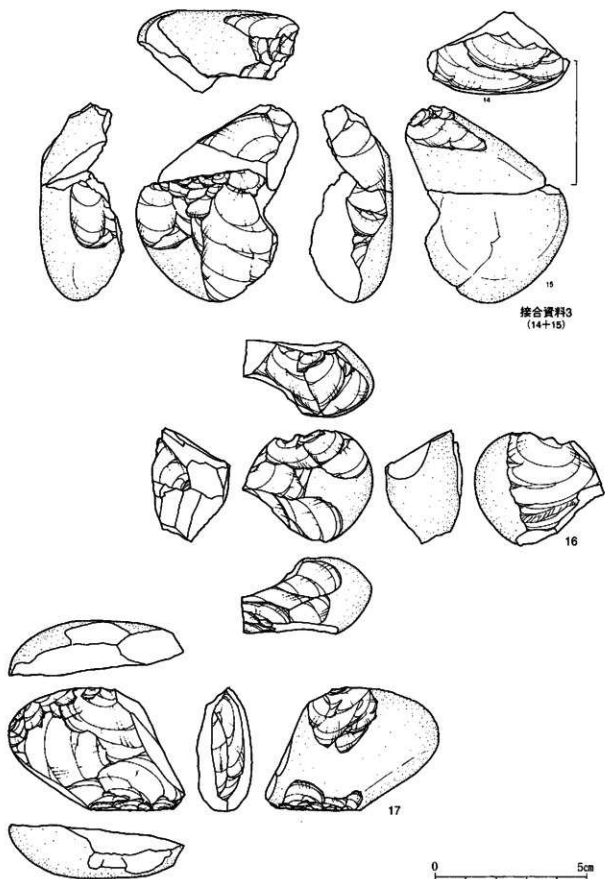
第98図 石器集中9 出土石器（1）



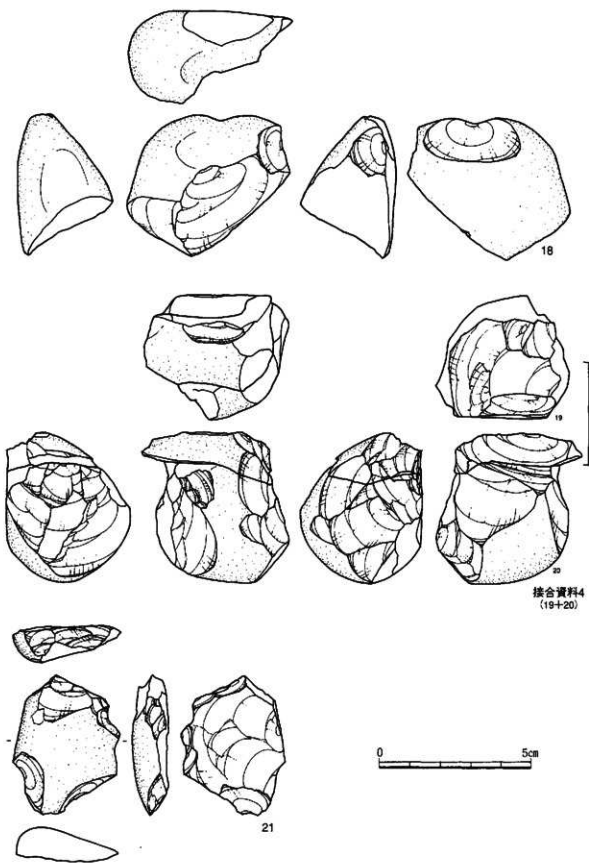
第99図 石器集中9 出土石器(2)



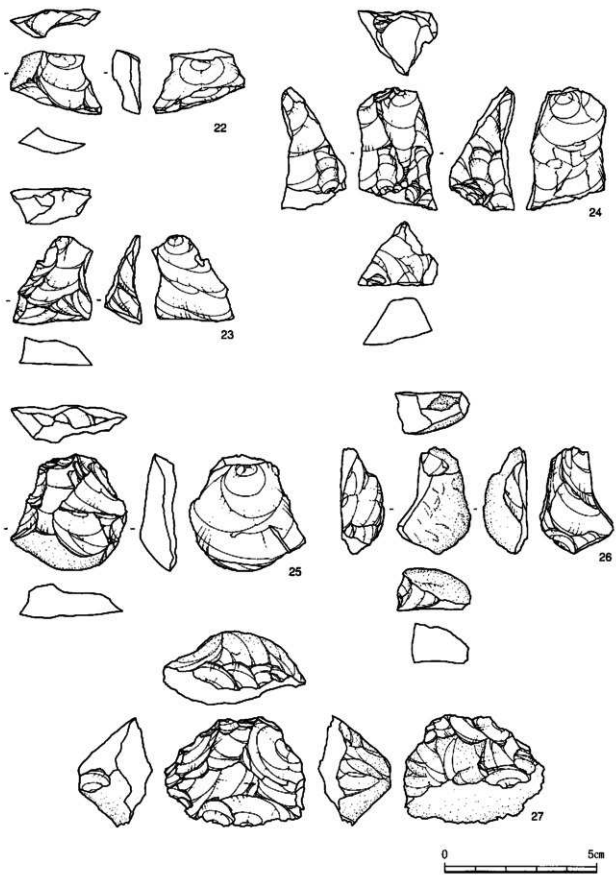
第100圖 石器集中9 出土石器(3)



第101圖 石器集中9 出土石器(4)



第102圖 石器集中9 出土石器(5)



第103图 石器集中9 出土石器(6)

第15表 第1文化層 石器組成表 (11)

石器種中9	形状	数量	重量	割合	石種	原石	合計	組成比
安山岩A		10	4	1	15	34.9		
		145.44	167.71		66.59	369.74		
		8	2		11	23.4		
安山岩B		19.70	131.62	148.72		299.45	32.1	
		10	1	11		25.4		
安山岩		83.45	33.17		116.62	12.5		
斑頁岩	3.02	57.96	77.90		137.48	2.3		
凝灰岩		10.95			10.95	1.2		
合計	3.02	19.70	428.32	426.61	56.59	934.24	100.0	
組成比	2.3	2.3	74.4	18.8	2.3	100.0		
	0.3	2.1	43.8	45.7	6.1	100.0		

注: 1. 遊覽瓦岩 49.28 2. 青島山 2 3. 安山岩A 25.37 61.46 4. 安山岩B 4 5. 安山岩 108.3 6. 凝灰岩 1 7. 安山岩 10.29 33.17 8. 斑頁岩 42.62 9. 安山岩 2 10. 遊覽瓦岩 8.83 77 83.83

第16表 第1文化層 石器一覽表 (1)

石器種中9	形状	数量	重量	割合	石種	原石	合計	組成比	備考			
1	1	0278	0202	Aa-F	7%	23.1	26.4	2.6	3.67	38.805		
1	1	0279	0203	Aa-F	7%	17.2	16.4	0.8	1.26	39.862		
1	3	0280	0204	Aa-B	3%	22.4	22.1	0.3	1.60	39.870		
1	4	0281	0205	B5B	12%	41.6	39.3	2.3	8.36	39.125		
1	5	0282	0207	F	5%	2	42.3	38.5	13.8	39.130		
1	6	0283	0211	F	2%	23.3	21.2	2.1	2.92	39.222		
1	7	0284	0209	F	2%	3	35.3	31.1	4.2	39.183		
1	8	0285	0215	F	2%	2	33.2	31.8	1.4	39.088		
1	9	0286	0219	F	2%	4	35.5	31.2	4.3	39.025		
1	10	0287	0222	F	2%	4	37.2	34.6	2.6	39.062		
1	11	0288	0217	F	2%	6	51.4	41.3	10.1	39.223		
1	12	0289	0230	F	2%	5	23.0	19.9	3.1	39.111		
1	13	0290	0204	F	2%	6	35.8	30.8	2.9	39.238		
1	14	0291	0206	F	2%	6	32.4	23.1	9.3	39.269		
1	15	0292	0207	F	2%	8	33.8	30.6	3.2	39.121		
1	16	0293	0217	F	2%	7	31.5	31.7	0.2	39.142		
1	17	0294	0225	F	2%	7	36.8	30.4	6.4	39.203		
1	18	0295	0209	F	2%	7	31.3	23.8	7.5	39.296		
1	19	0296	0210	F	2%	7	29.2	16.6	12.6	39.236		
1	20	0297	0213	F	2%	8	34.2	21.6	12.6	39.265		
1	21	0298	0208	F	2%	8	34.4	21.6	12.8	39.272		
1	22	0299	0209	F	2%	9	37.5	22.2	15.3	39.146		
1	23	0300	0209	F	2%	9	37.5	22.2	15.3	39.146		
1	24	0301	0208	F	2%	9	37.2	22.2	15.0	39.252		
1	25	0302	0219	F	2%	2	29.7	24.5	5.2	4.80	39.222	
1	0303	0204	不明							39.703		
1	0304	0204	C			25.5	24.1	1.4	6.56	39.942		
1	0305	0205	C			12.8	11.7	1.1	3.81	39.873		
1	0306	0209	F			2	15.8	13.6	2.2	6.40	39.200	
1	0307	0205	F			2	17.6	16.1	1.5	3.30	39.088	
1	0308	0207	F			2	17.1	12.2	4.9	3.27	39.044	
1	0309	0209	F			2	12.8	9.4	3.4	3.85	39.042	
1	0310	0208	不明							39.862		
1	0311	0210	C			6.5	6.4	0.1	0.62	39.064		
1	0312	0211	F			12.1	11.5	0.7	3.11	39.288		
1	0313	0213	F			5.5	13.9	8.4	3.38	39.127		
1	0314	0214	F			10.5	13.8	3.3	4.91	39.348		
1	0315	0219	F			6.5	3.6	2.9	0.91	39.120		
1	0316	0218	F			17.2	16.8	0.4	0.89	39.288		
1	0317	0209	F			14.4	10.1	4.3	2.96	39.213		
1	0318	0207	F			34.7	12.8	21.9	6.91	39.698		
1	0319	0222	C			2	5.3	1.7	3.6	39.140		
1	0320	0225	C			6.5	4.7	1.8	0.83	39.959		
1	0321	0209	F			18.3	12.1	6.2	3.27	39.213		
1	0322	0209	F			3.5	6.5	3.0	0.91	39.018		
1	0323	0210	C			2.4	2.3	0.1	0.81	39.024		
1	0324	0202	C			7.1	9.9	2.8	1.64	39.143		
1	0325	0206	C			15.6	19.7	4.1	1.27	39.043		
1	0326	0208	F			4	7.6	2.9	4.7	39.393		
1	0327	0208	F			2	20.1	1.4	18.7	39.463		
1	0328	0209	F			2	15.8	11.5	4.3	3.76	39.024	
1	0329	0210	F			3	19.3	8.6	10.7	3.92	39.024	
1	0330	0211	F			2	14.1	11.6	2.5	0.31	39.024	
1	0331	0210	F			2	16.8	16.6	0.2	0.39	39.393	
1	0332	0202	C			2	8.8	2.5	6.3	1.02	39.143	
1	0333	0206	F			2	23.4	21.8	1.6	1.85	39.138	
1	0334	0208	F			2	13.8	10.5	3.3	1.25	39.143	
1	0335	0207	F			2	12.4	16.5	4.1	0.36	39.698	
1	0336	0210	F			2	11.2	4.6	6.6	1.29	39.640	
1	0337	0211	F			2	7.6	20.7	13.1	1.76	39.468	
1	0338	0214	F			2	7.2	7.4	0.2	0.22	39.453	
1	0339	0210	F			2	9.8	4.8	5.0	0.38	39.294	
1	0340	0216	F			2	2.4	5.1	2.7	0.25	39.378	
1	0341	0217	F			2	1.0	4.9	3.9	0.17	39.298	
1	0342	0218	F			2	22.2	14.7	7.5	2.03	39.286	
1	0343	0222	C			2	5.8	4.8	1.0	0.26	39.125	
1	0344	0223	C			3	7.6	4.7	2.9	0.25	39.883	
1	0345	0210	F			2	2.6	4.8	2.2	0.22	39.188	
1	0346	0213	F			3	41.8	31.9	9.9	5.28	39.199	
1	0347	0223	C			3	46.5	31.8	14.7	17.67	39.011	
1	0348	0210	F			3	34.9	32.9	2.0	3.16	39.519	
1	0349	0213	F			2	11.2	21.2	10.0	1.86	39.899	
1	0350	0223	C			2	11.1	25.1	14.0	1.85	39.450	
1	0351	0225	C			2	11.7	26.3	14.6	2.38	39.864	
1	0352	0227	F			1	14	20.9	6.9	1.43	39.493	
1	0353	0227	F			1	14	20.2	6.2	1.15	38.849	
1	0354	0228	F			3	15	25.3	10.3	2.84	39.029	
1	0355	0227	F			3	15	34.1	19.1	8.2	3.35	39.574
1	0356	0227	F			3	16	35.3	19.3	6.0	39.124	





第18表 第1文化層 石器一覧表(3)

発掘層 番号	メソリ 番号	メソリ 名	種類	石種	長さ mm	最大 幅 mm	最大 厚 mm	重量 g	形状	備考	図	写真 番号	メソリ 番号	メソリ 名	種類	石種	長さ mm	最大 幅 mm	最大 厚 mm	重量 g	形状	備考	図	写真 番号
304	06712	06712	Op		1	65	19.1	14.2	9.3	1.85	電磨	20-079	304	06713	06713	Ss	13	62.3	20.7	6.8	3.71	二重	30-140	
304	06714	06714	Op		1	61	18.1	22.9	9.3	1.72	電磨	20-079	304	06714	06714	Ss	13	61.0	29.4	7.5	3.94	電磨	30-139	
304	06715	06715	Op		1	61	18.1	22.9	9.3	1.72	電磨	20-079	304	06715	06715	Ss	13	61.0	29.4	7.5	3.94	電磨	30-139	
304	06716	06716	Op		1	41	23.6	18.3	9.1	2.61	電磨	30-184	304	06716	06716	Ss	12	1	34.9	13.1	6.8	4.23	電磨	30-132
304	06717	06717	Op		2	41	18.6	20.2	3.8	22.11	電磨	30-179	304	06717	06717	Ss	11	1	47.6	11.0	2.0	34.36	電磨	30-134
304	06718	06718	Op		2	41	17.2	24.0	2.5	23.36	電磨	30-179	304	06718	06718	Ss	11	1	47.6	11.0	2.0	34.36	電磨	30-134
304	06719	06719	Op		1	41	18.0	22.4	9.2	4.74	電磨	30-180	304	06719	06719	Ss	13	64	20.2	17.0	7.6	3.93	電磨	30-133
304	06720	06720	Op		1	41	17.6	24.0	2.5	23.36	電磨	30-179	304	06720	06720	Ss	11	1	47.6	11.0	2.0	34.36	電磨	30-134
304	06721	06721	Op		1	41	21.2	20.8	11.7	1.91	電磨	30-182	304	06721	06721	Op	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184	
304	06722	06722	Op		1	41	27.6	20.0	10.2	4.52	電磨	30-176	304	06722	06722	Op	4	1	19.1	17.1	6.8	1.25	電磨	30-181
304	06723	06723	Op		1	41	21.2	20.8	11.7	1.91	電磨	30-182	304	06723	06723	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06724	06724	Op		1	41	23.1	20.1	7.4	4.34	電磨	30-183	304	06724	06724	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06725	06725	Op		1	41	18.8	19.9	3.1	4.72	電磨	30-184	304	06725	06725	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06726	06726	Op		1	41	25.0	8.1	2.3	3.89	電磨	30-186	304	06726	06726	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06727	06727	Op		1	41	27.6	20.0	10.2	4.52	電磨	30-176	304	06727	06727	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06728	06728	Op		1	41	23.0	18.4	7.1	4.46	電磨	30-186	304	06728	06728	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06729	06729	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06729	06729	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06730	06730	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06730	06730	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06731	06731	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06731	06731	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06732	06732	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06732	06732	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06733	06733	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06733	06733	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06734	06734	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06734	06734	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06735	06735	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06735	06735	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06736	06736	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06736	06736	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06737	06737	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06737	06737	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06738	06738	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06738	06738	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06739	06739	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06739	06739	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06740	06740	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06740	06740	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06741	06741	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06741	06741	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06742	06742	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06742	06742	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06743	06743	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06743	06743	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06744	06744	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06744	06744	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06745	06745	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06745	06745	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06746	06746	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06746	06746	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06747	06747	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06747	06747	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06748	06748	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06748	06748	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06749	06749	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06749	06749	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06750	06750	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06750	06750	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06751	06751	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06751	06751	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06752	06752	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06752	06752	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06753	06753	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06753	06753	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06754	06754	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06754	06754	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06755	06755	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06755	06755	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06756	06756	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06756	06756	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06757	06757	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06757	06757	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06758	06758	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06758	06758	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06759	06759	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06759	06759	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06760	06760	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06760	06760	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06761	06761	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06761	06761	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06762	06762	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06762	06762	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06763	06763	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06763	06763	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06764	06764	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06764	06764	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06765	06765	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06765	06765	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06766	06766	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06766	06766	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06767	06767	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06767	06767	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06768	06768	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06768	06768	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06769	06769	Op		1	42	24.2	25.1	11.9	8.49	電磨	30-187	304	06769	06769	Op	4	1	24.1	9.9	4.7	1.11	電磨	30-184
304	06770	06770	Op																					





第21表 第1文化層 石器一覧表(6)

石器種別 番号	プラン	器種 番号	器種	形状	材料 %	検出 層	最大 長さ mm	最大 幅 mm	重量 g	図説 番号	備考	寸法(単位mm)				検出 層	備考			
												長さ	幅	厚さ	重量					
0972	037 F	09	09				31.0	12.9	5.8	1.83	38.913		0972	0096 F	09	14.3	9.3	3.0	0.34	38.779
0973	038 Cc1	09	09				7.0	4.7	2.7	0.27	38.988		0973	0098 F	09	9.8	11.2	5.3	0.61	38.779
0974	039 Cc1	09	09				6.0	5.9	3.4	1.14	39.991		0974	0099 F	09	7.8	14.7	4.1	0.34	38.779
0975	040 F	09	09				15.0	14.0	8.7	3.96	38.972		0975	0100 F	09	20.2	16.0	1.28	0.69	38.780
0976	041 F	09	09				16.4	16.8	4.7	3.96	38.972		0976	0101 F	09	19.5	13.9	4.3	0.94	38.784
0977	042 Cc1	09	09				6.6	7.8	4.6	2.07	38.971		0977	0102 F	09	11.8	11.8	2.4	0.34	38.789
0978	043 Cc1	09	09				7.2	8.5	4.3	2.02	38.969		0978	0103 F	09	9.4	10.7	4.8	0.47	38.789
0979	044 Cc1	09	09				18.0	16.8	1.8	2.02	38.971		0979	0104 Cc1	09	9.4	8.6	2.1	0.19	38.784
0980	045 F	09	09				13.2	5.8	4.2	1.19	38.989		0980	0105 不明						38.779
0981	046 F	09	09				15.2	19.6	6.6	1.98	38.982		0981	0106 F	09	21.2	16.7	2.4	1.96	38.789
0982	047 Cc1	09	09				8.0	14.4	4.3	2.06	38.989		0982	0107 Cc1	09	6.8	5.8	1.3	0.28	38.784
0983	048 F	09	09				12.8	6.4	4.3	2.36	38.979		0983	0108 F	09	7.6	13.8	4.5	0.41	38.789
0984	049 F	09	09				11.1	8.4	3.3	0.27	38.968		0984	0109 F	09	15.0	6.4	3.7	0.26	38.784
0985	050 Cc1	09	09				6.2	6.9	3.3	0.94	38.964		0985	0110 Cc1	09	6.4	6.4	1.3	0.28	38.784
0986	051 Cc1	09	09				21.6	10.6	4.1	2.71	38.963		0986	0111 Cc1	09	4.2	9.6	1.4	0.49	38.789
0987	052 F	09	09				12.0	5.2	3.2	0.27	38.959		0987	0112 Cc1	09	6.8	7.7	1.5	0.28	38.806
0988	053 Cc1	09	09				8.2	8.2	2.1	2.08	38.974		0988	0113 Cc1	09	8.1	7.6	3.3	0.24	38.780
0989	054 Cc1	09	09				9.6	7.1	8.6	4.03	38.964		0989	0114 Cc1	09	7.4	6.4	2.1	0.47	38.784
0990	055 F	09	09				17.0	13.8	3.4	0.99	38.989		0990	0115 Cc1	09	6.8	11.7	2.3	0.48	38.789
0991	056 F	09	09				7.2	3.9	4.2	0.27	38.966		0991	0116 F	09	12.6	10.5	2.4	0.23	38.785
0992	057 Cc1	09	09				8.2	8.2	2.1	2.08	38.974		0992	0117 Cc1	09	22.7	22.4	8.2	5.72	38.784
0993	058 Cc1	09	09				6.4	8.3	1.6	0.53	38.989		0993	0118 Cc1	09	13.3	12.3	4.1	0.65	38.779
0994	059 F	09	09				12.1	10.7	3.2	1.11	38.984		0994	0119 Cc1	09	4.1	6.5	1.9	0.28	38.786
0995	060 F	09	09				10.8	12.4	3.9	0.94	38.977		0995	0120 F	09	17.2	22.6	4.1	1.28	38.777
0996	061 F	09	09				4.8	3.4	1.4	0.27	38.953		0996	0121 F	09	12.9	10.5	1.7	0.28	38.785
0997	062 F	09	09				15.7	6.2	2.8	1.18	38.952		0997	0122 F	09	16.1	10.2	5.5	0.61	38.747
0998	063 F	09	09				20.7	20.9	4.4	2.34	38.964		0998	0123 F	09	13.8	10.8	5.8	0.42	38.784
0999	064 F	09	09				7.8	17.4	2.8	0.13	38.989		0999	0124 F	09	17.4	13.1	4.7	0.78	38.784
1000	065 Cc1	09	09				4.8	3.4	1.4	0.27	38.953		1000	0125 Cc1	09	6.8	10.5	2.8	0.28	38.785
1001	066 F	09	09				12.2	9.2	2.4	2.18	38.968		1001	0126 Cc1	09	9.4	9.9	2.1	0.81	38.782
1002	067 F	09	09				10.1	7.7	2.1	0.20	38.981		1002	0127 Cc1	09	21.1	10.7	3.9	0.61	38.989
1003	068 F	09	09				11.2	8.2	3.6	1.18	38.984		1003	0128 Cc1	09	4.8	3.8	0.7	0.21	38.789
1004	069 F	09	09				7.7	11.4	4.1	0.13	38.983		1004	0129 F	09	15.1	12.8	2.7	1.28	38.789
1005	070 Cc1	09	09				11.6	8.6	4.8	0.83	38.979		1005	0130 Cc1	09	6.4	3.4	1.9	0.28	38.782
1006	071 Cc1	09	09				7.2	8.3	1.8	0.88	38.979		1006	0131 Cc1	09	18.8	11.8	6.2	1.37	38.789
1007	072 Cc1	09	09				7.2	9.6	2.9	1.19	38.962		1007	0132 Cc1	09	9.8	7.1	1.8	0.88	38.789
1008	073 Cc1	09	09				12.1	9.4	4.1	0.12	38.959		1008	0133 Cc1	09	19.8	15.8	4.3	0.84	38.789
1009	074 F	09	09				18.4	8.6	4.8	0.83	38.974		1009	0134 Cc1	09	9.8	9.1	1.9	0.11	38.789
1010	075 F	09	09				18.4	19.3	4.5	1.57	38.984		1010	0135 Cc1 不明						38.784
1011	076 F	09	09				18.8	12.6	8.2	1.24	38.984		1011	0136 Cc1	09	7.1	7.1	1.9	0.48	38.744
1012	077 Cc1	09	09				28.9	14.5	4.8	0.94	38.989		1012	0137 Cc1	09	12.8	8.7	4.2	1.38	38.748
1013	078 Cc1	09	09				12.2	7.8	4.0	0.34	38.981		1013	0138 F	09	11.1	3.7	2.0	0.23	38.748
1014	079 F	09	09				21.2	7.9	8.0	3.48	38.981		1014	0139 F	09	14.1	10.2	4.4	0.39	38.754
1015	080 F	09	09				20.3	18.1	6.8	2.03	38.981		1015	0140 F	09	18.4	22.4	3.6	1.78	38.774
1016	081 F	09	09				21.8	36.2	4.9	2.81	38.977		1016	0141 F	09	12.8	10.8	3.6	0.86	38.774
1017	082 F	09	09				12.2	14.2	4.1	0.33	38.951		1017	0142 F	09	12.8	10.8	3.6	0.86	38.774
1018	083 Cc1	09	09				8.8	5.6	2.2	0.12	38.979		1018	0143 Cc1	09	7.1	11.8	3.8	0.18	38.779
1019	084 Cc1	09	09				4.2	3.2	0.8	0.28	38.979		1019	0144 Cc1	09	8.2	11.4	1.3	0.12	38.788
1020	085 Cc1	09	09				8.2	7.4	4.0	0.14	38.971		1020	0145 Cc1	09	12.1	11.7	2.9	0.27	38.784
1021	086 F	09	09				18.8	11.5	4.2	0.88	38.974		1021	0146 Cc1	09	7.8	5.8	1.8	0.28	38.789
1022	087 Cc1	09	09				9.8	8.4	3.2	0.18	38.944		1022	0147 F	09	3.8	10.0	2.3	0.24	38.689
1023	088 F	09	09				13.8	15.8	3.5	0.59	38.979		1023	0148 Cc1	09	7.8	8.0	4.4	0.24	38.717
1024	089 F	09	09				8.6	15.4	2.1	0.14	38.979		1024	0149 F	09	16.9	11.6	3.1	0.79	38.729
1025	090 F	09	09				12.7	13.2	3.2	0.28	38.977		1025	0150 Cc1	09	6.5	5.2	1.9	0.22	38.689
1026	091 Cc1	09	09				7.2	7.4	1.9	0.88	38.979		1026	0151 F	09	10.8	9.1	7.3	0.84	38.689
1027	092 F	09	09				8.6	11.0	2.3	0.12	38.979		1027	0152 F	09	4.1	18.1	10.4	0.58	38.677
1028	093 F	09	09				11.1	4.7	2.0	0.45	38.979		1028	0153 F	09	19.2	18.1	4.6	1.86	38.796
1029	094 不明										38.979		1029	0154 F	09	10.8	12.3	1.7	0.42	38.689
1030	095 F	09	09				14.8	17.8	5.2	0.84	38.979		1030	0155 F	09	10.8	9.1	7.3	0.84	38.689
1031	096 F	09	09				12.7	16.4	5.9	0.77	38.979		1031	0156 F	09	20.5	14.7	8.7	1.74	38.689
1032	097 F	09	09				13.7	13.4	3.0	0.48	38.979		1032	0157 Cc1	09	9.1	6.1	4.1	0.28	38.689
1033	098 Cc1	09	09				23.8	16.8	4.1	1.94	38.979		1033	0158 F	09	10.5	11.6	3.2	0.29	38.689
1034	099 F	09	09				13.2	7.4	4.0	0.52	38.966		1034	0159 F	09	7.8	14.8	1.6	0.14	38.689
1035	100 F	09	09				31.3	24.5	11.9	7.38	38.989		1035	0160 F	09	4.5	10.0	4.6	0.19	38.689
1036	101 Cc1	09	09				7.2	1.4	1.0	0.04	38.942		1036	0161 Cc1	09	8.8	2.5	1.7	0.07	38.647
1037	102 F	09	09				19.0	18.1	4.3	0.69	38.974		1037	0162 Cc1	09	4.9	5.9	2.9	0.15	38.684
1038	103 Cc1	09	09				6.8	5.5	2.2	0.88	38.974		1038	0163 Cc1	09	11.8	11.6	4.2	0.11	38.689
1039	104 F	09	09				18.8	9.4	2.3	0.24	38.974		1039	0164 F	09	12.0	5.6	2.6	0.17	38.649
1040	105 Cc1	09	09				2.9	3.2	1.2	0.41	38.948		1040	0165 Cc1	09	8.8	5.7	1.7	0.86	38.644
1041	106 Cc1	09	09				8.8	5.7	1.1	0.04	38.979		1041	0166 Cc1	09	4.7	6.1	1.3	0.24	38.617
1042	107 F	09	09				6.8	5.4	2.4	0.87	38.974		1042	0167 Cc1	09	11.8	11.6	4.2		

第22表 第1文化層 石器-一覧表(7)

石器種別 番号	図号	種別	材料	発見層	発見地	最大長	最大幅	最大厚	重量	用途	備考	年代	図号	石器種別	図号	種別	材料	発見層	発見地	最大長	最大幅	最大厚	重量	用途	備考	年代	
																											長さ
358	0027	0024	Ch			4.9	9.9	2.1	0.96				0022c-27	358	0027	0020	Ch			12.1	14.2	3.4	0.54			36350	
359	0027	0025	Ch			6.2	2.6	1.1	0.68				0022c-27	359	0027	0021	Ch			22.0	13.1	5.3	1.05			36349	
360	0027	0026	Ch			11.5	7.6	0.4	0.31				0022c-27	360	0027	0022	Ch			11.0	8.4	0.3	0.19			36348	
361	0027	0027	Ch			12.0	7.5	3.4	0.31				0022c-27	361	0027	0023	Ch			9	11.0	13.0	4.2	0.26			36347
362	0027	0028	Ch			4.8	5.1	1.8	0.05				0022c-27	362	0027	0024	Ch			26.1	12.0	6.4	1.36			36379	
363	0027	0029	Ch			3.1	6.0	1.4	0.09				0022c-27	363	0027	0025	Ch			11.1	13.0	4.4	0.34			36378	
364	0027	0030	Ch			2.2	6.0	1.2	0.04				0022c-27	364	0027	0026	Ch			9.0	5.9	1.6	0.04			36377	
365	0027	0031	Ch			4.8	3.0	1.2	0.01				0022c-27	365	0027	0027	Ch			6.8	3.1	1.2	0.03			36376	
366	0027	0032	Ch			12.1	6.0	1.2	0.13				0022c-27	366	0027	0028	Ch			9	32.0	11.8	7.8	2.20			36375
367	0027	0033	Ch			6.4	5.2	1.0	0.24				0022c-27	367	0027	0029	Ch			6.5	10.0	2.9	0.15			36374	
368	0027	0034	Ch			3.2	12.4	0.4	0.13				0022c-27	368	0027	0030	Ch			20.0	21.0	1.5	0.61			36373	
369	0027	0035	Ch			14.2	14.3	4.2	0.54				0022c-27	369	0027	0031	Ch			4.2	5.0	1.8	0.08			36372	
370	0027	0036	Ch			8.9	11.3	2.9	0.4				0022c-27	370	0027	0032	Ch			4	22.1	3.2	3.2	0.41			36371
371	0027	0037	Ch			15.9	1.6	1.2	0.06				0022c-27	371	0027	0033	Ch			3.9	8.4	2.1	0.08			36370	
372	0027	0038	Ch			19.6	17.2	2.6	0.85				0022c-27	372	0027	0034	Ch			11.9	6.7	1.6	0.25			36369	
373	0027	0039	Ch			8.6	15.4	4.9	0.81				0022c-27	373	0027	0035	Ch			12.0	5.8	1.7	0.13			36368	
374	0027	0040	Ch			9.5	13.0	4.4	0.40				0022c-27	374	0027	0036	Ch			10.2	7.2	1.4	0.20			36367	
375	0027	0041	Ch			15.6	4.8	1.0	0.52				0022c-27	375	0027	0037	Ch			10.3	10.6	1.9	0.29		36366	36365	
376	0027	0042	Ch			12.6	4.2	0.4	0.12				0022c-27	376	0027	0038	Ch			6	12.9	7.9	3.9	0.42			36364
377	0027	0043	Ch			7.5	4.6	0.4	0.13				0022c-27	377	0027	0039	Ch			10.0	9.2	4.1	0.22			36363	
378	0027	0044	Ch			6.5	7.0	1.9	0.17				0022c-27	378	0027	0040	Ch			12.0	11.7	3.3	0.20			36362	
379	0027	0045	Ch			11.7	9.2	2.9	0.32				0022c-27	379	0027	0041	Ch			1.5	6.5	0.9	0.05			36361	
380	0027	0046	Ch			9.1	9.0	2.4	0.25				0022c-27	380	0027	0042	Ch			10.0	6.5	1.5	0.14			36360	
381	0027	0047	Ch			7.8	5.1	1.4	0.16				0022c-27	381	0027	0043	Ch			10.0	4.5	1.0	0.06			36359	
382	0027	0048	Ch			12.8	9.3	2.3	0.22				0022c-27	382	0027	0044	Ch			14.1	11.4	7.2	0.47			36358	
383	0027	0049	Ch			9.6	4.3	1.5	0.22				0022c-27	383	0027	0045	Ch			10.7	16.2	6.9	1.61			36357	
384	0027	0050	Ch			8.8	8.8	1.6	0.30				0022c-27	384	0027	0046	Ch			2	22.9	13.9	4.8	1.01			36356
385	0027	0051	Ch			9.6	7.9	2.9	0.27				0022c-27	385	0027	0047	Ch			14.2	10.2	3.7	0.42			36355	
386	0027	0052	Ch			8.9	10.1	2.1	0.17				0022c-27	386	0027	0048	Ch			14.1	8.9	1.7	0.24			36354	
387	0027	0053	Ch			8.2	8.8	2.8	0.13				0022c-27	387	0027	0049	Ch			15.1	5.0	1.5	0.15			36353	
388	0027	0054	Ch			9.6	17.8	1.3	0.23				0022c-27	388	0027	0050	Ch			11.0	8.1	3.0	0.30			36352	
389	0027	0055	Ch			13.1	9.5	1.8	0.20				0022c-27	389	0027	0051	Ch			10.8	16.1	3.2	0.27			36351	
390	0027	0056	Ch			7.6	6.5	1.5	0.16				0022c-27	390	0027	0052	Ch			12.0	4.5	1.0	0.20			36350	
391	0027	0057	Ch			9.5	8.3	3.1	0.24				0022c-27	391	0027	0053	Ch			10.0	9.7	3.2	0.81			36349	
392	0027	0058	Ch			4.1	8.2	1.3	0.20				0022c-27	392	0027	0054	Ch			10.4	20.9	5.7	1.12			36348	
393	0027	0059	Ch			5.7	5.0	1.2	0.20				0022c-27	393	0027	0055	Ch			7.6	7.7	1.6	0.20			36347	
394	0027	0060	Ch			8.2	7.5	2.1	0.27				0022c-27	394	0027	0056	Ch			11.7	9.4	3.8	0.27			36346	
395	0027	0061	Ch			7.4	7.4	1.2	0.41				0022c-27	395	0027	0057	Ch			1.2	8.4	1.7	0.22			36345	
396	0027	0062	Ch			10.3	9.4	3.7	0.20				0022c-27	396	0027	0058	Ch			3.7	5.0	2.0	0.25			36344	
397	0027	0063	Ch			8.6	7.7	4.0	0.22				0022c-27	397	0027	0059	Ch			4.0	9.0	3.9	0.24			36343	
398	0027	0064	Ch			5.2	7.9	2.9	0.21				0022c-27	398	0027	0060	Ch			20.9	20.1	2.0	0.70			36342	
399	0027	0065	Ch			2.2	6.2	1.2	0.23				0022c-27	399	0027	0061	Ch			11.7	8.7	4.0	0.26			36341	
400	0027	0066	Ch			3.3	7.8	1.9	0.22				0022c-27	400	0027	0062	Ch			14.3	11.4	4.3	0.74			36340	
401	0027	0067	Ch			2.4	3.4	2.4	0.04				0022c-27	401	0027	0063	Ch			6.7	8.4	3.3	0.27			36339	
402	0027	0068	Ch			11.2	7.6	1.6	0.11				0022c-27	402	0027	0064	Ch			6.7	11.1	2.2	0.46			36338	
403	0027	0069	Ch			10.1	6.8	1.8	0.22				0022c-27	403	0027	0065	Ch			26.4	13.7	6.8	2.45			36337	
404	0027	0070	Ch			15.6	10.2	6.2	0.37				0022c-27	404	0027	0066	Ch			8.7	9.1	3.0	0.19			36336	
405	0027	0071	Ch			10.0	5.0	1.8	0.28				0022c-27	405	0027	0067	Ch			3.2	11.7	1.4	0.07			36335	
406	0027	0072	Ch			3.5	6.7	1.9	0.23				0022c-27	406	0027	0068	Ch			24.4	16.7	5.2	0.94			36334	
407	0027	0073	Ch			8.6	8.8	6.8	0.06				0022c-27	407	0027	0069	Ch			7.7	8.4	2.8	0.34			36333	
408	0027	0074	Ch			16.2	12.5	1.1	0.58				0022c-27	408	0027	0070	Ch			20.4	17.2	5.5	1.19			36332	
409	0027	0075	Ch			10.4	8.7	2.8	0.15				0022c-27	409	0027	0071	Ch			8.5	9.6	2.2	0.11			36331	
410	0027	0076	Ch			8.2	4.2	1.3	0.23				0022c-27	410	0027	0072	Ch			6.2	5.8	1.1	0.24			36330	
411	0027	0077	Ch			4.7	7.2	2.1	0.26				0022c-27	411	0027	0073	Ch			4.6	14.6	4.1	0.91			36329	
412	0027	0078	Ch			7.6	3.5	1.0	0.21				0022c-27	412	0027	0074	Ch			1	12.0	11.4	2.7	0.54			36328
413	0027	0079	Ch			11.0	5.0	1.8	0.29				0022c-27	413	0027	0075	Ch			24.6	11.0	2.9	0.25			36327	
414	0027	0080	Ch			11.4	15.3	3.1	0.28				0022c-27	414	0027	0076	Ch			18.1	7.7	3.2	0.21			36326	
415	0027	0081	Ch			11.6	6.3	3.2	0.22				0022c-27	415	0027	0077	Ch			22.0	20.1	2.6	0.59			36325	
416	0027	0082	Ch			12.0	5.4	1.1	0.29				0022c-27	416	0027	0078	Ch			12.2	14.2	3.1	0.28			36324	
417	0027	0083	Ch			7.8	8.2	1.1	0.14				0022c-27	417	0027	0079	Ch			1	3.8	6.2	1.2	0.03			36323
418	0027	0084	Ch			6.8	6.1	1.6	0.09				0022c-27	418	0027	0080	Ch			7.5	6.9						



第24表 第1文化層 石器一覽表(9)

発掘調査 番号	プラン	品物 種別	素材	数量 個数	最大 長さ	最大 幅	最大 厚さ	重量 g	図号	備考
6	06E9	0600	Flt	3	6.7	12.0	0.3	0.20	36153	
6	06E9	0600	Flt	3	34	22.9	4.2	2.20	36162	
6	06E9	0600	Flt	3	12.5	16.6	0.2	1.12	36163	
6	06E9	0600	Flt	4	10.3	13.0	0.4	0.60	36171	
6	06E9	0600	Flt	3	39.0	25.9	6.1	2.80	36180	
6	06E9	0600	Flt	3	14.2	21.1	0.2	1.02	36181	
6	06E9	0611	Flt	5	2.7	18.1	0.9	0.42	36178	
6	06E9	0604	Flt	3	12.0	18.6	0.6	0.80	36186	第1文化層出土
6	06E9	0608	Flt	3	6.0	11.0	0.1	0.40	36187	
6	06E9	0608	Flt	3	4.0	13.4	0.2	0.44	36192	
6	06E9	0610	Flt	3	9.7	14.7	0.1	1.10	36189	
6	06E9	0602	Flt	3	13.6	9.4	0.4	0.40	36197	
6	06E9	0604	Flt	3	13.0	12.0	0.4	0.74	36179	
6	06E9	0611	Flt	3	12.6	9.4	0.4	0.40	36178	
6	06E9	0613	Flt	3	21.4	24.0	0.5	2.66	36176	
6	06E9	0613	Flt	3	17.4	16.5	0.7	0.62	36177	
6	06E9	0603	Flt	3	21.8	24.0	0.5	2.66	36176	第1文化層出土
6	06E9	0602	Flt	3	17.7	20.7	1.0	1.02	36181	
6	06E9	0602	Flt	3	17.0	13.0	0.6	1.47	36182	
6	06E9	0624	Flt	3	23.0	26.0	0.9	1.26	36220	
6	06E9	0624	Flt	3	16.0	22.0	0.4	0.99	36221	
6	06E9	0624	Flt	3	20.2	23.0	0.3	0.81	36232	
6	06E9	0608	Flt	3	10.7	11.4	0.8	2.40	36222	
6	06E9	0603	Flt	3	36.1	25.0	6.6	6.08	36188	
6	06E9	0610	Flt	3	10.2	12.0	0.7	1.04	36223	
6	06E9	0603	Flt	3	12.1	14.6	0.3	0.68	36225	
6	06E9	0627	Flt	3	18.4	19.3	0.6	0.68	36233	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36234	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36235	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36236	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36237	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36238	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36239	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36240	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36241	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36242	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36243	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36244	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36245	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36246	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36247	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36248	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36249	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36250	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36251	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36252	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36253	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36254	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36255	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36256	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36257	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36258	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36259	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36260	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36261	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36262	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36263	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36264	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36265	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36266	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36267	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36268	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36269	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36270	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36271	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36272	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36273	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36274	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36275	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36276	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36277	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36278	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36279	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36280	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36281	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36282	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36283	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36284	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36285	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36286	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36287	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36288	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36289	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36290	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36291	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36292	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36293	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36294	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36295	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36296	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36297	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36298	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36299	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36300	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36301	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36302	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36303	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36304	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36305	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36306	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36307	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36308	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36309	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36310	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36311	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36312	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36313	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36314	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36315	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36316	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36317	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36318	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36319	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36320	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36321	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36322	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36323	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36324	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36325	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36326	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36327	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36328	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36329	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36330	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36331	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36332	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36333	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36334	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36335	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36336	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36337	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36338	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6	0.80	36339	
6	06E9	0624	Flt	3	14.0	14.7	0.6			

### 第3節 第2文化層

出土層位がATより上位でハードロームとソフトロームの境界付近から検出された石器群を一括した。調査時の出土層位はVI層～IV層で、石器集中10の1ブロックが相当する。八つ手状に小さく突出した台地上に立地する。ナイフ形石器等の特徴的な石器は検出されなかったが、分厚い剥片を利用した横長剥片剥離がみられる。

#### 1 石器集中10 (第104図～106図, 第25・26表, 図版6・32)

分布 調査区北端, 支谷へ向かって突出する小さな台地上に立地する (第5図)。1E60グリッドを中心として南北6m・東西8mの範囲に散漫に分布する (第104図)。

出土層位は調査時の所見でIV～VI層となっている。IV～VI層は細分されておらず, ソフトロームとハードロームの境界からATが拡散した範囲を一括して捉えている。石器群の特徴から, 本来の出土層位はATより上位に相当すると考えられる。出土レベルは, 最大値39.446m, 最小値39.089m, 平均39.262mである。

器種 削器1点, 剥片6点, 石核5点の合計12点が出土した (第25表)。

第105図1は分厚い剥片の縁辺に調整を施した削器である。素材剥片の打面を作業面として, 背面側から打撃し小型剥片を剥離している石核を用いているようである。ホルンフェルス製である。2～5はホルンフェルス製の小型剥片である。その形態から1・8・9・10のような石核から剥離されたのであろう。接合資料1は珪質頁岩の扁平礫の縁辺を柱状に剥離した剥片の端部から, 主要剥離面側に打撃を加えた時に, 素材剥片の背面に力が抜けて結果的にこの柱状の剥片を2分割した状態となっている。剥離された剥片の上半部は出土していない。第106図8は小楕円礫を分割して, 自然面を打面として短軸方向に剥片剥離を試みている。9は剥片素材の石核と考えられるが, 剥片の周縁に粗い急角度調整を施して打面を形成し, 表裏から小型剥片を剥離している。10は厚めの剥片の主要剥離面を打面として幅広の小型剥片を剥離している。背面側からのステップ状となった剥離面は新たな打面形成を目的としたものと理解され, ここを打面とした剥離が進めば最終的には9のような残核形態を呈したものと推測される。11は半割した楕円礫の分割面を打面として剥片剥離を試みようとしているが, 力が抜けきらざ良好な剥片を剥離するには至っていない。打面転位して作業面を打面としようとしているが (実測図左側面), これもうまくいかず廃棄された。

石材 ホルンフェルス9点, 珪質頁岩2点, 凝灰岩1点で構成される (第25表)。

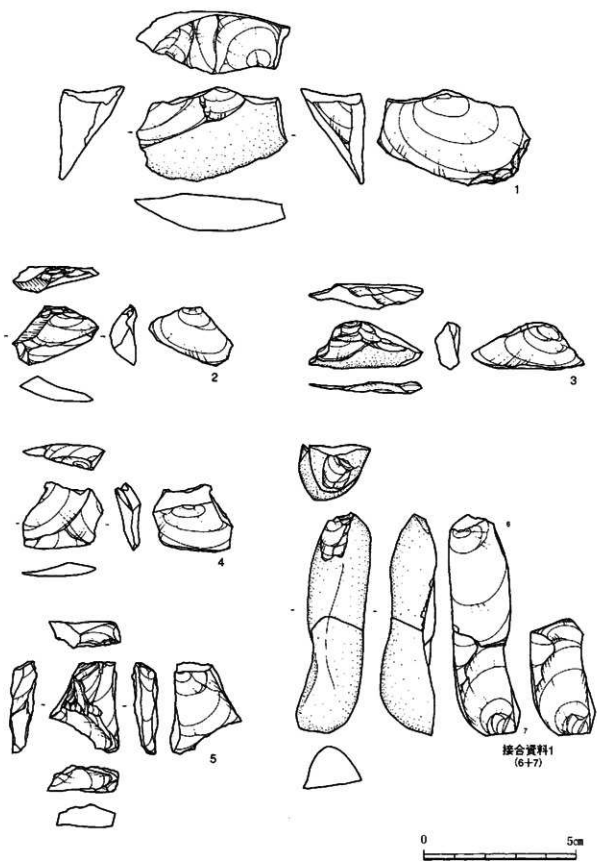
ホルンフェルスは1母岩を抽出した。母岩No.2は明るい灰色に風化した母岩で, 幅広の小型剥片2点

第25表 第2文化層 石器組成表

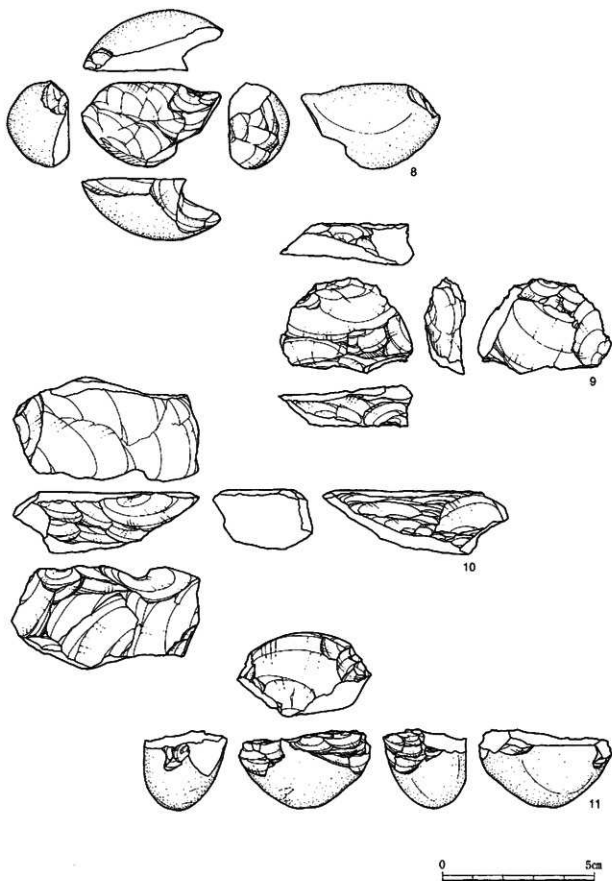
石器集中10	削器	剥片	石核	合計	組成比
ホルンフェルス	1	5	3	9	75.0
	25.05	15.96	80.12	121.15	65.2
珪質頁岩		1	1	2	16.7
		15.75	15.76	31.51	17.0
凝灰岩		1	1	2	8.3
			33.13	33.13	17.8
合計	1	6	5	12	100.0
	25.05	31.73	129.81	185.79	100.0
組成比	8.3	50.0	41.7		
	13.5	17.1	89.4		100.0
母岩No.1		1	1	2	
珪質頁岩		15.75	15.76	31.51	
母岩No.2				2	
ホルンフェルス		3.60		3.60	







第105圖 石器集中10 出土石器 (1)



第106圖 石器集中10 出土石器（2）

で構成される。その他のホルンフェルスは単独母岩としたが、風化が著しいこともあり断定はできない。

珪質頁岩は接合資料1のI母岩のみで構成される(母岩No.1)。灰色帯びた薄茶色を呈したものである。

第26表 第2文化層 石器一覧表

石器 集中 No.	プロット	遺物 番号	器種	石材	発見 層位	最大 径(mm)	最大 幅(mm)	最大 厚(mm)	重量(g)	層位	標高	備考
10	1	01060	0607	Flint		22.7	49.2	10.5	25.00	IV層	39.110	
10	2	01060	0603	F	3	19.7	20.0	8.6	2.71	IV層	39.146	
10	3	01060	0603	F		16.0	28.7	7.3	3.80	IV層	39.120	
10	4	01060	0605	F		22.5	24.9	5.8	3.47	IV層	39.328	
10	5	01060	0605	F		28.4	21.3	17.4	4.96	IV層	39.287	
10	6	01060	0603	F		43.4	19.7	14.7	15.73	IV層	39.320	
10	7	01060	0605	Cu	1	40.3	28.9	15.1	15.76	IV層	39.364	
10	8	01060	0604	Cu		23.7	46.4	24.9	24.36	IV層	39.306	
10	9	01060	0609	Cu		31.8	45.6	16.7	15.71	IV層	39.323	
10	10	01060	0604	Cu		20.2	41.4	33.5	40.60	IV層	39.080	
10	11	01060	0609	Cu		23.1	42.7	36.8	33.13	IV層	39.168	
10	12	01060	0604	F	2	14.9	16.7	8.0	0.83	IV層	39.326	

#### 第4節 第3文化層

ソフトローム層から検出された石器群で、調査時の出土層位がⅢ層のものを一括した。石器集中11~14の4ブロックが該当する。各ブロックとも小規模で、縦長剥片を素材とした石器が特徴的な石器群(石器集中11)や有榫尖頭器を特徴とする石器群(石器集中12)等がある。

##### 1 石器集中11(第107・108図, 第27・31表, 図版6・32)

分布 台地平坦部に立地するが、東西方向の上層断面図を見ると僅かながら西へ向かって下っているようである(第5図)。3E56・67グリッドを中心として径8mの範囲から、やや帯状に石器群は分布している(第107図)。

出土層位は調査時の所見でⅢ層とある。東西方向の土層断面図に投影された遺物の垂直分布はちょうどソフトロームとハードロームの境界付近に集中している。出土レベルは、最大値40.388m, 最小値39.744m, 平均39.998mである。

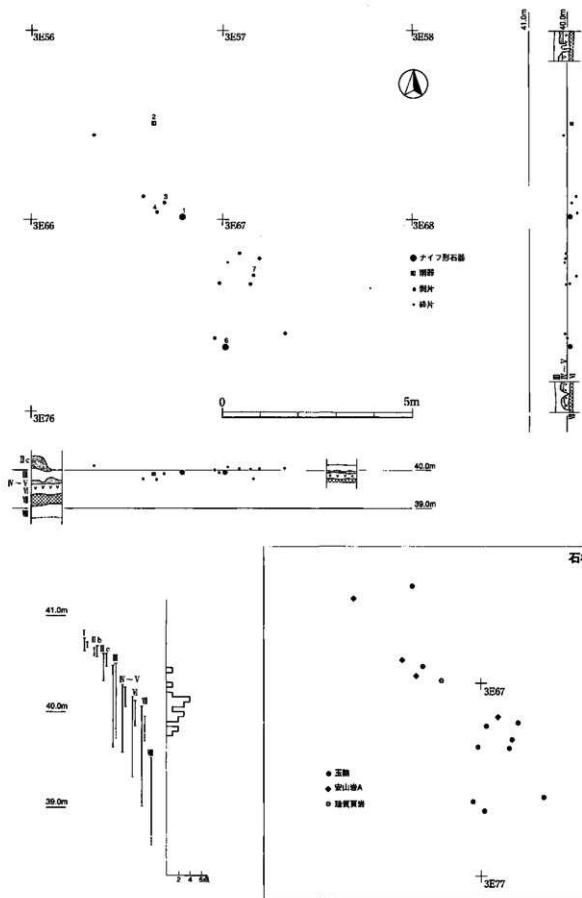
器種 ナイフ形石器2点, 削器1点, 剥片・碎片13点の合計16点が出土した(第27表)。

第108図1はナイフ形石器の基部片である。基部端の両側縁を急角度調整によってV字状に仕上げている。縦長剥片もしくは石刃を素材としたものと考えられる。珪質頁岩の単独母岩を用いている。2は玉髓製の縦長剥片を用いたもので、左側縁にノッチ状の急角度調整が連続した特徴的なものである。3・6・7は玉髓の同一母岩を用いたもので(母岩No.1), 6は剥片の端部に調整が施されたナイフ形石器であるが、打面側は欠損している。7は剥片の縁辺に微細剥離痕が観察される。4・5・8は安山岩A製の剥片で、5・8からは縦長剥片を連続的に剥離していた様子が推測される。

石材 玉髓10点, 安山岩A5点, 珪質頁岩1点で構成される(第27表)。玉髓は集中地点の南東側, 安山岩Aは北西側に偏在する(第107図)。

玉髓は1母岩を抽出した。黄褐色を呈した母岩でいわゆる「黄玉石」と呼ばれているものと思われる。ナイフ形石器1点, 剥片・碎片8点で構成される(第108図3・6・7)。小規模ではあるが本地点で剥片剥離がなされたと考えられる唯一の母岩である。また, 単独母岩で赤褐色を呈した玉髓を用いた削器がある(2)。

安山岩Aは風化が著しく母岩分類を行っていないが, 比較的大きな剥片が持ち込まれているだけで, 本地点での剥片剥離はほとんど行われていない。



第107図 石器集中11 出土状況

第27表 第3文化層 石器組成表(1)

石器集中11	タイプ形 石器	刺器	剥片	砕片	合計	組成比
玉髓	1	1	7	1	10	62.5
	1.13	6.19	19.91	0.12	27.35	33.5
安山岩A			5		5	31.3
			53.49		53.49	65.5
陸奥頁岩	1				1	6.3
	0.77				0.77	0.9
合計	2	1	12	1	16	100.0
	1.90	6.19	73.40	0.12	81.61	100.0
組成比	12.5	6.3	75.0	6.3	100.0	
	2.3	7.6	89.9	0.1	100.0	
母岩類1	1		7	1	9	
玉髓	1.13		19.91	0.12	21.16	

## 2 石器集中12 (第109図～111図, 第28・31表, 図版6・32)

分布 調査区北側, 台地平坦部に立地する石器集中12は(第5図), 径2mの小範囲にまとまり, 北側が空白域となるU字状の分布を示している(第109図)。

出土層位は調査時の所見でⅢ層とある。土層断面に投影された遺物の垂直分布は平面分布と同様によくまとまり, Ⅲ層の上部に集中するようである。出土石器のレベルは, 最大値39.891m, 最小値39.584m, 平均39.720mである。

器種 尖頭器1点, 有樋尖頭器2点, 彫刻刀形石器1点, 剥片・砕片16点の合計20点が出土した(第28表)。

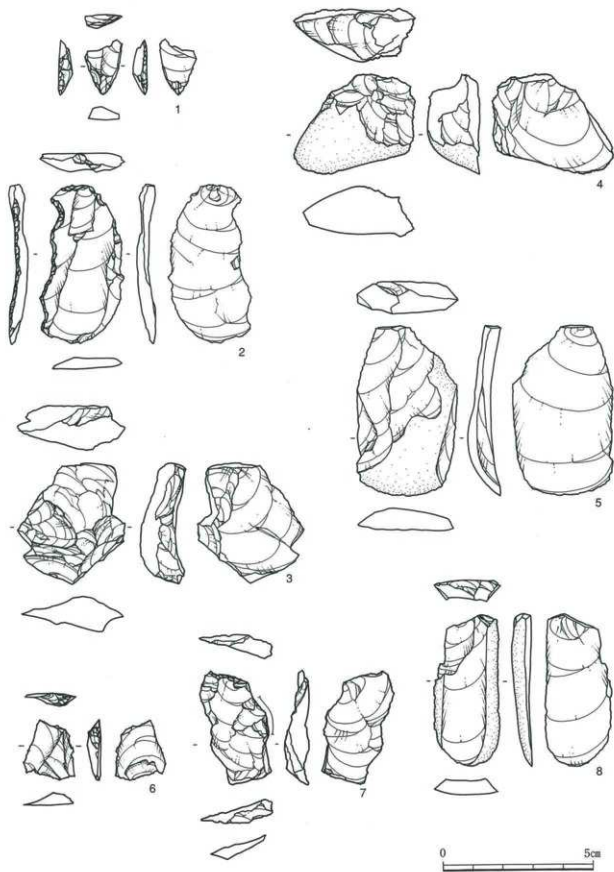
第110図1は片面調整の断面三角形を呈する尖頭器で, 先端から右肩にかけて, 樋状剥離と思われる剥離痕が観察されるが, 剥離面の風化が著しくはっきりしない。2は明らかに先端から左肩にかけて樋状剥離の施されたいわゆる「有樋尖頭器」で, 1と同様に片面調整であり断面は蒲鉾状を呈している。基部は欠損している。3も同様に, 左肩に樋状剥離が施された有樋尖頭器である。主要剥離面からの急角度調整により尖頭状に整形された素材に先端部から樋状剥離が施されている。基部端が欠損している。4は折断剥片の折断面を打面として剥片の縁辺に樋状剥離を施した彫刻刀形石器である。チャート製である。本石器集中地点から出土した石器の中で唯一, 安山岩A以外の石材を用いている。

第110・111図5～12は安山岩A製の剥片類である。大きさ・打面状況・背面構成を観察すると, 一連の剥離作業によって剥離されたものではないことが分かる。本石器集中地点での剥片剥離はほとんど行われていないのであろう。また, 尖頭器への調整剥片や樋状剥離によって剥がされた削片は出土していない。

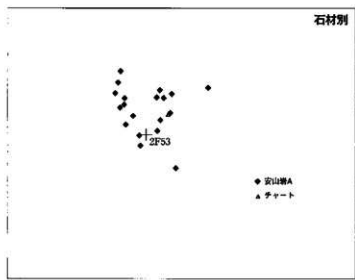
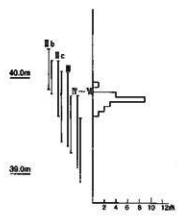
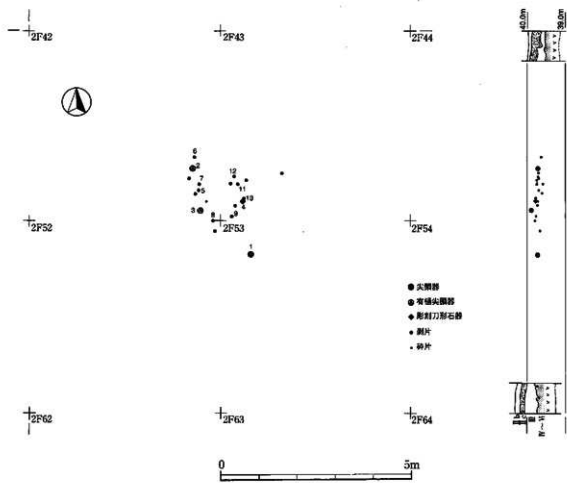
石材 安山岩A19点, チャート1点で構成される(第28表)。安山岩Aは風化が著しく母岩分類を行っていない。チャートは1点しか出土していないため単独母岩である(4)。

第28表 第3文化層 石器組成表(2)

石器集中12	尖頭器	有樋尖頭 器	彫刻刀形 石器	剥片	砕片	合計	組成比
安山岩A	1	2		15	1	19	95.0
	4.41	12.64		119.77	0.12	138.94	97.9
チャート			1			1	5.0
			3.00			3.00	2.1
合計	1	2	1	15	1	20	100.0
	4.41	12.64	3.00	119.77	0.12	139.94	100.0
組成比	5.0	10.0	5.0	75.0	5.0	100.0	
	3.2	9.0	2.1	85.6	0.1	100.0	

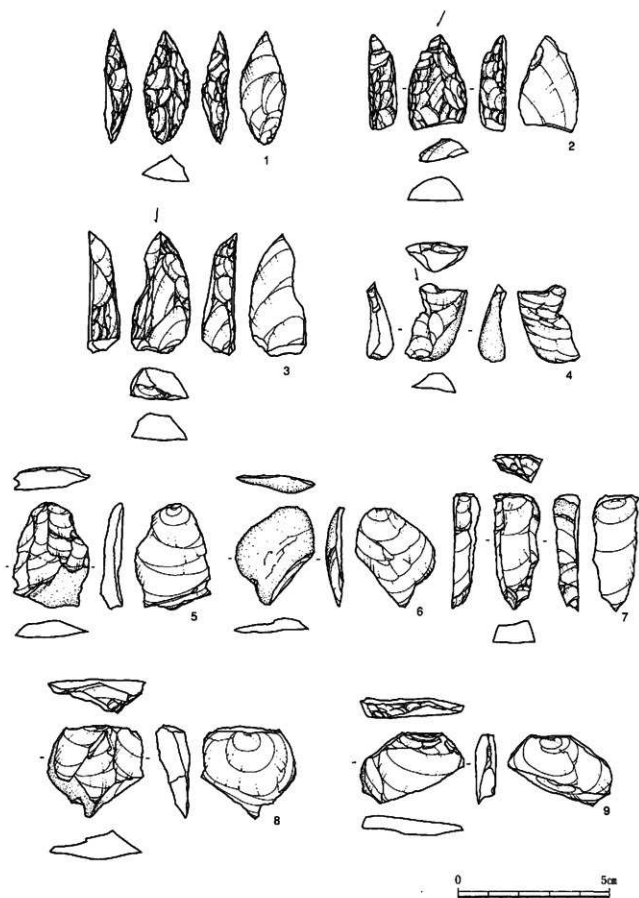


第108图 石器集中11 出土石器

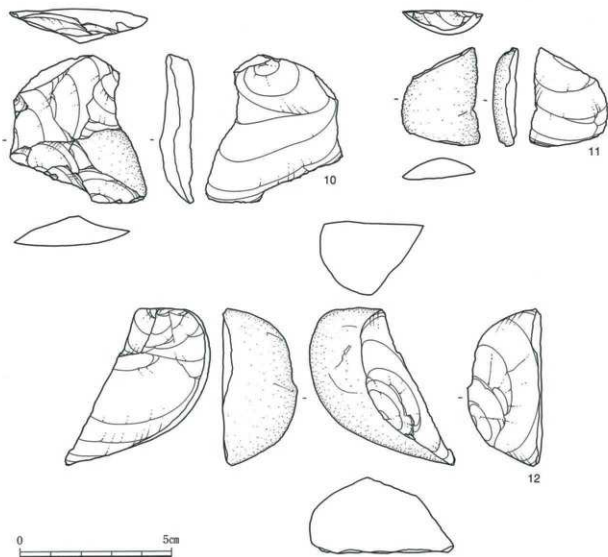


第109図 石器集中12 出土状況





第110图 石器集中12 出土石器(1)



第111図 石器集中12 出土石器（2）

### 3 石器集中13（第112図，第29・31表，図版32）

分布 石器集中7に隣接するブロックで，緩やかな傾斜面に立地する（第5図）。5H80グリッドから3点出土した零細なブロックである（第112図）。出土層位は調査時の所見でⅢ層とある。土層断面図に投影された遺物の垂直分布を見ると，Ⅲ層上部から検出されたようである。

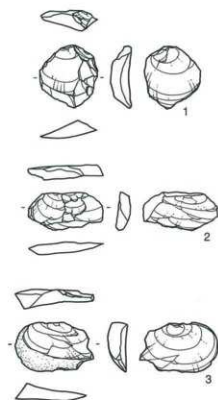
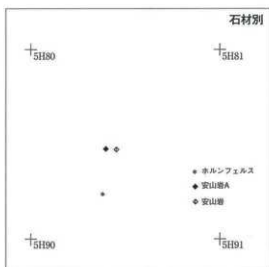
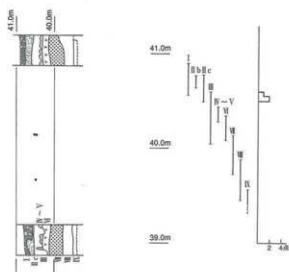
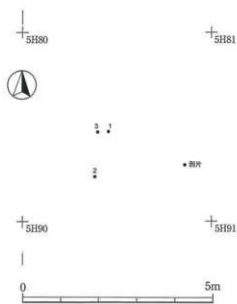
器種・石材 剥片3点が出土した。打面は比較的小さく，頭部調整が顕著な小型幅広剥片である。1は安山岩，2はホルンフェルス，3は安山岩Aで，全て単独母岩である（第29表）。

### 4 石器集中14（第113図，第30・31表，図版32）

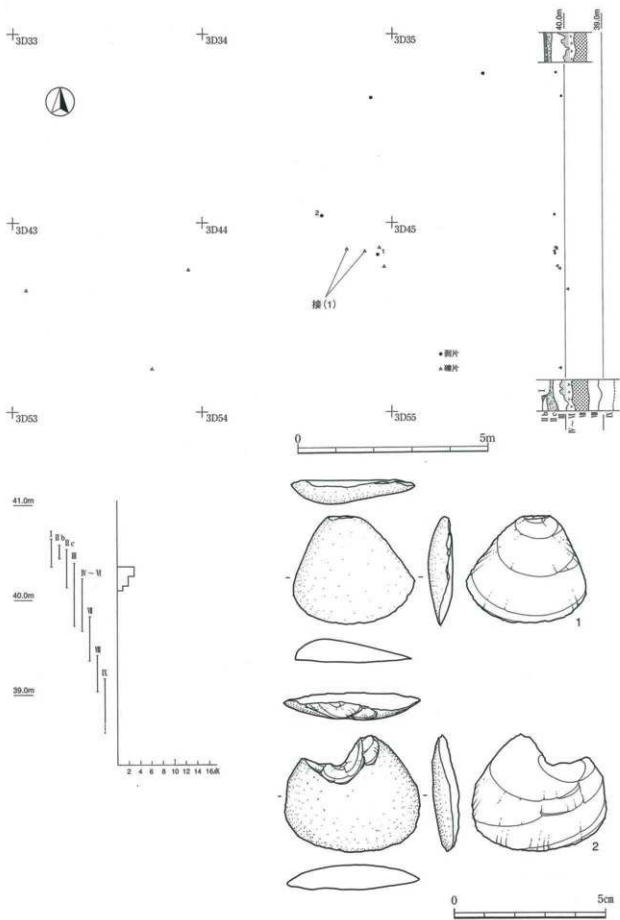
分布 石器集中9に隣接するブロックで（第5図），3D44グリッドを中心に南北8m・東西13mの範囲に散漫に分布する（第113図）。出土層位は調査時の所見でⅢ層とあり，土層断面図に投影された遺物の垂直分布を

第29表 第3文化層  
石器組成表（3）

石器集中13	剥片	合計	組成比
安山岩	1	1	33.3
	2.03	2.03	36.3
安山岩A	1	1	33.3
	2.10	2.10	37.6
ホルンフェルス	1	1	33.3
	1.46	1.46	26.1
合計	3	3	100.0
	5.59	5.59	100.0
組成比	100.0	100.0	
	100.0	100.0	



第112図 石器集中13 出土状況と出土石器



第113図 石器集中14 出土状況と出土石器

見ると、Ⅲ層上部から検出されたようである。出土レベルは、最大値40.469m、最小値39.911m、平均40.172mである。

器種・石材 剥片4点、礫片7点の合計11点が出土した(第30表)。背面が自然面に覆われた幅広の剥片を2点図示した。1は安山岩A、2はホルンフェルス製である。礫片は安山岩・ホルンフェルス・砂岩で構成され、砂岩2点に接合が確認された(接合資料(1))。礫片は一部、赤化したものも見受けられる。

第30表 第3文化層  
石器組成表(4)

石器集中14	剥片	礫片	合計	組成比
砂岩		4	4	36.4
		66.47	66.47	9.1
安山岩A	1		1	9.1
	11.09		11.09	6.1
安山岩B	1		1	9.1
	13.35		13.35	7.3
安山岩		1	1	9.1
		16.63	16.63	9.2
ホルンフェルス	2		2	18.2
	28.64		28.64	15.8
その他		2	2	18.2
		45.49	45.49	25.0
合計	4	7	11	100.0
組成比	53.08	128.58	181.66	100.0
	36.4	63.6	100.0	
母岩地1	29.2	79.0	100.0	
砂岩	31.71	31.71		

第31表 第3文化層 石器一覧表

大層	小層	層別	器種	石材	検出割合 %	最大 径(mm)	最大 幅(mm)	重量(g)	層位	備考		
11	1	0306	0003	Ka	SbB	17.0	12.0	4.4	5.77	層位	39.920	
11	2	0306	0007	S5c	Cha	32.1	26.5	5.1	6.19	層位	39.920	
11	3	0306	0005	F	Cha	46.2	36.4	13.9	14.18	層位	39.920	
11	4	0306	0004	F	As-A	22.8	43.2	17.6	26.11	層位	39.746	
11	5	0306	0002	F	As-A	56.4	25.0	7.2	18.28	層位	40.020(土器遺す不明)	
11	6	0307	0010	Ka	Cha	18.2	17.0	4.5	1.13	層位	39.946	
11	7	0307	0004	F	Cha	32.8	26.0	5.6	2.79	層位	39.736	
11	8	0306	0002	F	As-A	56.2	25.2	6.2	8.38	層位	39.736	
11		0306	0004	F	As-A	26.5	18.2	4.3	1.84	層位	39.736	
11		0308	0008	F	不明					層位	40.180(遺物なし)	
11		0306	0002	F	Cha	1	8.2	10.6	2.5	8.26	層位	39.990
11		0306	0004	F	Cha	1	11.2	5.1	2.6	4.04	層位	39.920
11		0307	0003	F	Cha	1	21.4	16.2	2.6	1.82	層位	40.020
11		0307	0005	C	Cha	1	9.8	4.8	3.2	0.12	層位	40.020
11		0307	0006	F	不明					層位	40.020	
11		0307	0007	F	Cha	1	11.8	24.7	10.2	2.75	層位	40.020
11		0307	0008	F	Cha	1	26.1	18.3	4.9	8.82	層位	40.020
11		0307	0009	F	Cha	1	18.2	13.0	2.2	0.42	層位	40.020
12	1	0232	0002	Ps	As-A	27.2	15.2	3.1	4.11	層位	39.736(遺物なし)	
12	2	0232	0004	F-Ph	As-A	21.4	19.0	3.3	3.78	層位	39.736(遺物なし)	
12	3	0232	0010	F-Ph	As-A	26.0	18.5	3.1	4.38	層位	39.810	
12	4	0232	0009	Ph	Ch	24.5	15.4	0.5	2.00	層位	39.720	
12	5	0232	0007	F	As-A	34.4	24.4	6.0	4.67	層位	39.680	
12	6	0232	0003	F	As-A	23.4	23.7	5.4	3.26	層位	39.620	
12	7	0232	0006	F	As-A	28.1	14.9	0.5	5.09	層位	39.580	
12	8	0232	0002	F	As-A	26.0	21.6	10.1	7.57	層位	39.794	
12	9	0232	0016	F	As-A	23.6	23.7	4.0	5.82	層位	39.722	
12	10	0232	0007	F	As-A	42.2	18.4	10.6	19.92	層位	39.774	
12	11	0232	0006	F	As-A	32.2	26.8	17.0	7.28	層位	39.748	
12	12	0232	0002	F	As-A	22.2	44.4	20.6	49.64	層位	39.728	
12	13	0232	0005	F	As-A	19.8	23.5	0.5	5.10	層位	39.680	
12	14	0232	0008	F	As-A	14.8	28.2	0.6	5.12	層位	39.694	
12	15	0232	0009	C	As-A	9.8	7.2	2.5	0.12	層位	39.712	
12	16	0232	0004	F	As-A	11.8	21.6	4.6	1.98	層位	39.740	
12	17	0232	0005	F	As-A	17.2	12.9	2.7	0.54	層位	39.740	
12	18	0232	0009	F	As-A	17.8	14.5	3.6	0.87	層位	39.720	
12	19	0232	0011	F	As-A	29.1	20.2	0.5	1.94	層位	39.790	
12	20	0232	0004	F	As-A	23.6	12.5	0.6	1.98	層位	39.686	
12	21	0232	0002	F	As-A	32.7	14.4	20.6	49.64	層位	39.798	
12	22	0232	0005	F	As-A	19.2	23.0	0.5	5.10	層位	39.690	
12	23	0232	0004	F	As-A	14.8	28.2	0.6	5.12	層位	39.696	
12	24	0232	0006	C	As-A	8.6	7.2	3.2	0.12	層位	39.712	
12	25	0232	0004	F	As-A	11.8	21.6	4.6	1.98	層位	39.740	
12	26	0232	0005	F	As-A	17.2	12.9	2.7	0.54	層位	39.740	
12	27	0232	0009	F	As-A	17.8	14.5	3.6	0.87	層位	39.720	
12	28	0232	0011	F	As-A	29.1	20.2	0.5	1.94	層位	39.790	
12	29	0232	0004	F	As-A	23.6	12.5	0.6	1.98	層位	39.686	
13	1	0149	0002	F	As	20.0	18.0	6.6	2.82	層位	40.120	
13	2	0149	0005	F	Mo	12.8	25.1	4.2	1.64	層位	40.480	
13	3	0149	0001	F	As-A	16.2	25.7	5.1	2.10	層位	40.450	
14	1	0304	0002	F	As-A	20.0	20.0	7.2	11.80	層位	40.220	
14	2	0304	0002	F	Mo	29.7	44.2	8.2	18.94	層位	40.200	
14	3	0304	0001	F	Mo	26.6	32.2	12.3	12.26	層位	40.070	
14	4	0305	0002	F	Mo	29.8	40.0	14.1	12.80	層位	40.220	
14	5	0303	0001	CoB	As	25.7	25.8	21.8	38.82	層位	40.117	
14	6	0303	0002	CoB	F	21.2	23.4	22.2	25.80	層位	40.107	
14	7	0303	0001	CoB	F	48.4	20.9	16.6	20.40	層位	39.910	
14	8	0304	0001	CoB	Se	20.0	20.0	19.4	9.22	層位	40.220	
14	9	0304	0002	CoB	Se	1	14.2	17.3	19.2	17.70	層位	40.207
14	10	0304	0001	CoB	Se	1	26.6	28.2	26.7	15.86	層位	40.120
14	11	0304	0002	CoB	Se	1	36.1	36.1	20.0	25.40	層位	40.190
14	12	0305	0001	CoB	不明					層位	40.210(遺物なし)	

## 第5節 第4文化層

漸移層(Ⅱc層)～ソフトローム層(Ⅲ層)から検出された石器群で、石器集中15の1ブロックが該当する。尖頭器を主体とした石器群である。

### 1 石器集中15(第114図～150図,第33～38表,図版6・33～37)

分布 飛地状に離れた調査区である8区・9区から検出された石器集中地点で、西側に弧状に延びてくる埋没谷を上がって、緩やかに傾斜する平坦面に立地する(第5図)。遺物分布は緩やかに弧状を呈し、短

軸5m～7m・長軸20m以上の帯状分布となるが、周辺に小さな集中域も点在し、それらを含めると遺物の分布範囲は南北15m・東西20mの範囲に広がる(第114図)。

遺物はⅡc層最下部から出土しはじめ、Ⅲ層上部を主体としているようであるが、斜面地であることと集中地点を横断するような土層断面図を作成していないため現状では検討することができない。第117図には周辺の下層確認グリッドにおける立川ロームの柱状図を掲載した。これを参考とすると遺物はⅢ層上面に張り付く形で出土し、出土層位はⅡc層を主体としているようにも見える。出土レベルは最大値39.855m、最小値38.067m、平均39.402mである。

器種 尖頭器25点、ナイフ形石器6点、彫刻刀形石器5点、搔器4点、削器7点、使用痕のある剥片72点、調整痕のある剥片30点、剥片632点、砕片62点、敲石1点、石核10点、礫・礫片42点の合計896点が出土した(第33表)。主要な石器を第118・119図に掲載した。

尖頭器は未製品・欠損品を含めて25点が出土した。石材は安山岩A10点(1～9・35)、珪質頁岩B11点(100～110)、ノジュール1点(99)、凝灰岩1点(78)、珪質頁岩1点(58)、ホルンフェルス1点(60)で構成され、安山岩A・珪質頁岩Bを主体としている。分布状況を見ると各石材毎の分布に重なるように、同じ石材の尖頭器も分布していることが窺える。安山岩Aは8I83・8I84・8I90・8I91グリッド、珪質頁岩Bは9I02・8I92・8I93・8I94グリッドを中心として、各集中域の中央付近にまとまるようである(第115図)。

尖頭器への器体調整は大きく2種類に分離される。一つは器体両面に調整が施されるもので、調整は器体深部に及ぶいわゆる平坦剥離が施されたものである。完形品は60のように細身の左右対称形を呈すると考えられるが、未製品(46)や調整の段階で意図した剥離ができず歪な形態を呈したもの(103・100)、欠損したもの(1・2・4)などを含む。それに対して、調整が片面に偏るいわゆる片面調整のものや一部裏面に調整が及ぶ半両面調整のものが数多く存在する。調整は器体深部に及ぶものは少なく、周縁に止まるものが多い。そのほとんどが欠損品で、完形もしくは完形に近いもので全体形状の窺えるものは少ない。平面形は、幅広の寸詰まりのもの(3・5・7・8)と細身のもの(101・58・78・99)に分かれる。

安山岩Aに限っていえば、前者の素材は、35・6等をもみても分かるように礫を薄くスライスするように分割した厚みのある板状の素材を用いていると推測される。そして、そのような素材を荒削りする段階で得られた剥片が、後者の素材として用いられたのであろう。その一方で、36や41が石核として用いられている。

ナイフ形石器は6点が出土した(111～114・157・196)。全て珪質頁岩B製である。珪質頁岩Bの分布域に点在して検出されたが、8I84・8I94グリッドに6点中4点が集中する。いずれも幅広の剥片の一部に調整が加えられたもので、刃部は斜刃を基本としているが、その形態には統一性はみられない。

彫刻刀形石器は5点が出土した(115～118)。全て珪質頁岩B製である。珪質頁岩Bが高密度で集中する8I94グリッドからまとまって出土した。薄手の剥片を素材としたもの(115)と厚手の剥片を素材としたもの(116～118)にわかれ、後者は彫刻刀面形成のための打面に直線的な調整が加えられ、側縁にはほぼ平行に彫刻刀面が形成されている。

搔器・削器は11点が出土した(10・44・57・59・119～124)。刃部形態、刃部位置、素材剥片の形態等、それぞれ異なり、バラエティーに富んでいる。石材は珪質頁岩B6点、珪質頁岩A1点、珪質頁岩1点、安山岩A1点で構成される。

石核は10点が出土した。盤状の素材を用いて周縁から剥片を剥離するもの(36・71)、打面転位を繰り返

返ししながら、自然面を背面に残すもの(41・153・209・154)がある。石材は安山岩A 3点、珪質頁岩B 4点、流紋岩2点、チャート1点で構成される。

石材 珪質頁岩A 54点、珪質頁岩B 444点、珪質頁岩11点、安山岩A 149点、安山岩B 6点、凝灰岩78点、ホルンフェルス58点、砂岩42点、流紋岩16点、チャート17点、メノウ8点、粘板岩4点、ノジュール1点、黒曜石1点、頁岩1点で構成される(第33表)。珪質頁岩A、珪質頁岩B、安山岩B、凝灰岩、ホルンフェルスで全体の87%を占める。

第120図～125図に安山岩A製の石器を掲載した。安山岩Aの平面分布は、東西に帯状に分布する珪質頁岩Bの北側に沿って一部が分布し、周辺に小さな集中域が幾つか点在している(第116図)。安山岩Aは灰色に風化したザラついた風化剥離面にロームが食い込みやや黄色み帯びたもので、自然面はキメの細かい爪形状の裂痕が集合している。いわゆる「ガラス質黒色安山岩」「黒色緻密質安山岩」と呼ばれているもので、その特徴も一般的にみられるものと一致している。風化が著しいため母岩分類は行っていない。尖頭器10点、削器1点、石核3点、使用痕のある剥片1点、調整痕のある剥片7点、剥片118点、碎片9点の合計149点で構成される。

尖頭器は両面調整のもの(1・2・4・6)と周縁調整のもの(3・5・7・8・9)に大きく分かれるが、調整途中の未製品と思われるもの(6)・欠損品(1・2・5・7・8・9)で占められる。両面調整のものは第124図37のような、円礫をスライスするように剥離された厚めの剥片を素材として、主要剥離面側と背面の礫面側に順次、器体の深部に及ぶ平坦な調整を施すことによって整形していくようである。その経過は36・35にみることができる。さらに整形が進むと6のようになり、一部礫面を残した未製品は、主要剥離面側の方が平坦な形態を呈する。最終的には1・2にみられるような細身の形態を目指したのであろう。

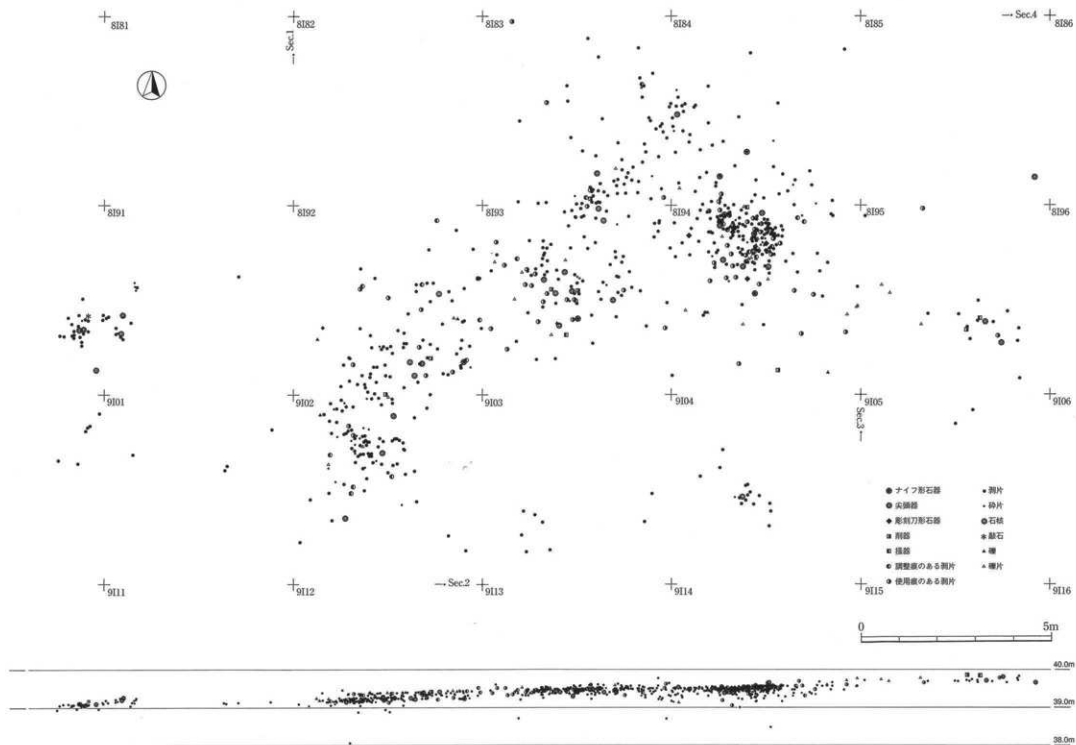
10は厚みのある剥片を素材として左側面に刃部をもつ削器である。末端には丸壺状に挟りを入れるような特徴的な調整が施されている。11～16は微細剥離痕が観察されるもので、扁平な剥片を用いて、背面側(11・14)・主要剥離面側(12・13・15)に剥離痕が連続する。

剥片はポイントフレイクと一般的な幅広の剥片で占められる(16～34)。37・38の様な大型剥片は極めて希で、遺跡外から搬入されたものであろう。

接合資料4は石核と剥片の唯一の接合資料である。石核(41)は、自然面を裏面に残すもので、打面と作業面を入れ替えながら剥片剥離が進行しているようである。剥片は珍しく縦長である(39+40)。

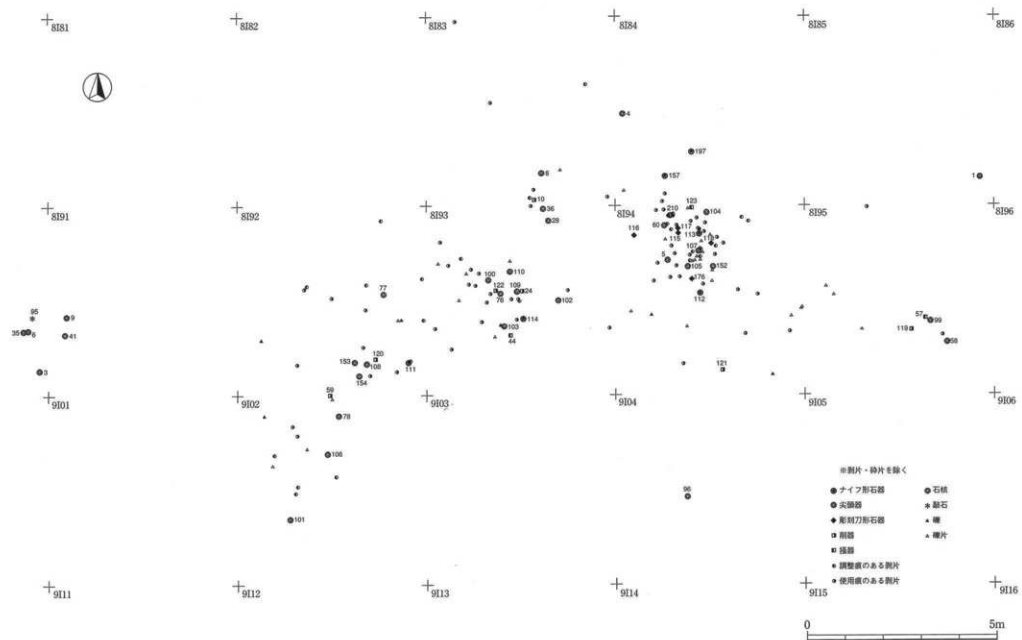
珪質頁岩Aは1母岩を抽出した。母岩No.34は明薄茶色を呈し、鈍い光沢がみられる風化剥離面をもつ母岩である。平面分布は珪質頁岩Bを中心とする帯状分布の一部に沿うようにして北側に集中する(第116図)。調整痕のある剥片1点(第126図42)、使用痕のある剥片4点、剥片・碎片44点で構成される。剥片・碎片類は大半がポイントフレイクの特徴をもつもので、器体深部にまで及ぶ剥離が両面に施された尖頭器の調整剥片である(同図45～55)。小型剥片・碎片が多いことから、尖頭器製作の後半～終盤にかかる調整が本地点で行われたことが窺われる。また珪質頁岩Aの単独母岩を用いた石器で、剥片の縁辺に急角度調整が施されたものと(同図43)、剥片端部に浅い調整が施された搔器(同図44)を掲載した。44の右側縁には微細剥離痕が連続して観察される。

単独母岩の珪質頁岩を用いた石器を第126図57～59に掲載した。56は鮮やかな緑色を呈した母岩で、剥片の両側縁に連続した顕著な微細剥離痕が観察される。57は剥片の縁辺に急角度調整を施した搔器である。最終的な調整によって刃部が抉れたようになっている。58は灰色を呈した母岩を用いた、細身の尖頭器で

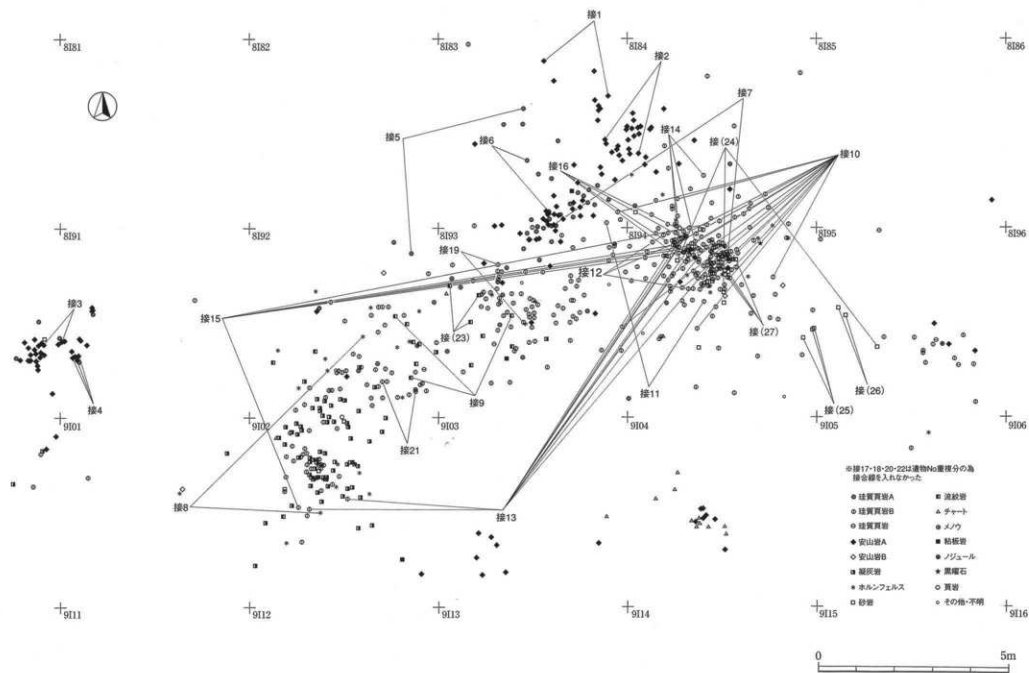


第114図 石器集中15 器種別出土状況(1)





第115図 石器集中15 器種別出土状況(2)

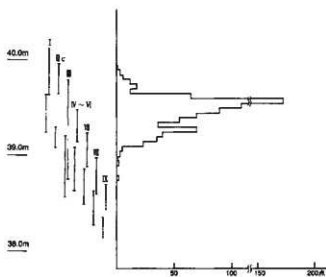
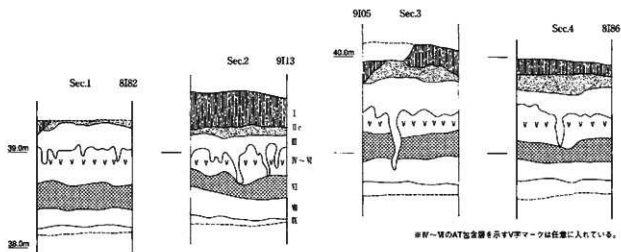


第116図 石器集中15 石材別出土状況

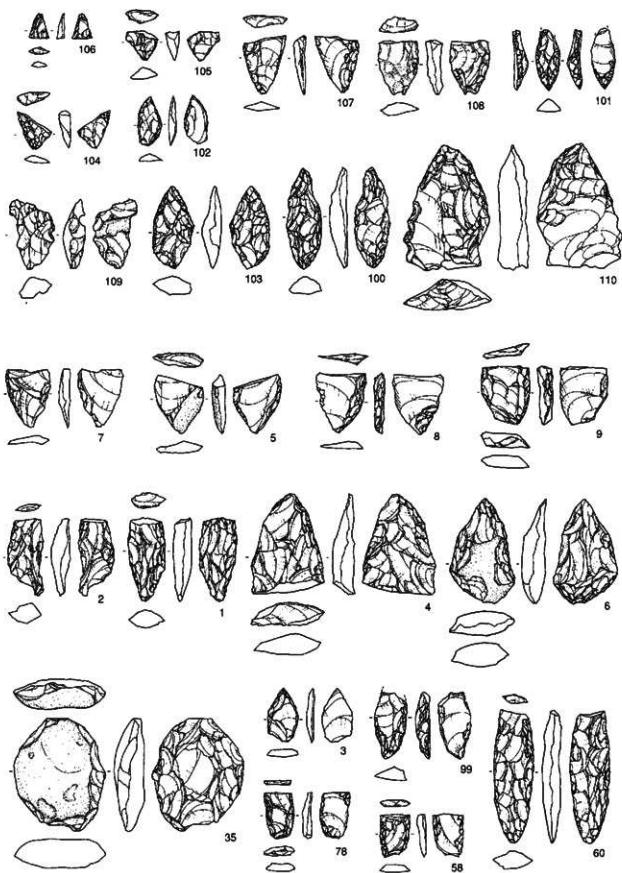
南北方向の垂直分布図



石器集中15周辺の下層確認グリッド 立川ローム柱状図 (Sec.1~4)



第117図 石器集中15 垂直分布図と周辺セクション



第118圖 石器集中15 主要石器 (1)  $S=1/5$



第119图 石器集中15 主要石器(2) S = 1/3

あるが先端部と基部端が欠損している。調整は素材剥片の背面側を中心に急角度調整が施され、主要剥離面側にも平坦な調整剥離が施されている。59は剥片の側縁に浅めの調整が施された資料であるが、先端部が欠損した尖頭器の可能性もある。

ホルンフェルスは4母岩を抽出した。いずれも風化が著しく剥離面は明灰色を呈している。平面分布は大きく2か所に分離され、母岩No.37・39・40が8I84・8I94グリッド、母岩No.38が8I92・9I02グリッドを中心とする(第116図)。分布状況は前者の方が狭い範囲にまとまっている。どちらにしても、珩質頁岩Bの分布域の一部に重なる。母岩No.37は尖頭器1点と調整剥片13点で構成される母岩で、均質な明灰色を呈している。尖頭器(第127図60)は柳葉形を呈した細身のもので、両面に器体深部に及ぶ調整が施されているが、先端は欠損している。剥片は小型のポイントフレイクで占められ、最終的な調整が本地点で行われたものと考えられる(同図63)。母岩No.39は湾曲した自然面をもつ剥片2点で構成される。均質な明灰色を呈する点では母岩No.37と類似するが風化の度合いが相対的に低いようで、ツルリとした表面をみることができる(同図61・62)。母岩No.40は剥片2点で構成される(73)。斑状に明黄灰色が混じるものであるが、その割合が母岩No.38と比較して低いため分離したが、同一母岩の可能性も否定できない。母岩No.38は斑状に明黄灰色が混じるもので、その割合が非常に高いものである。剥片21点で構成され、幅広で最大長20mm~30mmの比較的厚みのあるものが主体を占める(第127・128図64~70)。その特徴からは通常の一般的な剥片剥離により剥がされたものとは異質な印象を受けるものが多く、これらは尖頭器製作のための初段階の調整剥片の可能性が指摘される。第128図71・72・74は単独母岩の微細剥離痕のある剥片と剥片である。

流紋岩は2母岩を抽出した。両母岩とも、帯状分布中央部を中心として遺物分布密度が比較的低いところに点在する傾向が指摘できる(第116図)。母岩No.41は石核2点(接合して1点)と剥片8点で構成される。第129図接合資料9は扁平礫をスライスするように分割した盤状の分割片を用いて、平坦な剥離面を打面として小型剥片を周縁から剥離している。当初、石核と剥片の接合資料と思われたが、安山岩を用いた尖頭器製作の状況を勘案すると、石核としたものは尖頭器の素材であった可能性が高い(同図77)。つまり、尖頭器のブランク製作に伴う調整剥片(同図75)との接合関係と理解される。接合しなかったが75と同じ特徴を持つ剥片が他に7点出土しているが、それらも同様にブランク製作のための調整剥片と位置づけられる。母岩No.42は被熱により赤褐色を呈した礫片同士が接合したもので(接合資料(23))、いわゆる礫群の構成礫として一般的に用いられているものであるが、他には見あたらない。

凝灰岩は2母岩を抽出した。母岩No.35に73点、母岩No.36に4点、単独母岩1点に分離された。第130図78~91に母岩No.35の一部を掲載した。やや薄い緑色帯びた灰色に風化した剥離面に覆われているが、内部は薄茶色を呈しているようである。尖頭器1点、使用痕のある剥片1点、剥片・碎片71点で構成される。ほとんどが、いわゆるポイントフレイクの特徴を有するもので占められ、最大長20mm以下の剥片類が大半である。なかには89~91のように背面に自然面をもったり、傾斜した大きな調整打面をもつ剥片もみられるが、これらにしても尖頭器の調整剥片の特徴を有している。本地点で調整が施された尖頭器は中型~大型のものと思われるが遺跡外へ搬出されている。調整剥片と思われる小型剥片を素材とした尖頭器(78)がある。打面を基部として両側縁に調整を施したもので、主要剥離面側にも一部調整がみられる。同母岩の平面分布は帯状分布の南西端9I02グリッドに集中し、馬蹄形に近い形状を呈している(第116図)。母岩No.36は母岩No.35よりも風化剥離面が茶色帯びたものであるが、同一母岩の可能性も否定できない。

チャートは1母岩を抽出した(母岩No.43)。石核1点、剥片11点、砕片1点の合計13点で構成される。比較的均質で緑色を呈した良質の母岩である。平面分布は帯状分布から離れた9104グリッドにある小さな集中域に偏在する。同集中域にはチャートの他に安山岩Aが小さな集中域を形成している。剥片は小型不定形のもので、ポイントフレイクと呼べるほど、積極的な特徴は見いだせない。石核は平坦な剥片剥離面を打面とした小型のもので、表面のボジ面の存在から石核片と理解され、その形状は舟底形を呈している(第131図96)。

メノウは1母岩を抽出した(母岩No.44)。乳黄白色を呈した不透明の母岩で、節理が走り、質的には不良といえよう。平面分布は帯状分布の中央付近のやや分布密度の低い地域に点在する。使用痕のある剥片1点、剥片6点の合計7点で構成される。剥片1点のみを掲載した(第131図97)。形態は96とよく似たもので、裏面のボジ面は石核からの分割面と推測されることから、これもやはり石核片と理解される。他に単独母岩として使用痕のある剥片が1点出土した(同図92)。小型縦長剥片の両側縁に顕著な微細剥離痕が観察される。母岩の特徴は透明感のある薄黄色を呈したものである。

黒曜石は単独母岩1点が出土した(第131図94)。急角度調整が施されたブロック片でナイフ形石器の基部片の可能性もあるがよく分からない。母岩の特徴は不透明で斑晶が散る。

ノジュールは単独母岩1点が出土した(第131図99)。薄黄褐色に著しく風化した剥離面に覆われ、内部が焦茶色を呈した母岩を用いた尖頭器が検出された。素材剥片の背面側に急角度調整が主に施された資料で、主要剥離面側にも僅かに調整が施されている。先端部が欠損している。

第131図95は砂岩製の蔽石の破片で、端部に敲打痕が観察される。

第131図98はトロトロ石裂の剥片である。

砂岩は2母岩を抽出した。平面分布は各母岩で分かれ、母岩No.45は帯状分布の北東端(8194)の集中域とその周辺にまとまり、母岩No.46は帯状分布の南西端(9102)に集中する。母岩No.45は剥片23点、剥片5点の28点で構成される。僅かに薄緑色帯びた灰色の母岩で、赤褐色節理面で砕かれている(図版37)。数個体に接合関係が認められた(接合資料(24~27))。剥面の一部には赤変した箇所もみられる。母岩No.45は自然面に覆われた剥片3点が属する母岩で、剥片の縁辺は著しく摩耗している。

珪質頁岩Bは444点が出し、全体の約5割を占める。尖頭器の石材構成も25点中11点が珪質頁岩B製で、同様の比率を示している。珪質頁岩Bは房総半島南部嶺岡丘陵に産すると考えられる珪質頁岩を一括したものであるが、特にその中でも青灰色を呈した特徴的なものを指す。といってもその特徴はかなりバラエティーに富み、珪質化した表面に光沢をもつものから、そのような珪質部が輪状に挿入し表面がカサつきザラついたものまで様々な様相を示している。よって抽出した母岩数も本ブロックで最も多い33母岩となった。ただし、同一母岩であっても原石の剥面に近い表層部と内部の様子がかなり異なるものもある等、母岩分類が困難な資料も少なからず存在する点は否めない。

尖頭器11点、ナイフ形石器6点、彫刻刀形石器5点、削器5点、搔器2点、調整痕のある剥片19点、使用痕のある剥片55点、石核4点、剥片・砕片37点が出し、本ブロックの主要な器種をほぼ全て網羅している。分布は9102グリッドから8194グリッドに向かって小さな集中域が、東西方向に帯状に並んでいる状況である(第116図)。接合状況は8194グリッドに集中し、その一部が帯状分布の他端(9102グリッド)から検出されたものと、比較的離れた距離で接合している。

母岩No.1は明るい緑灰色を呈した部分をベースに暗青灰色が斑状に混じるもので、表面は光沢があり、

ツルツルしている。接合資料を見ると特に原石の中心部分ほど珪質化しているようである。礫面は黄土色を呈し爪形状の裂痕が集合する部分と、それらがほとんど見られないなめらかな部分が共存する。内部には節理が縦横に走っており、それらは礫面同様黄土色を呈している。節理面の影響で思うような剥片が得られないことは第139図接合資料10を見れば理解できる。それでも中心に近い部分から剥離された小型剥片を用いたナイフ形石器もみられる(第140図157)。他に、第142図接合資料11・12も同母岩に属するが、背面には節理面が残り、剥片も節理面もしくはその影響で分断されていることが分かる。接合資料11は影刻刀形石器と剥片の接合資料である。177を剥離した後に176が剥離され、急角度となった177の剥離面に若干の調整が施された後、左側縁に沿って削片が剥離され、影刀面が形成されている。同側縁には剥離面に微細な稜調整が施されていたようである。第133図115～118では器体に対して平行だった影刀面が、本資料では先端から斜めに設けられている点は大きく異なる。接合資料以外では、影刻刀形石器(118)、削器(122)、調整痕・使用痕のある剥片(128・130・132・136)等が同母岩とされた。ただし、トールとして用いられたこれらは、質的に均質で色調もより暗い特徴を持っていることから、原礫面から離れた中心部分より剥離された剥片を用いたものと推測される。同母岩の分布は8194グリッドを中心として径4m内外にほとんど取まるもので、よくまとまった状況を見ることができる。ナイフ形石器1点、影刻刀形石器1点、使用痕のある剥片5点、剥片・砕片44点が属し、接合資料10～12を含む合計51点で構成される。

母岩No.2はややくすんだ乳白色系のもので、灰色が強い薄青灰色を呈する母岩で、節理面も見られず均質な印象を受ける。薄手のポイントフレイクを主体とした小型剥片12点で構成される。

母岩No.3は薄い青灰色を呈したツルツルした光沢をもつ剥離面に覆われた母岩で、均質で緻密な印象を受ける。風化を受けやすいのか全体に「ヌメツ」とした感じで、剥片剥離の稜も潰れている。使用痕のある剥片1点、剥片1点、石核1点の3点で構成され遺跡内での剥片剥離は見られない。小型の石核を1点掲載した(第138図152)。

母岩No.4は乳灰色帯びた薄青灰色の母岩で暗青灰色が帯状に混じる。接合資料22の2点のみが本母岩に属しているが、折面同士の接合資料であるので位置づけは単独母岩ということである。主要剥離面側に調整痕が観察される剥片である。

母岩No.5～7は、表面がツルツルした光沢のある青灰色を呈した母岩で、基本的な特徴は母岩No.1～3とよく似たものである。母岩No.5の調整痕のある剥片(第135図125)と母岩No.7の使用痕のある剥片(第136図140)を図示した。

母岩No.8は乳灰色帯びた薄青灰色の母岩で暗青色が帯状に混じる。母岩No.4に似ている。影刻刀形石器1点、使用痕のある剥片1点、剥片1点の合計3点で構成される。影刻刀形石器1点を図示した(第133図117)。器体側縁に沿って上下から影刀面が設定されている。

母岩No.9はややくすんだ乳灰色を帯びた薄青灰色の母岩で、全体に黄土色がかっている。削器1点、使用痕のある剥片2点、剥片3点で構成される。削器(第134図120)・使用痕のある剥片(第136図139・第137図146)を図示した。139は影刻刀形石器の削片の可能性が高い。

母岩No.10は淡灰色が強い青灰色を呈した母岩で、光沢のないタイプである。礫面に近い部分なのか、より乾いた質の悪い、風化が著しい部分へ連続している。剥片類21点が属するが、その内11点に接合関係が認められた(第143図接合資料13)。幅広く大型剥片を含む剥片同士の接合資料で、尖頭器製作の初期の段階のものである可能性が高い。剥片の一部には調整痕が観察されるものもある(184・185・188)。同母



岩の分布は8I94グリッドの小範囲に大半が集中し、一部が8I92・9I02グリッドに分布する。

母岩No.11は母岩No.10とよく似た母岩であるが、光沢部（珪化した部分）が細く縞状に入る特徴的なものである。ナイフ形石器1点、使用痕のある剥片1点、調整痕のある剥片1点、剥片・碎片11点で構成され接合資料14を含む、合計14点が属する。第146図接合資料14にはナイフ形石器、調整痕のある剥片・使用痕のある剥片が含まれる。ナイフ形石器は、剥片を横位に折断して、折断面から主要剥離面側に簡単な調整が施されたものである（197）。接合資料以外には剥片・碎片9点が同母岩に属する。

母岩No.12は母岩No.10以降と同様に光沢のないタイプで、母岩No.10よりも明るい色調のものである。質的にもより均質な印象を受ける。小型剥片が多く、使用痕のある剥片3点、剥片・碎片11点、石核1点が同母岩に属する。石核を図示した（第138図154）。石核は下端部が欠損しておりよく分からないが、分厚い両面調整体であったかもしれない。同母岩は8I92グリッドと8I84・94グリッドの2か所に分布が分かれる。

母岩No.13は比較的濃い緑色を帯びた青灰色を呈した母岩で、光沢のないタイプである。剥離面はややカサついた感じのする特徴的なものである。尖頭器の未製品（第132図110）1点と剥片類19点で構成される。剥片は小型のものが多く、ポイントフレイクの特徴を有するものが特徴的である。尖頭器未製品は分厚い剥片を素材として、剥片端部を尖頭部として整形を始めたが、途中で止めている。同母岩の分布は9I93グリッドにまとまる。

母岩No.14は水磨により滑らかになった礫面をもつ特徴的なもので、礫面から離れた内部ほど良質な光沢のある珪化した部分となっている。礫面をもつ剥片7点が接合した（第147図接合資料15）。

母岩No.15は薄青灰色を基調として青灰色が紡錘状に混じるもので、ツルツルした濃い黄土色の礫面を有する母岩である。第148図接合資料16の石核1点と剥片3点が同母岩に属する。未調整の分割面を打面として短軸方向に小型剥片が剥離されている。

母岩No.16は青灰色を基調として濃灰色が紡錘状に混じるもので比較的良質な母岩である。使用痕のある剥片3点と剥片15点が属する。ポイントフレイクを含み、全体に薄手の剥片が主体を占める。第149図接合資料18と使用痕のある剥片1点（第137図150）を図示した。

母岩No.17は母岩No.16とよく似た母岩であるが、節理状（表面は糸状）に光沢部が挟入する特徴を有する。同一母岩の中の部位による変化であるかもしれない。削器1点と剥片1点が同母岩に属する。削器は剥片の片側縁にノッチ状に調整を施したものである（第134図124）。

母岩No.18はカサついた感じの薄青灰色を呈した母岩で、僅かに光沢部が挟入するのが特徴である。小型剥片3点が属する。

母岩No.19は青灰色を基調として、濃灰色が紡錘状ではなく網状もしくは糸状に混じる。小型剥片6点が属する。

母岩No.20は光沢のあるタイプで、青灰色を基調として濃灰色がマーブル状に混じるのが特徴である。剥片2点が属する。

母岩No.21は暗青灰色を基調とした母岩で、ややカサつき感のあるものである。削器1点（第133図119）、剥片1点が属する。

母岩No.22は母岩No.19とよく似ているが本母岩の方がやや乾いた感じのするものである。小型剥片3点が属する。

母岩No.23は薄い黄土色を基調とした母岩で、斑状に明灰色が点在する。剥片2点が属する。

母岩No.24は濃緑灰色を呈したややくすんだ感じのする母岩で、第149図接合資料19を含む、使用痕のある剥片1点、剥片5点が属する。

母岩No.25は点状に濃灰色が散った母岩で、剥片3点が属する。

母岩No.26は全体的にカサついた剥離面は明るい灰色帯びた母岩で、剥片2点が属する。

母岩No.27は暗青灰色を呈した資料であるが、目立った特徴はない。第150図接合資料20のみが属する(剥片2点)。

母岩No.28は明青灰色帯びた母岩で、風化が著しく、カサついた剥離面が特徴的である。母岩No.10によく似ている。第150図接合資料21のみが属する(剥片2点)。

母岩No.29は被熱により?風化剥離面の一部が赤色帯びた資料であり、同一母岩とは呼べないが、特徴が似ているものを抽出した。剥片4点が属する。

母岩No.30は被熱により?風化剥離面全体が赤色帯び、黒変した資料である。使用痕のある剥片2点、剥片3点が属する。

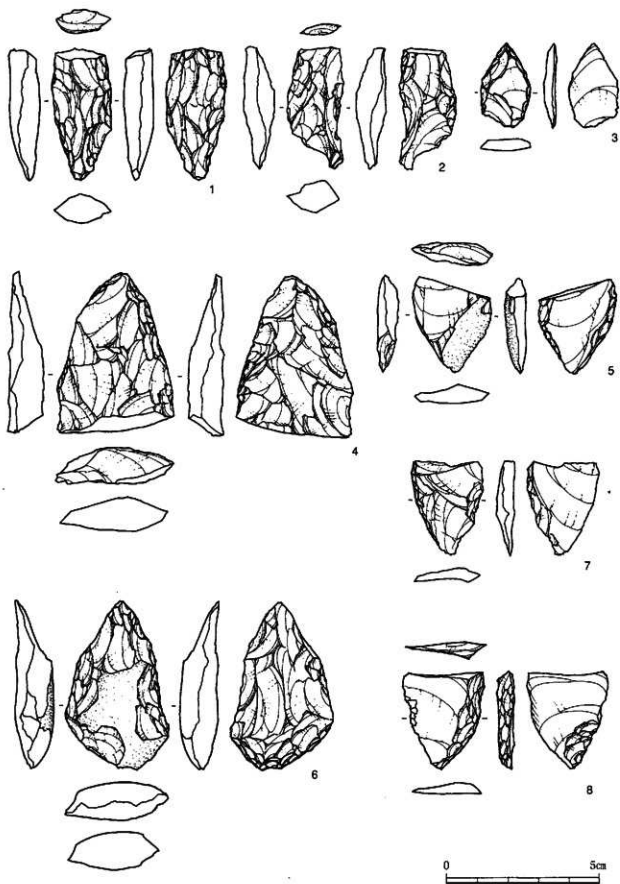
母岩No.31は被熱により?風化剥離面全体が赤色帯びた資料で、風化剥離面が光沢あるタイプのものである。ただし、挟入する光沢部の色はほとんど変化していない。使用痕のある剥片2点、調整痕のある剥片1点が属する。

母岩No.32は黄土色を帯びた、くすんだ青灰色を基調とした母岩で、礫面・風化剥離面は滑らかで特徴的である。夾雑物・節理がほとんど見られない良質な母岩である。使用痕のある剥片4点、剥片・砕片6点が属し、その内4点を図示した(第136図141~144)。

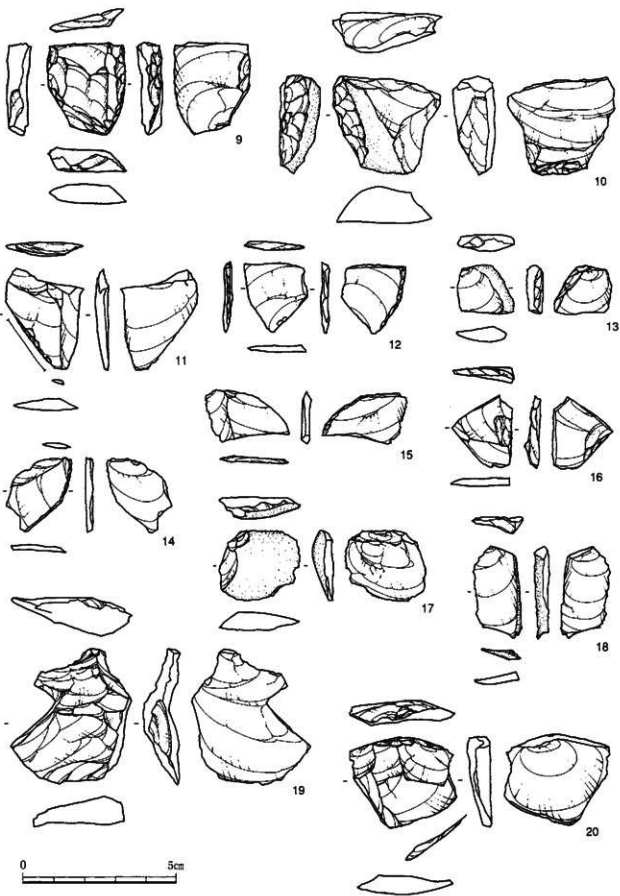
母岩No.33は暗青灰色を基調とした母岩で、剥離の稜が鈍くなっている点の特徴的である。石核1点(第138図153)、調整痕のある剥片1点(第135図131)、剥片3点で構成される。石核は210と同様の形態で、未調整打面から短軸方向に小型剥片が剥離されている。

第32表 第4文化層 石器組成表(1)

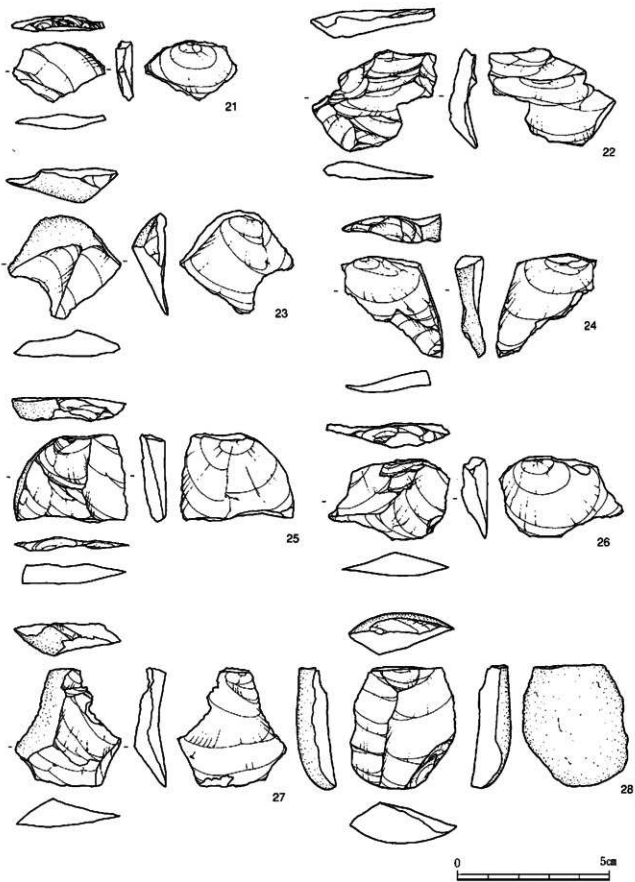
石器番号 - 品別	ナイフ形 石器	尖頭器	彫削刀形 石器	刮削	刮削	使用痕の ある母岩 - 品別	調整痕の ある母岩 - 品別	剥片	砕片	石核	石核	礫	礫片	合計	組成比
珪質頁岩A				1	5	2	40	6						54	6.0
				7.52	6.75	2.62	30.28	0.47						37.02	0.8
珪質頁岩B	6	11	5	5	2	55	19	207	20		4			414	48.4
	33.67	77.99	33.57	59.53	21.92	245.38	106.28	706.70	2.42		116.60			1403.96	32.2
珪質頁岩	1			1	6			9						11	1.2
	1.69			13.28	11.26			4.32						30.65	0.7
雲山部A	10		1		1	7	118	9			3			149	16.6
	131.21		15.62		3.15	11.60	400.82	0.87			170.92			733.29	16.8
雲山部B								6						6	0.7
								45.45						45.45	1.0
凝灰岩	1				1			58	6					78	8.7
	2.00				2.43			54.41	0.66					60.50	1.4
ホルンシムルス	1				2			47	7					56	6.5
	18.33				12.68			146.71	0.73					209.86	4.8
砂岩							14			1				27	4.7
								91.12		20.79				1248.82	28.6
チャート						1	12	1			1	2		17	1.9
							1.22	20.06	0.10		4.90	0.15		26.43	0.6
流紋岩								8			2	3		16	1.8
								18.81			193.52	70.07	194.08	476.49	10.9
メノウ					2			6						6	0.7
							7.36	32.88						40.24	0.9
粘板岩								2					2	4	0.4
								2.76					19.06	21.81	0.5
頁岩				1										1	0.1
				1.88										1.88	0.0
風化石							1							1	0.1
							1.20							1.20	0.0
ノジュール		1												1	0.1
		3.19												3.19	0.0
その他-不明								1	1					2	0.1
								0.35	0.27				10.26	13.08	0.6
合計	6	28	5	7	4	72	20	622	62	1	10	9	26	2096	100.0
	33.67	251.31	33.57	77.03	42.82	250.01	122.52	1528.68	5.52	20.79	401.04	81.18	1403.31	4505.25	100.0
組成比	0.7	2.8	0.6	0.8	0.4	8.0	3.3	70.5	6.9	0.1	1.1	0.7	4.0	100.0	
	0.8	5.2	0.8	1.8	1.0	8.6	2.8	35.2	6.1	0.5	11.1	1.9	22.1	100.0	



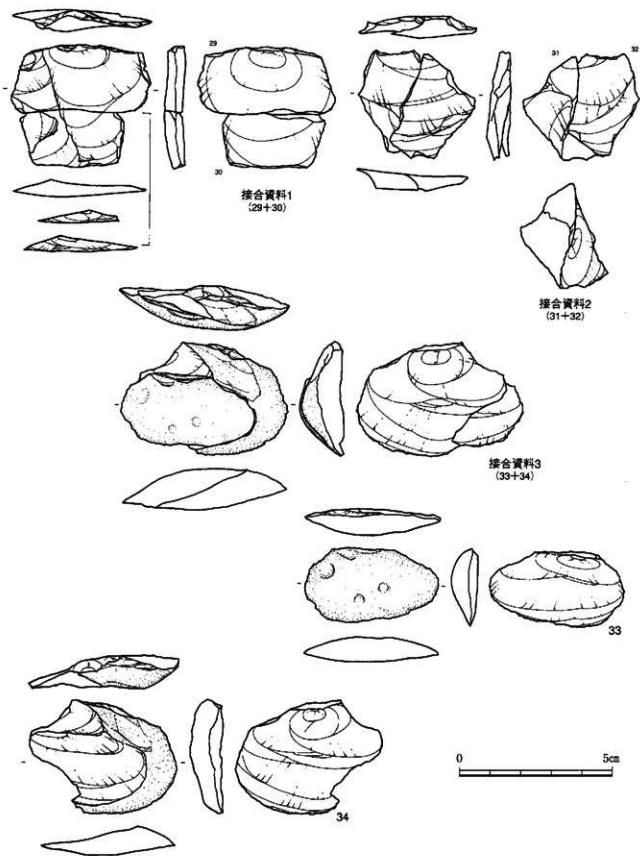
第120图 石器集中15 出上石器(1)



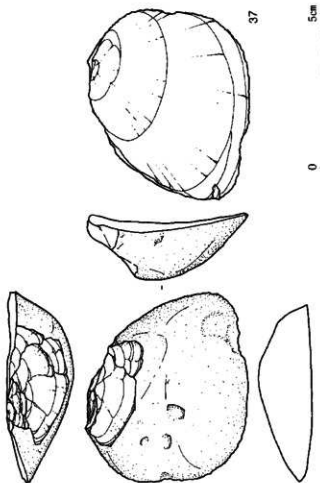
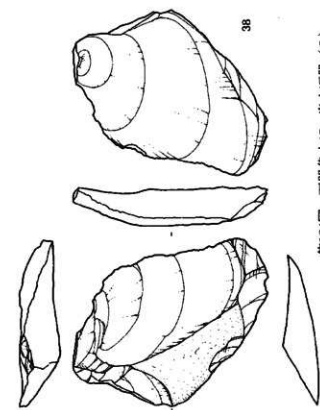
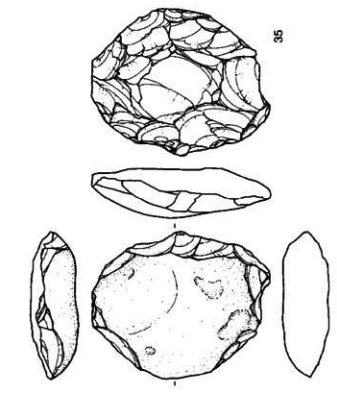
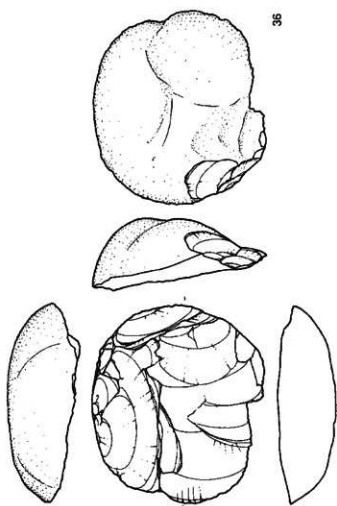
第121图 石器集中15 出土石器(2)



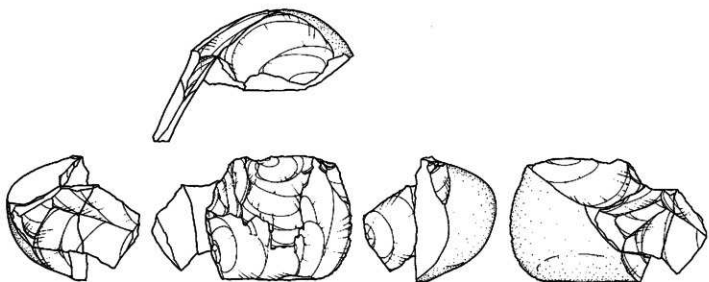
第122圖 石器集中15 出土石器（3）



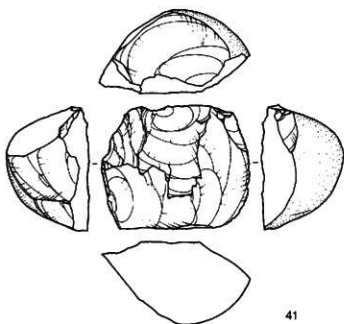
第123图 石器集中15 出土石器(4)



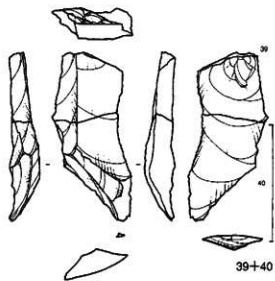
第124图 石器集中15 出土石器(5)



接合資料4  
(39~41)



41

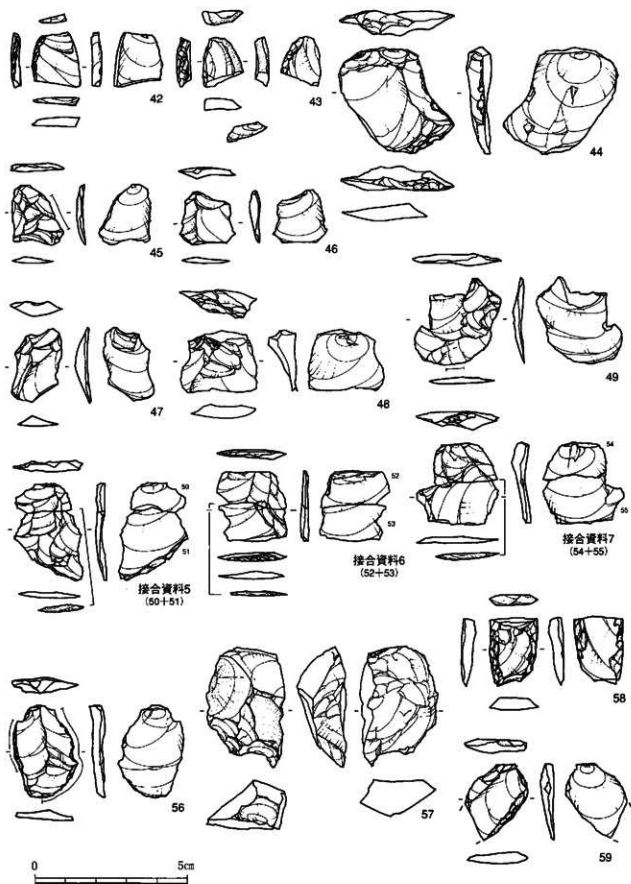


39+40

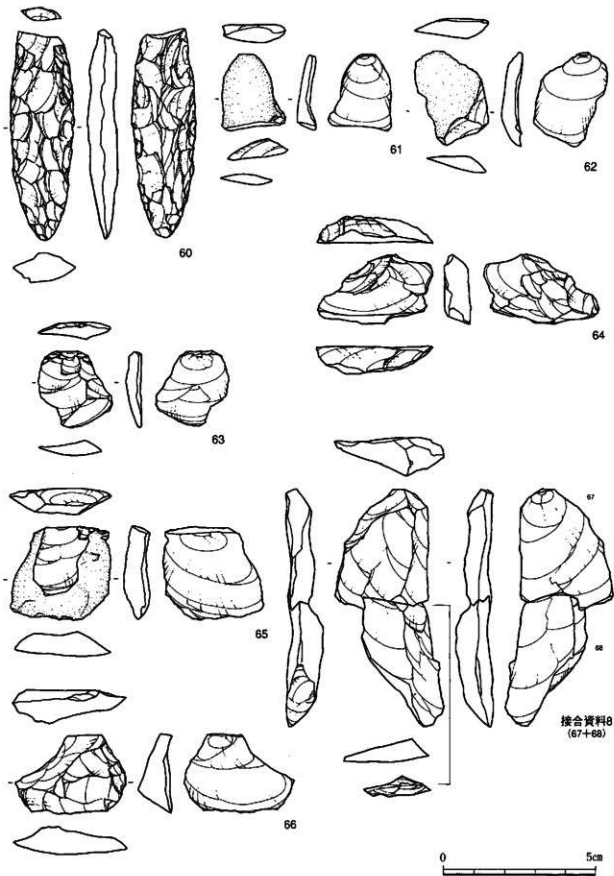


第125圖 石器集中15 出土石器(6)

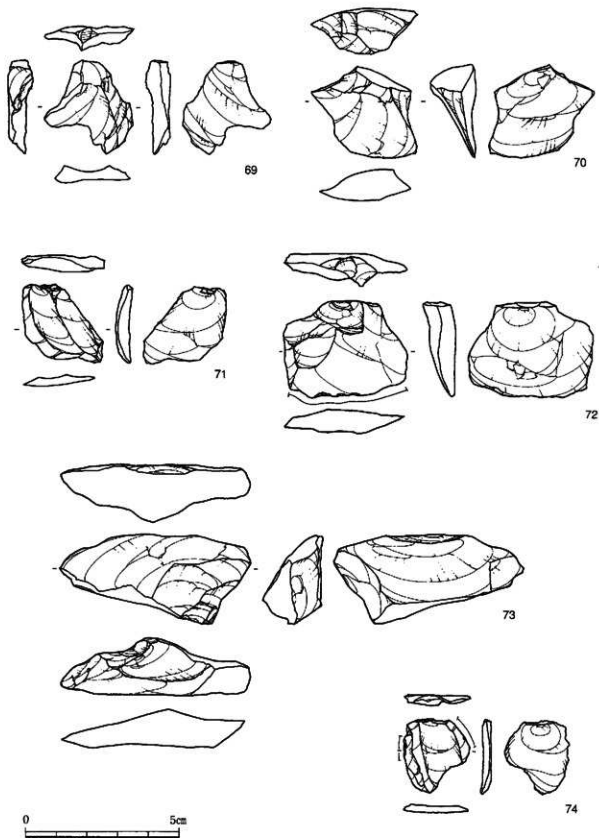




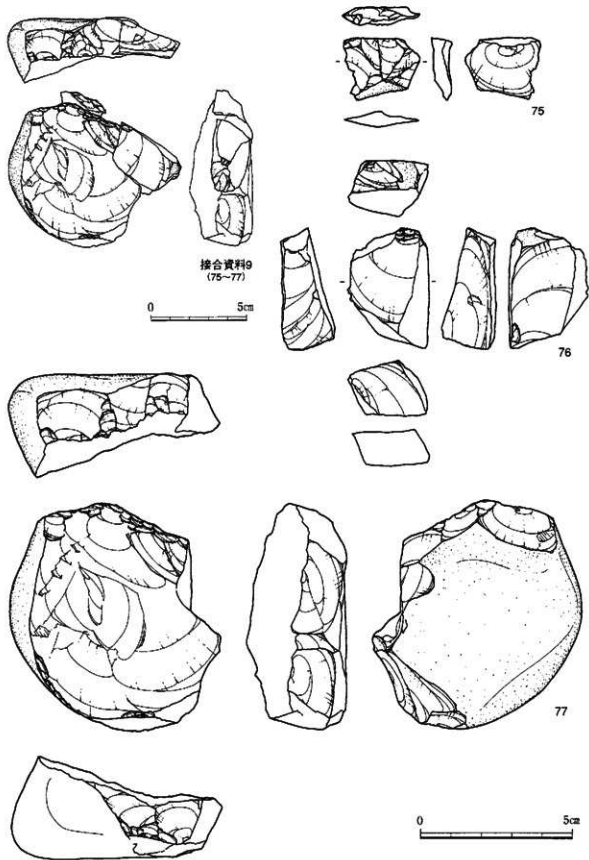
第126圖 石器集中15 出土石器 (7)



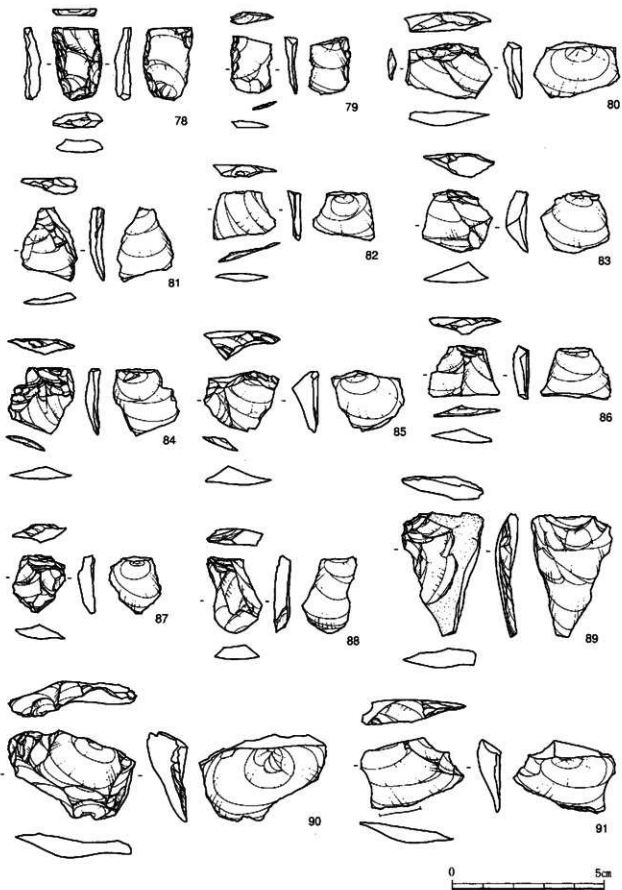
第127图 石器集中15 出土石器(8)



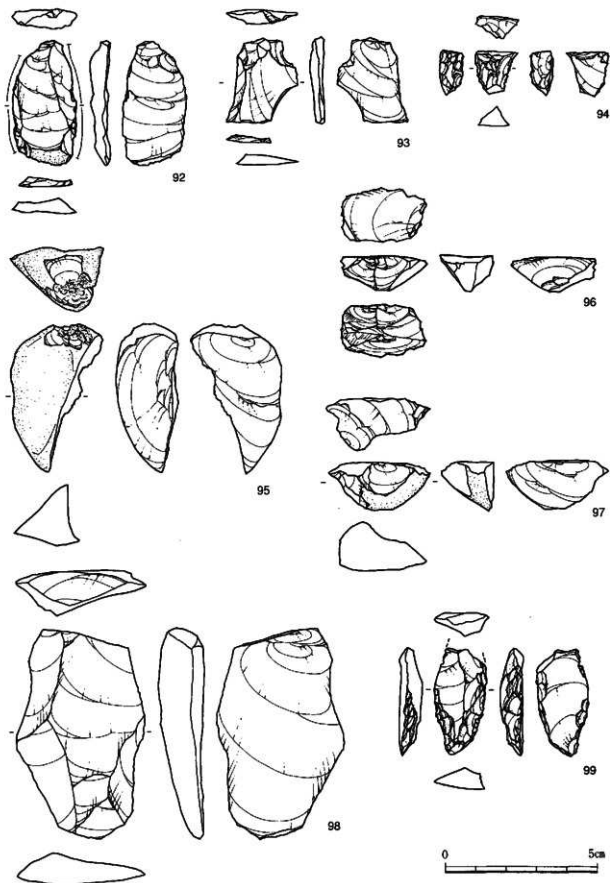
第128图 石器集中15 出土石器(9)



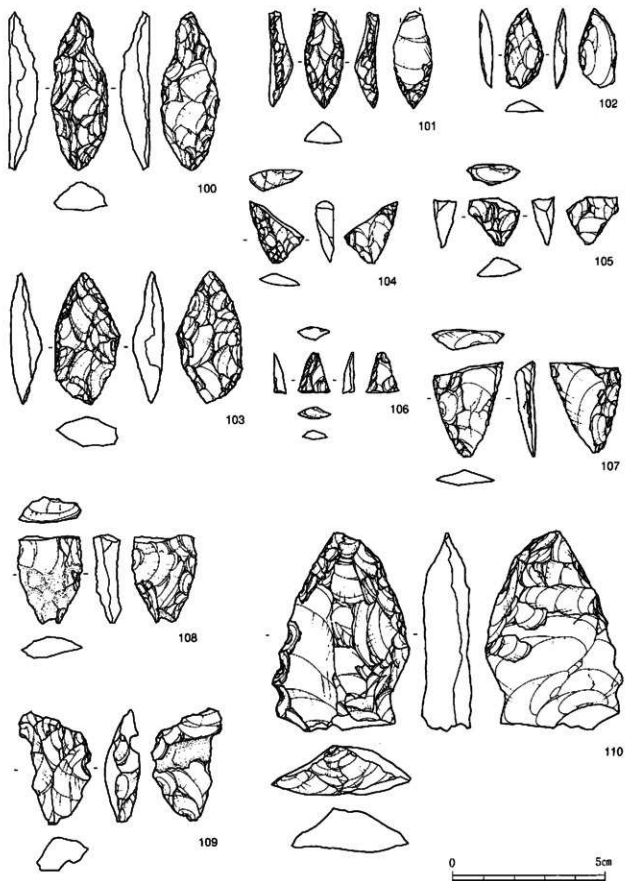
第129圖 石器集中15 出土石器 (10)



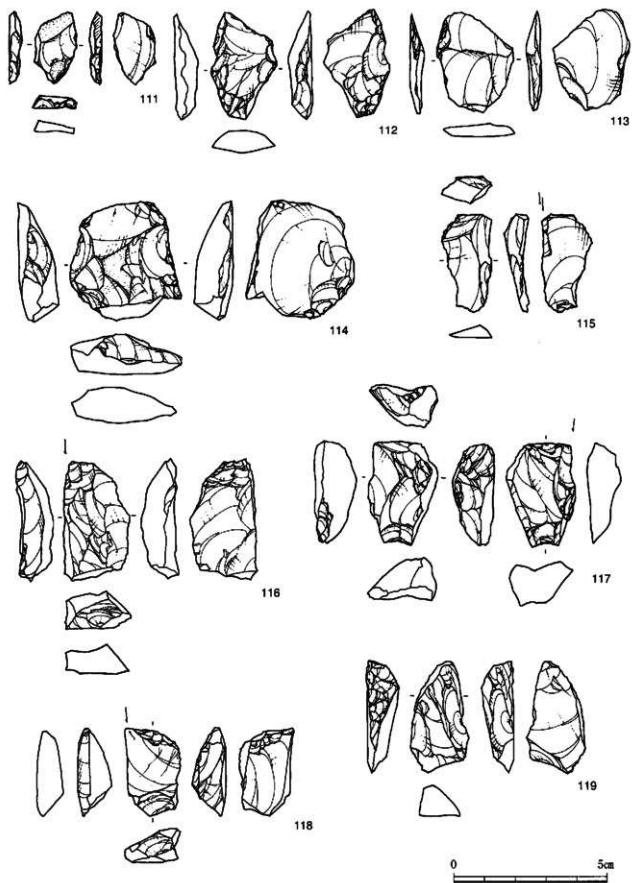
第130圖 石器集中15 出上石器 (11)



第131图 石器集中15 出土石器 (12)

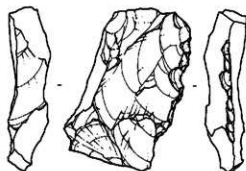
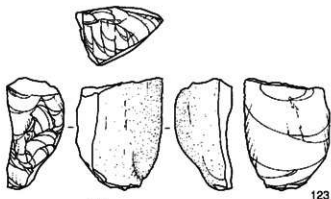
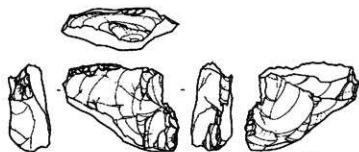
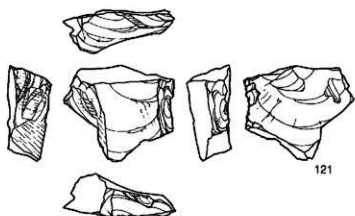
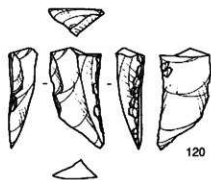


第132图 石器集中15 出土石器 (13)

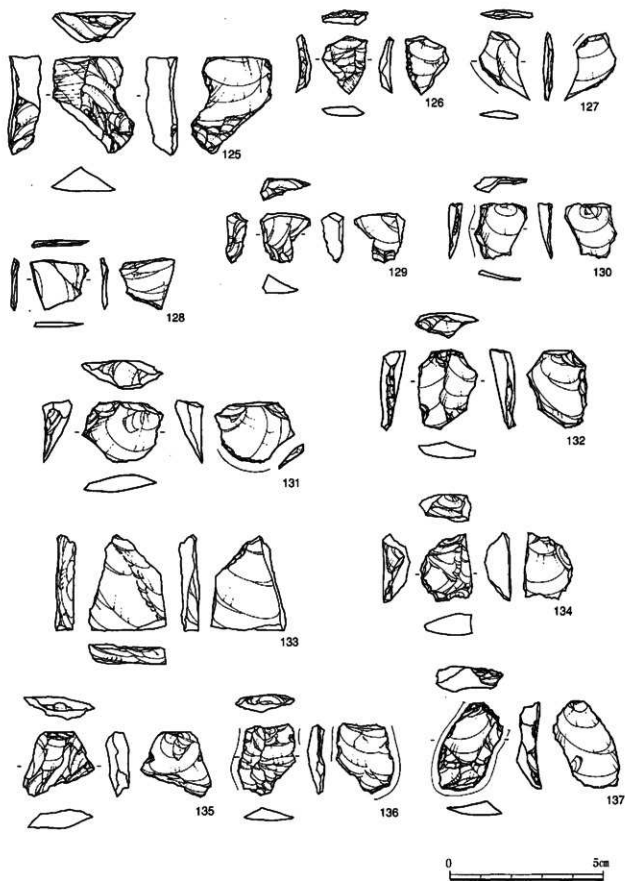


第133图 石器集中15 出土石器 (14)

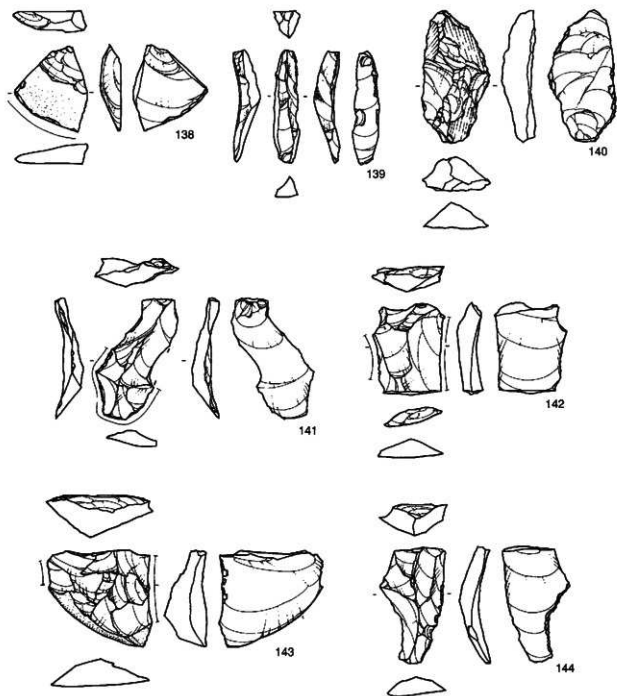




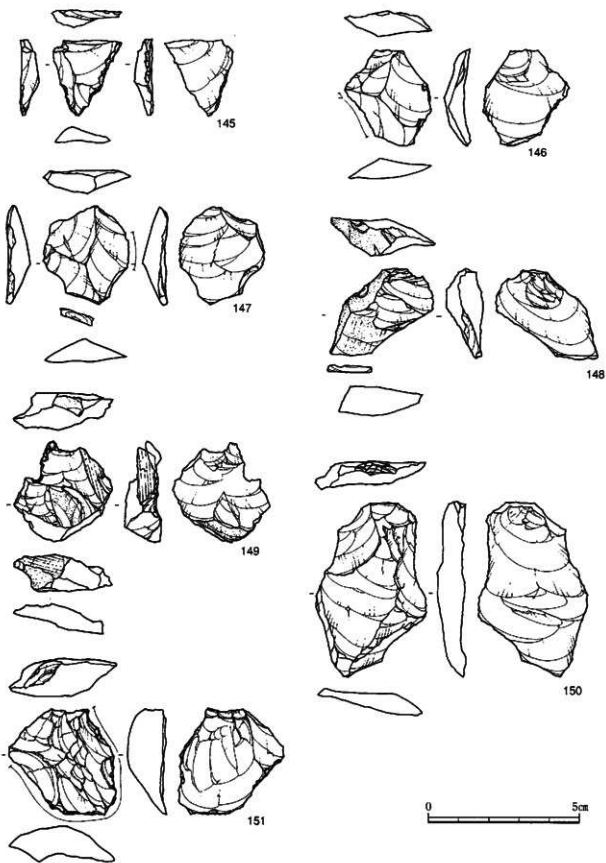
第134圖 石器集中15 出土石器 (15)



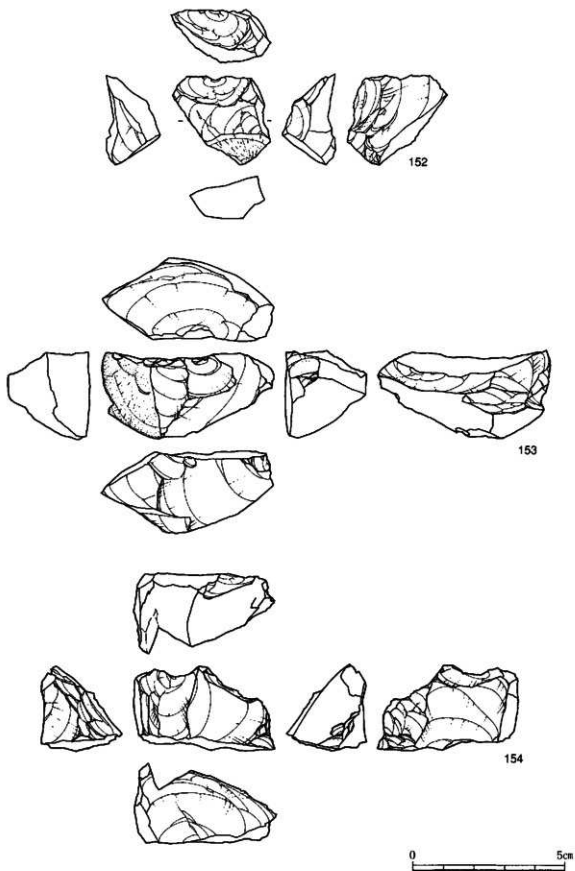
第135图 石器集中15 出土石器 (16)



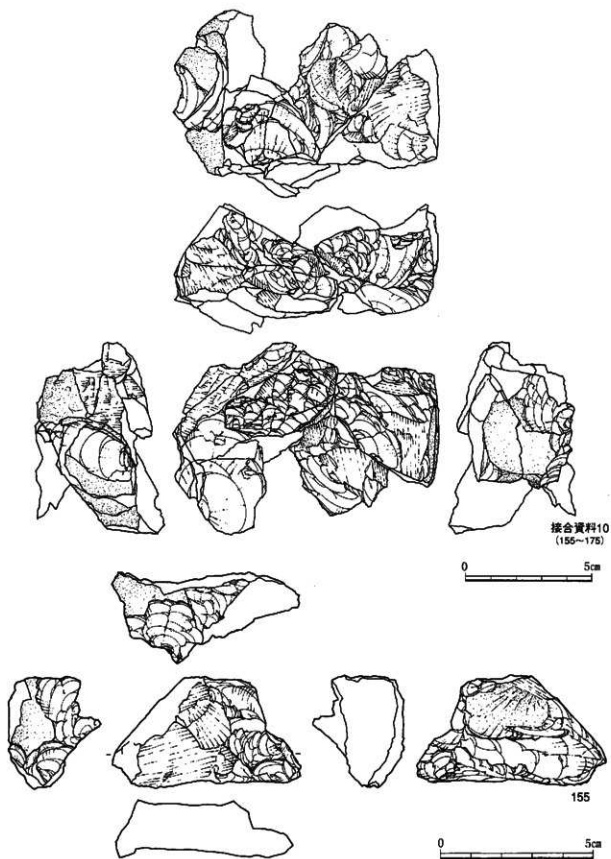
第136图 石器集中15 出土石器 (17)



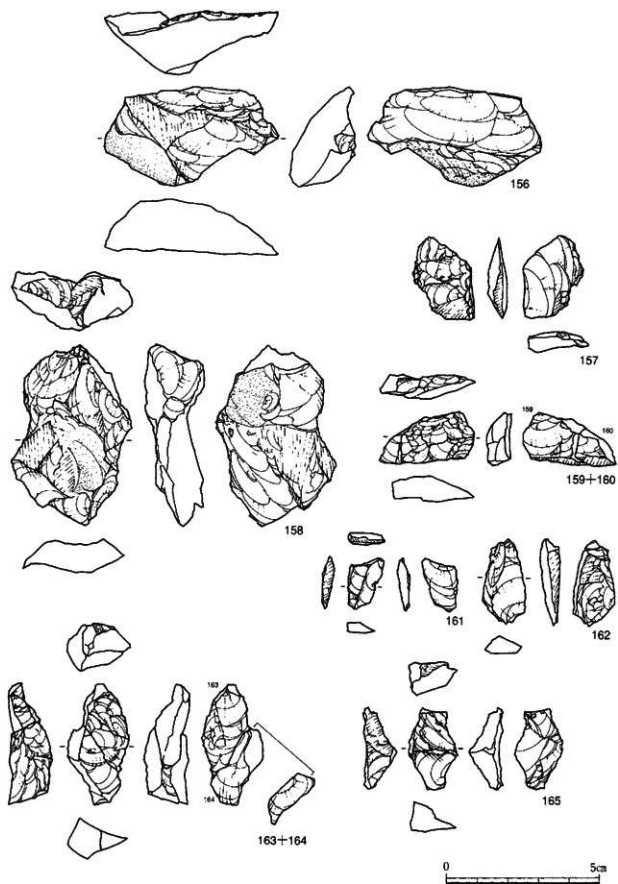
第137图 石器集中15 出土石器 (18)



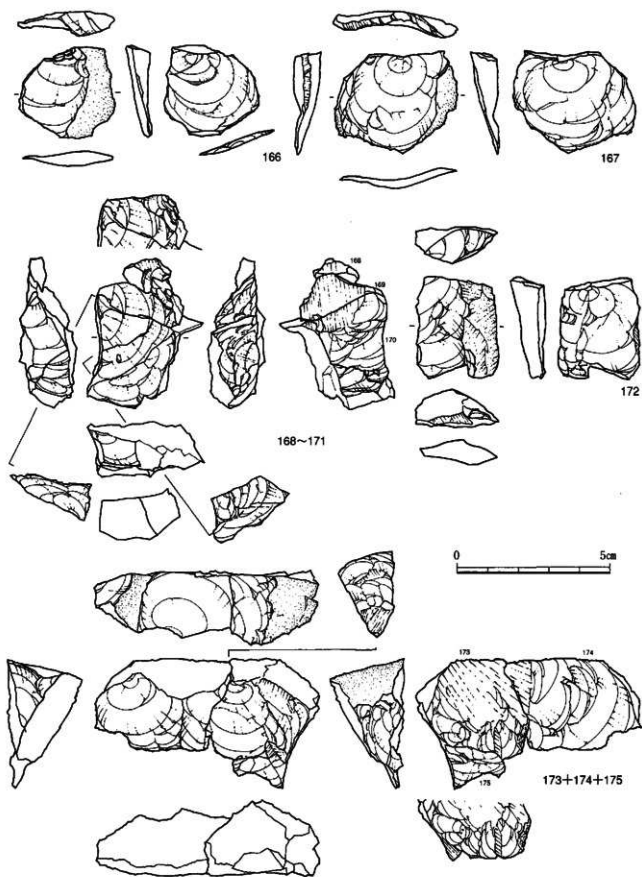
第138图 石器集中15 出土石器 (19)



第139圖 石器集中15 出土石器 (20)

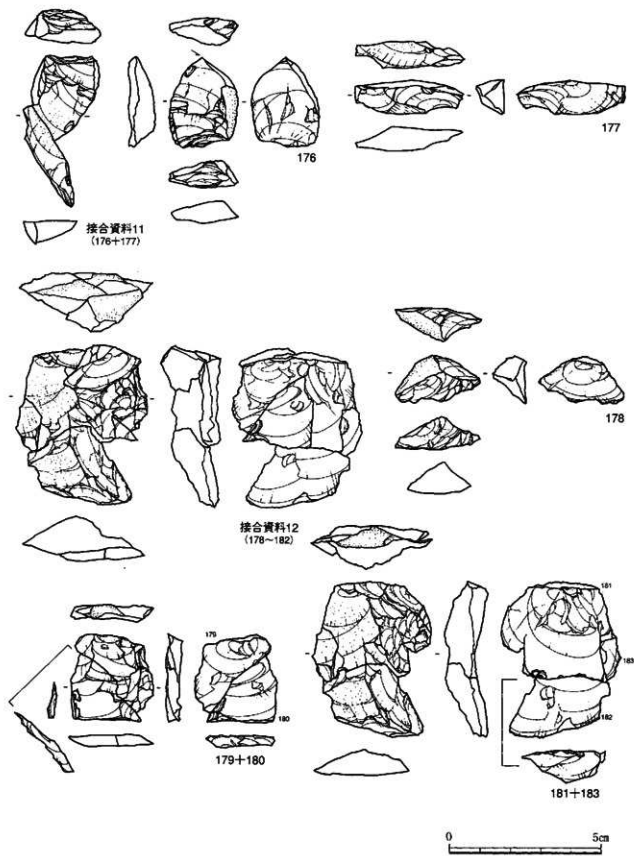


第140图 石器集中15 出土石器 (21)

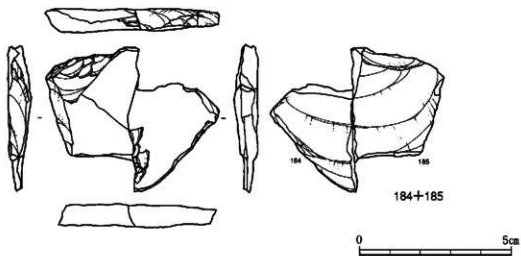
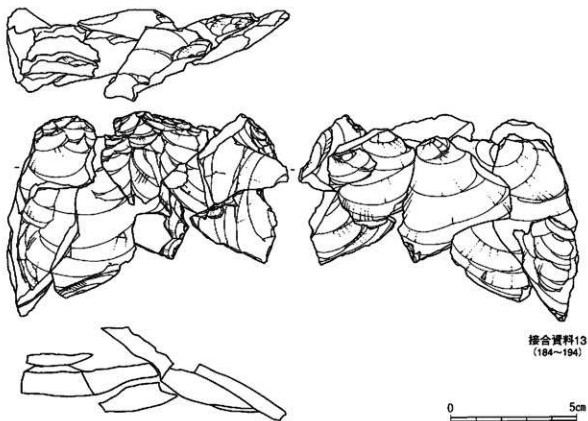


第141圖 石器集中15 出土石器 (22)

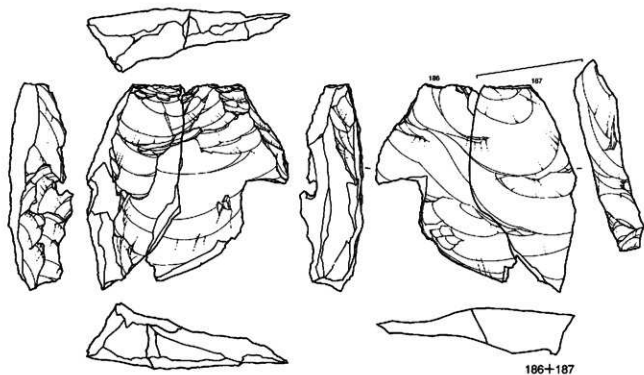




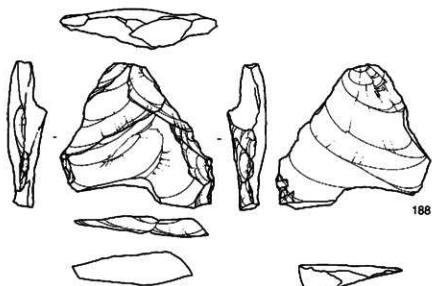
第142図 石器集中15 出土石器 (23)



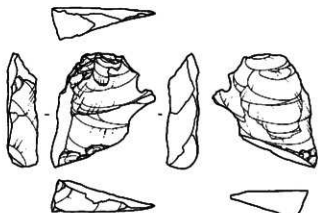
第143图 石器集中15 出土石器 (24)



186+187

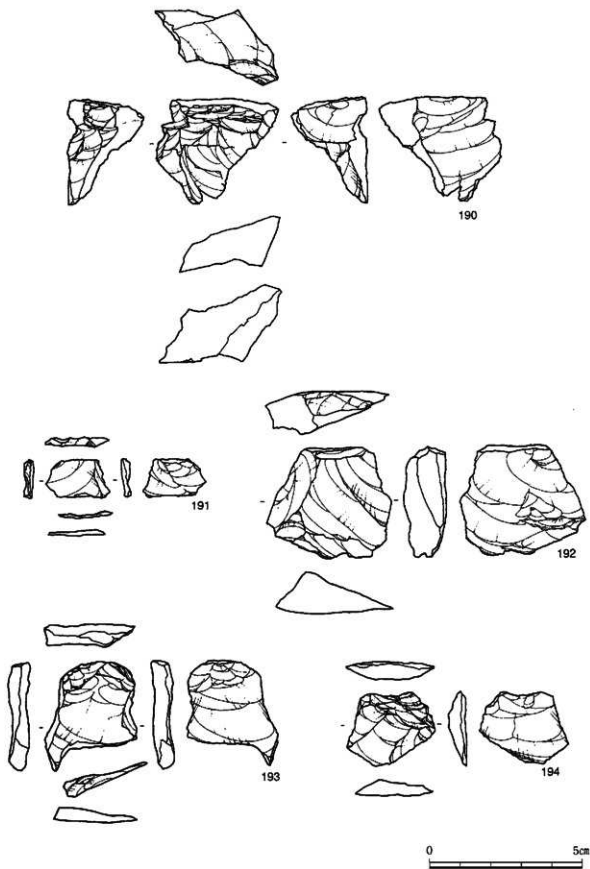


188

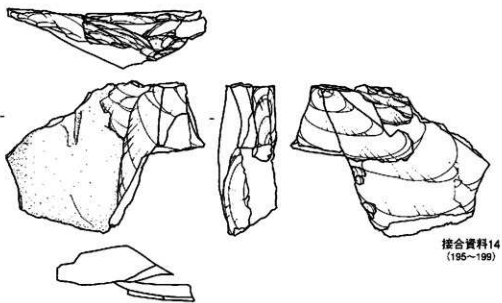


189

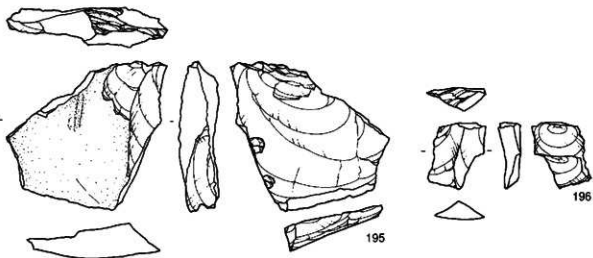
第144图 石器集中15 出土石器 (25)



第145圖 石器集中15 出土石器 (26)

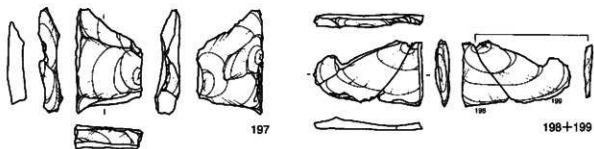


接合資料14  
(195~199)



195

196

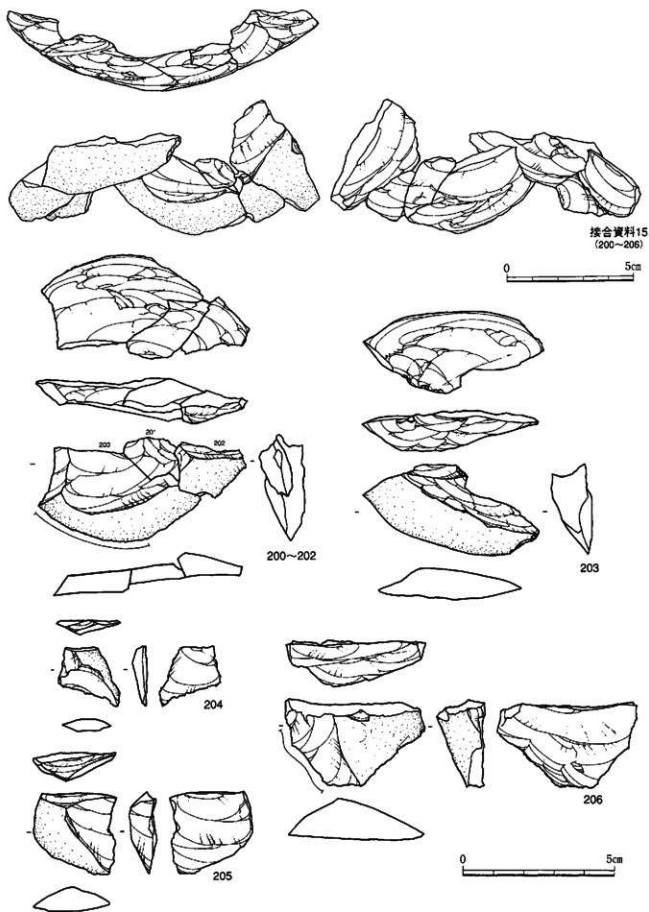


197

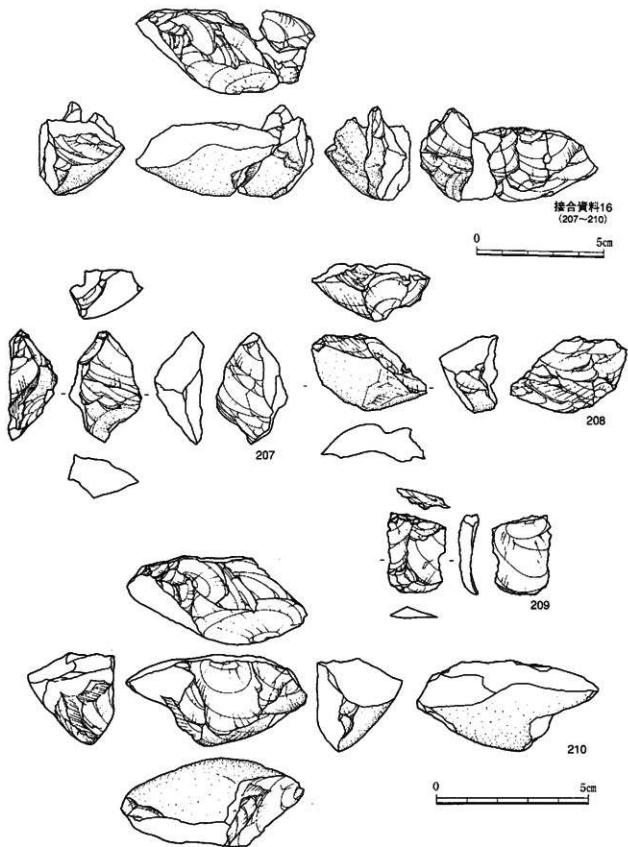
198+199



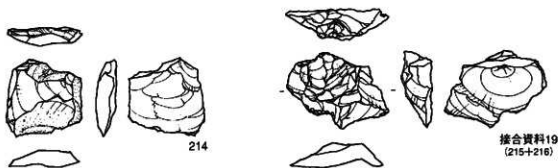
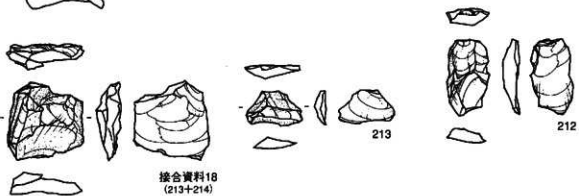
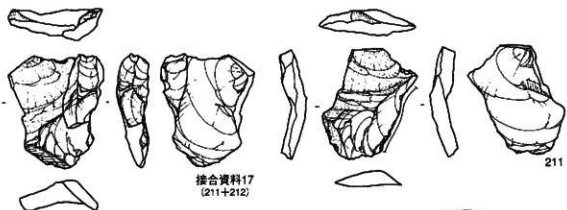
第146图 石器集15 出土石器 (27)



第147图 石器集中15 出土石器 (28)

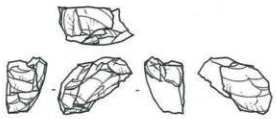


第148図 石器集中15 出土石器 (29)

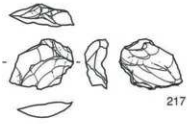


第149図 石器集中15 出土石器 (30)





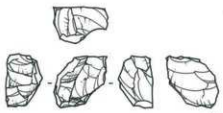
接合資料20  
(217+218)



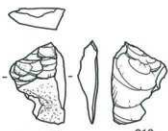
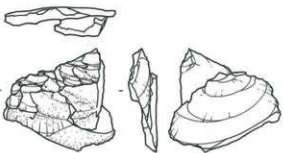
217



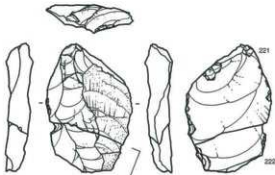
接合資料21  
(219+220)



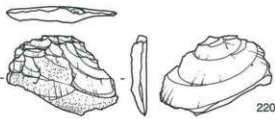
218



219



接合資料22  
(221+222)



220



第150圖 石器集中15 出土石器 (31)

第33表 第4文化層 石器組成表(2)

石器番号 品別	ナイフ形 石器	尖頭器	前期刀形 石器	刮削 器	使用面の ある刮削 器	剥片 ある刮削 器	剥片	断片	断石	砥石	磨	鎌片	合計
母体No1	1				5		41	3					31
母体No2	2.73		5.31		35.07		231.96	0.21					265.28
母体No3					1		7	4					12
母体No4					0.27		3.28	0.49					3.95
母体No5					1		1			1			3
母体No6					5.73		0.73		11.78				18.24
母体No7						2	8.54						8.54
母体No8					1		1						3
母体No9					2.37		6.22	0.34					8.93
母体No10					2		1						3
母体No11					4.34		0.59						4.93
母体No12					2		2						4
母体No13					0.02								0.02
母体No14		1			1		1						3
母体No15		9.47			2.54		3.27						15.28
母体No16				1			2						6
母体No17					3.55		0.78						10.49
母体No18							4	17					21
母体No19							45.35	128.55					173.90
母体No20					1		10		1				14
母体No21	5.58				2.10		28.32	24.27	0.25				60.72
母体No22					3		10	1					15
母体No23					4.89		13.20	0.07	26.48				44.74
母体No24					1		17	1					20
母体No25		41.41			0.65		14.34	0.24					56.64
母体No26							54.31						7
母体No27							3			1			54.31
母体No28							22.55		49.51				4
母体No29					3		15						63.06
母体No30					21.48		12.96						34.44
母体No31				1			1						2
母体No32				23.19			1.92						25.11
母体No33							3						3
母体No34							2.73						2.73
母体No35							6						6
母体No36							6.39						6.39
母体No37							2						2
母体No38							6.88						6.88
母体No39					1		7.88						14.17
母体No40			6.29				3						3
母体No41							2.38						2.38
母体No42							2						2
母体No43							6.78						6.78
母体No44							3						3
母体No45					3.05		2.62						6.50
母体No46							3						3
母体No47							6.78						6.78
母体No48							2						2
母体No49							2.01						2.01
母体No50							2						2
母体No51							5.37						5.37
母体No52							2						2
母体No53							6.46						6.46
母体No54							4						4
母体No55							3.73						3.73
母体No56					2		3						5
母体No57					2.86		6.29						9.15
母体No58					3		1						3
母体No59					8.20		1.06						9.26
母体No60					24.30		5	0.99	0.68				10
母体No61							1	3					5
母体No62							3.38	11.17					15.28
母体No63							4	30		37.83			69
母体No64							4.96	1.11	10.03	0.47			16.47
母体No65		1			1		63	8					73
母体No66		2.00			3.43		90.04	0.96					96.13
母体No67							4						4
母体No68							1.73						1.73
母体No69		1					12						14
母体No70		15.33					9.77						25.10
母体No71							21						21
母体No72							84.45						84.45
母体No73							2						2
母体No74							5.35						5.35
母体No75							2						2
母体No76							26.19						26.19
母体No77							8			2			10
母体No78							18.81		193.52				212.33
母体No79											3		3
母体No80											194.09		194.09
母体No81							11	1		1			13
母体No82							12.29	6.10		4.90			17.29
母体No83					1		8						9
母体No84					2.49		32.88						35.37
母体No85							5					23	28
母体No86							61.56					1101.06	1162.62
母体No87											35.08		35.08
母体No88							2			1			3
母体No89							8.03			65.08			73.11
母体No90							2						2
母体No91							24.47						24.47
母体No92							2						2
母体No93							8.95						8.95
母体No94							2						2
母体No95							10.49						10.49

第34表 第4文化層 石器一覽表(1)

石器種別	品名	発掘層	石種	発見率 %	最大 長さ	最大 幅	最大 厚	重量	備考	心部 磨削 割合 %	側部 磨削 割合 %	刃部 磨削 割合 %	年代 推定 %	最大 長さ (mm)	最大 幅 (mm)	最大 厚 (mm)	重量 (g)	位置	備考	
15	10005	0023	Pu	Ad-A	23.9	18.1	0.65	2.55	割削	39.64				28.3	23.7	0.7	2.61	割削	39.60	
15	10015	0024	Pu	Ad-A	39.9	18.1	0.65	2.55	割削	39.64				14.4	13.1	1.2	1.25	割削	39.32	
15	10090	0025	Pu	Ad-A	15.3	18.2	0.66	2.56	割削	39.98				48.2	24.8	20.3	19.79	割削	39.16	
15	10094	0026	Pu	Ad-A	50.4	38.9	1.62	22.74	割削	39.39				11.8	26.8	17.1	4.95	割削	39.61	
15	10096	0027	Pu	Ad-A	30.3	19.6	0.59	2.15	割削	39.39				16.7	16.5	0.8	1.76	割削	39.61	
15	10098	0028	Pu	Ad-A	21.2	18.2	0.66	2.56	割削	39.64				63.2	42.0	15.5	33.07	割削	39.50	
15	10099	0029	Pu	Ad-A	30.8	20.4	0.64	2.42	割削	39.64				34.8	18.1	1.6	3.19	割削	39.77	
15	10099	0030	Pu	Ad-A	37.7	26.5	0.58	2.18	割削	39.94				18.8	18.8	0.8	8.89	割削	39.47	
15	10099	0031	Pu	Ad-A	20.4	25.6	0.74	2.92	割削	39.25				39.6	22.0	4.2	12.8	割削	39.62	
15	10099	0032	Pu	Ad-A	29.8	25.6	0.64	2.56	割削	39.64				42.1	21.3	10.7	14.79	割削	39.42	
15	10099	0033	Pu	Ad-A	22.8	21.8	0.4	1.36	割削	39.64				18.4	17.2	0.8	1.22	割削	39.49	
15	10099	0034	Pu	Ad-A	18.8	17.8	0.59	1.81	割削	39.62				19.6	16.8	0.8	1.22	割削	39.49	
15	10099	0035	Pu	Ad-A	18.1	25.6	0.6	1.8	割削	39.24				15.8	16.2	0.5	6.38	割削	39.52	
15	10099	0036	Pu	Ad-A	24.3	20.5	0.2	1.26	割削	39.37				28.5	21.6	0.2	3.34	割削	39.59	
15	10099	0037	Pu	Ad-A	16.3	20.7	0.42	1.76	割削	39.92				39.3	27.4	0.2	8.49	割削	39.47	
15	10099	0038	Pu	Ad-A	23.5	26.5	0.47	4.11	割削	39.39				35.2	24.3	11.6	6.66	割削	39.26	
15	10099	0039	Pu	Ad-A	29.8	15.6	0.3	1.88	割削	39.26				23.5	22.6	1.5	2.26	割削	39.49	
15	10099	0040	Pu	Ad-A	42.5	21.7	0.12	0.72	割削	39.102				24.5	13.2	1.4	1.29	割削	39.27	
15	10099	0041	Pu	Ad-A	29.8	17.7	0.47	1.84	割削	39.49				33.8	21.6	6.0	4.82	割削	39.55	
15	10099	0042	Pu	Ad-A	39.8	28.8	0.9	2.69	割削	39.27				23.2	20.6	4.4	3.33	割削	39.44	
15	10099	0043	Pu	Ad-A	54.4	26.6	0.78	9.75	割削	39.129				27.4	22.7	11.5	16.11	割削	39.47	
15	10099	0044	Pu	Ad-A	21.3	18.1	0.65	2.55	割削	39.64				21.4	18.8	1.5	2.87	割削	39.44	
15	10099	0045	Pu	Ad-A	36.7	20.3	0.3	0.27	割削	39.304				15.3	10.8	10.6	16.66	割削	39.47	
15	10099	0046	Pu	Ad-A	38.1	37.7	0.9	9.88	割削	39.22				39.8	22.1	18.4	9.81	割削	39.50	
15	10099	0047	Pu	Ad-A	36.4	28.8	0.78	1.89	割削	39.147				19.6	20.0	0.6	3.26	割削	39.56	
15	10099	0048	Pu	Ad-A	29.8	25.6	0.64	2.56	割削	39.64				26.2	18.6	0.2	6.28	割削	39.16	
15	10099	0049	Ca	Ad-A	22.5	25.5	0.24	0.78	割削	39.474				13.8	16.5	0.9	3.64	割削	39.414	
15	10099	0050	Pu	Ad-A	22.6	45.5	0.4	6.49	割削	39.354				21.2	26.3	13.5	12.26	割削	39.59	
15	10099	0051	Pu	Ad-A	50	1	1	1	割削	39.302				27.4	28.4	13.25	12.95	割削	39.421	
15	10099	0052	Pu	Ad-A	49	2	1	1	割削	39.366				35.8	29.3	18.5	16.61	割削	39.16	
15	10099	0053	Pu	Ad-A	49	2	1	1	割削	39.324				32.2	34.6	22.7	23.19	割削	39.40	
15	10099	0054	Pu	Ad-A	48	3	1	1	割削	39.287				31.7	25.9	9.3	5.22	割削	39.52	
15	10099	0055	Pu	Ad-A	48	3	1	1	割削	39.144				14.4	14.4	0.3	0.99	割削	39.518	
15	10099	0056	Pu	Ad-A	48	3	1	1	割削	39.111				18.4	19.4	2.8	5.74	割削	39.445	
15	10099	0057	Pu	Ad-A	48	3	1	1	割削	39.465				15.8	16.8	2.6	3.68	割削	39.474	
15	10099	0058	Pu	Ad-A	48	3	1	1	割削	39.102				16.6	17.2	0.3	1.29	割削	39.274	
15	10099	0059	Pu	Ad-A	48	3	1	1	割削	39.354				13.1	15.9	2.6	3.76	割削	39.489	
15	10099	0060	Pu	Ad-A	47	4	1	1	割削	39.244				27.1	28.4	8.36	3.26	割削	39.538	
15	10099	0061	Pu	Ad-A	47	4	1	1	割削	39.222				36.5	35.2	6.2	12.61	割削	39.46	
15	10099	0062	Pu	Ad-A	47	4	1	1	割削	39.174				31.1	25.6	6.4	5.78	割削	39.294	
15	10099	0063	Pu	Ad-A	47	4	1	1	割削	39.219				2.3	15.8	1.9	3.29	割削	39.587	
15	10099	0064	Pu	Ad-A	47	4	1	1	割削	39.244				38.1	22.7	6.4	2.24	割削	39.414	
15	10099	0065	Pu	Ad-A	47	4	1	1	割削	39.222				22.2	13.2	1.8	1.29	割削	39.489	
15	10099	0066	Pu	Ad-A	47	4	1	1	割削	39.244				38.8	17.7	2.6	3.29	割削	39.254	
15	10099	0067	Pu	Ad-A	47	4	1	1	割削	39.194				38.1	21.7	4.1	3.72	割削	39.715	
15	10099	0068	Pu	Ad-A	47	4	1	1	割削	39.586				37.9	8.3	0.8	1.77	割削	39.489	
15	10099	0069	Pu	Ad-A	47	4	1	1	割削	39.411				43.2	21.2	19.6	8.11	割削	39.545	
15	10099	0070	Pu	Ad-A	47	4	1	1	割削	39.661				63.3	38.4	14.2	12.6	割削	39.249	
15	10099	0071	Pu	Ad-A	47	4	1	1	割削	39.586				29.8	24.2	7.4	5.33	割削	39.564	
15	10099	0072	Pu	Ad-A	47	4	1	1	割削	39.244				31.1	33.6	13.4	11.8	割削	39.572	
15	10099	0073	Pu	Ad-A	47	4	1	1	割削	39.238				27.6	37.5	9.6	4.26	割削	39.563	
15	10099	0074	Pu	Ad-A	47	4	1	1	割削	39.461				34.4	22.1	5.6	2.25	割削	39.529	
15	10099	0075	Pu	Ad-A	47	4	1	1	割削	39.287				36.8	29.2	2.8	3.23	割削	39.349	
15	10099	0076	Pu	Ad-A	47	4	1	1	割削	39.487				34.2	29.3	7.3	4.69	割削	39.589	
15	10099	0077	Pu	Ad-A	47	4	1	1	割削	39.52				28.7	31.9	11.8	2.87	割削	39.494	
15	10099	0078	Pu	Ad-A	47	4	1	1	割削	39.846				32.8	33.4	1.4	5.65	割削	39.511	
15	10099	0079	Pu	Ad-A	47	4	1	1	割削	39.822				38.3	36.5	7.2	1.36	割削	39.972	
15	10099	0080	Pu	Ad-A	47	4	1	1	割削	39.221				33.6	35.2	12.1	11.65	割削	39.382	
15	10099	0081	Pu	Ad-A	47	4	1	1	割削	39.481				25.8	28.1	8.1	1.29	割削	39.814	
15	10099	0082	Pu	Ad-A	47	4	1	1	割削	39.544				25.5	28.2	26.9	37.89	割削	39.292	
15	10099	0083	Pu	Ad-A	47	4	1	1	割削	39.521				11.8	16.8	1.8	4.68	割削	39.292	
15	10099	0084	Pu	Ad-A	47	4	1	1	割削	39.521				10.5	16.2	0.29	44.12	割削	39.489	
15	10099	0085	Pu	Ad-A	47	4	1	1	割削	39.259				11.8	14.6	0.55	20.91	2.31	割削	39.66
15	10099	0086	Pu	Ad-A	47	4	1	1	割削	39.300				10.4	14.4	0.21	2.72	割削	39.611	
15	10099	0087	Pu	Ad-A	47	4	1	1	割削	39.277				10.4	14.4	0.21	2.72	割削	39.611	
15	10099	0088	Pu	Ad-A	47	4	1	1	割削	39.386				10.5	14.6	0.1	2.82	割削	39.611	
15	10099	0089	Pu	Ad-A	47	4	1	1	割削	39.189				11.0	13.5	1.58	1.22	割削	39.643	
15	10099	0090	Pu	Ad-A	47	4	1	1	割削	39.127				10.						

第35表 第4文化層 石器一覧表(2)

石器種別 番号	発掘 層	種別	形状	長さ mm	最大 幅 mm	最大 厚 mm	重量 g	備考	図号
15 0802 0202 01	SSb-9	10	13	36.2	33.8	3.3	60.70	普通	31.20
15 0802 0202 02	SSb-9	10	13	65.8	47.7	11.6	21.80	普通	33.50
15 0802 0202 03	SSb-9	10	13	31.1	36.8	19.3	42.90	普通	30.40
15 0802 0202 04	SSb-9	10	13	43.1	36.1	12.5	21.00	普通	34.40
15 0802 0202 05	SSb-9	10	13	36.6	36.6	8.2	4.40	普通	30.70
15 0802 0202 06	SSb-9	10	13	36.1	40.2	11.4	17.70	普通	35.50
15 0802 0202 07	SSb-9	10	13	12.6	26.6	2.5	6.00	普通	30.45
15 0802 0202 08	SSb-9	10	13	36.9	36.1	12.8	16.50	普通	30.20
15 0802 0202 09	SSb-9	10	13	36.6	26.6	4.6	5.00	普通	31.10
15 0802 0202 10	SSb-9	10	13	33.0	20.0	5.5	1.80	普通	30.50
15 0802 0202 11	SSb-9	11	14	47.8	33.8	11.6	28.50	普通	30.80
15 0802 0202 12	SSb-9	11	14	31.6	32.7	7.2	1.80	普通	30.40
15 0802 0202 13	SSb-9	11	14	33.7	22.7	7.2	3.50	普通	30.50
15 0802 0202 14	SSb-9	11	14	29.1	34.0	3.4	3.80	普通	30.50
15 0802 0202 15	SSb-9	11	14	18.4	20.1	4.1	2.20	普通	30.80
15 0802 0202 16	SSb-9	11	14	38.4	30.7	13.7	13.60	普通	30.40
15 0802 0202 17	SSb-9	11	14	32.5	25.2	9.2	3.00	普通	30.50
15 0802 0202 18	SSb-9	11	14	18.7	23.2	8.6	2.30	普通	30.50
15 0802 0202 19	SSb-9	11	14	25.8	38.3	13.0	13.30	普通	30.10
15 0802 0202 20	SSb-9	11	14	19.2	19.8	4.5	0.90	普通	30.40
15 0802 0202 21	SSb-9	11	14	26.7	27.5	8.6	3.60	普通	30.40
15 0802 0202 22	SSb-9	11	14	21.2	27.2	8.2	4.60	普通	30.40
15 0802 0202 23	SSb-9	11	14	36.3	24.2	15.1	1.60	普通	30.50
15 0802 0202 24	SSb-9	11	14	26.5	30.4	17.4	1.80	普通	30.60
15 0802 0202 25	SSb-9	11	14	26.2	21.4	4.1	2.20	普通	30.40
15 0802 0202 26	SSb-9	11	14	36.2	20.8	7.4	1.50	普通	30.40
15 0802 0202 27	SSb-9	11	14	24.8	13.7	5.4	1.70	普通	30.40
15 0802 0202 28	SSb-9	11	14	21.9	25.5	3.4	0.90	普通	30.40
15 0802 0202 29	SSb-9	11	14	25.6	20.8	6.4	4.60	普通	30.40
15 0802 0202 30	SSb-9	11	14	21.1	27.8	5.5	1.80	普通	30.40
15 0802 0202 31	SSb-9	11	14	21.6	22.4	6.8	1.80	普通	30.50
15 0802 0202 32	SSb-9	11	14	17.4	13.8	7.1	1.70	普通	30.40
15 0802 0202 33	SSb-9	11	14	18.7	17.9	11.9	1.60	普通	30.40
15 0802 0202 34	SSb-9	11	14	25.4	18.1	8.2	2.40	普通	30.40
15 0802 0202 35	SSb-9	11	14	24.7	27.3	6.4	4.00	普通	30.40
15 0802 0202 36	SSb-9	11	14	31.2	28.1	9.1	6.30	普通	30.40
15 0802 0202 37	SSb-9	11	14	21.1	20.1	5.1	2.30	普通	30.40
15 0802 0202 38	SSb-9	11	14	27.7	27.3	15.2	1.90	普通	30.40
15 0802 0202 39	SSb-9	11	14	18.9	14.3	2.4	0.30	普通	30.40
15 0802 0202 40	SSb-9	11	14	28.4	20.7	10.9	4.00	普通	30.40
15 0802 0202 41	SSb-9	11	14	15.0	14.4	6.7	1.20	普通	30.40
15 0802 0202 42	SSb-9	11	14	14.4	18.1	1.4	0.30	普通	30.40
15 0802 0202 43	SSb-9	11	14	5.4	5.4	1.2	0.10	普通	30.40
15 0802 0202 44	SSb-9	11	14	15.0	15.0	1.2	0.50	普通	30.40
15 0802 0202 45	SSb-9	11	14	7.4	7.4	1.1	0.60	普通	30.40
15 0802 0202 46	SSb-9	11	14	17.7	15.2	4.8	1.40	普通	30.40
15 0802 0202 47	SSb-9	11	14	17.4	16.4	5.4	0.30	普通	30.40
15 0802 0202 48	SSb-9	11	14	13.8	16.8	4.8	2.80	普通	30.40
15 0802 0202 49	SSb-9	11	14	21.6	20.6	4.2	3.10	普通	30.40
15 0802 0202 50	SSb-9	11	14	18.5	20.5	4.2	2.60	普通	30.40
15 0802 0202 51	SSb-9	11	14	12.2	23.1	2.4	0.80	普通	30.40
15 0802 0202 52	SSb-9	11	14	17.2	19.0	4.2	3.00	普通	30.40
15 0802 0202 53	SSb-9	11	14	20.4	17.0	3.5	1.40	普通	30.40
15 0802 0202 54	SSb-9	11	14	20.7	18.8	6.2	3.20	普通	30.50
15 0802 0202 55	SSb-9	11	14	22.8	23.1	2.4	0.80	普通	30.40
15 0802 0202 56	SSb-9	11	14	22.4	22.4	4.2	2.20	普通	30.40
15 0802 0202 57	SSb-9	11	14	33.1	18.0	6.3	3.30	普通	30.40
15 0802 0202 58	SSb-9	11	14	29.7	31.7	4.4	1.90	普通	30.40
15 0802 0202 59	SSb-9	11	14	24.0	20.3	10.6	4.20	普通	30.40
15 0802 0202 60	SSb-9	11	14	13.4	13.4	2.4	0.30	普通	30.40
15 0802 0202 61	SSb-9	11	14	21.9	18.8	5.2	1.60	普通	30.40
15 0802 0202 62	SSb-9	11	14	22.1	18.0	11.1	0.50	普通	30.40
15 0802 0202 63	SSb-9	11	14	38.5	20.3	5.1	2.30	普通	30.40
15 0802 0202 64	SSb-9	11	14	24.8	21.4	5.1	0.20	普通	30.40
15 0802 0202 65	SSb-9	11	14	36.7	21.7	5.9	1.20	普通	30.40
15 0802 0202 66	SSb-9	11	14	14.9	17.7	6.7	0.30	普通	30.40
15 0802 0202 67	SSb-9	11	14	15.6	14.0	2.9	1.60	普通	30.40
15 0802 0202 68	SSb-9	11	14	16.4	14.3	3.2	0.90	普通	30.40
15 0802 0202 69	SSb-9	11	14	14.5	2.2	2.2	0.40	普通	30.40
15 0802 0202 70	SSb-9	11	14	16.7	22.5	5.8	1.30	普通	30.40
15 0802 0202 71	SSb-9	11	14	31.5	17.1	1.2	0.30	普通	30.40
15 0802 0202 72	SSb-9	11	14	5.4	11.9	1.9	0.20	普通	30.40
15 0802 0202 73	SSb-9	11	14	4.2	1.8	1.0	0.10	普通	30.40
15 0802 0202 74	SSb-9	11	14	9.4	9.4	1.5	0.10	普通	30.40
15 0802 0202 75	SSb-9	11	14	22.2	22.8	2.8	0.90	普通	30.40
15 0802 0202 76	SSb-9	11	14	21.6	20.5	5.3	3.20	普通	30.40
15 0802 0202 77	SSb-9	11	14	14.2	13.0	2.1	0.30	普通	30.40
15 0802 0202 78	SSb-9	11	14	14.2	13.0	2.1	0.30	普通	30.40
15 0802 0202 79	SSb-9	11	14	11.7	8.9	1.8	0.70	普通	30.40
15 0802 0202 80	SSb-9	11	14	18.3	18.0	4.3	0.70	普通	30.40
15 0802 0202 81	SSb-9	11	14	20.9	13.3	2.2	0.40	普通	30.40
15 0802 0202 82	SSb-9	11	14	24.2	24.2	4.5	1.70	普通	30.40
15 0802 0202 83	SSb-9	11	14	21.8	20.8	9.2	4.30	普通	30.40
15 0802 0202 84	SSb-9	11	14	15.9	13.1	4.2	0.80	普通	30.40
15 0802 0202 85	SSb-9	11	14	13.2	13.2	1.7	0.30	普通	30.40
15 0802 0202 86	SSb-9	11	14	14.7	14.7	1.5	0.20	普通	30.40
15 0802 0202 87	SSb-9	11	14	36.5	22.2	16.3	16.40	普通	30.40
15 0802 0202 88	SSb-9	11	14	9.2	12.7	1.7	0.14	普通	30.40
15 0802 0202 89	SSb-9	11	14	11.9	4.4	1.0	0.60	普通	30.40
15 0802 0202 90	SSb-9	11	14	22.2	22.8	2.8	0.90	普通	30.50
15 0802 0202 91	SSb-9	11	14	5.7	12.3	1.3	0.40	普通	30.50
15 0802 0202 92	SSb-9	11	14	14.3	13.3	3.0	0.30	普通	30.50
15 0802 0202 93	SSb-9	11	14	9.6	9.6	2.0	0.30	普通	30.50
15 0802 0202 94	SSb-9	11	14	19.5	12.2	4.7	0.70	普通	30.60
15 0802 0202 95	SSb-9	11	14	25.4	24.2	11.1	3.00	普通	30.60
15 0802 0202 96	SSb-9	11	14	13.7	10.7	1.5	0.20	普通	30.60
15 0802 0202 97	SSb-9	11	14	34.8	22.4	8.6	6.90	普通	30.60
15 0802 0202 98	SSb-9	11	14	15.2	12.7	0.7	0.10	普通	30.60
15 0802 0202 99	SSb-9	11	14	14.1	19.4	4.2	1.10	普通	30.60
15 0802 0202 100	SSb-9	11	14	18.8	17.8	2.4	0.70	普通	30.60
15 0802 0202 101	SSb-9	11	14	14.2	15.2	1.6	0.20	普通	30.60
15 0802 0202 102	SSb-9	11	14	11.5	12.2	1.0	0.40	普通	30.60
15 0802 0202 103	SSb-9	11	14	16.2	14.0	8.0	0.80	普通	30.60
15 0802 0202 104	SSb-9	11	14	24.2	22.0	4.4	2.40	普通	30.60
15 0802 0202 105	SSb-9	11	14	16.2	14.0	8.0	0.80	普通	30.60
15 0802 0202 106	SSb-9	11	14	20.5	3.4	2.5	0.40	普通	30.60
15 0802 0202 107	SSb-9	11	14	14.2	13.2	2.1	0.10	普通	30.60
15 0802 0202 108	SSb-9	11	14	16.2	14.0	8.0	0.80	普通	30.60
15 0802 0202 109	SSb-9	11	14	22.2	22.0	4.4	2.40	普通	30.60
15 0802 0202 110	SSb-9	11	14	16.2	14.0	8.0	0.80	普通	30.60
15 0802 0202 111	SSb-9	11	14	23.2	15.2	1.1	0.94	普通	30.60
15 0802 0202 112	SSb-9	11	14	22.2	15.2	1.1	0.94	普通	30.60
15 0802 0202 113	SSb-9	11	14	19.8	15.2	1.1	0.94	普通	30.60
15 0802 0202 114	SSb-9	11	14	23.4	21.2	4.4	2.30	普通	30.60
15 0802 0202 115	SSb-9	11	14	23.4	21.2	4.4	2.30	普通	30.60
15 0802 0202 116	SSb-9	11	14	19.8	17.8	1.2	1.00	普通	30.60
15 0802 0202 117	SSb-9	11	14	14.2	15.2	1.6	0.20	普通	30.60
15 0802 0202 118	SSb-9	11	14	11.5	12.2	1.0	0.40	普通	30.60
15 0802 0202 119	SSb-9	11	14	16.2	14.0	8.0	0.80	普通	30.60
15 0802 0202 120	SSb-9	11	14	24.2	22.0	4.4	2.40	普通	30.60
15 0802 0202 121	SSb-9	11	14	16.2	14.0	8.0	0.80	普通	30.60
15 0802 0202 122	SSb-9	11	14	20.5	3.4	2.5	0.40	普通	30.60
15 0802 0202 123	SSb-9	11	14	14.2	13.2	2.1	0		

第36表 第4文化庁 石工 石器一覽表(3)

工器 番号	種別 分類	形状 タイプ	素材	石種	年代 区分	出土 層位	最大 長さ	最大 幅	最大 厚	重量	備考	石器 番号	種別 分類	形状 タイプ	素材	石種	年代 区分	出土 層位	最大 長さ	最大 幅	最大 厚	重量	備考	石器 番号	種別 分類	形状 タイプ	素材	石種	年代 区分	出土 層位	最大 長さ	最大 幅	最大 厚	重量	備考								
11	0020	0202 F	Ac-A	1	5.5	2.0	5.5	2.0	0.3	0.13		15	0022	0202 F	Ac-A	1	15.0	11.0	1.7	0.16			25	0024	0202 F	Ac-A	1	15.0	11.0	1.7	0.16		25	0024	0202 F	Ac-A	1	15.0	11.0	1.7	0.16		
12	0020	0202 F	Ac-A	1	6.0	2.0	1.0	1.1	0.1	0.08		15	0022	0204 F	Ac-A	1								26	0024	0202 F	Ac-A	1	15.0	11.0	1.7	0.16		26	0024	0202 F	Ac-A	1	15.0	11.0	1.7	0.16	
13	0020	0202 F	SSh-A	34	8.3	10.0	1.1	1.21				15	0022	0202 F	SSh-A	34	17.0	20.0	4.0	1.02				27	0024	0202 F	SSh-A	34	18.0	18.0	4.0	1.03		27	0024	0202 F	SSh-A	34	18.0	18.0	4.0	1.03	
14	0020	0202 F	SSh-A	34	8.4	1.5	1.1	0.25				15	0022	0202 F	SSh-A	34	18.0	18.0	4.0	1.03				28	0024	0202 F	SSh-A	34	18.0	18.0	4.0	1.03		28	0024	0202 F	SSh-A	34	18.0	18.0	4.0	1.03	
15	0020	0202 F	SSh-A	34	7.4	1.0	1.0	0.25				15	0022	0202 F	SSh-A	34	18.0	18.0	4.0	1.03				29	0024	0202 F	SSh-A	34	18.0	18.0	4.0	1.03		29	0024	0202 F	SSh-A	34	18.0	18.0	4.0	1.03	
16	0020	0202 F	SSh-A	34	15.4	10.0	2.5	0.02				15	0022	0202 F	SSh-A	34	18.0	18.0	4.0	1.03				30	0024	0202 F	SSh-A	34	18.0	18.0	4.0	1.03		30	0024	0202 F	SSh-A	34	18.0	18.0	4.0	1.03	
17	0020	0202 F	Ac-A	1	11.1	7.5	2.0	0.12				15	0022	0202 F	Ac-A	1	20.0	20.0	6.0	3.70				31	0024	0202 F	Ac-A	1	20.0	20.0	6.0	3.70		31	0024	0202 F	Ac-A	1	20.0	20.0	6.0	3.70	
18	0020	0202 F	Ac-A	1	22.2	9.2	4.7	1.01				15	0022	0202 F	Ac-A	1	40.0	40.0	10.0	2.40				32	0024	0202 F	Ac-A	1	40.0	40.0	10.0	2.40		32	0024	0202 F	Ac-A	1	40.0	40.0	10.0	2.40	
19	0020	0202 F	Ac-A	1	9.1	6.0	1.8	0.14				15	0022	0202 F	Ac-A	1	18.0	18.0	4.0	0.52				33	0024	0202 F	Ac-A	1	18.0	18.0	4.0	0.52		33	0024	0202 F	Ac-A	1	18.0	18.0	4.0	0.52	
20	0020	0204 F	Ac-A	1	6.9	1.0	1.4	0.04				15	0022	0204 F	Ac-A	1	34.0	22.0	6.0	4.00				34	0024	0204 F	Ac-A	1	34.0	22.0	6.0	4.00		34	0024	0204 F	Ac-A	1	34.0	22.0	6.0	4.00	
21	0020	0204 F	Ac-A	1	6.0	4.2	2.5	0.10				15	0022	0204 F	Ac-A	1	34.0	22.0	6.0	4.00				35	0024	0204 F	Ac-A	1	34.0	22.0	6.0	4.00		35	0024	0204 F	Ac-A	1	34.0	22.0	6.0	4.00	
22	0020	0204 F	Ac-A	1	7.7	7.2	1.4	0.06				15	0022	0204 F	Ac-A	1	18.2	12.2	2.1	0.56				36	0024	0204 F	Ac-A	1	18.2	12.2	2.1	0.56		36	0024	0204 F	Ac-A	1	18.2	12.2	2.1	0.56	
23	0020	0204 F	Ac-A	1	4.1	6.2	2.0	0.03				15	0022	0202 F	SSh-A	34	10.0	11.0	1.6	0.14				37	0024	0202 F	SSh-A	34	10.0	11.0	1.6	0.14		37	0024	0202 F	SSh-A	34	10.0	11.0	1.6	0.14	
24	0020	0202 F	Ho	6	6.0	3.0	3.0	0.20				15	0022	0204 F	Ac-A	1	31.0	13.2	10.0	4.00				38	0024	0204 F	Ac-A	1	31.0	13.2	10.0	4.00		38	0024	0204 F	Ac-A	1	31.0	13.2	10.0	4.00	
25	0020	0204 F	SSh-B	9	16.1	7.5	3.7	0.25				15	0022	0202 F	SSh-A	34	14.2	15.0	1.8	0.30				39	0024	0202 F	SSh-A	34	14.2	15.0	1.8	0.30		39	0024	0202 F	SSh-A	34	14.2	15.0	1.8	0.30	
26	0020	0202 F	Ho	20	20.1	23.0	5.0	0.10				15	0022	0202 F	Tu	20.0	21.0	8.7	2.04				40	0024	0202 F	Tu	20.0	21.0	8.7	2.04		40	0024	0202 F	Tu	20.0	21.0	8.7	2.04				
27	0020	0202 F	SSh-B	9	12.1	10.0	2.6	0.27				15	0022	0202 F	SSh-A	34	14.4	15.2	3.1	0.40				41	0024	0202 F	SSh-A	34	14.4	15.2	3.1	0.40		41	0024	0202 F	SSh-A	34	14.4	15.2	3.1	0.40	
28	0020	0202 F	Ho	41	28.1	20.7	1.6	1.10				15	0022	0202 F	SSh-A	34	10.1	15.0	0.7	0.37				42	0024	0202 F	SSh-A	34	10.1	15.0	0.7	0.37		42	0024	0202 F	SSh-A	34	10.1	15.0	0.7	0.37	
29	0020	0202 F	Ho	41	28.1	20.7	1.6	1.10				15	0022	0202 F	SSh-A	34	10.1	15.0	0.7	0.37				43	0024	0202 F	SSh-A	34	10.1	15.0	0.7	0.37		43	0024	0202 F	SSh-A	34	10.1	15.0	0.7	0.37	
30	0020	0202 F	Ho	41	28.1	20.7	1.6	1.10				15	0022	0202 F	SSh-A	34	10.1	15.0	0.7	0.37				44	0024	0202 F	SSh-A	34	10.1	15.0	0.7	0.37		44	0024	0202 F	SSh-A	34	10.1	15.0	0.7	0.37	
31	0020	0202 F	Ho	41	28.1	20.7	1.6	1.10				15	0022	0202 F	SSh-A	34	10.1	15.0	0.7	0.37				45	0024	0202 F	SSh-A	34	10.1	15.0	0.7	0.37		45	0024	0202 F	SSh-A	34	10.1	15.0	0.7	0.37	
32	0020	0202 F	SSh-B	30	20.1	21.2	5.2	1.40				15	0022	0202 F	SSh-A	34	13.0	13.5	2.0	0.30				46	0024	0202 F	SSh-A	34	13.0	13.5	2.0	0.30		46	0024	0202 F	SSh-A	34	13.0	13.5	2.0	0.30	
33	0020	0202 F	Ac-A	1	12.1	22.0	9.4	2.20				15	0022	0202 F	SSh-A	34	18.0	17.0	6.1	1.71				47	0024	0202 F	SSh-A	34	18.0	17.0	6.1	1.71		47	0024	0202 F	SSh-A	34	18.0	17.0	6.1	1.71	
34	0020	0202 F	SSh-B	2	7.5	5.2	2.0	0.14				15	0022	0202 F	SSh-A	34	13.0	13.0	1.5	0.30				48	0024	0202 F	SSh-A	34	13.0	13.0	1.5	0.30		48	0024	0202 F	SSh-A	34	13.0	13.0	1.5	0.30	
35	0020	0202 F	SSh-B	12	29.0	14.1	6.0	0.14				15	0022	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80				49	0024	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80		49	0024	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80	
36	0020	0202 F	SSh-B	12	29.0	14.1	6.0	0.14				15	0022	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80				50	0024	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80		50	0024	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80	
37	0020	0202 F	SSh-B	12	29.0	14.1	6.0	0.14				15	0022	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80				51	0024	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80		51	0024	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80	
38	0020	0202 F	SSh-B	12	29.0	14.1	6.0	0.14				15	0022	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80				52	0024	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80		52	0024	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80	
39	0020	0202 F	SSh-B	12	29.0	14.1	6.0	0.14				15	0022	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80				53	0024	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80		53	0024	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80	
40	0020	0202 F	SSh-B	12	29.0	14.1	6.0	0.14				15	0022	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80				54	0024	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80		54	0024	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80	
41	0020	0202 F	SSh-B	12	29.0	14.1	6.0	0.14				15	0022	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80				55	0024	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80		55	0024	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80	
42	0020	0202 F	SSh-B	12	29.0	14.1	6.0	0.14				15	0022	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80				56	0024	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80		56	0024	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80	
43	0020	0202 F	SSh-B	12	29.0	14.1	6.0	0.14				15	0022	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80				57	0024	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80		57	0024	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80	
44	0020	0202 F	SSh-B	12	29.0	14.1	6.0	0.14				15	0022	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80				58	0024	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80		58	0024	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80	
45	0020	0202 F	SSh-B	12	29.0	14.1	6.0	0.14				15	0022	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80				59	0024	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80		59	0024	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0	4.0	0.80	
46	0020	0202 F	SSh-B	12	29.0	14.1	6.0	0.14				15	0022	0202 F	SSh-A	34	21.0	21.0																									

第37表 第4文化層 石器一覧表(4)

本館蔵品番号	グループ	産地	種類	石質	重量(g)	最大径(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	形状	図号	備考
15	0080	0011	C	SSb-2	7.4	3.3	1.1	0.22	直線	30.920	
15	0083	0010	F	SSb-0	4.4	12.3	2.8	0.28	直線	30.950	
15	0080	0010	F	SSb-0	6.5	10.2	1.6	0.13	直線	30.950	
15	0080	0010	F	SSb-0	6.9	8.5	3.1	0.17	直線	30.950	
15	0080	0011	F	SSb-0	6.4	10.1	1.7	0.16	直線	30.950	
15	0080	0012	UF	C	29.8	20.3	9.9	5.75	直線	30.940	
15	0080	0010	UF	C	8.8	11.4	4.1	0.37	直線	30.950	
15	0080	0010	F	SSb-0	10.0	12.0	3.2	0.38	直線	30.945	
15	0080	0010	F	SSb-0	12.1	9.4	2.1	0.22	直線	30.950	
15	0080	0010	F	SSb-0	16.5	14.7	5.7	1.41	直線	30.950	
15	0080	0010	F	SSb-0	1.7	8.3	5.7	0.72	直線	30.950	
15	0080	0010	F	SSb-0	8.8	8.6	2.5	0.82	直線	30.950	
15	0080	0010	F	SSb-0	12.7	14.7	7.5	1.86	直線	30.950	
15	0080	0021	UF	SSb-0	17.2	19.1	3.5	0.36	直線	30.935	
15	0080	0022	UF	SSb-0	18.2	17.4	5.7	1.49	直線	30.935	
15	0080	0023	UF	SSb-0	14.9	12.1	5.2	1.88	直線	30.935	
15	0080	0024	UF	SSb-0	16.1	20.9	13.1	8.29	直線	30.935	
15	0080	0025	UF	SSb-0	3.5	13.9	4.5	1.77	直線	30.935	
15	0080	0015	UF	SSb-0	34.3	23.8	8.1	4.54	直線	30.910	
15	0080	0016	UF	SSb-0	69.9	47.6	25.6	16.23	直線	30.905	
15	0080	0017	UF	SSb-0	23.9	16.9	7.5	1.41	直線	30.905	
15	0080	0018	UF	SSb-0	14.5	16.6	6.6	11.54	直線	30.905	
15	0080	0019	UF	SSb-0	16.6	16.4	3.9	0.63	直線	30.910	
15	0080	0020	UF	SSb-0	18.9	23.6	4.7	2.61	直線	30.910	
15	0080	0021	UF	SSb-0	18.9	20.3	4.7	2.19	直線	30.910	
15	0080	0022	UF	SSb-0	11.8	11.1	1.8	0.22	直線	30.975	
15	0080	0023	UF	SSb-0	19.8	18.2	4.7	1.77	直線	30.975	
15	0080	0024	UF	SSb-0	10.1	22.3	5.2	3.21	直線	30.975	
15	0080	0025	UF	SSb-0	19.9	18.1	5.5	2.56	直線	30.975	
15	0080	0026	UF	SSb-0	22.2	20.9	3.5	1.82	直線	30.975	
15	0080	0027	UF	SSb-0	22.4	18.4	3.5	1.26	直線	30.975	
15	0080	0028	UF	SSb-0	18.9	16.2	2.2	0.45	直線	30.975	
15	0080	0029	UF	SSb-0	13.7	17.7	2.1	0.55	直線	30.975	
15	0080	0030	UF	SSb-0	8.5	17.2	2.5	0.58	直線	30.975	
15	0080	0031	UF	SSb-0	11.8	11.1	1.8	0.22	直線	30.975	
15	0080	0032	UF	SSb-0	9.1	11.9	3.6	0.39	直線	30.975	
15	0080	0033	UF	SSb-0	26.6	18.0	6.5	3.21	直線	30.975	
15	0080	0034	UF	SSb-0	18.6	20.3	5.5	2.15	直線	30.975	
15	0080	0035	UF	SSb-0	26.9	20.7	7.5	3.89	直線	30.975	
15	0080	0036	UF	SSb-0	26.8	16.0	15.2	8.11	直線	30.975	
15	0080	0037	UF	SSb-0	43.8	28.8	12.5	4.37	直線	30.975	
15	0080	0038	UF	SSb-0	18.1	17.9	4.2	0.98	直線	30.975	
15	0080	0039	UF	SSb-0	18.1	16.2	2.5	0.69	直線	30.975	
15	0080	0040	UF	SSb-0	22.6	27.7	4.5	2.46	直線	30.975	
15	0080	0041	UF	SSb-0	26.8	18.4	4.8	1.88	直線	30.975	
15	0080	0042	UF	SSb-0	22.3	18.8	4.3	1.19	直線	30.975	
15	0080	0043	UF	SSb-0	12.2	17.2	4.2	0.85	直線	30.975	
15	0080	0044	UF	SSb-0	11.7	17.7	3.7	0.45	直線	30.975	
15	0080	0045	UF	SSb-0	10.1	14.9	1.8	0.55	直線	30.975	
15	0080	0046	UF	SSb-0	12.6	17.2	3.1	0.61	直線	30.935	
15	0080	0047	UF	SSb-0	21.7	24.2	6.9	2.14	直線	30.937	
15	0080	0048	UF	SSb-0	18.7	20.5	6.5	2.58	直線	30.940	
15	0080	0049	UF	SSb-0	18.2	18.2	3.7	0.87	直線	30.940	
15	0080	0050	UF	SSb-0	17.7	17.7	3.7	0.53	直線	30.975	
15	0080	0051	UF	SSb-0	11.6	13.4	3.3	0.63	直線	30.974	
15	0080	0052	UF	SSb-0	15.9	7.4	4.2	0.64	直線	30.982	
15	0080	0053	UF	SSb-0	92.8	62.8	17.7	9.52	直線	30.978	
15	0080	0054	UF	SSb-0	29.9	18.2	3.6	1.58	直線	30.974	
15	0080	0055	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0056	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0057	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0058	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0059	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0060	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0061	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0062	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0063	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0064	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0065	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0066	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0067	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0068	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0069	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0070	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0071	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0072	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0073	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0074	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0075	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0076	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0077	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0078	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0079	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0080	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0081	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0082	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0083	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0084	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0085	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0086	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0087	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0088	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0089	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0090	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0091	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0092	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0093	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0094	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0095	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0096	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0097	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0098	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0099	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	
15	0080	0100	UF	SSb-0	14.2	20.1	8.1	2.22	直線	30.940	



## 第6節 石器集中地点外(第151図～156図, 第39表, 図版38)

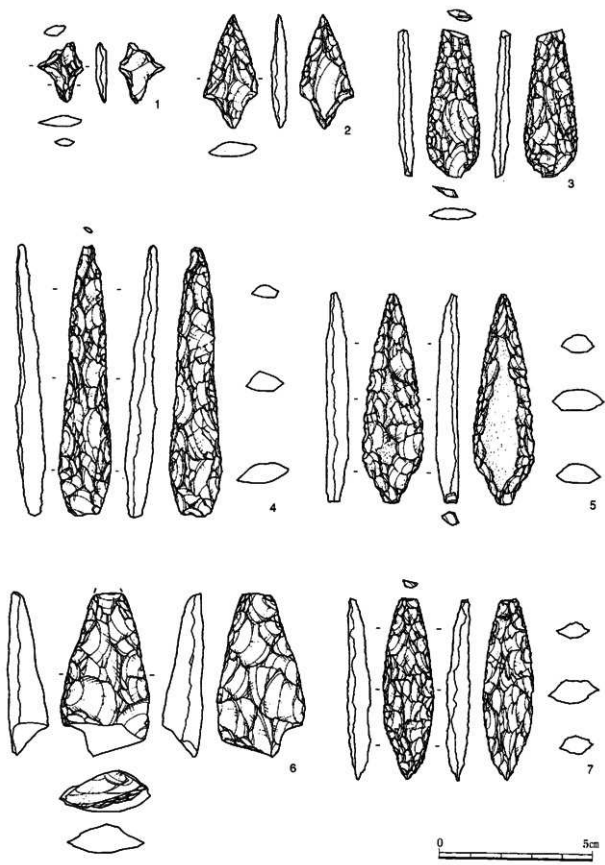
縄文時代の包含層調査、及び、遺構確認のための精査時にグリッド一括として取り上げた資料の中で、旧石器時代～縄文時代早期に属すると考えられるものを選別して、主なものを掲載した。

1～4は有舌尖頭器である。出土グリッドは調査区に点在しているためとまらず、サイズ・平面形態ともにそれぞれ個性的な特徴を有する。1は小型薄手のもので、先端が欠損しているためはっきりしないが、平面形態が「十字形」を呈するいわゆる「花見山型」に分類されよう。2は身部と舌部が交わる逆刺が緩やかに内湾することで尖った舌部を形成し、身部側縁は僅かながら外湾している。3は突起状に舌部を残して弧状に基部を整形する特徴的な平面形態を呈している。先端・舌部ともに欠損している。側縁は直線的で、非常に丁寧な調整が施されたことで厚みが均等となり、側縁の稜は極めて直線的に仕上げられている。4は基部端が欠損したもので、側縁は鋸歯状を呈し、舌部は直線的で2のように内湾していない。表裏両面中央部には自然面が残っているが、研磨痕の可能性も捨てきれない。研磨痕であったとしても、周縁からの調整前に研磨されたもので、整形後研磨されたものではないようである。石材は4のみホルンフェルス、他は全て安山岩Aを用いている。

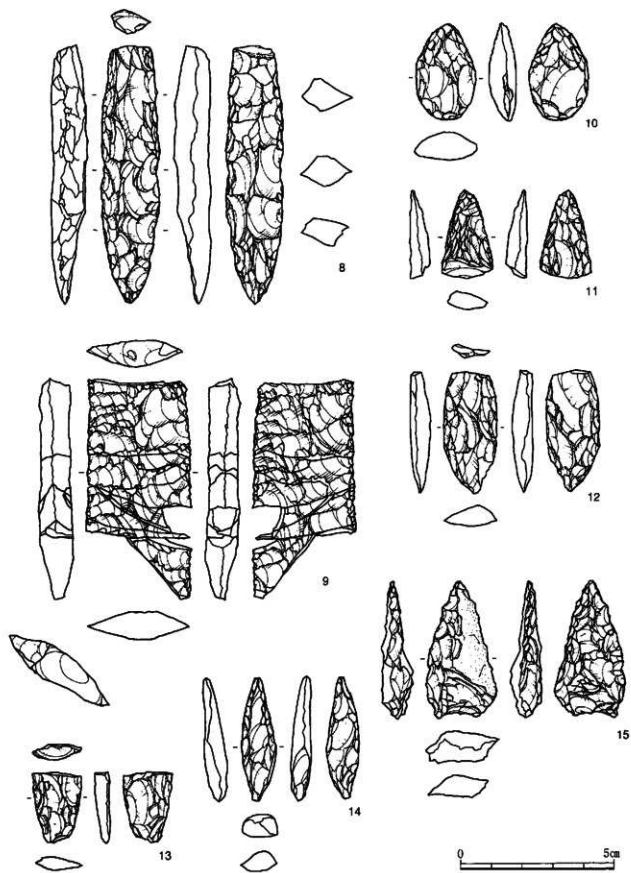
5～17・20～32・48は尖頭器(未製品を含む)である。5は僅かに先端と基部端が欠損した細身棒状を呈した尖頭器である。最大幅が基部近くにあり、この付近から基部端に向かって丁寧な調整が施され、断面凸レンズ状に仕上げられている。安山岩A製である。6は器体中央付近で折れてしまっているため全体形状が分からないが、中型～大型の部類に入るものだろう。裏面に対する平坦剥離の後に正面への調整が施されているが、先端部には正面を切る細かい調整が観察される。乳薄灰色を呈した珪質頁岩製である。7は青チャート製の柳葉形を呈した尖頭器で先端を僅かに欠損する。8は頁岩製の柳葉形を呈する尖頭器で、比較的荒い調整によって「棒状」を呈している。5と同様に基部は断面凸レンズ状に仕上げられている。基部端にやや光沢が観察される。9は両側縁がほぼ並行を呈しているが、大型尖頭器の器体中央部分と考えられる。尖頭器は熱を受けたため、ハジけるようにして砕けている。9点が接合したが、他にも破片が9点ほど周辺グリッドから採集された。その中には緩やかに弧状を呈した稜をもつものも含まれており、それは端部に近い部分と推測される。出土グリッドを列挙すると、接合資料は5D08〔6点〕・5D07〔1点〕・4D97〔1点〕・4D38〔1点〕で、未接合のものは4D38〔3点〕、4F52〔1点〕、5D08〔3点〕、5D07〔1点〕、5D06〔1点〕となっている。最大で30m以上離れたグリッドから出土した破片同士が接合している点は注目される。調整は器体深部に及ぶ調整が施され、断面が端正な凸レンズ状を呈する。10はホルンフェルス製の小型尖頭器で、表面は風化が著しい。11～13は安山岩A製の小型両面調整尖頭器の欠損品で、いずれも平坦剥離によって比較的薄手に仕上げられている。14は細身棒状の尖頭器で、安山岩B(トロトロ石)製である。15は珪質頁岩B製の尖頭器であるが、基部側の欠損面から若干調整が施されている。16・17は安山岩B製で、主に片面に調整が施されている。16は先端から左側縁にかけて燧状剥離が施されたような剥離面が観察されるが、表面の風化が著しくはっきりしない。20・21・24・32・48は尖頭器未製品とした。48は安山岩A製で、石器集中15の分布域の中心に位置するグリッドから検出されたものであることから、同ブロックに属するものと思われる。22・23は半両面調整の尖頭器と思われるが、いずれも欠損しており全体形状はよく分からない。25～31は主に周縁に急角度調整を施した資料で、27のみ面的な調整が裏面にも施されている。31は右側縁が背面側、左側縁が腹面側に調整が施されている。

18・19・33～38・40～44はナイフ形石器である。18・19は円形に整えられた基部をもち、短く未調整部

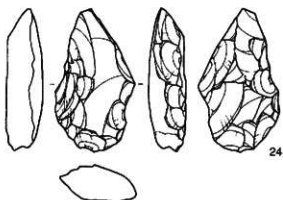
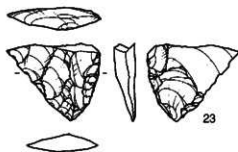
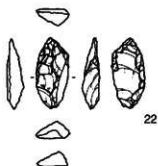
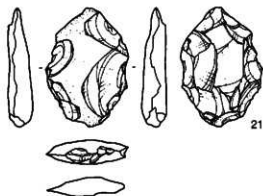
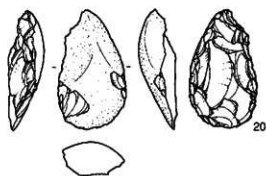
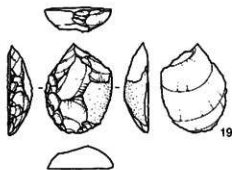
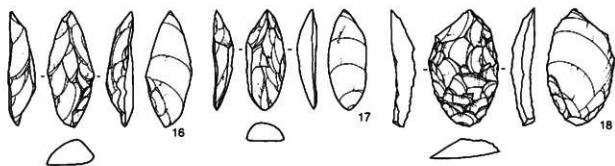




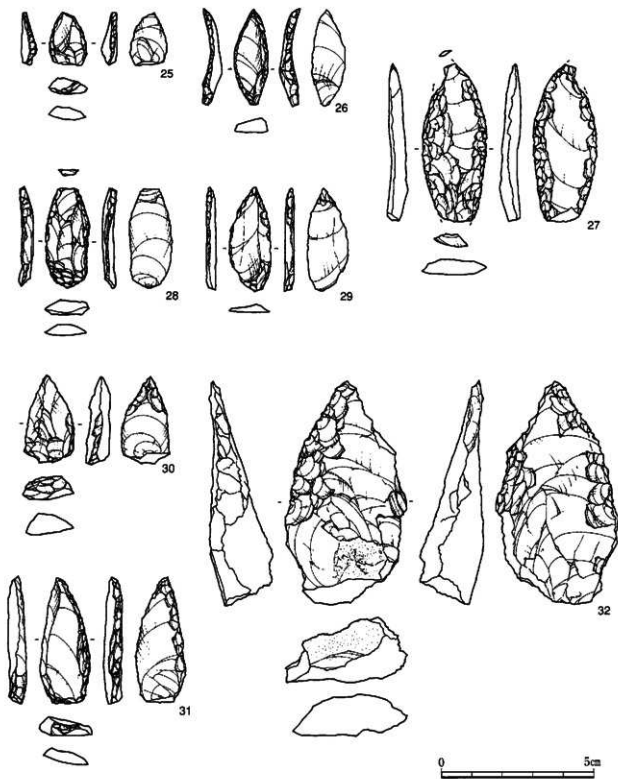
第151圖 石器集中地点外(1)



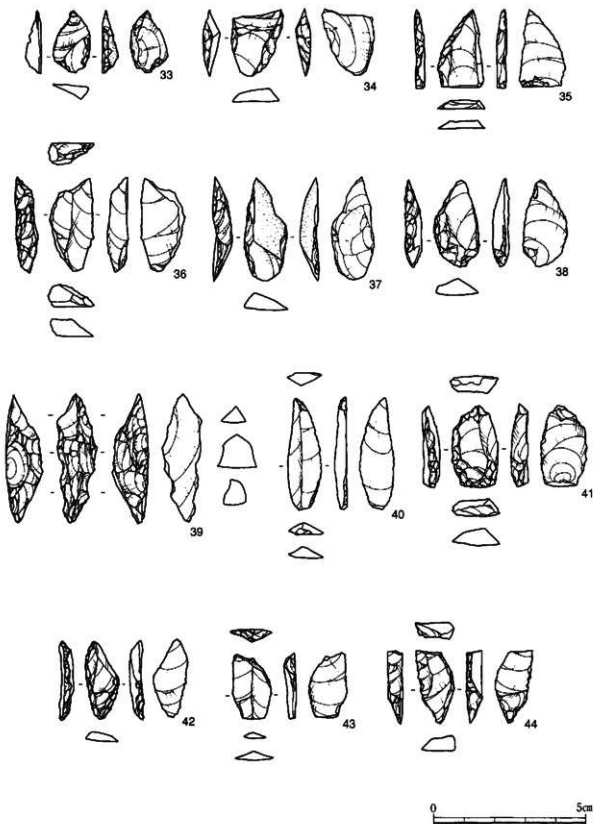
第152图 石器集中地点外(2)



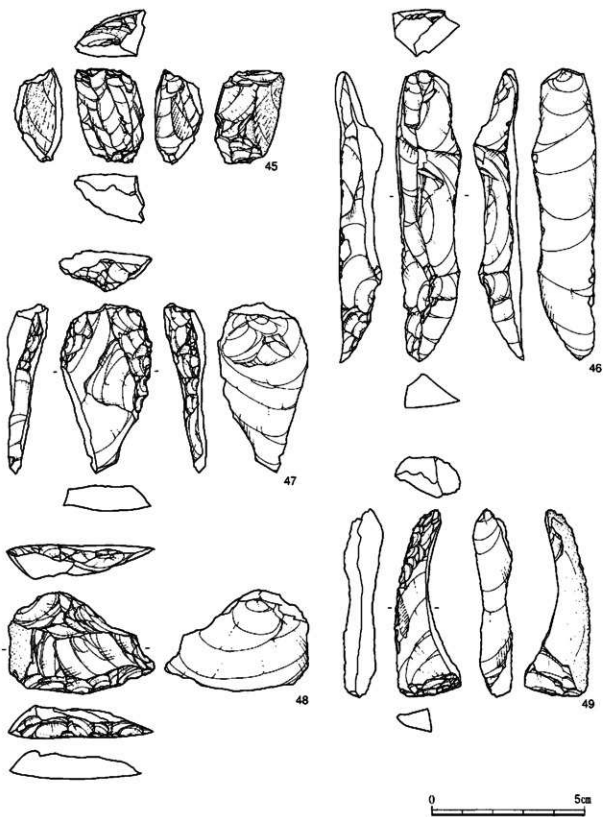
第153网 石器集中地点外(3)



第154图 石器集中地点外(4)



第155图 石器集中地点外(5)



第156图 石器集中地点外(6)

が残された特徴的な資料で、近接したグリッドから検出されている。他は全て小型のナイフ形石器で占められる。41～44は比較的近接したグリッドから検出されている。

39は角錐状石器である。安山岩A製で、幅広剥片を素材として鋸歯状の荒々しい調整が施されている。45はチャート製の細石刃石核?である。細石刃剥離作業面には4条の細石刃剥離痕が観察される。細石刃剥離痕はやや不揃いであることから、細石刃石核と断定するのは困難である。平坦な単一剥離面をもち、頭部調整が顕著に施されている。裏面の下端部には新たな打面形成を目的としたと思われる剥離痕が観察されるが、両極剥離による下端からの剥離痕のようにも見えるため、器種分類としては楔形石器とした方が良いか迷うところである。縄文石器によく見られる青チャートを用いている点も、細石刃石核とするには躊躇させる。

46は薄い褐色を呈した珪質頁岩製の、稜付き石刃である。全体的に稜線が潰れているように見えるが、特に打面部は顕著である。

47は剥片の縁辺に調整を施して刃部とした削器である。

49は湧別技法によって両面調整から剥離される、稜付きスポールの様な形態を呈した資料であるが、石材は安山岩Aを用いたものであり、通常、東北産の珪質頁岩を用いる同石器群とは異質な印象を受ける。稜を抜んで片面には自然面が大きく残り、もう一方の面には素材剥片の主要剥離面が残っている。下端には、器体深部にまでは及ばないものの明瞭な稜調整が両面に施されている。どの様な素材から剥離されたものであるのか、注意深く検討する必要がある。

注1 栗田量(パレオ・ラボ)1996「千田台遺跡におけるローム層の鉱物分析」[千田台遺跡周辺の地形]「多古町千田台遺跡」 釧千葉県文化財センター

2 高立桂・新田浩三・渡辺修一1992「下総台地における立川ローム層の層序区分—平成2・3年度職員研修会から—」研究連絡誌35 釧千葉県文化財センター

第39表 石器集中地点外 石器一覽表

石核/剥片 番号	グリッド 番号	遺物 番号	器種	石材	作製 層位	最大 長さ(mm)	最大 幅(mm)	最大 厚さ(mm)	重量(g)	測定 位置	備考	石核/剥片 番号	遺物 番号	器種	石材	作製 層位	最大 長さ(mm)	最大 幅(mm)	最大 厚さ(mm)	重量(g)	測定 位置	備考	
外 1	00218	0002	Tp	As-A		18.1	1.6	3.3	0.69			外 28	00490	0002	Pb	SSs-A	32.3	14.2	4.4	2.18			
外 2	00490	0002	Tp	As-A		27.6	18.0	8.0	2.98			外 29	00509	0001	Pb	Ch	33.6	13.6	3.3	1.76			
外 3	01916	0001	Tp	As-A		40.0	17.6	4.0	5.00			外 30	00513	0002	Pb	As-A	27.6	15.6	7.2	2.42			
外 4	00504	0002	Tp	Pb		67.6	20.1	6.2	16.30			外 31	00578	0002	Pb	Sh	40.2	18.0	5.7	3.20			
外 5	00318	0004	Pb	As-A		67.6	16.5	8.3	11.19			外 32	00586	0002	Pb?	Op	72.7	40.1	17.8	42.20			
外 6	00234	0002	Pb	As-A		62.7	28.8	11.7	16.41			外 33	00707	0002	Ka	Ch	26.0	11.2	4.7	0.77			
外 7	00251	0002	Ch	SSs		16.8	1.7	7.5	4.24			外 34	00749	0002	Ka	As-A	22.2	9.6	3.6	1.00			
外 8	00673	0002	Pb	SSs		39.4	19.3	11.0	19.30			外 35	00788	0002	Ka	SSs-A	24.6	14.2	3.1	1.21			
外 9	002006		Pb	SSs		76.3	33.9	11.1	26.00			外 36	00725	0002	Ka	Ch	30.2	13.8	6.3	2.63			
外 10	00201	0002	Pb	Pb		21.9	18.9	8.0	6.07			外 37	00745	0002	Ka	Pb	33.6	14.2	3.8	2.64			
外 11	00012	0002	Pb	As-A		28.8	16.2	6.6	2.60			外 38	00816	0002	Ka	Pg	28.0	14.1	2.2	2.21			
外 12	04016	0002	Pb	As-A		20.0	17.4	6.7	5.41			外 39	00210	0001	Ka	As-A	41.4	12.0	10.8	5.31			
外 13	00728	0002	Pb	As-A		23.0	16.2	5.1	2.14			外 40	00832	0001	Ka	As-A	36.0	16.8	3.6	1.36			
外 14	00549	0002	Pb	As-B		29.0	15.0	6.4	2.61			外 41	00834	0002	Ka	SSs	28.8	13.6	5.0	2.60			
外 15	00510	0002	Pb	SSs-B		61.1	23.4	11.2	8.91			外 42	00811	0002	Ka	Ch	26.1	10.2	3.9	0.91			
外 16	00012	0002	Pb	As-B		23.4	16.2	2.8	2.40			外 43	00812	0002	Ka	Pg	24.1	12.2	3.7	0.86			
外 17	00078	0002	Pb	As-B		23.0	13.1	5.8	2.20			外 44	00812	0002	Ka	Ch	25.1	11.6	4.7	1.31			
外 18	00047	0002	Ka	As-A		28.8	22.8	7.2	5.82			外 45	00847	0001	Mc	Ch	33.2	11.3	14.0	10.80	49.200		
外 19	00149	0002	Ka	As-A		28.8	21.9	7.2	5.12			外 46	00749	0002	SSs	SSs	36.0	21.6	14.4	22.20			
外 20	00204	0002	Pb?	As-B		27.6	17.2	6.6	16.17			外 47	00812	0001	SSc	SSs	56.0	19.8	12.2	18.50			
外 21	00206	0002	Pb?	Ti		28.1	26.4	7.7	7.42			外 48	00833	0001	SSc	SSs	33.2	40.2	10.2	16.62			
外 22	00208	0001	Pb	SSs		23.4	12.0	5.2	1.16			外 49	04007	0001	Pb?	As-A	61.0	27.0	11.8	17.72			
外 23	00729	0002	Pb	SSs		27.6	20.7	6.1	3.20														
外 24	00012	0002	Pb?	As-B		46.2	27.2	11.0	12.94														
外 25	00504	0002	Pb	Ch		18.1	12.2	4.4	0.94														
外 26	00710		Pb	Ch		22.1	11.2	4.8	1.46														
外 27	04023	0002	Pb	SSs		10.2	21.0	3.8	3.20														

## 第3章 縄文時代

### 第1節 遺構

縄文時代の遺構は陥穴23基、炉穴2基、土坑40基を検出した。

#### 1 陥穴

陥穴は総数23基が確認された。いずれも台地上の平坦面か緩斜面上につくられ、群集することはほとんどなく、比較的散漫に分布する。

##### 1号陥穴（第158図）1Fイ001

調査区の北端の1F85グリッドに位置する。北へ傾斜する緩斜面上にあり、主軸が傾斜方向と直交する。平面形態は細長い楕円形である。長軸両端の壁面は大きくオーバーハングしており、底面は著しく狭くなっている。規模は長軸最大3.00m、短軸0.78m、検出面からの深さ1.04mを測る。主軸方位は $N-17^{\circ}-E$ である。遺物は出土していない。

##### 2号陥穴（第158図、図版7）2Dイ010

調査区の西端の2D97グリッドに位置する。北東へ傾斜する緩斜面上にあり、主軸が傾斜方向と直交する。平面形態は長方形である。四方の壁面は直線的に緩やかに立ち上がっており、底面は長方形で平坦である。規模は確認面で長軸推定1.70m、短軸1.20m、底面で長軸1.12m、短軸0.64m、検出面からの深さ0.90mを測る。主軸方位は $N-40^{\circ}-W$ である。遺物は出土していない。

##### 3号陥穴（第158図、図版7）2Eイ012

調査区の北西端の2E56グリッドに位置する。平面形態は長方形である。四方の壁面は直線的に緩やかに立ち上がっており、底面は長方形で平坦である。規模は長軸2.33m、短軸1.00m、底面で長軸1.97m、短軸0.38m～0.58m、検出面からの深さ1.00mを測る。主軸方位は $N-60^{\circ}-W$ である。遺物は出土していない。

##### 4号陥穴（第158図、図版7）2Eイ014

調査区の西側の2E78グリッドに位置する。平面形態は細長い楕円形である。長軸両端の壁面はほとんど垂直に立ち上がっており、底面は著しく狭くなっている。規模は長軸2.22m、短軸0.98m、検出面からの深さ1.10mを測る。主軸方位は $N-60^{\circ}-E$ である。遺物は出土していない。

##### 5号陥穴（第158図、図版7）2Fイ001

調査区の西側の2F93グリッドに位置する。平面形態は大型の楕円形である。長軸両端の壁面は中央でやや挟れ気味に立ち上がっており、底面は著しく狭くなっている。また、底面中央では両壁方向にそれぞれ小さな孔が掘られているのが観察された。規模は長軸3.25m、短軸1.87m、検出面からの深さ2.95mを測る。主軸方位は $N-9^{\circ}-E$ である。遺物は出土していない。

##### 6号陥穴（第159図、図版7）2Gイ001

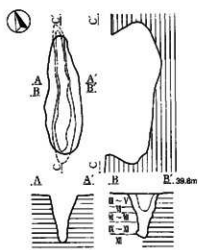
調査区の北側の2G77グリッドに位置する。平面形態は隅丸長方形である。長軸両端の壁面はオーバーハングしており、底面は比較的幅広で平坦になっている。規模は長軸最大2.78m、短軸0.70m、検出面からの深さ1.40mを測る。主軸方位は $N-10^{\circ}-E$ である。遺物は出土していない。

##### 7号陥穴（第159図、図版7）3Dイ001

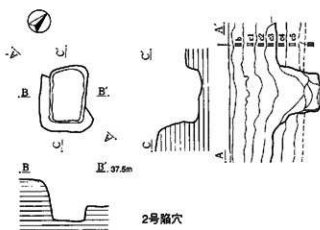
調査区の西端の3D23グリッドに位置する。平面形態は細長い楕円形である。長軸両端の壁面は直線的に緩やかに立ち上がっており、底面は平坦になっている。規模は長軸2.18m、短軸0.45m、検出面から



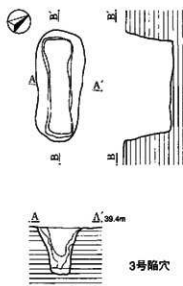




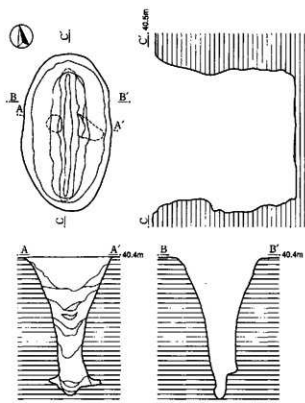
1号陷穴



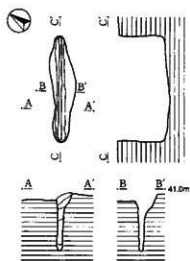
2号陷穴



3号陷穴



5号陷穴



4号陷穴



第158图 1号~5号陷穴

の深さ0.96m、底面の幅は0.27mを測る。主軸方位は $N-15^{\circ}-W$ である。遺物は出土していない。

#### 8号陥穴（第159図、図版7）3Eイ002

調査区の西端の3E45グリッドに位置する。平面形態は大型の楕円形である。長軸両端の壁面はほとんど垂直に立ち上がっており、底面は平坦になっている。規模は長軸最大2.50m、短軸1.65m、検出面からの深さ2.20mを測る。主軸方位は $N-23^{\circ}-W$ である。底部に約0.5m厚の非常に締まりの強いハードロームを主体とした土の堆積が見られる。遺物は出土していない。

#### 9号陥穴（第159図）3Eイ003

調査区の西端の3E63グリッドに位置する。平面形態は非常に細長い楕円形である。長軸両端の壁面はほとんど垂直に立ち上がっており、底面は著しく狭くなっている。規模は長軸2.40m、短軸0.44m、検出面からの深さ0.64mを測る。主軸方位は $N-83^{\circ}-E$ である。遺物は出土していない。

#### 10号陥穴（第159図）3Eイ004

調査区の西端の3E16グリッドに位置する。平面形態は隅丸長方形である。長軸両端の壁面は直線的に緩やかに立ち上がっており、底面は幅広く平坦である。規模は長軸1.98m、短軸1.07m、底面で、長軸1.65m、短軸0.75m、検出面からの深さ0.55mを測る。主軸方位は $N-30^{\circ}-W$ である。遺物は出土していない。

#### 11号陥穴（第159図）3Eイ008

調査区の西端の3E03グリッドに位置する。平面形態は細長い楕円形だったと考えられるが、旧石器確認調査段階でその大半を失ってしまった。長軸西端の壁面はほとんど垂直に立ち上がっており、底面は著しく狭くなっている。規模は不明である。主軸方位は推定 $N-90^{\circ}-E$ であると思われる。遺物は出土していない。

#### 12号陥穴（第159図）3Eイ009

調査区の西端の3E40グリッドに位置する。平面形態は隅丸長方形であったと考えられるが、旧石器確認調査段階でその大半を失ってしまった。残存する北端の壁面はほとんど垂直に立ち上がっており、底面は平坦であったと考えられる。規模は長軸不明、短軸推定0.65m、検出面からの深さ0.47mを測る。主軸方位は推定 $N-5^{\circ}-W$ であると考えられる。遺物は出土していない。

#### 13号陥穴（第159図）3Fイ001

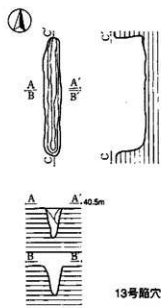
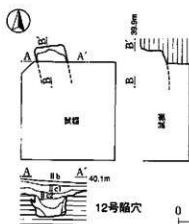
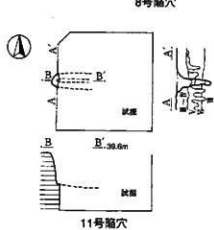
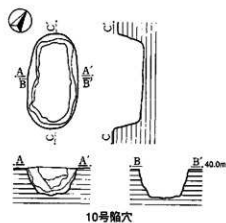
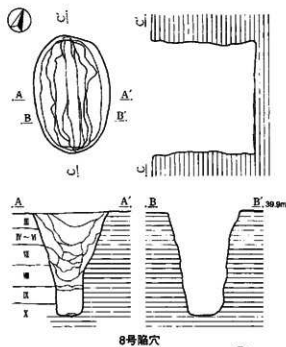
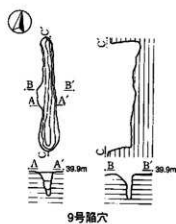
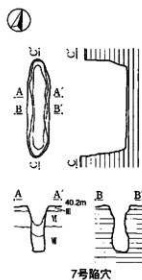
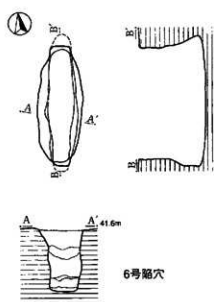
調査区の中央の3F78グリッドに位置する。平面形態は非常に細長い楕円形である。長軸北端の壁面はややオーバーハングして立ち上がっており、底面は著しく狭くなっている。規模は長軸2.48m、短軸0.38m、検出面からの深さ0.65mを測る。主軸方位は $N-3^{\circ}-W$ である。遺物は出土していない。

#### 14号陥穴（第160図、図版7）3Gイ001

調査区の中央の3G20グリッドに位置する。平面形態は楕円形である。長軸両端の壁面は概ね直線的に緩やかに立ち上がっており、底面はほぼ平坦になっている。規模は長軸2.13m、短軸1.16m、検出面からの深さ2.38mを測る。主軸方位は $N-18^{\circ}-W$ である。遺物は出土していない。

#### 15号陥穴（第160図、図版7）4Dイ005

調査区の西端の4D68グリッドに位置する。平面形態は細長い楕円形である。長軸両端の壁面はオーバーハングして立ち上がっており、底面は著しく狭くなっている。規模は確認面で長軸2.88m、底面で3.30m、短軸0.67m、検出面からの深さ1.27mを測る。主軸方位は $N-87^{\circ}-E$ である。遺物は出土していない。



第159图 6号~13号窟穴

覆最上層に焼上塊を確認したが、遺構に伴うものではない。

16号陥穴（第160図，図版7）4Eイ001

調査区の西端の4E24グリッドに位置する。平面形態は底面で隅丸長方形である。長軸両端の壁面は緩やかに立ち上がっており、底面はほぼ平坦である。規模は確認面で長軸1.72m，短軸0.95m，底面で長軸1.33m，短軸0.50m，検出面からの深さ0.72mを測る。主軸方位は $N-0^{\circ}$ である。遺物は出土していない。

17号陥穴（第160図，図版8）4Eイ008

調査区の西端の4E54・64グリッドに位置する。平面形態は底面で隅丸長方形である。長軸両端の壁面は緩やかに立ち上がっており、底面はほぼ平坦である。規模は確認面で、長軸1.70m，短軸0.93m，底面で長軸1.50m，短軸0.60m，検出面からの深さ0.70mを測る。主軸方位は $N-14^{\circ}-E$ である。

18号陥穴（第160図，図版8）5Fイ006

調査区の南西の5F07・17グリッドに位置する。平面形態は底面で隅丸長方形である。長軸両端の壁面は緩やかに立ち上がっており、底面はほぼ平坦である。規模は確認面で長軸2.84m，短軸2.00m，底面で長軸1.50m，短軸0.55m，検出面からの深さ2.12mを測る。主軸方位は $N-76^{\circ}-E$ である。遺物は出土していない。

19号陥穴（第160図，図版8）5Gイ001

調査区の南端の5G31グリッドに位置する。平面形態は細長い楕円形である。長軸両端の壁面はほとんど垂直に立ち上がっており、底面は著しく狭くなっている。規模は長軸2.32m，短軸0.80m，検出面からの深さ1.05mを測る。主軸方位は $N-19^{\circ}-W$ である。遺物は出土していない。

20号陥穴（第160図，図版8）5Gイ002

調査区の南端の5G34グリッドに位置する。平面形態は楕円形である。長軸両端の壁面はほとんど垂直に立ち上がっており、底面は0.15m幅と狭くなっている。規模は長軸2.50m，短軸1.00m，検出面からの深さ1.45mを測る。主軸方位は $N-60^{\circ}-W$ である。遺物は出土していない。

21号陥穴（第161図，図版8）5Hイ001

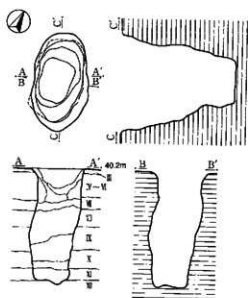
調査区の中央の5H01グリッドに位置する。平面形態は楕円形である。長軸両端の壁面は緩やかに立ち上がっており、底面には3本の小ピットが掘られている。規模は長軸3.15m，短軸1.62m，検出面からの深さ1.75mを測る。主軸方位は $N-3^{\circ}-E$ である。遺物は出土していない。

22号陥穴（第161図，図版8）6Hイ001

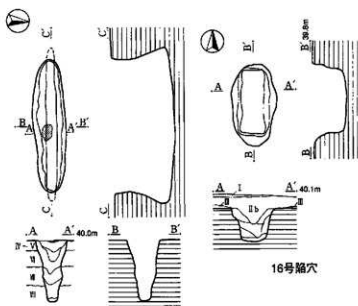
調査区の南側の6H25グリッドに位置する。平面形態は細長い楕円形である。長軸両端の壁面はオーバーハングして立ち上がっており、底面は著しく狭くなっている。規模は確認面で長軸2.70m，短軸1.27m，検出面からの深さ1.72mを測る。主軸方位は $N-40^{\circ}-E$ である。遺物は出土していない。

23号陥穴（第161図，図版8）8Iイ001

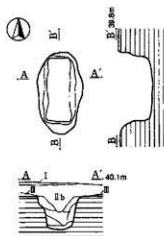
調査区の南端の8I62グリッドに位置する。平面形態は大型の細長い楕円形である。長軸両端の壁面はオーバーハングして立ち上がっており、底面は著しく狭くなっている。規模は確認面で長軸3.70m，最大長は4.05m，短軸1.00m，検出面からの深さ1.12mを測る。主軸方位は $N-37^{\circ}-E$ である。遺物は出土していない。



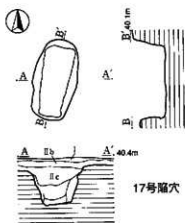
14号陷穴



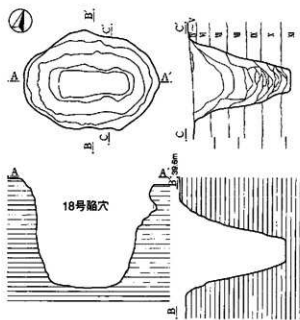
15号陷穴



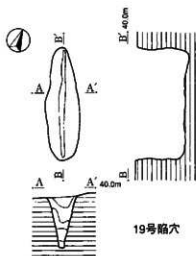
16号陷穴



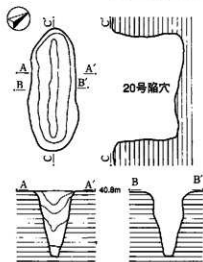
17号陷穴



18号陷穴



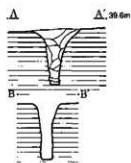
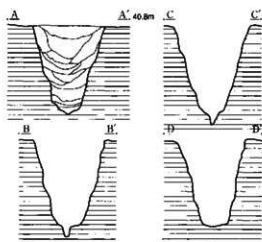
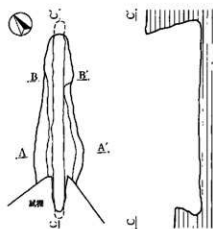
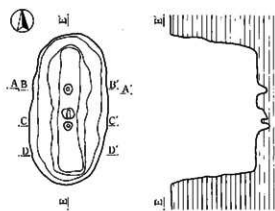
19号陷穴



20号陷穴

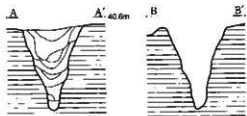
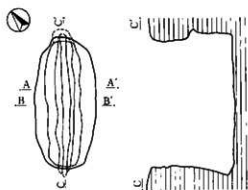


第160图 14号~20号陷穴



23号陷穴

21号陷穴



22号陷穴



第161网 21号~23号陷穴

## 2 炉穴

覆土中に焼土(粒)が認められるものの、遺構確認面での掘り込みが極めて浅い遺構が大半を占めるため、確実に炉穴と考えられるのは2基のみである。調査区の西側から入り込む谷津に面した台地縁辺部から30mほど中に入った平坦面上に位置する。

### 1号炉穴(第162図, 図版8) 4Eイ003

調査区の西端の4E24グリッドに位置する。平面形態は不整楕円形である。検出時にⅢ層上面で、0.42m×0.58mの範囲で焼土粒を含む覆土を確認し、さらに、掘り方床面に直径0.20mの被熱面を検出した。掘り方の規模は、長軸1.54m、短軸0.70m、検出面から底面までの深さ0.12mを測る。遺構中央やや東側は、ピット状に掘り窪められているが、25号土坑に伴うものかどうかは不明である。遺物は出土していない。

### 2号炉穴(第162図, 図版8) 5Fイ001

調査区の南西側の5F46グリッドで、緩斜面上に位置する。平面形態は不整形である。炉穴検出時に1.20m×0.60mの範囲で焼土を確認し、さらに、掘り方床面中央付近に0.38m×0.64mの硬質な被熱面を検出した。掘り方の規模は、長軸1.06m、短軸0.60m、検出面から被熱面までの深さ0.10mを測る。遺物は土器が出土しているが、残念なことに所在不明である。その他黒曜石のチップが2点出土している。

## 3 土坑

明確には炉穴と断定できない遺構には、焼土が覆土中に確認できるものの、赤褐色に被熱し硬化した炉床面を確認できないものや、掘り方の底面を残すのみで、立ち上がりから壁面の構造を類推できないものなどが多数あり、これらは一括して土坑の範囲に含めた。その数は総数40基にのぼる。なお、焼土を覆土中に含む遺構については、各見出し末尾に焼土跡と書き加えた。大多数の遺構には遺物を伴わないが、とりあえず縄文時代のものとして取り扱った。しかし、遺跡内には古墳時代後期から奈良時代初期の竪穴住居跡や中近世の方形竪穴状遺構なども存在するので、同時期の可能性も捨てきれない。特に、製鉄関連の遺構が近接して所在するので、なお一層焼土や炭化物を出土する遺構の帰属時期や性格の特定を困難にしている。分布は、調査区の西側から入り込む谷津に面した台地縁辺部に集中する傾向にある。

### 1号土坑(第162図) 4Eイ005

調査区の西端の4E25グリッドに位置する。平面形態は不整楕円形である。壁面は斜めに立ち上がり、底面は平坦で広いが、軟質である。掘り方の規模は、長軸0.96m、短軸0.80m、検出面から底面までの深さは0.28mを測る。主軸方位は、N-44°-Eである。遺物は出土していない。

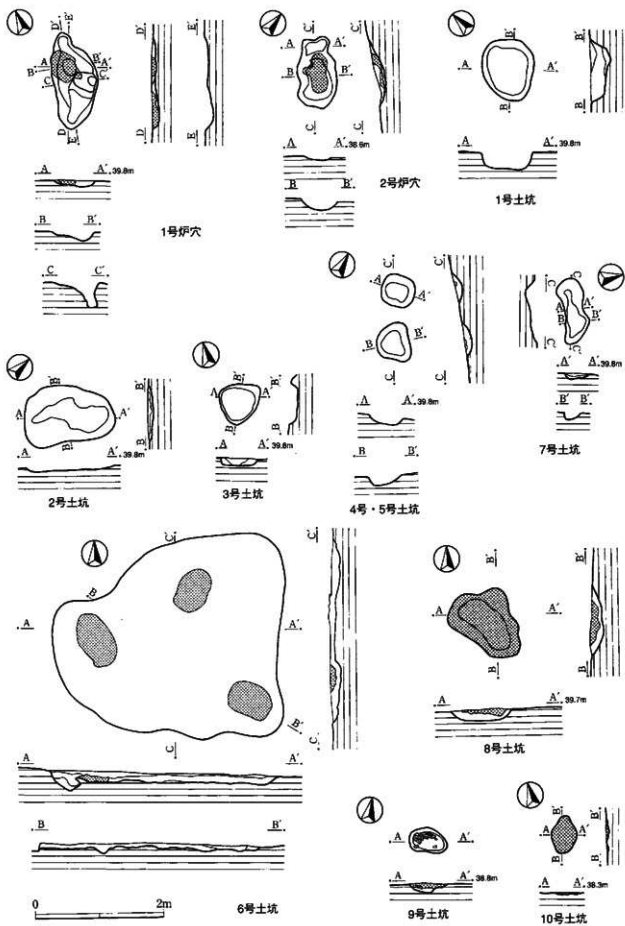
### 2号土坑(第162図, 図版11) 5Fイ002

調査区の南西の5F15グリッドに位置する。平面形態は不整楕円形である。壁面は緩やかに立ち上がり、底面は浅く平坦で広い。掘り方の規模は、長軸1.43m、短軸0.85m、検出面から底面までの深さは0.05mと極めて浅い。黒曜石のチップが4点、チャートのチップ1点が出土している。

### 3号土坑(第162図, 図版11) 5Fイ003

調査区の南西の5F15グリッドに位置する。平面形態は隅丸三角形である。壁面は斜めに立ち上がり、底面は平坦で広い。掘り方の規模は、一辺がそれぞれ0.62m、0.65m、0.56m、検出面から底面までの深さは0.12mを測る。礫が2点出土している。





第162图 1号·2号窑穴, 1号~10号土坑

#### 4号土坑（第162図，図版11）5Fイ004

調査区の南西側の5F55グリッドに位置する。平面形態は隅丸方形である。検出時に、0.54m×0.45mの範囲で焼土粒を含む覆土を確認した。掘り方の規模は、長軸0.54m、短軸0.49m、検出面から底面までの深さ0.10mを測る。

#### 5号土坑（第162図，図版11）5Fイ005

調査区の南西側の5F55グリッドに位置し、4号土坑に近接する。平面形態は隅丸三角形である。検出時に、0.60m×0.62mの範囲で焼土粒を含む覆土を確認した。掘り方の規模は、一辺がそれぞれ0.56m、0.61m、0.52mで、検出面から底面までの深さ0.12mを測る。

#### 6号土坑（第162図）1Eイ003 焼土跡

調査区の北東側の2E07グリッドで、北側の谷津の縁辺に位置する。不整形の平面形態の覆土中に3か所の焼土集中を検出した。掘り方の規模は、東西軸3.55m、南北軸最大3.15m、検出面から底面までの深さ最大0.30mを測る。また、焼土集中は西から順に長軸0.88m×短軸0.50m、長軸0.70m×短軸0.50m、長軸0.70m×短軸0.50mの大きさで、深さはそれぞれ0.10mである。遺物は出土していない。

#### 7号土坑（第162図）1Gイ002 焼土跡

調査区の北側の1G95グリッドに位置する。平面形態は瓢箪に似た不整形である。掘り方の規模は、長軸1.04m、短軸0.26m、検出面から底面までの深さ最大0.16mを測る。遺物は出土していない。

#### 8号土坑（第162図）2Dイ003

調査区の北西の2D59グリッドに位置する。平面形態は不整形である。掘り方の規模は、長軸1.25m、短軸0.90m、検出面から底面までの深さ最大0.20mを測る。覆土は2層に分層できるが、中央部は焼土を主体とし、炭化物を少量含む。遺物は出土していない。

#### 9号土坑（第162図，図版8）2Dイ004 焼土跡

調査区の北西の2D29グリッドで、西側斜面部の落ちぎわに位置する。平面形態は不整形円形である。掘り方の規模は、長軸0.66m、短軸0.35m、検出面から底面までの深さ最大0.15mを測る。覆土は2層に分層でき、上層には焼土粒と多量の炭化材を含む。遺物は出土していない。

#### 10号土坑（第162図）2Dイ005 焼土跡

調査区の北西の2D27グリッドに位置し、西側斜面にかろうじて底面を残している。平面形態は不整形円形である。焼土をⅡ層上面で確認した。掘り込みはほとんど認められない。焼土の分布範囲は、長軸0.58m、短軸0.42mである。遺物は出土していない。

#### 11号土坑（第163図）2Dイ006 焼土跡

調査区の北西の2D36グリッドに、かろうじて底面を残している。平面形態は不整形円形である。掘り込みはほとんど認められず、焼土の分布範囲は、長軸0.74m、短軸0.56mである。遺物は出土していない。

#### 12号土坑（第163図，図版9）2Dイ009 焼土跡

調査区の北西の2D69グリッドに位置する。平面形態は不整形円形である。Ⅲ層上面で確認した。中央部から北端部の掘り込みが最も深くなり、床面は軟質で、壁は緩やかに立ち上がる。掘り方の規模は、長軸0.52m、短軸0.46m、検出面から底面までの深さ最大0.15mを測る。遺物は出土していない。

#### 13号土坑（第163図，図版9）2Fイ002 焼土跡

調査区の北西の2F84グリッドに位置する。平面形態は概ね円形である。Ⅲ層上面で確認した。掘り方

の形態は円筒形で、その規模は、長軸0.54m、短軸0.49m、深さ0.30mを測る。遺物は出土していない。

14号土坑（第163図、図版9）2Fイ003 焼土跡

調査区の北西の2F71グリッドに位置する。平面形態は不整形である。焼土塊を含む。覆土除去後の掘り込みの規模は、長軸1.50m、短軸0.90m、深さ0.20mで、隅丸長方形に近い。また、広範囲に被熱しており、その規模は、長軸4.35m、直交する軸で3.20mに及ぶ。遺物は出土していない。

15号土坑（第163図）2Hイ004 焼土跡

調査区の北東の2H34グリッドに位置する。平面形態は概ね隅丸の三角形である。掘り方の規模は、一辺がそれぞれ0.42m、0.50m、0.54mで、検出面から底面までの深さ0.10mを測る。焼土を多量に含む面は掘り方よりやや狭く、また厚さも0.04mと非常に薄い。遺物は出土していない。

16号土坑（第163図、図版9）3Dイ003 焼土跡

調査区の西側の3D47グリッドで、西側の谷津に面した緩斜面上に位置する。覆土最上層には焼土粒を少量含んでいるが、全体に焼土の痕跡は薄い。掘り方は円筒形で、上端直径0.60m～0.68m、下端直径0.46m～0.51m、深さ0.18mである。遺物は出土していない。

17号土坑（第163図、図版9）3Dイ004 焼土跡

調査区の西端の3D59グリッドに位置する。平面形態が三角形の炉面に、円形の別遺構が重複している。焼土は、ごく一部に断面観察で確認されるのみである。炉床部の掘り方は一辺0.74m×0.60m×0.72m、深さ0.09mを測る。また、重複する円形遺構は上端直径0.35m～0.42m、下端0.18m、深さ0.22mである。遺物は出土していない。

18号土坑（第163図、図版9）3Dイ005 焼土跡

調査区の西端の3D66グリッドに位置する。平面形態は概ね円形である。掘り方の規模は、上端直径0.52m～0.56m、下端直径0.37m～0.42m、深さ0.14mである。遺物は出土していない。

19号土坑（第163図、図版9）3Dイ006 焼土跡

調査区の西端の3D76グリッドに位置する。平面形態は不整形円形である。掘り方の規模は、長軸0.52m、短軸0.35m、検出面から底面までの深さ0.08mを測る。焼土は中央のごく一部に残存するのみである。遺物は出土していない。

20号土坑（第163図、図版9）3Eイ005 焼土跡

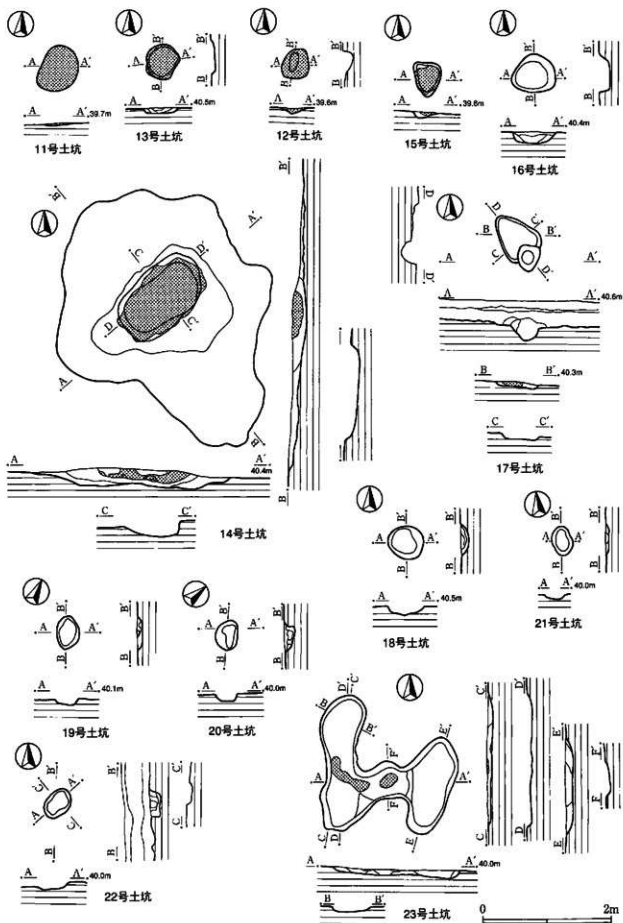
調査区の西側の3E76グリッドに位置する。平面形態は不整形円形である。掘り方の規模は、長軸0.45m、短軸0.34m、検出面から底面までの深さ0.12mを測る。焼土は覆土最上層に少量見られるのみである。遺物は出土していない。

21号土坑（第163図、図版10）3Eイ006

調査区の西側の3E91グリッドに位置する。平面形態は不整形円形である。掘り方の規模は、長軸0.46m、短軸0.33m、検出面から底面までの深さ0.05mと非常に浅い。焼土は覆土中に微量含まれるのみである。遺物は出土していない。

22号土坑（第163図、図版10）3Eイ007

調査区の西側の3E81グリッドに位置する。平面形態は不整形長方形で、Ⅱc層途中から掘り込まれているのが、断面観察からわかる。掘り方の規模は、長軸0.48m、短軸0.34m、検出面から底面までの深さ0.15mを測る。焼土は覆土中に少量含まれるのみである。遺物は出土していない。



第163图 11号~23号土坑

#### 23号土坑（第163図，図版10）4Dイ001 焼土跡

調査区の西端の4D28グリッドに位置する。平面形態はアルファベットの「H」字に似た不整形である。Ⅱb層を除去した後に確認できた。掘り方の規模は、西側の南北に細長い掘り込みで、長軸2.06m、東側の南北に長い掘り込みで、長軸1.50m、そして東西の中心幅は2.00mを測る。底面はほぼ平坦で、深さ0.11mとなる。焼土は幅0.15m前後で、弧を描くように中央から西にかけて分布するが、その厚さは0.02mに満たず、非常に薄い。遺物は出土していない。

#### 24号土坑（第164図，図版10）4Dイ002 焼土跡

調査区の西端の4D48グリッドに位置する。平面形態は不整形円形である。Ⅱc層調査中に確認された。掘り方の規模は、長軸0.40m、短軸0.18m、検出面から底面までの深さ0.04mを測る。焼土は覆土中に微量見られる程度である。遺物は出土していない。

#### 25号土坑（第164図，図版10）4Dイ004 焼土跡

調査区の西端の4D99グリッドに位置する。平面形態は不整形円形である。検出時に0.34m×0.34mの範囲で焼土粒を含む覆土を確認した。掘り方の規模は、長軸0.40m、短軸0.35m、検出面から底面までの深さ0.05mを測る。遺物は出土していない。

#### 26号土坑（第164図，図版10）4Dイ006 焼土跡

調査区の西端の4D94グリッドに位置する。平面形態は不整形円形である。検出時にⅡb層上面から、1.53m×0.74mの範囲で焼土粒を含む覆土の分布を確認した。焼土の量は比較的多く、炭化材が遺構内東側で集中して出土している。掘り方の規模は、長軸1.56m、短軸0.76m、検出面から底面までの深さ0.12mを測る。遺物は出土していない。

#### 27号土坑（第164図，図版10）4Dイ007 焼土跡

調査区の西端の4D84グリッドに位置する。平面形態は円形の掘り込みの両端に張り出しをもつ不整形である。検出時にⅡb層上面から、0.96m×0.53mの範囲で焼土粒を含む覆土を確認した。掘り方の規模は、中央付近で、長軸1.02m、短軸0.53m、検出面から底面までの深さは西から順に0.06m、0.18m、0.10mを測る。遺物は出土していない。

#### 28号土坑（第164図，図版10）4Eイ002 焼土跡

調査区の西端の4E25グリッドに位置する。平面形態は概ね隅丸長方形である。検出時にⅢ層上面から、0.47m×0.54mの範囲で焼土粒を含む覆土を確認した。掘り方の規模は、長軸1.23m、短軸0.60m前後、検出面から底面までの深さは0.14mを測る。遺物は出土していない。

#### 29号土坑（第164図）4Eイ004 焼土跡

調査区の西端の4E33グリッドに位置する。平面形態は不整形円形である。検出時にⅡc層中から、0.70m×0.72mの範囲で焼土粒を含む覆土を確認したが、焼土の厚さは非常に薄い。掘り方の規模は、長軸0.70m、短軸0.62m、検出面から底面までの深さ最大0.10mを測る。遺物は出土していない。

#### 30号土坑（第164図）4Eイ006 焼土跡

調査区の西端の4E24グリッドに位置する。平面形態は不整形である。検出時にⅢ層上面から、0.54m×0.60mの範囲で焼土粒を含む覆土を確認したが、焼土厚は非常に薄い。掘り方の規模は、長軸0.40m、短軸0.32m、検出面から底面までの深さ0.05mを測る。遺物は出土していない。

31号土坑 (第164図, 図版10) 4Eイ007 焼土跡

調査区の西端の4E61グリッドに位置する。平面形態は不整形である。検出時にⅢ層上面から、0.40m×0.44mの範囲で焼土粒を含む覆土を確認した。掘り方の規模は、長軸0.45m, 短軸0.38m, 検出面から底面までの深さ最大0.14mを測る。底面は軟弱である。遺物は出土していない。

32号土坑 (第164図, 図版10) 4Fイ001 焼土跡

調査区の西側の4F80グリッドに位置する。平面形態は不整形である。検出時にⅢ層上面から、0.27m×0.42mの範囲で焼土粒を含む覆土を確認した。掘り方の規模は、長軸0.36m, 短軸0.28m, 検出面から底面までの深さ最大0.10mを測る。遺物は出土していない。

33号土坑 (第164図, 図版11) 4Fイ002 焼土跡

調査区の中央やや西側の4F97グリッドに位置する。平面形態は不整形である。検出時にⅡc層中から、1.15m×2.56mの範囲で多量の焼土粒を含む覆土を確認した。掘り方の規模は、長軸2.60m, 直交軸で最大0.95m, 検出面から底面までの深さ最大0.12mを測る。底面は硬く焼け締まった痕跡が見られない。遺物は出土していない。

34号土坑 (第164図, 図版11) 4Fイ005 焼土跡

調査区の西側の4F48グリッドに位置する。平面形態は不整形である。検出時にⅡb層上面から、0.41m×0.70mの範囲で焼土粒を含む覆土を確認した。掘り方の規模は、長軸0.71m, 短軸0.47m, 検出面から底面までの深さ最大0.04mを測る。遺物は出土していない。

35号土坑 (第164図, 図版11) 5Dイ001 焼土跡

調査区の最西端の5D05グリッドに位置する。平面形態は不整形である。検出時にⅡb層上面から、0.34m×0.38mの範囲で焼土粒を含む覆土を確認した。掘り方の規模は、長軸0.40m, 短軸0.38m, 検出面から底面までの深さ最大0.05mを測る。遺物は出土していない。

36号土坑 (第164図, 図版11) 5Eイ002 焼土跡

調査区の西側の5E67グリッドに位置する。平面形態は不整形である。検出時にⅡb層上面から、0.48m×0.55mの範囲で焼土粒を含む覆土を確認した。掘り方の規模は、長軸0.56m, 短軸0.43m, 検出面から底面までの深さ0.08mを測る。遺物は出土していない。

37号土坑 (第164図, 図版11) 5Eイ003 焼土跡

調査区の西側の5E75グリッドに位置する。平面形態は不整形である。検出時に1.50m×1.92mの範囲で焼土粒を含む覆土を確認し、さらに、底面の両壁寄りに直径0.61m×0.80mの不整形の被熱面を検出した。掘り方の規模は、長軸1.60m, 短軸1.50m, 検出面から底面までの深さ0.20mを測る。遺物は条痕文系土器の小片を出土した。

38号土坑 (第164図, 図版11) 5Eイ007 焼土跡

調査区の西側の5E28グリッドに位置する。平面形態は不整形である。検出時にⅡb層上面から、0.58m×0.66mの範囲で焼土粒を含む覆土を確認した。掘り方の規模は、一辺がそれぞれ0.64m, 0.66m, 0.56mで、検出面から底面までの深さ0.08mを測る。遺物は条痕文系土器の小片を出土した。

39号土坑 (第164図) 5Gイ003 焼土跡

調査区の中央の5G03グリッドに位置する。平面形態は楕円形である。検出時にⅢ層上面から、0.35m×0.50mの範囲で焼土粒を含む覆土を確認した。掘り方の規模は、長軸0.48m, 短軸0.42m, 検出面から底面

までの深さ0.12mを測る。遺物は出土していない。

#### 40号土坑（第164図，図版11）5Hイ002 焼土跡

調査区の中央の5H02グリッドに位置する。平面形態は楕円形である。検出時にⅢ層上面から、0.66m×0.78mの範囲で焼土粒を含む覆上を確認した。掘り方の規模は、長軸0.70m、短軸0.50m、検出面から底面までの深さ0.25mを測る。底面・壁ともしっかりしている。遺物は出土していない。

## 第2節 遺物

### 1 縄文土器

#### 1) 分類

当遺跡で出土した縄文土器の量は膨大で、かつ早期から後期まで多様なものがあつた。そこで煩雑さを避けるため、便宜的に以下のように分類して記した。

#### 第Ⅰ群土器 早期前半の燃糸文系土器

第1類 押圧縄文系土器

第2類 表裏縄文系土器

第3類 井草Ⅰ式土器

第4類 井草Ⅱ式土器

#### 第Ⅱ群土器 早期前半の押型文土器

#### 第Ⅲ群土器 早期前半の沈線文系土器

第1類 三戸上器式

第2類 田戸下層式土器

第3類 明神裏Ⅲ式併行の上器

第4類 田戸上層式土器

第5類 田戸上層式から子母口式にかけての無文主体土器

#### 第Ⅳ群土器 早期後半の条痕文系土器

第1類 野島式土器

第2類 姆ヶ島台式土器

第3類 茅山上層式土器

第4類 条痕文のみの土器

#### 第Ⅴ群土器 前期の土器

第1類 黒浜式土器

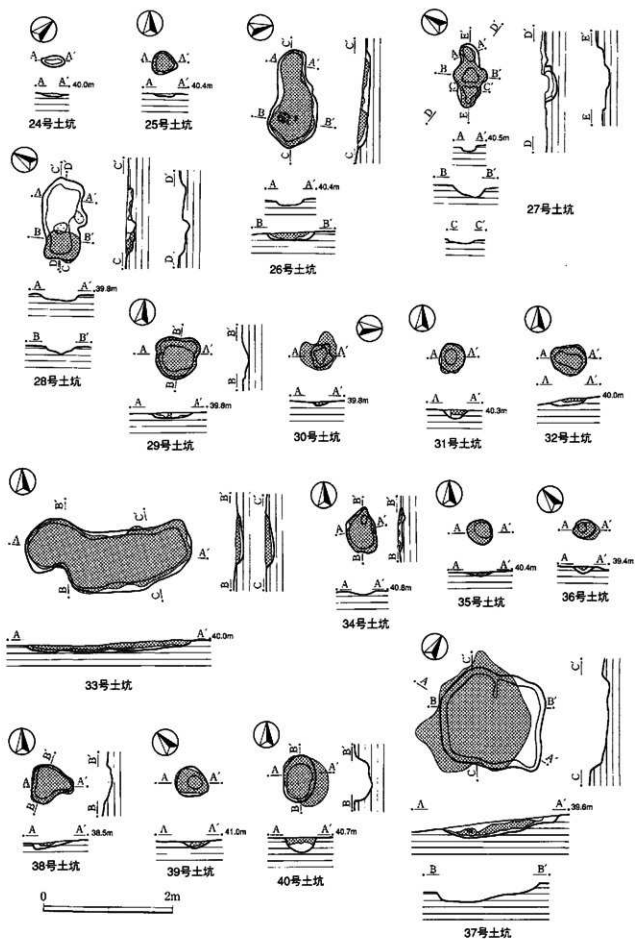
第2類 浮島・興津式

第3類 前期末葉の土器

#### 第Ⅵ群土器 中期の上器

第1類 五領ヶ台式土器

第2類 阿玉台式土器



第164图 24号~40号土坑



### 第3類 加曾利式E土器

#### 第Ⅳ群土器 後期の土器

##### 第1類 称名寺式土器

##### 第2類 堀之内式土器

##### 第3類 加曾利B式土器

##### 第4類 安行式土器

## 2) 分布状況

出土点数は約3万点であった。なお、分類不能な細片はあらかじめ累計から除外した。

#### 第Ⅰ群土器 撚糸文系土器(第Ⅳ図)

出土比率は全体の4%を占める。西に突出した台地の西側縁部に分布し、集中箇所が2D18グリッド周辺、3D08グリッド周辺、4D96グリッド周辺の3地点に分かれる。大半が井草式の範疇に含まれるものであるが、押圧縄文系土器が4E30グリッド周辺、5D46グリッド周辺で出土しており、また表裏縄文系土器は5D07グリッド周辺、5E20グリッド周辺に集中域がある。

#### 第Ⅱ群土器 押型文土器(第165図)

出土比率は全体の0.1%とごくわずかで、多くても3個体のものである。調査区北西側の台地縁部に分布し、集中箇所が1D89グリッド周辺で山形押型文土器1~2個体、2E62グリッド周辺に楕円押型文土器1個体の破片が出土した。

#### 第Ⅲ群土器 沈線文系土器

全体で約1万点あり、出土量の三分の一を占める。全体の約2割、第Ⅲ群土器の8割強を無文土器が占める。出土範囲は遺跡西半部全域にわたり、第Ⅳ群土器と共通した分布をみせている。

##### 第1類:三戸式土器、第2類:田戸下層式土器(第165図)

第1類の三戸式土器は全体の0.1%の出土比率と概わずかで、調査区北西側の台地縁部と北東側の台地縁部に分布する。第2類の田戸下層式土器の出土比率は全体の4%である。西に突出した台地の西側に分布し、集中箇所が2Eグリッド周辺、3Dグリッド周辺、5Eグリッド周辺の3地点に分かれる。特に、2Eグリッド周辺の地点は1Eグリッドまで広がり、当類土器の中で出土量が最も多い。

なお第3類の明神裏Ⅲ式土器は集計上第2類に含め分離しなかったが、いずれにしてもきわめて少ない。

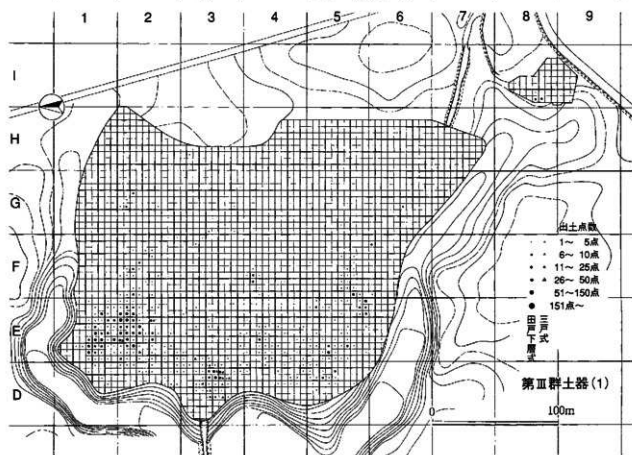
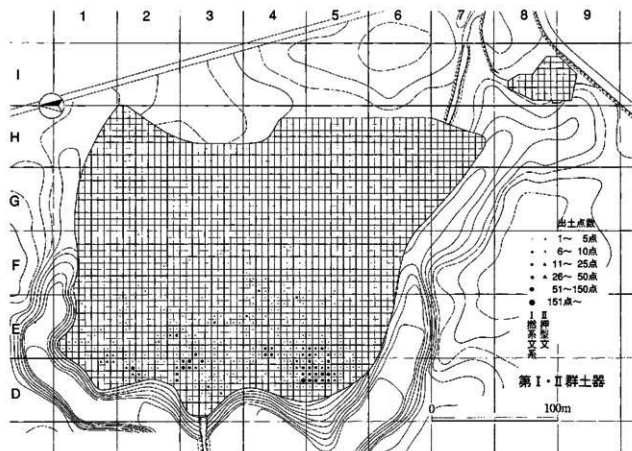
##### 第4類:田戸上層式土器(第166図)

出土比率は全体の2%である。調査区南西側の台地縁部に分布し、集中箇所が4E22グリッド周辺と4E93グリッド周辺の2地点に分かれる。特に、後者の集中箇所は南緩斜面に分布している。

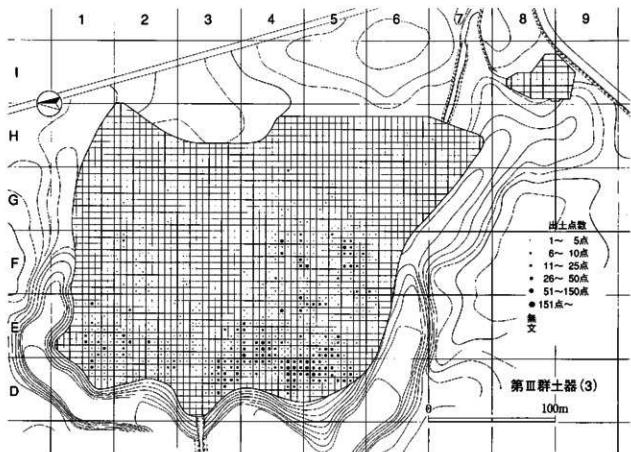
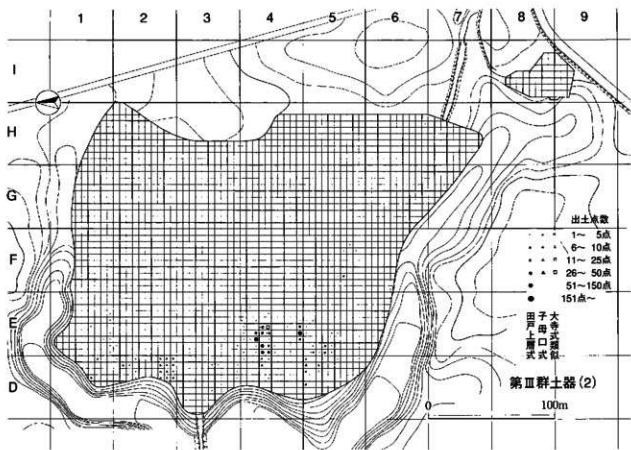
##### 第5類:出戸上・下層式から子母口式にかけての無文主体土器(第166図)

出土比率は全体の29%と2番目で、量が多い。ほとんどの土器が無文なので、分布図は繊維が混入していない無文土器と繊維が混入している無文土器に分けて作成した。繊維が混入していない無文土器と繊維が混入していない無文土器ともに、調査区南西側に最も多く分布している。

繊維が混入していない無文土器は、第5類の出土比率の内34%を占める。西に突出した台地の西側から南側の縁部に分布し、集中箇所が1E・2Eグリッド周辺、4D・4E・5Dグリッド周辺、4F・5Fグリッド周辺の3地点に分かれる。この類は第2類の田戸下層式土器の無文が主体と思われる。ただ出戸下層式有文



第165図 上：第Ⅰ・Ⅱ群土器の分布 下：第Ⅲ群土器の分布(1)



第166図 上：第Ⅲ群土器の分布(2) 下：第Ⅲ群土器の分布(3)

のものと分布密度が重ならないところがあるが、これは田戸上層式らの繊維土器で、繊維の含有量が少なく破片で分離しきれないものも混じっているからだろうか。

繊維混入の無文土器は、この類の出土比率の内64%を占める。西に突出した台地の西側から南側の縁辺部に分布し、集中箇所が2Dグリッド周辺、4D・4E・5Dグリッド周辺、4F・5Fグリッド周辺の3地点に分かれる。この中には子母口式のようにIV群土器中の条痕文を持たない類も含んでいると思われる。5Fグリッドの谷地に向けては第IV群土器の集中があり、それと同じ状況がみられることから類推できる。

#### 第IV群土器 条痕文系土器

第1類：野島式土器、第2類：鶴ヶ島台式土器（第167図）

第1類と第2類は、沈線・条線のもの破片で分別できないので一括して集計した。4F・5Fグリッドに大きい集中がみられる。特に5Fグリッドの斜面から谷地部に濃密な分布がある。次いで2E・2Fグリッドに集中がある。微隆起線で文様を構成され、絡条体圧痕文持ち野島式の占手とされるものは、5D・5Fグリッドにまとまりをみせる。また2D・2Eグリッドにも少量みられる。

第3類：茅山上層式土器（第168図）

2E・4E・5Dグリッドに集中が見られる。5Fグリッドには重ならないところが特徴で、時期を現している。縄文施文のもの出土点数は全体の0.5%と極わずかである。西に突出した台地の西側縁辺部に分布し、散在的である。2E02グリッド周辺、4D77グリッド周辺、5D66グリッド周辺に集中がみられる。

第4類：条痕文のみのもの（第168図）

野島・鶴ヶ島台式の集中域に加えて、3E・4E・4D東・5Dグリッドにも広がる。西側から南西部の台地縁辺部にまんべんなく分布するといつてよい。

#### 第V群土器 前期の土器

第1類：黒浜式土器（第169図）

出土点数は全体の2%を占める。西に突出した台地の西側縁辺部に分布し、集中箇所が1E93グリッド周辺、3D58グリッド周辺、4D87グリッド周辺の3地点に分かれる。

第2類：浮島・興津式土器（第169図）

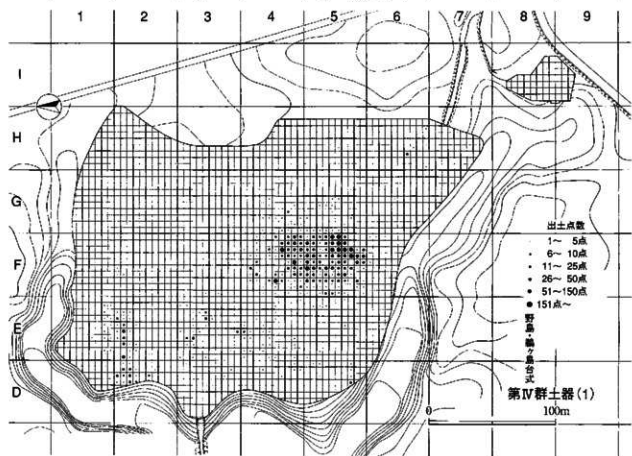
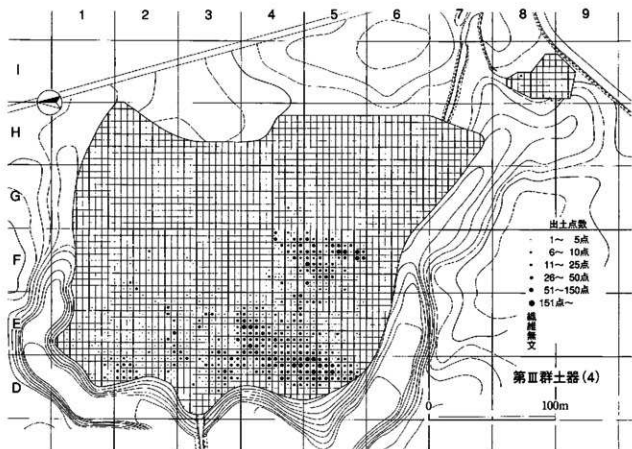
出土点数は全体の1%を占める。調査区南西側の台地縁辺部に分布し、集中箇所が3D64グリッド周辺、4D58グリッド周辺、4E98グリッド周辺、5D19グリッド周辺の4地点に分かれる。

第3類：前期末葉の土器（第169図）

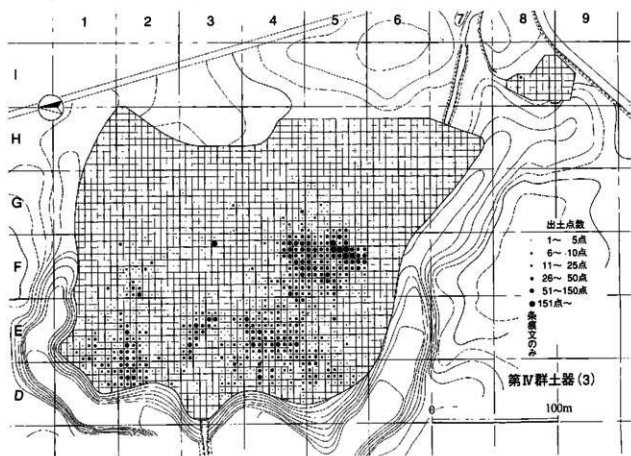
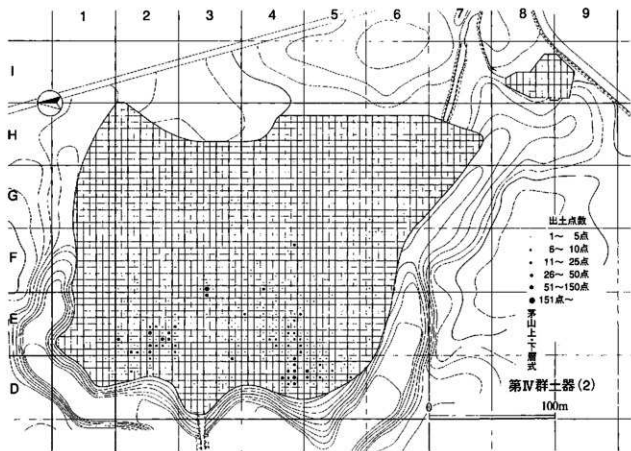
斜縄文主体土器で、出土点数は全体の1%を占める。調査区北西側の台地縁辺部と調査区南西側の台地縁辺部に分布し、集中箇所が1D89グリッド周辺、2E72グリッド周辺、4E93グリッド周辺、5D38グリッド周辺、5F76グリッド周辺の5地点に分かれる。

#### 第VI群土器 中期の土器（第170図）

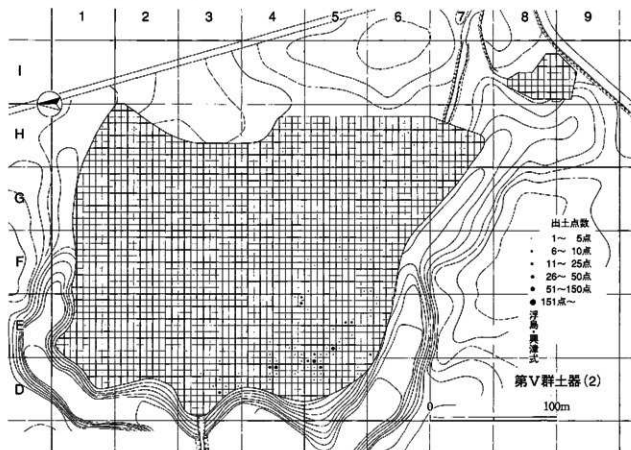
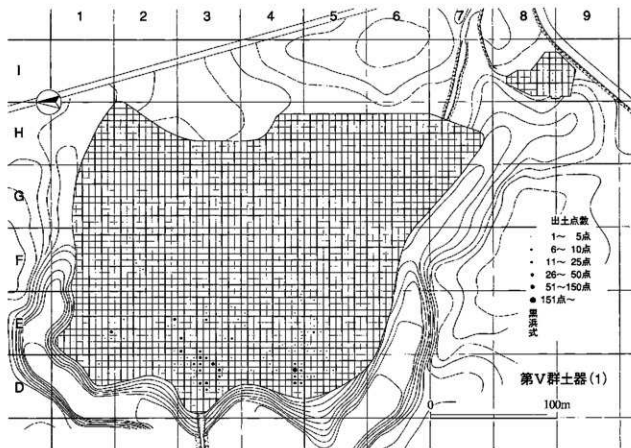
調査区南西側の台地縁辺部、特に5Dグリッド中心に分布する。第1類の五領ヶ台式土器は出土数は全体の0.5%と極わずかである。集中箇所が4E75グリッド周辺、5D07グリッド周辺、5D37グリッド周辺、5F85グリッド周辺の4地点に分かれる。第2類の阿玉台式土器は出土数は全体の0.3%と極わずかである。6H96グリッド、5E77グリッドの2か所での出土である。



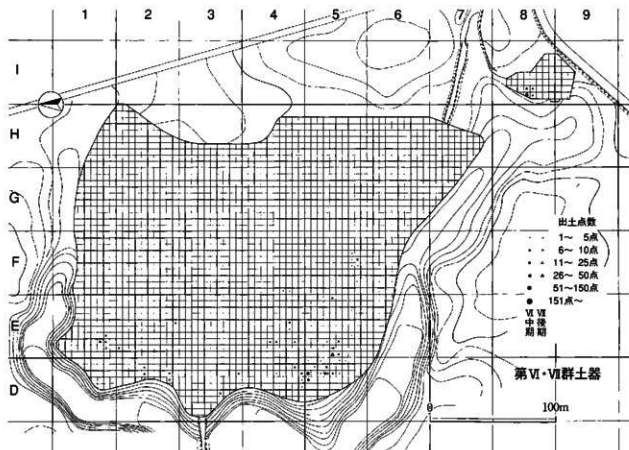
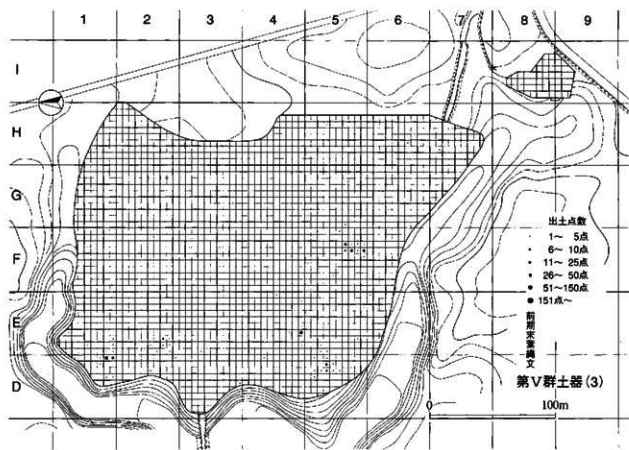
第167図 上：第Ⅲ群土器の分布(4) 下：第Ⅳ群土器の分布(1)



第168図 上：第IV群土器の分布(2) 下：第IV群土器の分布(3)



第169図 上：第V群土器の分布(1) 下：第V群土器の分布(2)



第170図 上：第V群土器の分布(3) 下：第VI・VII群土器の分布



### 第Ⅶ群土器 後期の土器 (第170図)

出土点数は全体の0.5%とごくわずかである。分布は3地点に分かれる。調査区北西側の台地縁辺部に地点は、1E72グリッド周辺に、第2類の堀之内1式土器が主体となる分布する。調査区南西側の台地斜面部では、5E40グリッド周辺に第1類の称名寺1式土器が主体となる。調査区南東側の台地斜面部に分布する地点は、8I51グリッド周辺に、第2類の堀之内2式土器が主体となる。

### 3) 各群土器

#### 第Ⅰ群土器 早期前半の燃糸文系土器

##### 第1類 押圧縄文系土器 (第172図11~14, 図版39)

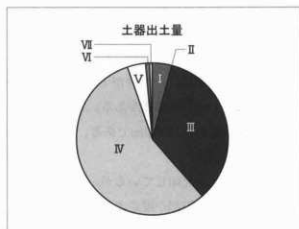
草創期の押圧縄文土器に類似したものである。11~14で、頭部の文様は、平行する2条の押圧縄文である。11と14は斜縄文が地文となっている。全体に器厚が薄手である。11~13は口唇断面が先端に向け薄くなっている。

##### 第2類 表裏縄文系土器 (第172図16~27, 第173図43, 図版39)

内面にも縄文が施文された表裏縄文土器に類似したものである。内面の上端に縄文が施文されているものである。大きくは井草式の範疇に含められそうだが、特徴的なので分離した。

第40表 縄文土器出土量

群	類	型式	点数	比率	群別比率	
I		燃糸文系	1253		4.2%	
		井草Ⅰほか	1253	4.2%		
II		押型文系	18		0.1%	
		押型文	18	0.1%		
III	1	沈線文系	10194		34.3%	
		三戸	39	0.1%		
		田戸下層・明神 裏Ⅲ	1227	4.1%		
IV	2, 3	田戸上層	446	1.5%	56.2%	
		5	無文	2910		9.8%
		5	織維無文	5513		18.6%
		5g	大寺	59		0.2%
		4	条痕文系	16642		
V	1	子母口	51	0.2%	3.8%	
		1a	野島	275		0.9%
		1e, 2a	野島・鶴ヶ島台	336		1.1%
		1b~1 d, 2b~	鶴ヶ島台	2595		8.8%
		3	茅山上層	1154		3.9%
VI	4	条痕	12231	41.3%	0.8%	
		前期	1146			
		1	黒浜	546		1.8%
VII	2	浮島・興津	333	1.1%	0.5%	
		3	前期末葉	267		0.9%
		中期	248			
VIII	1	五領ヶ台	152	0.5%	0.5%	
		2・3	阿玉台~	96		0.3%
		後期	142			
IX	1	称名寺	34	0.1%	0.5%	
		2~4	堀之内~	108		0.4%
		合計	29597	100.0%		100.0%



16～18は頸部に横走の縄文を施すもので、口唇の文様が斜縄文による1段構成である。19は、口唇の文様が2段構成である。

20～22・25は頸部に斜縄文を施すもので、横方向の施文である。22は多条の原体であろう。25は胴部が縦縄文になる。23・24は頸部に羽状縄文を施すもので、原体を変えて横施文する。24は多段構成で、薄く小型のものである。

26・27は口唇以下に縦縄文のみが施文されるもの。薄手である。やや肥厚する。

43は小片で明瞭ではないが、外面に斜行した鬚糸文施文を持つ。鬚糸文は口唇部にも施されている。

### 第3類 井草Ⅰ式土器（第171図1～5，第172図15，29～31，第173図32～38，図版39・40）

1～4は頸部に横走の縄文を施すものである。1～3は口唇の文様が2段構成である。1は1条の押圧縄文と斜縄文で、2・3は斜縄文のみの構成である。ちなみに、1は口径が26.5cm，2は推定口径が23.8cm，3は推定口径が22.7cmである。4は口唇が尖頭状になり外反する。1段構成の口唇文様を持つ。推定口径21.7cmである。

5は頸部に羽状縄文を施すものである。口唇の文様が斜縄文による2段構成になっている。口径が26.4cmである。

15は肥厚，屈曲する口縁で、口唇に2段の斜縄文があり、頸部の文様は平行する2条の押圧縄文のみのものである。

29～34も1～4と同じく頸部に横走の縄文を施される。29は、口唇の文様が斜縄文による3段構成である。口縁部が大きく外反している。30～33は口唇2段施文である。34は口唇の文様が1段構成である。

35～37は頸部に斜縄文を施す。35は横走，斜行の縄文がみられる。36は口唇の文様が斜縄文による1段構成である。37は、口唇の文様が斜縄文による1段構成で、内面上端に施されている。

38は頸部に羽状縄文を施すもので、口唇に1段の斜縄文がみられる。

### 第4類 井草Ⅱ式土器（第171図6～10，第172図28，第173図39・40・42，図版39・40）

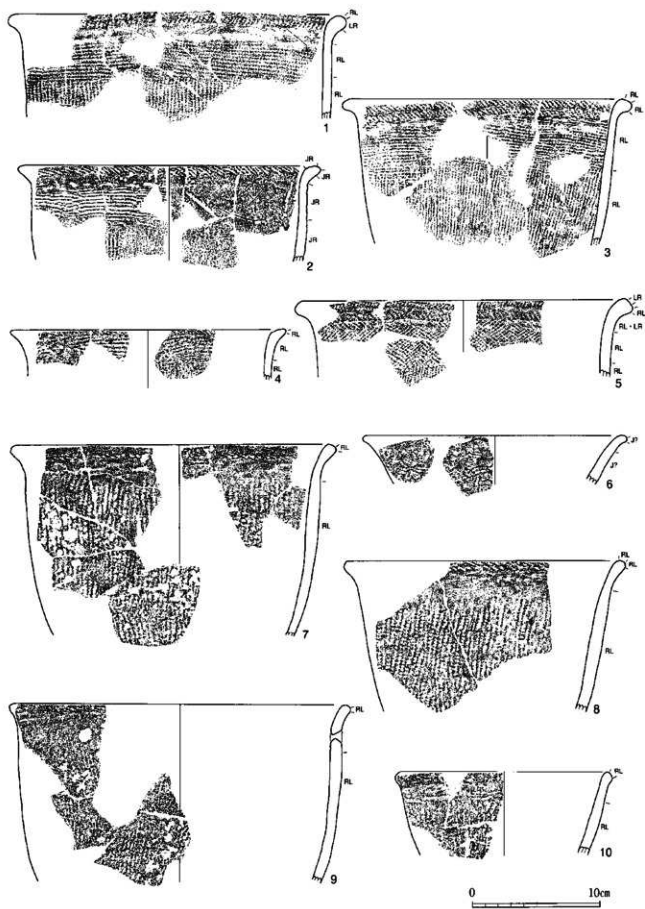
6は推定口径20.8cmで、極端に開く器形をとる。文様は、口唇が1段の斜縄文，胴部がまばらな斜縄文の構成である。井草Ⅰ式土器の可能性もある。

7・9・10の文様は、口唇が1段の斜縄文，頸部が無文帯，胴部が縦走する縄文の構成である。なお、7は頸部に径1cmの補修孔がある。ちなみに、7は推定口径が25.7cm，9は推定口径が26.9cm，10は16.9cmである。8は推定口径22.2cmである。文様は、口唇が2段の斜縄文，頸部が無文帯，胴部が縦走する縄文の構成である。

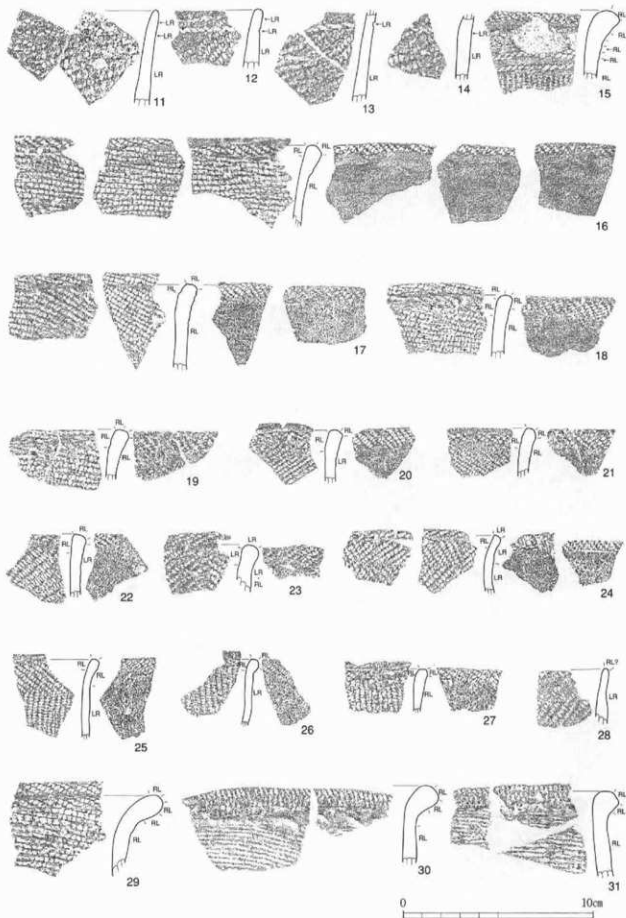
28は内面縄文が欠如しているが、薄手で第2類に酷似する。口唇には斜縄文がみられる。39・40は口唇が1段の斜縄文，胴部が縦走する縄文の構成である。39は頸部が無文帯になるが、40は口縁上端がなでられているが、無文帯といえるか微妙なところである。42は胴部が縦走する不明瞭な縄文で、頸部に無文帯を持つ。

### 第5類 夏島式土器（第173図41・44～51，第174図52～54，図版40）

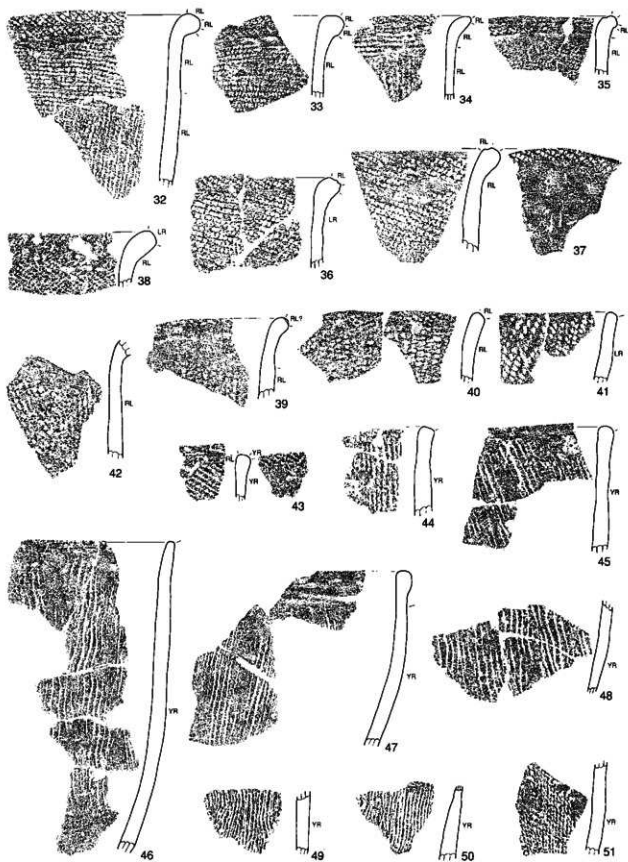
41は粒の粗い縦走縄文が施文されている。44～51は、縦走する鬚糸文の文様となる。口唇は角頭気味である。52～54は、すべてが無文である。口縁の形態からこの類とした。



第171图 第I群土器(1)



第172图 第I群土器(2)



0 10cm

第173圖 第I群土器(3)

第Ⅱ群土器 早期前半の押型文土器（第174図55～62，図版40）

55～61は表面を磨いた後に、横走る山形押型文が施されている。内面も磨いており、表面がなめらかである。55は器厚が3mmと非常に薄手で、焼成がよい。56～61は器厚が5mmと薄手で、胎土に小礫が含まれている。胴部は、やや膨らみを持っている。同一個体のものだろう。62は楕円文のもので口唇断面が丸頭状で、口縁下2cmのところから口縁部が外反している。器厚は1cmとやや厚手で、胎土に繊維が含まれている。山形押型文のものよりも脆い。

第Ⅲ群土器

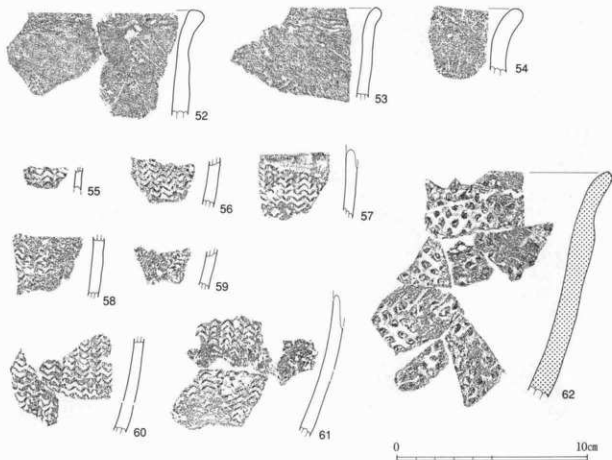
第1類 三戸式土器（第175～178図，図版40～42）

a種 条痕文を主体とするもの（第175図3，図版40）

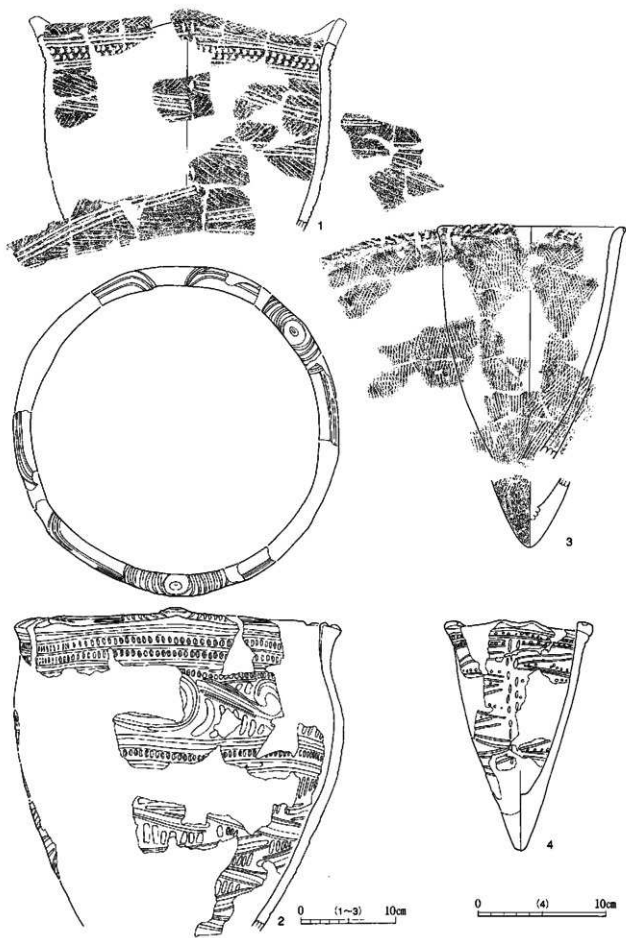
3は推定口径19.7cmの深鉢形尖底土器である。高さはおおよそ29.6cmである。器形は口唇断面が内削ぎ状になっていて、口縁部から底部に向かってすぼまっていく。底部は端部が鋭角である。文様は口唇に斜位の刻目文を有し、器面全体に条痕文が格子目状に描かれている。

b種 沈線文を主体とするもの（第178図11～15・17～19，第178図95・96，図版41・42）

11・18・19は同一個体で、口唇断面が内削ぎ状になっている。文様は平行沈線文によって何段かに区画され、区画内を格子目状の沈線文が充填している。12～15は同一個体で、口唇断面が内削ぎ状になってい



第174図 第Ⅰ群土器（4），第Ⅱ群土器



第175图 第三群土器(1)

る。文様は口唇の外側に斜位の刻目文が周回し、全面に梯子状の沈線文が描かれている。17の文様は、横走る平行沈線文上に鋸歯状の平行沈線文が描かれている。95・96の文様は、平行沈線文が斜位に描かれている。なお、96の口唇断面は内削ぎ状になっている。

c種 刺突文を主体とするもの（第178図94，図版42）

94は口唇断面が内削ぎ状になっている。文様は1唇の外側に斜位の押圧文が周回し、連続刺突文帯が口縁に沿っている。

第2類 田戸下層式土器（第175～178図，図版40～42）

a種 沈線文を主体とするもの（第175図1・2・4，第176図5～10・16・20～52，第177図53～64，66～86，第178図87～93・97～121，図版40～42）

1は、推定口径33.3cmの深鉢形土器である。器形は胴部が膨らみをもち、口縁部で一旦くびれてから外反する。波状口縁で、口唇断面が角頭状になっている。文様は、口唇に羽状の沈線文が刻まれている。口縁部文様は、2列の連続刺突文で充填された平行沈線文帯が周回する。胴部文様は波頂部から垂下した2列の列点文によって縦区画され、区画内を3条1組の平行沈線による三角文が施されている。また、その三角文内には貝殻文で充填している。

2は、口径34.3cmの深鉢形土器である。器形は胴部が膨らみをもち、口縁部で一旦くびれてからやや外反する。口唇断面は、肥厚して角頭状になっている。文様は口唇に円形刺突文のある小突起を有し、その小突起を囲むように沈線による重弧文が施されている。胴部上半の文様は連続刺突文で充填された平行沈線文帯によって区画され、区画内には細沈線で挟まれた太沈線文が渦巻状に描かれている。そして、太沈線による重弧文がその渦巻文を囲むように充填している。胴部下半の文様は細沈線で挟まれた太沈線文が菱形に描かれ、空白部を縦位の太沈線文で充填している。しかし、底部付近は空白部を充填しなくなる。

4は、口径15.5cm，推定器高24.2cmの深鉢形尖底土器である。器形は胴部から口縁部に向かって外反し、口唇断面が肥厚して角頭状になっている。口唇には、円形刺突文のある小突起とU字状の小突起が等間隔に有する。口縁部文様は、連続刺突文で充填された平行沈線文帯が周回する。胴部文様は小突起から垂下した2列の列点文によって縦区画され、区画内を2条1組の平行沈線による三角文が施されている。なお、その三角文に連続刺突文が付随しているところもある。

5～10・16は同一個体である。器形は口唇断面が外削ぎ状で、口縁部が外反する。口縁部文様は、横走る4条の平行沈線文が周回する。胴部文様は2条ないし3条1組の平行沈線文によって縦区画され、区画内を羽状または格子目状の細沈線文で充填している。

20～22は同一個体で、口唇断面が丸頭状のミニチュア土器である。口縁部文様は、横走る平行沈線文が周回する。胴部文様は、4条1組の平行沈線による菱形文が施されている。

23～25，32・33・91は縦長の鋸歯状条線文が配され、横走る平行沈線文が文様区切りに加えられている。23～25，および32・33・91はそれぞれ同一個体である。

26～31，34・35・38は横走る平行沈線文のものである。26～28は同一個体である。29～31は同一個体で、口縁部は外反し、口唇断面が角頭状になっている。34と35は同一個体である。

36・37・39は同一個体である。文様は、横走る平行沈線文地に4条1組の平行沈線文が鋸歯状に描かれている。



40~42・48・49は同一個体で、口唇断面が角頭になっている。43も地点は離れるが同じものだろう。口縁部文様は、横走する平行沈線文が周回する。胴部文様は、沈線文が格子状に描かれている。

44~47は太条線がみられる。44は横区切りの細沈線と太沈線の鋸歯状条線文が組み合わさる。45~47は同一個体で、口唇断面が角頭状になっている。器形は胴部がやや膨らみをもち、口縁部で一旦ややくびれてから外反する。口縁部文様は、細沈線と太沈線をミックスした平行沈線文が周回する。胴部文様は平行沈線文によって鋸歯状に描かれ、空白部を沈線文で充填している。

50~52は同一個体で、口唇断面が尖頭状になっている。器形は、口縁部が外反する。文様は、器面全体に平行沈線文が菱形状に描かれている。胎土には、繊維が含まれている。

53は口唇断面が尖頭状で、口縁下1.7cmのところに補修孔がある。文様は、口縁に沿って3条の平行沈線文が周回している。54~57の文様は、平行沈線による菱形文が施されている。53・54は出土地点近く、同一個体かもしれない。56・57は同一個体である。58~61の文様は、平行沈線文が綾杉状に描かれている。なお、61には赤色顔料が塗られている。62の文様は、横走する平行沈線文が周回している。63の文様は、平行沈線による重層三角文が施されている。

64は口唇断面が尖頭状で、小突起を有する。文様は、口縁に沿って2条の太沈線文が周回し、その下部に縦位の太沈線文が施されている。66の文様は、細沈線で挟まれた太沈線文が三角状に描かれている。

67~70は同一個体で、口唇断面が角頭状になっている。口縁部文様は、口縁に沿って平行沈線文が周回している。胴部文様は、平行沈線文の間を貝殻文が充填している。

71は平行細沈線文・太沈線文と充填貝殻文をもつ99以下の腹縁文のものと同じ個体である。72の文様は、斜位の太条線文が施されている。上部に横位細沈線が見られる。73は口唇断面が肥厚し、角頭状になっている。口唇には、平行沈線文が鋸歯状に描かれている。

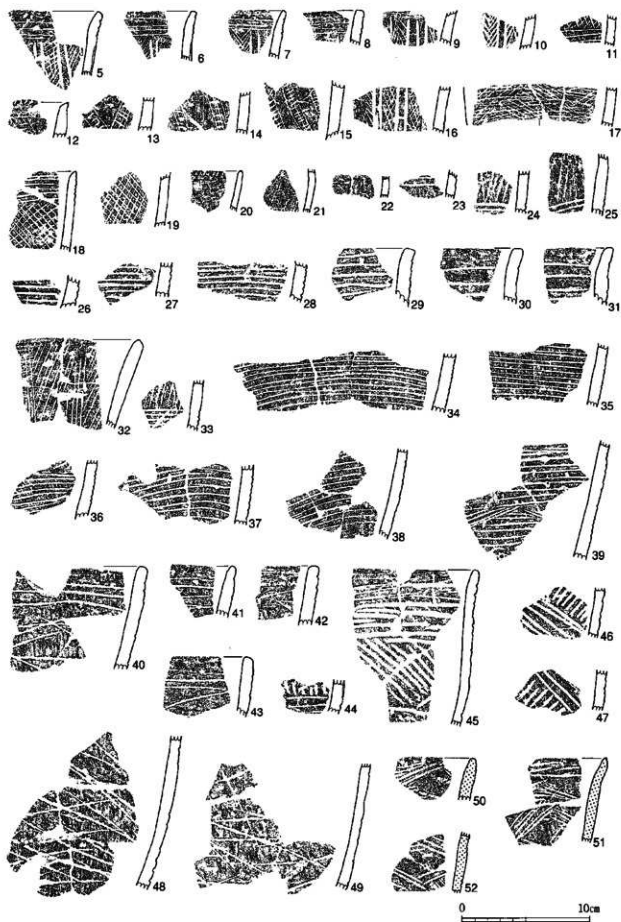
74・75は同一個体である。推定口径15.0cmの深鉢形上器で、器形は口唇断面が外削ぎ状で、直立している。口唇に刻目文を有し、口縁部には波頂部から垂下した1条の太沈線文が文様を縦区画している。その区画内に平行沈線による菱形および三角文が施されている。

76~80は同一個体で、口唇断面が肥厚して角頭状になっている。器形は、口縁下3.5cmのところから外反している。口縁部文様は、口縁に沿って平行沈線文が周回している。胴部文様は、平行沈線による三角文が施されている。

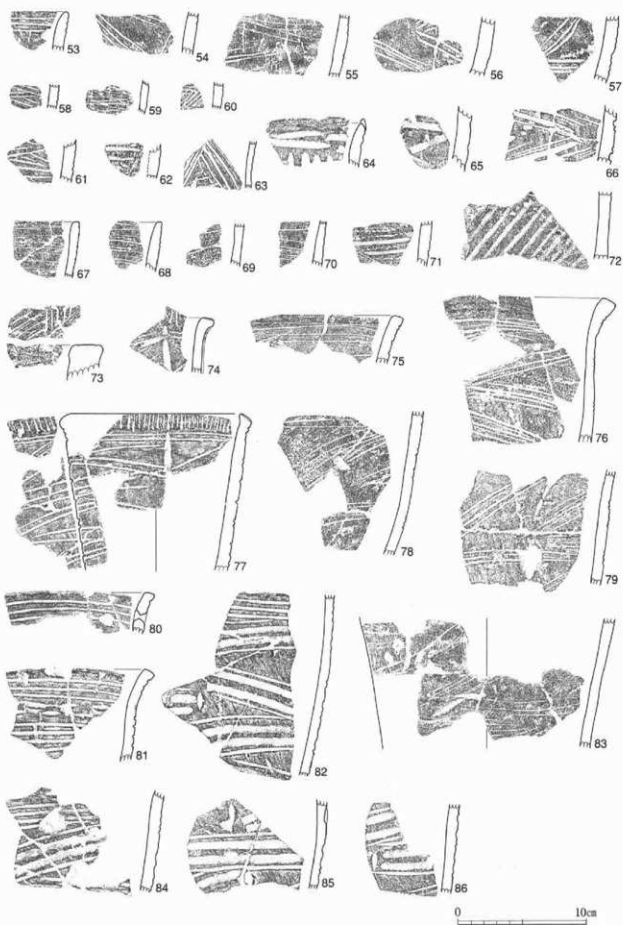
81~86は同一個体で、口唇断面が角頭状になっている。器形は、口縁下3cmのところから外反している。口縁部文様は、横走する列点文で充填された平行沈線文帯が周回している。胴部文様は、細沈線で挟まれた平行太沈線文が三角状に描かれている。

87は口唇断面が肥厚し、角頭状になっている。文様は、連続刺突文で充填された平行沈線文帯が口縁に沿っている。88は、口唇断面が丸頭状になっている。文様は、平行沈線文が口縁に沿っている。89の文様は、横長の列点文が横走している。90の文様は、縦位の短沈線文が何段にも施されている。92の文様は2列の列点文が垂下し、それに沿って平行沈線文が施されている。93の文様は、連続刺突文で充填された平行沈線文帯が横走している。

97と98は同一個体である。文様は、半截竹管による連続刺突文で充填された平行沈線文帯と沈線による重弧文が施されている。また、空白部には貝殻文が充填されている。



第176图 第三群土器(2)



第177图 第三群土器(3)

99~103, 108~116は同一個体である。103は口唇断面が外削ぎ状で、口縁下6cmのところから外反している。上半部の文様は、連続刺突文で充填された平行沈線文帯が口縁に沿っている。下半部の文様は、平行太沈線文の間を貝殻文が充填している。なお、口唇には斜位の刻目文が周回する。115では爪形文によって文様帯を縦区画している。

104~107は同一個体である。口唇断面が肥厚していて、角頭状になっている。文様は、連続刺突文で充填された平行沈線文帯が口縁に沿っている。

117~121は同一個体である。口唇断面が角頭状の小波状口縁で、口縁部がやや外反する。口縁部文様は、連続刺突文で充填された平行沈線文帯が周回している。胴部文様は、沈線文で描かれた空白部に短沈線が充填されている。

#### b種 条痕文を主体とするもの(第178図129~134, 図版42)

129・132~134は同一個体である。口唇断面が角頭状で、文様は条痕文が格子日状に描かれている。胎土には、少量の繊維が含まれている。130の文様は、浅い条痕文が施されている。胎土には、繊維が含まれている。なお、裏面にも条痕文が施されているので、条痕文系土器の可能性もある。131の文様は、条痕文がまばらに施されている。胎土には、少量の繊維が含まれている。

#### 第3類 明神裏Ⅲ式併行土器(第177図65, 第178図122~128, 図版41・42)

65の文様は、太沈線文がジグザグ状に描かれている。胎土に繊維が含まれている。

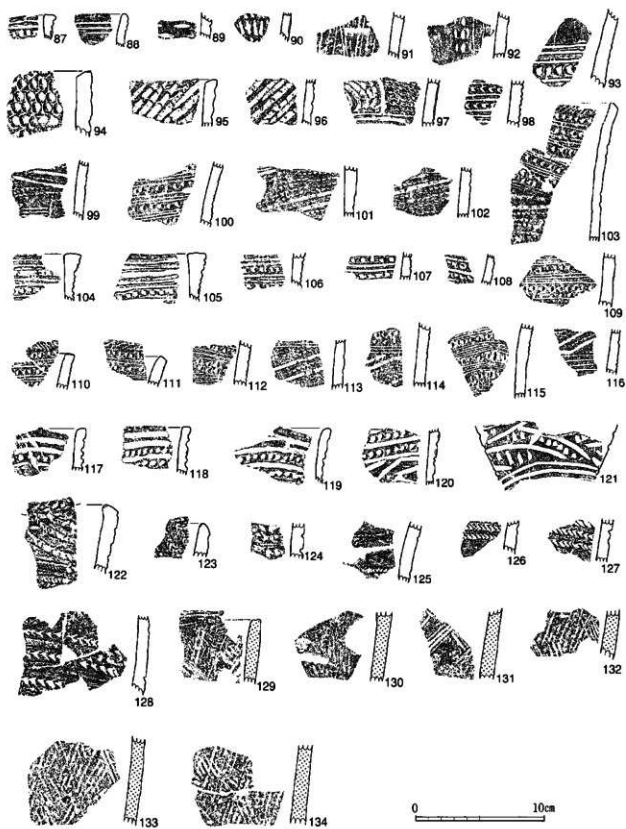
122~125は同一個体で、口唇断面が外削ぎ状になっている。文様は、細いペン先形工具による押引文が口唇から胴部にかけて斜位に描かれている。なお、押引文を施文した最後に、同一工具で刺突を行っている。口唇の内側には、斜位の刻目文を有する。胎土は、細砂粒を多く含んでいる。出戸上層式土器的である。126と127は同一個体である。文様は、ペン先形工具による押引文が平行に描かれている。128の文様は太いペン先形工具による押引文と浅い凹線文を交互に施している。胎土は、細砂粒を多く含む。

#### 第4類 田戸上層式土器(第179図1・5~18, 第180図19~73, 図版42・43)

1は、口径45.0cmの大型深鉢土器である。器形は波状口縁で、口縁部が内湾し、口縁部から胴部に向かってくびれてから胴部が膨らみを持っている。口唇断面は丸頭状になっている。文様は、波頂部に貝殻腹縁による切込みがあり、口唇の内側に刻目文が周回している。口縁部文様は、押引文によって区画され、区画内を押引文が鋸歯状に描かれている。また、波頂部下にはV字状の押引文が施されている。胴部文様は、頸部に貼付された小突起から押引文が大きく鋸歯状に描かれている。胴部上半は押引文によって三角形に区画され、区画内を貝殻文が充填している。

5~18は同一個体である。器形は波状口縁で、口縁部が内湾し、口縁部から胴部に向かって一旦くびれてから胴部がやや膨らんでいる。口縁部文様は、押引文や沈線で挟まれた細隆起線文によって区画され、区画内を押引文や沈線文が施されている。なお、押引文や沈線文を施文した最後に、同一工具で刺突を行っている。また、口唇の内側に刻目文を有し、波頂部の側面にはボタン状突起が貼付されている。そのボタン状突起には押引文で縁取りされ、中心に刺突文が添えられている。胴部文様は押引文や沈線によって枠状文や三角文を構成し、その中を貝殻文で充填している。器厚は6~7mmと薄手で、胎土に少量の繊維が含まれている。

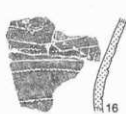
19は、推定口径20.7cmである。器形は平縁で、口縁部が内湾し、口縁部から胴部に向かってくびれている。口唇断面は角頭状になっている。文様は、口唇上に1条の押引文と口唇の内側に刻目文が周回している。



第178图 第三群土器(4)



0 (1) 10cm



0 (2~18) 10cm

第179图 第三群土器(5)

る。口縁部文様は、押引文で挟まれた細隆起線文によって区画され、区画内を押引文がクランク状に描かれている。胴部文様は押引文が主体で、部分的にV字状や「( )」状に描かれている。また、貝殻文で空白部を充填しているところも一部みられる。器厚は、5mm前後と薄手である。

20~29は押引文が主体である。20・22~24は同一個体で、押引文が曲線的に描かれている。また、刺突文や空白部を貝殻文で充填しているところも一部見られる。器厚は薄手で、胎土中に少量の繊維が含まれている。21は波状口縁で、口縁部の内側に稜がある。器厚は薄手である。25~27は同一個体である。口縁部文様は、押引文で挟まれた細隆起線文によって区画され、区画内を貝殻文で部分的に充填している。器厚は薄手である。なお、20、25~27は口唇の内側、21は上面に刻目文がある。28は外削ぎ状の口唇で、器厚は薄手で、胎土中に少量の繊維が含まれている。

30~36は同一個体で、内湾する波状口縁の器形になる。器厚は薄手である。30は口唇断面が丸頭状で、沈線による重弧文が描かれている。31・33の文様は、押引文と刺突文が施されている。32は波頂部で、口唇断面が角頭状になっている。波頂部の外面には円形の刺突文が施されている。32・36とも文様は、押引文で挟まれた細隆起線文によって区画され、その区画内を2条1組の押引文が波状に描かれ、空白部を貝殻文が充填している。34・35は、押引文で挟まれた細隆起線文による文様帯が区画され、区画内に押引文を施される。

37~40は同一個体である。文様は横走する細沈線文によって文様帯を分割し、細沈線による三角文の中を重弧文が充填している文様帯と細沈線による鋸歯状文を挟んだ平行細沈線文が垂下する文様帯がある。ミニチュアの上器である。

41の文様は、半截竹管による平行沈線文が肋骨文風に描かれている。器厚は薄手である。42の文様は、細沈線文が曲線的に描かれている。器厚は薄手である。

43~45・60は同一個体である。43~45は沈線による鋸歯状沈線を挟んだ平行沈線文が頸部を周回し、胴部には貝殻文で充填された平行沈線文帯が曲線的に描かれている。60は横位の平行沈線文が施されている。

46・47・54は押引沈線が特徴になる。46・54の文様は、押引文と貝殻文が施されている。47の文様は、押引文と沈線文が施されている。なお胎土中に少量の繊維が含まれている。

48の文様は、貝殻文が施されている。

49は波状口縁で、口縁部が内湾し、波頂部下7cmのところで緩やかにくびれている。口縁部文様は押引文によって区画され、波頂部を中心として押引文が重弧状に描かれている。なお、貝殻文で空白部を一部充填しているところがある。頸部文様は、波状沈線を挟んだ平行細沈線文が周回している。胴部文様は、押引文が幾何学的に描かれている。胎土中に繊維が含まれている。

50~53・55~59は同一個体である。器形は波状口縁で、口縁部が内湾している。口唇上には、沈線で挟まれた刻目のある細隆起線文がカギ状に描かれている。また、口唇の内側に刻目文がある。口縁部文様は、波頂部下3cmのところに刺突文を有する円形貼付文があり、それを中心にして沈線で挟まれた刻目のある細隆起線文と細沈線文によって「目」のように描かれている。胴部文様は、沈線で挟まれた刻目のある細隆起線文と細沈線文が施されている。59は縦長の文様であるが、胴部下位の部分であろう。胎土中には、白色粒子が多量に含まれている。

63は波状口縁で、口唇断面が丸頭状になっている。2条1組の平行沈線文が口縁に沿って、また頸部にも施されている。明神裏Ⅲ式沈線文のものの可能性がある。

61・62, 64~70は押し沈線が特徴になる。61・62の文様は、押し文が曲線的に描かれている。胎土中には、少量の繊維が含まれている。64と65は同一個体である。胎土中には、少量の繊維が含まれている。66~68は同一個体である。69と70は同一個体で、複合口縁的な形状をなし、口縁下2cmのところに補修孔がある。口唇断面は角頭状で、口唇上にも押し文が有る。胎土中に繊維が含まれている。

71~73は角押し刺突文が特徴である。71の文様は角押し文が縦位に施されている。72は隆帯に人めの沈線を作る。73は細沈線が施文されている。

#### 第5類 田戸上層式土器から子母口式土器に比定される無文主体土器（第181~183図，図版43~44）

##### a種 口縁部に円形刺突文が施されているもの（第181図74~77，図版43）

74は推定口径26.1cmで、口縁部がやや外反する。円形刺突文は口縁下1cmのところで口縁に沿って施されているが、周回しないようである。口縁部の内面には、条痕文が部分的にみられる。胎土中に繊維が含まれている。

75は推定口径19.9cmで、口縁部が直立している。円形刺突文は、口縁下1.5cmのところで口縁に沿って周回し、器壁を貫通している。それ以外は無文である。胎土中に繊維が含まれている。

76と77は同一個体である。小突起を有し、口唇上に刺突文がある。器形は、口縁部がやや外反する。円形刺突文は、口縁下3.5cmのところで口縁に沿って施されている。それ以外は無文である。胎土中に繊維が含まれている。

##### b種 隆帯文及び隆起線文を有するもの（第181図78~80，図版43）

78は、長さ1cmの隆帯が口唇の外面に貼付されている。口縁部が外反し、器厚が6mm前後と薄手である。不明瞭だが下位には沈線状の痕跡があり、位置づけに困るところである。79は、高さ9mmの隆帯が縦位に貼付されている。胎土中に少量の繊維が含まれている。80は、口縁部が直立している。隆帯上と口唇の外面に刻目文が施されている。

c種 口唇に刻目文・沈線文・縄文・刺突文が施され、それ以外は無文のもの（第179図2，第181図81~99，図版42・43）

2は、推定口径10.0cmである。器形は平縁で、口縁部が内湾している。文様は、口唇上に刻目文が施され、それ以外は無文である。内外面ともミガキ調整が行われている。

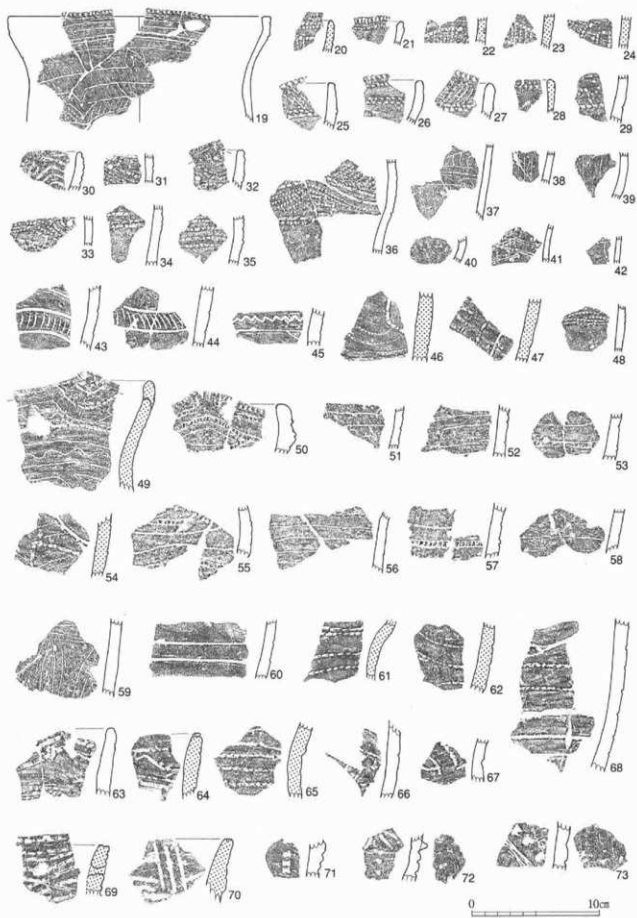
81は小突起を有し、口縁部がやや内湾している。その突起上に刻目文が施されている。器厚は7mm前後と薄手である。

82~85は口唇断面が外側に肥厚し、口唇上が平坦になる。82・83は同一個体である。刻目文が口唇の肥厚したところ、口唇の内外縁に浅く施されている。条痕文が口縁部の内面に一部みられる。胎土中に少量の繊維が含まれている。84は平坦面に2条1組の平行沈線文が鋸歯状に描かれている。口縁部の内面は、横位のナデ調整が行われている。胎土中に繊維が含まれている。85は刻目文が口唇の平坦面に施されている。胎土中に繊維が含まれている。

86は口唇断面が尖頭状で、口縁部が直立している。刻目文は、棒状工具の側面を使って押し込んでいる。胎土中に繊維が含まれている。

87~91・94・97は角張った口唇縁に刻みを施されている。87は口縁部がやや外反し、口唇の内側に刻目文が施されている。器厚は7mm前後と薄手で、口縁部の外面に赤色顔料が塗られている。88は口縁部が内湾し、口唇の内側に刻目文が施されている。器厚は7mm前後と薄手である。89は口唇断面が外割ぎ状で、





第180图 第三群土器(6)

口縁部がやや外反する。刻目文は、口唇の外側に施されている。内外面ともにナデ調整が行われている。口縁部の内面に、穿孔途中の補修孔がある。胎土中に繊維が含まれている。90と91は同一個体である。口唇断面は内削ぎ状で、口縁部がやや外反している。口唇の内外縁には、浅い刻目文がある。条痕文が口縁部の内面に施されている。胎土中に繊維が含まれている。94は口縁部がやや内湾し、口唇の外縁に浅い刻目文が施されている。条痕文が口縁部の内外面に一部みられる。胎土中に繊維が含まれている。97は口唇断面が角頭状で、口縁部がやや外反している。胎土中に繊維が含まれている。

92～96は細い刻み目が口唇上に見られる。92は、口縁部が直立している。刻目文は、口唇の外側に斜位に施されている。ナデ調整によって、口縁部の内外面に横位の擦痕が見られる。胎土中に繊維が含まれている。93は口唇断面が角頭状で、口縁部が直立している。口縁部の外面は、横位のナデ調整によって擦痕が見られる。胎土中に繊維が含まれている。95は、口唇断面が丸頭状である。刻目文は、棒状工具の側面を使って押圧している。器厚が7mm前後と薄手である。胎土中に繊維が含まれている。96は口唇断面が角頭状で、口縁部がやや外反している。胎土中に繊維が含まれている。

98は口唇断面が尖頭状で、口縁部がやや外反している。口唇上に浅く不明瞭な施文がある。胎土中に繊維と多量の金雲母・小石が含まれている。99・100とは胎土が共通している。

d種 条痕文が施されているもの (第181図99, 図版43)

99は口唇断面がやや内削ぎ状で、片刃状になっている。その口唇上に、縄文原体が押圧されている。条痕文は、器壁が粗い面に粗雑に施されている。胎土中に繊維と多量の金雲母・小石が含まれている。

e種 無文のもの (第181図3・4, 100～103, 第182図104～148, 第183図149, 図版43・44)

3は、推定口径9.0cmである。口唇断面は丸頭状で、口縁部が内湾している。胎土中に繊維が含まれている。

4はミニチュア土器である。手握ねで、底部が尖底になっている。

100は口唇断面がやや尖頭状で、口唇のところが外反している。胎土中に繊維と多量の金雲母・小石が含まれている。なお98～100は胎土や整形は酷似している。

102と103は同一個体である。口縁部には外面から指で強く押された跡があり、器壁に凹凸がある。胎土中に繊維が含まれている。

101・104～113は口唇断面が角頭をなす。胎土中に繊維が含まれている。101は胴部がやや膨らみを持ち、口縁部が直立している。104は口唇断面が内側に肥厚し、口唇上が平坦になっている。条痕文は、口縁部の外面に浅く施されている。105は口唇の内側がやや削がれている。106は口縁部が直立している。条痕文は、口縁部の内外面に一部見られる。107・108は同一のもので、口縁部が直立している。口縁部の内外面にミガキ調整が行われている。109～111は口縁部が強く外反している。口縁部の外面は、横位のナデ調整によって擦痕が見られる。112は口縁部が外反している。113は口縁部が直立している。

114～116・118～121・123・124は口唇丸頭状のものである。胎土中には、繊維が含まれている。114は口唇のところがやや外反している。115は口縁部が直立している。116・118・119は口縁部が直立している。器厚が7mm前後と薄手である。120は口縁部がやや外反している。121は口縁部がやや外反している。器厚が7mm前後と薄手である。口縁部の外面に赤色顔料が塗られている。123・124は口唇断面が丸頭状で、口縁部が強く外反している。

117・122・125・127は口唇断面が尖頭状で、胎土中に繊維が含まれている。117・122は口縁部がやや外

反している。125は口唇断面が尖頭状で、口縁部が直立している。127は口唇断面が尖頭状で、口縁部がやや外反している。器厚が7mm前後と薄手である。

126は口唇断面が内削ぎ状で、口縁部が直立している。128は口唇断面がやや外削ぎ状で、口縁部が外反している。129は口唇断面が角頭状で、口縁部が直立している。器厚が6mm前後と薄手である。これらには胎土中に繊維が含まれている。

132は口唇が外側に肥厚し、口唇断面が角頭状になっている。器厚が4mm前後と薄手である。

130・131, 133~142は口唇断面が丸頭状で直立し、胎土には繊維がみられない。130・131は同一個体で、口縁部の内外面にミガキ調整が行われている。器厚が7mm前後と薄手である。133は口縁部の外面にミガキ調整が行われている。器厚が7mm前後と薄手である。134は口縁部の内外面にミガキ調整が行われている。135は口縁部の内面にミガキ調整が行われている。137は波状口縁でのものである。138~140は同一個体で、器厚が6mm前後と薄手である。141・142は器厚が7mm前後と薄手である。

143~145は口唇断面が丸頭状で、口縁部がやや外反している。143は器厚が7mm前後と薄手である。145は口唇のところが外反し、内削ぎ的になっている。

146は口唇が内側に肥厚し、口唇断面が内削ぎ状になっている。147・148は口唇断面がやや尖頭状で、口縁部が直立している。口縁部の内外面にミガキ調整が行われている。

149は波状口縁で、口唇断面が尖頭状になっている。器形は、胴部から口縁部に向かって直線的に立ち上がっている。胎土中に多量の繊維が含まれている。黒浜式土器の可能性もある。

#### f種 条痕文が施されているもの(第183図150, 図版44)

150の文様は、外面が条痕文を施した後、ナデ調整を行っている。内面の文様は、横走の条痕文が施されている。胎土中に多量の繊維が含まれている。

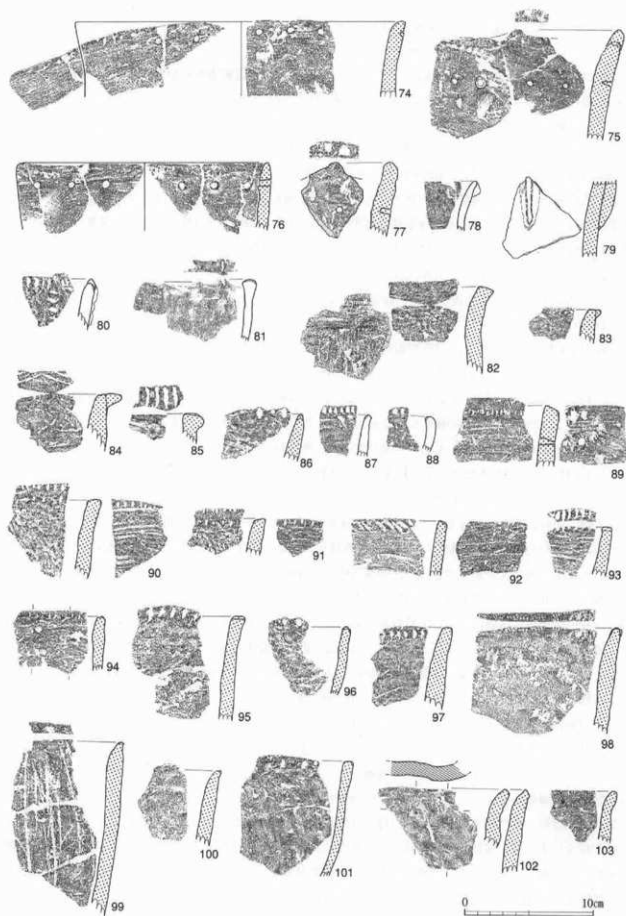
#### g種 口唇に刺突文が施され、内外面に文様があるもの(第183図151, 図版44)

151は器形は口唇断面が角頭状で、口縁部が外反している。口径は波頂間で28.5cmである。口唇上には、半截竹管による刺突文が廻っている。口縁部文様は、口縁下5cmのところに微隆起線文が周回し、その微隆起線上に半截竹管による条線帯が斜位に描かれている。同様の文様が口縁部上端にも施され、口縁部文様を区画している。区画内には、半截竹管による押引文と平行沈線文で格子状に描かれている。胴部文様は、部分的に条痕文が施されている。一方、内面は全面に条痕文が施されている。胎土中には、多量の白色粒子と繊維が含まれている。文様や胎土から、ほかの土器と異なる感じがする。

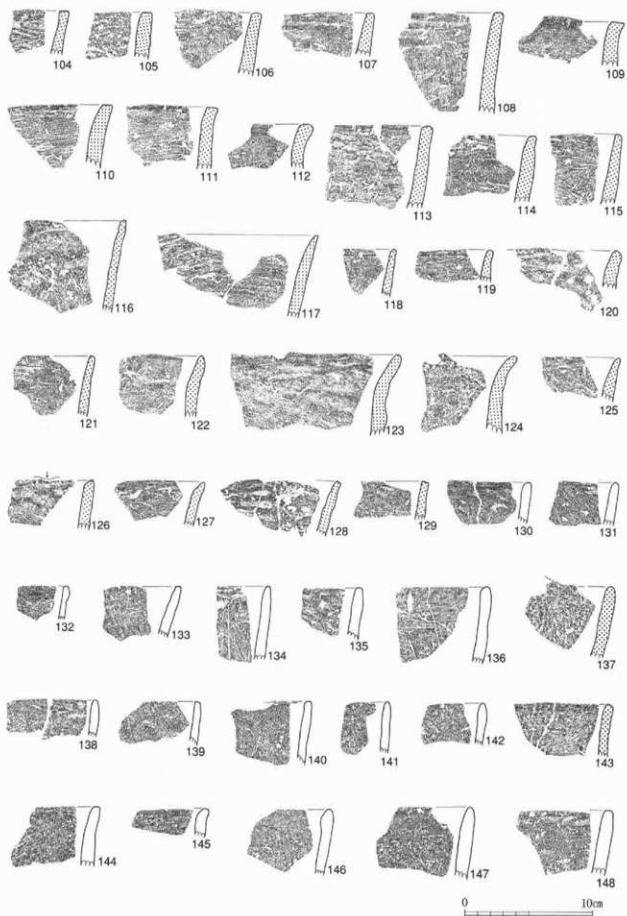
#### h種 隆起線施文のもの(第183図152~167, 図版44)

152・153は同一個体である。器形は口唇が外削ぎ状で、口縁部がやや外反している。文様は、口唇に沿って隆帯が一部貼付されている。また、内面には口縁下3cmのところに内面から刺突した円形刺突文が廻っている。その円形刺突文には、器壁を貫通しているものとしていないものがある。それ以外は無文である。胎土中に繊維が含まれている。器厚は1.3mm前後と厚手である。

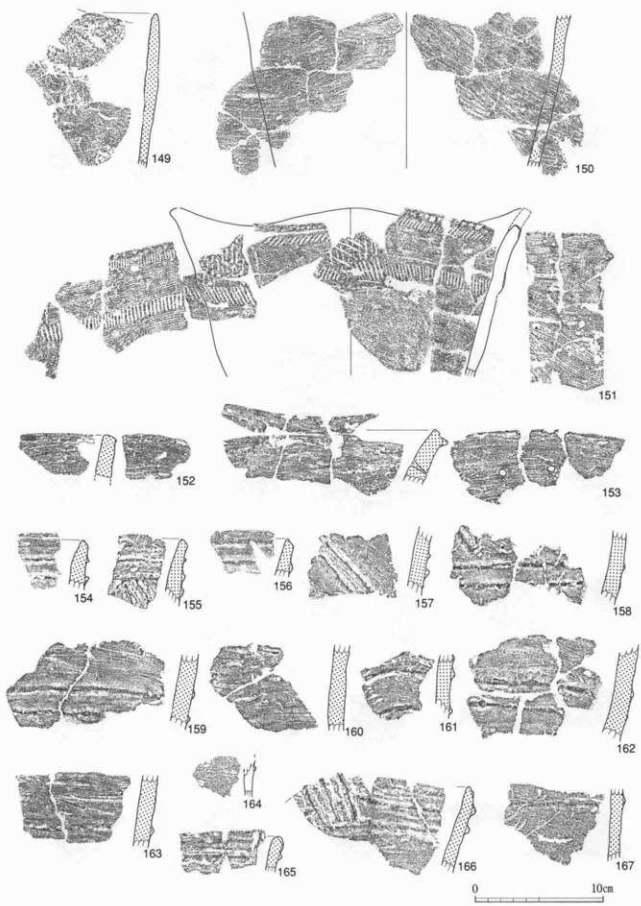
154~158は同一個体である。器形は口唇が外削ぎ状で、口縁部がやや外反している。文様は、2本1組の隆起線文によって口縁部文様を区画し、区画内にも2本1組の隆起線文が施されている。なお、隆起線の断面は三角形になっている。内外面とも、ナデ調整が丁寧に行われている。胎土中に繊維が含まれている。器厚は1.2mm前後と厚手であるが、口縁端部のほうへ行くに従って薄くなっている。



第181图 第三群土器 (7)



第182图 第三群土器 (8)



第183图 第Ⅲ群土器(9)

159～163は同一個体である。文様は、2本1組の隆起線文が胴部を周回している。なお、隆起線の断面は三角形になっている。それ以外は、ナデ調整が丁寧に行われている。胎土中に繊維が含まれている。器厚は1.4mm前後と厚手である。

164は刻み目を持つ細隆起線を廻らせている。外面に擦痕がみられる。

165～167は同一個体である。波状口縁で、口唇が尖頭状になっている。文様は、波頂部から3本の隆起線文が垂下し、それに直交するように口縁下2cmの箇所以下に2本の隆起線文が口縁部を周回している。なお、口縁部を周回する隆起線上には部分的に刻目が施されている。胎土中に繊維が含まれている。

底部（第184図）

a種 有文で、尖底のもの（第184図1～3）

1は、底端部が鋭角である。文様は、沈線文が斜位に描かれている。胎土中に多量の赤色スコリアが含まれている。三戸式土器である。

2の文様は沈線文が横位に描かれている。底端部は欠損しているが、平坦であると思われる。3は、底端部が鋭角である。文様は、細沈線文が横位に描かれている。2・3は田戸下層式土器である。

b種 無文尖底で、鋭角なもの（第184図4～15）

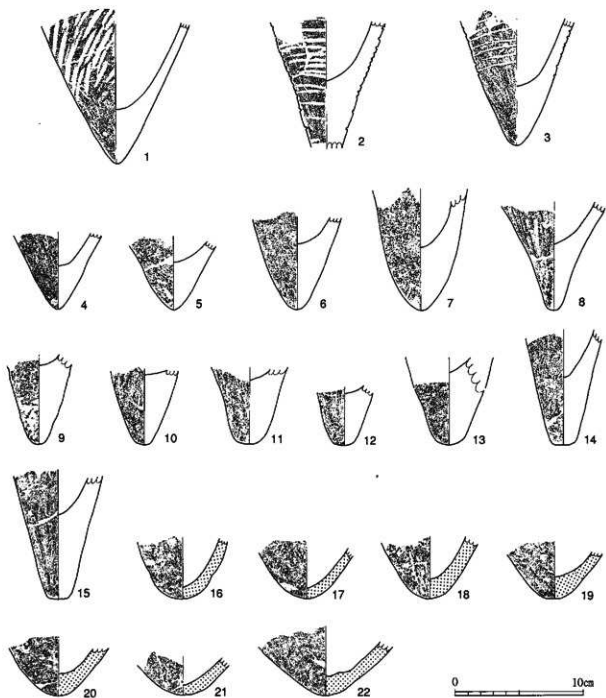
4と5は底端部が鋭角である。外面に丁寧なミガキ調整が行われている。胎土中に白色粒子が多量に含まれている。三戸式土器である。

6～10は底端部が鋭角である。6と7は内外面ともに、丁寧なミガキ調整が行われている。胎土中に砂粒が多量に含まれている。8は底端部が鋭角である。ケズリ調整によって、底部が急激に細くなっている。9は底端部が鋭角である。外面は、表面の剥落が著しい。10は底端部が鋭角である。外面はケズリ調整が行われている。8～10は田戸下層式土器である。

11～15は底端部が平坦で、田戸下層式土器である。11は胎土中に多量の砂粒が含まれている。12と13は外面にケズリ調整が行われている。14と15は内外面ともに、ミガキ調整が行われている。

c種 無文尖底で、鈍角なもの（第184図16～22）

16～22は、胎土中に繊維が含まれている。20は、内外面とも丁寧なミガキ調整が行われている。また、内面に赤色顔料が塗られている。



第184图 第Ⅲ群上器 (10)



#### 第IV群上器 早期後半の上器

これらの土器は一般的に胎土中に繊維が含まれているものであり、挿図で表現されているので、特殊な例以外は繊維についての記載を省略する。また条痕文も通常、地文的にみられるもので、同様とする。

##### 第1類 野鳥式土器 (第185～192図, 図版45～48)

###### a種 細隆起線文を主体とするもの (第185図1～23, 図版45)

1・2～4は口縁下に帯状の絡条体圧痕文が巡るもので、胎土中には小礫を多量に混入しているが、繊維は含まれていない。1は、推定口径17.2cmの深鉢形土器である。口唇断面は尖頭状をしており、平縁である。器厚は、5～6mmと薄手である。絡条体圧痕文は口縁下1cmの幅で巡っており、その下部は横位の平行細隆起線文で文様帯を区画しており、区画内には右上がりの斜位細隆起線文が1cm間隔で充填されている。なお、細隆起線文上には絡条体圧痕文が押しされている。地文に磨消気味の条痕文がみられる。2～4は同一個体である。口唇断面は尖頭状をしており、器厚が4～5mmと非常に薄手である。絡条体圧痕文は口縁下5mmの幅で巡り、その下部に横位の平行細隆起線文が周回している。そして、横位の平行細隆起線文を縦区画するように斜位の細隆起線文が交差している。

5は薄手で、口唇断面が尖頭状をしている。文様は縦位の細隆起線文で文様帯を縦区画した後、横位の細隆起線文を施している。6は口唇断面が内削ぎ状をしており、薄手である。文様は、細隆起線文が山形に施されている。5・6の胎土中には小礫を多量に混入し、繊維が少量含まれている。

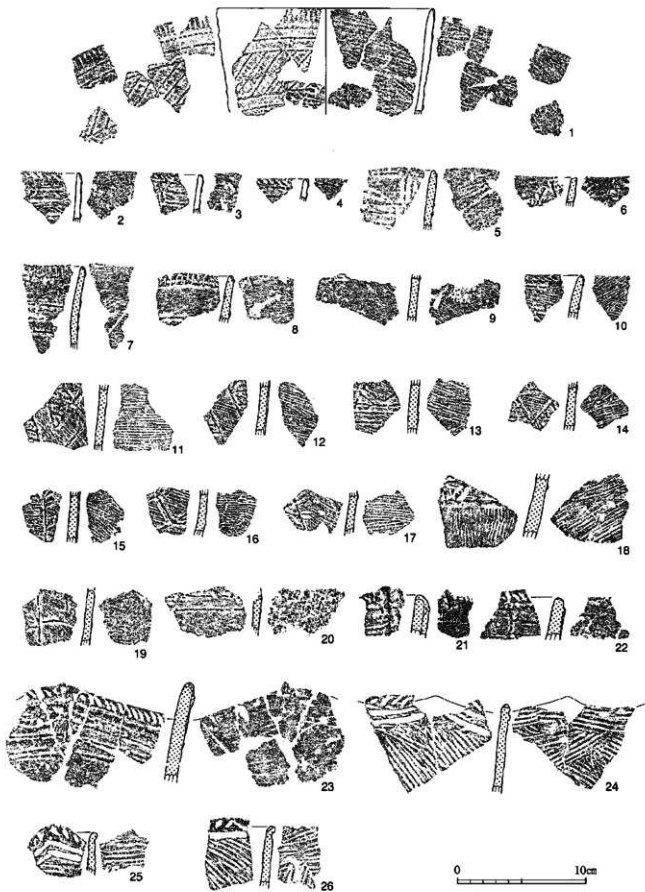
7～9は同一個体である。口唇断面は尖頭状をしており、薄手である。器形は、口縁下4cmのところから反している。文様は、刻目文が口縁下5mmの幅で帯状に巡っており、その下部に横位の平行細隆起線文が間隔を開けて周回している。

10～17は絡条体圧痕文を持ち、胎土中には少量の繊維がみられる。10は薄手のもので、口唇断面が尖頭状をしている。絡条体圧痕文が口縁下5mmの幅で帯状に巡っており、その下部には横位の平行細隆起線文が周回している。なお、細隆起線文上には絡条体圧痕文が押しされている。11～17は薄手のもので、同一個体である。文様は条痕文を地文とし、細隆起線文が幾何学的に施されている。また、区画された部分を細隆起線文で充填しているところと、空白にしているところを区別して描かれている。細隆起線文上には絡条体圧痕文が押しされている。

18は、器厚が1cm前後と厚手である。細隆起線文が施されており、胴部下位には縦条痕文がみられる。また赤彩された跡が部分的に残っている。

19・20は同一個体で、薄手である。胎土中には少量の繊維に加え、小礫と金雲母が多量に含まれている。文様は細隆起線文が横位または「阿弥陀くじ」状に施されている。

21～23は同一個体である。口唇断面は外削ぎ状をしており、波状口縁である。器厚は1cm前後と厚手である。文様は口唇上の小突起から細隆起線文が垂下し、それを直交するように4本の横位細隆起線文が施されている。また、口唇には刻目文が斜位に深く刻まれている。



第185图 第IV群土器(1)

b種 沈線文を主体とするもの(第185図24~26, 第186図27, 第187図32~48, 図版45・46)

24~25は同一個体である。口唇断面は円頭状をしており、波状口縁である。文様は斜条痕文を地文とし、2条一組の平行沈線文が口縁に沿って描かれている。また、口唇上には棒状工具を横にして押圧した斜位の刻目文が巡っている。26は口縁に沿う沈線が1条で、口唇施文は「ハ」の字になる。

27は、胴がやや膨らむ筒状の器形で、1本の隆帯文によって胴部文様帯を区画し、縦位の条痕文を地文とし、平行沈線文が等間隔で周回している。胴下半部文様は、縦位の条痕文のみである。

32・33は口縁直下から太い集合沈線の文様が展開される。32は口唇断面が円頭状をしており、平縁である。横位の沈線文で口縁部文様帯を区画し、区画内を縦位と斜位の集合沈線文で充填している。また、口唇上には竹管状工具による刺突文が巡っている。33は、口唇断面が内削ぎ状をしている。文様は口縁下4cmのところを境に、上部が右下がりの集合沈線文に、下部が右上がりの集合沈線文に描かれ、羽状になっている。また、口唇上には太い刻目文が巡っている。

34~37は、口縁下1cmの幅で無文帯が周回し、その下部に集合沈線文が描かれている。口唇上には太い刻目文が巡っている。34と35は同一個体である。口唇断面は円頭状をしている。36と37は同一個体である。口唇断面は内削ぎ状をしている。無文帯の下部は沈線文が重ねて描かれている。施文順序は集合沈線文を鋸歯状に施文した後、縦位の集合沈線文を施し、最後に山形の沈線文を描いている。

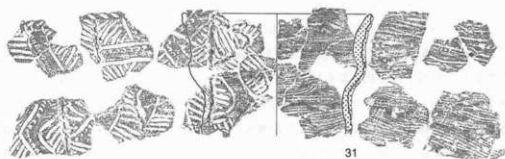
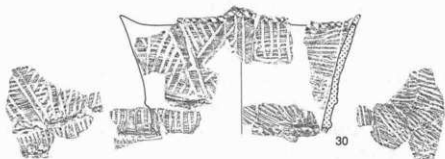
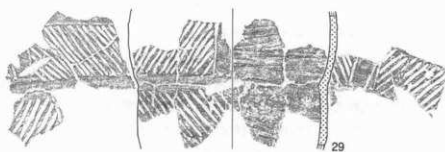
38~43も口縁直下から太い集合沈線の文様が展開されるものである。38は、くびれのある薄手のもので、口唇断面が円頭状をしている。文様は、ヘラ状工具による細沈線文で幾何学的に文様帯を区画し、区画内を集合沈線文で充填している。また、口唇上には刺突文が巡っている。39は、口唇断面が角頭状をしている。文様は縦位と斜位の集合沈線文が組み合わされている。40は口唇断面が円頭状をしており、波状口縁である。文様は、崩れているが集合沈線文が格子目状に描かれるようである。また、口唇上に太く刻目文が巡っている。裏面に縦位条痕文がみられる。41の文様は集合沈線文が斜位に施された後、縦位の集合沈線文が重ねて描かれている。42の文様は沈線文で区画した後に、集合沈線文と押し文で区画内を充填している。43は、隆起線文によって口縁部文様帯を区画している。口縁部文様は集合沈線文が斜位に施された後、縦位に重ねて描かれている。

44~48は、細い集合沈線文が配されるものである。44は口唇断面が内削ぎ状をしている。文様は斜位に施された後、縦位に重ねて描かれている。また、その上端に沈線文が描かれ、口縁部文様帯を作り出している。45~48は同一個体である。口唇断面は円頭状をしており、波状口縁である。文様は鋸歯状に描かれ、さらに口縁部上端を横位の集合沈線文が周回している。

c種 沈線による幾何学文様の区画文と集合沈線による充填文が伴うもの(第186図28~30, 第187図49~53, 第188図54~76, 第189図77~97, 190図98~103, 第191図129~134, 図版45~48)

28は推定口径19.7cmの深鉢形上器で、括れがなく、口縁部が直線的に立ち上がっている。口唇断面はやや内削ぎ状をしており、口唇上に棒状工具を横にして押圧した刻目文が巡っている。口縁下1cmの幅で沈線区画による無文帯が周回し、口縁下9cmのところにも平行沈線文を巡らせることによって、口縁部文様帯を区画している。口縁部文様は、鋸歯状の区画文と鋸歯状の充填文が組み合わさって描かれている。区画文の沈線と充填文の集合沈線は、同一工具で描かれている。胎土中に多量の金雲母が混入し、繊維も含まれている。

29は頸部に幅1.5cmの無文帯が巡り、文様帯を2段に分離している。それぞれの文様帯は、沈線区画によ



0 10cm

第186图 第IV群土器(2)

る無文部で縦区画されている。なお、括れ部の無文帯は沈線で区画されていない。区画文の沈線と充填文の集合沈線は、同一工具で描かれている。内面はヘラナデ状態で条痕文がない。

30は推定口径が25.3cmで、波状口縁になっている。器形は、一旦括れてから口縁に向かって外反している。口唇が角頭状で、口唇上に板状工具を横にして押圧した刻目文が巡っている。括れ部に2本の隆線文が周回し、その間を縦位の沈線文で充填している。区画文の沈線と充填文の集合沈線は、同一工具で描かれている。

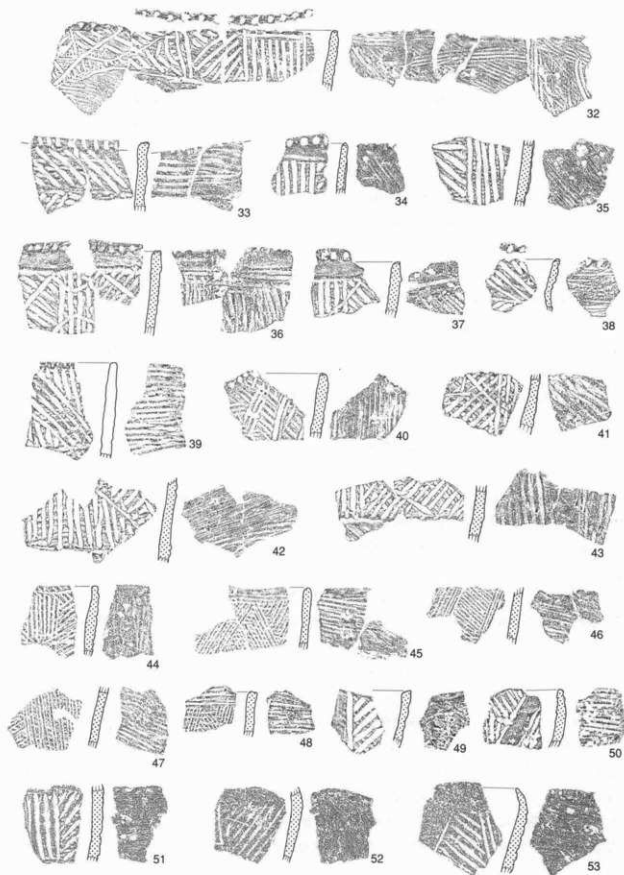
49～55は口唇直下から施文され、文様帯が形成されるものである。区画の沈線と充填の集合沈線は、同一工具で描かれている。49は口唇断面が内削ぎ状をしており、波状口縁である。裏面には、赤彩が施されている。50は口唇断面が円頭状で、口縁部が内湾している。51～53は同一個体で、口唇断面が尖頭状で、口縁部が内湾している。沈線で区画された集合沈線が縦、斜方向に施されている。内面には条痕文がない。54は口唇断面が内削ぎ状で、口縁下5cmのところから括れて外反している。55は口唇断面が円頭状をしており、波状口縁である。なお、口唇上は棒状工具を横にして押圧した太刻目文が巡っている。54・55には条痕文の地文が一部残っている。

56は口唇断面が角頭状をしており、波状口縁である。口縁下1.5cmの幅で、無文帯が周回している。その無文帯と区画された無文部が交叉しているところに、複数を単位とする刺突文が斜位に施されている。なお、口唇上は太刻目文が巡っている。区画文の交叉部に刺突文があることから、鶯が島台式土器の可能性がある。

57～60は同一個体である。口唇断面は角頭状をしており、波状口縁である。波頂部には太刻目文が施されている。文様帯には口唇直下から施文されている部分と、無文帯が形成される部位がある。区画の沈線と充填の集合沈線は、同一工具で描かれている。胎土中に多量の砂粒と繊維が含まれている。器厚が厚手であることから、鶯が島台式土器の可能性が高い。

61～68・70は口唇直下から施文され、文様帯が形成されるものである。区画の沈線と充填の集合沈線は、同一工具で描かれている。61は、無文部と無文部が交叉しているところに、刺突文が斜位に施されている。胎土中に繊維に加え多量の砂粒が混入している。62は、無文部と無文部が交叉しているところに、2個一組の刺突文が斜位に施されている。63と64は同一個体である。口唇断面はやや内削ぎ状をしており、口唇外面の太刻目文が施されている。条痕文の地文が一部残っている。また、無文部と無文部が交叉しているところに、2～3個一組の刺突文が斜位に施されている。66は口唇断面が角頭状をしており、口縁下7cmのところから括れて内湾している。括れ部のところで無文帯が周回している。なお、頸部の無文帯は沈線で区画されていない。また、頸部の無文帯と区画されている無文部が交叉しているところに、3個一組の刺突文が斜位に施されている。口唇上は、太目文が巡っている。67は、波頂部が山形をしている波状口縁である。口唇断面が、やや内削ぎ状をしている。なお、波頂部から垂下している無文部は、沈線で区画されていない。口唇上は、太刻目文が巡っている。68は口唇断面がやや内削ぎ状をしており、波状口縁である。なお、口唇上は太刻目文が巡っている。なお、61～66は区画文の交叉部に刺突文がある。70は口唇断面が円頭状で、口縁部がやや内湾している。条痕文の地文が一部残っている。口唇上は太刻目文が巡っている。

69と71は同一個体である。口唇断面は角頭状をしている。口縁下1cmの幅で、沈線区画による無文帯が周回している。区画の沈線と充填の集合沈線は、同一工具で描かれている。また、括れ部のところにも幅



0 10cm

第187图 第IV群土器(3)

2cmの無文帯が巡り、文様帯を2段に分離している。口唇上は太刻目文が巡っている。

72～78, 80～82は胴部片である。区画の沈線と充填の集合沈線は、同一工具で描かれている。72・74～76は同一個体である。括れ部のところで、無文帯が周回している。なお、無文帯は沈線で区画されていない。頸部の屈曲が急であることから、鶯ガ島台式土器の可能性が高い。73は条痕文の地文が一部残っている。また、無文帯と無文帯が交叉しているところに、複数を単位とする刺突文が斜位に施されている。区画文の交叉部に刺突文があることから、鶯ガ島台式土器の可能性が高い。77と78は同一個体である。括れ部のところで、無文帯が周回している。80は括れ部のところで、沈線区画による無文帯が周回している。器厚が厚手であることから、鶯ガ島台式土器の可能性が高い。82は、括れ部のところで沈線区画による無文帯が周回している。

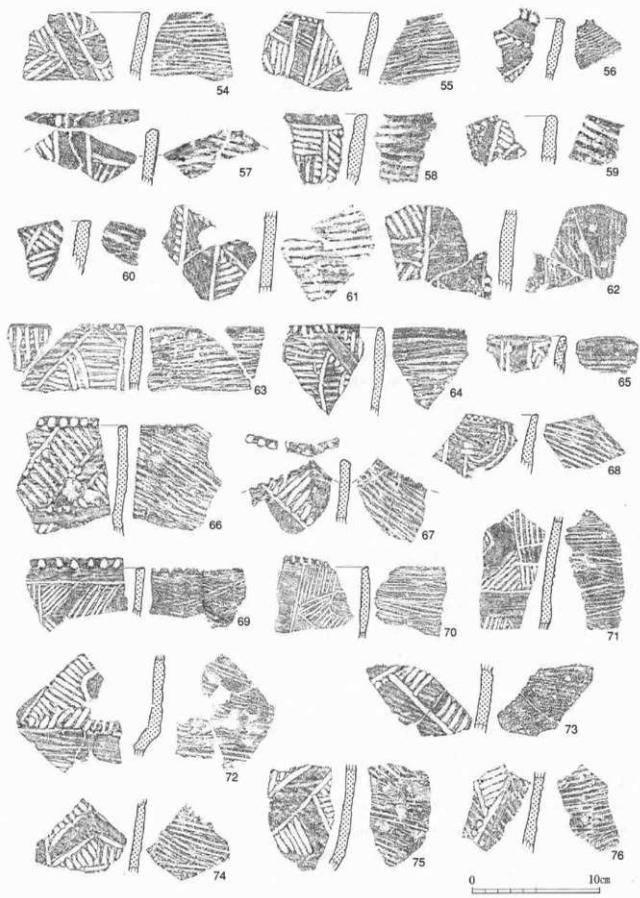
79は丸頭の口唇を持つ。口唇直下に無文帯があり、斜方向の集合沈線の区画文が見られる。

83～86は同一個体である。器形は、胴部のところで一旦括れ、口縁に向かって内湾しながら外に開いている。波状口縁を有し、口唇の外側には太刻目文が巡っている。文様は、沈線で区画された無文帯が括れ部のところで巡り、2段に文様帯を分離している。区画文の沈線と充填文の集合沈線は、違う工具で描かれている。また、口縁下1～2cmの幅で無文帯が周回している。

87波状口縁を有し、波頂部の口唇上は窪んでいる。括れ部のところで、無文帯が周回している。なお、その無文帯は沈線で区画されていない。頸部の無文帯と区画された無文帯が交叉しているところに、複数を単位とする刺突文が斜位に施されている。地文の条痕文が一部残っている。区画文の交叉部に刺突文があることから、鶯ガ島台式土器の可能性が高い。

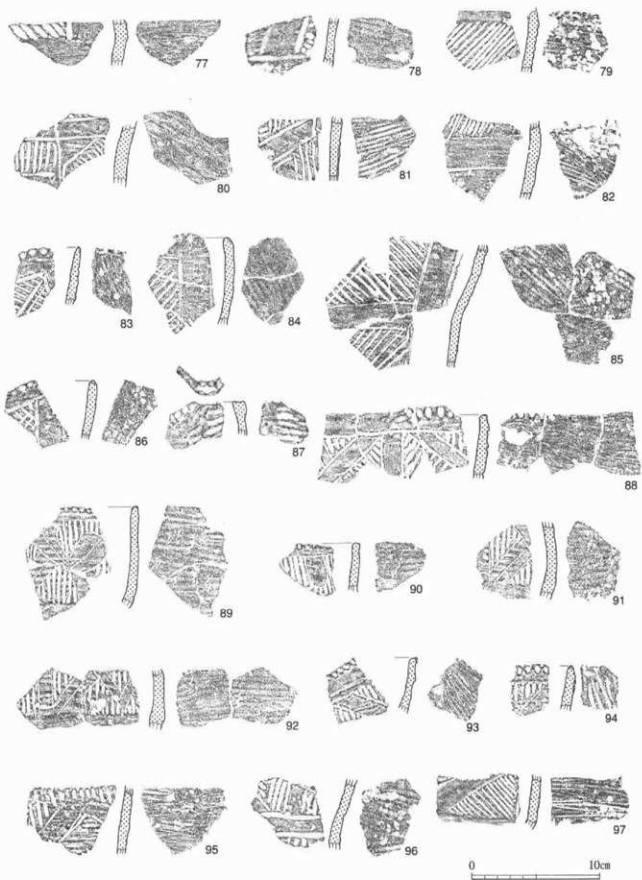
88～94は口縁部で、口縁上端に無文帯を持つ。区画文の沈線と充填文の集合沈線は、違う工具で描かれている。88は口唇がやや内削ぎ状で、口唇上には太刻目文が部分的に巡っている。口縁下無文帯は沈線で区画され、幅は1cmである。89～92は同一個体である。器形は、頸部のところで一旦括れ、口縁部が内湾している。口唇は角頭状で、口唇の外側には太刻目文が巡っている。口縁下無文帯は8mmの幅であり、また口縁下8cmのところにも無文帯が巡り、文様帯を区画している。なお、それぞれの無文帯は沈線で区画されていない。区画文の沈線と充填文の集合沈線は、違う工具で描かれている。地文の条痕文が一部残っている。93は口唇が内削ぎ状をしており、波状口縁ある。口唇の外側には、太刻目文が巡っている。口縁下無文帯は隆起線で区画され、1.7cmの幅である。94は口唇が尖頭状をしており、口唇の外側には太刻目文が巡っている。口縁下無文帯は1cmの幅であり、沈線で区画されていない。

95～102は胴部片である。区画文の沈線と充填文の集合沈線は、違う工具で描かれている。95は地文の条痕文が一部残っている。96は括れ部のところで、沈線で区画された無文帯が周回している。97は括れ部のところで、無文帯が周回している。なお、その無文帯は沈線で区画されていない。98と99は同一個体である。胎土中に繊維に加え、砂粒が多量に混入している。100・101は同一個体である。括れ部のところで、無文帯が周回している。なお、その無文帯は沈線で区画されていない。無文帯と無文帯が交叉しているところに、複数を単位とする刺突文が斜位に施されている。地文は条痕文で、一部残っている。裏面には、条痕文が横位と斜位に重ねて施されている。102は、括れ部のところで、無文帯が周回している。なお、その無文帯は沈線で区画されていない。区画文の沈線と充填文の集合沈線は、同一工具で描かれている。無文帯と無文帯が交叉しているところに、複数を単位とする刺突文が斜位に施されている。なお100～102は区画文の交叉部に刺突文があることから、鶯ガ島台式土器の可能性が高い。



第188图 第IV群土器(4)





第189圖 第IV群土器 (5)

103は口唇が角頭状をしており、波状口縁である。口唇の外側には、棒状工具を横にして押圧した刻目文が巡っている。口縁下1.8cmの幅で、無文帯が周回している。なお、その無文帯は指で強くなでられ、区画文や充填文の境目は微隆起線状になっている。区画文の沈線と充填文の集合沈線は、違う工具で描かれている。無文帯のところで強く内曲していることから、縄が島台式土器の可能性はある。

129～134は同一個体である。口唇が角頭状で、口唇上に棒状工具を横にして押圧した刻目文が巡っている。口縁下1.5cm幅で、無文帯が周回している。区画文の沈線と充填文の集合沈線は、同一工具で描かれている。なお、無文部を強く磨り消しているため一段低くなり、区画している沈線が一部消失したり、充填している集合沈線の間が微隆起線状になっている。また、無文部と無文帯が交叉しているところに、複数を単位とする刺突文が斜位に施されている。胎区画文の交叉部に刺突文があることから、縄が島台式土器の可能性はある。

d種 沈線による幾何学文様の区画文と集合沈線による充填文が伴い、隆線文が垂下しているもの(第187図31・第190図104～115, 第191図116～128, 図版46～48)

31は推定口径が20.2cmである。器形は、口縁下9cmのところ一旦折れ、口縁部が外反している。口唇が丸頭状で、口唇上に太刻目文が巡っている。刻目のある三角旗状の隆線文が口縁から垂下している。区画文の沈線と充填文の集合沈線は、同一工具で描かれている。裏面には、条痕文が横位に施されている。

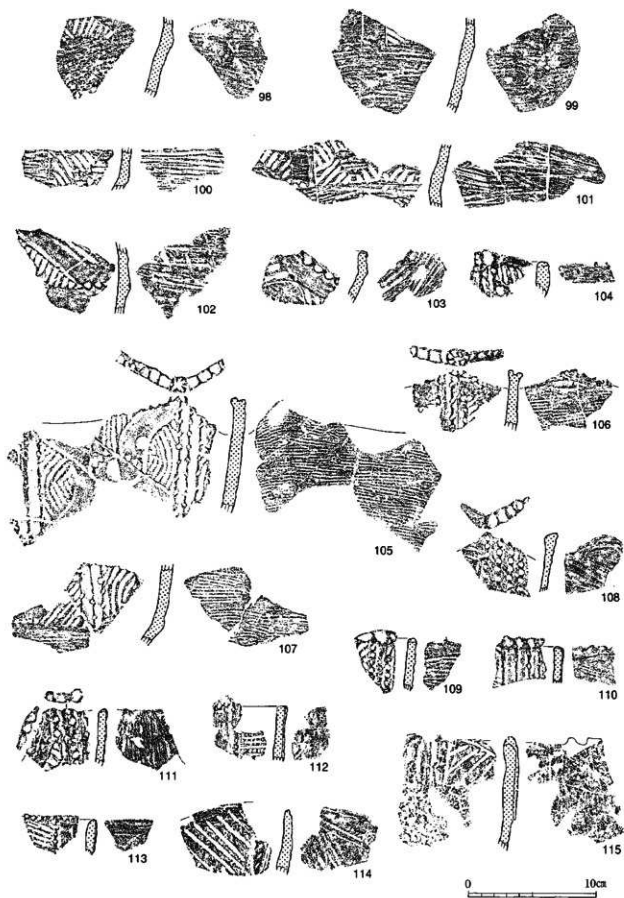
104は口唇が角頭状である。口唇上を巻き込むように、刻目のある2本一組の隆線文が口縁から垂下している。

105～107は同一個体である。波状口縁で、波頂部には刻目のある隆起線文が円形に施されている。口唇が角頭状で、口唇上に太刻目文が巡っている。刻目のある3本一組の隆線文が波頂部から垂下している。無文部は強く磨り消され、区画している沈線が一部消失している。なお、無文部と無文帯が交叉しているところに、4個一組の刺突文が斜位に施されている。区画文の沈線と充填文の集合沈線は、同一工具で描かれている。括れ部には、区画されていない無文帯が周回している。裏面は、条痕文が横位に施されている。区画文の交叉部に刺突文があることから、縄が島台式土器の可能性はある。

108は口唇が角頭状で、波状口縁になっている。口唇上には、波頂部の右側だけに太刻目文が巡っている。刻目のある複数を単位とする隆線文が口縁から垂下している。109は口唇が角頭状である。口唇上を巻き込むように、刻目のある2本一組の隆線文が口縁から垂下している。110は口唇が角頭状で、口唇上に棒状工具を横にして押圧した刻目文が巡っている。刻目のある複数を単位とする隆線文が口縁から垂下している。111は口唇が丸頭状で、波状口縁になっている。口唇上に太刻目文が巡っている。刻目のある複数を単位とする隆線文が口縁から垂下している。

112は口唇が角頭状で、口唇の外側に太刻目文が巡っている。刻目のある隆線文が口縁から垂下している。113は口唇が内割き状で、口唇の外側に棒状工具を横にして押圧した刻目文が巡っている。刻目のある隆線文が口縁から垂下している。

114と115は同一個体である。口唇が丸頭状である。口唇上を巻き込むように、刻目のある2本一組の隆線文が口縁から垂下している。117と121は近似した個体である。複数を単位とする隆線文が垂下しており、118の隆起線上には、2個一組の刺突文が斜位に施されている。116・118は、刻目のある隆線文が垂下している。括れ部には、区画されていない無文帯が周回している。119と120は同一個体である。2本一組の隆線文が垂下している。隆起線上には、1～2個一組の刺突文が斜位に施されている。122は、刻目のあ



第190图 第IV群土器(6)

る2本一組の隆線文が垂下している。補修孔が隆起線上を貫通している。なお114・115、118・122区画文の沈線と充填文の集合沈線は同一工具で、117・119～121違う工具で描かれている。

123・125～127は同一個体である。口唇が角頭状で、口唇上に太刻目文が巡っている。口縁下は2cm幅で無文帯が巡っている。また、括れ部にも3.5cm幅の無文帯が周回し、文様帯を分離している。刻目のある2本一組の隆線文が垂下している。無文部を強く磨り消すことによって、微隆起線による区画文になっている。

124は口唇が角頭状で、口唇上に太刻目文が巡っている。口縁下2cm幅で、隆起線区画による無文帯が巡っている。複数を単位とする隆線文が垂下している。128は隆起線によって区画文が描かれ、区画内に太い集合沈線が施文される。隆起線上には、2個一組の刺突文が斜位に施されている。

●種 隆起線による幾何学文様の区画文と集合沈線による充填文が伴うもの(第192図135～149、図版48)

135～140は同一個体である。波頂部が山形の波状口縁で、口唇が内削ぎ状になっている。1本から数本を単位とする隆線文が波頂部から垂下している。なお、その隆起線文上には3個一組の刻目が施されている。文様は、口縁下1.5～3.5cmの幅で無文帯が巡り、また括れ部にも無文帯を周回させることによって文様帯を分離している。無文部と無文部が交叉している隆起線上に、3個一組の刻目文が施されている。地文の条痕文が一部残っている。胎上中には繊維に加え、金雲母が多量に混入している。

141は、区画文が方形になっている。142は、括れ部に無文帯を周回させることによって文様帯を分離している。縦区画している無文部には、平行隆起線文が施されている。おな、隆起線には2個一組の刺突文が施されている。143～145は同一個体である。文様は、括れ部に無文帯を周回させることによって文様帯を分離している。縦区画している無文部には、2本の平行隆起線文が施されている。また、括れ部の無文帯を区画している隆起線上に、2個一組の刺突文が施されている。146と147は同一個体である。胴下半部で段になっている。

148は波状口縁で、口唇が内削ぎ状になっている。無文部と無文部が交叉している隆起線上には、3個一組の刺突文が斜位に施されている。149は、括れ部に無文帯を周回させることによって文様帯を分離している。無文部と無文部が交叉している隆起線上には、複数を単位とする刺突文が斜位に施されている。148・149は区画文の交叉部に刺突文があることから、壺が高台式土器の可能性がある。

## 第2類 鶴ヶ島台式土器(第193～197図、図版49～51)

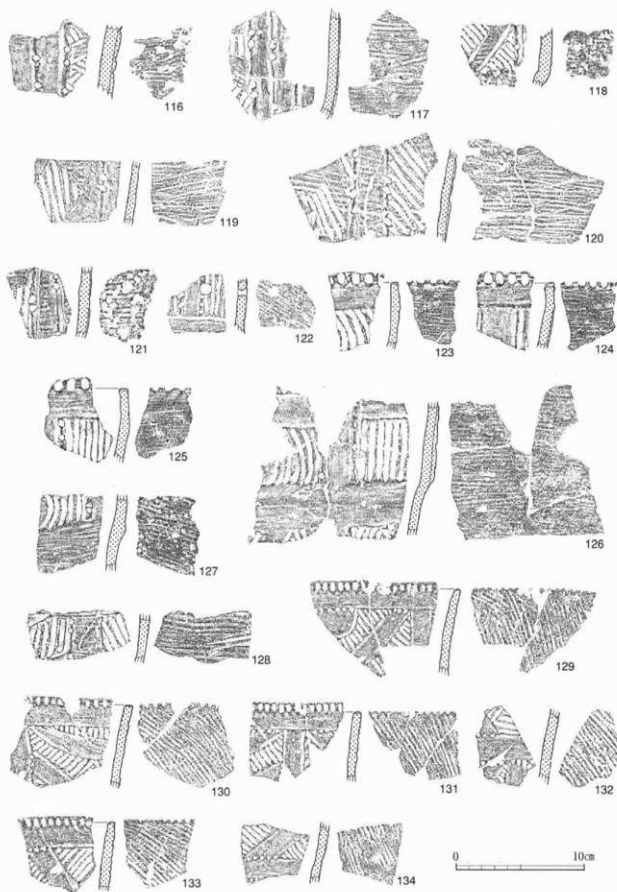
a種 沈線で鋸歯状を基本とした区画をなし、区画内に太条線を施文する。隆起線・沈線上に刺突文を有するもの。(第194図6～23、第195図24～44、図版49・50)

a1種 区画は細沈線・隆起線で、区画内太沈線条線充填する。(6～16)

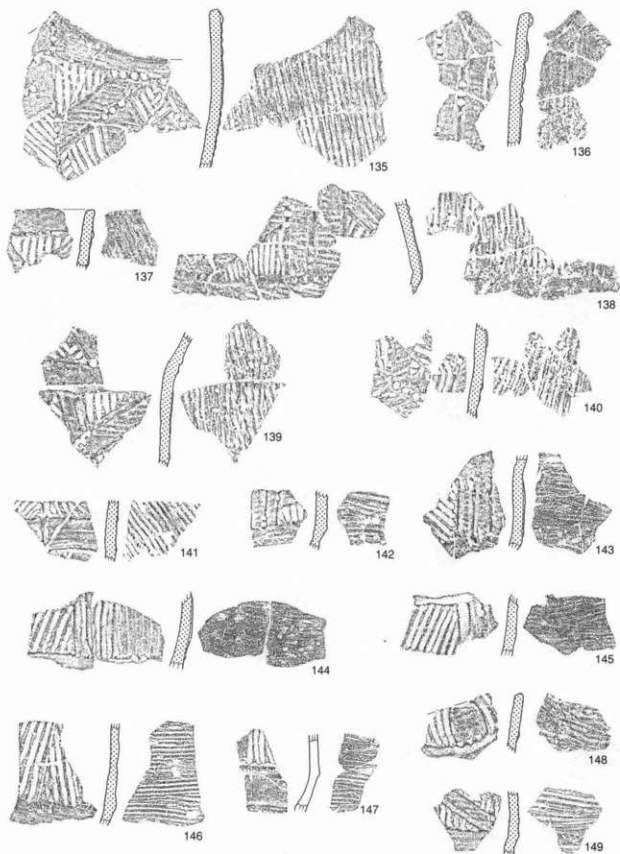
6～11は同一個体である。口唇上には太い刻みを持つ。縦区切りには3条の隆起線が用いられる。10では文様帯区切りの横位隆起線がみられる。上下は逆かもしれない。区画内には円形文もある。刺突は隆起線上にあり、沈線との交点には部分的にみられる。内面に擦痕がある。胎土には細砂が目立つ。

12・13は区画の沈線は細い。刺突文は少ないが文様内と交点にみられる。胎土に細砂を多く含む。

14～16は細い区画の沈線文を持ち、細い竹管による刺突文が沈線上、沈線の交点にも多く施されているもので、屈曲部を持つ。14・15は同一個体である。刻み日のある内削ぎ状口唇である。屈曲部が文様帯の下位区切りになる。16は刺突文は斜めから施されている。



第191图 第IV群土器(7)



0 10cm

第192图 第Ⅳ群土器(8)

a 2種 区画は細沈線で、区画内太沈線条線充填する。刺突文を多用する。(17~23)

17は細沈線で区画され、爪形の刺突文が沈線の交点、条線文内に施されている。内削ぎ状口唇で、刻み目を持つ。18~20は爪形の刺突を持つ。縦区切りは沈線3条で、刺突文は沈線の上及び交点にも多く施されている。18・19は同一個体だろう。文様区切りの屈曲部を持つ。20は内面の条痕文が顕著である。21・22は同一個体である。口唇は内削ぎ状で、刻み目を持つ。爪形の刺突文が沈線上、沈線の交点に多数施されている。文様帯の下位区切りは隆帯化した屈曲部である。23は細い竹管の斜方向からの刺突文が交点のほか、斜条線文様内にもみられる。波状口縁で太い刻み目を持つ。補修穴があり、主に外面から穿孔されている。

a 3種 区画は隆起線で、区画内太沈線条線充填。円形刺突文を多用する。(24~44)

24~26は隆起線上に刻み状の刺突文を持つ。25は円形区画内に細い円形刺突文が施されている。25・26の隆起線は沈線の脇を盛り上げたものである。

27~34は同一個体のものである。横位無文帯はなく、文様帯が1段になるようだ。区画内条線が方向が変えてみられる。縦(垂下)隆起線は3条ある。刺突は円形で、縦隆起線上には刻み目状に、区画隆起線上は交点に施されている。区画隆起線は沈線の脇を盛り上げて施したものである。35~38は区画内沈線が太い。刺突文は多くは交点に施文されている。沈線と同じ太さの工具によるので、短い沈線との区別が付きづらい。37は突起部に近い箇所のものである。39~44は沈線で区画し、短沈線(刺突文にみえる部位)充填している。区画線上に刺突文は施されていない。40~44は同一個体だろう。

b種 沈線鋸歯状区画、区画内押し引き条線、円形刺突文のみられるもの(第193図1・2, 第196図45~60, 図版49・50)

1は口径38.0cm、口唇内削ぎ状で、2段屈曲でかきいかりバー形をなす。無文帯を挟んで横位文様帯を構成している。口唇、屈曲部の隆帯状に刻み目を持つ。幅広い二本組の沈線で、縦区切り・鋸歯状文様を配し構成された、三角・菱形等の区画内に押し引き条線文を充填している。沈線の交点には円形竹管文が押捺される。

2は口径21.7cm、刻み目を持つ円頭口唇で、直線的に立ち上がる口縁をなす。屈曲部は1段であるが、横位沈線で上下2段の横位文様帯が構成される。幅広い二本組の沈線で縦区切りを入れ、鋸歯状文様を配し構成された区画内に、さらに鋸歯状に押し引き条線文を施している。

45は下位に屈曲部を持つ胴部である。縦区切り線を持つ鋸歯状区画をなす。沈線・交点刺突文は細い。内面は下位に条痕が残されている。46~49は同一のものであろう。円形竹管文は細く、区画の交点上だけでなく、区画沈線や屈曲部にも施されている。内面は細かい条痕(擦痕状)がみられる。

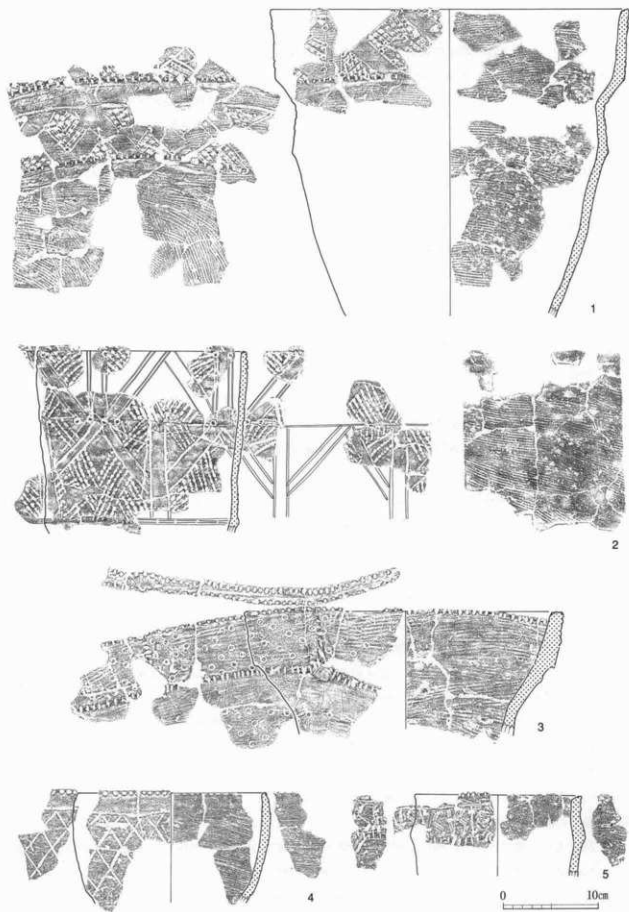
50は径12.6cmの小型品である。口唇円頭で太い刻み目を有する。円形刺突文の多くは二本組沈線による帯状区画内に施されている。

51~55は円形竹管文は大きいわりには押し引き条線は細かい。51は隆帯化した屈曲部である。52は波状口縁の頂部下の部位で、縦降帯が横降帯に交わる。53~55は同一のもので、内削ぎ状の口唇をなす。

56~59は太い沈線で区画し、細い円形竹管刺突を持つ。57~59は同一個体で、沈線の縁が盛り上がり、隆起線状になる傾向がある。60は台形の突起部で、細い角押し沈線に円形竹管刺突文が伴う。

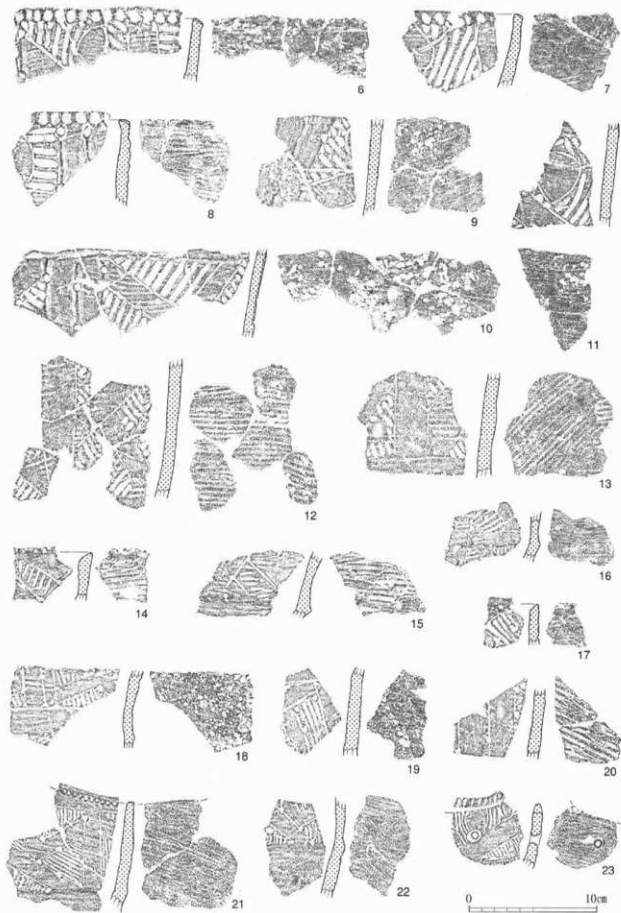
c種 隆起線区画、区画内押し引き条線、円形刺突文をもつもの(第196図61~68, 図版50)

61・62は内削ぎ状の口唇をなす。同一個体である。交点の刺突文は細い円形である。63~68は類似して

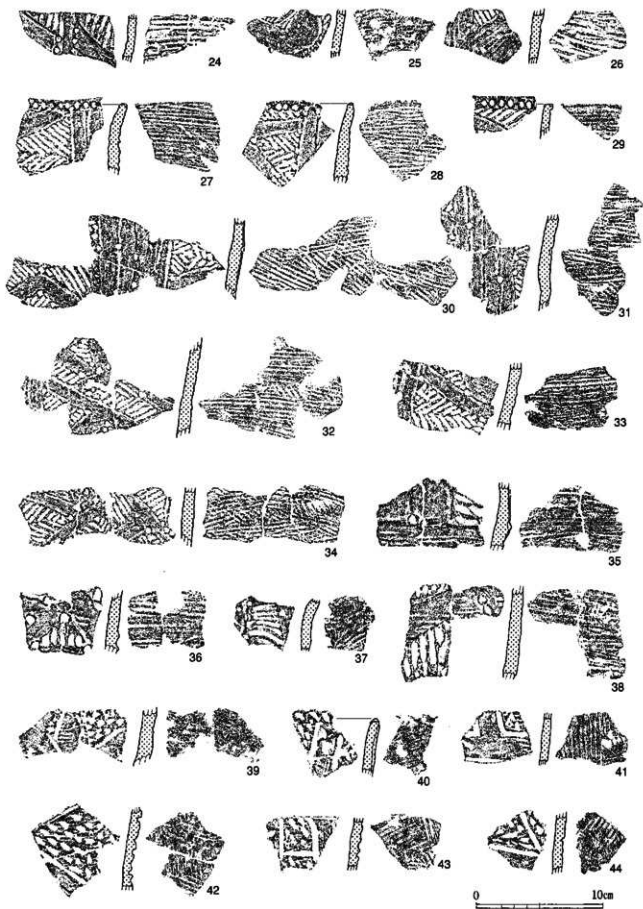


第193图 第IV群土器(9)





第194图 第IV群土器(10)



第195图 第Ⅳ群土器 (11)

いる。64～68は同一個体で屈曲部を持つ。内削ぎ状口唇で、内外縁と屈曲部隆帯上に刻み目を持つ。67は横位無文帯部で、屈曲部が2段ある。従って文様帯も2段をなすだろう。胎土に細石が目立つ。

d種 沈線に円形刺突文を伴うもの（第193図3，第197図69～71，図版51）

3は口径33.8cmである。隆帯状の屈曲部を持つキャリバー形の器形をなす。隆帯以下に無文帯を挟んで、2段目の横位文様帯を構成する。上部文様帯は縦位隆帯を挟み、矢羽根文様にも似た横長の三角形文様を、下位には縦沈線を挟み鋸歯状条線文が施されている。沈線上の及び交点には円形竹管文が押捺されている。

69～71は台形突起を持つ波状口縁のキャリバー形土器で、同一個体である。口唇は平坦にされ、内が縁に刻み目がつく。屈曲部隆帯に刻み目を付して波頂下、屈曲部を区切り、沈線と円形竹管で区画内に弧線文を基本とした文様を施している。波頂に垂下する隆帯には円形隆帯が伴う。

e種 隆起線に竹管文を伴うもの（第197図72～79，図版51）

72～75は同一個体で、波状口縁をなしキャリバー形の屈曲部を持つ。口唇は内削ぎ状で、口唇の内外縁及び隆帯上には刻み目が施される。台形突起と小突起の部分があり、いずれも縦隆帯がみられる。屈曲部隆帯下に無文帯を配して2段の文様帯が形成されている。第1文様帯は弧状文様が基本である。第2文様帯には縦隆起線がみられる。76・77・79は同一個体である。口唇は内削ぎ状で、両縁に刻み目がある。縦・横位の隆起線がみられる。78は横方向の隆起線がみられる。口唇は円頭である。

f種 竹管文列をもつもの（第197図80～82，図版51）

80は小波状のキャリバー形の土器で、屈曲部を持つ。竹管文は口縁に縦列施文されるが、波頂下に縦位隆帯上にも施されている。口唇内削ぎで刻み目を持つ。地文に内外面とも横方向の条痕文がある。

81・82は逆「W」字形の小波状口縁をなす。波頂部は隆帯となり隆帯上を含めて竹管文が密接に施文されている。80に似た施文だが、縦列していない。地文や胎土・焼成は酷似しているため、同一個体の可能性はある。なお、接合はしないが胴部個体の第205図10が出土地点も共通しているため、この個体のものの可能性が高い。

g種 沈線のみもの（第193図4・5，図版49）

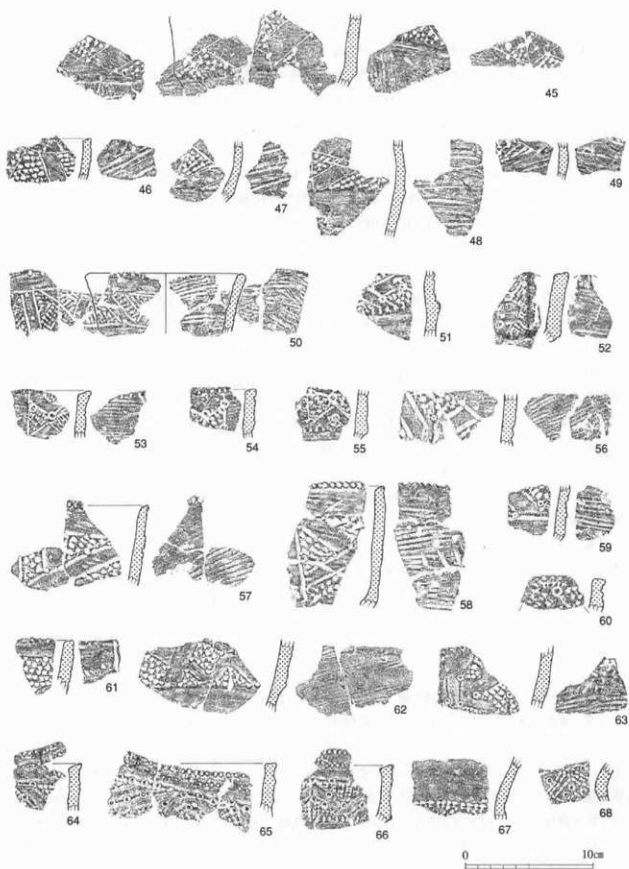
4はやや内湾する幅広い口縁に粗い斜格子目沈線が施文された小型品で、口径は19.8cmである。胴部との境に有段となる。口唇は尖頭気味で、太い刻み目を有する。内面に細かい斜条痕がみられる。

5は口径17.4cmの小型のもので、縦直線と縦の鋸歯状線の組合わさる太く浅い沈線が施されたものである。屈曲部に刻目を持つ隆帯が形成されている。内削ぎ口唇で、外縁に細かい刻み目を持つ。内面は擦痕がみられる。

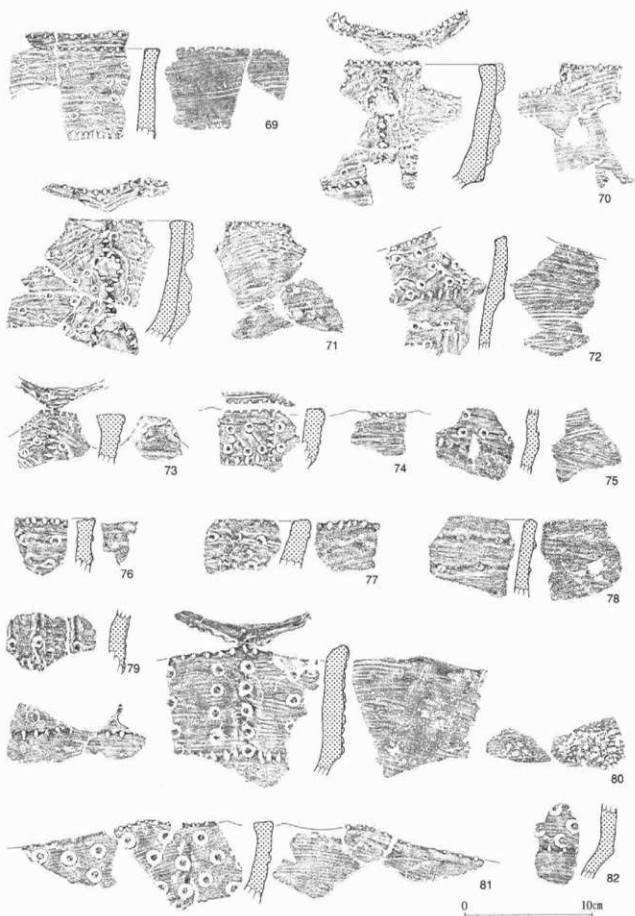
第3類 早期末の茅山上層式主体土器（第198～203図，図版51～54）

a種 沈線・条線文の施文されるもの（第198図1～29，図版51）

1～5は同一個体で、扁平な筒状突起を持つ波状口縁のものである。口唇に斜条線、口縁上端に縦条線があり、下位に2条の結節の連続刺突文と沈線1条が添えられている。6・13は鋸歯状条線を持つもので、波状口縁、口唇部に刻み目を有する。7～12は円頭口唇のかるく外反する口縁で、口唇に細い条線、外面には下位を角押しした結節沈線文が幅広い文様帯に同様の条線で鋸歯状文が施される。横位条痕文が地文となっている。12は波頂下の縦の肥厚帯となる部位である。14は外反する波状口縁のもので、口唇に連続刺突文による刻み目が施される。外面は条痕を地文に乱雑な沈線文が施文されている。15・16は同一のものである。口唇円頭で、口縁上端に鋸歯状沈線、文様区切りに連続刺突文が横位に施されている。17は鋸歯



第196图 第四群土器 (12)



第197图 第IV群土器 (13)

状沈線がみられる。

18～20は同一個体の胴部である。上部に斜行条線があり、下位は縦条痕文がみられる。21には鋸歯状沈線に縦位凹形刺突文列が付されている。22・23は斜行の角押し結節沈線を添えた斜格子文を施しており、さらに斜条痕文が充填的にみられる。口唇には連続刺突文の刻みがある。18～20と近い地点での出土であり、同じものかもしれない。24・25は同一個体で、斜格子沈線がみられる。口唇角頭で斜条線を施している。26・27は斜格子目沈線を持つ。26は口唇凹頭で刻み目がある。内湾気味である。27は薄手で、口唇が押しつぶされたように外方に張り出して内削ぎ状をなし、上面に稜柱状の刻みがある。また外面に縦に角押し結節沈線文もみられる。28・29は不規則な沈線が見られるもので、28は口唇に刺突文がみられる。

b種 角押しの連続刺突文（結節沈線文）を持つもの（第199図30～52、第200図53～79、図版52）

30～38は同一地点出土である。30～32は同一個体で波状口縁をなす。32は縦隆帯を形成している波頂部で、先端が平らにされ「M」字形をなす。口縁外面は角押し連続刺突文で斜・縦・横位に施し、口縁文様帯区切りに隆帯を巡らす。同様の刺突文で、口唇に及び内面上端にも巡らされている。31～39は同一のもので、30と同様の施文であるが、隆帯上には殻頂部の斥痕文が連続して施された点で異なる。地文は細かい条痕文である。

40～43は直線的に立ち上がる口縁で、縦の結節沈線が口縁文様帯区切りは上下に斜刻み文を挟んだ沈線である。口唇は角頭で、口唇が押しつぶされたように外方に張り出して、斜刻みが施される。44・45は同一品で、縦の角押し結節沈線がみられる。口縁文様帯区切りは横沈線である。口唇は角頭で細かい刻み目がある。46～49は同一のもので、角押し連続刺突文が縦列施文されている。口縁文様帯区切りも同様の施文になる。角頭の口唇及び内面上端にも、刺突文が巡らされている。

50は波状口縁の頂部で、山形の頂部をカットした形の「M」字形突起部をなす。外面に角押し結節沈線文が4条縦列する。内面にも3条垂下する。口唇には斜・羽状の刻みが施されている。51は角押し連続刺突文で口縁文様帯を区切り、文様帯内に斜位施文している。口唇は尖頭で、腹縁文を持つ。52は連続刺突文施文とみられるが不明瞭である。口唇に条痕文を持つ。53～57は同一のものである。波状口縁で柱状突起がつく。文様は口縁文様帯を区切り波頂に縦に垂下させる。突起部は平坦にされ斜刻みが施されており、同様にも施文される。器表はナデ調整が入り、条痕は内面の一部にしかみられない。胎土に礫を多く混える。

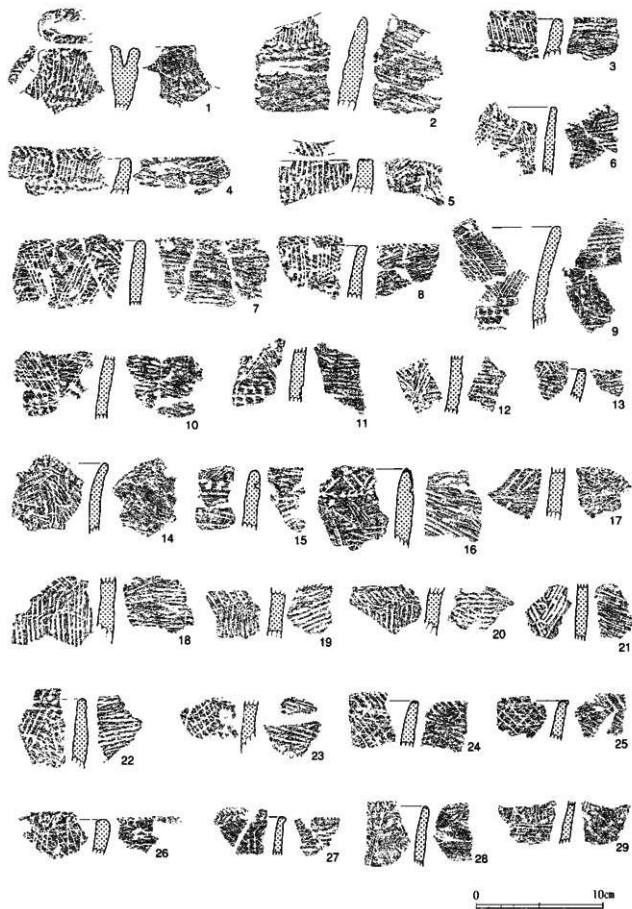
58～69は単独の破片で、主文様に縦・斜行・鋸歯状の連続刺突文（有節沈線）が見られる。59は刺突文が細かい。60・61は同一のものである。62は40～43と同一のものだろう。63は外反する波状口縁のもので、薄手で、口唇に細かい刻み目を持つ。66は横位隆帯上にも施文されている。67～69は波状口縁で、67の結節沈線は細く、68・69は太い。67・68は口唇に刻みを有する。

70・71は同一個体で、爪形の連続刺突文を持つ。口唇には刻みが施されている。72・73および74・75はそれぞれ同一である。横位・斜位の深い連続刺突文を持つ。

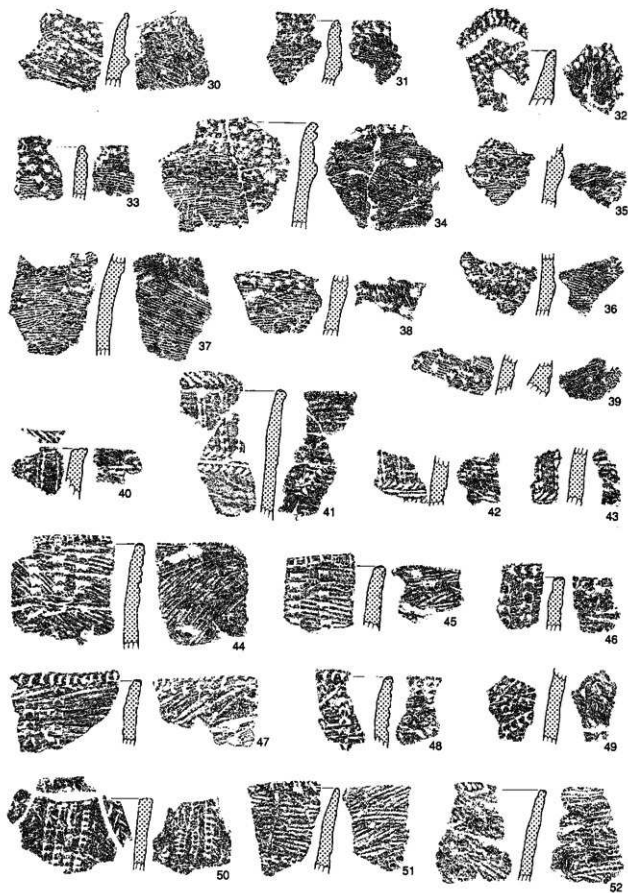
76～79も口唇・外面に深めの角押し連続刺突文がみられる。78・79は小波状口縁である。このあたりは子母口式のものとは区別しづらいが、他のものと出土地点が一帯であるので、ここで扱った。

c種 貝殻を押捺した文様を持つもの（第201図80～98、図版53）

80～85は同一個体である。口唇両縁に刻みを持つ。結節沈線文で区画した文様帯に腹縁文が格子目施文されている。結節沈線文は口縁直下に横位、文様帯下部は上下に単刺線が添えられ横位に施され、縦位施文の部位がみられる。条痕文は内面は横位に、外面は口縁文様帯内は横位、以下は斜位に施されている。



第198图 第IV群土器(14)



第199圖 第IV群土器 (15)



86~92は腹縁文を持つもので、口唇にも施されている。86は幅広い格子日施文、87~89はまばらな施文、91は波状口縁で密施文である。90・92は同一個体で、寝かせ気味に押捺した短い腹縁文が密に施文されている。

93は爪形をなす腹縁文を持つ。93は小形の貝を寝かせ気味に施文する。口唇は角頭で施文がある。95は上端に腹縁文を縦列施文し、条痕文を横列施文する。胴部は条痕文縦列施文である。96は、口縁下端に隆帯がある。腹縁文は口縁文様帯に斜列施文されるほか、口唇にも施されている。97は殻表圧痕文がみられる。97は肥厚する突起部である。口唇は角頭にされ、施文を受ける。胎土に白色礫がみられる。98は密施文されており、91に近い。

d種 爪形文を持つもの(第201図99, 図版53)

99は突起部で、かるい柱状になろうか。突起の先端は上からつぶしたように平らにされている。連続爪形文は外面は上端に1条、下位に波状に1条、内面は上端に1条あり、口唇にも施されている。胎土に白色礫が多く認められる。

e種 円形刺突文を持つもの(第201図100~105, 図版53)

100・101は同一個体で、刻みを持った波状隆線を伴う。102~104は同一のもの。103に縦の隆線が見られる。104では連続円形刺突文が縦列する。105は径が大きい円形刺突文のものである。

f種 絡条体圧痕文を持つもの(第202図106~110, 図版53)

106~110は同一個体である。口縁文様帯区切りに隆帯を2段巡らせ、文様帯内に斜列に絡条体圧痕文を施すもの。口唇は尖頭になる。108~110では隆帯の下部で、羽状となっている。口唇、隆帯上にも刻み的に連続して斜施文されている。内面は横列条痕文がみられる。

g種 縄文施文のもの(第202図111~129, 図版53)

111~119は同一個体であろう。絡条体のものと同じ地点からの出土である。外面は斜縄文が施され、内面には横列条痕がある。111は口縁で、口唇に貝殻腹縁による刻みがあり、角頭を呈している。原体は大半は単節LRである。

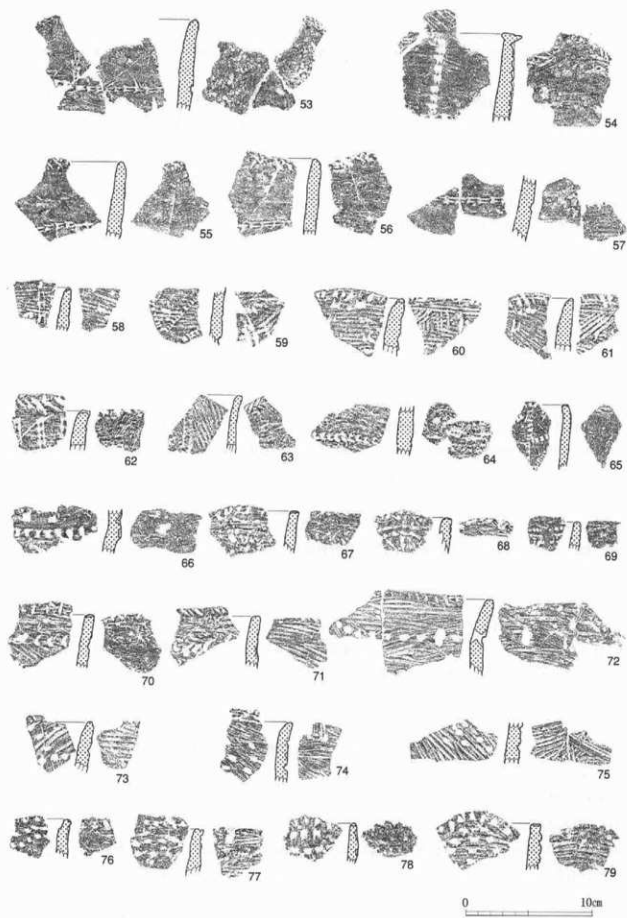
120はLRにRL原体を交えて羽状施文している。121・122は同一のもので、RL施文される。内面も上部にみられる。121は「M」字形突起部をなす波状口縁で、口唇が内側へめくられたようになっており、122の口唇は尖頭である。123は外面RL施文、内面横条痕文のものである。124は突起部、125は柱状突起の部分である。施文される縄文は然りが不明瞭だが、ゆるい単節RLとみられる。口唇部にも縄文施文がある。126は波状口縁の波頂の部位で、口唇部にも縄文施文があり、部分的に施文が深く、刻み日にみえる箇所もある。127はLRの縄文を持つ。口唇部は円頭で斜縄文がみられる。128は外面には二本組沈線、横位の羽状刻文とともに太いRL斜縄文が、内面は上部に同様の斜縄文、下位に斜刻文が施されている。129は太いRL斜縄文を持つ。

h種 隆線を持つもの(第203図130~146, 図版54)

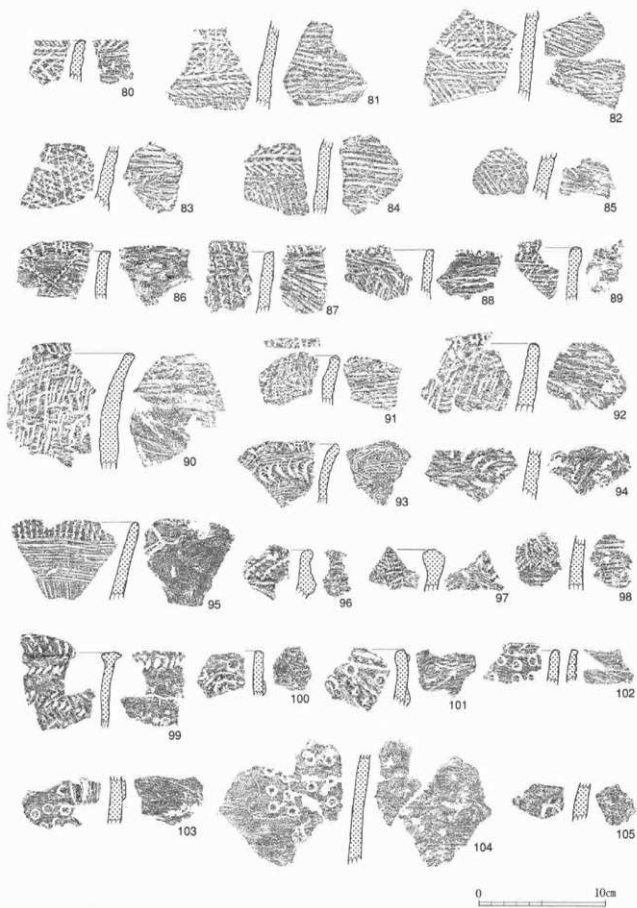
1D・2D・3D・2E・2Fグリッドでの出土である。

130~132は口縁の上端に刻み目を持つ隆線を有する。130は尖頭口唇で、胎土に白色礫を混える。刻み目は棒状のもので施されている。131は腹縁文による刻みである。胎土に白色礫を混える。132は小波状の口縁で、刻みは腹縁文による。

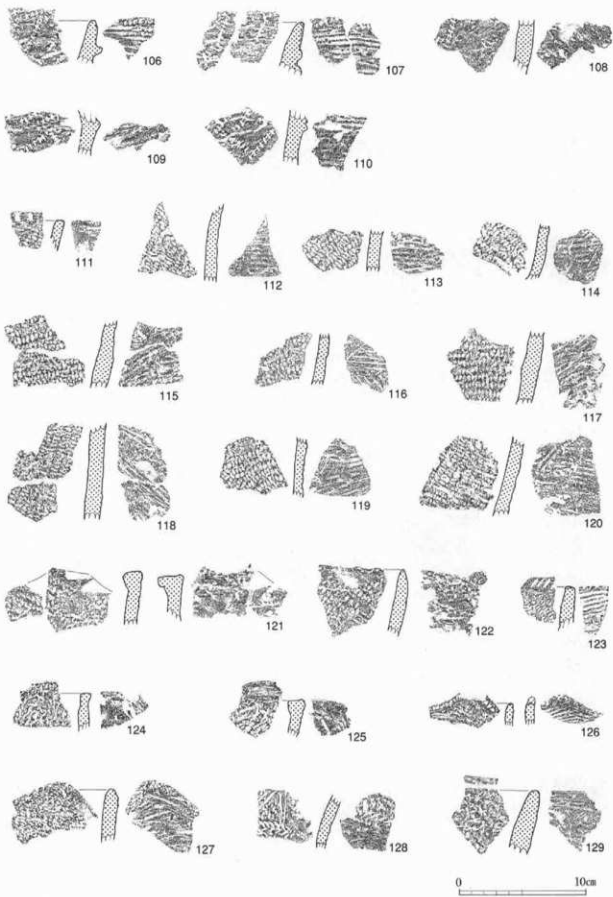
133は口唇を上から連続的に押圧して小波状としており、押された部分が外面へはみ出して隆線状にな



第200图 第IV群土器 (16)



第201图 第IV群土器 (17)



第202图 第四群土器 (18)

っている。口唇は腹縁文の刻みが入る。外面にも腹縁文がみられる。134・135は同一のものである。口唇は尖頭で、口縁直下が肥厚し、複合口縁的になる。口縁上は縦位の短沈線が集合施文されている。太い刻み目を持つ波状隆線が付されている。

136・137は隆線による曲線文様が見られる。136は波状口縁の板状の突起の部位である。口唇は尖頭で刻みを持つ。隆線は曲線、放射状に貼り付けられ、太い刻みが付されている。137は刻みが付された円形ないし渦巻きの隆線を有する。胎土に白色礫を交える。

138は複合口縁状の隆線を持つ。口唇と隆線上に刻み目を有する。胎土に白色礫を混える。139は横位隆線と鋸歯状隆線が見られる。胎土に白色礫を混える。140は外面の貼り付けた部分に太く撚りの緩い縄の側面が押捺されており、不規則な低い隆線のように見える。141は口縁直下に刻み目を持つ隆線を持つ。口唇には鋸歯状隆線が付され、刻み目を持つ。142は縦位・斜位の幅広隆線が見られる。隆線上に浅い刻み目を持つ。143は隆線上に絡条体が施文されている。144は口縁端部に、刻み目を有する隆線が横位に施されている。145は低い隆線が口唇直下と以下は斜施文されており、隆線上と口唇には殺表の連続斑痕文が施されている。146は波状口縁で、頂部に短い垂下隆線がある。口唇は外削ぎで細条線文がみられる。両面に横位条痕文が明瞭に残されている。

i種 隆帯・複合口縁を持つもの(第203図147~153, 図版54)

147は口縁直下に低い隆帯が巡る。みかけは複合口縁である。口唇・隆帯上に太い刻み目を有する。148は尖頭で複合口縁になる。刺突的な短沈線が斜位に施文されている。口唇・折返し端に刻み目が施されている。内面横位条痕文施文である。花積下層式に近い類だろう。149~152は同一地点の出土で、太い刻み目を持つ横位隆帯が施されている。150・151は同一個体だろう。152では太沈線様の施文が残されている。153は刻み目を持つ低い隆帯がみられる。内外面とも条痕文が顕著である。

j種 特殊隆帯を持つもの(第203図154~156, 図版54)

154~156は同一のものである。口縁上端に太い刻み目を持つ隆帯が2条巡る。口唇は尖頭気味で、同様の刻みがある。胎土には繊維が含まれない。細かい白色礫・スコリアがみられる。草創期や早期田戸上層式にもある施文だが、東海系の同時期のものが最も類似しているの、とりあえずここで扱っておく。

第4類 条痕文のみが施文されるもの(第204~210図, 図版54~57)

a種 口縁に縦位条痕文が施文されるもの(第204図1, 第205図15~17, 図版54・55)

1は口径は25.4cmある。口唇部は無刻みであり、口縁上端でわずかに外反し、尖頭気味になる。外面口縁上端にわずかに横位の部位があるが、以下はおおむね縦位に施文されている。内面には横条痕文がみられる。胎土には長い繊維が、多量に含まれている。

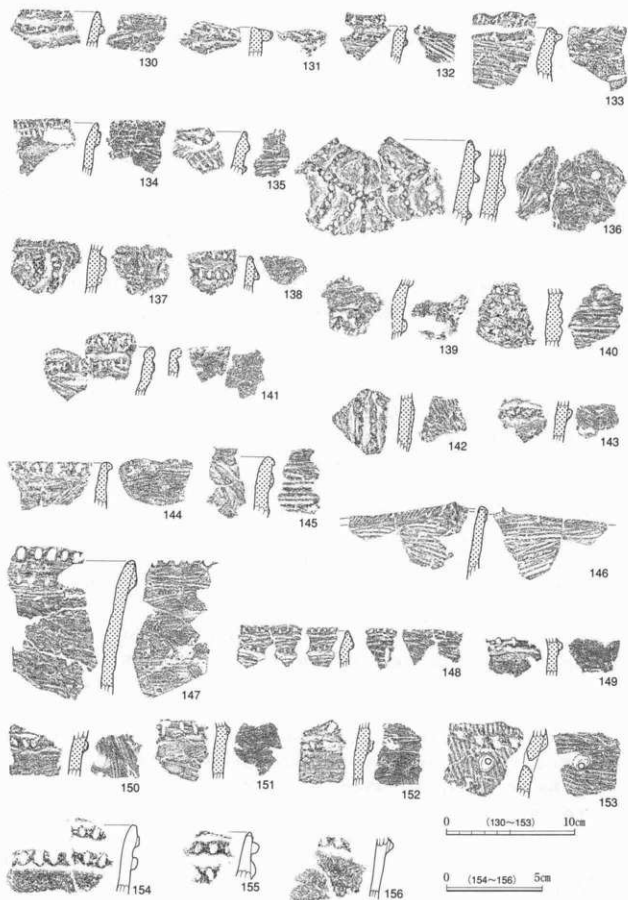
15・16は同一個体で内面も縦条痕施文である。口唇外縁に刻み目を有する。胎土に白色礫が目立つ。16は口端が薄くなっている。17はやや外反している。口唇は内削ぎ状の浅い刻み目を有する。

b種 外面に斜位条痕を持つもの(第204図2~4, 第205図18~45, 図版54・55)

b1種 口唇無刻みの口縁部を有する(2, 18~28)

2は口径19.4cmである。口縁上端でわずかに外反し、尖頭気味になる。内面はケズリ痕、不規則な条痕文がみられる。曲率・外反の程度が部分により異なっており、口縁部平面形が隅丸方形状になるかもしれない。胎土には長い繊維が、多量に含まれている。

18・19は同一のもの。薄手で、口唇が角頭である。20・21も同一のもの。口唇に向け薄くなっている。



第203图 第IV群土器 (19)

22は内削ぎ口唇になる。23・24は同一個体で、小波状の口縁である。厚口で、尖頭気味の口唇になる。25・26は薄手のもので、26は波状をなす。27は尖頭、28は内削ぎ形の口唇を持つ。

b 2種 口唇に刻みのある口縁部を有する (3・4, 29~45)

3は口径30.2cmである。かるく外傾する。口唇に向く薄くなっている。外面は口縁上端に横方向条痕文を地文に、斜位(縦に近い)の条痕文が、内面は横条痕文が施文されている。口唇部には殻表が押し入れ、浅い刻み目状になっており、内削ぎ気味である。

4は口径27.0cmである。口唇に太い鋸歯状口縁刻みを有する。外面口縁上端に横位条痕文、以下斜条痕が施され、内面も同様になっている。口唇門頭で、外反はない。

29~45は口唇は円頭を基本とするが、刻み目を施されることで角張る傾向がある。刻みは、31・43は指頭状のもの、他は棒状の太めのもので斜位が多いが、32・34は縦位施文である。37・43は外反している。35・39はやや内湾するもので同一のものか。38・40は内面に縦条痕文がみられる。40・45は同一のものである。

b 3種 胴部 (6~9)

6は尖底となる胴下半部である。外面は斜から縦方向の条痕文、内面には斜から縦方向、また一部横の条痕文がみられる。胎土の繊維は少量である。7は外面は斜・縦方向の条痕文が施文される。内面は横方向の条痕文が部分的に残されている。同一個体と思われる底部を並べて図示した。若干揚げ底の平底になる。

8は外面に斜ないし縦方向の条痕文がある。内面の条痕はわずかに残る。胎土に非常に多量の繊維が含まれている。9は外面斜方向の条痕文がみられる。内面の条痕は横方向でケズリに近いものである。

c種 外面に横位条痕文が施されているもの (第204図5, 第205図11~14, 第207図46~60, 第208図61~81, 第209図82~101, 図版55・56)

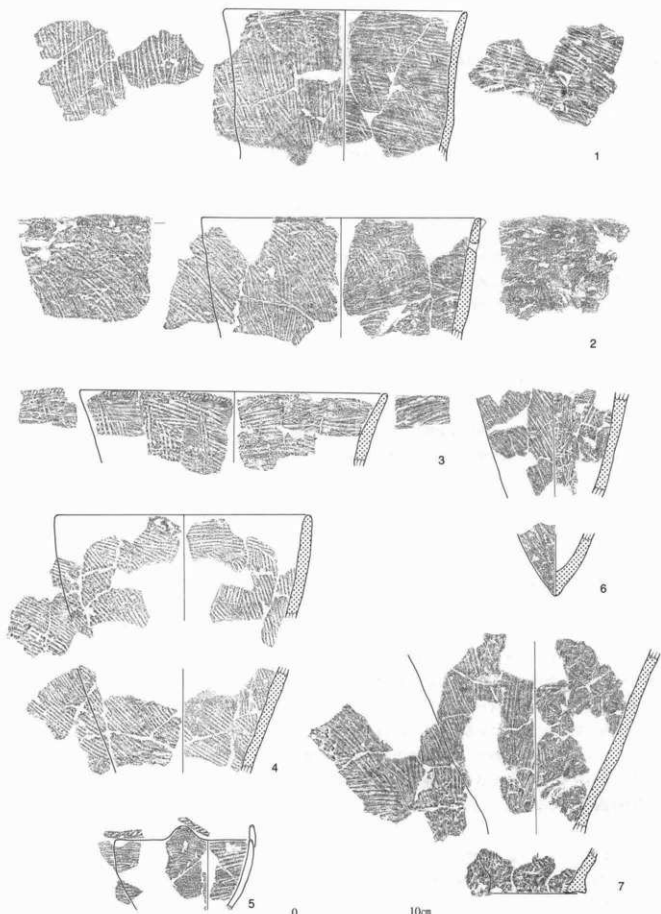
c 1種 口唇無刻み口縁のもの (46~65)

46・47は同一個体である。下位は斜位条痕が施される。48も地点が近い。尖頭気味の口唇である。49は内削ぎになる。50~52は同一個体で、薄手で円頭口唇をなし、細かい条痕が上部は横に、下位は縦に施されている。53・54は尖頭になるもので、53はかるい波状をなす。55は円頭、56は尖頭、57は内削ぎ口唇になる。58・59は同一のもので、円頭口唇で、条痕文が上部は横に、下位は斜位に施されている。60は角頭口唇で、外反する。条痕文が上部は横に、下位は斜位に施されている。61は尖頭口唇である。62~64は円頭口唇で、同一個体であろう。65も同様だが厚手で内面の条痕文がはっきりしている。

c 2種 口唇刻みあり口縁のもの (5・66~101)

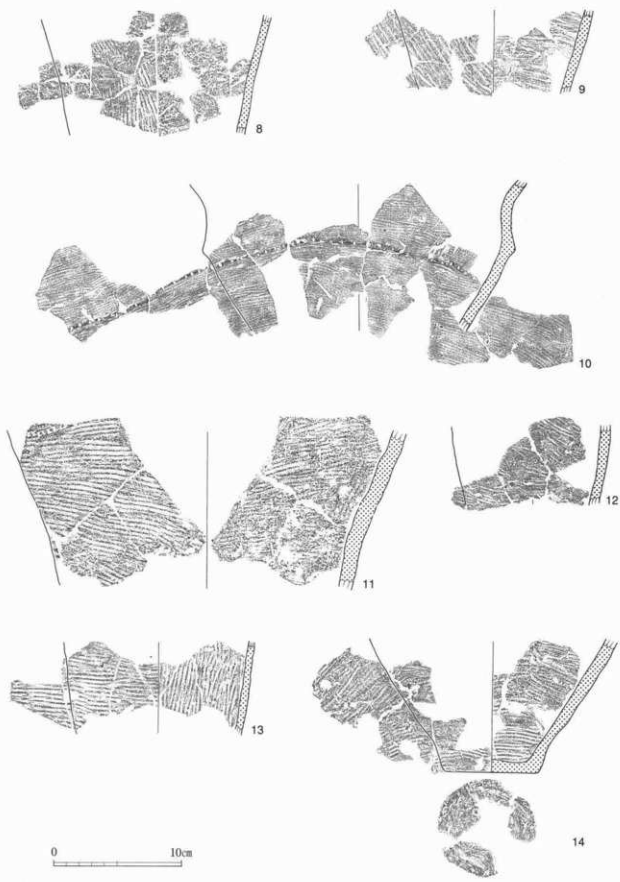
5は波状口縁で、頂部に短い縦線隆を持つ。口唇は角頭で斜刻みが施されている。内面にも横位条痕文が見られる。

66・67は同一のもので、尖頭気味口唇をなす。68・77は口唇内削ぎである。これらは外縁にわずかな刻

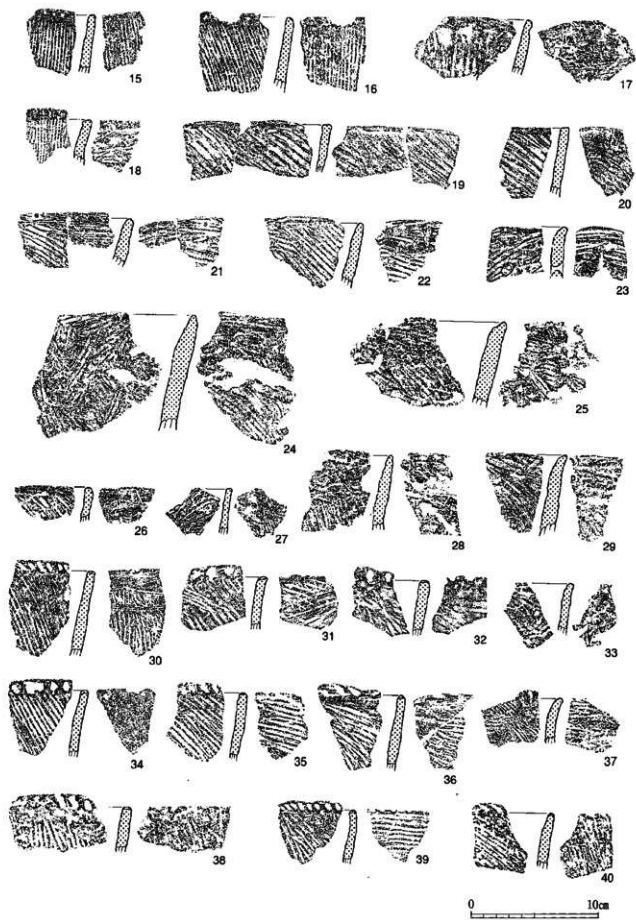


第204图 第IV群土器 (20)

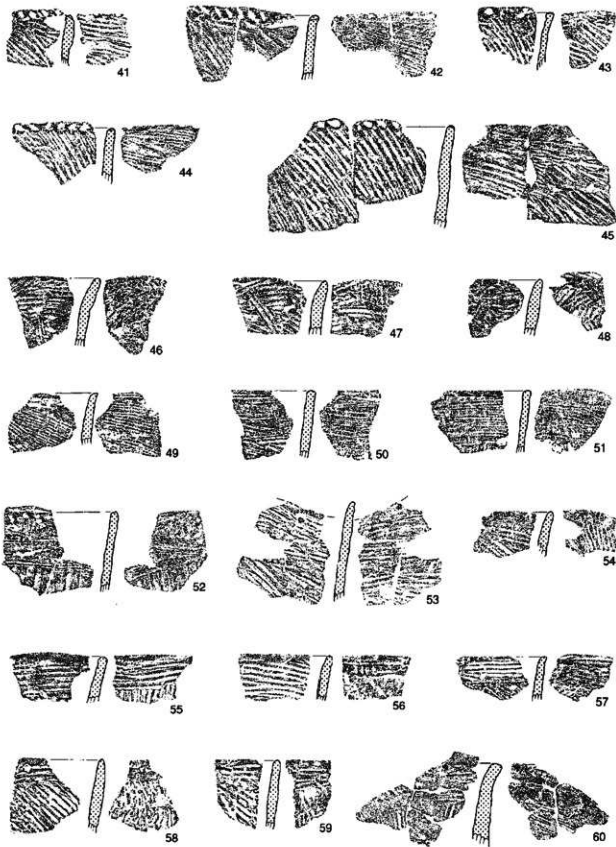




第205图 第IV群土器 (21)



第206图 第IV群土器 (22)



第207图 第IV群土器 (23)

み目が施されている。

69～75, 77～80は口唇上に細い刻線で刻みが施されている。円頭, 角頭気味の口唇が多い。71・75・77は縦位の刻み目で, 78は鋸歯状, 79・80は「ハ」の字の刻み目が見られる。他は斜位の刻み目である。72・73は波状口縁である。74は波状口縁で外削ぎである。77は尖頭口唇となる。

76・82～99は太めの刻み目を有しており, 76・82は斜位, 83・84は「ハ」の字の刻み目, 95・96は斜めの刻み, 85・91は連続刺突文, 90は縦の腹縁文の刻み目, 他は太い縦刻み目である。89の刻み目は粘土を縦に貼り付けて作っている。また89・90・95～99では外面の口縁以下は条痕文が斜方向施文である。91・94は波状口縁である。96は内湾し, 凹孔を持つ。92・93は同一個体で, 内面に縦方向の条痕がみられる。

100・101は端部で内湾する。刻み目は口唇外縁に条線状に施されている。

### c 3種 胴部 (11～14)

11は胴上部のもので, 内外面横条痕文が施文され, 外面上部には結節沈線文がみられる。12は外面は斜め気味, 内面施文は剥落し不明である。細砂が胎土に目立つ。13は外面横方向, 内面縦方向の条痕文がみられる。薄手の作りである。胎土は微細砂を含むもので, 繊維はほとんど含まれない。14は平底の底部にかけての個体で, 体部は内外面とも横方向の条痕文が施文されている。条痕文は底面にも施文されている。

### d種 口縁突起部 (第209図102, 図版57)

102は柱状突起で, 外面は縦・斜方向, 内面は斜方向の条痕文施文である。先端部平坦にされ条痕が施されている。

### e種 頸部隆帯を持つ口縁のもの (第205図10, 第210図103～113, 図版55・57)

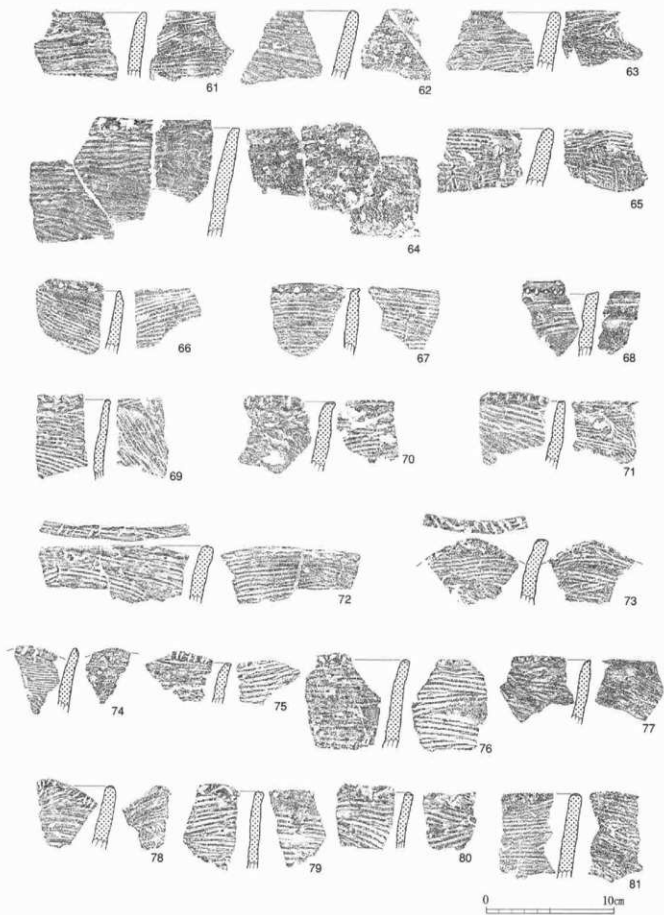
屈曲部に隆帯を巡している。

10は「く」の字に屈曲し, 隆帯上に刻み目を持つ胴部である。外面に横位条痕文が施されている。おそらく2段に屈曲する土器の胴部と思われるが, 条痕文や地点から見て第2類(彌ヶ島台式)80・81のものの可能性が大きい。

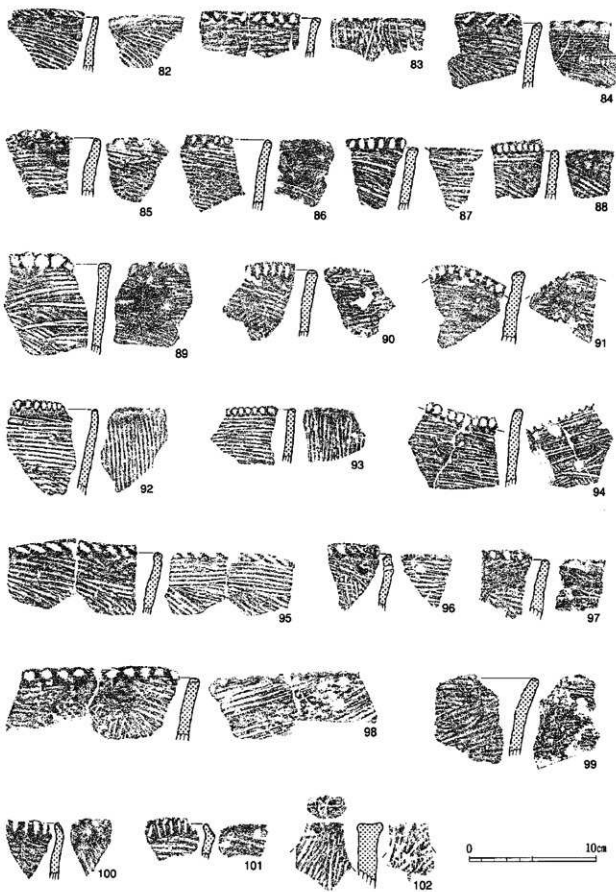
103・104は横位条痕文のもので, 同一個体と思われる。口唇と隆帯上に刻み目を持つ。105口唇と隆帯上に刻み目を持つ。口縁の幅が狭い。106・107は横位条痕文のもので, 口唇に刻み目を持つ。同一個体である。胎土に礫が含まれている。108は内削ぎの口唇になる。109・110は外反する口縁になる。111は縦の隆帯を持つ。これらには明瞭な条痕文はみられない。112・113は条痕横施文で, 口唇・隆帯上に細かい刻み目がみられる。

### 底部 (第210図114～124, 図版57)

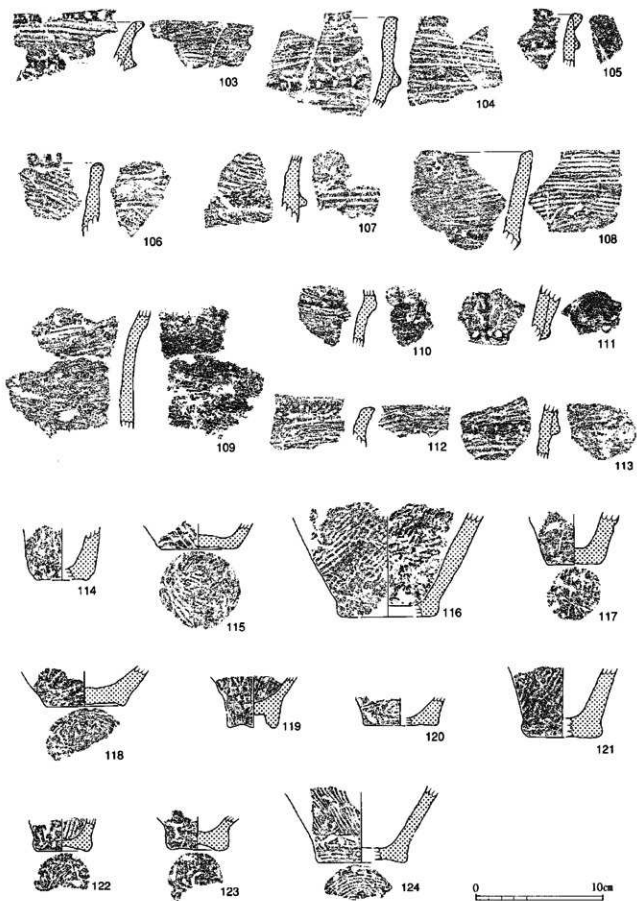
縦・斜方向の条痕文がみられる。条痕は内面・平坦な底裏にも施文される。114は小さな筒形をなす。115・118は底板から直に激しく開く。119は底部が突出し, 高台状をなす。122・123は明瞭な揚げ底である。



第208图 第IV群土器 (24)



第209图 第IV群土器 (25)



第210图 第Ⅳ群土器 (26)

## 第V群土器 前期の土器

### 第1類 黒浜式土器 (第211・212図, 図版58)

多量の縦線を含み、内面のミガキ調整が特徴的である。

#### a種 縄文を主体とするもの (第211図1~10, 第212図11~33, 図版58)

1~13は、羽状縄文を地文としている。1は平縁で、推定口径が16.1cmである。口唇に刻目文を有し、口縁部文様が3条の細い平行沈線文である。2は平縁で、推定口径が24.0cmである。3と4は同一個体である。波状口縁で、推定口径が29.3cmである。口唇断面は角頭状で、口唇に貝殻の背面による刻目文がある。5は口唇断面が角頭状で、貝殻の背面による刻目文がある。口縁部が外反している。11~13は同一個体である。口唇断面が角頭状をしており、平縁である。14~33は、斜状縄文を地文としている。14は、口唇断面が角頭状の波状口縁である。文様は、口縁部に2条の押引文が周回し、その押引文に直交して2条の沈線文が垂下している。15と16は、胴部に半截竹管による有節沈線文がある。17は口唇に貝殻の背面による刻目文があり、口唇断面が角頭状の平縁である。18は、口唇断面が尖頭状になっている。19と20は同一個体で、口唇断面が尖頭状になっている。21は、口唇断面が角頭状の波状口縁である。波頂下8cmのところから、口縁部が外反している。なお、推定口径は23.2cmである。22は、口唇断面が角頭状の波状口縁である。27と28、32と33は、それぞれ同一個体である。

#### b種 燕糸文を主体とするもの (第212図34~39, 図版58)

34~39は、同一個体である。口唇断面が尖頭状になっていて、胴部から口縁部に向かって外反している。胴部は膨らみをもっている。

#### c種 沈線文を主体とするもの (第212図40~54, 図版58)

40~54は、半截竹管による沈線文が施されている。40は口唇断面が角頭状で、口唇に貝殻の背面による刻目文を有している。41は、口唇断面が角頭状になっている。43は、口唇断面が尖頭状の波状口縁である。51は推定底径7.3cmで、やや揚げ底になっている。52~54は、文様が押し引きの手法で小波状に描かれている。

#### d種 無文のもの (第212図55~57, 図版58)

55と56は同一個体で、口唇断面が角頭状の波状口縁である。

### 第2類 浮島式・興津式土器 (第213・214図, 図版59)

#### a種 波状貝殻文を主体とするもの (第213図58~67, 図版59)

58~61の文様は、無肋の波状貝殻文である。58は折返し口縁になっていて、口縁部文様が無文である。推定口径が31.6cmである。浮島Ⅱ式土器に該当する。62~67の文様は、有肋の波状貝殻文である。62は折返し口縁になっていて、口縁部に縦位の条線帯を有する。胴部文様は、貝殻復縁を引きずりながら波状貝殻文が施されている。興津Ⅰ式土器に該当する。63は口唇断面が片刃状になっていて、その上に斜位の条線帯がある。浮島Ⅲ式土器に該当する。66と67は、同一個体である。

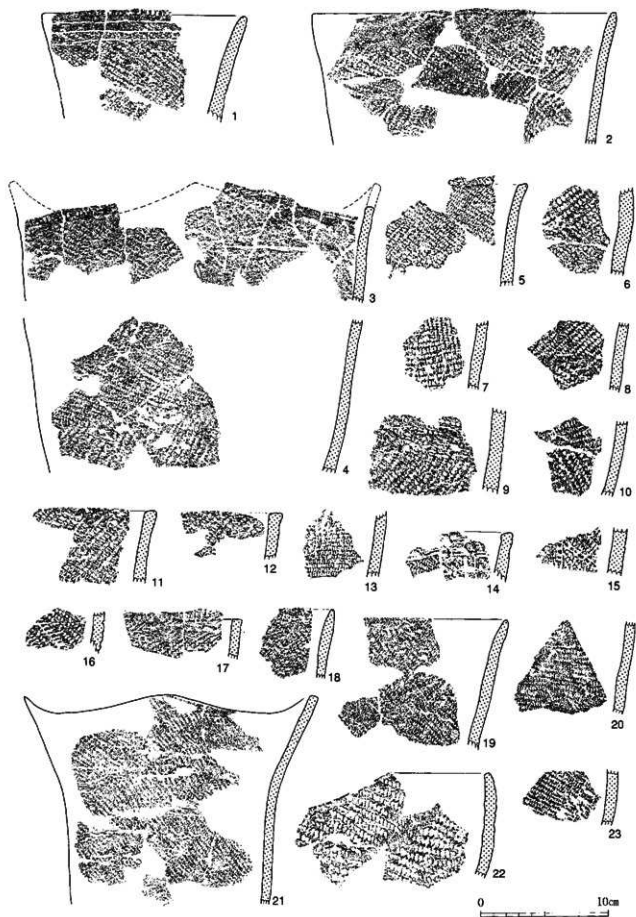
#### b種 三角文を主体とするもの (第213図68~73, 図版59)

68~73は、浮島Ⅲ式土器に該当する。68は、口縁部に縦位の条線帯を有する。70と71、72と73は、それぞれ同一個体である。

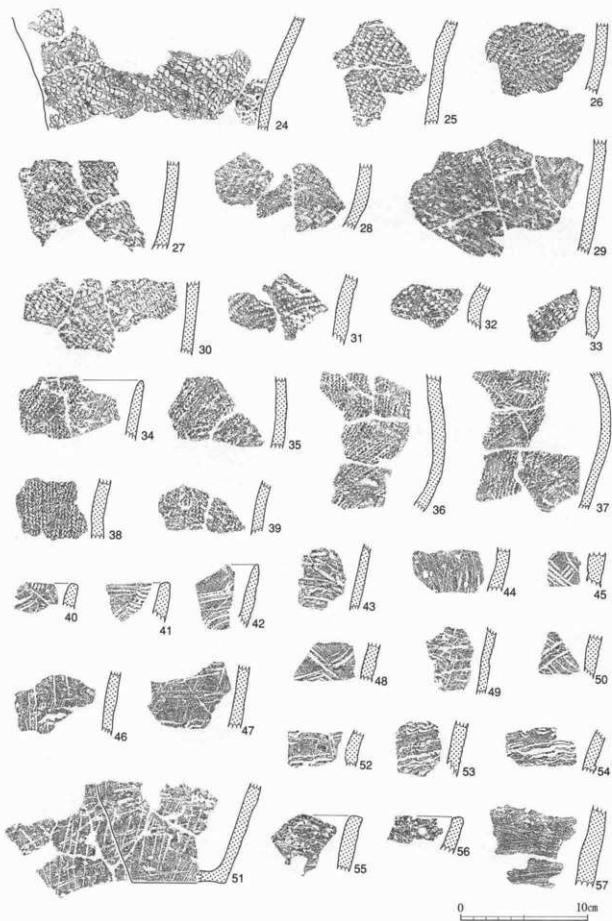
#### c種 半截竹管による沈線文を主体とするもの (第213図74~82, 図版59)

74は変形爪形文のみが口縁部に残存しているだけであるが、おそらく全体の文様においては平行沈線文が主体となるものであろう。75~77・80は、一部に有節平行沈線文が施されている。75と76は、同一個体





第211圖 第V群土器(1)



第212図 第V群土器(2)

である。77と80の文様は、三角形の平行沈線文である。これらは浮島Ⅱ式土器に該当する。

78と79は同一個体で、波状口縁になっている。文様は口縁に沿って平行沈線文が周回し、波頂部から平行沈線文が垂下している。地文に縄文が認められる。諸磯a式ないし浮島Ⅰ式土器に該当する。

81と82は同一個体で、平行沈線によって山形状に描かれている。

d種 条線文を主体とするもの(第213図83～96・第214図97～107, 図版59)

83の文様は、櫛歯条線文が波状に描かれている。また、口唇に指頭状の圧痕文があり、口縁部に連続刺突文が施されている。器形は、胴部がやや膨らみを持ち、口縁下4cmのところから口縁が外反している。興津Ⅰ式土器に該当する。84～107の文様は、半載竹管による条線文である。興津Ⅰ式土器に該当する。84～86は同一個体で、口唇断面が肥厚している。口唇には、棒状工具による圧痕文がある。87～98は同一個体で、口唇断面が尖頭状になっている。93～101には凹凸文がある。また、93～102は折返し口縁になっていて、口縁部に条線帯を有する。なお、93と94、102～104は、それぞれ同一個体である。

e種 磨消貝殻文を主体とするもの(第214図108～111, 図版59)

108～111は、興津Ⅱ式土器に該当する。108～100は同一個体で、磨消貝殻文が幾何学的に描かれている。なお、磨消貝殻文を区画している沈線はヘラ状工具による。111は、磨消貝殻文を区画している沈線が半載竹管による。

f種 その他(第214図112～115, 図版59)

112は折返し口縁になっていて、口縁部には半載竹管による条線帯と連続刺突文がある。興津Ⅰ式土器に該当する。113は輪積痕を残し、両端に刻みを有する。興津Ⅰ式土器に該当する。114は口唇断面が丸頭状で、折返し状の口縁で下端部に斜位の刻目文が装飾されている。なお、口縁部には半載竹管による平行沈線文が巡っている。115は輪積痕を残しているだけである。

底部(第214図116・117, 図版59)

116・117は平底で、下端部がやや張り出している。なお、116は底径6cm、117は推定底径8.6cmである。

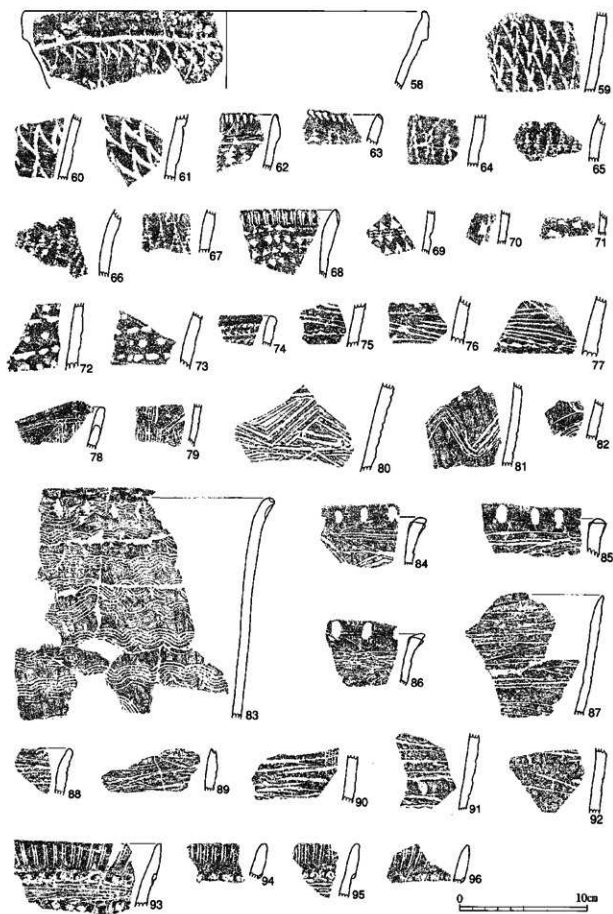
第3類 前期末葉の土器(第214図118～135, 図版59)

異条縄文と結節文を地文としている。118・120・123・127は同一個体で、口唇に縦位の押圧縄文が深く刻まれている。119と122は同一個体で、口唇に斜位の押圧縄文が深く刻まれている。また、口縁部には1条の押圧縄文が縦位に描かれている。124と125は同一個体で、波状口縁になっている。口縁部文様は結節文によって区画され、その中を1条の押圧縄文が縦位に描かれている。なお、表面には赤彩顔料が塗られている。129～135は、半載竹管及びヘラ状工具によって沈線文が施されている。ちなみに、129と130は同一個体である。

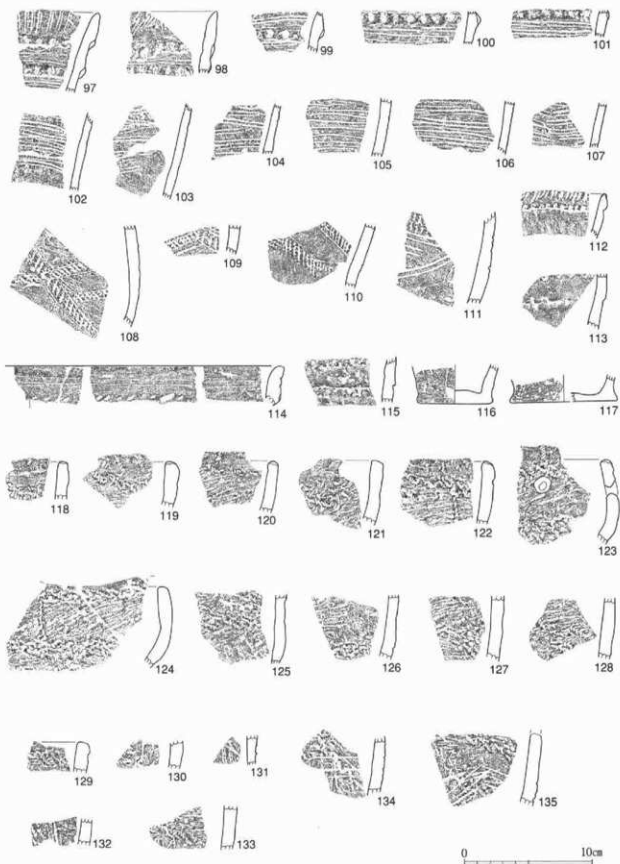
## 第Ⅵ群土器 中期の上器

第1類 五頸ヶ台式土器(第215図1～3・第216図4～33, 図版60)

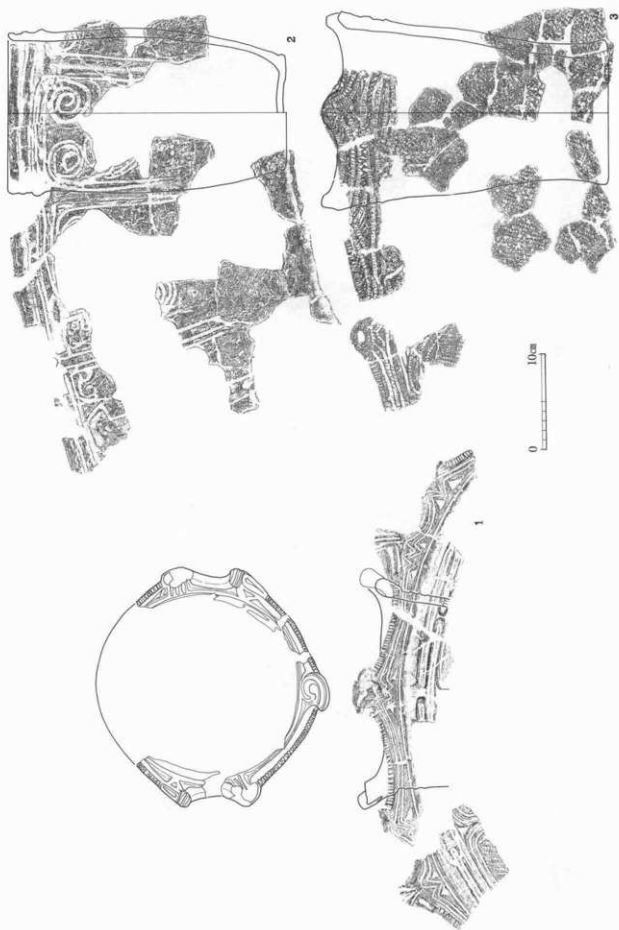
1は、口径25.6cmの深鉢形土器である。器形は波状口縁で、波頂部下5cmのところから口縁部が外反している。また、波頂部には2対1組の把手が2個、内面には渦巻文を有する把手が2個付いているようである。文様は口唇に刻目文を有し、口縁部に半載竹管による山形沈線文と三叉文的彫刻文がある。また、口縁部の内面には三叉文的彫刻文が刻まれている。頸部文様は、隆起線による長楕円文が2段構成になっている。胴部文様は斜縄文を地文とし、隆起線文がV字状かY字状に垂下している。その隆起線文の両側



第213图 第V群土器(3)



第214圖 第V群土器(4)



第215图 第Ⅵ群土器(1)

に沿って、半截竹管による沈線文が施されている。胎土は砂が多く含まれ、金雲母も混入している。

2は、口径17.1cm、底径12.4cm、器高29.1cmの樽形土器である。器形は胴部がやや膨らみを持っているが、口縁部は直立している。口縁部文様は、平行沈線文である。胴部文様は結節縄文を地文とし、沈線による渦巻文である。口縁下3cmのところから隆起線文が垂下し、その隆起線文に沿って沈線文が施されている。胎土は砂が多く含まれている。

3は、口径20.3cm、推定底径15.5cm、器高30.0cmの深鉢形土器である。器形は口縁部がやや外反し、底部は一旦すばまってから底に向かって広がっている。また、口縁部に2個の把手が付いている。文様は口唇に刻目文を有し、口縁部が隆起線文によって区画されている。区画内には、山形状の角押文と交互刺突文がある。胴部文様は斜縄文を地文とし、Y字状の隆起線文が垂下している。また、頸部付近に角押文がある。胎土は砂が多く含まれ、金雲母も混入している。五領ヶ台式土器として類別したが、阿玉台式土器の直前形式に該当するものであろう。

4と5は同一個体で、口唇に刻目文を有する波状口縁である。器形は口縁部がやや内側に湾曲し、内面に稜を持っている。口縁部文様は斜縄文を地文とし、沈線による渦巻文・三叉文的彫刻文・交互刺突文で構成されている。6は、口縁部がやや内側に湾曲している。口縁部文様は、刻目を有する隆起線文である。なお、口唇の内面に刻目文が周回している。

7は頸部の破片で、口縁部文様が隆起線文で区画されている。口縁部文様は、斜縄文を地文とする沈線文が施されている。8は、口縁下2cmのところから口縁部が急激に外側へ屈曲している。口縁部文様は、斜縄文のみである。胎土は砂が多く含まれ、金雲母も混入している。

9～11・14は同一個体で、三角状に穴が開いた突起を有する。文様は口唇の外側に刻目文を有し、全面に結節縄文がある。なお、口縁下2cmのところから補修孔がある。12・16～18は同一個体で、結節縄文を地文とする沈線文が施されている。胎土は砂が多く含まれ、金雲母も混入している。13と15は同一個体で、縦位の縦線文がある。

19・27は把手である。19は王冠状の把手で、縄文を地文とする沈線文が施されている。また、内面には斜縄文が一部見られる。27は山形の把手で、頂部の口端は窪んでいる。

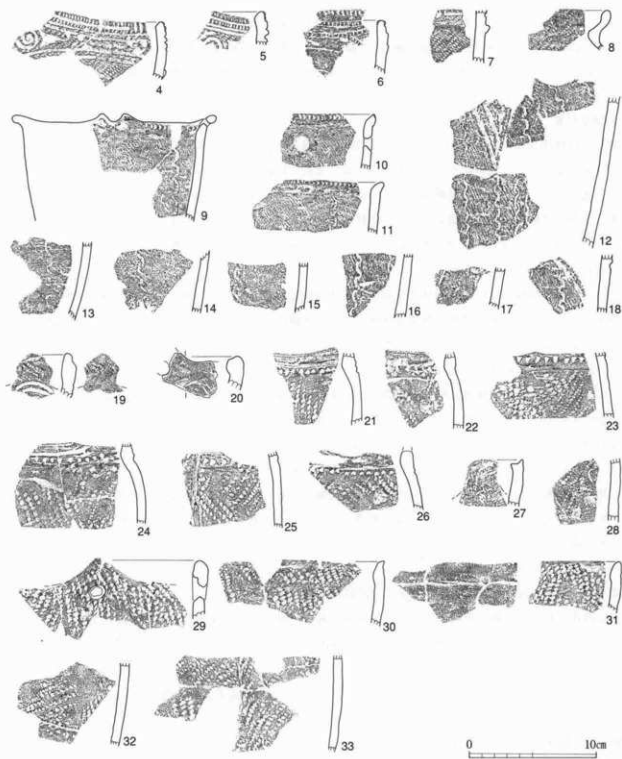
20は円孔を有し、文様が半截竹管による沈線文である。21～26の口縁部文様は、連続刺突文と沈線文を組合せて構成している。なお、21・22・26は同一個体である。

28～33の文様は、縄文のみである。29は山形の把手を有し、山頂下2.5cmのところから径1cmの穴が開いている。30と31は、内側に折返し口縁となっている。いわゆる下小野式土器に該当するかもしれない。なお、30と31、32と33は、それぞれ同一個体である。

## 第2類 阿玉台式土器（第217図34～54・70～73、図版61）

34は、推定口径21.0cmの深鉢形土器である。把手を有し、口縁部が内側に湾曲する器形である。文様は、把手部に隆起線による渦巻文がある。口縁部文様は、隆起線による窓枠状文の内側に沿って1列の角押文が施されている。また、隆起線による窓枠状文と窓枠状文の接点には、指でつまんだ断面三角形の短隆起線が貼付されている。内面は把手部に隆起線文があり、口縁下1cmのところから稜が周回している。阿玉台I a式土器に該当する。35の文様は、隆起線文に沿って1列の角押文が施されている。また、口唇の両側に波状の隆起線文が貼付されている。36の文様は、小波状の隆起線文に刺突文が加わっている。

37と38は同一個体で、隆起線文の両側に1列の角押文に沿っている。39の器形は波状口縁で、口唇断面



第216図 第Ⅵ群土器(2)

が角頭状になっている。口縁部は内側に湾曲し、口縁下2cmのところから外側に屈曲している。文様は隆起線による窓枠状文で区画し、その中をV字状の隆起線文と2列の波状角押文で構成されている。内面には、口縁下2cmのところに稜が周回している。37~39は阿玉台I b式土器に該当する。

40の文様は、隆起線文に1列の角押文や波状沈線文に沿っている。41の文様は、隆起線による窓枠状文



が2段構成になる。窓枠状文の下位には1列の波状沈線文が沿っている。42・46・47の文様は、隆起線による窓枠状文の下位に1列の角押文が沿っている。これらは阿玉台I b式土器に該当する。43の文様は、隆起線文が垂下し、輪積痕が残っている。なお、隆起線文には角押文や沈線文が沿っていない。44の文様は、隆起線文に1列の角押文が沿っている。45の文様は、隆起線による窓枠状文である。おそらく、窓枠状文が2段構成になる。

48の器形は波状口縁で、口唇断面が角頭状になっている。口縁部は内側に湾曲し、口縁下2cmのところから外側に屈曲している。口縁部文様は隆起線による三角文と1列の角押文の構成である。胴部文様は隆起線による逆U字状文が垂下している。49の文様は、菱形の隆起線文が施され、その隆起線上に沈線文と刺突文で装飾されている。また、輪積痕が残っている。50の文様は、隆起線文の両側に1列の角押文が沿っている。51は把手である。文様は棒状工具によって隆起線を交互に押し、小波状に描いている。内面には1列の角押文が施されている。48～51は阿玉台I b式土器に該当する。

52～54の文様は無文で、輪積痕が残っている。

### 第3類 加曾利E式土器 (第217図57, 図版61)

57の文様は、縄文地に1条の沈線による懸垂文が施されている。胎上には金雲母が含まれている。加曾利E I式土器に該当する。

その他 (第217図55・56・58～68, 図版61)

55・56の文様は、羽状縄文である。58～62の文様は、横位の縹縄文を有しており、いわゆる下小野式に相当する土器で、前期末のもの可能性がある。63～68の文様は斜縄文のみである。

底部 (第217図73～75, 図版61)

73～75は平底である。74は、斜縄文が最下部にまで施されている。

## 第Ⅳ群土器 後期の土器

### 第1類 称名寺式土器 (第218図1～6・11～14・29, 図版61)

1～6・11・12・29は、沈線区画による磨消縄文が曲線的に描かれている。1～3は口縁部の破片で液状になっていて、口縁が内側に湾曲している。また、1は穿孔された把手が、2と3は突起が波頂部に付随している。なお、1～6・12は同一個体である。これらは、称名寺1式土器に該当する。

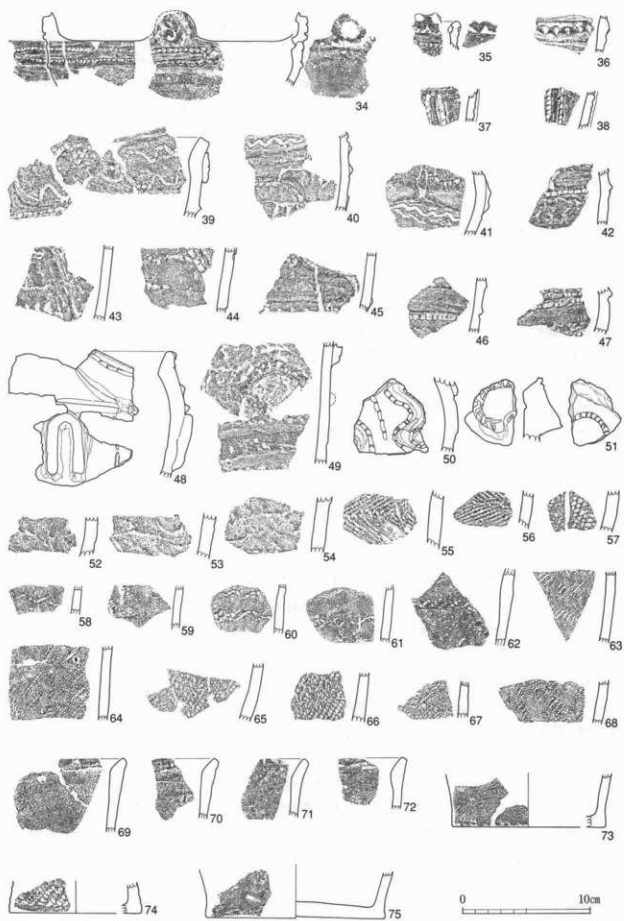
13と14は同一個体で、沈線文が曲線的に描かれ、区画された中を刺突文によって充填されている。13は口縁部の破片で、口縁下1cmのところから口縁部が外反している。これは、称名寺2式土器に該当する。

### 第2類 堀之内式土器 (第218図7～10・15～22・24～27, 図版61)

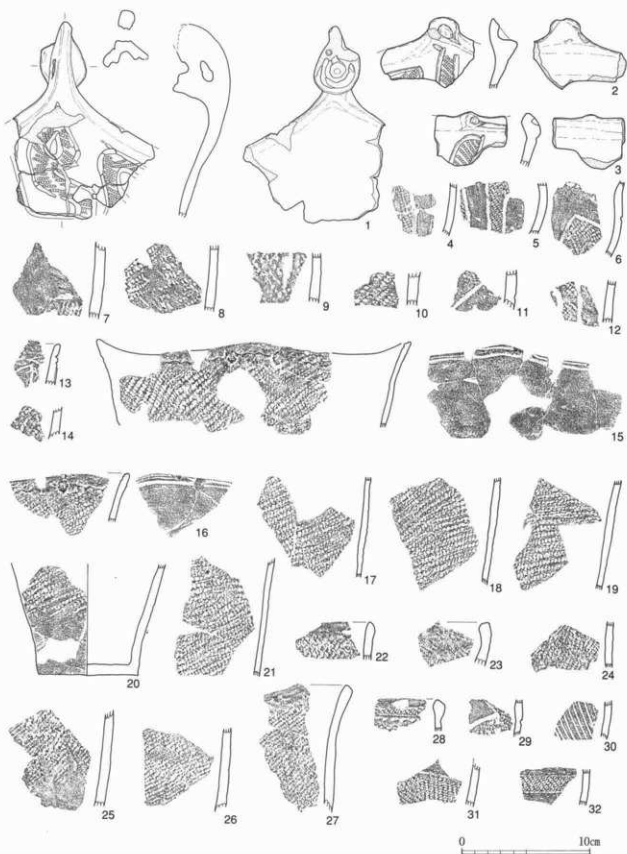
7～10は胴部の破片で、斜縄文が施されている。これらは、堀之内1式土器に該当する。

15～21は同一個体である。波状口縁で、器厚が5mmと薄い深鉢形土器である。推定口径は24.7cm、底径は7.8cmである。文様は、口縁下8mmのところに1本の微隆起線文が口縁に平行して小波状に描かれている。また、微隆帯文で口縁の波頂部を区画している。それ以外の文様は、すべて斜縄文のみである。なお、口縁部の内面には1条ないし2条の平行沈線文が周回している。これは、堀之内2式土器に該当する。

22・24～27は同一個体で、すべて斜縄文のみである。22と27は口縁部の破片で液状になっていて、口唇断面が外削ぎである。胴部はやや膨らみを持ち、口縁下4cmのところから口縁部が外反している。これは、堀之内1式土器に該当する。



第217图 第Ⅵ群土器(3)



第218图 第Ⅳ群土器

### 第3類 加曾利B式土器 (第218図23, 図版61)

23は波状の口縁部片で、斜縄文のみである。口縁部上端が、内側にやや湾曲している。加曾利B2式土器に該当する。

### 第4類 安行式土器 (第218図28・30~32, 図版61)

28は口縁部の破片で、口唇断面が肥厚している。口縁外面に斜縄文が周回し、それに沿って半載竹管による2条の押し文が施されている。30~32は胴部の破片である。30は斜条線文のみである。31は縄文を地文とし、沈線で区画した内側を磨り消して帯状の磨消文にしている。32は沈線区画による帯縄文である。

## 2 土製品

### (1) 土版 (第215図1~5, 図版60)

土器片を再利用した土版である。

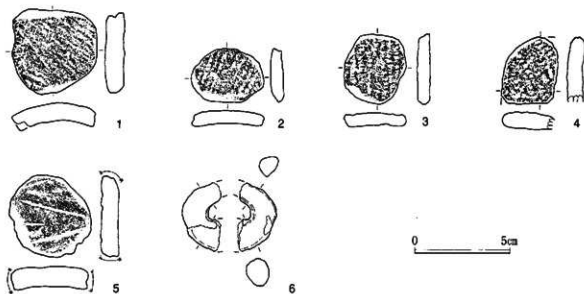
1は条痕文系土器破片を利用しており、1辺4.4cmの不整形になる。厚さ1.0cm、重さ21.4gになる。一部に擦られている箇所がある。

2~4は条痕文系土器の破片を利用している。2は半円形に近いもので、3.8cm×2.8cm、厚さ0.6cm、重さ7.5gである。円周部分は荒削程度に作られているが、弦の部分はよく磨滅している。3は方形に近い形になる。3.1cm×3.6cm、厚さ0.6cm、重さ8.9gである。周囲がかるく擦られている。4は円形のものの1/3ほどの破片で、現存部は2.8cm×3.4cm、厚さ0.8cm、重さ9.0gである。縁が擦られている部分が残っている。

5は田戸下層式土器片を利用しており、円形に粗成形している。4.0cm×4.2cm、厚さ1.1cm、重さ21.1gである。縁が若干擦られているような部分があるが、接合部とまぎらわしい。

### (2) 決状耳飾 (第215図1~5, 図版60)

6は決状耳飾の片側破片で、断面が槽円形になっている。現存部は2.0cm×3.5cm、最大厚1.3cm、重さ7.2gである。完全品であれば4.5cm×3.8cmほどの槽円形になるだろう。



第219図 土製品

### 3 石器（第220図～251図，第40表～57表，図版62～65）

東峰御幸畑東遺跡（空港No62遺跡）では，包含層中から縄文土器とともに同時代に属すると考えられる多量の石器類が検出された。分布状況から，5つのエリア（A群～E群）に分け（第220図），以下に報告することとする。石器群の分析及び分布状況の把握にあたって，人為的な加工痕の認められるもので，石鏃などのいわゆる剥片石器と石斧・磨石・蔽石等の礫石器を一括して「石器」とし，本項で主に扱う。

なお，石鏃の形態分類については，便宜的に平面形態のみを基準とし，以下のように，全体形状と抉りの度合いによって両者を組み合わせて形態分類を行った。本報告で実測図を掲載できなかったものを含めて，形態組成については第51・52表にその概要をまとめた。

全体の形状は4つに分類する。

- I：正三角形に近い形状
- II：2辺が明らかに底辺よりも長いもので，いわゆる二等辺三角形形状を呈するもの
- III：2辺が底辺よりも短いもので，先端角が $60^\circ$ 以上となるもの
- IV：I～III以外のもの

基部の抉りの形状を以下のように3つに分類する。

- a：抉りがほとんど無いもの
- b：抉りの度合いが小さいもの
- c：抉りの度合いが大きいもの

この形態分類はあくまで視覚的に判断したものである。その判断に従って，I～III類に分類された完形石鏃について長幅比等を検討すると，I類は1.0～1.5，II類は1.2以上，III類は1.0以下となる。長幅比1.2～1.5についてはI類とII類の両者が認められ，視覚的な判断では明確な分類が困難なことを示している。

なお，第53表に集計した折面状況は千葉県文化財センター調査報告第324集「千葉県東南部ニュータウン19—千葉市有吉北貝塚1（旧石器・縄文時代）—」における石鏃の遺存部の類型（同書第517図）のうち①～⑬について，準じて用いた。折面状況14～16は，本書であらたに加えたものである。14は石鏃の両脚部を残して基部抉り部に折れ面が観察される資料（よこおれ），15は先端から脚部まで側縁に平行して折れた資料で（たておれ），16は1～15以外のものを一括した。

また通常，磨石・蔽石とされる資料については礫表面に残された磨面と蔽打痕の位置を組み合わせて分類した。蔽打痕の観察される位置によって以下のように呼称する。各群毎の出土点数・重量と，石材別の組成表を第48・49表にまとめた。

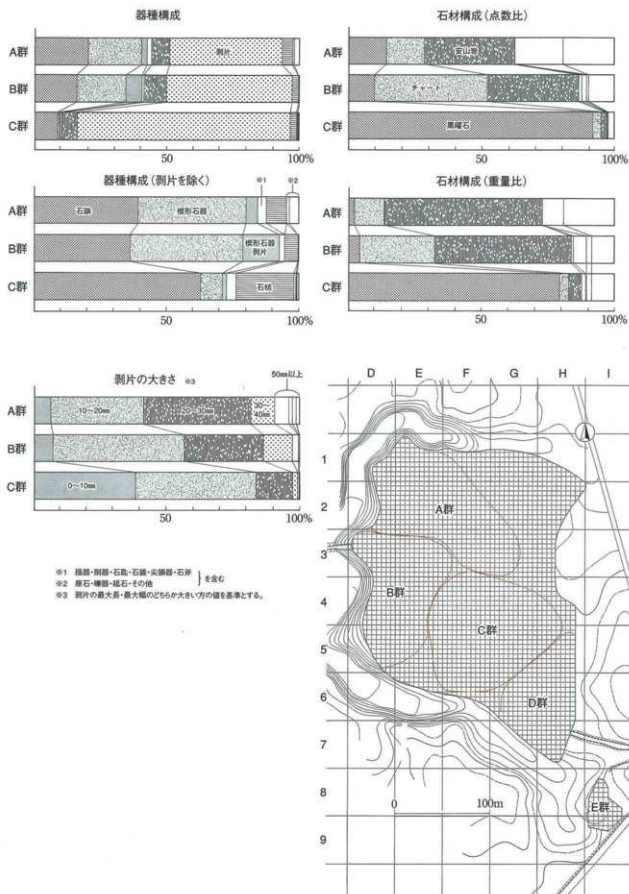
磨：磨面が観察されるもので，蔽打痕の観察されないものは「磨石」とする

周打：礫の周縁に蔽打痕が観察されるもの

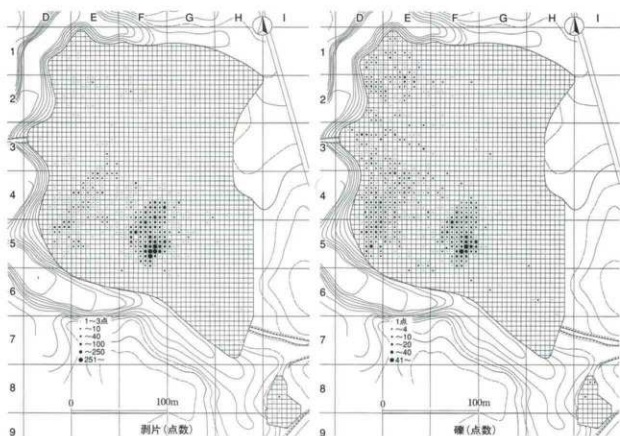
平打：礫の平坦面に蔽打痕が観察されるもの

端打：礫の端部に蔽打痕が観察されるもの

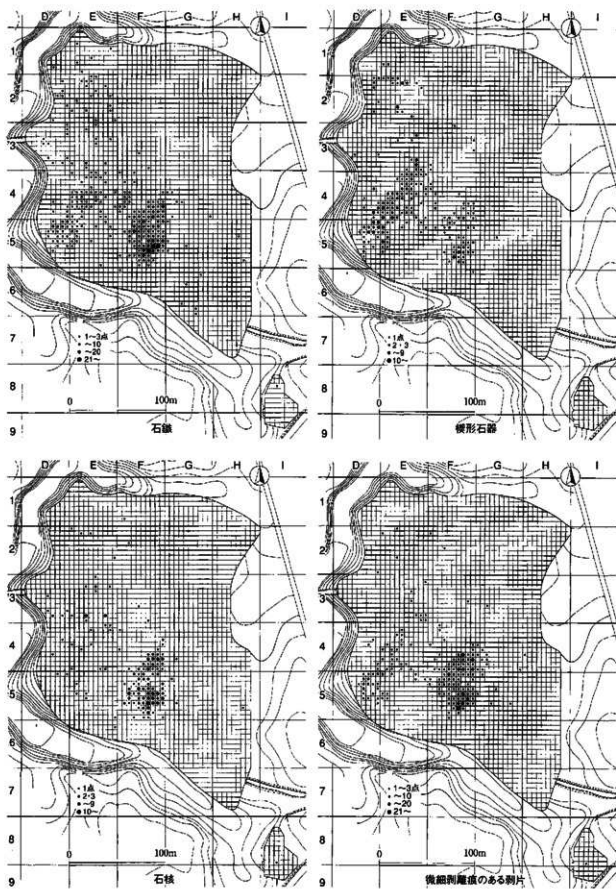
一方，蔽打痕・磨痕等の加工痕が見られない礫・礫片を一括して，「礫・礫片」と呼称するが，それらについては，各群毎に重量と点数を集計した（第50表）。石材については，正確に把握することができなかったが，チャート・流紋岩・砂岩を主体とする石材構成で，その他に花崗岩・ホルンフェルス・安山岩等が伴う。大半の資料が被熱により赤化しており，いわゆる礫群を構成していたものと推測される。破砕礫が多量に検出されたため，接合を試みた。グリッド内で取束するものとグリッド間・群間で接合するも



第220図 縄文石器 群別石器構成

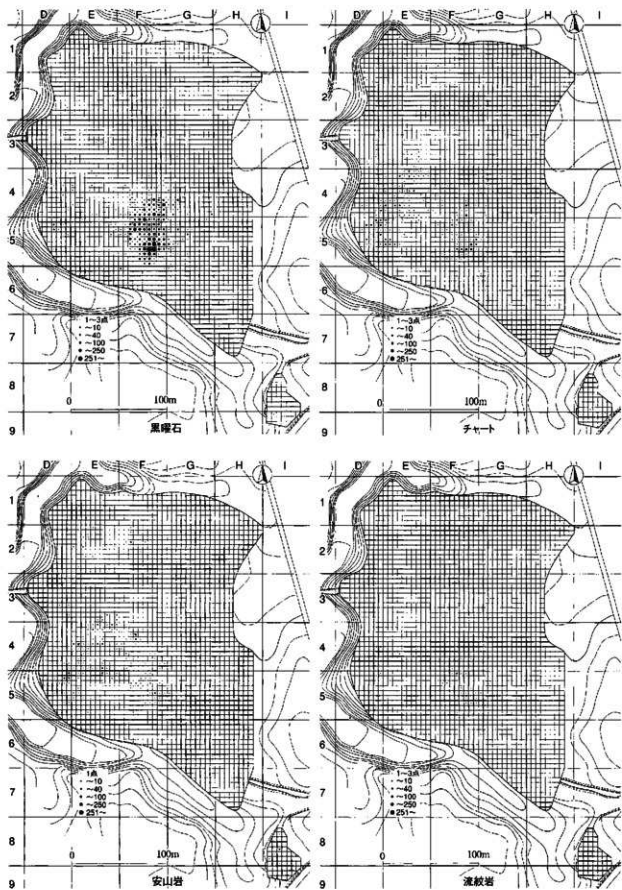


第221図 縄文石器グリッド別分布状況(剥片・礫)



第222図 縄文石器グリッド別分布状況（器種別）





第223図 縄文石器グリッド別分布状況(網片-石材別)

のもあり、最大で150mの接合距離を測る（第221図）。全体では130個体以上に接合関係が認められ、C群の南側に最も密度の高いエリアがひろがる。

#### A群（第224図～226図，第41・54表，図版62・65）

主な該当エリアは1D・1E・2D・2E・2F・3F・3G区で、2E区を中心として調査区北西端から南東へ向かって長軸150m・短軸90mの範囲に広がるが、中心部は径90m内外に収まる。B・C群と比較して剥片石器の分布密度はかなり低い。

本エリアからは田戸下層式を主体とする沈線文系土器と野島・鶴ヶ島台式を主体とする条痕文系土器が主に分布しているが、その他に、全体の数量は僅かではあるが押型文土器が分布する。

石鏃36点、楔形石器37点、楔形石器剥片4点、微細剥離痕のある剥片12点、石核7点、原石1点、石斧2点、磨製石斧1点、剥片77点の合計180点が出土した。利用石材はチャート・安山岩・黒曜石を主体として、少数ながらトトロ石・ホルンフェルス・凝灰岩等が組成する（第41表）。

**石 鏃** 形状の判断できる石鏃は全体の5割以上が正三角形に近いI類で、B群・C群では全体の2割しか同類が見られないことから、A群ではI類が顕著に高い割合を示していることが分かる（第41表）。1～3がI a類、4～8がI b類、9～15がI c類、16がII a類、17～21がII b類、22・23がII c類に分類される。未実測のものも含めて、素材剥片の背面・腹面を残している資料は少なく、一部6・13・16に認められる程度である。完形の比率がB・C群よりも若干高く、上下両端が欠損したタイプ（折面状況4・5）の比率が低い特徴が見られる（第53表）。石鏃に用いられる石材は、チャート22点、安山岩7点、黒曜石5点、ホルンフェルス1点、凝灰岩1点で、剥片類を含めた全体の石材構成と比較すると、チャートの占める割合が大きい。

**石 斧** 24は凝灰岩製の磨製石斧で、整形のための敲打痕が正面と側面に残っている。刃部は片刃状で、刃部に対して垂直に狭い幅で残る、裏面の顕著な擦痕状の条線は、使用によるものと推測される。基部端が折れたものを再利用したものであろう。

25は扁平礫を素材として石斧製作を意図したが、途中で折れてしまったために廃棄されたものと思われる。26も同様に扁平礫を用いて直線状に刃部を整形したもので、石斧とした。刃部の潰れ具合から、あるいはクサビ状に用いたものである可能性も指摘できる。

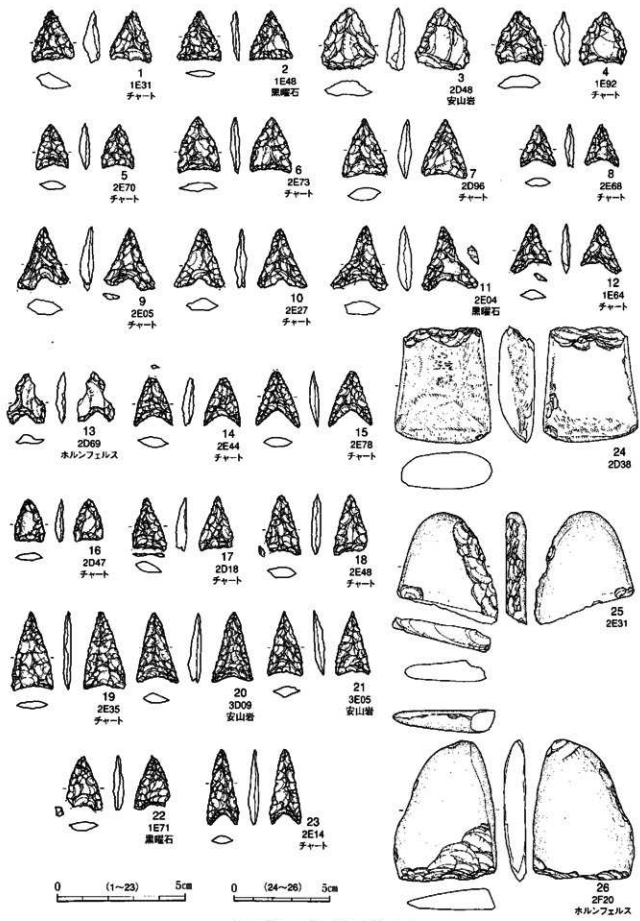
**楔形石器** 27～36は楔形石器である。それほど定型化したものがないため、特に分類を行わないが、チャートの場合には小円礫を用いて長軸方向にスライスするように加撃したものが目立つ（33）。未実測のものを含めて、両極剥離が著しく進行した小型のものは少ない。

**石核、原石** 37～39は石核である。37・38は比較的大きな原石を用いて打面転位を繰り返しながら、剥片剥離が進行していくもので、打面調整は施されず、平坦な単一剥離面を打面としている。安山岩製である。39は盤状の素材を用いて周縁から表裏両面に剥片剥離が行われた資料である。大型打製石斧の一部の可能性もある。ホルンフェルス製である。

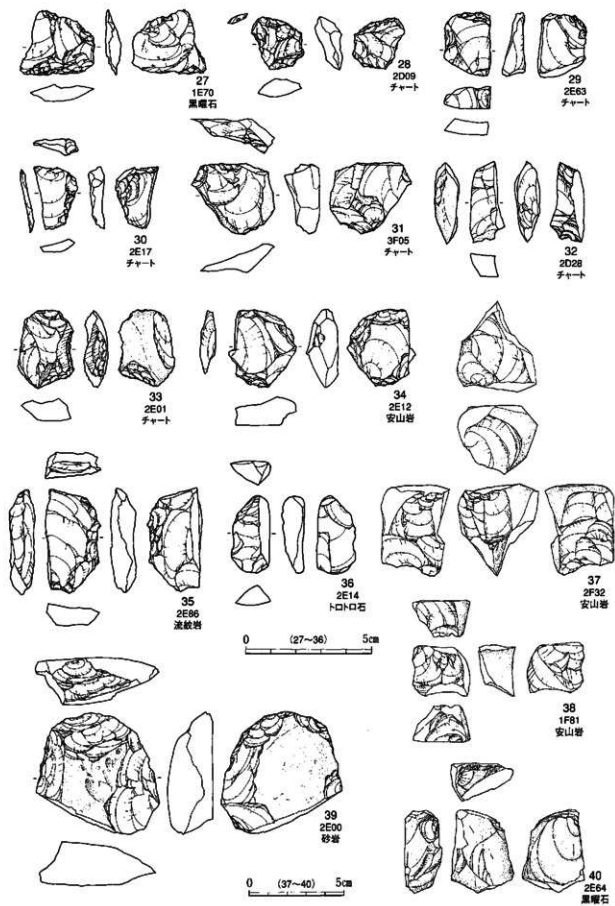
40は黒曜石の角礫状の原石である。

**石皿、敲打痕・磨面付き礫（いわゆる敲石・磨石）** 石皿2点、磨石4点、磨+周打5点、磨+平打1点、磨+平打+周打1点、平打2点、周打2点、白石？1点が出土した（第49表）。

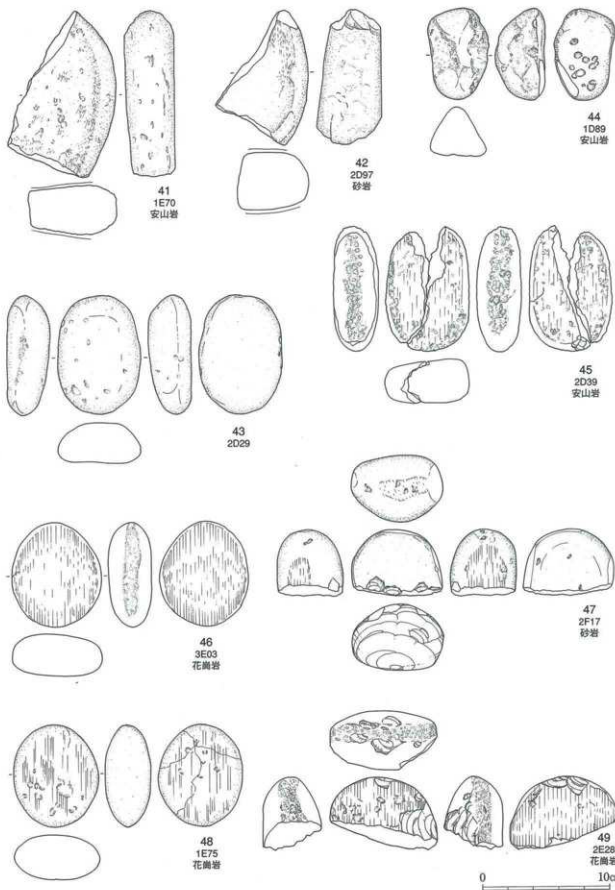
41・42は石皿片である。43～50は敲打痕・磨面等が観察される資料を掲載した。45・47は平坦面に磨面



第224図 A群 出土石器 (1)



第225図 A群 出土石器(2)



第226圖 A群 出土石器(3)

が広がり、周縁に敲打痕が残される一般的な礫石器である。

石皿片と磨+平打+周打の2個体にB群との接合関係が認められた。

第41表 A群 石器組成表

	石鏃	楔形石器 剥片	石斧	磨製石 斧	磨製剥 離のある剥片	剥片	礫石	石核	磨石	合計	組成比
チャート	22	18	1		6	11				58	32.22
	28.14	114.81	1.76		20.32	43.03				215.06	16.24
安山岩	7	6	2		2	26		3		46	25.56
	11.57	55.80	7.22		9.61	226.91		106.29		419.40	31.66
黒曜石	9	2			2	11		2	1	23	12.78
	4.70	4.89			3.49	8.71		8.97	25.49	58.25	4.40
トトロ石		6				14		1		31	11.67
		26.82				31.06		9.94		76.92	5.81
ホルンフェルス	1	1	1							4	2.22
	0.82	15.94	55.97		9.60					82.34	6.22
凝灰岩	1		1							4	2.22
	0.59		5.30					73.29		81.18	6.13
珪質頁岩		1								2	1.11
		1.60				13.66				15.26	1.15
流紋岩		2								2	1.11
		14.71								14.71	1.11
砂岩									1	2	1.11
								35.83	111.40	147.23	11.12
メノウ		1								1	0.56
		2.96								2.96	0.22
その他			1	1		18				17	9.44
			43.53	94.25		73.51				211.29	15.95
合計	36	37	4	2	12	77	3	7	1	180	100.00
	43.83	247.33	14.28	95.59	94.55	66.68	383.22	111.12	237.70	251.60	100.00
組成比	20.00	20.56	2.22	1.11	6.56	6.67	42.78	1.67	3.89	6.56	100.00
	3.23	18.69	1.06	7.51	7.12	5.18	28.92	0.29	17.95	1.92	100.00

#### B群 (第227図～235図・第42・55表、図版62・63・65)

主な該当エリアは3D・3E・4D・4E・5D・5E区で、4E・5D区を中心として長軸120m・短軸60mの範囲からほぼ連続と石器が検出され、その周囲に石器出土グリッドが点在する状況である。

本エリアからは時期が明らかかなものとしては燃糸文系土器が主に分布しているが、早期に属すると考えられる無文土器も多数検出されている。

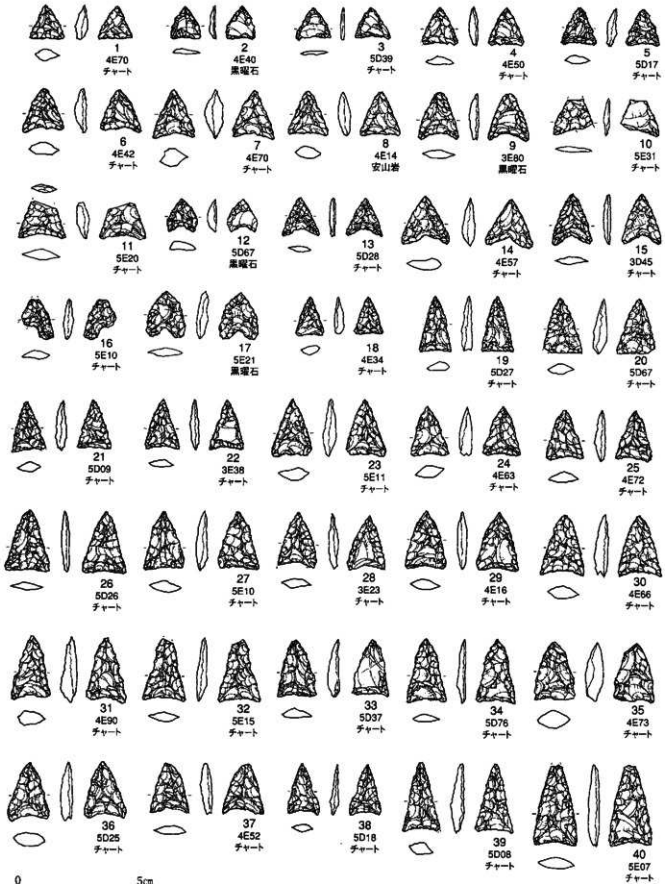
石鏃179点、楔形石器208点、楔形石器剥片69点、削器2点、微細剥離痕のある剥片97点、石核25点、磨製石斧2点、石斧4点、剥片535点の合計1123点が出土した(第42表)。楔形石器が石鏃の点数を上回る点と、利用石材の構成はA群とよく似ており、チャートと珪質頁岩を主体として、安山岩・黒曜石が伴い、それにメノウ、ホルンフェルス・トトロ石等が僅かに伴う。

石鏃 形状の判断できる石鏃は全体の約2割がI類で、7割強がII類で占められる。C群と比較するとII類の中でもII b類の比率は本群の方が高く、逆にII c類はC群の方が高い割合を示している(第51表)。1がI a類、2～11がI b類、12～17がI c類、18～20がII a類、21～54がII b類、55～61がII c類、62・63はIV類に分類される。II b類の中で先端部が急激に細くなる形態が幾つか散見される(24・27・29・34・42)、いずれもチャート・安山岩を用いた資料で黒曜石製のものは無い。未掲載の資料中にも数点同様の資料があるが、黒曜石製のものは認められない。IV類の62は先端部が欠損しているが、推定長約40mm前後を計る石鏃で、長幅比が3.0前後の長大な資料である。基部は挟りがほとんど見られず、側縁と同様に直線状となっている。チョコレート色をした良質の珪質頁岩を用いている。63は黒曜石製の基部が異なるタイプで丁寧な調整によって仕上げられている。

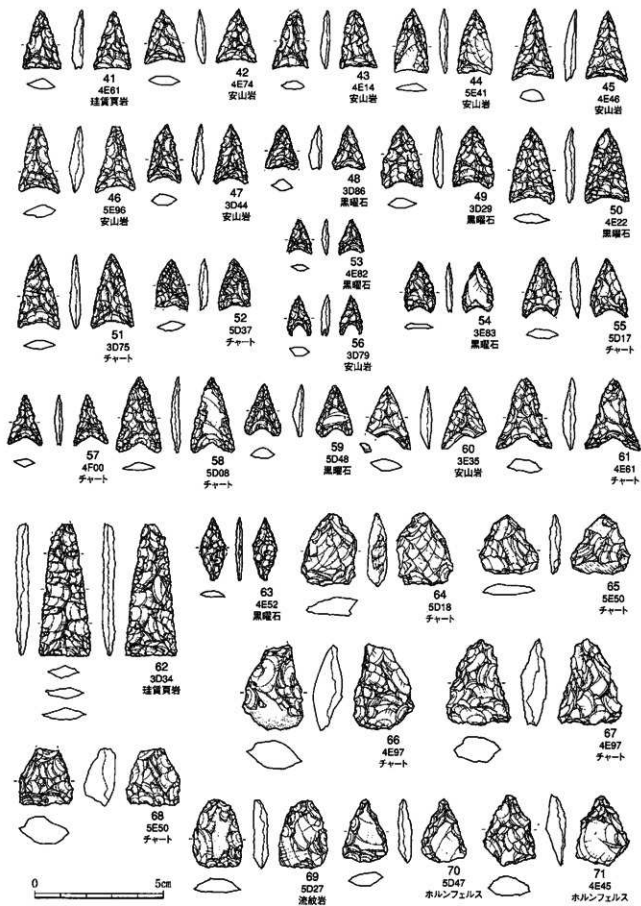
石材は179点中106点がチャート、27点が安山岩、33点が黒曜石で、他にホルンフェルス・珪質頁岩・トトロ石・凝灰岩等が僅かに加わる。石材構成はA群とほぼ同様で、5割以上をチャートで占める。

完形の比率がA群と同じように高く、全体の約4割近くを占める(第53表)。

64～71は石鏃未製品である。器体の一部に礫面を残す資料や分厚いものが目立つ。



第227図 B群 出土石器(1)



第228図 B群 出土石器(2)



楔形石器 楔形石器は多量に検出されており、チャート(141点)を主体として、安山岩(47点)が主に用いられ、僅かに黒曜石・トトロ石・ホルンフェルス等が伴う(72~122)。

両極剥離による核は、潰れた状態のものでそうでないものがあるが、前者は特に「クサビ」として機能していた可能性が高い。しかしながら、点数的には後者の方が圧倒的に多く出土しており、それらは両極剥離による剥片剥離生産を目的とした「石核」として機能していた可能性が高い。両極剥離によって得られた剥片は石籬の素材剥片となったと思われるが、石籬と楔形石器、剥片類の石材構成がよく似ていることも傍証となろう。

削器 123~125は削器で、123は右側縁に鋸歯状の刃部をもつ。124・125は円弧状に仕上げられた刃部をもつ。

石斧 126は磨製石斧である。緑色の凝灰岩を用いたもので、平面形態は台形状を呈している。刃部は直線的で片刃であるが、垂直方向に使用によると思われる擦痕が表裏両面に顕著である。

127は扁平礫の一端を研磨して刃部を整形した小型の礫斧で、刃部はやはり片刃状となっている。

128は扁平礫の片面に調整を加えた打製石斧である。

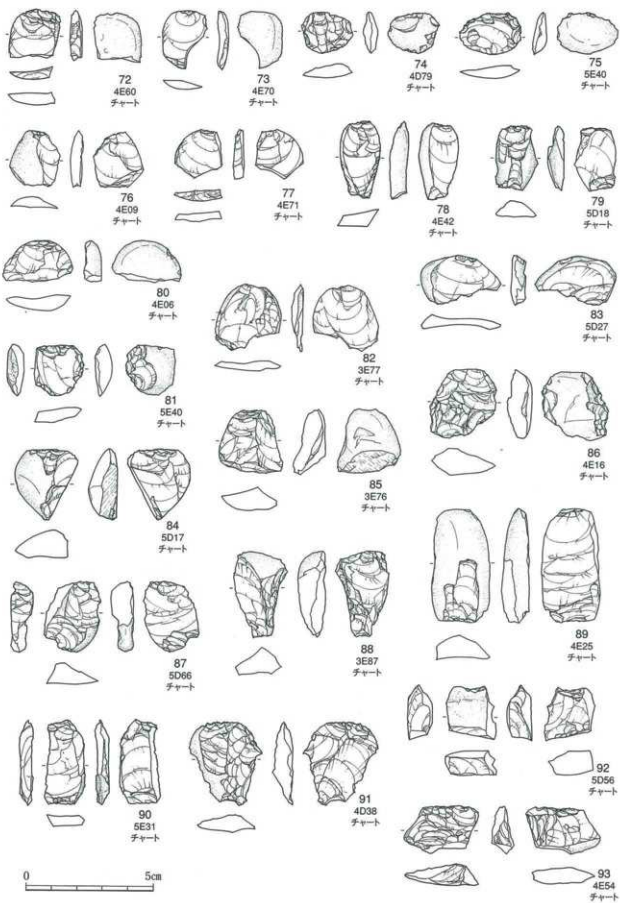
129・130は大型打製石斧の破片と考えられるが、129の側縁には研磨面が帯状に観察される。

石核 131~139は石核である。石核は25点が出土しているが、石材は黒曜石9点(131~133)、安山岩7点(134~136)、チャート5点(137)が主に用いられている。安山岩には比較的安定した剥片剥離工程が見られ、円礫の一端を剥離して打面とする単純なものである。作業面の表面には自然面が大きく残る。138・139は玉髄系の石材を用いたもので、打面転位を繰り返し養子状を呈するものであるが、石材・石核形態の違いから、旧石器時代に属する可能性も否定はできない。

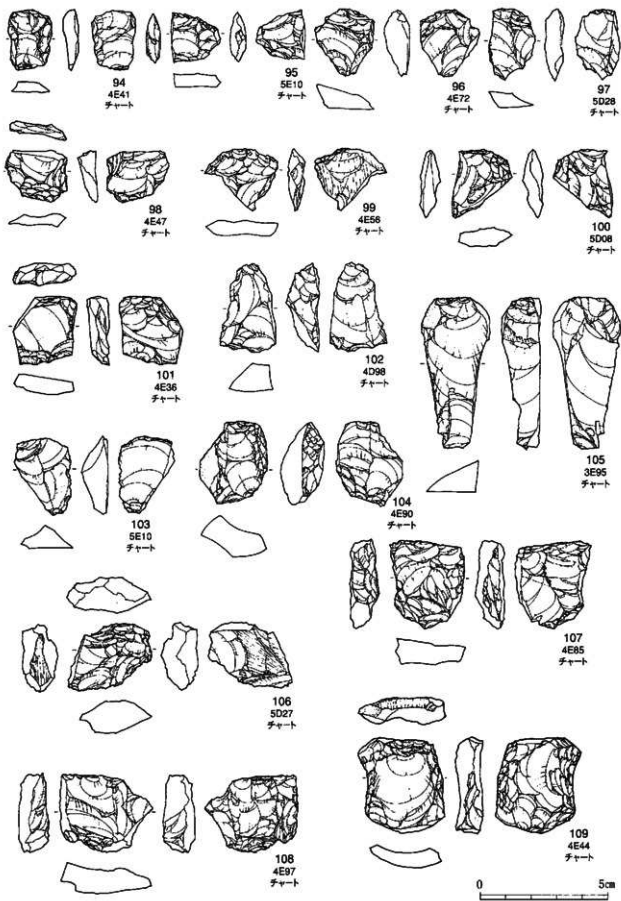
石皿、礫器、敲打痕・磨面付き礫(いわゆる敲石・磨石) 石皿3点、礫器2点、磨石18点、磨+周打3点、磨+平打3点、磨+平打+周打3点、平打5点、周打2点、端打2点、台石?2点が出土した(第49表)。A・C群と比較すると磨石が突出している。

第42表 B群 石器組成表

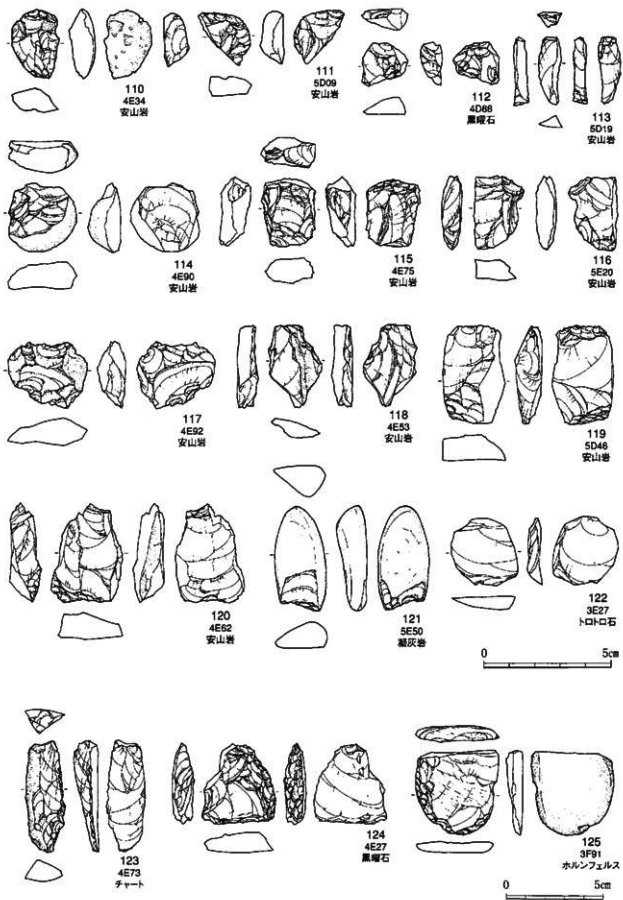
	石籬	尖礫器	楔形石器 器	楔形石器 器剥片	削器	石斧	磨製石 斧	磨製石 斧剥片	剥片	礫石	石核	合計	組成比
チャート	106		141	28	1		48	226	5	583	59.1		
安山岩	148.21		891.31	155.08	12.00		146.59	359.06	52.70	1665.95	36.8		
黒曜石	27		47	26			12	183	9	304	27.1		
	51.79		494.82	166.88			56.16	636.89	316.40	1622.85	35.8		
	33	1	8		1		38	53	7	131	11.7		
	23.75	0.31	32.71	20.01			70.17	53.99	46.87	258.01	5.5		
メノウ			1				2	12	1	16	1.4		
			1.83				31.02	85.98	38.86	127.89	2.8		
ホルンフェルス	4		2	1		3				15	1.3		
	12.75		13.27	1.18		210.63		75.36		313.19	6.9		
トトロ石	2		4					5	1	12	1.1		
	1.97		22.80					23.87	50.03	98.75	2.2		
凝灰岩	1		2	2			2	1		8	0.7		
	0.55		19.71	6.73			100.66	5.50		132.95	2.9		
瑠璃質頁岩	3		1							5	0.4		
	7.50		3.99							17.53	0.4		
流紋岩	1								3	4	0.4		
	3.67							11.14		14.81	0.3		
砂岩			1			1				1	0.1		
			4.75			61.41		18.10		19.17	1.7		
頁岩			1	1				1		3	0.3		
			2.93	1.56				17.70		22.19	0.5		
石英								1		1	0.2		
								2.06		19.03	21.09	0.5	
片岩	1										1	0.1	
	0.99										8.99	0.2	
オーバー	2.50									1	0.1		
				1							2.50	0.1	
その他				25.46					53		54	4.8	
								110.90			136.44	3.0	
合計	179	1	208	69	2	4	2	97	555	1	20	1123	100.0
	253.59	0.51	1306.20	390.89	32.01	272.04	100.46	416.66	1242.91	19.17	533.63	4530.07	100.0
組成比	15.9	0.1	18.3	6.1	0.2	0.4	0.2	8.6	47.6	0.1	2.3	100.9	
	5.6	0.0	25.9	7.7	0.7	6.0	2.2	9.2	27.4	0.4	11.8	100.0	



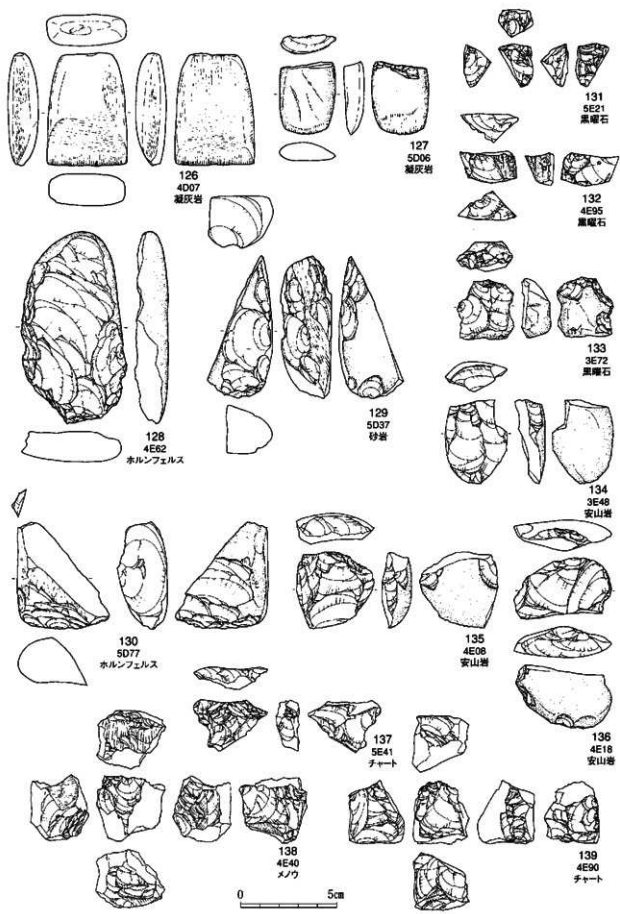
第229図 B群 出土石器(3)



第230図 B群 出土石器(4)



第231図 B群 出土石器(5)



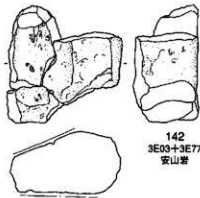
第232図 B群 出土石器(6)



140  
3D78  
安山岩



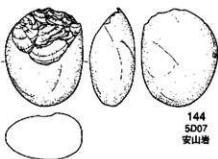
141  
4D99  
安山岩



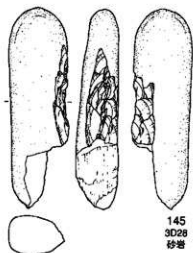
142  
3E03+3E77  
安山岩



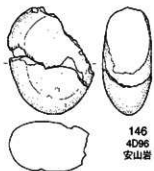
143  
5E10+5E11+5E20  
安山岩



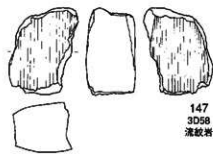
144  
5D07  
安山岩



145  
3D28  
砂岩



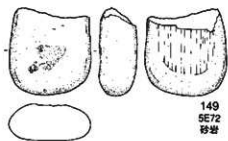
146  
4D96  
安山岩



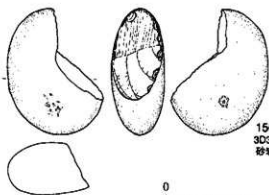
147  
3D58  
流纹岩



148  
3D57  
砂岩



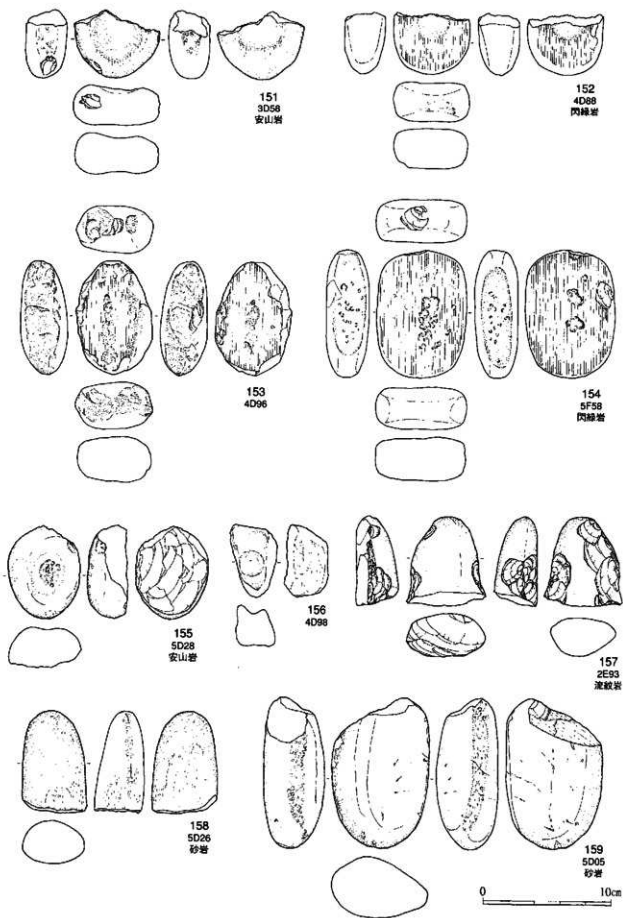
149  
5E72  
砂岩



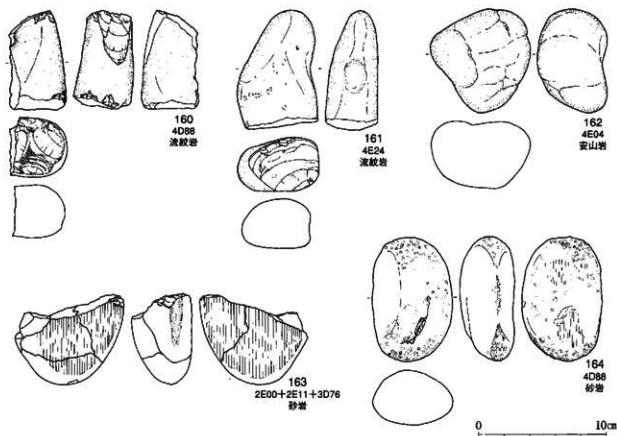
150  
3C38  
砂岩



第233号 B群 出土石器(7)



第234圖 B群 出土石器(8)



第235図 B群 出土石器(9)

140～143は石皿片である。整理中に141・143の接合が確認された。各資料ともに両面に作業面があり使用により中央部がかなり薄くなっている。144・145は扁平礫を用いた礫器で、144は片面のみに調整が施された片刃、145は表裏両面に調整が施された両刃をもつ。146～160は敲打痕・磨面が見られる資料である。151・152の凹石は通常よく見られる定型的な資料である。また160・161は平坦な分割面に敲打が加えられた資料で、いわゆるスタンプ形石器と理解される。

C群 (第236図～250図・第43・46表、図版63～65)

主な該当エリアは4F・4G・5F・5G区で、径100mの範囲に石器出土グリッドがほぼ円形に広がるが、集中する部分は長軸70m・短軸40mの範囲である。剥片石器の分布密度は他のエリアと比較して最も高く、1グリッド100点以上のグリッドが16か所ある。礫群の分布も濃密で、エリア内で接合する個体が多い。

本エリアからは野島・網ヶ島台式を主体とする早期条痕文系土器が濃密に分布する。石器群も明らかにこの時期に属するものと理解できる。

石鏃598点、尖頭器2点、搔器4点、楔形石器81点、石錐20点、石匙3点、磨製石斧1点、石斧2点、微細剥離痕のある剥片420点、石核213点、剥片5759点、原石7点を含む、合計7131点の石器が出土した(第43表)。黒曜石を主体とした石鏃が多量に出土し、A・B群には見られない石錐・石匙が伴う点で特徴的である。

石鏃 形状の判断できる石鏃のうち約2割がI類で、7割がII類で占められる。点数は少数ながら、III類の比率がA・B群と比較して高い点も特記される(第51表)。石材は598点中484点(約81%)で黒曜



石が用いられており、実測図は石材毎に黒曜石（1～127）、チャート（128～144）、安山岩（145～157）、流紋岩（158～163）、珪質頁岩（164～169）、頁岩（170・171）、トトロ石（172・173）の順で掲載した。

黒曜石製の石鏃は484点が出土した。1～7がⅢ類、8・9がⅠa類、10～22がⅠb類、23～27がⅠc類、28～32がⅡa類、33～65がⅡb類、66～85がⅡc類、86～90がⅣ類である。91～98は未製品とした。99～127には全体形状が分からないものの、様々な折れ方をみせる黒曜石製の石鏃の一部を掲載した（第53表）。他の石材であり見られないタイプは「折面？」としたもので、横折れで石鏃基部の挟り部のみが残った資料である（118～121）。

黒曜石製の石鏃は、素材剥片の主要剥離面を器体に残す資料が多くみられ、本群で多量に出土した石核から剥離された剥片が石鏃の素材として用いられたものと考えられる。剥片は横位に用いられるものが多いようで、打面・主要剥離面に残るバルブ（打瘤）の除去が、整形の際に問題となる。横断面がきれいに紡錘状を呈するものもあるが、素材剥片の厚みをうまくコントロールできず、片側のみ分厚く残ってしまう資料も散見される。また、大半の資料は器体深部にまで調整剥離が及んでいるが、一部の資料に周縁に急角度調整を施して整形するものも見られる（28・29・38・68・69）。

128～144はチャート製の石鏃及び未製品（140～144）である。実測図を掲載した資料は全てⅡb類に分類されるが、未掲載資料を含めてもⅡb類の割合が著しく高い。未製品についてはB群出土のものとは特に違いは見られない。

145～157は安山岩製の石鏃及び未製品（157）である。145～148がⅠb類、149～154がⅡb類、155・156がⅡc類である。全体的に薄く丁寧に仕上げられている印象を受ける。

158～163は流紋岩製の石鏃及び未製品（162・163）である。平面形態はⅡb類が多い。遺跡内から同石材を用いた楔形石器10点が検出されており、チャート・安山岩と同様に石鏃の素材剥片生産には両極剥離による剥片剥離がなされていたものと推測される。

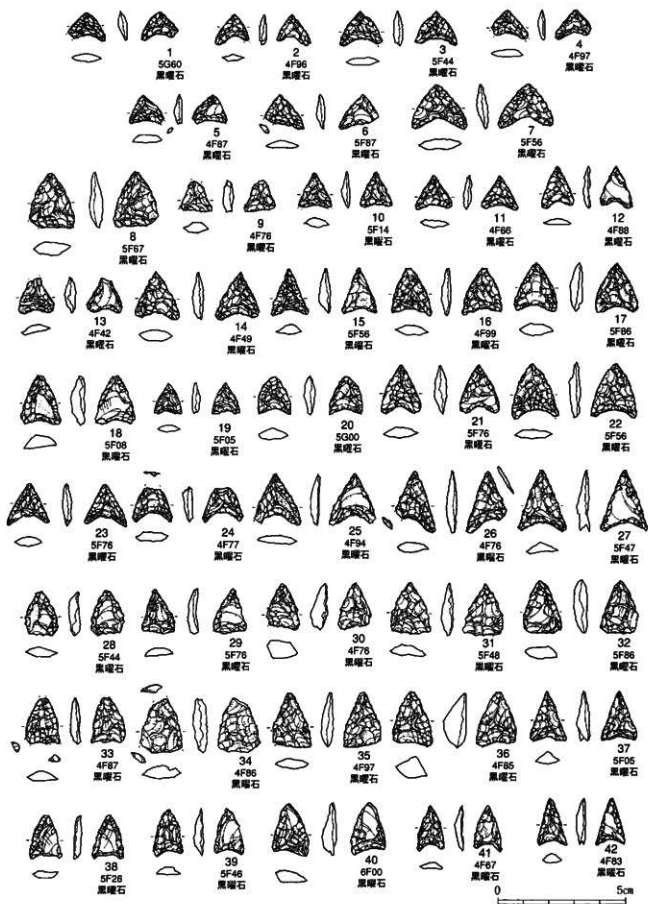
164～173は珪質頁岩・頁岩・凝灰岩・トトロ石を用いた石鏃で、同様の石材が他に見られないことから製品が遺跡内へ持ち込まれたものである。形態はバラエティーに富んでいる。

石 匙 黒曜石製（174）と、チャート製（175・176）がある。174・175はやや円弧状を呈する刃部をもち、つまみ部を簡単に設けた小型品である。176は幅広い剥片を用いて、打面側に突起部（つまみ部）を設けた資料で、いわゆる「横型」形態を呈したものである。

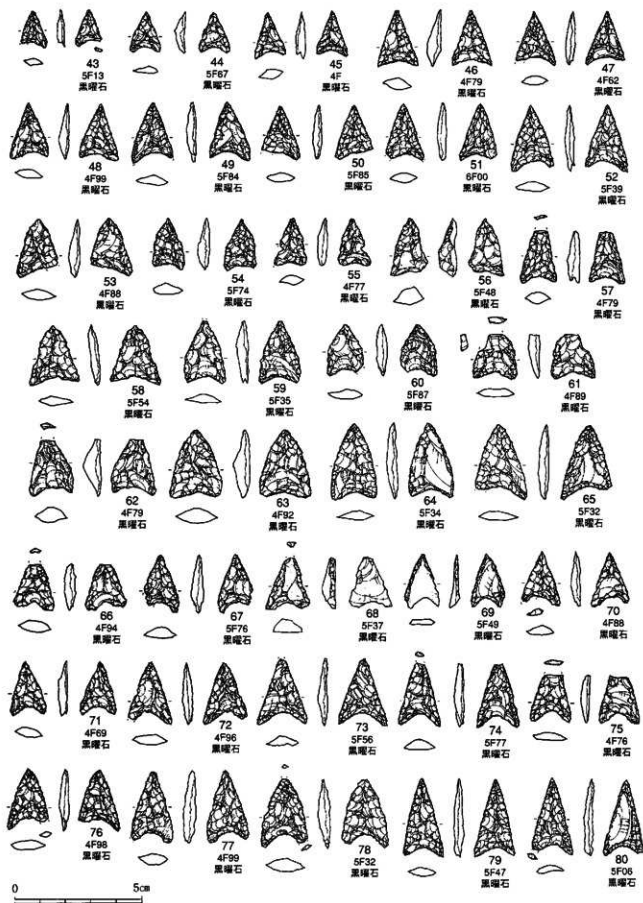
石 鏃 石鏃のように押圧剥離によって器体を整形したもの（177・178）、小型剥片の一端を尖らせただけのもの（179～184・189・190）、棒状もしくは縦長剥片を尖らせたもの（185～188）に大きく分けられる。石材は黒曜石でほとんど占められ、チャート・トトロ石・珪質頁岩・凝灰岩が僅かに用いられている。

掻器・削器 191は剥片剥離により、薄くなった石核を素材として円弧状を呈する刃部を設けた資料である。192は大型剥片の縁辺部の一部に、やはり円弧状を呈する刃部を設けた資料である。193は盤状の剥片の周縁に調整を加えて円形に整えた資料である。191・192は安山岩、193は粘板岩を用いている。

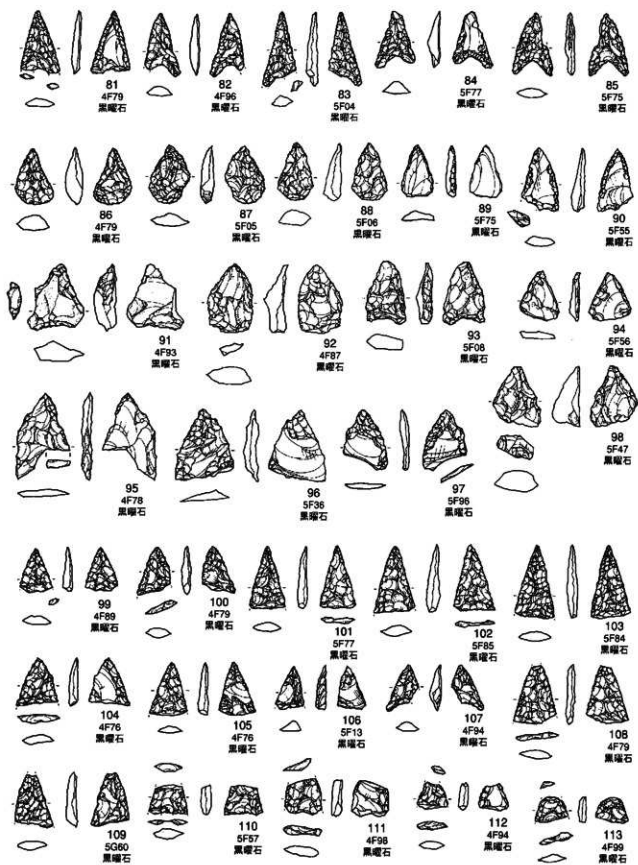
楔形石器 194～210は楔形石器である。200や201のように中型～大型のものが多量に出土したA・B群とは異なり、全体的に小型のものが主体を占める。石材は黒曜石（29点）、チャート（22点）、安山岩（12点）、流紋岩（10点）が用いられ、楔形石器における黒曜石の比率がA・B群と比較してかなり増大している点が目される。



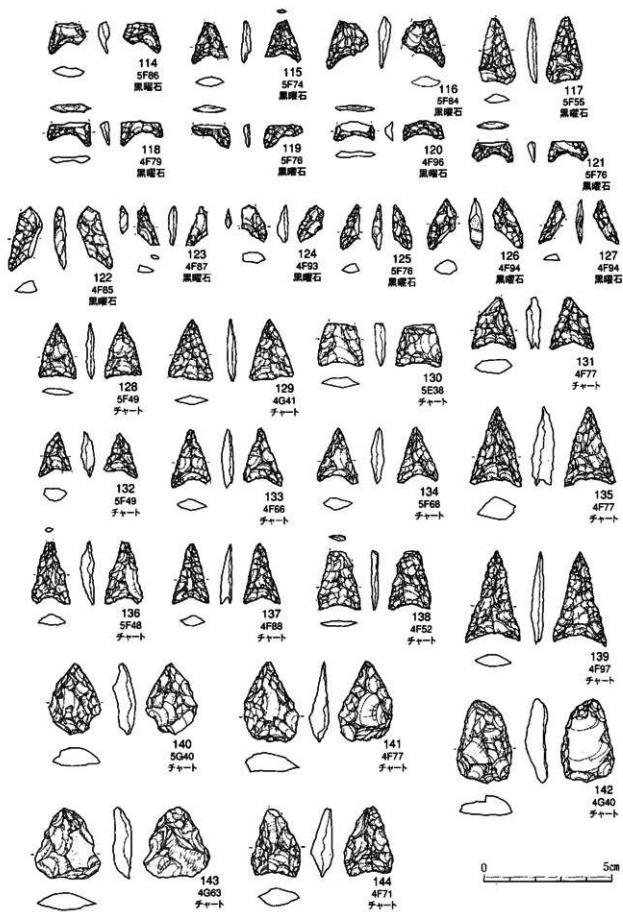
第236图 C群 出土石器(1)



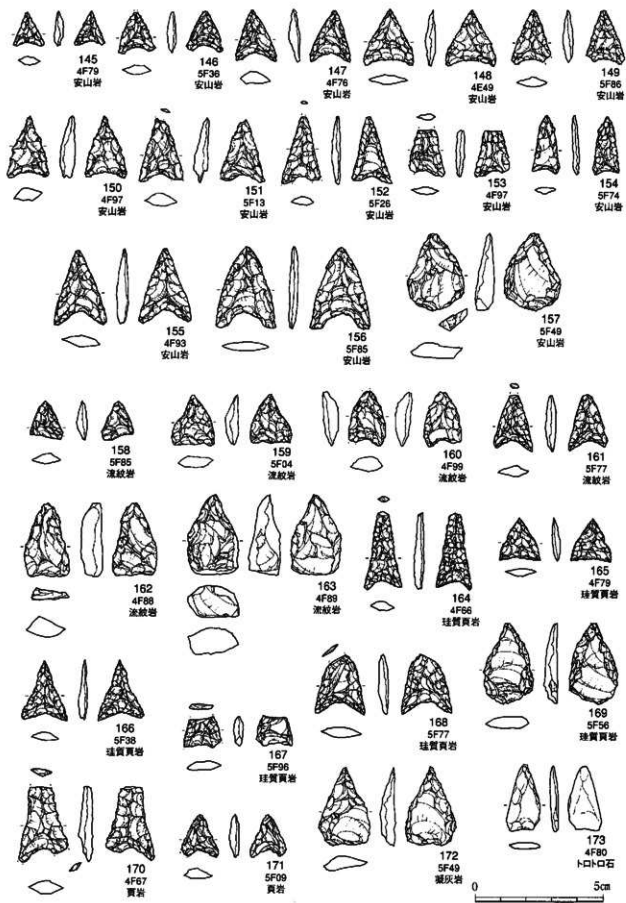
第237图 C群 出土石器(2)



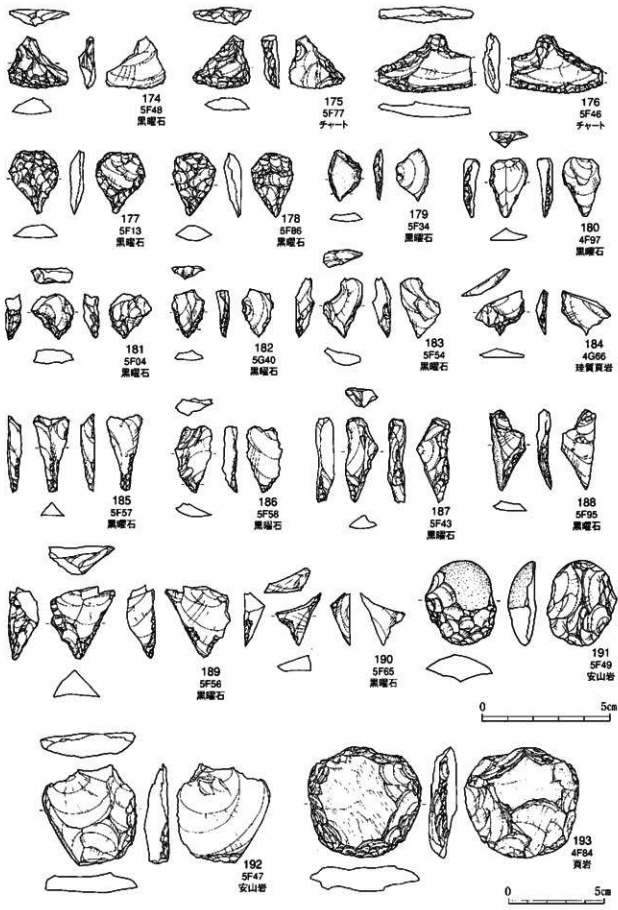
第238图 C群 出土石器(3)



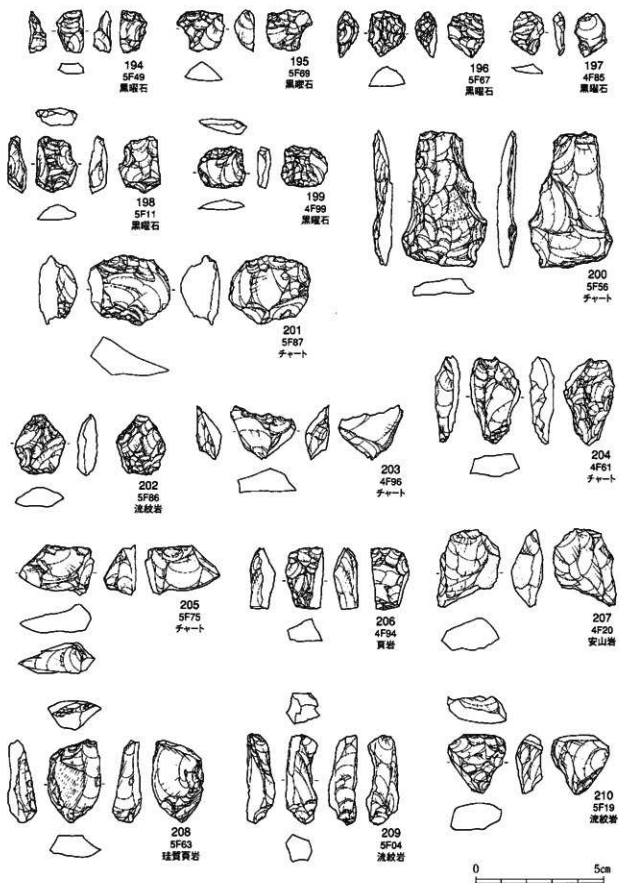
第239図 C群 出土石器(4)



第240图 C群 出土石器(5)



第241圖 C群 出土石器(6)



第242図 C群 出土石器(7)



微細剥離痕のある剥片 本群からは420点もの微細剥離痕のある剥片が出土したが、その一部を第243図211~222に掲載した。

石核 本群からは213点もの石核が出土したが、その内199点が黒曜石を用いたものである。

黒曜石製の石核は幾つかの残核形態に分離される。223~236は棒状を呈した原石もしくは分割礫を素材として短軸方向に剥片剥離が行われる資料である。打面は自然面もしくは単一剥離面のどちらかで、打面調整が施されることはほとんどない。自然面が残っているものが多い。237~247は作業面の正面形が縦横1:1に近いものであり、横長の前者とは残核形態が大きく異なる。打面はやはり単一剥離面もしくは礫面であることが多い。248~252・261は剥離面に覆われており自然面を残さない資料である。分割礫、分厚い剥片を素材としている。253~260は賽子状の角礫を用いてその一端から剥片剥離を開始させる資料で、打面は自然面をそのまま用いているものが多い。262・263は盤状の残核で、打面はやはり平坦剥離面から自然面をそのまま用いている。

黒曜石以外の石核を第248図272~278に掲載した。276・277はチャートの扁平礫を用いたもので、短軸方向に自然面を打面として剥片剥離が進行している。

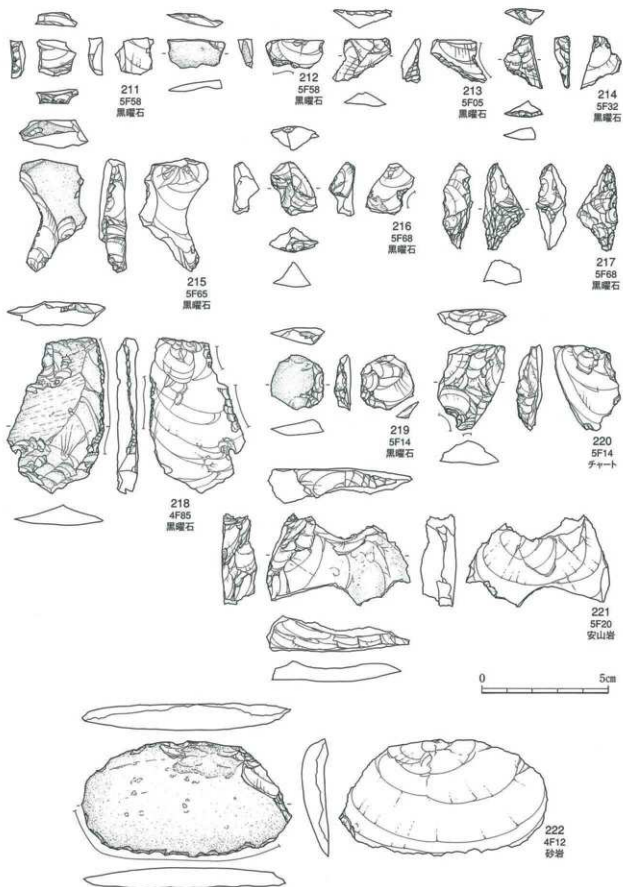
原石 黒曜石の原石を8点掲載した(264~271)。それぞれが、剥片剥離に用いられるために搬入されたものであろう。

石斧・礫器 279・280は盤状の扁平礫を素材としたもので周縁に調整を加え、整形している。280は刃部が研磨された刃部磨製石斧である。281は分割礫の分割面に調整が加えられたもので、礫器とした。

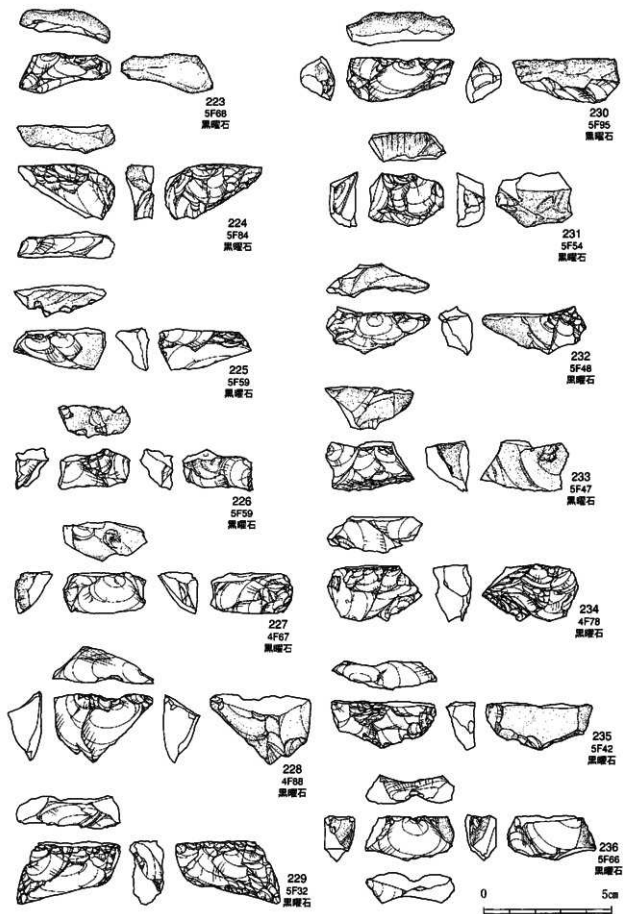
石皿、礫器、敲打痕・磨面付き礫(いわゆる敲打・磨石) 石皿1点、礫器1点、磨石3点、磨+周打2点、磨+平打1点、磨+端打1点、磨+平打+周打3点、平打3点、周打3点、端打1点、台石?4点が出土した(第49表)。

第43表 C群 石器組成表

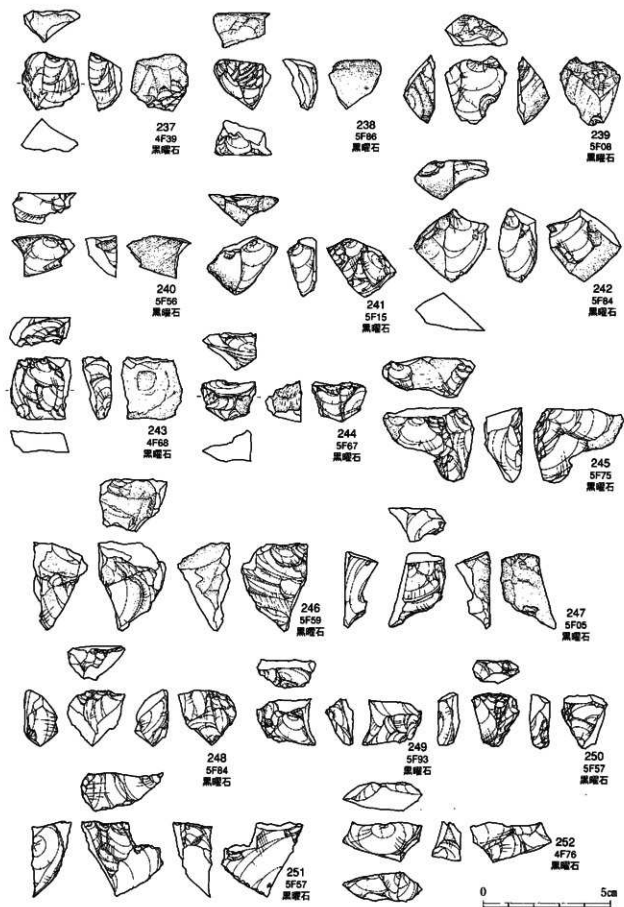
	石核	尖頭礫	楕形石 器	楕形石 器剥片	楕形 器	ドリル	石匙	石斧	磨製石 斧	微細剥 離痕の 剥片	剥片	砥石	石核	礫器	磨石	その他	合計	組成比
黒曜石	491	1	29	4	1	16	1			364	5273	199			3	4379	89.8	
414.41	2.43	67.86	6.14	0.91	27.67	2.12				696.87	4858.53	1112.93			177.41	7369.28	68.4	
チャート	50	1	22	1		1	2			24	194		4			289	4.1	
103.96	1.43	115.69	4.92			0.82	7.24			132.73	208.25		73.32			647.99	6.0	
安山岩	26		12	8	2					7	94	1				153	2.1	
42.72		111.98	39.54	43.71						56.62	291.26	58.99	295.42			850.24	7.9	
13		10	1							6	34					64	0.9	
27.96		38.53	2.80							49.95	94.09					212.46	2.0	
トロロ石	3					1				1	31					27	0.4	
4.02		6.33				1.06				2.98	138.42					152.89	1.4	
12		1				1				1		1				16	0.2	
33.33		1.41				1.02				2.10		13.07				37.83	0.4	
14.69		6.95				1.02				2.10		13.07				37.83	0.4	
2		1	1				1	3	1	1	1					12	0.2	
4.28		4.09	1.11			1.73		106.78	16.15	0.73	13.49	58.34				206.90	1.9	
3		3							3	3	1					12	0.2	
3.18		3.18							3	3	1					12	0.2	
2		2							1	4	2					9	0.1	
3		3							3	12.29	3.88					25.32	0.2	
3		3							3	12.29	3.88					25.32	0.2	
ホルンフェルス	20.63		4.40						23.72		3.09					51.84	0.5	
砂岩									4				1			6	0.1	
									64.08				103.74			46.85	2.0	
片岩									3.14							171.24	1.6	
片岩									3.14							171.24	1.6	
粘板岩			21.94						1							2	0.0	
			21.94						1							2	0.0	
石英									1				1			12.77	0.1	
									1				1			12.77	0.1	
オパール									2.83							2.83	0.0	
									2.83							2.83	0.0	
その他									1	148						150	2.1	
									1	148						150	2.1	
合計	598	2	81	13	4	20	3	2	107.48	3.95	533.15	2	213	1	3	3	5314	100.0
597.12	3.86	387.84	54.31	101.14	31.99	9.36	129.32	106.78	1072.64	6136.63	72.49	1534.82	103.74	177.41	217.39	40777.03	100.0	
組成比	8.4	0.0	1.1	0.2	0.1	0.3	0.0	0.0	5.9	88.8	0.0	3.0	0.0	0.1	0.0	100.0		
	5.9	0.0	3.6	0.5	0.9	0.3	0.1	1.2	1.0	10.8	95.9	0.7	14.2	1.0	1.6	2.0	100.0	



第243図 C群 出土石器(8)



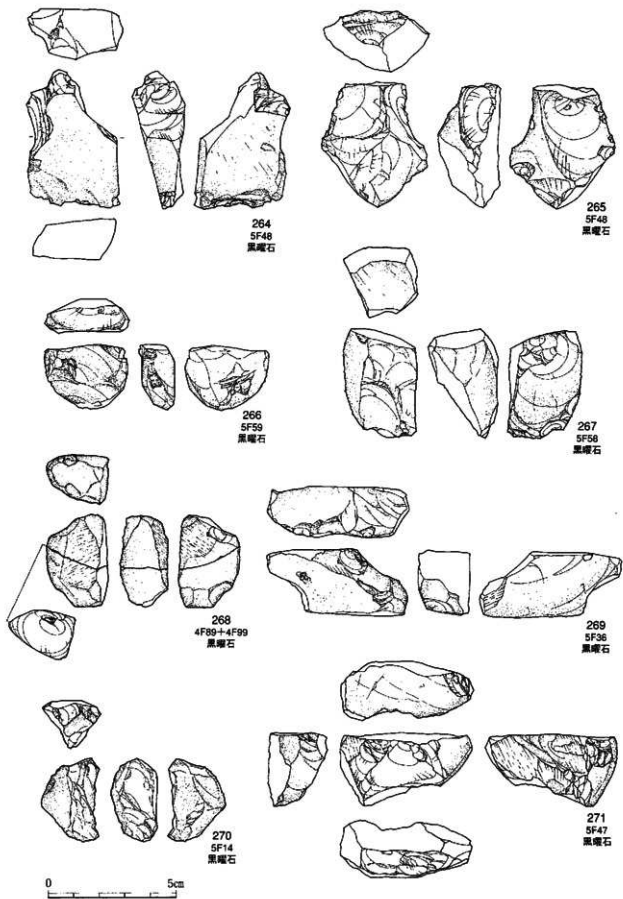
第244图 C群 出土石器(9)



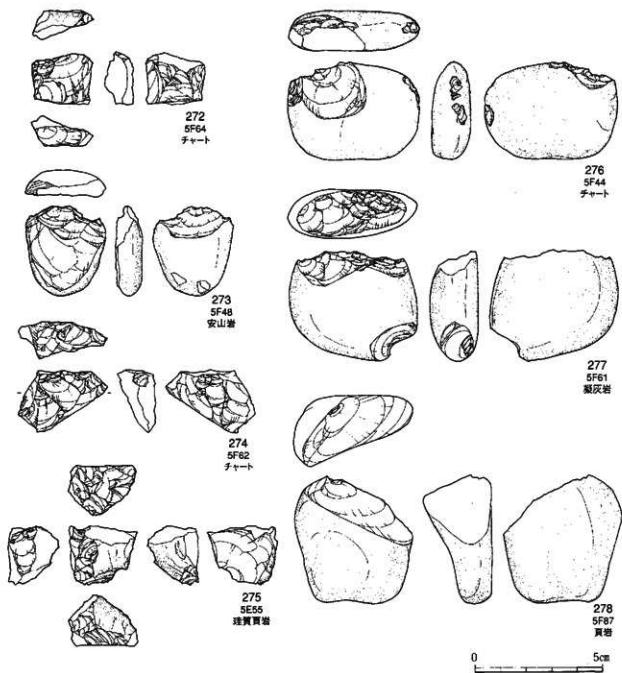
第245图 C群 出土石器 (10)



第246图 C群 出土石器 (11)



第247图 C群 出土石器(12)



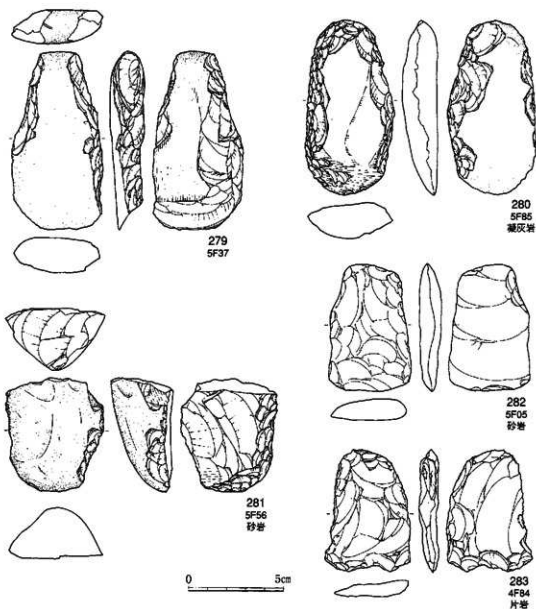
第248図 C群 出土石器 (13)

284は石皿片である。287・288はよく似た形態を呈した凹石で、周縁には敲打痕が残され、平坦面の中央付近に敲打による凹みが観察される。

D群 (第251図・第44・37表、図版62)

主な該当エリアは5H・6H・7H区で、石器出土グリッドが明瞭な集中域を形成せず、点在する状況である。本エリアからは時期決定が可能な土器の検出はほとんど無かった。

石鎌7点、剥片4点、石核2点の合計13点が出土した(第44表)。石鎌の石材構成はチャート4点(1・3・7・6)、黒曜石2点(2・5)、安山岩1点(4)で、石核にはチャート(8)とホルンフェ



第249図 C群 出土石器 (14)

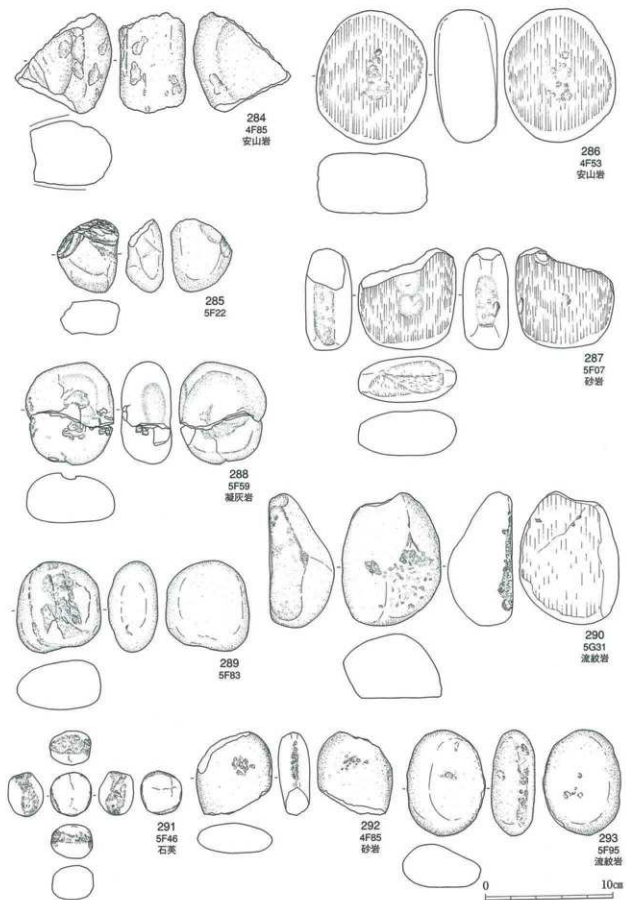
ルスが用いられている。石鎌の形態分類は1～3がI b類、4・5がI c類、6・7がII b類とした。石核は扁平の楕円礫を短軸方向に用いたもので、表面には礫面が大きく残っている。

#### E群 (第45表)

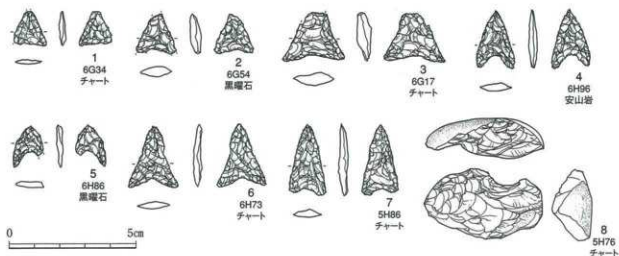
主な該当エリアは8I区で、ここもD区と同様に分布密度は低いエリアである。本エリアからは後期称名寺式土器が僅かに分布している。

石鎌1点、微細剥離痕のある剥片2点、剥片16点、石核1点の合計20点が出土した(第45表)が、図示すべき資料は見あたらなかった。石鎌は流紋岩、石核にはチャートが用いられている。剥片を含めた石材構成は、安山岩11点、チャート2点、珪質頁岩2点、トロトロ石2点、流紋岩1点、黒曜石1点となっている。





第250圖 C群 出土石器 (15)



第251図 D群出土石器

第44表 D群 石器組成表

	石種	割片	破石	石核	合計	組成比
チャート	4			1	5	33.7
	4.38			20.99	25.37	14.6
黒曜石	2	1		3	23.4	6.8
	1.08	0.32		1.40	6.8	
安山岩	1	1		2	14.3	2.3
	0.91	3.13		4.04	2.3	
ホルンフェルス				1	1	7.1
				31.77	31.77	18.3
凝灰岩			1	1	7.1	1.1
			102.54	1	102.54	59.0
メノウ		4.78		1	5.76	2.7
		4.78		1	5.76	2.7
その他	1			1	7.1	1.1
	3.9			3.99	3.3	
合計	7	4	1	2	14	100.0
	6.37	12.20	102.54	52.70	173.87	100.0
組成比	50.0	28.6	7.1	14.3	100.0	
	3.7	7.0	59.0	30.3	100.0	

第45表 E群 石器組成表

	石種	割片	破石	石核	合計	組成比
安山岩		11		11	119.44	74.3
		119.44		11	119.44	74.3
チャート		1	1	2	10.0	2.9
		5.92	12.70	16.87	11.6	
瑠璃頁岩	2			2	10.0	2.9
	3.21			2	10.0	2.9
トロロ石		14.18		14.18	8.8	2.5
流紋岩	1			1	5.0	1.4
	0.53			1	5.0	1.4
黒曜石		1.13		1.13	0.7	0.2
その他			1	1	5.0	1.4
			3.69	3.69	2.2	
合計	1	2	10	1	30	100.0
	0.53	3.21	144.26	12.70	160.85	100.0
組成比	5.0	10.0	80.0	5.0	100.0	
	0.3	2.0	89.7	7.0	100.0	

第46表 A～E群 石器組成表

	石種	尖頭器	割石 器	割石 器 割片	破石	削器	ドリル	匙	石舟	磨製石 舟	磨製石 舟の みじん割片	割片	破石	石核	原石	破器	その他	合計	組成比
黒曜石	534	2	39	4	1	1	18	1		394	539		398	8			637	77.2	
	443.94	2.84	100.46	6.14	0.91	20.01	27.47	3.12		774.53	4922.83		1170.77	202.90			7096.02	63.2	
チャート	187	1	191	40	1	1	2			76	422		15				917	10.8	
	280.79	1.43	1031.60	161.76	12.00	0.52	7.24			309.64	697.28		160.76				3573.00	15.2	
安山岩	61		65	36						21	315		1	15			416	6.1	
	100.54		572.00	297.64	43.71					116.20	1277.6		58.99	632.11			3018.94	17.3	
流紋岩	15		12	1						6	27						41	0.8	
	31.28		53.34	2.80						49.95	105.14		2				242.51	1.4	
トロロ石	5		11				1			1	42			2			62	0.7	
	5.99		66.80				1.80			2.88	207.50			99.07			342.66	2.0	
メノウ	2		2							3	17		3				27	0.3	
	3.18		4.79							36.99	73.00		42.74				160.73	0.9	
ホルンフェルス	8		4	1				4		8							27	0.3	
	34.21		33.61	1.18				266.60		108.68			24.86				478.14	2.8	
凝灰岩	5		4			1				3	4	1	4				25	0.3	
	4.82		22.90	13.14		1.73			207.24	21.60	0.73	191.32	58.34				823.47	2.1	
瑠璃頁岩	15		3							4			2				25	0.3	
	22.19		12.94			1.82				18.97			18.81				73.53	0.4	
頁岩	2		4	1						4			1				15	0.2	
	2.95		14.01	1.50	36.52				21.86	27.24			51.00				175.14	1.0	
砂岩	1		4.75						61.41	5			2	1		1	12	0.1	
										82.56			55.00	111.40		103.74	66.10	665.00	2.7
片岩	0.99									3.14							171.24	0.9	
石炭										2.06				2			31.80	0.2	
										2.06				31.80			33.86	0.2	
凝結岩	1		21.04							0.51							21.55	0.1	
										1							2	0.0	
オパール	1									2.93							5.43	0.0	
	2.50									2				1			223	2.6	
その他										190.99	94.30	2.90	770.37				998.27	5.8	
合計	821	3	328	89	4	2	30	3	8	4	531	6291	7	248	8	1	3	8668	100.0
	940.44	4.37	1942.57	419.68	101.14	32.01	31.99	9.38	586.86	361.49	1581.19	7919.24	305.31	2371.66	202.90	103.74	217.39	18968.34	100.0
組成比	9.7	0.0	2.8	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	3.5	75.5	6.1	2.9	0.1	0.0	0.0	100.0		
	5.5	0.0	11.3	2.5	0.6	0.2	0.2	0.1	3.0	1.8	9.2	46.2	1.8	14.0	1.2	0.6	1.3	100.0	

第47表 群別 剥片の大きさ頻度

	0-10	10-20	20-30	30-40	40-50	50-60	60-70	70-80	合計
A群	5	27	31	7	4	1	1	1	77
	6.5	35.1	40.3	9.1	5.2	1.3	1.3	1.3	190.0
B群	40	264	159	58	12	1	0	0	536
	7.5	49.3	29.7	11.0	2.2	0.2	0.0	0.0	100.8
C群	2228	2377	906	119	19	3	1	2	5766
	28.7	44.8	14.9	2.1	0.3	0.1	0.0	0.0	100.0
D群	0	1	2	1	0	0	0	0	4
	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
E群	1	4	4	0	1	1	0	0	16
	6.7	31.3	25.0	25.0	6.7	6.7	0.0	0.0	100.0
合計	2274	2974	1002	190	35	6	3	3	6367
	35.6	45.0	15.7	3.0	0.5	0.1	0.0	0.0	100.0

第48表 群別 礫石器の出土点数・重量

	石皿	片刃礫器	両刃礫器	磨石	磨十周打	磨十平打	磨十端打	磨十平打 十端打	平打	周打	端打	台石	鯨石	原石	礫石	その他	合計
(A+B)	1																481.94
A+B)	481.94							350.25									350.25
A	2			4	5	1		1	2	2		1			1		19
	1046.84			419.66	1613.78	369.95		191.43	380.35	254.74		479.65			194.61		4941.01
B	3	1	1	18	3	3		5	2	2	2	2	1	1			45
	791.70	251.03	365.97	3379.60	832.85	701.16		657.33	1053.12	711.27	683.72	528.77	21.17	573.22			10550.91
C	1	1		3	2	1	1	3	3	3	1	4				1	24
	372.60	121.34		680.89	450.45	872.31	191.16	1154.54	833.02	1095.28	270.10	4563.76					363.25
合計(点数)	7	2	1	25	10	5	1	8	10	7	3	7	1	1	1	1	90
合計(重量)	2993.08	372.37	365.97	4486.15	2897.08	1943.42	191.16	2333.55	2266.49	1971.29	953.82	5572.18	21.17	573.22	194.61	363.25	27182.81

第49表 礫石器 組成表 (A~C群)

	石皿	片刃礫器	両刃礫器	磨石	磨十周打	磨十端打	磨十平打	磨十平打 十端打	平打	周打	端打	台石	鯨石	原石	礫石	その他	合計
砂岩	1		1	16	3	1	3	3	2	2	2	2			1	1	38
	477.29		365.97	2885.97	701.47	191.16	701.16	939.64	368.54	711.27	545.31	1316.29			194.61	363.25	9751.53
安山岩	0	1		2	2		1	2	2						1		17
	2215.79	251.03		466.11	684.08		872.31	382.68	416.25						573.22		5655.47
花崗岩				2	3				1			2					8
				373.92	965.05				303.81			897.12					2541.9
流紋岩				1	2					3	1						7
				258.69	746.48				1151.91	408.31							2563.69
閃綠岩				1				2									3
				128.03				689.92									809.95
凝灰岩				1					1								2
				156.71					290.87								541.58
珪質頁岩				84.68													84.68
礫石													1				1
													21.17				21.17
石英									1								1
									53.36								53.36
その他		1		1			1	1	4			3					12
		121.34		146.24			369.95	321.31	787.02	94.75		3358.77					5159.38
合計(点数)	7	2	1	25	10	1	5	8	10	7	3	7	1	1	1	1	90
合計(重量)	2993.08	372.37	365.97	4486.15	2897.08	191.16	1943.42	2333.55	2266.49	1971.29	953.82	5572.18	21.17	573.22	194.61	363.25	27182.81

第50表 群別 礫・礫片の  
出土点数・重量

	礫・礫片
	266
A	14775.85
B	818
	29795.15
	676
C	32408.11
D	10
	768.89
E	11
	519.25

第51表 群別 石礫形態組成表

	Ia	Ib	Ic	IIa	IIb	IIc	IIIa	IIIb	IIIc	IV	総計
A	3	6	8	1	10	4					32
B	2	16	7	8	69	15		2		6	125
C	6	33	17	12	113	57		8	5	11	262
D		3	2		2						7
総計	11	58	34	21	194	76	0	10	5	17	426

第52表 石材別 石礫形態組成表

A~D群	Ia	Ib	Ic	IIa	IIb	IIc	IIIa	IIIb	IIIc	IV	総計
黒曜石	6	31	19	9	78	55		8	1	4	223
チャート	2	17	10	10	71	13					125
安山岩	2	7	1	1	28	6	1				46
珪質頁岩		1	2		6	1					11
流紋岩	1	1		1	4						7
ホルンフェルス			1		2					2	5
トロトロ石		1			2						3
メノウ					2						2
頁岩			1			1					2
凝灰岩						1					1
片岩					1						1
総計	11	58	34	21	194	76	2	8	1	4	426

A群	Ia	Ib	Ic	IIa	IIb	IIc	総計
チャート	1	5	6	1	4	3	20
ホルンフェルス			1				1
安山岩	1	1			5		7
黒曜石	1		1		1	4	32
総計	3	6	8	1	10	4	42

B群	Ia	Ib	Ic	IIa	IIb	IIc	IIIa	IIIb	IIIc	IV	総計
チャート	1	9	4	7	46	9				1	77
ホルンフェルス					1					2	3
安山岩		2		1	11	2	1				17
凝灰岩								1			1
珪質頁岩					1						2
黒曜石	1	5	3		9	4				2	24
片岩					1						1
総計	2	16	7	8	69	15	2	6		125	

C群	Ia	Ib	Ic	IIa	IIb	IIc	IIIa	IIIb	IIIc	IV	総計
チャート		1		2	19	1			1		24
トロトロ石		1		2							3
ホルンフェルス				1							1
メノウ				2							2
安山岩	1	4			12	4					21
珪質頁岩		1	2		5	1					9
黒曜石	4	25	14	9	68	50	8	5	10		193
頁岩			1			1					2
流紋岩	1	1		1	4						7
総計	6	33	17	12	113	57	8	5	11		262

D群	Ib	Ic	IIb	総計
チャート	2		2	4
安山岩		1		1
黒曜石	1	1		2
総計	3	2	2	7

第53表 群別 石礫折面状況

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	総計
A		5	6	1	1	5	1				1		15	1		1	37
B		11	23	10	20	30	1						68	3		5	179
C	19	86	72	69	50	67	12	16	6	18	18	4	108	3	3	29	580
D		1	1	2		1							3				8
E				1													1
総計	19	105	103	85	71	106	14	16	6	20	24	5	196	7	3	35	815

第54表 A群 石器一覽表

順 号	発 見 地 点	遺 物 名 称	器 種	石 材	最大 長さ (mm)	最大 幅 (mm)	最大 厚 (mm)	重量 (g)	備 考
1	1821	石鏃	チャート	19.8 16.4 6.1	1.56				
2	1848	石鏃	輝綠石	19.6 16.6 2.7	6.66				
3	1891	石鏃	チャート	21.1 17.1 4.5	1.84				多量産
4	1902	石鏃	チャート	21.9 18.1 6.4	2.16				
5	2070	石鏃	チャート	17.0 13.4 5.7	7.1				
6	2221	石鏃	チャート	21.7 16.7 5.7	1.29				
7	2266	石鏃	チャート	21.2 17.2 4.8	1.42				
8	2286	石鏃	チャート	18.8 15.8 4.4	6.54				
9	2305	石鏃	チャート	24.3 20.6 5.3	1.73				
10	2327	石鏃	チャート	22.1 19.4 1.7	1.27				
11	2341	石鏃	チャート	24.7 22.2 5.3	1.84				
12	2364	石鏃	チャート	18.7 15.9 3.8	6.70				
13	2369	石鏃	ホルンフェルス	19.2 14.8 3.9	0.83				
14	2394	石鏃	チャート	18.9 15.0 4.0	6.84				
15	2378	石鏃	チャート	21.6 16.3 2.6	6.79				
16	2417	石鏃	チャート	21.1 15.1 2.9	6.65				
17	2418	石鏃	チャート	20.8 13.2 4.1	6.80				
18	2228	石鏃	チャート	23.1 13.0 4.3	1.23				
19	2276	石鏃	チャート	36.6 16.2 3.3	1.68				
20	2299	石鏃	輝綠石	27.2 16.2 3.9	1.46				
21	2398	石鏃	安山岩	25.5 13.6 4.7	1.23				
22	1171	石鏃	輝綠石	22.8 14.5 4.5	1.19				
23	2214	石鏃	チャート	20.2 12.0 3.9	1.82				
24	2248	石鏃	輝綠石	49.2 40.6 18.2	5.82				
25	2231	石鏃	砂	13.0 8.2 6.9	45.3				
26	2108	石鏃	ホルンフェルス	17.7 12.3 10.5	50.7				
27	1870	石鏃	輝綠石	26.5 20.7 7.1	4.41				
28	2205	石鏃	チャート	21.1 14.1 3.9	1.50				
29	2183	石鏃	チャート	22.0 16.1 8.2	4.12				
30	2217	石鏃	チャート	24.4 17.6 6.6	2.11				
31	2105	石鏃	チャート	27.6 24.7 8.9	7.61				
32	2228	石鏃	チャート	31.1 14.1 9.1	4.26				
33	2281	石鏃	チャート	31.5 22.4 8.4	7.02				
34	2212	石鏃	輝綠石	28.7 26.9 11.9	4.66				
35	2108	石鏃	輝綠石	41.2 23.2 9.7	9.06				
36	2214	石鏃	輝綠石	41.1 25.2 9.4	11.1				
37	2214	石鏃	輝綠石	47.1 40.6 35.9	19.85				
38	1871	石鏃	安山岩	18.4 20.3 24.4	17.59				
39	2294	石鏃	輝綠石	16.8 62.0 22.1	111.49				
40	2284	石鏃	輝綠石	22.0 23.2 19.7	23.49				
41	1876	石鏃	輝綠石	18.8 40.2 19.4	58.62				
42	2297	石鏃	砂	112.9 77.9 54.2	477.29				
43	2229	磨石	輝綠石	106.1 60.6 35.8	363.91				
44	2289	磨石	安山岩	76.1 51.3 42.4	210.85				
45	2238	磨石	輝綠石	104.7 71.8 37.1	382.17				
46	2225	磨石	輝綠石	67.1 74.7 35.8	265.26				
47	2217	磨石	輝綠石	55.7 74.0 51.5	341.26				
48	1871	磨石	安山岩	80.9 70.0 39.2	321.80				
49	2228	磨石	輝綠石	68.7 65.7 49.7	292.29				

第55表 B群 石器一覽表

順 号	発 見 地 点	遺 物 名 称	器 種	石 材	最大 長さ (mm)	最大 幅 (mm)	最大 厚 (mm)	重量 (g)	備 考
1	4279	石鏃	チャート	13.8 12.8 5.0	6.72				
2	4440	石鏃	輝綠石	13.5 11.1 2.4	6.29				
3	5036	石鏃	チャート	12.5 14.1 1.9	6.32				
4	4252	石鏃	チャート	15.3 14.3 3.5	6.84				
5	5017	石鏃	チャート	15.0 14.0 4.2	4.75				
6	4242	石鏃	チャート	17.2 16.0 3.1	6.12				
7	4220	石鏃	チャート	19.9 16.2 6.2	13.86				
8	4614	石鏃	輝綠石	17.2 15.4 4.7	1.04				
9	5030	石鏃	輝綠石	16.1 14.6 4.6	6.76				
10	4931	石鏃	チャート	15.4 14.6 2.1	6.37				
11	3822	石鏃	チャート	14.2 17.5 4.8	1.19				
12	5047	石鏃	輝綠石	12.7 11.3 3.8	9.42				
13	4028	石鏃	チャート	14.8 14.2 2.8	8.45				
14	4857	石鏃	チャート	18.8 16.6 4.4	1.18				
15	3146	石鏃	輝綠石	18.0 17.5 4.8	1.01				
16	4921	石鏃	チャート	15.0 12.2 3.5	9.52				
17	4821	石鏃	輝綠石	18.8 16.3 4.5	0.93				
18	4943	石鏃	輝綠石	18.6 11.5 4.2	0.56				
19	4227	石鏃	チャート	22.6 18.3 3.5	6.26				
20	5067	石鏃	チャート	21.7 14.6 5.1	1.20				
21	5009	石鏃	チャート	19.2 13.7 4.4	0.94				
22	3822	石鏃	チャート	18.1 13.3 2.6	6.67				
23	1811	石鏃	チャート	20.2 16.3 5.3	1.26				
24	4663	石鏃	チャート	18.9 14.3 5.0	1.81				
25	4872	石鏃	チャート	19.2 14.6 4.2	6.97				
26	5026	石鏃	チャート	24.4 17.3 3.9	1.41				
27	5035	石鏃	チャート	22.5 12.8 5.2	6.81				
28	3929	石鏃	チャート	21.7 15.2 4.2	1.94				
29	4216	石鏃	チャート	22.6 15.7 4.2	1.30				
30	4266	石鏃	チャート	23.9 17.2 3.2	1.72				
31	4850	石鏃	チャート	22.7 15.6 6.8	1.14				
32	5035	石鏃	チャート	20.2 16.3 4.2	1.22				
33	5037	石鏃	チャート	22.1 15.4 4.8	1.38				
34	5026	石鏃	チャート	25.3 19.3 3.8	1.05				
35	4821	石鏃	チャート	22.6 16.1 7.2	2.41				
36	4826	石鏃	チャート	22.7 16.2 5.2	0.95				
37	4952	石鏃	チャート	18.8 14.6 4.7	1.19				
38	5018	石鏃	チャート	18.7 12.6 3.7	6.84				
39	5068	石鏃	チャート	27.6 15.1 5.8	1.57				
40	5025	石鏃	チャート	21.9 16.6 6.0	2.50				

順 号	発 見 地 点	遺 物 名 称	器 種	石 材	最大 長さ (mm)	最大 幅 (mm)	最大 厚 (mm)	重量 (g)	備 考
41	4551	石鏃	輝綠石	23.4 14.2 4.7	1.56				
42	4774	石鏃	輝綠石	21.1 16.0 4.2	1.97				
43	4811	石鏃	輝綠石	23.5 14.7 4.3	1.28				
44	4841	石鏃	輝綠石	20.2 13.6 3.4	1.88				カゴシ
45	4746	石鏃	輝綠石	18.2 16.5 4.4	1.39				
46	4836	石鏃	輝綠石	23.8 16.1 5.4	1.69				
47	4842	石鏃	輝綠石	23.5 13.8 4.3	1.87				
48	4838	石鏃	輝綠石	17.1 13.0 5.6	6.75				
49	5029	石鏃	輝綠石	24.2 16.0 4.3	1.22				
50	4822	石鏃	輝綠石	29.7 17.4 3.9	1.71				
51	4821	石鏃	チャート	25.9 16.1 3.8	1.54				
52	4923	石鏃	チャート	19.6 12.3 3.8	6.94				
53	4882	石鏃	輝綠石	13.8 19.3 3.0	6.30				
54	3083	石鏃	輝綠石	19.3 12.0 2.0	6.46				
55	5017	石鏃	輝綠石	23.7 14.2 2.3	3.96				
56	3029	石鏃	安山岩	18.9 19.1 3.3	0.94				
57	4740	石鏃	チャート	19.9 12.6 3.8	8.44				
58	5008	石鏃	チャート	29.7 17.3 3.9					
59	1016	石鏃	輝綠石	25.0 13.9 4.1	0.71				
60	3029	石鏃	安山岩	24.4 17.4 4.4	1.31				
61	4781	石鏃	チャート	27.8 21.7 5.0	2.29				
62	3234	石鏃	輝綠石	32.2 20.0 5.3	8.42				
63	4862	石鏃	輝綠石	24.9 19.8 2.2	0.81				
64	4826	石鏃	輝綠石	23.5 14.7 4.3	1.61				多量産
65	4950	石鏃	チャート	23.1 12.9 4.1	2.53				多量産
66	4897	石鏃	チャート	34.0 25.8 10.8	7.40				多量産
67	4937	石鏃	チャート	36.8 24.5 9.6	7.42				多量産
68	3029	石鏃	安山岩	25.9 17.2 4.6	1.88				
69	5227	石鏃	輝綠石	29.7 19.2 4.5	3.47				
70	5041	石鏃	ホルンフェルス	25.0 17.5 5.5	2.27				
71	4841	石鏃	ホルンフェルス	28.4 20.1 7.4	3.81				
72	4840	石鏃	チャート	19.0 12.9 3.0	2.81				
73	4870	石鏃	チャート	25.9 17.2 4.6	1.88				
74	4739	石鏃	チャート	16.9 20.2 5.1	1.87				
75	4840	石鏃	チャート	17.3 24.3 3.4	2.48				
76	4898	石鏃	輝綠石	22.7 18.8 5.1	2.63				
77	4871	石鏃	輝綠石	20.1 19.4 4.2	1.80				
78	4843	石鏃	チャート	20.8 17.3 6.3	3.83				
79	5018	石鏃	チャート	35.0 17.5 6.3	3.95				
80	4886	石鏃	輝綠石	16.5 27.7 6.4	2.60				
81	4826	石鏃	輝綠石	21.4 20.4 4.9	6.84				
82	3077	石鏃	輝綠石	20.4 21.6 3.5	3.63				
83	5027	石鏃	チャート	30.8 31.5 6.5	2.69				
84	5017	石鏃	チャート	26.0 25.4 11.1	7.82				
85	4876	石鏃	チャート	26.1 26.7 11.1	7.61				
86	4816	石鏃	チャート	25.2 22.7 8.6	2.69				
87	5056	石鏃	チャート	20.1 20.9 10.3	5.21				
88	3087	石鏃	輝綠石	34.4 21.0 10.7	6.94				
89	4826	石鏃	輝綠石	45.1 22.7 10.4	14.62				
90	5021	石鏃	チャート	33.4 16.6 3.4	3.45				
91	4838	石鏃	チャート	31.3 27.0 8.0	5.48				
92	5026	石鏃	チャート	24.1 19.0 10.3	5.62				
93	4826	石鏃	輝綠石	16.5 28.6 9.1	4.43				
94	4742	石鏃	チャート	21.4 17.2 4.6	2.71				
95	5018	石鏃	チャート	18.8 18.6 5.4	2.85				
96	4122	石鏃	チャート	26.5 24.4 8.4	5.19				
97	5029	石鏃	輝綠石	23.8 19.1 8.6	3.42				
98	4742	石鏃	輝綠石	19.0 20.6 5.5	2.61				
99	4254	石鏃	輝綠石						

採 場	産 出 地	産 種	石 種	最大 長 [mm]	最大 幅 [mm]	単位 [g]	備考
137	3641	2	石綿	26.1	38.8	10.9	5.63
138	4800	2	石綿	22.4	39.8	29.2	6.68
139	4800	2	石綿	31.9	34.7	28.1	30.51
140	3278	2	石綿	49.6	48.8	44.3	257.80
141	3269	2	石綿	100.8	85.1	11.1	277.14 (142集合)
142	3269	2	石綿	99.1	96.3	14.4	483.38
143	3269	2	石綿	82.7	86.8	32.6	178.00 (142集合)
144	3267	2	石綿	80.0	83.2	38.3	281.00
145	3267	2	石綿	116.9	101.7	25.2	308.37
146	4206	2	石綿	104.4	104.2	10.4	266.80
147	3058	1	石綿	72.1	67.7	41.4	204.80
149	3072	1	石綿	66.1	72.6	19.9	49.42
149	3072	1	石綿	71.3	82.5	31.2	241.66
150	3038	2	石綿	102.9	102.6	13.8	408.94
151	3058	2	石綿	36.7	71.7	34.1	136.14 (両石)
152	4908	2	石綿	14.7	63.2	139.9	179.58 (両石)
153	4906	2	石綿	30.7	53.6	36.6	323.18
154	3038	2	石綿	105.4	74.8	35.8	618.04 (両石)
158	3038	2	石綿	76.8	66.2	33.7	205.40
159	4908	2	石綿	69.9	39.8	36.4	104.92
157	2193	2	石綿	74.3	65.2	35.8	109.96
168	3038	2	石綿	66.2	54.1	41.3	270.27
159	3038	2	石綿	124.8	86.9	36.0	671.92
160	4908	2	石綿	102.9	56.7	42.7	448.39
161	4224	2	石綿	103.4	66.2	43.8	403.23
162	4804	2	石綿	87.2	83.3	56.6	573.22
163	4804	2	石綿	74.7	36.1	49.8	350.26
164	4269	2	石綿	85.1	47.4	49.8	278.21

第56表 C群 石器一覽表

採 場	産 出 地	産 種	石 種	最大 長 [mm]	最大 幅 [mm]	単位 [g]	備考
1	3608	2	石綿	10.7	14.3	4.8	0.43
2	4906	2	石綿	11.1	13.3	2.9	0.29
3	3941	2	石綿	13.7	16.7	3.8	0.69
4	4907	2	石綿	12.2	14.2	2.8	0.35
5	4907	2	石綿	11.2	12.2	3.8	0.36
6	4907	2	石綿	13.3	15.2	3.6	0.40
7	3936	2	石綿	17.3	21.8	4.2	1.07
8	4907	2	石綿	11.3	17.3	3.1	0.52
9	4976	2	石綿	11.9	12.6	4.0	4.51
10	4974	2	石綿	13.6	12.8	3.5	0.43
11	4966	2	石綿	13.5	14.3	3.8	0.38
12	4980	2	石綿	10.6	12.9	2.1	0.36
13	4942	2	石綿	11.4	14.9	4.3	0.47
14	4949	2	石綿	18.2	17.1	4.2	0.87
15	4936	2	石綿	18.4	19.1	5.0	0.81
16	4959	2	石綿	17.9	16.9	3.9	0.86
17	4986	2	石綿	18.0	16.2	4.1	1.17
18	4936	2	石綿	18.8	15.8	6.1	1.31 (未測定)
19	4903	2	石綿	11.7	11.0	2.0	0.27
20	3628	2	石綿	14.4	14.1	4.8	0.60
21	4974	2	石綿	18.9	18.3	6.1	0.99
22	4956	2	石綿	21.6	18.4	4.8	1.19
23	4976	2	石綿	18.4	15.8	3.7	0.88
24	4977	2	石綿	13.6	15.1	4.1	0.65
25	4984	2	石綿	20.0	18.0	3.4	0.79
26	4976	2	石綿	22.6	15.4	4.9	0.94 (少部割れ)
27	4947	2	石綿	23.7	19.2	4.6	1.09
28	4944	2	石綿	14.0	13.3	14.8	1.07
29	4976	2	石綿	17.8	12.6	4.6	0.76
30	4975	2	石綿	19.0	13.9	6.0	1.16
31	4948	2	石綿	20.9	18.1	4.6	1.28
32	4966	2	石綿	20.8	14.5	8.6	1.31
33	4987	2	石綿	18.2	13.3	4.1	0.96
34	4976	2	石綿	21.1	16.6	3.5	1.70 (基部割れ)
35	4987	2	石綿	21.5	15.4	4.5	1.13
36	4936	2	石綿	20.9	16.7	9.6	2.20
37	4976	2	石綿	18.0	14.6	4.8	0.80
38	4926	2	石綿	17.9	13.9	3.6	0.60
39	4946	2	石綿	18.1	10.6	3.8	0.63
40	4976	2	石綿	26.1	14.7	3.8	1.24
41	4987	2	石綿	17.0	16.9	3.8	0.88
42	4943	2	石綿	17.7	12.1	3.9	0.47
43	4913	2	石綿	14.8	10.8	3.3	0.33
44	4962	2	石綿	14.9	11.9	4.2	0.45
45	4977	2	石綿	17.9	12.7	4.2	0.60
46	4979	2	石綿	21.9	13.5	5.0	0.94
47	4962	2	石綿	18.1	15.7	4.0	0.82
48	4979	2	石綿	24.1	15.4	5.2	0.96
49	4984	2	石綿	22.8	14.2	3.8	0.87
50	4963	2	石綿	22.6	14.3	4.0	0.81
51	4981	1	石綿	20.5	14.0	3.0	0.81
52	4929	2	石綿	24.4	16.3	3.26	1.07
53	4981	2	石綿	21.3	15.3	4.1	0.99
54	4974	2	石綿	30.1	12.7	4.0	2.03
55	4977	2	石綿	17.9	12.5	4.0	0.69
56	4979	2	石綿	22.3	14.9	6.8	1.64 (未測定)
57	4979	2	石綿	28.0	14.2	4.6	0.88
58	4974	2	石綿	33.1	16.8	4.1	1.22
59	4936	2	石綿	24.3	16.1	4.9	1.38
60	4979	2	石綿	25.9	14.9	4.5	0.88
61	4981	2	石綿	17.3	16.8	4.2	1.11
62	4977	2	石綿	21.3	17.3	7.6	1.93
63	4922	2	石綿	36.4	23.2	6.7	2.54

採 場	産 出 地	産 種	石 種	最大 長 [mm]	最大 幅 [mm]	単位 [g]	備考
64	3634	2	石綿	29.6	17.1	4.1	1.76
65	4976	2	石綿	22.8	15.0	4.6	0.87
66	4974	2	石綿	17.9	6.4	4.8	0.94
67	4976	2	石綿	22.9	13.1	4.4	0.94
68	4977	2	石綿	30.2	14.9	3.6	1.27
69	4976	2	石綿	11.1	11.2	3.6	0.37
70	4938	2	石綿	26.9	14.7	4.1	0.77
71	4969	2	石綿	30.8	16.4	3.8	0.88
72	4949	2	石綿	24.1	17.0	4.0	1.06
73	4949	2	石綿	22.4	18.5	3.4	1.17
74	4977	2	石綿	24.8	16.2	4.0	1.08
75	4976	2	石綿	18.1	15.7	3.3	0.84
76	4998	2	石綿	23.8	16.5	3.6	0.99
77	4969	2	石綿	26.8	13.8	3.9	1.26 (割れ)
78	4932	2	石綿	36.8	18.8	3.8	1.81
79	4947	2	石綿	31.2	16.2	4.1	1.38
80	4976	2	石綿	30.0	15.8	3.5	1.05
81	4979	2	石綿	34.8	15.1	3.4	0.97
82	4966	2	石綿	24.1	13.9	3.7	0.75
83	4947	2	石綿	28.5	13.3	4.2	0.99
84	4977	2	石綿	22.4	16.9	5.6	0.85
85	4975	2	石綿	24.0	13.8	3.8	0.85
86	4979	2	石綿	22.0	14.5	4.3	1.00
87	4905	2	石綿	42.8	19.7	5.9	1.27
88	4979	2	石綿	22.8	16.2	4.7	0.87 (未測定)
89	4975	2	石綿	28.7	12.5	4.1	0.94
90	4935	2	石綿	35.8	14.9	4.9	1.36
91	4953	2	石綿	24.1	22.0	3.8	2.04 (未測定)
92	4937	2	石綿	26.7	14.7	4.7	1.20 (未測定)
93	4968	2	石綿	24.9	16.0	3.7	1.21 (未測定)
94	4976	2	石綿	18.4	6.1	3.6	0.92 (未測定)
95	4976	2	石綿	34.2	21.9	3.8	1.93
96	4976	2	石綿	27.1	16.2	3.8	1.43 (未測定)
97	4976	2	石綿	24.1	17.3	3.5	1.01
98	4947	2	石綿	19.0	19.0	9.39	3.27 (未測定)
99	4989	2	石綿	17.0	12.6	3.4	0.65
100	4979	2	石綿	18.8	16.7	2.8	0.87
101	4977	2	石綿	24.3	12.3	4.2	0.96
102	4982	2	石綿	26.3	15.7	5.8	1.44
103	4984	2	石綿	28.4	15.3	4.1	1.30
104	4976	2	石綿	19.0	16.7	2.8	0.87
105	4976	2	石綿	20.2	14.4	3.8	0.81
106	4976	2	石綿	17.0	13.6	4.3	0.90
107	4974	2	石綿	17.4	11.6	4.2	0.55
108	4979	2	石綿	23.1	16.7	2.8	0.87
109	5020	2	石綿	30.8	14.8	1.6	1.01
110	4987	2	石綿	11.2	14.8	3.8	0.68
111	4989	2	石綿	14.2	18.1	4.9	0.92
112	4994	2	石綿	18.2	16.2	4.8	0.42
113	4999	2	石綿	8.9	13.3	1.9	0.48
114	4986	2	石綿	11.3	14.5	4.1	0.55
115	4974	2	石綿	16.2	13.5	2.6	0.54
116	4974	2	石綿	18.2	14.5	1.9	0.57
117	4935	2	石綿	26.4	14.2	4.1	1.21
118	4975	2	石綿	8.9	16.7	2.4	0.36
119	4973	2	石綿	8.4	15.9	2.8	0.24
120	4986	2	石綿	7.3	16.5	2.7	0.26
121	4976	2	石綿	8.1	15.8	2.8	0.27
122	4985	2	石綿	25.2	15.5	4.8	0.92
123	4987	2	石綿	18.2	7.4	2.9	0.27
124	4993	2	石綿	15.2	6.8	3.6	0.30
125	4972	2	石綿	16.7	6.9	2.5	0.28
126	4984	2	石綿	19.1	11.6	5.6	0.80
127	4984	2	石綿	17.3	7.9	2.8	0.26
128	4974	2	石綿	21.4	14.8	2.7	0.94
129	4941	2	石綿	25.8	16.7	4.1	1.17
130	5028	2	石綿	14.6	17.8	4.6	1.31
131	4977	2	石綿	26.1	17.1	5.9	0.99
132	4949	2	石綿	17.6	16.2	4.6	0.93
133	4966	2	石綿	22.3	15.3	4.2	1.04
134	4976	2	石綿	21.5	16.4	5.0	1.13
135	4977	2	石綿	24.0	20.9	9.5	4.08
136	4976	2	石綿	22.8	14.6	3.9	1.35 (割れ)
137	4989	2	石綿	23.9	14.4	4.8	0.80
138	4982	2	石綿	23.2	16.7	3.4	1.34
139	4973	2	石綿	35.5	11.3	5.1	2.19
140	4976	2	石綿	27.6	16.8	7.4	3.24 (未測定)
141	4975	2	石綿	28.8	18.8	3.8	2.81 (割れ) (未測定)
142	4976						

種別	アブラ	動物番号	器種	心材	最大径 [mm]	最大厚 [mm]	最大容積 [dm <sup>3</sup> ]	備考	
160	4799	2	石鏡	黒鏡石	20.3	14.1	4.9	1.30	
161	4777	2	石鏡	黒鏡石	21.3	15.2	6.2	1.64	
162	4798	2	石鏡	黒鏡石	20.6	12.8	6.7	3.00	
163	4789	2	石鏡	黒鏡石	21.2	21.0	12.0	7.00	赤木高島
164	4795	2	石鏡	黒鏡石	20.2	18.0	4.8	1.30	黒鏡石
165	4791	2	石鏡	黒鏡石	18.5	15.6	3.6	0.95	
166	4794	2	石鏡	黒鏡石	22.8	18.2	3.7	0.95	黒鏡石
167	4796	2	石鏡	黒鏡石	22.1	14.1	3.8	0.97	
168	4777	2	石鏡	黒鏡石	22.4	18.6	2.7	1.52	
169	4795	2	石鏡	黒鏡石	21.7	19.2	5.3	2.49	赤木高島
170	4797	2	石鏡	黒鏡石	19.8	19.2	6.0	2.57	
171	4799	2	石鏡	黒鏡石	18.2	14.9	4.0	0.78	
172	4791	2	石鏡	黒鏡石	20.0	20.6	6.5	2.29	赤木高島
173	4792	2	石鏡	黒鏡石	18.7	13.1	3.4	1.07	黒鏡石
174	4794	2	石鏡	黒鏡石	20.1	22.8	6.3	2.12	
175	4777	2	石鏡	黒鏡石	21.7	20.1	5.9	2.80	
176	4796	2	石鏡	黒鏡石	23.0	26.0	9.1	4.60	
177	4793	2	石鏡	黒鏡石	25.2	19.4	5.1	2.89	
178	4796	2	石鏡	黒鏡石	24.4	16.0	5.2	1.93	
179	4794	2	石鏡	黒鏡石	18.8	12.9	2.9	0.70	
180	4797	2	石鏡	黒鏡石	23.5	14.5	5.5	1.43	
181	4794	2	石鏡	黒鏡石	18.8	12.1	6.0	1.67	
182	4745	2	石鏡	黒鏡石	18.5	13.0	4.5	0.91	
183	4754	2	石鏡	黒鏡石	23.0	16.0	5.1	1.65	
184	4756	2	石鏡	黒鏡石	17.5	18.5	4.1	1.09	
185	4757	2	石鏡	黒鏡石	22.4	11.5	5.2	1.16	
186	4758	2	石鏡	黒鏡石	25.8	13.9	1.8	1.45	
187	4743	2	石鏡	黒鏡石	23.8	11.0	7.3	2.20	
188	4756	2	石鏡	黒鏡石	21.5	12.9	4.9	1.40	
189	4756	2	石鏡	黒鏡石	20.8	28.1	9.4	4.23	
190	4745	2	石鏡	黒鏡石	18.3	19.5	7.9	1.13	
191	4749	2	石鏡	黒鏡石	22.6	20.7	11.5	6.52	
192	4749	2	石鏡	黒鏡石	19.2	18.2	12.9	3.19	
193	4744	2	石鏡	黒鏡石	17.1	16.0	12.2	3.22	
194	4749	2	石鏡	黒鏡石	15.9	18.0	6.9	1.13	
195	4749	2	石鏡	黒鏡石	18.4	18.1	8.2	1.90	
196	4747	2	石鏡	黒鏡石	22.5	14.2	1.9	1.29	
197	4747	2	石鏡	黒鏡石	17.0	11.9	4.2	0.90	
198	4711	2	石鏡	黒鏡石	22.2	16.0	6.9	2.61	
199	4749	2	石鏡	黒鏡石	19.4	18.7	3.1	1.24	
200	4746	2	石鏡	黒鏡石	22.8	22.2	6.4	2.60	
201	4747	2	石鏡	黒鏡石	25.1	22.7	12.5	4.90	
202	4746	2	石鏡	黒鏡石	18.1	22.8	8.8	2.97	
203	4746	2	石鏡	黒鏡石	21.4	26.2	7.5	3.00	
204	4747	2	石鏡	黒鏡石	21.0	26.4	7.2	2.92	
205	4725	2	石鏡	黒鏡石	19.7	38.0	20.0	6.11	
206	4744	2	石鏡	黒鏡石	24.2	14.0	9.0	4.14	
207	4729	2	石鏡	黒鏡石	35.3	34.0	12.7	9.25	
208	4745	2	石鏡	黒鏡石	22.1	14.2	6.1	2.38	
209	4744	2	石鏡	黒鏡石	24.2	23.7	10.4	4.14	
210	4719	2	石鏡	黒鏡石	23.2	23.4	10.3	4.50	
211	4718	2	石鏡	黒鏡石	18.0	28.2	5.3	1.92	
212	4718	2	石鏡	黒鏡石	17.5	22.8	6.1	1.79	
213	4745	2	石鏡	黒鏡石	16.7	21.0	6.3	1.67	
214	4742	2	石鏡	黒鏡石	16.2	16.6	6.2	1.17	
215	4742	2	石鏡	黒鏡石	14.4	33.0	10.8	9.49	
216	4746	2	石鏡	黒鏡石	21.1	13.9	6.0	2.33	
217	4744	2	石鏡	黒鏡石	14.7	24.6	4.8	4.50	
218	4742	2	石鏡	黒鏡石	16.1	37.4	8.3	18.20	
219	4744	2	石鏡	黒鏡石	21.7	21.3	8.0	2.70	
220	4744	2	石鏡	黒鏡石	22.8	28.3	16.5	8.34	
221	4720	2	石鏡	黒鏡石	19.7	68.8	23.8	20.85	
222	4713	2	石鏡	黒鏡石	16.8	80.6	9.5	10.90	
223	4749	2	石鏡	黒鏡石	13.6	35.4	10.1	4.60	
224	4744	2	石鏡	黒鏡石	18.8	37.2	9.7	7.20	
225	4749	2	石鏡	黒鏡石	17.0	35.1	10.7	4.87	
226	4749	2	石鏡	黒鏡石	16.1	29.0	10.3	4.61	
227	4747	2	石鏡	黒鏡石	19.3	3.9	10.0	6.03	
228	4748	2	石鏡	黒鏡石	28.7	39.6	13.1	6.55	
229	4732	2	石鏡	黒鏡石	22.2	40.8	11.4	9.89	
230	4748	2	石鏡	黒鏡石	17.5	40.2	12.0	8.30	
231	4754	2	石鏡	黒鏡石	20.4	28.7	10.9	7.29	
232	4748	2	石鏡	黒鏡石	18.3	49.0	17.1	5.89	
233	4747	2	石鏡	黒鏡石	18.1	38.4	16.5	9.34	
234	4728	2	石鏡	黒鏡石	26.1	35.6	13.0	10.24	
235	4712	2	石鏡	黒鏡石	18.3	11.8	12.9	17.47	
236	4748	2	石鏡	黒鏡石	17.2	25.4	11.8	6.42	
237	4729	2	石鏡	黒鏡石	21.0	19.2	13.2	4.80	
238	4748	2	石鏡	黒鏡石	21.8	22.0	13.8	4.20	
239	4728	2	石鏡	黒鏡石	21.5	23.9	24.9	9.90	
240	4756	2	石鏡	黒鏡石	14.1	39.8	14.2	12.52	
241	4715	2	石鏡	黒鏡石	18.1	27.9	1.0	4.34	
242	4744	2	石鏡	黒鏡石	22.5	29.5	4.8	6.52	
243	4748	2	石鏡	黒鏡石	14.8	24.1	9.0	7.60	
244	4747	2	石鏡	黒鏡石	15.4	20.7	14.2	3.72	
245	4725	2	石鏡	黒鏡石	38.7	38.1	11.4	10.79	
246	4749	2	石鏡	黒鏡石	15.0	21.8	20.3	13.66	
247	4745	2	石鏡	黒鏡石	27.7	0.9	12.2	5.71	
248	4744	2	石鏡	黒鏡石	22.3	20.0	19.2	4.64	
249	4749	2	石鏡	黒鏡石	17.0	23.7	9.3	3.79	
250	4727	2	石鏡	黒鏡石	30.9	18.8	8.0	3.27	
251	4737	2	石鏡	黒鏡石	15.0	22.6	14.4	6.20	
252	4726	2	石鏡	黒鏡石	19.2	24.0	12.0	4.20	
253	4729	2	石鏡	黒鏡石	19.0	23.8	16.1	7.22	
254	4749	2	石鏡	黒鏡石	22.4	23.3	17.8	6.20	
255	4746	2	石鏡	黒鏡石	25.7	18.8	12.8	4.94	

種別	アブラ	動物番号	器種	石材	最大径 [mm]	最大厚 [mm]	最大容積 [dm <sup>3</sup> ]	備考
256	4779	2	石鏡	黒鏡石	23.0	19.0	19.1	12.22
257	4747	2	石鏡	黒鏡石	21.8	20.0	10.5	5.78
258	4746	2	石鏡	黒鏡石	25.1	16.0	15.9	6.40
259	4746	2	石鏡	黒鏡石	14.4	29.7	17.4	7.48
260	4749	2	石鏡	黒鏡石	24.4	22.6	22.7	14.53
261	4746	2	石鏡	黒鏡石	29.0	22.0	18.7	8.83
262	4749	2	石鏡	黒鏡石	30.0	26.1	7.2	6.41
263	4746	2	石鏡	黒鏡石	40.0	42.7	9.7	18.92
264	4744	2	石鏡	黒鏡石	55.2	38.0	11.6	20.00
265	4748	2	石鏡	黒鏡石	43.3	50.3	23.7	41.08
266	4749	2	石鏡	黒鏡石	28.9	32.8	12.7	12.70
267	4748	2	石鏡	黒鏡石	41.3	29.6	25.3	32.91
268	4749	2	石鏡	黒鏡石	17.1	25.6	18.8	9.70
269	4749	2	石鏡	黒鏡石	18.4	25.0	21.6	10.70
270	4749	2	石鏡	黒鏡石	24.3	18.4	18.3	27.07
271	4744	2	石鏡	黒鏡石	32.7	16.0	20.4	11.91
272	4747	2	石鏡	黒鏡石	28.1	24.2	23.2	33.09
273	4744	2	石鏡	黒鏡石	21.6	25.1	18.8	6.20
274	4749	2	石鏡	黒鏡石	35.1	21.7	10.4	15.88
275	4749	2	石鏡	黒鏡石	33.9	24.8	13.6	9.56
276	4749	2	石鏡	黒鏡石	25.4	21.8	27.8	13.07
277	4744	2	石鏡	黒鏡石	38.5	52.4	16.2	46.56
278	4746	2	石鏡	黒鏡石	43.1	51.8	18.0	58.34
279	4747	2	石鏡	黒鏡石	34.4	49.0	41.0	61.00
280	4746	2	石鏡	黒鏡石	92.1	48.4	18.9	27.46
281	4746	2	石鏡	黒鏡石	92.5	47.0	16.7	104.78
282	4746	2	石鏡	黒鏡石	60.2	52.1	20.2	103.74
283	4746	2	石鏡	黒鏡石	66.8	52.7	11.2	46.15
284	4744	2	石鏡	黒鏡石	63.2	44.9	10.4	35.29
285	4746	2	石鏡	黒鏡石	85.8	80.8	35.7	375.60
286	4742	2	石鏡	黒鏡石	66.9	50.7	31.1	21.36
287	4746	2	石鏡	黒鏡石	112.3	92.8	61.7	872.31
288	4747	2	石鏡	黒鏡石	85.0	81.9	39.2	397.96
289	4747	2	石鏡	黒鏡石	85.1	73.4	41.7	390.87
290	4746	2	石鏡	黒鏡石	75.9	70.2	41.8	343.98
291	4746	2	石鏡	黒鏡石	111.2	82.9	63.3	614.20
292	4746	2	石鏡	黒鏡石	35.9	33.8	28.8	53.30
293	4746	2	石鏡	黒鏡石	69.9	62.7	29.5	152.56
294	4746	2	石鏡	黒鏡石	88.7	65.4	26.7	297.89

第57表 D群 石鏡一覽表

種別	アブラ	動物番号	器種	石材	最大径 [mm]	最大厚 [mm]	最大容積 [dm <sup>3</sup> ]	備考
1	6034	2	石鏡	黒鏡石	14.0	12.0	2.7	0.58
2	6054	2	石鏡	黒鏡石	15.9	15.3	4.5	1.70
3	6011	2	石鏡	黒鏡石	18.9	24.1	5.8	2.85
4	6196	2	石鏡	黒鏡石	22.8	15.1	3.8	0.91
5	6196	2	石鏡	黒鏡石	16.4	11.6	2.0	0.40
6	6173	2	石鏡	黒鏡石	24.7	15.2	2.7	1.07
7	6196	2	石鏡	黒鏡石	28.2	14.3	3.8	1.11
8	6173	2	石鏡	黒鏡石	26.2	48.7	14.2	20.89

## 第4章 弥生時代後期

弥生時代後期の遺構は、ほとんど遺物を伴わないが、形態および周辺での出土遺物から当該期の遺構と判断した。これらはすべて竪穴住居跡で、総数4軒になる。調査区北西端の西側の谷に面した台地縁辺部に集中する。一方、谷津を越えた対岸の東峰御幸畑遺跡（空港No.61遺跡）では、この谷津に面した台地先端部に、同時期の竪穴住居跡を18軒検出している。

遺物は、少量の甕や鉢の破片がほとんどで、図示したのはそのうちの一部である。検出した4軒の竪穴住居周辺以外に、西側の谷に沿って、縁辺部に遺物が広範囲に分布しているのがわかる（第157図）。

### 第1節 遺構および遺構内出土遺物

#### 1号竪穴住居（第252図、図版12）2Dイ002

2 D29・39, 2 E20・30グリッドに位置する。一辺最大2.56m×2.70m、深さ0.32mの規模である。掘り方は明瞭であるが、隅丸方形が歪んだ平面形態をしている。覆土床面近くから、多量の焼土と炭化材を検出した。床面中央に地床炉が設けられている。炉内の火床部は極めて強い熱を受けている。北側壁近くの床面には、0.4m×0.5m、深さ0.3mのピットを一つ検出した。出土遺物は極めて少ない。1は甕か壺形土器の底部で、底径は推定8.0cmである。外面には縄文を施し、底部には木葉痕を残す。胎土中には白色砂粒を多量に含み、内面は器面が剥落している。薄い褐色から黒褐色である。

#### 2号竪穴住居（第253図、図版12）2Eイ007

2 E41グリッドに位置する。古墳時代後期の13号竪穴住居によって北半分が削平されている。そのため全体規模は不明だが、確認面からの掘り込みは床面まで0.2mほどである。1号竪穴住居同様の平面形態をもつと思われる。柱穴・貯蔵穴等のピットは確認できない。出土遺物は極めて少ない。

#### 3号竪穴住居（第253図）2Eイ008

2 E32・33グリッドに位置する。南側壁が北側壁に比べやや長い隅丸方形の形態である。東西南北壁長はそれぞれ2.30m、2.40m、2.75m、2.50mで、床面までの深さは0.15mほどである。床面ほぼ中央にピットを検出したが、床面は焼けていないようで、覆上を見ると柱穴のように思われる。住居覆土中からは多量の焼土・炭化材を検出した。遺物は極めて少ない。

#### 4号竪穴住居（第253図、図版12）2Eイ010

2 E40グリッドに位置する。長軸2.20m、短軸1.90m、深さ0.2mの小判型の竪穴住居である。炉・柱穴などのピットはなかった。床面直上か床面よりやや浮いた状態で、炭化材・焼土が多量に出土した。遺物は極めて少ない。

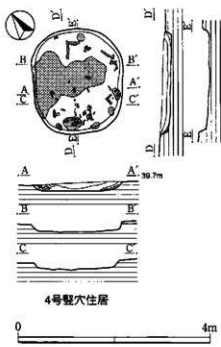
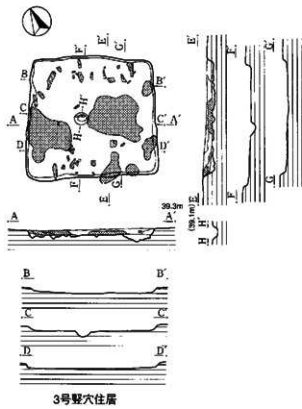
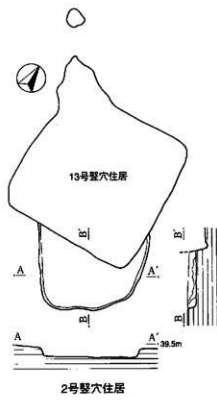
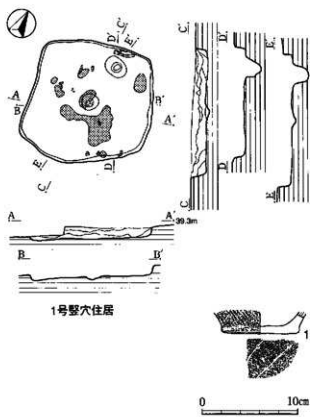
### 第2節 グリッド出土遺物

#### 1 土器（第253図、図版66）

遺物は全て土器で、そのほとんどが住居跡外から出土している。

1は壺形土器で、口縁部が約2/3ほど残存している。口径は推定18.5cmである。胎土中には微砂粒を含む。非常に薄い褐色で、焼成はやや不良。口唇部に指頭による交互押捺列を施す。





第252図 弥生時代整穴住居と出土遺物

2は甕形土器と思われる底部片で、1/5ほどが残存している。推定底径は5.7cmである。黒色で、軟質。微砂粒を多量に含む。外面は縦方向のヘラナデ、内面は剥落している。3は甕形土器の底部から胴部にかけての破片である。底径は7.0cmを測る。軟質で、焼成はやや不良。薄い褐色を呈する。外面は縦方向のヘラナデで調整を施す。

4は器形は不明であるが、口縁部片である。内外面及び口唇部に縄文を施し、内面にはさらに刺突文が入られる。内面は薄い褐色、外面は黒色である。雲母微粒子や白色砂微粒子を多量に含む。5は壺形土器の口縁部破片で、外面は複合口縁となり、粘土帯下端部には、上段・下段とも刻み目が巡る。口唇部には縄文が施される。薄い褐色で、2次的な被熱のためか、器面が剥落している。大粒の砂は含まれない。6は壺形土器の口頸部である。1/3ほどが残存し、口径は推定18.5cmである。複合口縁で、口唇部に細縄文を巡らしている。口縁貼付帯下端には刻み目が巡らされている。口頸部は3本から4本単位の沈線によって上下に分割され、さらに、口縁貼付帯下端から下は、縦方向の3本単位の沈線によって区画される。そのうちの1区画は斜め方向の沈線が13本入る。赤褐色から黒色で、大粒砂粒を含まない。7は甕形土器の口縁片で、緩やかに外反する。複合口縁で粘土帯外面及び口唇部に細縄文を施す。薄い褐色で白色微粒子を含む。8は複合口縁の甕形土器で、粘土帯外面及び口唇部に細縄文を施し、粘土帯下端には刺突文を施す。内面がやや内湾傾向にある。内面は褐色で、外面は黒褐色である。白色微砂粒を多く含む。

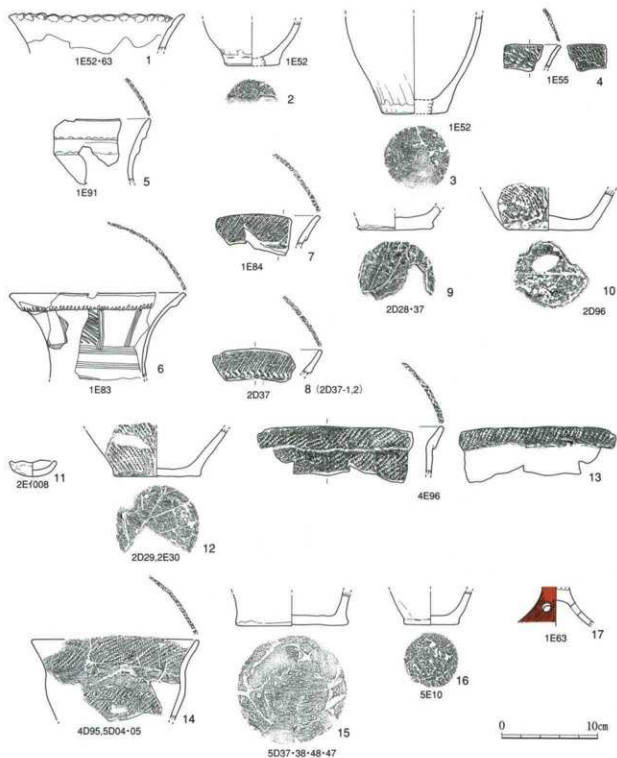
9は甕か壺形土器の底部で1/2ほどが残存する。底径8.0cmを測る。底部には木葉痕が残る。また、破断部が丸く摩滅しており、2次的に底部を別用途で使用しているようである。白色微砂粒、スコリアを多く含む。褐色で、軟質である。10は甕か壺形土器の底部片で、底径は推定8.8cmとなる。直径2mm～3mmの砂礫を多量に含む。軟質、黒褐色で焼成はやや不良である。外面には縄文を施すが、剥落が著しい。底部には木葉痕が残る。

11は手捏ね土器で口径は4.7cm～5.2cmである。黒色で煤が全面に付着する。大粒砂粒は含まない。

12は甕か壺形土器の底部で、底径9.1cmを測る。外面には縄文を施し、底部には木葉痕を残す。薄い褐色で、軟質である。直径1mmほどの白色砂粒を含む。内面は剥落している。

13は鉢形土器の複合口縁部で、外面全面と口唇部及び内面の一部に縄文を施す。内面は薄い褐色で外面は煤が付着するため、黒褐色を帯びる。比較的硬質で大粒砂粒含まない。14は鉢形土器の破片で、約1/3ほどが残存する。口径は推定17.6cmとなる。口縁部、口唇部及び体部の一部に縄文が施される。微砂粒を多量に含む。薄い褐色から黒色に発色する。

15、16は甕形土器の底部で、15は外面は粗いヘラミガキを施す。底径は11.8cmを測る。16は底径5.7cmで、外面はヘラナデを施す。17は器台形土器の脚部片で、脚部に直径11mmの円形の透かしが、ほぼ等間隔に3か所あけられている。外面はヘラミガキ後赤彩されている。



第253図 グリッド出土弥生土器

## 第5章 古墳時代後期から奈良時代初期

古墳時代後期から奈良時代初期（8世紀初頭）の遺構は、竪穴住居跡14軒とスラグ溜まり1基である。竪穴住居跡の分布域は大きく3か所に分かれる。そのうち10軒は弥生時代後期の竪穴住居跡と分布が重なるように、調査区北西端の西側の谷に面した台地縁辺部に集中し、また、残り4軒のうち3軒は南側から入り込む谷に面した緩斜面上に占地する（第254図）。対岸の東峰御幸畑西遺跡（空港No.61遺跡）では、対面するように同時期の竪穴住居跡を4軒検出している。

当該期の竪穴住居跡は覆土中に焼土・炭化材を含むものが多く、また付随するカマドには、煙道部の住居外への張り出しが一様に大きく、掘り込みも深いものが多いのが特徴である。

### 第1節 遺構および遺構内出土遺物

#### 1 竪穴住居

5号竪穴住居（第255図、図版13・66）2Dイ001

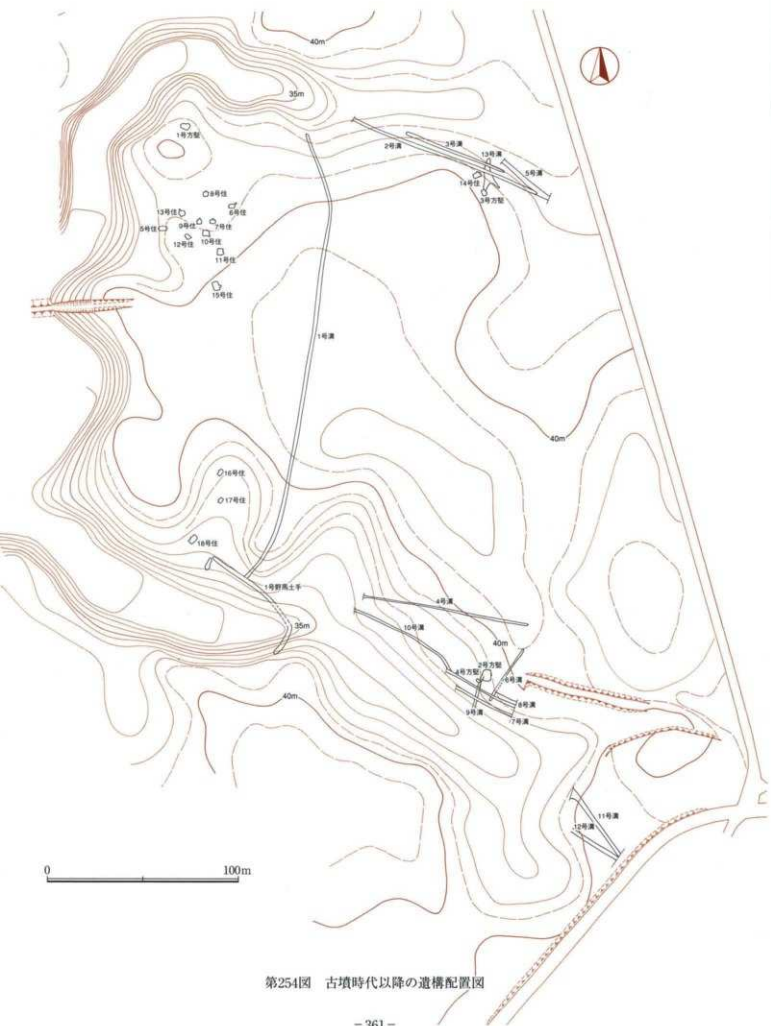
2 D58・59グリッドに位置する。東西方向に長い長方形プランで、カマドを通る主軸長で2.30m、直交する軸で3.70m、床面までの深さ0.33mを測る。主軸方位はN-0°である。柱穴は東西壁中央にそれぞれ1本ずつ計2本存在する。出入口ピットはカマド対面側に位置する。カマドは北側壁中央にあり、袖部は先端以外は遺存している。カマド煙道部は北側壁から0.7m張り出している。カマド上面からは多くの土器片が、また、住居南側壁寄りの覆土中からは炭化材や焼土が多量に出土している。

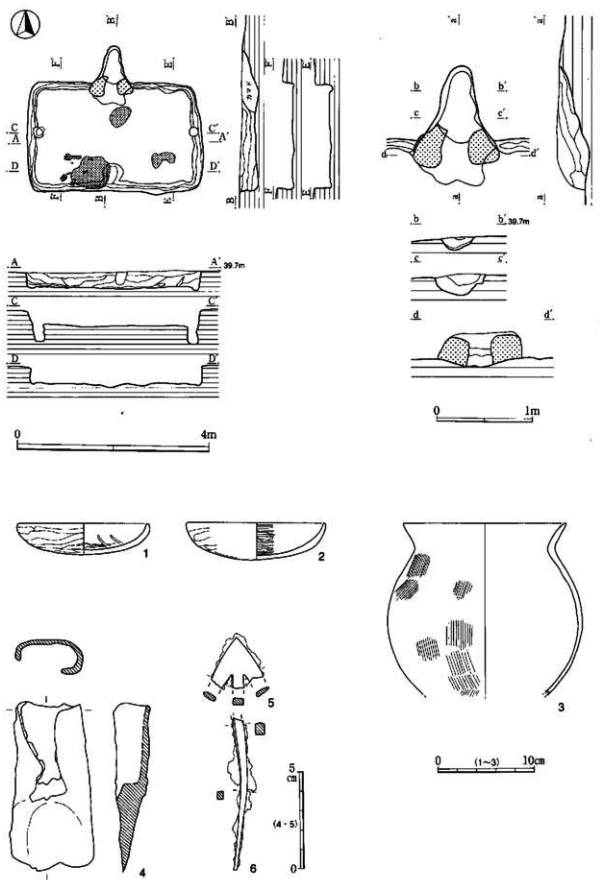
1、2は土師器杯で、内面はヘラミガキ、外面はヘラケズリ調整を施す。内面には2次的に被熱したための剥落痕が見られる。3は外面にハケ目をもつ薄手の甕である。胎土は砂礫を多量に含み、非常に薄い黄褐色を呈しており、胎土・色調から見ておそらく畿内からの搬入品と考えられる。底部は丸底になるであろう。1は口径13.7cm、2は推定口径14.7cm、3は口径17.1cmを測る。4は鉄斧であるが、調査後の経年変化により腐食が進み、整理時点ではボロボロとなり、表面全体がほとんど剥離してしまっている状態であった。したがって、出土時には実測図より一回り以上大きなものであったことを断っておく。参考までに、整理終了時点で残存長8.7cm、最大幅4.4cm、重さが126.81gである。5は鉄鍬の鍬身部で、逆刺部が左右両側とも欠損している。残存長2.6cm、最大幅2.7cm、重さは4.51gである。6は同一個体と考えられる鉄鍬の茎部端で、途中上下2つに折れている。残存長8.0cm、重さは4.91gである。

6号竪穴住居（第256図、図版13・66）2Eイ001

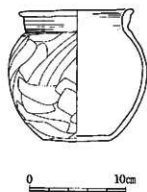
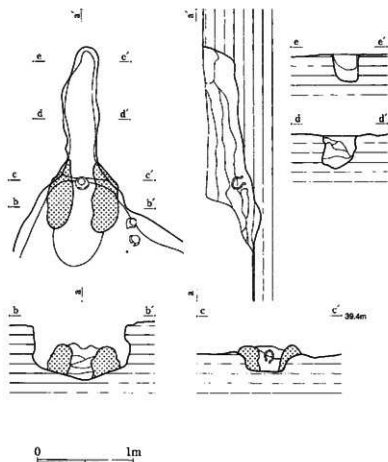
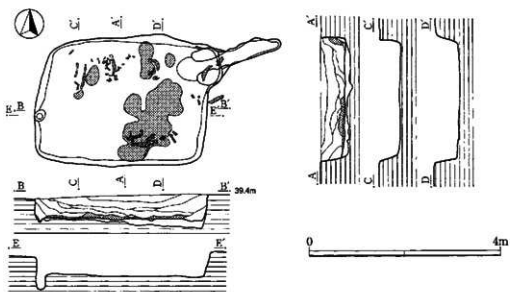
2 E36グリッドに位置する。東西方向に長い長方形プランで、カマドは住居北東コーナーに位置する。南北の中心軸で2.66m、直交する軸で3.65m、床面までの深さ0.50mを測る。南北軸方位はN-5°-Eである。柱穴は西壁中央に1本存在する。壁溝はない。カマド煙道部は北東コーナーから1.4mと大きく張り出しており、掘り込みも深い。カマド内中位からは倒立した状態の土師器甕が出土した。右袖脇からも土器片が出土している。また、住居床面上からは炭化材や焼土が多量に出土している。

1は復元の結果、ほぼ完形に近い個体となった土師器甕である。口径11.5cm、器高13.7cmである。2次的に被熱しており、内外面とも剥落が見られる。右袖脇から出土した坏については、現在所在がわからない。





第255图 5号竖穴住居



第256网 6号竖穴住居

#### 7号竪穴住居（第257図，図版13）2Eイ002

2E44グリッドに位置する。東西方向にやや長い長方形プランで、カマドは北壁中央よりやや西側に偏って造られている。カマドを通る主軸長で2.70m，直交する軸で3.30m，床面までの深さ0.32mを測る。主軸方位は $N-3^{\circ}-W$ である。柱穴・出入口ピットはない。カマド煙道部は北側壁から1.2mと大きく張り出している。住居床面上からは炭化材や焼土が多量に出土している。

#### 8号竪穴住居（第258図，図版14・66）2Eイ003

2E13・23グリッドに位置する。東西方向にやや長い長方形プランで、カマドは北壁中央よりやや東側に偏って造られている。カマドを通る主軸長で3.00m，直交する軸で3.58m，床面までの深さ0.22mを測る。主軸方位は $N-2^{\circ}-E$ である。柱穴はない。出入口ピットはカマド対面側に位置する。南西コーナーを中心に部分的に壁溝が確認できる。カマド煙道部は北側壁から1.0mほど張り出している。住居床面の覆土中からは炭化材や焼土が多量に出土している。

1は土師器杯で、口径15.4cm，器高3.3cmを測る。2次的な被熱による器面の剥落が見られる。2は須恵器長頸瓶の口縁部で、口径11.2cmを測る。胎土は非常にザラザラして、砂っぽい。内外面とも自然釉の剥落痕が見られる。3は土師器甔で、口径22.8cm，器高22.2cmを測る。把手は4か所に付く。

なお、モモとドングリの炭化した種子が得られている。（図版67）

#### 9号竪穴住居（第259図，図版14・66）2Eイ004

2E42グリッドに位置する。東側の壁長が西側の壁に比べてやや短い長方形プランで、カマドは北側壁中央に造られている。カマドを通る主軸長で2.95m，直交する軸で2.86m，床面までの深さ0.2mを測る。主軸方位は $N-5^{\circ}-E$ である。柱穴，出入口ピット，壁溝はない。カマドはつぶれた状態である。カマド煙道部は北側壁から0.9m張り出している。住居床面上からは炭化材や焼土が多量に出土している。

1は土師器杯で、口径15.4cm，器高3.6cmを測る。胎土は緻密である。2は土師器甕上半部で、全体に粗雑な作りで、胴部と口頸部の接合痕が見られる。内面は剥落している。3は土師器甕底部で、内面は器面剥離と焼成不良による摩滅が著しい。

#### 10号竪穴住居（第260図，図版14）2Eイ005

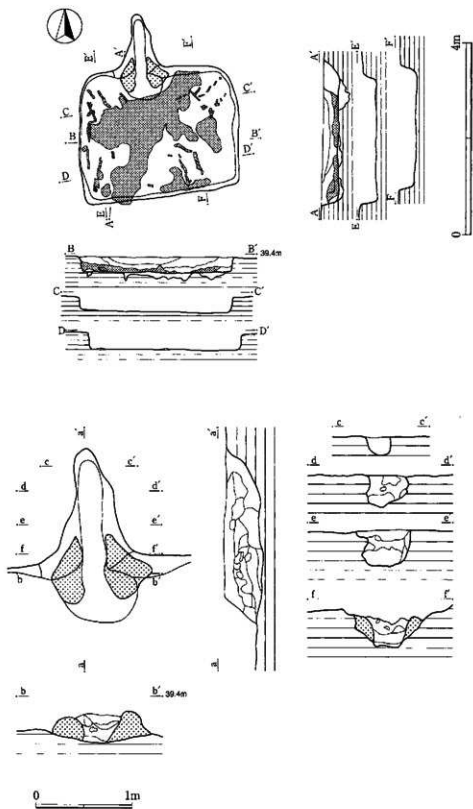
2E53・63グリッドに位置する。南北方向にやや長い長方形プランで、南北軸で3.20m，直交する軸で3.00m，床面までの深さ0.3mを測る。南北軸方位は $N-10^{\circ}-W$ である。柱穴，出入口ピット，壁溝はない。カマドは南東壁コーナーにあり，袖部が残存している。カマド煙道部は北側壁から0.7m張り出している。

1は土師器甕口縁部片で，胎土中に白色微砂粒を多量に含む。口頸部外面にはヘラ圧痕がみられる。口径は推定14.0cmである。

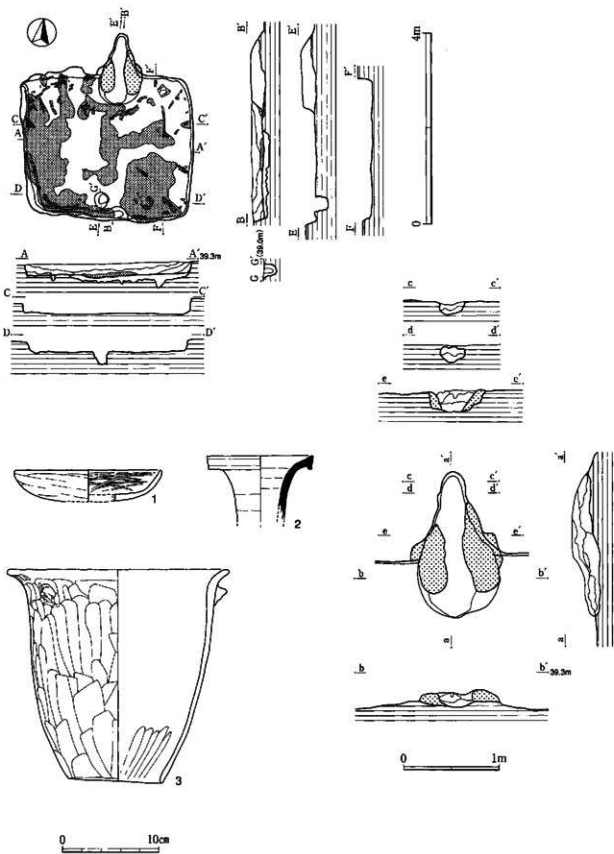
#### 11号竪穴住居（第261図，図版15）2Eイ006

2E74・75・84・85グリッドに位置する。南北方向に長い長方形プランで、カマドは東側壁中央よりかなり南側に偏って造られている。カマドを通る主軸長で3.60m，直交する軸で4.90m，床面までの深さ0.45mを測る。主軸方位は $N-83^{\circ}-E$ である。柱穴，出入口ピット，壁溝はない。カマド袖部はかろうじて残存している。カマド煙道部は壁に半円形状に大きく掘り込まれており，張り出しは弱い。住居床面上からは炭化材や焼土が多量に出土している。

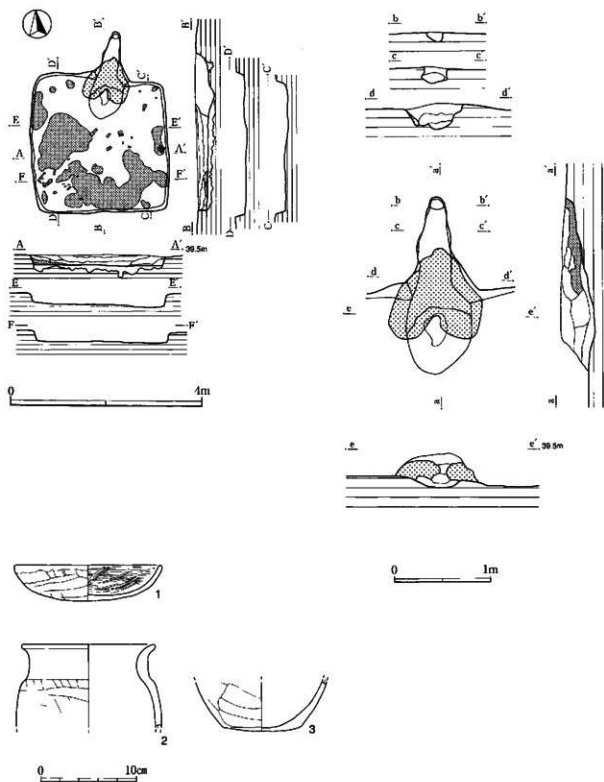




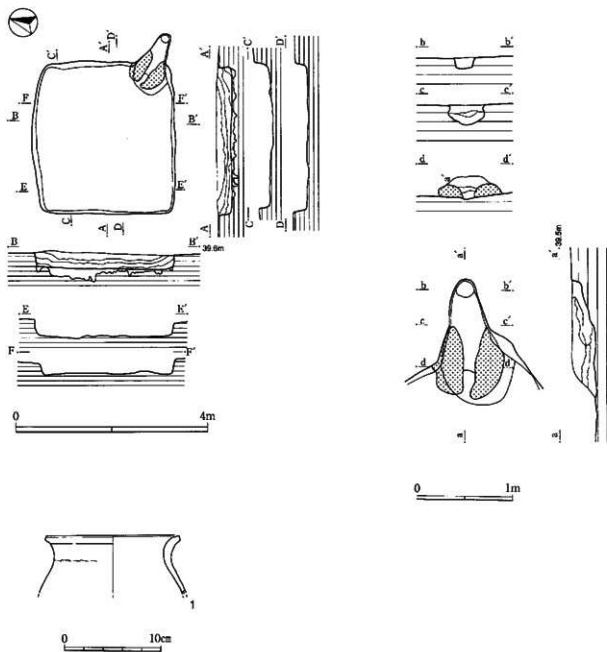
第257图 7号整穴住居



第258图 8号聚穴住居



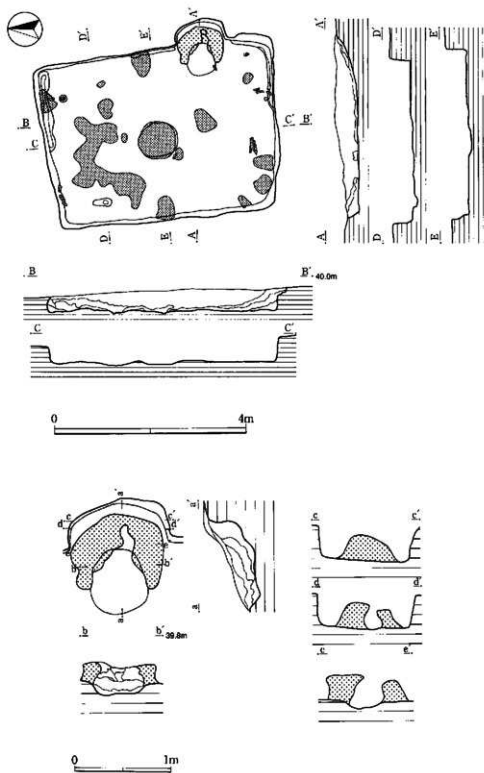
第259图 9号竖穴住居



第260図 10号竪穴住居

12号竪穴住居 (第262図, 図版15) 2Eイ009

2 E61グリッドに位置する。東西方向に長く平行四辺形状に歪んだプランで、カマドは南東コーナーに造られている。南北軸長で2.70m, 直交する軸で3.15m, 床面までの深さ0.20mを測る。南北軸方位はN-66°-Eである。柱穴, 出入口ピット, 壁溝はない。カマドは袖部がかろうじて残存していた。カマド煙道部は丸く大きく張り出している。カマド上面からは土器片が, また, 住居覆土中からは炭化材や焼土が出土している。



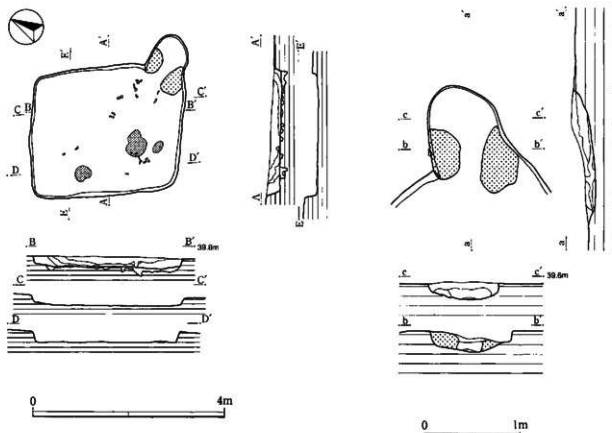
第261图 11号竖穴住居

13号竪穴住居（第263図，図版15）2Eイ011

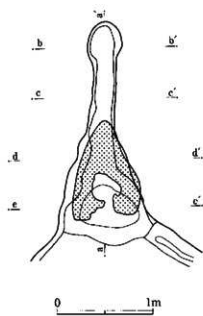
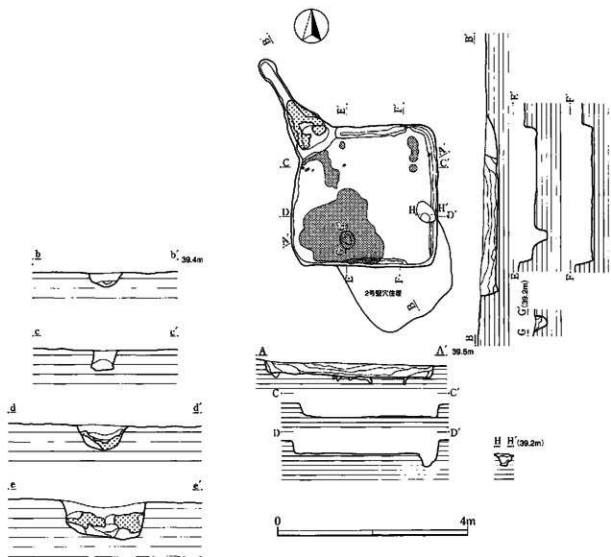
2 E31グリッドに位置する。ほぼ正方形プランで、カマドは北西コーナーに造られている。南北軸長で2.92m，直交する軸で3.10m，床面までの深さ0.30mを測る。南北軸方位はN-0°である。柱穴は南および東壁際にそれぞれ1本ずつ計2本存在する。カマド袖部は先端以外は遺存している。カマド煙道部は壁際から1.8m張り出している。壁溝は東，南，北それぞれの壁際に確認できる。住居覆土中からは炭化材や焼土が多量に出土している。

14号竪穴住居（第264図，図版15）2Hイ001

2 H01・02グリッドに位置する。東西方向に長い長方形プランで、カマドを通る主軸長で3.70m，直交する軸で4.88m，床面までの深さ0.25mを測る。主軸方位はN-20°-Eである。柱穴は四隅にそれぞれ1本ずつあり，計4本存在する。出入口ピットはない。カマドは北側壁中央にあり，袖部は先端以外は遺存している。カマド煙道部の張り出しは弱い。住居東側に偏って炭化材や焼土が多量に出土している。カマドは北壁に新旧2基あり，西側の古い方は左袖基部が残存していた。東側の新しいカマドは，袖の残存は良好である。東側に新しいカマドを造る際に住居を東側に拡張するか，全体の規模を変えず一部重複するようにずらせて再構築したことが考えられるが，焼土・炭化材の分布を見ると，後者の可能性が高い。



第262図 12号竪穴住居



第263图 13号竖穴住居

#### 15号竪穴住居（第265図，図版16・66）3E1001

3E14グリッドに位置する。南北方向に長い長方形プランで、カマドを通る主軸長で3.90m，直交する軸で5.25m，床面までの深さ0.65mを測る。主軸方位はN-83°-Eである。柱穴は住居中央に1本ある。出入口ピットはない。カマドは東壁中央より南に偏って造られ，袖部は一部が遺存している。カマド煙道部は東側壁から1.75m張り出している。住居北側壁寄りの覆土中からは炭化材や焼土が出土している。

1は土師器杯で，口径14.6cm，器高3.8cmである。器面に漆が塗られていたものか，わずかに黒っぽい光沢がある。全体に摩滅している。2は土師器碗で，口径17.1cm，器高6.0cmである。1同様底部外面に漆と思われる痕跡が見られる。3～5は土師器甕である。3の成形は粗雑で，口縁端は波打ち，直下に指の圧痕が残る。

#### 16号竪穴住居（第266・267図，図版16・66）5E1004

5E04・05・14・15グリッドに位置する。南東側に緩やかに傾斜していく緩斜面上にある。等高線に沿うように南北方向に長い長方形プランで，カマドを通る主軸長で3.55m，直交する軸で6.61m，床面までの深さ0.25mを測る。主軸方位はN-60°-Wである。柱穴，出入口ピットはない。カマドは西側壁中央にあり，煙道部は三角形に張り出している。住居南側壁寄りの床面に近い覆土中からは炭化材や焼土が多量に出土している。床面は比較的しっかりつくられている。

土器片は数量的に少なく，床面直上に数個体出土している程度である。1～3は土師器杯で，1は口径12.5cm，2は15.6cm，3は16.9cmを測る。いずれも内面は丁寧なヘラミガキ，外面はヘラケズリ調整を施す。4は須恵器甕の胴部片である。灰色で硬質，砂礫を含まず，砂っぽい。また，黒い細かな吹き出しが見られる。5は鉄鏝の基部片と考えられる。残存長1.9cm，重さ0.68gである。6は刀子の基部片であろうか。残存長2.1cm，重さ1.00gである。7は刀子の刀身部片で，残存長3.5cm，重さ2.94gである。

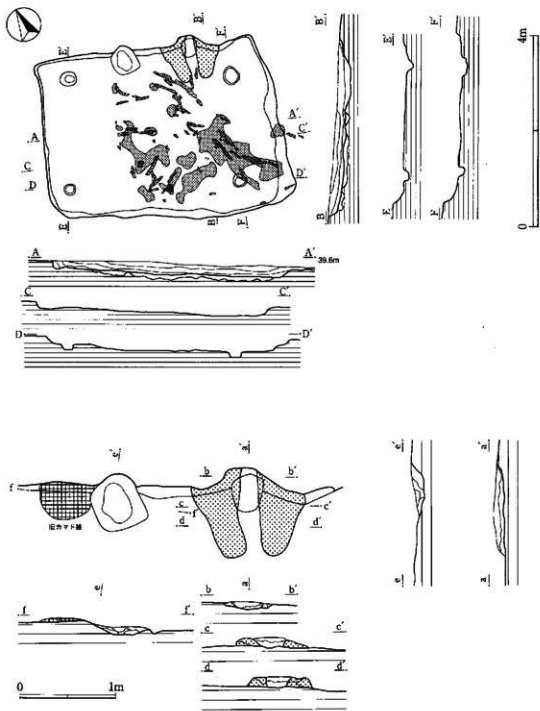
この住居の大きな特徴として，住居内から多量の鉄滓が出土していることが挙げられる。中には住居床面に食い込むように検出したものもある。鉄滓等を分析するに当たっては，香山新田中横堀遺跡出土遺物の整理手法をそのまま援用した<sup>1)</sup>。その結果，鉄滓は合計で3,384.58g，1,341個を取り上げた。内訳は第48表のとおりである。特徴としては，重量比から見た磁着力2及び3の炉内滓が全体の74.8%と4分の3を占めること。数量比では磁着力1及び2の炉内滓が全体の83.8%と5分の4以上を占めることが挙げられる。

平面分布を詳細に見ると，焼土を検出したカマド南側の壁面からの出土は余りないようで，かえって壁がほとんど残っていない住居南東側に密集する傾向が窺える。この住居が緩斜面上に立地することや住居内に炉等の施設がないなどを考慮すると，鉄滓は，住居が焼失した後，より標高の高い地点から傾斜に沿って流れ込んできた可能性が高いと考えられる。

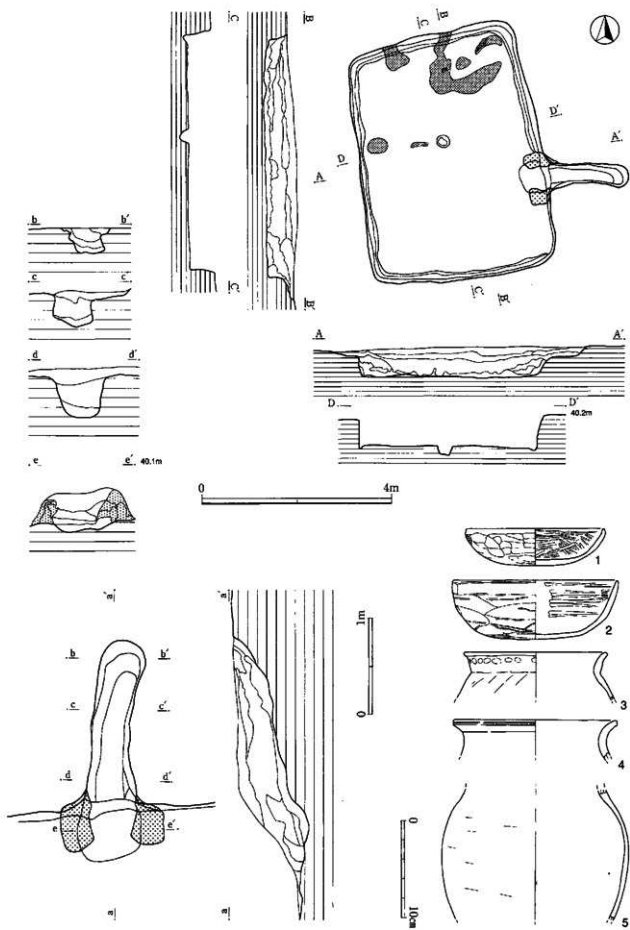
#### 17号竪穴住居（第268図，図版16）5E1005

5E34・35・44・45グリッドに位置する。南北方向にやや長い長方形プランで，カマドを通る主軸長で2.80m，直交する軸で3.55m，床面までの深さ0.45mを測る。主軸方位はN-65°-Wである。出入口ピットはカマド対面側に位置する。また，北壁際に貯蔵穴状の浅いピットがある。カマドは西側壁中央より南側に偏っており，煙道部は0.75m張り出している。住居南側壁寄りの覆土中からは炭化材や焼土が多量に出土している。一方で，カマド前面，北および東側壁際から多量の山砂を検出している。

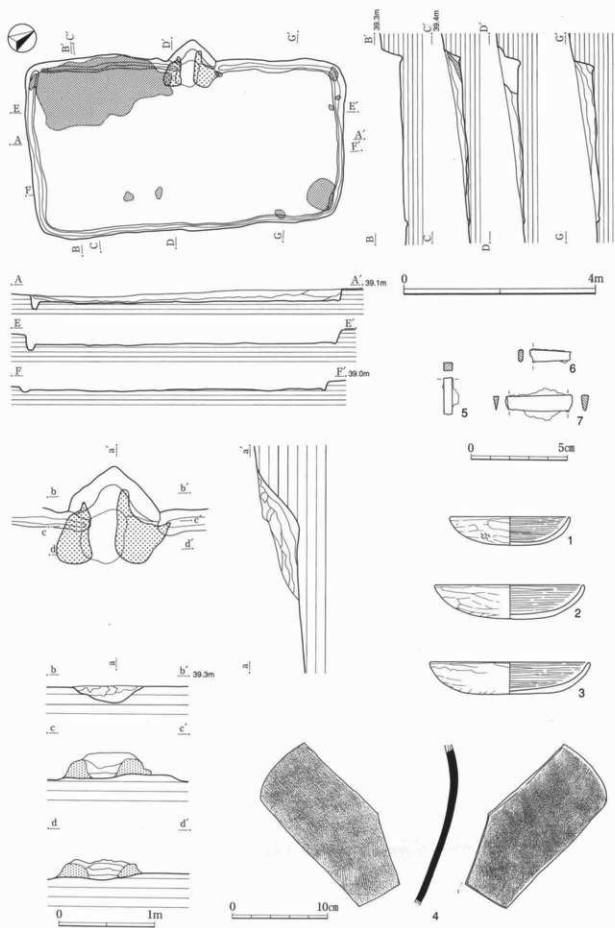




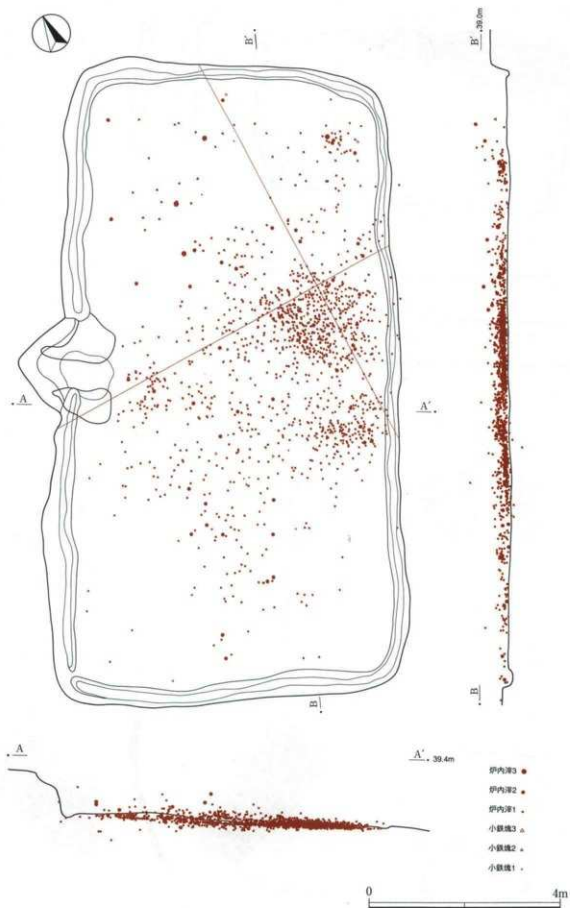
第264图 14号竅穴住居



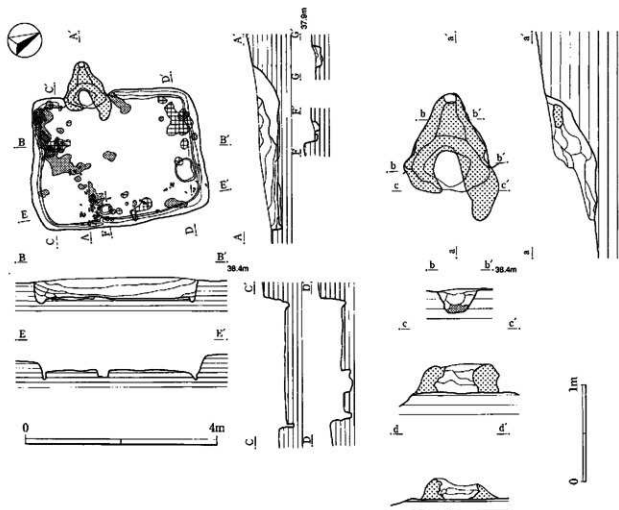
第265图 15号竖穴住居



第266图 16号竖穴住居



第267图 16号竖穴住居鉄滓分布图



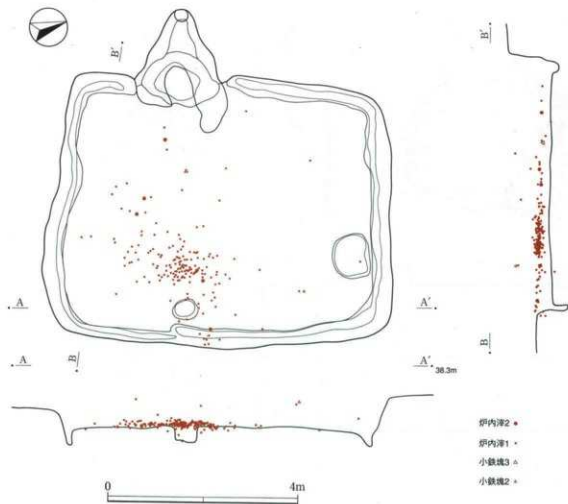
第268図 17号竪穴住居

この住居も16号竪穴住居同様覆土中から鉄滓が出土している。数量は16号に比してかなり少ない。分布状況を見ると、カマド正面から出入口ピットにかけて集中している。レベル的には床面にかなり近い。このあたりには炭化材や焼土が同レベルから出土しており、これらの遺物間の関係が目されるが、直接製鉄に関連する遺物は他に出土していない。鉄滓は合計で424.10g、183個を取り上げた。内訳は第49表のとおりである。特徴としては、重量比から見た磁着力2及び3の炉内滓が全体の80.1%と4分の3以上を占めること。数量比では磁着力1及び2の炉内滓が全体の96.7%と9割以上を占めることが挙げられる。

18号竪穴住居（第270図、図版17）5E-I006

5 E 61・62・71・72グリッドに位置する。斜面部に造られているため南側コーナーが残存していない。南北方向に長い長方形プランで、カマドを通る主軸長で3.30m、直交する軸で推定5.07m、床面までの深さ0.22mを測る。主軸方位はN-57°-Wである。柱穴、出入口ピットはない。住居東側コーナーに貯蔵穴状のピットが一つある。壁溝は住居をほぼ一周する。カマドは北西側壁中央にあり、袖部は残存している。カマド煙道部の張り出しは少ない。

1は土師器杯小片である。

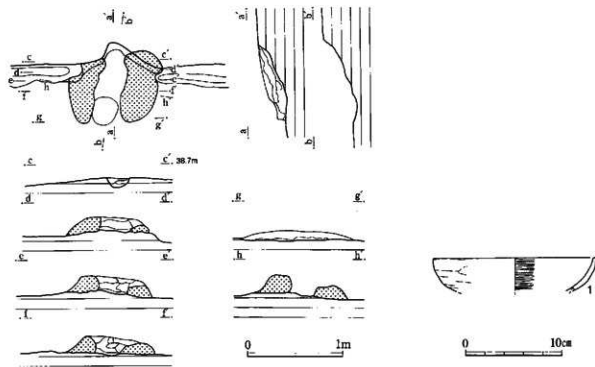
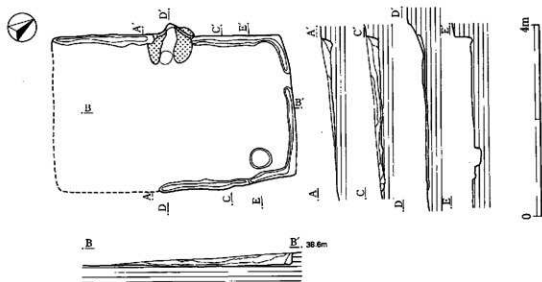


第269図 17号竪穴住居鉄滓分布図

## 2 スラグ溜まり (第271図, 図版17) 6Eイ001

調査区南の谷津に面した緩斜面上に位置する。平面形態は不整形で、長軸8.5m、直交する短軸で最大2.8m、深さは最大0.5mになる。本来は、立ち上がりの極めて不明確な浅い溝状の不定型な落ち込みであったのだろうが、調査時に表土除去した結果、このような形に残ったのであろう。覆土は上・下層の2層に分けられる。上層は黒色砂質土で、鉄滓を包含する層である。下層は砂を含む褐色粘土層（地山）で、鉄滓を含まない。遺構の位置関係から見ると、この斜面の上位には、18号・17号・16号竪穴住居があり、傾斜に沿って一直線に並ぶ16号・17号住居からも多量の鉄滓の遺物が出土している。このことからこれらが同時期に廃棄された遺構と判断できる。

鉄滓等は合計で4363.68g、573個を取り上げた。内訳は第50表のとおりである。特徴としては、重量比から見た磁着力2及び3の炉内滓が全体の86.5%と8割以上を占めること。数量比では磁着力1及び2の炉内滓が全体の93.4%と9割以上を占めることが挙げられる。平面分布・垂直分布を見ても、鉄滓が流れ込んできた様子がうかがえる。

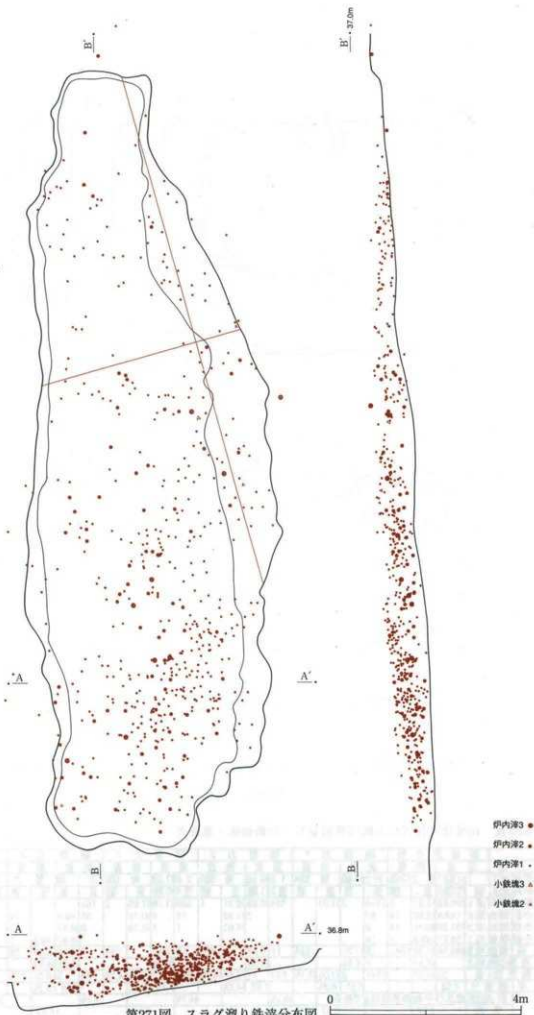


第270図 18号堅穴住居

第58表 16号堅穴住居出土鉄滓等磁着力・分類個体・重量表

分類	磁着力合計		磁着力1		磁着力2		磁着力3		磁着力4		磁着力5	
	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量
炉内滓1	1813.27	1256	297.01	524	908.31	580	607.85	152				
炉内滓2	722.68	53			231.82	16	490.76	35				
炉内滓3	290.41	3			36.63	1	253.76	2				
小鉄塊1	149.8	14							149.8	14		
小鉄塊2	351.55	14							309.37	13	42.18	1
小鉄塊3	59.87	1							59.87	1		
重量	3384.58	1341	297.01	524	1176.86	599	1352.49	189	516.04	28	42.18	1
数量比			8.8%		34.8%		40.0%		15.2%		1.2%	
重量比				39.1%		44.7%		14.1%		2.1%		0.1%
平均	2.52		0.57		1.96		7.16		18.43		42.18	

※重量及び平均の単位はgである。



第271図 スラグ溜り鉄滓分布図



第59表 17号壁穴住居出土鉄滓等磁着力・分類個体・重量表

分類	磁着力合計		磁着力1		磁着力2		磁着力3		磁着力4		磁着力5	
	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量
炉内滓1	288.26	176	182.71	134	93.76	38	9.79	4				
炉内滓2	63.08	5	17.01	2	46.07	3						
炉内滓3												
小鉄塊1	19.35	1							19.35	1		
小鉄塊2	55.41	1							55.41	1		
小鉄塊3												
総量	424.10	183	199.72	136	139.83	41	9.79	4	74.76	2	0	0
重量比			47.1%		33.0%		2.3%		17.6%		0.0%	
数量比			74.3%			22.4%		2.2%		1.1%		0.0%
平均	2.32		1.47		3.41		2.45		37.38			

※重量及び平均の単位はgである。

第60表 スラグ溜まり出土鉄滓等磁着力・分類個体・重量表

分類	磁着力合計		磁着力1		磁着力2		磁着力3		磁着力4		磁着力5	
	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量	重量	数量
炉内滓1	1716.37	484	1212.52	384	308.92	71	193.93	30				
炉内滓2	1636.58	76	838.76	36	751.48	35	46.34	5				
炉内滓3	741.31	10	342.74	5	317.42	4	81.15	1				
小鉄塊1												
小鉄塊2	269.42	3							269.42	3		
小鉄塊3												
総量	4363.68	573	2394.02	425	1378.82	110	321.42	36	269.42	3	0	0
重量比			54.9%		31.6%		7.4%		6.2%		0.0%	
数量比			74.2%		19.2%		6.3%		0.5%			0.0%
平均	7.62		5.63		12.53		8.93		89.81			

※重量及び平均の単位はgである。

## 注1 鉄滓の整理方法

分類方法は、a. サイズ、b. 肉眼観察、c. 磁着力の3項目に基づいて分類した。

## a. サイズ

3cm以下のものをサイズ3、3cm～5cmのものをサイズ2、5cm以上のものをサイズ1とした。

## b. 肉眼観察

肉眼観察により、小鉄塊・炉内滓・流動滓・砂鉄塊の四つに分類した。識別方法を大まかにいえば、小鉄塊は、表面に黒錆がみられ、小型にもかかわらず重量感があり、磁着力が4以上のもの。炉内滓は、表面は大部分のものが荒く、木炭灰や気孔が多く見られ、小鉄塊に比べ重量がなく磁着力が1～3を示すもの。流動滓は、表面に気孔があまりみられず、丸く滑らかな流動状のものであり、色調はネズミ色を呈するものが多く、磁着力が弱いもの。砂鉄塊は、砂鉄と同様な銀色の光沢が随所に見え、磁着力が強いもの。

## c. 磁着力

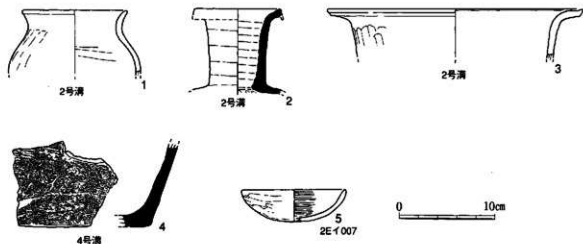
測定に使用した磁石は各県で鉄滓等の磁着力測定に使用されている工業用磁石（標準磁石）を用いた。ドーナツ状の磁石に吊り糸を接着し、その糸の端をゼットライト等のアームに結び、アームから35cmの長さで磁石の上端にくるように吊す。磁力を測るために6mmごとに目盛りが刻まれた評価台紙を置き、磁石の片側下面が接面地ギリギリの高さで、同心円の中心にくるようにアームを設定する。磁力の測定方法は、吊り下げた磁石側面に資料個体（鉄滓）を近づけていき、磁石が動き始めた段階の数値を読みとり、磁着力を1～5に区分した。磁着力は同心円の中心から6mmまで磁石が動くものを磁着力1、6mm～12mmまでを磁着力2、18mmまでを磁着力3、24mmまでを磁着力4、24mm以上のものを磁着力5というようにした。

データの処理はデータベース（R:BASE PRO Ver2.12）とCAD（AutoCAD GX-Ⅱ）を用いてデータ管理と図面作成を行った。

## 第2節 グリッド出土遺物

### 1 土器 (第272図, 図版62)

遺物総量は少ない。1は土師器甕で、外面はヘラケズリ、内面はヘラナア、口縁部はヨコナアである。2は須恵器長頸瓶の口径部で、推定口径9.0cmである。胎土は灰色で、ザラザラして砂っぽい。外面には自然釉が付着する。3は土師器甕の口縁部、4は須恵器甕の底部片で、直径1mm前後の砂粒を含む。灰白色で、焼成不良である。5は土師器杯である。



第272図 グリッド出土遺物

## 第6章 中近世

### 第1節 遺構

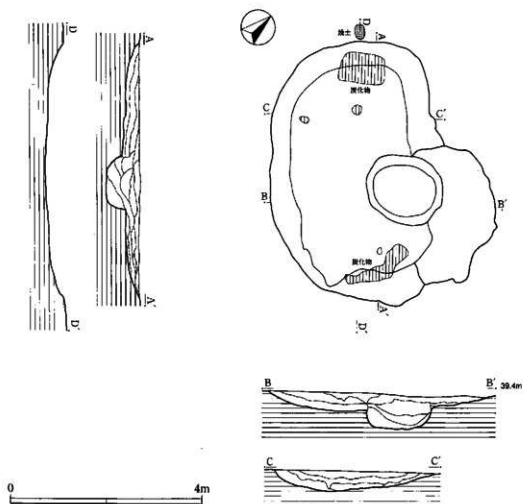
方形竪穴状遺構4基、野馬土手1条及び、溝状遺構13条が検出された。内、溝状遺構の幾つかは隣接する東峰御幸畑西遺跡（空港No.61遺跡）内の溝状遺構に連続している（第252図）。

#### 1 方形竪穴状遺構

方形竪穴状遺構は調査区に分散し、相互の関連は薄い。2号方形竪穴状遺構及び3号方形竪穴状遺構はそれぞれ9号溝、13号溝との関連が想定される。

#### 1号方形竪穴状遺構（第273図，図版17）1E4001

調査区北西端の1E41グリッドに位置する。長軸5.40m×短軸3.50mの隅丸長方形の遺構の北東側が、長さ1.00m、幅2.80mに渡って張り出している。また、この張り出し部際には直径1.50m、深さ0.4mの円筒形の土坑が掘られている。主体となる遺構は、底面が平坦ではなく、壁に向かって緩やかに立ち上がって行く。したがって、壁の下端が不明瞭となっている。北東側の張り出しも極めて緩やかに傾斜する。覆



第273図 1号方形竪穴状遺構

土中には大きく2か所で炭化材を検出した。床面の硬化状況は不明だが、おそらく作業場的な空間であったろう。また、円筒形の土坑は覆土の堆積状況から、長方形の土坑が埋没した後掘られたものと判断される。

#### 2号方形竪穴状遺構（第274図、図版17）7Hイ001

調査区南端の7H23グリッドに位置する。長軸6.05m×短軸4.90mの隅丸長方形の遺構で、床面の深さは0.1mと極めて浅い。床面は平坦ではなく、北側に向かって緩やかに傾斜する。北側床面には焼土と炭化物の集中が見られた。西側壁で溝9と重複する。長軸方位はN-8°-Eである。1号方形竪穴状遺構同様作業場的空間が想定される。

#### 3号方形竪穴状遺構（第274図、図版17）2Hイ002

調査区北東端の2H12グリッドに位置する。長軸5.10m×短軸3.30mの隅丸長方形の平面形態である。床面の深さは確認面から0.5mと比較的深い。南壁コーナーと東西両壁の中央が、テラス状の段を持つ。特に東側壁の段は二段となり、階段状になる。この延長上に溝13がある。おそらく溝13は道路（通路）遺構で、ここを通過して3号方形竪穴へ出入りしていたものと思われる。覆土は暗褐色土を主体とするものである。長軸方位はN-23°-Wである。1号方形竪穴状遺構同様作業場的空間が想定される。

#### 4号方形竪穴状遺構（第274図、図版17）7Hイ002

調査区南端の7H21グリッドに位置する。長軸3.10m×短軸1.15mの長方形の平面形態である。床面の深さは0.1mと極めて浅い。南側を溝8が平行して走り、東側で溝9と重なるが、新旧関係は不明。

## 2 野馬土手

### 1号野馬土手（第275図、図版18）野馬土手1

調査区南端に位置し、西側から入り込む谷を囲むように弧を描く。攪乱が著しくその一部を残しているのみであり、全体は不明。立地が台地上でないためか、野馬堀は検出していない。基底面で幅3.20m、高さ1.40mを測る。

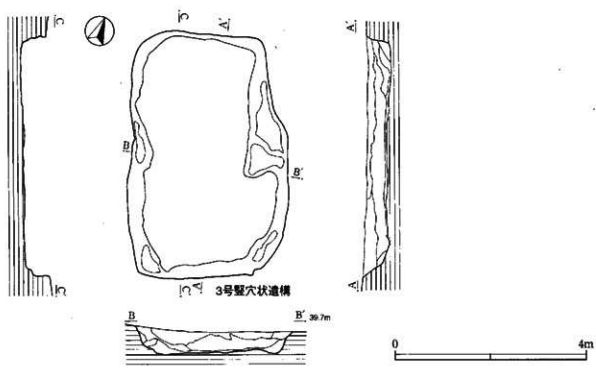
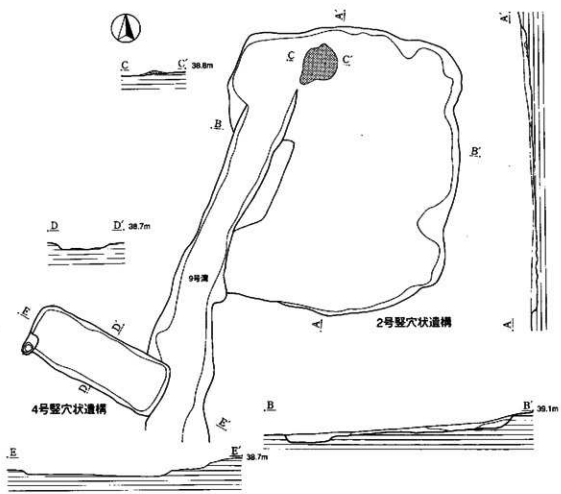
## 3 溝

### 1号溝（第276図、図版18）溝1

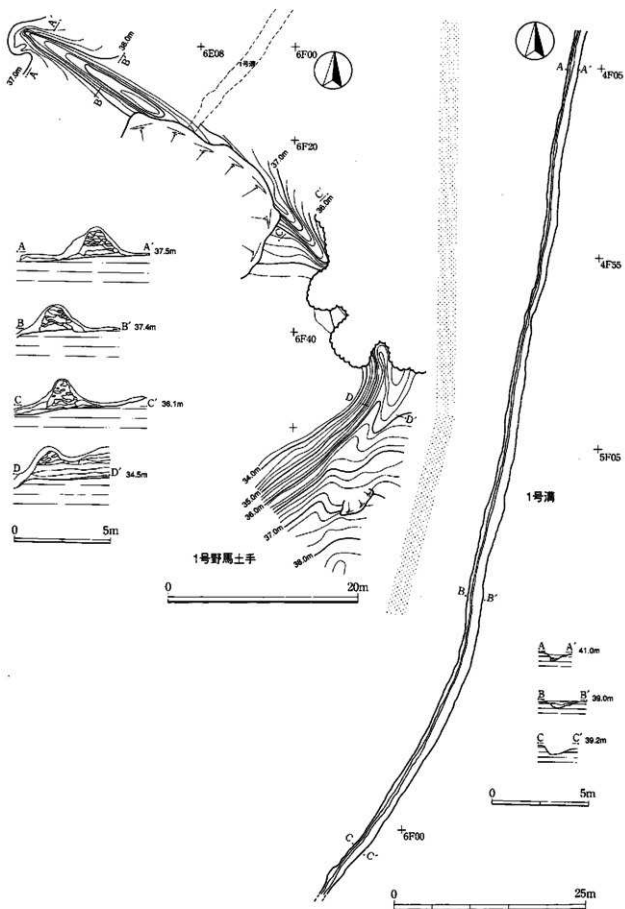
1Fから6E大グリッドにかけて、緩やかに蛇行しながら、ほぼ南北方向に延びる。全長は240m以上、幅は、上端で1.0m～1.8m、下端で0.3m前後を測る。断面形は最下面が西側に偏った逆台形状で、検出面からの深さが0.5m～1.0m、底面は非常に幅狭くなっている。伴う遺物は出土していない。

### 2号溝（第276図、図版18）溝2

1G、1H、2H大グリッドにまたがり、北西から南北方向に一直線に、すなわち谷津の傾斜方向に延びている。北側には溝3が平行している。全長が110m以上、幅は、上端で2.1m～2.8m、下端で1.0m～1.2m、検出面からの深さが1.2m前後を測る。断面形態は逆台形状である。伴う遺物は出土していない。東峰御幸畑西遺跡13号溝に相当する。



第274图 2~4号方形竖穴状遺構



第275图 1号野馬土手, 1号溝 (1)

### 3号溝 (第276図, 図版19) 溝3

溝2の北側2.5m離れて平行して延びる溝である。直線状で、全長約57.0m、幅は、上端で1.5m、下端で1.0mを測る。断面形は逆台形状で、検出面からの深さが0.3m~0.4m、底面はおおよそ平坦である。非常に浅いために、西側と東側で自然消滅している。伴う遺物は出土していない。東峰御幸畑西遺跡12号溝に相当する。

### 4号溝 (第277図) 溝4

6Gから6H大グリッドに位置する。ほぼ直線状で、全長は90m以上、幅は、上端で1.2m~2.2mで、断面形は最下面が北側に偏った逆台形状、検出面からの深さは0.3m~0.7m、底面は非常に狭くなっている。溝1と同形態である。伴う遺物は出土していない。

### 5号溝 (第276図, 図版19) 溝5

溝2と東端で分岐するような溝で、溝2に比べ更に北側に偏向する。ほぼ直線状で、溝2に比べ掘り込みが深く、古いものである。全長は、約31.0m、幅は最大約2.20mを測る。掘り込みが深く幅の狭い溝と、逆に掘り込みの浅く幅の広い溝の2条が重複しており、占い方の前者が深さ約2.0mで、新しい方の後者が上端幅約6.5m、深さ0.7mで、底面は平坦である。伴う遺物は出土していない。東峰御幸畑西遺跡7号溝に相当する。

### 6号溝 (第277図, 図版19) 溝6

調査区南端の7H大グリッドに位置する。ほぼ北北東から南南西に直線的に延びる。掘り込みは確認面から0.2mと浅く、底面は比較的平坦で、壁の立ち上がりも緩やかである。長さ20.0m、最大幅0.7mを測る。伴う遺物は出土していない。

### 7号溝 (第277図, 図版19) 溝7

調査区南端7H大グリッドに位置する。溝8とはほぼ並行に延びる。全長38m以上、上端の最大幅は4.2mで、底面には、更に方形の上坑状の掘り込みが連続する。覆土中から銭貨(寛永通寶)が5点、銅合金製の煙管煙首2点、同吸口1点が出土している。

### 8号溝 (第277図, 図版19) 溝8

調査区南端7H大グリッドに位置する。溝7の北側1.5m~4.0mを平行して延びる。全長43m以上、上端の最大幅は2.5mで、底面には更に長方形の土坑状の掘り込みが連続する。覆土中から銭貨(寛永通寶)が10点出土している。

### 9号溝 (第277図) 溝9

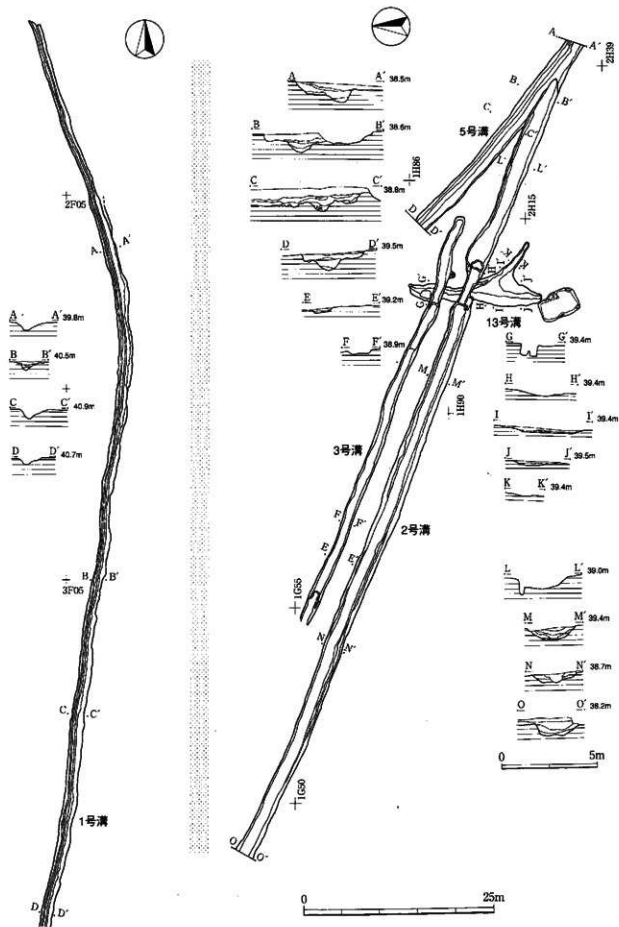
調査区南端7H大グリッドに位置する。溝7と溝8に直交する。2号方形竪穴遺構と密接に関連する遺構と考えられる。おそらく道路遺構となるであろう。

### 10号溝 (第277図, 図版20) 溝10

調査区最南端6G・7G大グリッドに位置する。斜面の傾斜に平行して延びる。溝8から分岐する遺構である。しかし、構造は全く異なり、最大幅3.3mで、深さ最大0.8m、底面は細長く、南側に偏っている。構造的には、溝1や溝4と同類である。覆土中から銭貨(寛永通寶)が1点出土している。

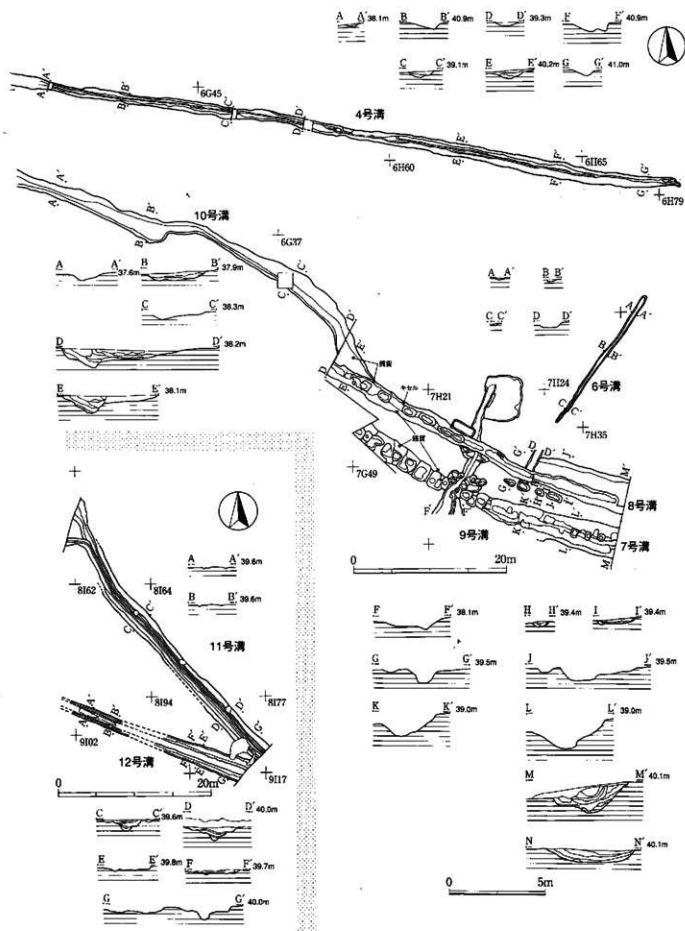
### 11号溝 (第277図, 図版20) 溝11

調査区南東端の8I大グリッドに位置する。ほぼ北西から南東方向に直線的に延びる。数条の溝が重複したもので、そのうちの1条が北西端で西側方向に大きく折れている。最も古い溝は確認面から最大で1.4



第276图 1号沟(2), 2·3·5·13号沟





第277图 4~12号沟

m掘り込んでいるが、埋没した後、幅広く掘り込みの浅い溝が再構築されている。この繰り返しが数回見られる。最大幅2.9m、長さ42mになる。

#### 12号溝（第277図、図版20）溝12

調査区南東端8I、9I大グリッドにまたがり、西北西から東南東方向に直線的に延びる。掘り込みが非常に浅いため、不明確だが、12m間隔で平行する2条の細い溝と、その間に盛上面が見られる。一見すると道路の幅状の遺構であるが、硬化の度合いについては不明である。南東端の調査区域外で溝11と合流すると思われる。最大幅3.0mを測る。

#### 13号溝（第276図）溝13

溝2、3と直交する不定形の遺構で、全長17.5mと非常に短い。底面からの立ち上がりは極めて緩やかで、硬化面については不明確ながら、3号方形竈穴遺構と密接に関連する道路遺構と考えられる。

## 第2節 遺物

### 1 銭貨（第278図、図版63、第61表）

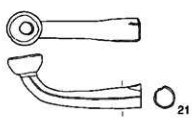
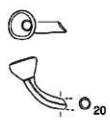
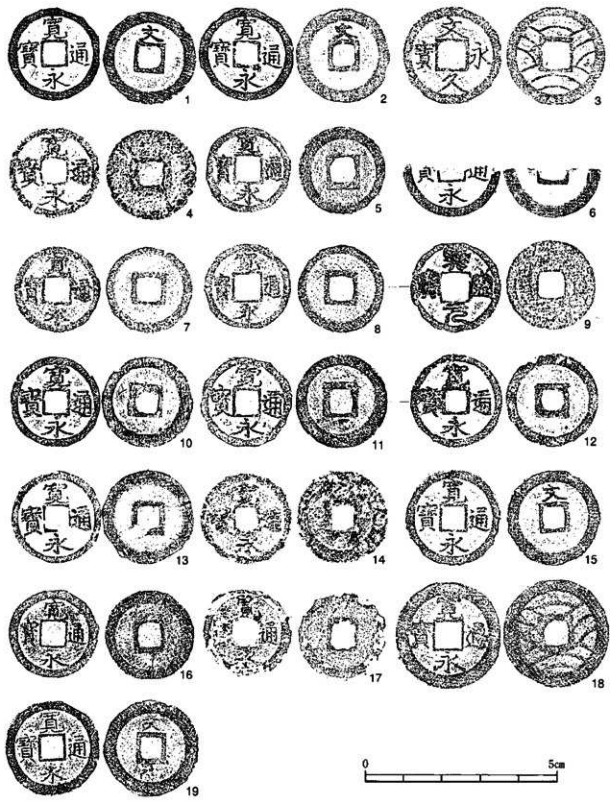
1～19は遺跡から出土した全銭貨であるが、9の北宋銭（熙寧元寶）1点以外は、全て近世の国産銭貨である。4、10～14はいわゆる「古寛永」とよばれるもの、1、2、15、19はいわゆる「文銭」とよばれるもの、その他の寛永通寶は「新寛永」とよばれるものである。遺構の時期も大半を占める寛永通寶が流通した時期に相当すると考えられる。

### 2 金属製品（第278図、図版63）

20～22は銅合金製の煙管雁首と吸口で、20は基の部分を欠損している。いずれも7号溝からの出土である。

第61表 出土銭貨一覽表

番号	出土位置 遺物番号	銭貨名	初鑄年	計測値(mm)						重量(g)	材質	備考
				縁外径	縁内径	郭外径	郭内径	縁厚	郭厚			
1	6H-62	寛永通寶	1668	25.1	19.4	7.3	5.9	1.17	0.35	2.62	青銅	背：文
2	6G-00	寛永通寶	1668	25.5	19.8	7.3	6.0	1.18	0.39	2.74	#	背：文
3	1D-68	文久通寶	1862	26.5	20.5	8.8	6.9	0.99	0.45	2.61	#	背：青雫波文
4	溝7 007	寛永通寶	1636	23.9	19.3	7.6	6.1	0.97	0.40	1.77	#	
5	溝7 003	寛永通寶	1697	23.0	18.0	7.8	6.5	1.07	0.59	2.03	#	
6	溝7 010	寛永通寶	1697	—	—	—	—	1.23	0.33	1.22	#	
7	溝7 004	寛永通寶	1697	22.8	18.2	7.8	6.5	1.10	0.61	2.21	#	
8	溝7 007	寛永通寶	1697	23.1	18.5	7.9	6.6	1.20	0.69	2.54	#	
9	溝8 006	熙寧元寶	1068	23.9	19.1	8.2	7.0	1.24	0.83	3.38	#	
10	溝8 007	寛永通寶	1636	24.1	19.0	6.9	5.8	1.09	0.35	2.23	#	
11	溝8 004	寛永通寶	1636	24.5	18.9	7.6	6.4	1.16	0.42	2.51	#	
12	溝8 005	寛永通寶	1636	24.4	19.2	7.0	5.3	1.54	0.60	3.68	#	
13	溝8 013	寛永通寶	1636	24.3	19.7	6.9	6.2	1.21	0.42	1.92	#	
14	溝8 014	寛永通寶	1636	24.2	18.8	7.3	6.1	1.30	0.59	2.92	#	
15	溝8 003	寛永通寶	1668	25.6	20.0	7.1	6.0	1.35	0.49	3.29	#	背：文
16	溝8 008	寛永通寶	1668	23.3	17.9	7.1	6.3	1.24	0.38	2.20	#	
17	溝8 011	寛永通寶	1697	23.1	17.4	7.4	6.7	1.15	0.63	2.21	#	
18	溝8 009	寛永通寶	1697	28.1	20.3	7.9	6.4	1.21	0.65	4.45	#	背：青雫波文
19	溝10 001	寛永通寶	1668	25.2	19.2	7.0	5.7	1.44	0.64	3.49	#	背：文



第278図 出土銭貨・キセル

## 第7章 まとめ

### 第1節 旧石器時代

東峰御幸畑東遺跡(空港No.62遺跡)では、立川ローム層中から石器集中1~15の15ブロックが検出された。出土層位をもとに文化層を大きく4つに分離し、報告を行った。

具体的には、第2黒色帯を主体に立川ローム最下層に広がる第1文化層に石器集中1~9の9ブロック、ATより上位でハードロームとソフトロームの境界付近で検出された第2文化層に石器集中10の1ブロック、ソフトローム層(Ⅲ層)から検出された第3文化層に石器集中11~14の4ブロック、Ⅲ層上部~Ⅱc層にかけて検出された第4文化層に石器集中15の1ブロックをあてた。本節では、質量ともに充実した第1文化層の石器集中1~3と第4文化層の石器集中15について検討してみたい。

### 第1文化層

本文化層の石器集中1~3は黒曜石を主体とする石器群で、点数比で実に95%以上が黒曜石で占められる。非黒曜石石器は遺跡内での剥片剥離はほとんど見られない。各石器集中地点間には接合関係が認められることから、ほぼ同一時期の所産と理解することができよう。以下に、利用石材毎の様相をまとめた。

#### 非黒曜石石器群

○珪質頁岩は、その特徴から近年注目されている栃木県方面のものを含み、主に石刃が搬入されている(第279図35~42)。遺跡内での石刃生産は見られない。その一方で、凝灰岩を用いた局部磨製石斧の調整剥片が出土しているが(同図19)、石斧本体は遺跡外へ持ち出されている。

#### 黒曜石石器群

○黒曜石はその特徴から栃木県高原山産が主体を占めると思われる。

○遺跡内で積極的な剥片剥離が行われたことにより、多量の剥片・破片が検出された。最大長・最大幅ともに10mm未満のものを「破片」としたが、点数比にして約3割弱が破片で占められる。破片は通常の剥片形状で完形のもの(破片a)153点、折れ面をもつもの(破片b)80点、主要剥離面が明確でなくハジけたようなもの(破片c)51点に分類され、合計284点が出土した。集中地点内には、大量の極小剥片(パウダー状のものも含めて)が包含されていたと推測されるが、回収されなかった。

剥片・破片の最大長のみを取り上げると、10mm以下が407点、10~20mm427点、20~30mm178点、30~40mm67点、40~50mm36点、50~60mm20点、60~70mm5点、70mm以上2点となり、30mm以下の割合が、全体の9割弱を占める。完形剥片のみの長幅比の平均は1.26であるが、上記サイズ別の長幅比平均を見ると30mm以上の最大長を持つ完形剥片では長幅比1.5~2.2となり、比較的縦長剥片が目立つ傾向が見られた(第279図22~26・28~32)。同図22~24・32のように折断された資料を含めれば更にその数は多くなるだろう。

○これら剥片生産の素材には角礫状(もしくは亜角礫状)の原石もしくは分割礫が用いられている。遺跡には原石状態あるいは荒削りしたものが持ち込まれているようであるが、残核が少ないことから、最終的には剥片剥離可能な石核の多くは遺跡外へ搬出されたものと推測される。原石の礫面除去は比較的荒々しく行われ、打面形成・側面形成を兼ねる。打面は単一剥離打面もしくは平坦な自然面があらわれ、打面調整

は施されない。両設打面は珍しくなく、180°の打面転位が頻繁に行われる。同一打面では、打点を左右に移動させながら剥片剥離を進行させていく。稜上調整は自然面から行われることが多く、残付き縦長剥片がしばしば剥離されている。

この剥片剥離工程によって、主に縦長剥片が生産されるが、大型のものであるほど背面に自然面を有し厚みのあるものが目立つ。接合資料の観察では、本格的な剥片剥離直前までの工程（第281図2・3）と、残核として廃棄される直前段階の剥片剥離の工程を追うことができる資料を得た（同図4～6）。

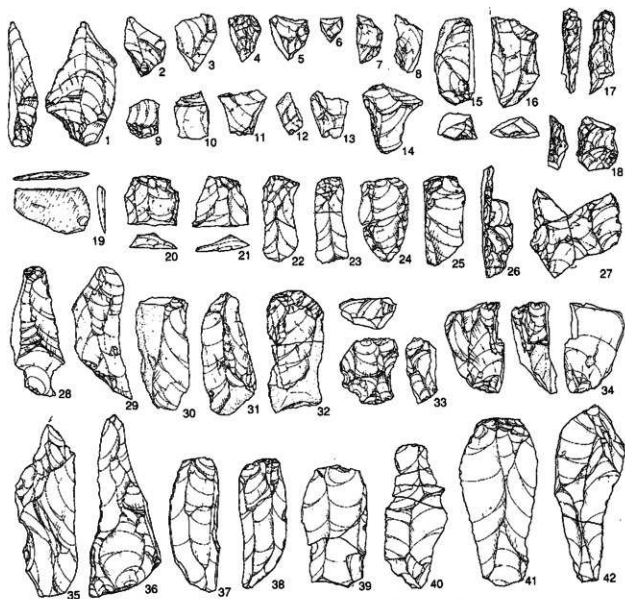
○その他、石核には剥片を素材としたものもあり、その場合、折断面・節理面を打面とし打面転位を繰り返しながら、小型剥片が主に生産される（第279図33・34）。

○主な器種としては台形様石器があるが、台形様石器製作には折断による整形が主に行われ、側縁の一部に微細な調整が施されたものを主に抽出した（第279図2～14）。形態的には、逆三角形・台形・平行四辺形・正方形など様々である。他には、ナイフ形石器（同図1）・搔器（同図15）・彫刻刀形石器（同図16）・削器（同図17・18）等が検出された。

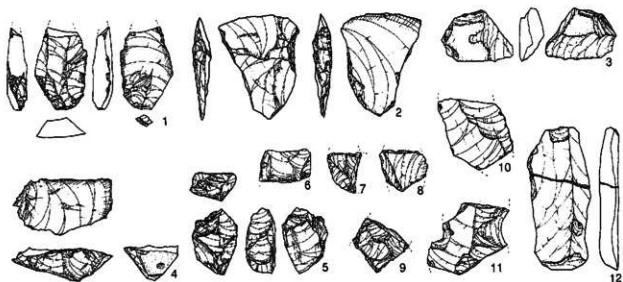
○また、折断面を有する剥片（いわゆる「折断剥片」）は剥片類のおよそ6割を占め、折断面が頭部側・末端側のみのもはそれぞれ149例、上下両端が折れているものは53例、左右どちらか折れているものは65例（左：29、右：36）で、左右両方折れているものは15例となり、はからずも上下左右均等に分散していることが分かる。折断面ではない剥片縁辺に、使用によると思われる微細剥離痕が観察される資料が多数検出されている。「台形様石器」抽出には、微細であっても側縁への調整痕を一つの根拠としたが、これら「折断剥片」と明かな分離が困難であったことは否めない。

空港予定地内で第1文化層の類例を検索すると、本遺跡から南へ約1.5km離れた成田市木の根拓美遺跡（空港No.6遺跡）の第1文化層<sup>24</sup>で、珪晶が散った黒光りする高原山産と思われる黒曜石を主体とする石器群が第2黒色帯下半部（Ⅸ層）中から検出されている（第280図）。同文化層は50点未満の小規模なブロックが4地点で検出されたもので、台形様石器・ナイフ形石器・局部磨製石斧片・楔形石器・「折断剥片」が伴う石器群である。石材は黒曜石を主体として、安山岩・トトロ石が加わり、僅かにメノウも見られる。台形様石器を含め（同図2）、折断による整形が多用され、折断面に調整加工あるいは微細剥離痕が観察される資料が見られるようである。「折断剥片」と呼称されたそれらの大半の刃部には、使用によるものと思われる微細剥離痕が観察される（同図6～8）。本報告では、このような特徴を持つものを含めて「台形様石器」と呼称したわけである。ナイフ形石器についても縦長剥片の打面側を基部として基部周辺に調整を加えたものが検出され（同図1）、本遺跡のものを彷彿とさせる。また、黒曜石を用いた剥片剥離には剥片素材の石核が用いられ、小型剥片生産が主体である（同図4・5）。本遺跡で見られるような原石搬入から始まる縦長剥片を剥離するような工程は見られないが、非黒曜石石器群に見られる一般的な剥片剥離は積極的に行われている。なお、第279図33・34のように黒曜石製の剥片を素材とした小型剥片生産は本遺跡にも見られ、両遺跡の連鎖的構造が窺える。また、本遺跡で非黒曜石石材を用いた石刃が製品として搬入されるような状況は木の根拓美遺跡でも見られ、トトロ石製の縦長剥片（石刃）が1点検出されている（第280図12）。

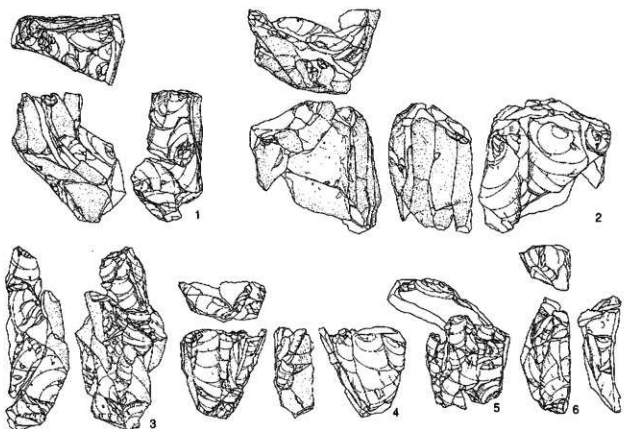
つまり、木の根拓美遺跡における、台形様石器（「折断剥片」）を主体とする黒曜石石器群は本遺跡に内包される特徴を持ちながら、両遺跡に残された石材毎の石器生産工程には大きな違いが見られ、木の根拓



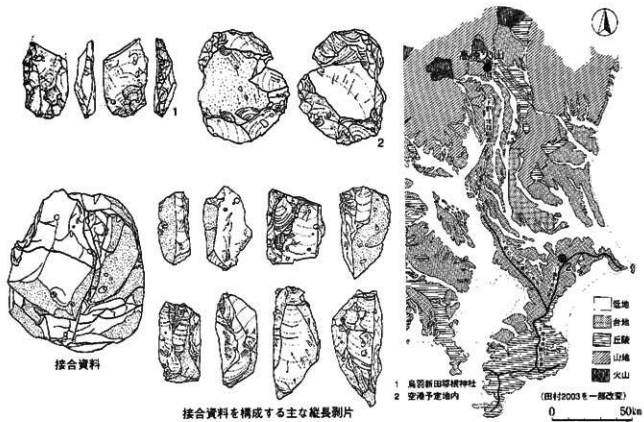
第279図 東峰御幸畑東遺跡 第1文化層 主要石器



第280図 木の根拓美遺跡 第1文化層 主要石器



第281図 東峰御幸燵東遺跡 第1文化層 主な接合資料



接合資料を構成する主な縦長剥片

第282図 栃木県鳥羽新田尊神神社 主要石器

美遺跡で見られるトトロ石や安山岩を主体とした一般的剥片剥離は本遺跡ではほとんど認められない。

木の根拓美遺跡を除くと周辺で、本遺跡と直接的に対比できるような遺跡は見あたらないものの、石刃の搬入・局部磨製石斧の共伴等を考えれば、第2黒色帯下半部のいわゆるⅩ層段階の石器群として位置づけられる。

ところで、栃木県塩谷郡塩谷町の烏羽新田等根神社境内遺跡は黒曜石原産地の高原山の南麓に位置する遺跡で(第282図)、栃木県の旧石器研究史には欠かすことのできない著名な遺跡であるが、泉史編纂室による学術調査が昭和46年に実施されている<sup>3)</sup>。遺跡からは高原山産の黒曜石原石を用いて「石刃技法に似たものを感じさせる」粗雑な剥片剥離により縦長剥片が量産され、検出された石核全てに接合関係が認められるなど(第282図接合資料)、原産地遺跡の様相を示している。ナイフ形石器も比較的厚めの縦長剥片を素材としたものが1点出土している(同図1)。石材利用を含め、本遺跡とよく似た様相をもつ遺跡である。出土層位は「暗色帯」の上部であるが、下総台地の立川ロームとの対比を含めて、今後、両石器群の詳細な比較検討が課題である。栃木県と千葉県を結ぶ「下野-下総回廊」を舞台に当時の人々の頻繁な往還が想定される。

#### 第4文化層

本文化層は立川ローム漸移層(Ⅱc層)～ソフトローム(Ⅲ層)を中心に検出された尖頭器を主体とする石器群である。

○尖頭器は両面調整で器体深部にまで平坦剥離が施されたものと(第283図6・7・15・16・30)、器体深部にまで及ばない急角度調整が施された周縁調整・片面調整・半両面調整のものに大きく二分される(同図8～10・17～19)。田村隆氏によれば前者が「削出し系」、後者が「削取り系」に分類され<sup>4)</sup>、本遺跡では両者が共存する。サイズ・形態には際立った弁一性はないものの、「削出し形」は柳葉形に近く、細身で、5cm～10cm前後の中型サイズが主体、「削取り系」は幅広い木葉系のものも目立ち、5cm前後の小型サイズが主体である。

○「削出し系」には大型の素材が用意されなければならないが、本遺跡では主に扁平鏢をスライスするような分割によってその素材を得ていることが分かる(同図1・2・11)。第283図1→2→3→4→5の順に調整が器体深部に及び、最終的には同図30の様な形態を目指したのであろう。このように製作途中で残されたり(2～4)、欠損により廃棄された(5～7)たものが本遺跡から出土し、いわゆる「完成品」の多くは、遺跡外へ搬出されたのであろう。

○一方の「削取り系」は、「削出し系」による尖頭器製作の際に得られる調整剥片を用いる場合と、一般的な剥片剥離によって生産された剥片を用いる場合が想定されるが(第283図13・28)、やはり「完成品」はなく、ほとんどが欠損品で占められる。

尖頭器以外で注目されるのは、安定した彫刻刀形石器の検出である(同図22～25)。小型寸詰まりのもので、器体短軸方向に調整を施して打面とし、長軸方向に平行して彫刻刀面が形成された特徴的なものである。今後、類例の検索が課題である。

○石材構成は安山岩A(いわゆる「黒色緻密質安山岩」「ガラス質黒色安山岩」と呼ばれているもの:同図1～10・12・13)、珪質頁岩B(嶺南産の珪質頁岩:同図14～29)で全体の約6割以上を占め、ほかにホルンフェルス(同図30)・流紋岩(同図11)などが用いられている。安山岩A・珪質頁岩Bの両者とも



に尖頭器製作に供されるが、ナイフ形石器・彫刻刀形石器には珪質頁岩Bのみが用いられている。

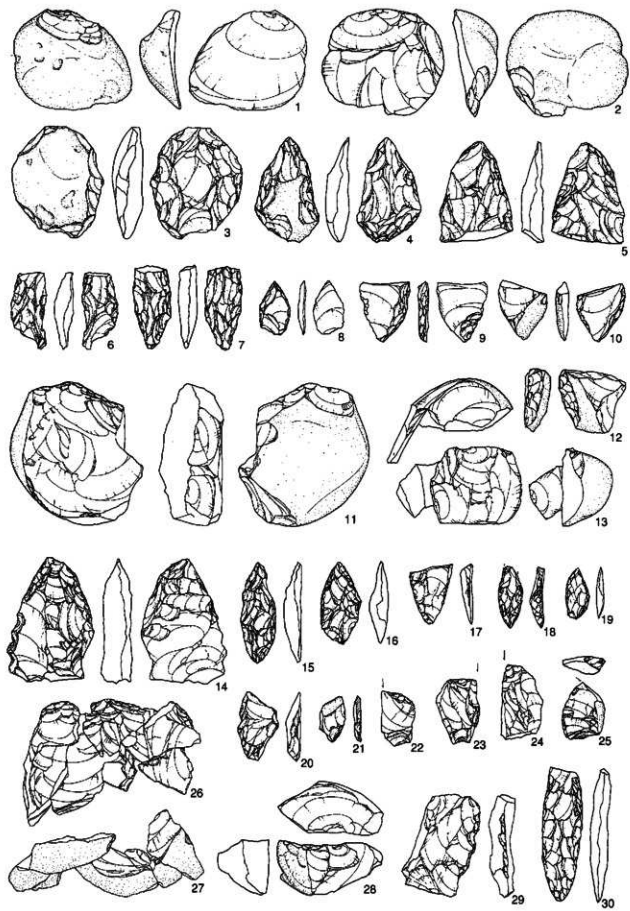
空港予定地内で、尖頭器を主体とする石器群は数多く検出されているが、本遺跡のように漸移層(Ⅱc層)～ソフトローム(Ⅲ層)上部付近から検出され、尖頭器の形態・石材構成等で対比できそうな石器群はそれほど見つかっていない。層位的に近接しているのは、東峰西笠峰遺跡(空港No.63遺跡)一括集中4と十余三種荷峰遺跡(空港No.67遺跡)第5文化層である。

東峰西笠峰遺跡一括集中4<sup>3)</sup>はⅡc層から検出された安山岩を主体とした石器群で、細身の両面調整尖頭器・周縁調整尖頭器と、最大幅が器体下半部にある両面調整尖頭器が検出されている(第285図1～3)。欠損品ばかりの本遺跡とは対照的に完形品が目立つ。小型のポイントフレイクも多量に伴っている。石材は尖頭器・ポイントフレイクともに安山岩Aを用い、スクレイパーと剥片の一部に、安山岩A(同図7・8)以外に嶺岡産の珪質頁岩が用いられている(同図4～6)。

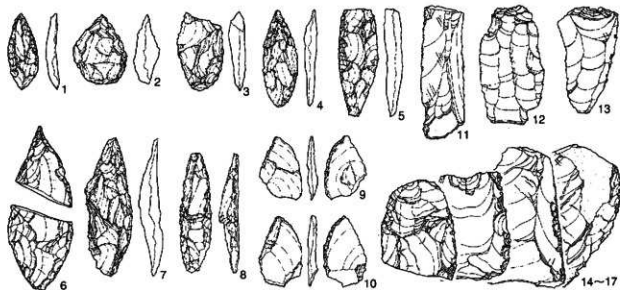
十余三種荷峰遺跡第5文化層<sup>4)</sup>は、石器集中が広範囲に広がり、7ブロックが検出されている。出土層位はソフトローム最上部を中心とする。尖頭器主体のブロックと大型縦長剥片を素材とした削器を主体とするブロックがある。尖頭器は形態・サイズともにバラエティーが豊富で、本遺跡で出土したものを内包する(同図1～10)。本遺跡にはほとんど見られない(唯、第283図29がある)大型の削器が特徴的で(同図14～17)、石刃状の縦長剥片も少なからず検出されている(第284図11～13)。石材は、安山岩Aと嶺岡産の珪質頁岩で大半を占める。

これら両遺跡から検出された石器群は出土層位・尖頭器の形態・石材構成ともによく似た石器群であり、旧石器時代終末から縄文時代草創期への移行期に位置づけられる石器群と理解され、各遺跡での具体的な比較検討については今後の課題である。

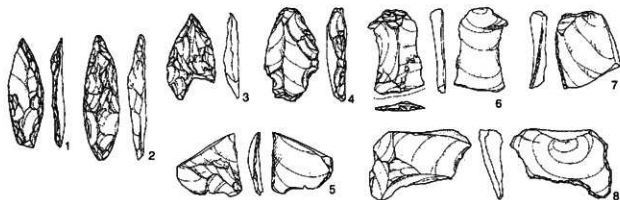
- 注1 田村 隆・国武貞克・吉野真如 2003「下野―北総回廊外縁部の石器石材(第1報)―特に珪質頁岩の分布と産状について」千葉県史研究11号「千葉県史料研究財団」
- 田村 隆 2003「林小原子台再訪―東部関東における長者久保―神子柴石器群―」『考古学』I 安齋正人
- 2 新田浩三他 1995「新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書IX―熊田若兵衛山北遺跡(空港No.11遺跡)」千葉県文化財センター調査報告第264集
- 3 山代 寛 1975「鳥羽新田尊根神社境内遺跡発掘調査概報」『ツツ塚発掘調査概報 鳥羽新田遺跡発掘調査概報 栃木県教育委員会』
- 4 田村 隆 2001「第2章 尖頭器石器群の石材消費戦略」千葉県文化財センター研究紀要22(第千葉県文化財センター)
- 5 水塚俊司他 1999「新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書XI―東峰西笠峰遺跡(空港No.63遺跡)―」千葉県文化財センター調査報告第452集
- 6 水塚俊司 2004「新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書XX―十余三種荷峰遺跡(空港No.67遺跡)―旧石器時代編」千葉県文化財センター調査報告第485集



第283圖 東峰御幸畑東遺跡 第4文化層 主要石器



第284図 十余三稲荷峰遺跡 第5文化層 主要石器



第285図 東峰西笠峰遺跡 一括集中4 主要石器

## 第2節 縄文時代

### 1 遺構

#### 陥穴

23基を検出している。時期を示す遺物を得たものはない。セクションが観察できるものでは新規テフラが掘り込みの上ののっており、縄文時代のものであることが決定できる。同種の遺構は、近世でもシシ落としなどがあるが、それは特殊な例であり、陥穴のほとんどは狩猟を主な生業のひとつとする縄文時代のもと考えたい。細かい時期について決める材料に乏しいが、陥穴というものは集落内には設けられない性格のものなので、居住のあったと思われる包含層の時期以外のものということが類推できる。

形態別にまとめると以下ようになる。

長楕円形のもの 1・3・4・5・6・7・8・9・11・13・15・19・20・21・22・23号………16基

3・6・21号は幅広で、5号は際深。21号には底面にピットがある。

長方形のもの 2・3・10・12・14・16・17・18号………7基

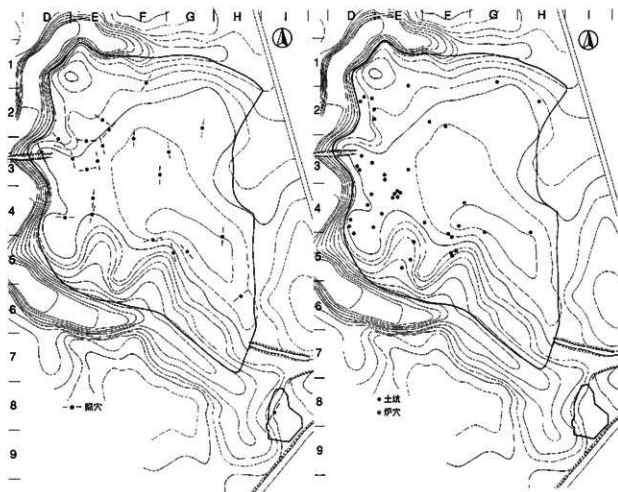
12号は浅く、陥穴かやや疑問のものであり、14号は楕円形で深くなる。全体的に見て平面形は長楕円形主体である。極端に深いものは少ない。長軸が南北方向を指向するものが目立つが、わずかに9・11・15・18号が東西を指向する。向きが谷へ直行するものは1・2・3・7・9・11・15・22号である。また斜面にあり、向きが等高線に平行するものは4・18・19・20・23号である。

#### 炉穴・土坑

明確なもの2基のみを炉穴とした。細長い楕円形で燃焼部が偏る形状から見て第IV群土器の時期ものとしてよかろう。

土坑は40基を検出した。そのうち、焼土を伴ういわゆる焼土跡が37基存在する。炉跡および焼土跡の分布を見ると以下ようになる。

- 2 D区中心……………8～12号土坑の5基
- 3 D区中心……………16～19号土坑の4基
- 4 D・4 E中心……………20～31号土坑の11基、1号炉穴
- 5 Eの谷……………32・36～38号土坑の4基
- 5 F・5 Gの谷まわり……………4・5・33・39号土坑の4基、2号炉穴



第286図 縄文時代遺構の種類配置

燃糸文期の炉跡は地焼炉である。また沈線文期の炉跡は掘り込みが存在しない地焼炉か、掘り込みはあっても浅く、オープンサイトでは明瞭に検出されないことが多い。はっきりとした炉穴として残っているのは条痕文期からである。遺構の記述担当者は認定に慎重であったが、当遺跡で検出された焼土を伴う土坑の多くは、明瞭な痕跡を持つものではないものの、遺物が多く出土する沈線文系（第Ⅲ群）、条痕文系（第Ⅳ群）土器の頃の炉跡（炉穴）と考えたい。37・38号土坑と2号炉穴で第Ⅳ群土器を若干得た程度で、遺物を伴出した遺構はほとんど無いに等しいが、分布的にⅢ・Ⅳ群土器、特にⅣ群土器の分布と重なっていることは傍証になろう。

## 2 縄文土器

### 第Ⅰ群土器

燃糸文系土器で井草Ⅰ式が主体となっていた。夏島式はわずかにみられたが、それ以降のものはなかった。井草Ⅰ式では16～27の内面上端にも帯状に施文される類があり、43の1点だが外面と口唇部に燃糸文、内面上端に縄文が施文されたものもあった。これらは栃木県大谷寺洞穴<sup>71</sup>出土で知られる表裏縄文土器に関連するものと考えられる。従来、表裏縄文土器は山田町山倉大山遺跡<sup>72</sup>での出土が知られていたが、最近では南側に隣接する香山新田新山遺跡<sup>73</sup>でも内面に幅広く施文された例が明らかにされている。11～14のようなまた押し縄文を持つものも出土も、大谷寺洞穴出土例にもある。内面上端に施文される類は木更津市の下根田A遺跡<sup>74</sup>の出土がある。本遺跡例と比べ幅が広いものがある。また表裏燃糸文の土器の出土がみられる。

なお、現在整理中の十余三稻荷峰遺跡では、表裏燃糸文の施文された個体が出土している。表裏燃糸文の土器は佐倉市大作遺跡<sup>75</sup>で出土している。これらの資料は井草式の成立を考える上で、注目されるものであろう。

### 第Ⅱ群土器

押型文土器で燃糸文期末から沈線文期に伴うもので、多くても3個体分の出土しかない。山形のものには胎土が特殊な際を含むものあり、数人品とみられる。十余三稻荷峰遺跡ではかなり量の押型文土器が出土しており、単に遺物が運ばれてきたというだけでは説明が難しい面がある。

### 第Ⅲ群土器

沈線文系土器である。三戸式土器は量が少なかった。田戸下層式は横位文様帯をなすものが主で、東北地方南部の明神裏Ⅲ式相当ものも少量あり、田戸下層式でも後半以降のものが主体となっている。田戸上層式では沈線区間に貝殻緑文を充填するような、前半期に当たる東北地方の常世式に類似したものが主体で、出土量は結構あった。

また繊維を含まない無文土器が約1割ある。これは分布状況を見る限り第Ⅲ群(沈線文系)のものが多そうだ<sup>76</sup>。無文で胎土に繊維を含むものが約2割存在するが、型式所属判定が難しい。隆線文のものや円形刺突文のもの、無文で口唇に刻み目を持つものは子母口式土器と近いもの、あるいは子母口式のものと思われる。分布的にも第Ⅳ群土器と共通してる面が多い。

また151の細かい条痕文を地文とし、短条線を施されるものは、胎土も異なり在地品とは異なる。短条線ではなく、連続した腹緑文の施文という違いはあるが、東北地方南部の大寺式土器に類似している。<sup>77</sup>

香山新田新山遺跡では条痕を地文に口縁に腹縁文を縦列させるものが出土している。大守式の影響を受けて周辺で成立したものが入ってきたのであろうか。

#### 第Ⅳ群土器

条痕文系土器で、総量で6割近くを占め、最多である。その7割強は条痕文のみのものであり、子母口式や、条痕がたまたま明瞭でなく繊維無文土器に混入しているものを含めれば、さらに比率が増す。子母口式土器は出戸上層式の無文のもの、及び茅山上層式の連続刺突文を持つものと区別し難く、その中に混入している可能性はあるが、そうとしても総量はごく僅かである。

野鳥式土器では微隆起線の文様帯をなすものがあつた。これらの土器は木の根拓美遺跡で出土して（木の根第Ⅲ群第a種）で注目されたもので、微隆起線文で幾何学的文様を施す、東南北部の覆木下層式に近似するものである。安孫子氏はこの類に木の根A式を設定している<sup>16</sup>。おそらく、出戸上層式や子母口式の微隆起線文や格条体圧痕文を持つものと関わりがあり、一般的な野鳥式との橋渡しの型式で、東北地方との関わりが強い中に生まれた、野鳥式古段階のものであろう。

また本遺跡では野鳥式（新）と鶺鴒台式との中間的なものが充実していた。十余三稲荷峰西遺跡と共通している。野鳥式と鶺鴒台式とは破片では区別がしづらい。野鳥式と鶺鴒台式との境をどこに求めるか、区画沈線の交点に刺突文を持つようになる段階で区別する考え方があり、一方に明瞭に第一文様帯と第二文様帯との境に無文帯が形成される段階を鶺鴒台式の始まりとする考えもある。今回は前者の基準に基づいたが、両者ともお互いに分けづらいものが存在し、一長一短である。文様構成や器形も加味して総合的に判断する必要があると思われる。田中氏の城ノ台南貝塚の考察が参考になる。いずれにしても、漸進的に変化していったことはいえよう。十余三稲荷峰遺跡でもかなりの量が出土しており、その結果を見て再構成する必要があろう。

また茅山上層式の時期の土器が充実して得られたことは特筆される。バラエティーに富んでおり、他遺跡のものも加えて、集成し分析する必要がある。今回の成果のなかに爪形文を持つ99の東海地方の粕畑式土器や隆起線を持つ154～156の上ノ山式土器に近似したものが出土している。同様の粕畑系の土器は芝山町井森戸遺跡でも出土しており、これらはこの地域に西の地域の影響があつたことを示している。このあたりは神奈川県の横浜市臼久保遺跡<sup>14</sup>や横須賀市吉井城山遺跡<sup>17</sup>で好資料がある。

#### 第Ⅴ群土器

第Ⅴ群以降の土器は出土量が少なく、まとまりはあるものの、散発的な出土を見せる。遺構も確実に伴うものはない。第Ⅴ群土器は前期の土器で、黒浜式は斜縄文のものを主に、数個体が分散して出土した。浮島・興津式は量的に少なかったが、興津式の条線文のもの、前期末では異条斜縄文に結節と鋸歯状沈線文をもつ十三菩提式併行と思われるものの存在が目立つ。

#### 第Ⅵ群土器

中期は五領ヶ台式が主体で、なかでも五領ヶ台Ⅱ式の出土量は多く、復原できるものが3個体あつた。当遺跡の東側にある香山新田新山遺跡では、阿玉台式の半完形土器が出土するなど、この地区での中期初頭の時期はまとまりのある出土をみせている。両遺跡とも伴う時期の遺構は検出されておらず、包含層出土で状況が明確でないのが残念である。

#### 第Ⅶ群土器

後期称名寺式。堀之内2式安行式などで、個体数も少なく、限定的であるが、割合大きな破片が得られ

ている。この地区では、集落は検出されていなくても、完形に近い土器が単独的に出土する傾向がある。時代が新しいため土器が比較的散乱しないのだろうか。また埋壙のような土器を埋納する習慣の結果か、あるいは小グループでの一時的な移動の際に投棄された結果とみることもできよう。

### 3 石器

東峰御幸地蔵遺跡（空港No62遺跡）では、包含層中から縄文土器とともに同時代に属すると考えられる多量の石器が検出された。分布状況から5つのエリア（A群～E群）に分け本文でそれぞれを検討した。D・E群は点数が少なく検討に耐えられないが、A～C群については、多量の石鏃をはじめ充実した内容を示している。

A～C群の器種構成・石材構成・石器製作の検討から、石器群はA・B群とC群に以下の特徴を持って大きく二つに分離されることが分かった（第220図）。

A・B群：石鏃と楔形石器がほぼ回数もしくは、楔形石器が石鏃を上回る。

石材はチャートを主体とし、安山岩・黒曜石がこれに加わる。

両極剥離による剥片剥離生産が主体である。

剥片は長幅0～10mm以下のものが1割以下しかない。

同分布域には主に早期燃糸文～早期沈線文系土器が分布している。

C群：石鏃が圧倒的多数を占める。石錐・石匙が組成に加わる。石核が多量に検出される。

石材は黒曜石が圧倒的な割合を占め、これにチャート・安山岩等が僅かに伴う。

黒曜石製小型角礫を用いた剥片剥離が主体を占める。

剥片は長幅0～10mm以下のものが4割強を占める。

同分布域には主に早期条痕文系土器が分布している。

それぞれのエリアで分布域が重なる土器群をもって石器群の所属時期を考えれば、この両石器群の違いはすなわち時期差を示していると理解される。筆者はかつて空港予定地内の成田市天神峰最上（空港No.64）遺跡から検出された沈線文期・条痕文期に形成された石器群の検討を行い、4つの廃棄パターンを見いだした。これに、パターン5を加えて、縄文時代早期前半～後葉にあたる空港予定地内の遺跡についてまとめたのが第52表である。

パターン1：石核＋ツール＋剥片＋砕片

パターン2：ツール＋剥片＋砕片

パターン3：ツール＋剥片

パターン4：ツール＋砕片

パターン5：ツール

各遺跡の状況を概観すると、燃糸文期～沈線文期かけては楔形石器の安定した組成、チャート・安山岩の多用、両極剥離の多用という点で各石器群において極めて似た状況を呈しており、上述した本遺跡A・B群で見た特徴と同じである。ただし、燃糸文期における石斧、沈線文期における石核の比率が高いことも表から窺えることから、各時期における特徴を抽出する必要もあろう。前者は、特に木の根拓美（空港No.6）遺跡にて、局部磨製石斧・打製石斧が合わせて44点検出され、注目されたが、燃糸文期全般にその傾向があったことが分かる。この時期の廃棄パターンはパターン1～3・5が特に偏ることなく各遺

跡・ブロックに見ることができる。

糸痕文期になると、石鏝の比率が爆発的に増加、楔形石器の比率が激減し、圧倒的に黒曜石が用いられていることがわかる。東峰御幸畑東遺跡C群・古込遺跡B地点を代表とする。この時期の廃棄パターンはパターン1とパターン4に偏る。

また、熱糸文期・沈線文期・糸痕文期の3時期のなかで、2つの時期の土器分布が重なって検出されたため、石器群の時期が限定できなかったものが少なからずある。重複する場合は例外なく、「熱糸文+沈線文期」と「沈線文期+糸痕文期」の組み合わせであることも意味深である。熱糸文～沈線文期は東峰御幸畑東遺跡A群・同B群、東峰御幸畑西遺跡6C一括集中・7B一括集中で、沈線文～糸痕文期は十余三稲荷峰西（空港No.68）遺跡で、各時期の石器群が重なっている可能性が高い。熱糸文期と沈線文期は、先に述べたように一部の器種組成以外の石材構成・剥片剥離技術等、多くの点で類似していることから、両時期の石器群が重なっていても規模が大きくなるだけで違和感がないが、沈線文期と糸痕文期が重なった十余三稲荷峰西遺跡では石材構成や楔形石器の組成比、剥片剥離の特徴等でちょうど両者を併せたような

第62表 周辺の縄文石器出土遺跡一覧

遺跡名	空港№	ブロック・ 集申地点	時期	石鏝	楔形 石器	石斧	石核	剥片・ 剥片	黒曜 石	チャ ート	廃棄パ ターン
木の根拓美	№6		熱糸文期	37		44	1	104		○	2
取香和田戸	№60	H～J地点	熱糸文期	67	3	9	9	192		○	1
三里塚資料牧場			熱糸文期	3		6		13		○?	5
南三里塚宮園	№4		熱糸文期?	15	11	1		43		○	3
一殿田基兵衛山北	№11	第1ブロック	熱糸文期?	4	5			23		◎	3?
		第2ブロック	熱糸文期?	4	2	4		43		◎	3?
		第3ブロック	熱糸文期?	25	26	4	2	120		◎	2?
		第4ブロック	熱糸文期?	6	1	3		17		○	3?
東峰御幸畑西	№51	6C一括集中	熱糸文期～沈線文期		4			56		◎	(3)
		7B一括集中	熱糸文期～沈線文期	1	4		10	113		◎	(1)
東峰御幸畑東	№62	A群	熱糸文期～沈線文期	36	37	3	7	77		○	(1)
		B群	熱糸文期～沈線文期	179	208	6	25	535		○	(1)
古込	№14(2次)	A地点	沈線文期(田戸下層・田戸上層)	3							5
		04J	沈線文期(田戸下層)	5	16	1		135		◎	2
天神峰最上	№64	05J	沈線文期(田戸下層)	5	13		4	253		◎	2
		06J	沈線文期(田戸下層)	4	3		2	43		◎	3
		07J	沈線文期(田戸下層)	20	6		18	214		◎	1
		08J	沈線文期(田戸下層)	1	2			12			3
		09J	沈線文期(田戸下層)	2			3	8			3
一殿田基兵衛山西	№16	南葉中地区	沈線文期(田戸下層)	16	25	2	2	19		◎	3
十余三稲荷峰西	№68	石器集中1	沈線文期～糸痕文期	4	1		3	9			(1)
		石器集中2	沈線文期～糸痕文期	5	2		3	11			(1)
		石器集中3	沈線文期～糸痕文期	4	15	1	1	29		○	(1)
		石器集中4	沈線文期～糸痕文期	4	2		4	15		○	(1)
		石器集中5	沈線文期～糸痕文期	3	11	3	4	72		○	(1)
		石器集中6	沈線文期～糸痕文期	3	10		2	21		○	(1)
古込	№14(三里塚) №14(2次)		糸痕文期	143						◎	1
		B地点	糸痕文期	505		3	24			◎	1
東峰御幸畑西	№51	3E一括集中	糸痕文期	1				67		◎	4
東峰御幸畑東	№62	C群	糸痕文期	598	81	3	213	5759		◎	1
天神峰最上	№64	02J	糸痕文期	3			1	42		◎	4

※石材は黒曜石・チャートのみを取り上げた。点数比で圧倒的多数(片方が一方の10倍前後以上の点数差があるもの)の場合◎、圧倒的ではないが片方が多数(数倍以上の点数差があるもの)の場合○、それほど点数差がないものは空欄とした。



状況を呈していることが明らかとなった。

空港周辺という地域的に非常に限定されたものではあるが、ここまで見てきたように縄文時代早期の石器群の様相は、沈線文期と条痕文期に大きな画期を見いだすことができた。石器群の様相以外にも、条痕文期に現れた特徴的な諸様相が指摘されている。貝塚遺跡の増加・炉穴の発達・ロングハウスの登場等を挙げることができる。当センター刊行の『紀要』19によれば、県内には60前後の縄文時代早期に形成された貝塚が知られている。ところが、燃糸文・沈線文期の貝塚は数例にとどまり、極めて少ないことが分かる。条痕文期にこのように（見かけ上）、爆発的に増加する貝塚についての解釈は諸説あろうが、燃糸文・沈線文期の貝塚は海進の影響で削られて遺跡自体が消滅したり、埋没したため現在遺跡として認識できないということであれば、海進によって、それまで河川流域に存在した転石や段丘下部にあった礫層の多くが海面下に沈んでしまったと解釈することはできまいか。つまり、燃糸文期～沈線文期には容易に手に入れることができたとされるチャートをはじめとする河川の転石・段丘礫層の大部分が、沈線文期の終末には海進によって海面下となり、石材供給源が絶たれてしまった。そこで条痕文期には新たに黒曜石という遠隔地の石材を調達しなければいけなくなったという「ストーリー」である。そのような仮説にたてば、沈線文期と条痕文期の廃棄パターンが異なるのは、石材供給事情が大きく異なるからと推察することができる。つまり、遠隔地石材である黒曜石は頻繁な石材供給が困難であるため、一括して製品若しくは原石・石核を搬入しなければならず、常に必要量以上のストックが必要であった。これが条痕文期における石蔵大量出土の背景である。一方、比較的近隣で採集できたと推測されるチャート等は必要な時に随時石材供給が行われたため、様々な廃棄パターンを遺跡にとどめていたのではないだろうか。チャートの原石は扁平な小円礫であったため、両極剥離による薄片剥離が有効であった。楔形石器についてはそのような石核的機能を有していたものも少なからず含まれると思われる。

あくまで、仮説の域を出ないが、今後、海進の詳細なデータと石材供給地を限定することができれば、当時の人間行動の一端を示せるものと期待される。

#### 4 総括

第Ⅰ群石器では井草Ⅰ式、第Ⅱ群十器では出戸下層式横位文様帯期、第Ⅲ群土器野鳥・鶴ヶ島台式が土器分布の主体であり、炉穴や炉跡と思われる遺構が多数存在する。堅穴住居跡は検出できなかったが、遺物量の多さ、石蔵製作跡の存在からも、これらの時期には定住の要素が濃いと見える。また陥穴の存在は、縄文時代の一定時期には、猟場として機能していたことを物語るものである。

注7 埴静夫 1976 大谷寺洞穴遺跡 栃木県史考古資料編Ⅰ 栃木県

8 藤原正 1983 山倉大山遺跡調査概報 北総考古学研究会

9 石倉亮治・鳴川浩司・水塚俊司 2002 『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅦ 香山新田新山遺跡（空港No.10遺跡）・稲荷峰西遺跡（空港No.68遺跡）』千葉県文化財センター調査報告第417集

10 安藤道由・中能 隆 1996 『上ノ山A・上ノ山B・下根田A・下根田B・御所塚遺跡』神奈川県文化財センター

11 藤崎芳樹 佐倉市人作遺跡 1990 『佐倉市人作遺跡』千葉県文化財センター調査報告第172集

12 厳密に見ると、子母口式に含めた方が良いものもあるかもしれないが、検討するには量が少なく、今回は保留した。

13 馬目順・他 1982 『竹之内遺跡』いわき市埋蔵文化財報告 第8冊 いわき市教育委員会

山中 敏ほか 1986 『富作遺跡発掘調査概報』福島県立博物館調査報告第13集 福島県教育委員会

- 14 安孫子昭二 1982「子母口式土器の再検討」東京考古1  
 15 岡本東二・井上 賢ほか1994「城ノ台南貝塚発掘調査報告書」千葉大学文学部 考古学研究報告 第1冊 千葉大学考古学研究会  
 16 松田光太郎・井辺一徳・田村祐司1999「臼久保遺跡」芹沢配水池建設にともなう発掘調査 かながわ考古財団調査報告60  
 17 野内秀明・鈴木啓介1999「吉井城山」—神奈川県指定遺跡「吉井貝塚を中心とした遺跡」史跡整備事業に伴う確認調査の記録— 横須賀市文化財調査報告書 第34集

### 第3節 弥生時代

東峰御幸畑東遺跡の弥生時代の遺構は、4軒の住居跡が検出されている。1号住居跡出土の変形土器は底部付近まで縄文が施されており底部には木葉痕が認められ、いわゆる北関東系といわれる系統の土器である。

2号住居跡から4号住居跡は伴出する遺物が無い

ため時期を特定することはできない。

また、第254図の遺物は

いずれも遺構外の出土であるが、

7・13は折り返しの複合口縁を持ち口唇部や口縁部に縄文を施した

弥生時代後期土器の特徴が見られる。

また、6は複合口縁と撓面による

撓面並行沈線による縦区画とその間を充填する斜方向の

条線文が特徴的で、縦区画の中に条線文が充填されるのは

あまり例を見ないが印旛・手賀沼地域に普遍的に出土する

一連の北関東系の弥生土器の範囲にあるものと考えられる。

住居跡出土の遺物はきわめて乏しいが、

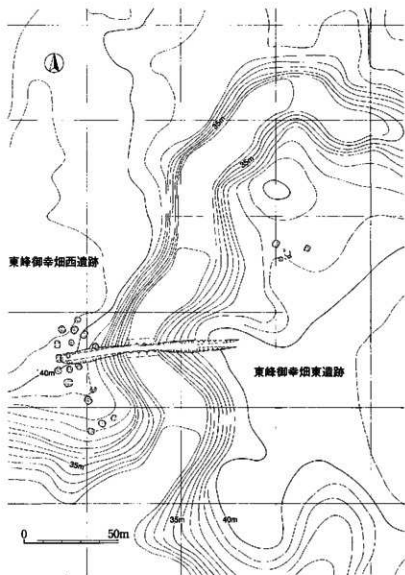
4軒の住居跡周辺から出土した上記の土器から

当遺跡の時期は弥生時代後期として理解される。

東峰御幸畑東遺跡の西側の谷津を挟んで

同西遺跡にも弥生時代の集落が検出されている。

印旛沼周辺の弥生時代後



第287図 弥生時代住居跡分布図

期の集落の多くは3軒から4軒ほどの規模で検出されることが多く、当遺跡の4軒の弥生時代後期の集落もこうした事例を踏襲する結果となっている。対岸に位置する東峰御幸畑西遺跡の弥生時代集落の構成軒数は比較的多く18軒が検出されているが方形周溝墓等の墓域や環濠を伴わない。また、房総半島各地の弥生時代の一般論としては、佐倉市大崎台遺跡に見られるように大きな集落が形成されるのは弥生時代中期の頃とされている。環濠に囲まれた台地上で大規模な集落が形成され、近接する区域に数基の方形周溝墓を伴う集落構成は、後期になると変容し始める。集落は環濠から外の区域へと展開を始め、3軒から4軒という小さな規模の集落が数時期にわたり営まれる状況が飯重新畑遺跡<sup>18)</sup>・間野台遺跡<sup>19)</sup>・古屋敷遺跡<sup>20)</sup>・西ノ台遺跡<sup>21)</sup>等の調査で検証されており、東峰御幸畑西遺跡の18軒の住居跡も本遺跡と同様な規模の集落が数時期にわたり営まれた結果である可能性が高い。

新東京国際空港周辺におけるこれまでの埋蔵文化財調査の結果では、弥生時代の集落の存在はきわめて希であり、現在までに明らかになっているのは東峰御幸畑西・同東の両遺跡のみである。当遺跡の4軒の住居跡がどのような原因で、時期のみの存在となったかを示す資料は検出されていないが、両遺跡はこの谷津に近い台地の縁部に展開しており、どちらの集落も谷津を意識した選地であることは明瞭である（第287図）。谷津は北から南に向けて開いており、この谷津における水田や耕地の展開との関わりの中で本遺跡の性格を検討する必要があることを指摘しておきたい。

注18 桑原 謙他 1974「飯重新畑」佐倉市遺跡調査会

19 桑原 謙他 1977「間野台・古屋敷」間野台・古屋敷遺跡調査団

20 注19文献

21 1976 米内邦雄他「志津西ノ台遺跡」佐倉市埋蔵文化財報告（2）志津西ノ台遺跡調査団

#### 第4節 古墳時代後期から奈良時代初期

台地上から、竪穴住居跡14軒、スラグ溜まり1基を検出した。竪穴住居跡の時期は、出土遺物が比較的少ないため慎重に分析する必要があるが、概ね8世紀初頭を中心とする数十年の幅の狭い時期に当てはまるであろう。竪穴住居の分布状況は、遺跡北東端の西側の谷に面する台地先端に10軒、そしてその群より離れて、南約100mの地点に3軒を確認した。ここは、南側の深い谷津に向かって緩やかに傾斜する斜面上に位置する。一方、谷津を隔てて西側に対面する東峰御幸畑東遺跡（空港No.61遺跡）では、当遺跡の北側の竪穴住居跡群と谷を隔てた対面に4軒の竪穴住居跡を確認している。出土遺物から比較すると、両者はほぼ同一時期に存在していたものと考えられる。一方、南に傾斜する谷に面した一群では、住居内覆土中から数多くの鉄滓が出土した。北側の一群の竪穴住居跡からは鉄滓は出土していないことと全く対照的である。この状況は、東峰御幸畑西遺跡の南側の竪穴住居跡群の様相と非常に良く似ており興味深い。しかし、東峰御幸畑西遺跡の南側の竪穴住居跡群の南側急斜面には、精錬関連の遺構が存在するが、当遺跡では、その南側をはじめ台地斜面部に同様の遺構を確認していない。また、当遺跡の南側の竪穴住居跡から出土した鉄滓は分析の結果、炉内滓と小鉄塊を主体とするもので、住居内に精錬・鍛冶を行った痕跡がないことから、最終的に不要となった鉄滓を廃棄したものと考えられる。斜面に沿って3つの遺構（16号竪穴住居・17号竪穴住居・スラグ溜まり）がほぼ同時期に廃棄され埋没していく過程で、廃棄坑（谷津）として使用されたのであろう。東峰御幸畑東遺跡でも、精錬を終えた鉄を台地上に運び上げ、選別を終了

した後の不要となった鉄滓の一部が、廃棄された堅穴住居跡へ投棄されたことが明らかになっているので、この作業の流れは、共通したものである。

ところで、この鉄滓の生産地については、より上位に東峰御幸畑西遺跡で見られた鉄滓の選別場を伺わせるような、多量の鉄滓が集中するような場所を検出していない。したがって、これら鉄滓が東峰御幸畑西遺跡の製鉄遺跡で生産されたと考えるしかない状況にある。

## 第5節 中・近世

中・近世の遺構には方形堅穴状遺構4基、野馬土手1条、溝状遺構13条がある<sup>22</sup>。

1号方形堅穴は、覆土中（最上面）から若干の鉄滓が出土したこと、2か所で炭化材が検出されたことで、全く時期の異なる古墳時代後期から奈良時代初期の製鉄関連の遺構との関連も想定されたが、十余三船荷峰遺跡をはじめとした中近世遺跡でも、時々検出される形態であることを考慮し、当該期の遺構と判断した。また、3号堅穴状遺構は13号溝と密接に関連する遺構である。すなわち、13号溝は道路遺構で、ここを通過して、3号方形堅穴状遺構に出入りしていたものと判断される。この周辺には、住まいの痕跡がないので、畑地か野馬の放牧に関連した遺構であろう。

野馬土手は台地斜面部にわずかにその痕跡を残すのみで全体を知ることは困難である。ただし、明治15年測量陸軍迅速図には当時この辺りに野馬土手があったことが記されている。それと位置・方向がほぼ一致するので、この野馬土手はその一部が残ったものであろう。ちなみに、迅速図の野馬土手の方向と一致する遺構を探すと、遺跡南の7号・8号溝という平行に延びる2条の溝状遺構が奇しくも一致する。7号溝は8号溝と共に1号野馬土手に続くのであろうが、1号野馬土手には溝状遺構が伴わない。おそらく、これらの遺構は同時期に有機的に機能していたものであろうが、築造された時期や機能の違いによって築造方法も異なるのであろう。そのため、発掘調査の資料からは同一遺構と捉えにくくなってしまっている。

この2条の溝はさらに東側に続き、香山新田新山遺跡の4号、5・6号溝とつながって、下総国と上総国との境となっている土手まで続く。この7号・8号の両側溝を伴うとみられる土手は、台地を東西に区切る形で迅速図に明瞭に描かれており、古図や他の牧土手の区画具合からみて、矢作牧の南端を区画する土手の一部と思われる。

2号溝は東峰御幸畑西遺跡の13号溝に、3号溝は同じく12号溝に連続し、さらに谷を渡って迅速図の土手に合致している東峰御幸畑西遺跡1号、2号溝へと連続する。

なお、先述の「佐倉七牧大絵図」では、牧塙の土手に付属して矢作牧の捕込跡があったことが記されている<sup>23</sup>。その図から位置を推定すると、本遺跡と古込遺跡とにかけての部分になるか、本遺跡や古込遺跡での調査では該当する遺構の検出はなかった。

注22 野馬土手推定ラインの外側、台地縁辺部で圓環形をした炭層が検出されたが、牧廃絶後で近代以降のものとして報告から除外した。また、厳密に言えば溝状遺構がすべて中・近世のものとはいきれないが、伴出物がないのでやむをえず、中・近世で取り扱った。1号・4号溝は規模や方向からみて迅速図にある土手とは関係がなさそうである。

23 矢作牧捕込跡の一つとして、古込地区が比定されている。この地区にはすでに古込込前遺跡があるので、それが相当するのではないかと。「三里塚」や「酒々井町史」ではこの捕込跡を取香牧のものとしているが、明治初期の「取香牧図」では牧の範囲に込前や古込地区は入っていない。ただ範囲や境界が年代により、変遷することも考えられるので、検証が必要だろう。



東峰御幸畑西遺跡

東峰御幸畑東遺跡

古込遺跡

香山新田新山遺跡

古込

第288回 迅速園と遺跡周辺馬土手・溝の配置

迅速園上の土手

○ 遺跡位置

(上) S=1/5,000

(下) S=1/20,000

古込前遺跡 (堀込跡)

# 写 真 图 版





空撮写真  
(確認調査時)



遠景 (南より)



遠景 (北より)





石器集中1



石器集中1  
セクションベルト除去



石器集中1  
左：近接  
右：遺物出土  
状況



石器集中2

石器集中 3 (南)



石器集中 3 (南)



石器集中 3 (北)



石器集中 4





石器集中 5



石器集中 6



石器集中 7



石器集中 9・14



石器集中10

北東



石器集中11

南西



石器集中12

南東



石器集中15

南西



2号陥穴

北より



2号陥穴  
セクション

北より



3号陥穴

東より



4号陥穴

北東より



5号陥穴

北より



6号陥穴

北より



7号陥穴

北より



8号陥穴

南より



14号陥穴

北より



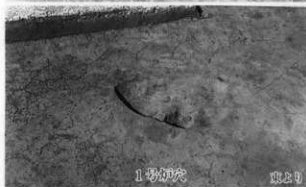
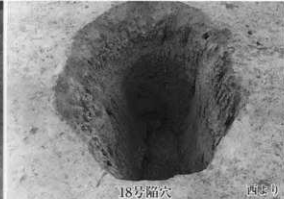
15号陥穴

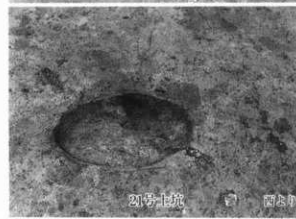
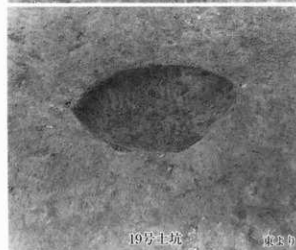
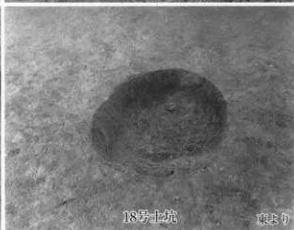
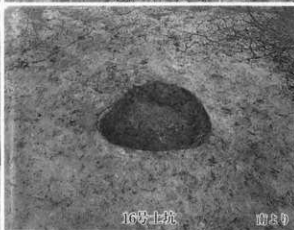
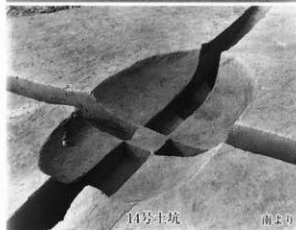
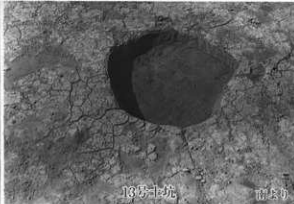
西より

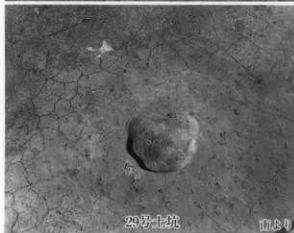
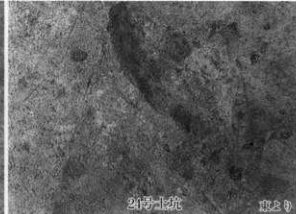
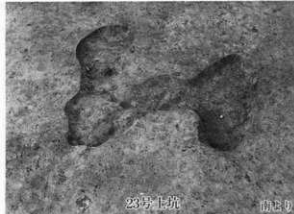


16号陥穴

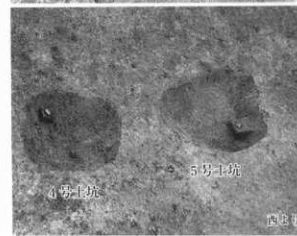
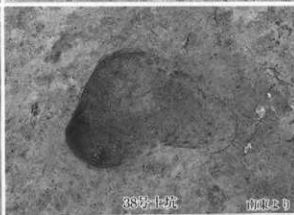
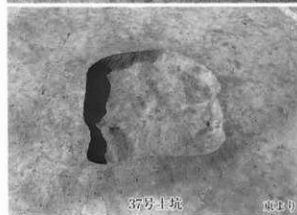
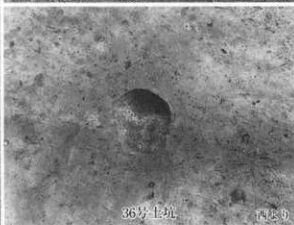
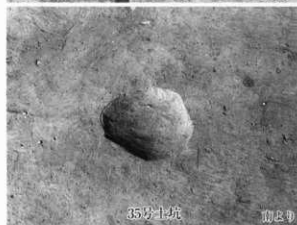
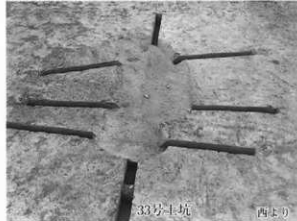
南より







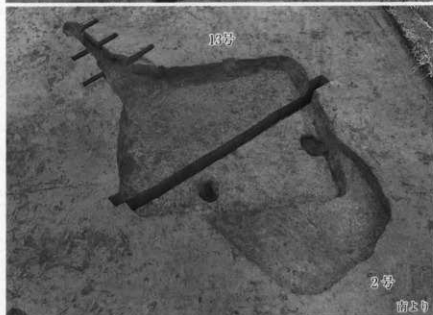




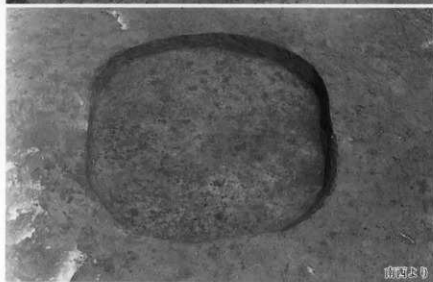
1号竖穴住居



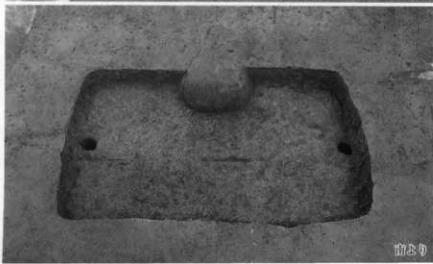
2号竖穴住居  
13号竖穴住居



4号竖穴住居



5号竖穴住居





5号竪穴住居カマド

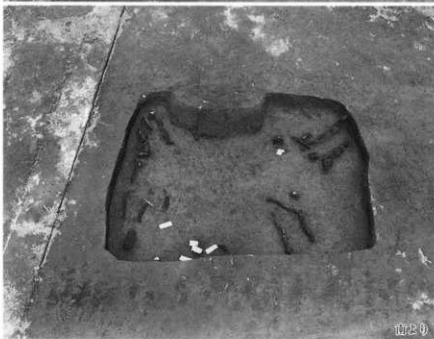


6号竪穴住居カマド



北より

6号竪穴住居



南より

7号竪穴住居



7号竪穴住居カマド

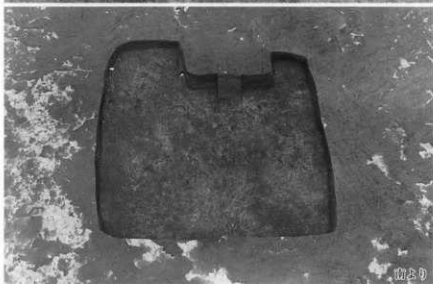


7号竪穴住居炭化材出土状況



8号竪穴住居

0150

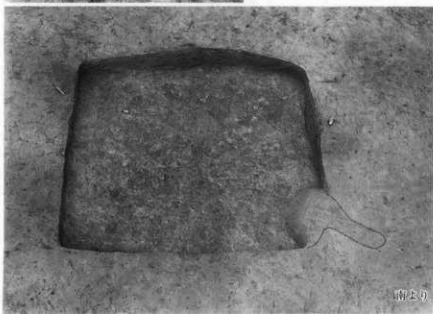


9号竪穴住居

0150

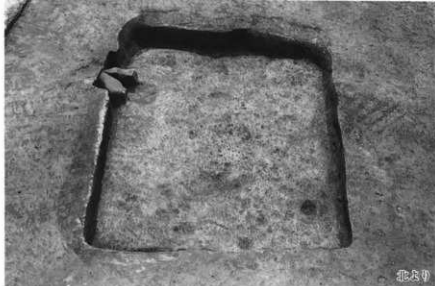


9号竪穴住居カマド

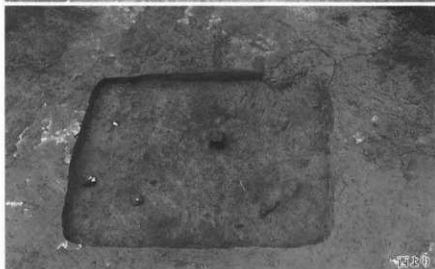


10号竪穴住居カマド

0150



11号竖穴住居



12号竖穴住居



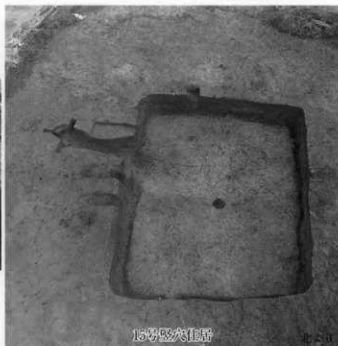
13号竖穴住居



14号竖穴住居



15号竪穴住居カマ下



15号竪穴住居



16号竪穴住居



16号竪穴住居カマ下



17号竪穴住居カマ下



17号竪穴住居



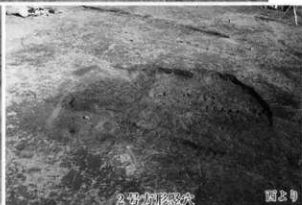
18号竪穴住居

南より



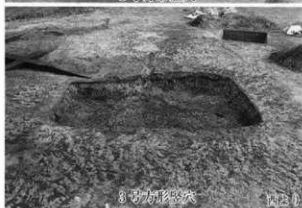
1号方形竪穴

南西より



2号方形竪穴

南より



3号方形竪穴

南西より



4号方形竪穴

南西より



スラグ溜り

北より

1号馬土手



1号馬土手, 1号溝



1号溝



2号溝, 3号溝, 13号溝







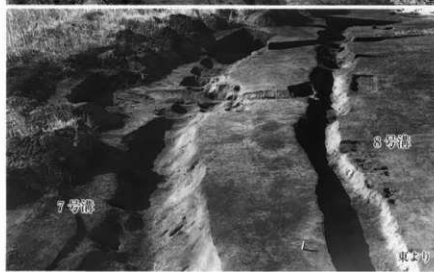
2号溝, 3号溝



5号溝



6号溝



7号溝, 8号溝

10号溝



11号溝, 12号溝

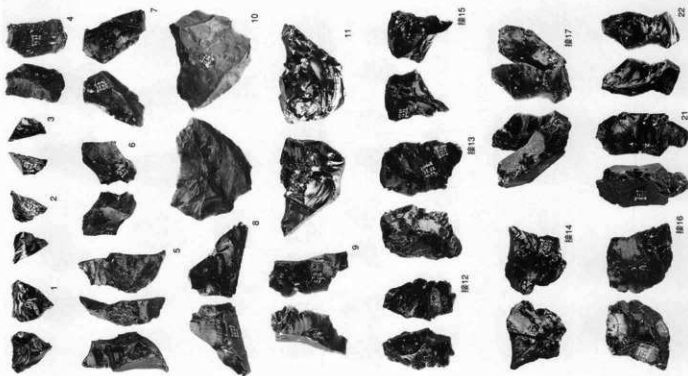


11号溝

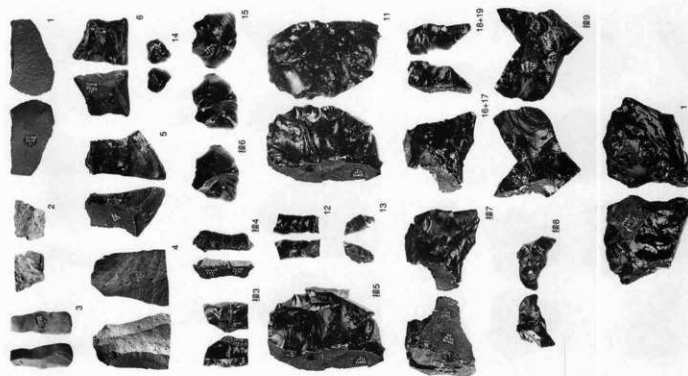


11号溝セクション





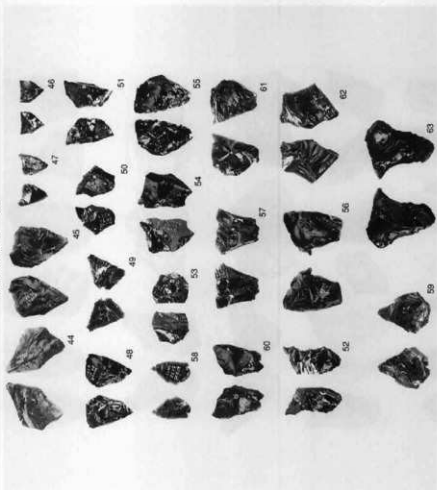
石器集中3-北(1)



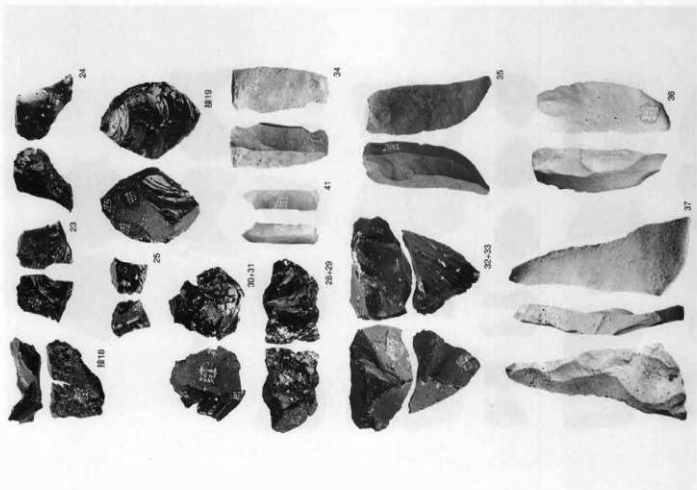
石器集中1(上段), 石器集中2(下段)



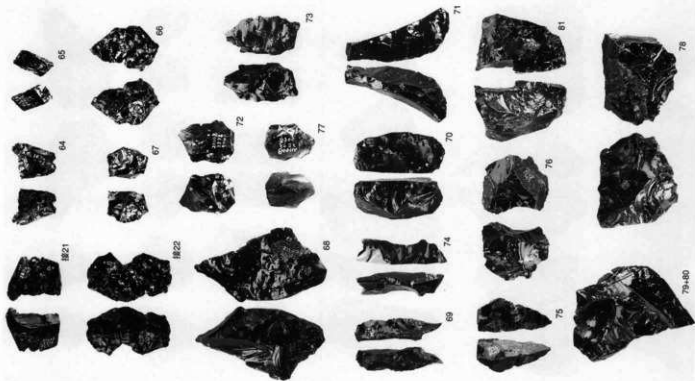
石器集中3-北



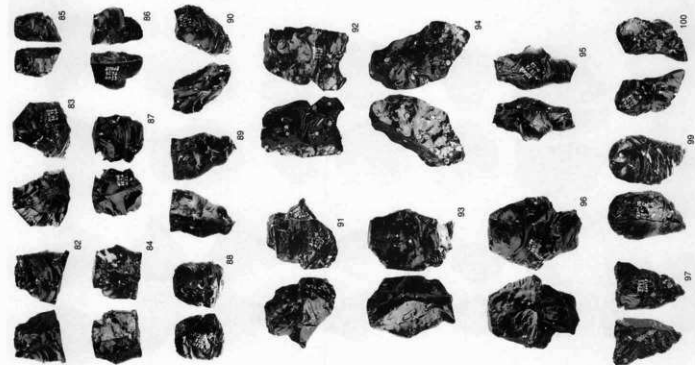
石器集中3-南(1)



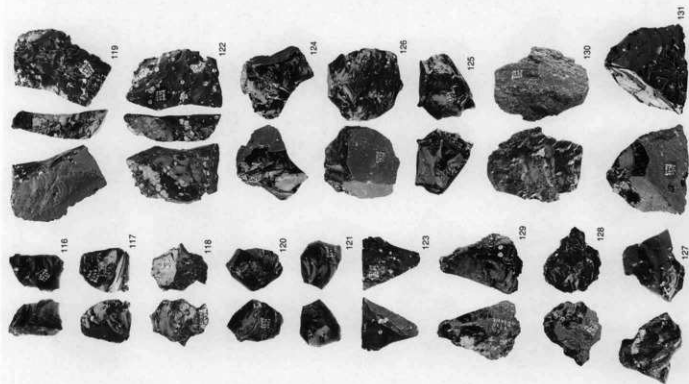
石器集中3-北(2)



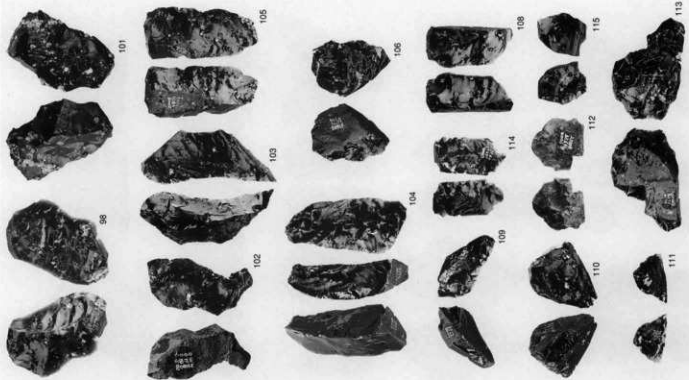
石器集中3-南(2)



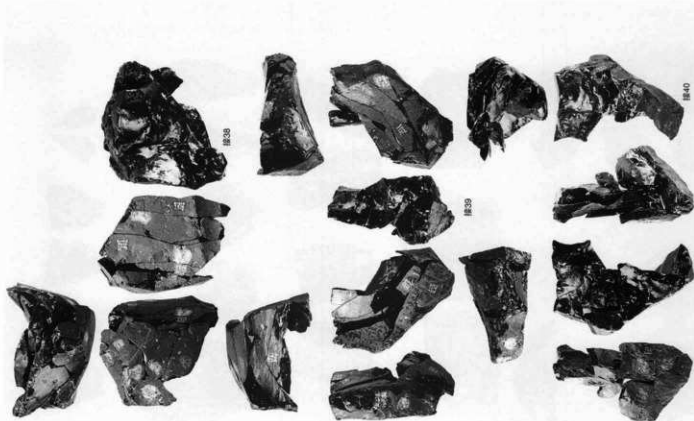
石器集中3-南(3)



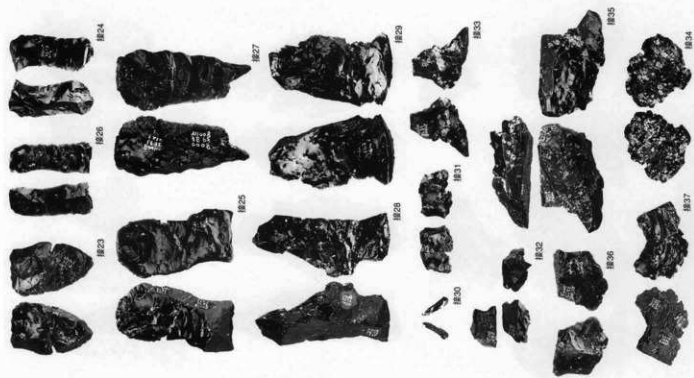
石器集中3-南(5)



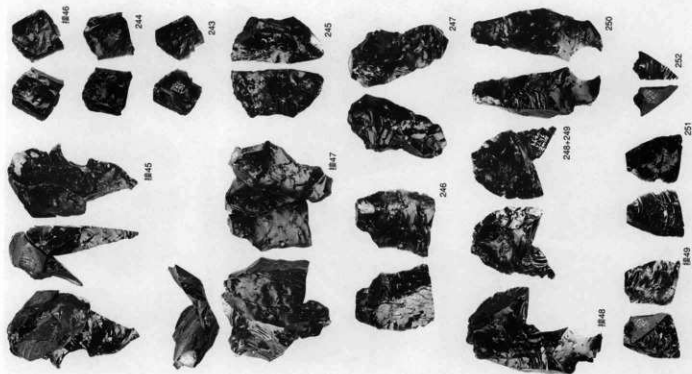
石器集中3-南(4)



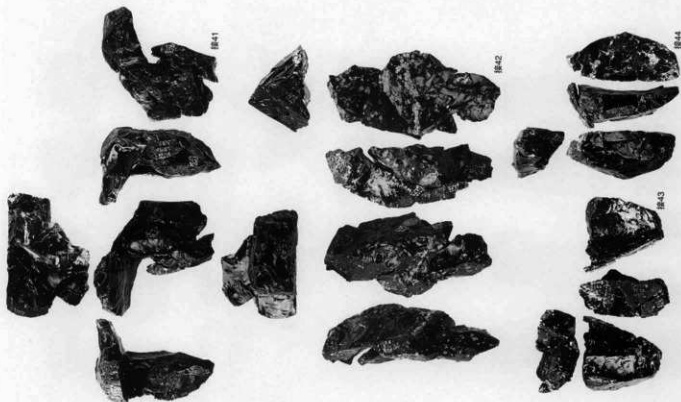
石器集中3-南(7)



石器集中3-南(6)

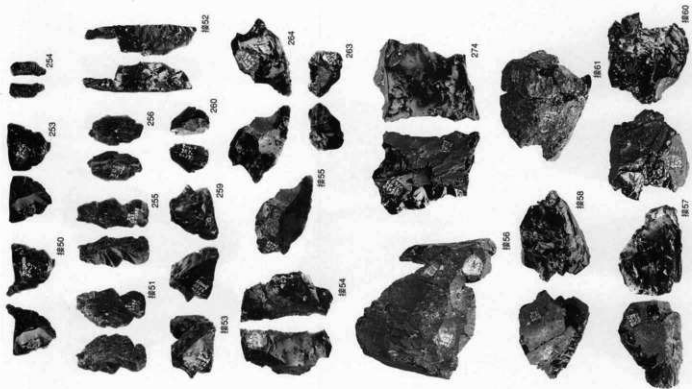


石器集中3-南(9)

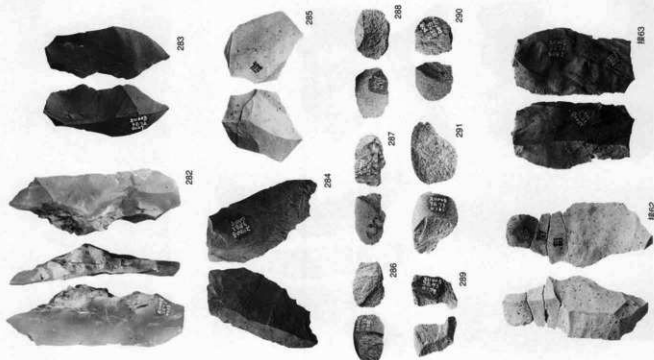


石器集中3-南(8)

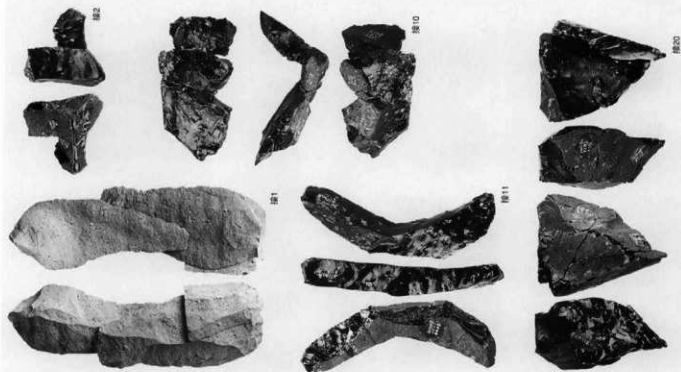




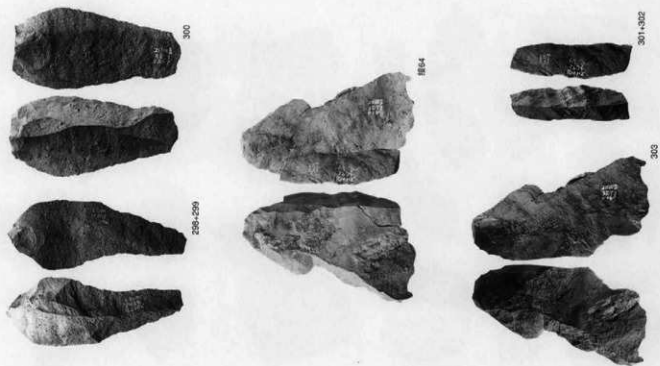
石器集中3-南(10)



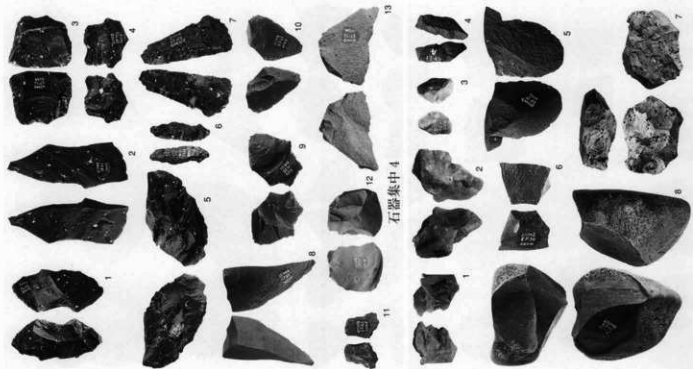
石器集中3-南(11)



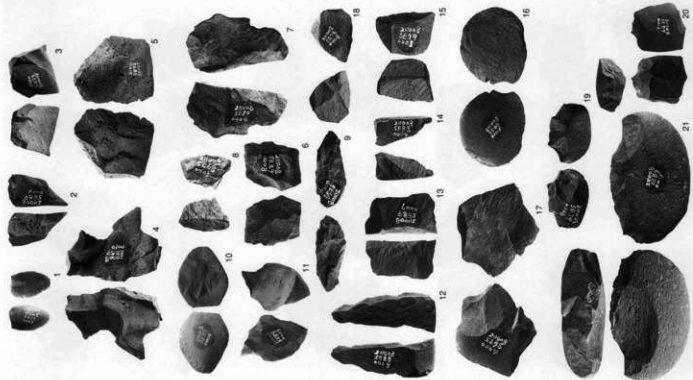
石器集中間接合資料 (石器集中1・2・3北)



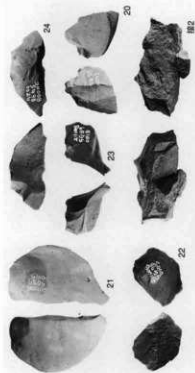
石器集中3-南 (12)



石器集中 5



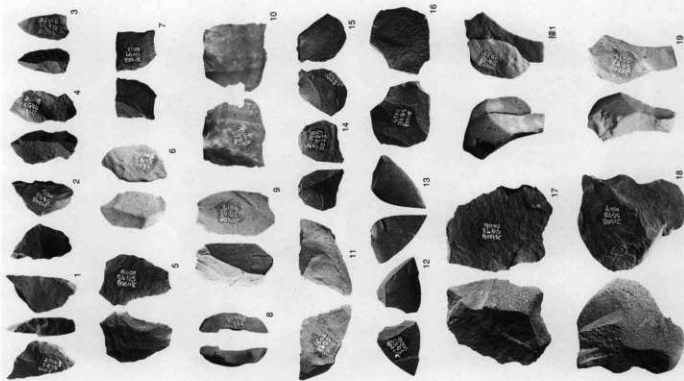
石器集中 6



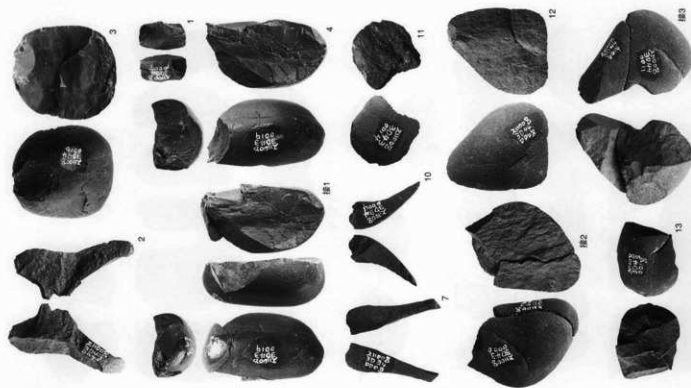
石器集中7(2)



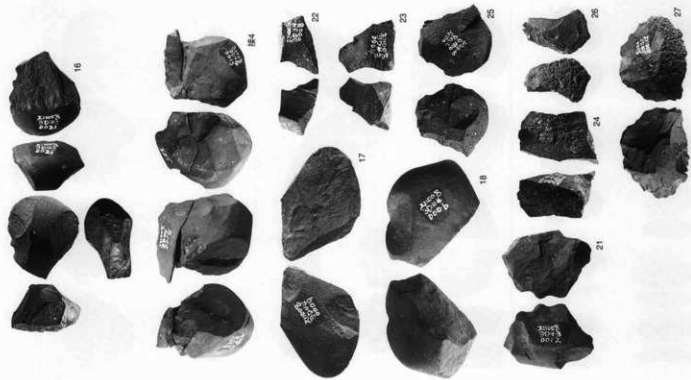
石器集中8



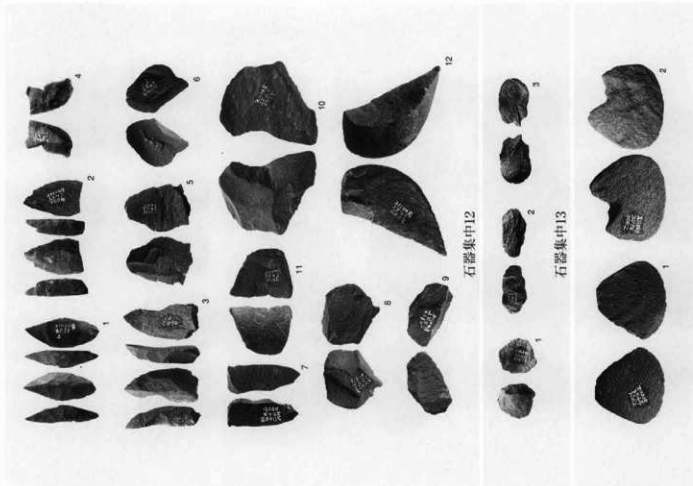
石器集中7(1)

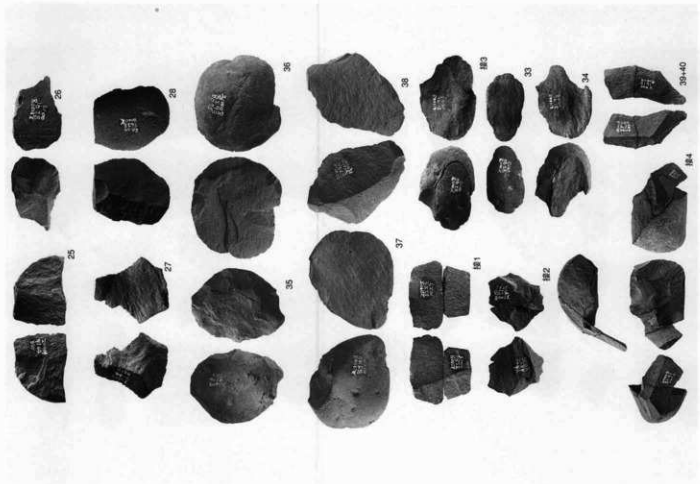


石器集中9(1)

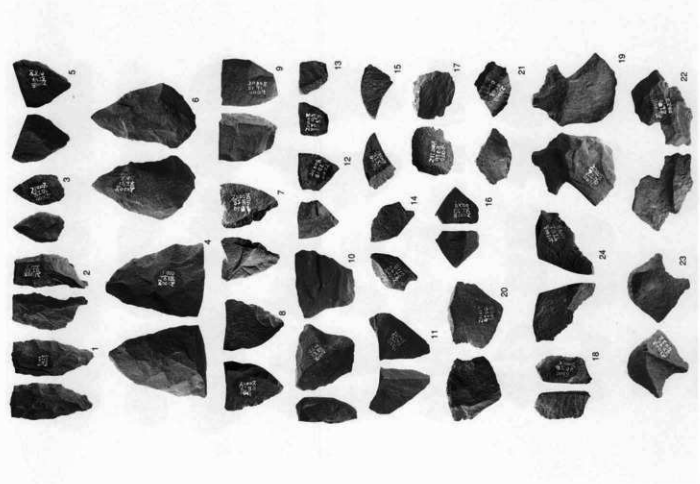


石器集中9(2)

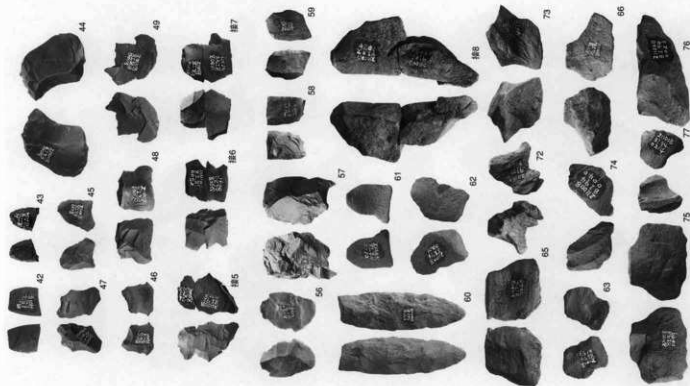




石器集中15 (2)



石器集中15 (1)

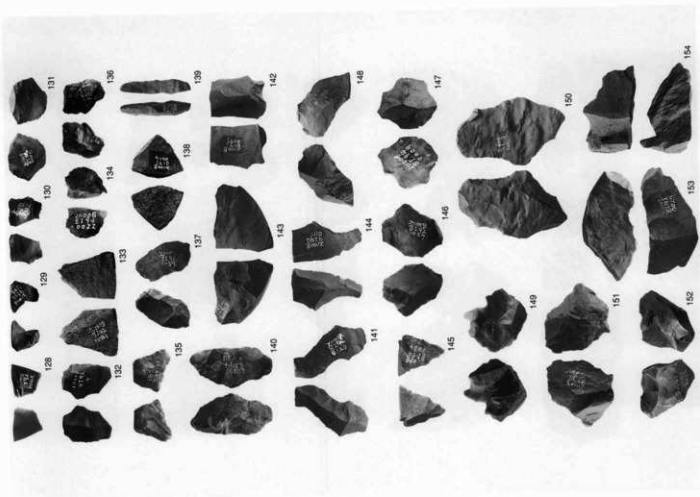


石器集中15 (3)

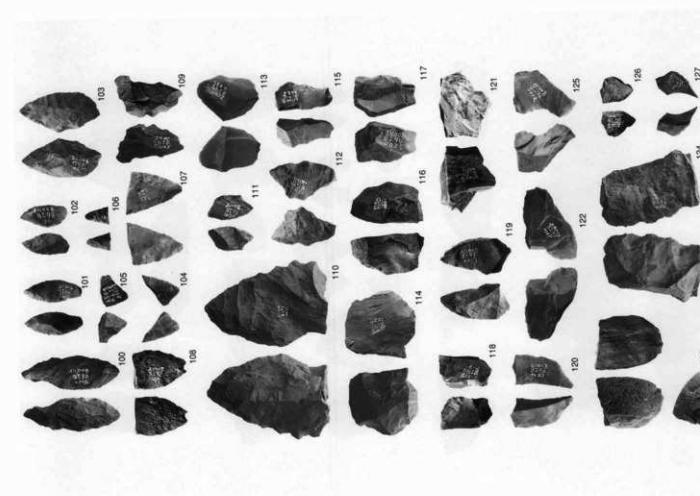


石器集中15 (4)

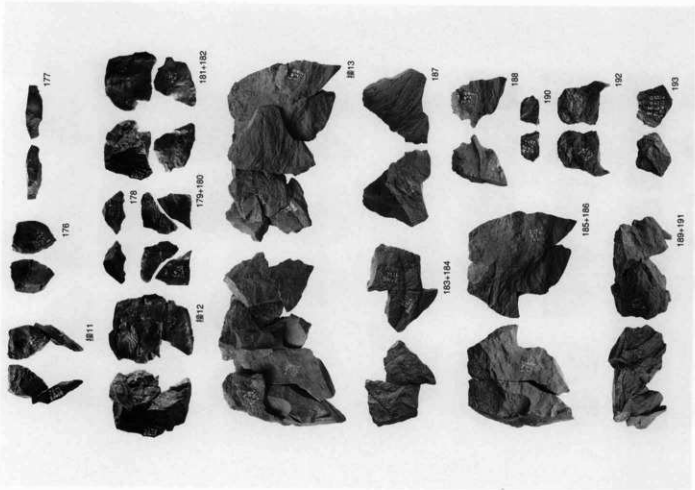




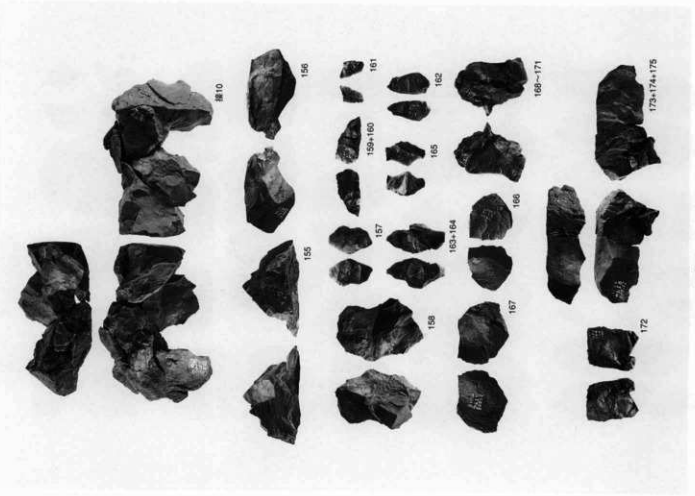
石器集中15 (6)



石器集中15 (5)

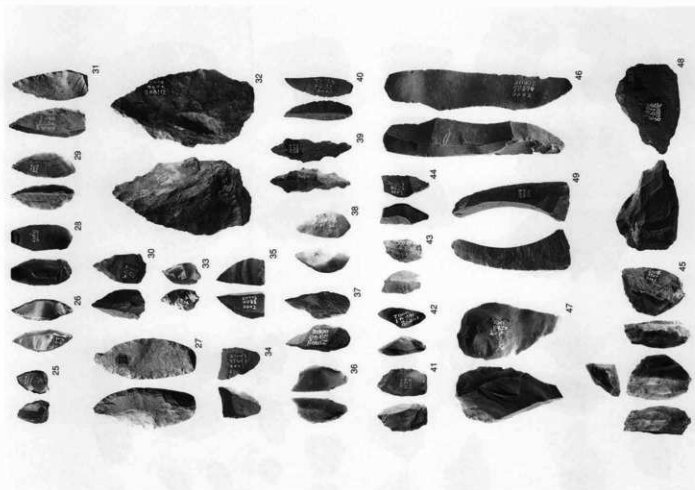


石器集中15 (8)

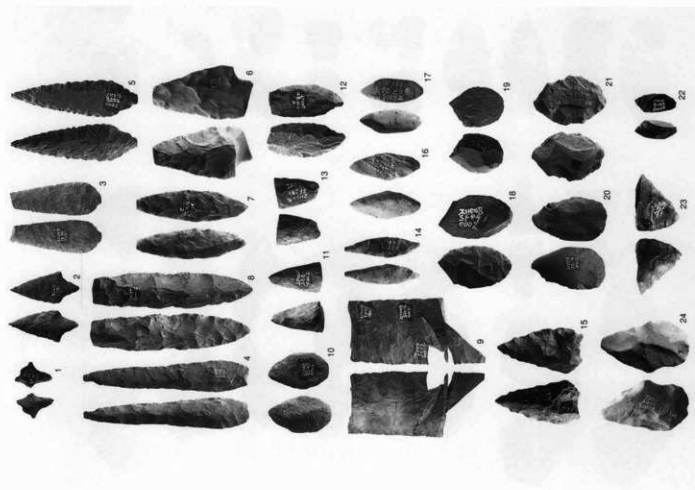


石器集中15 (7)

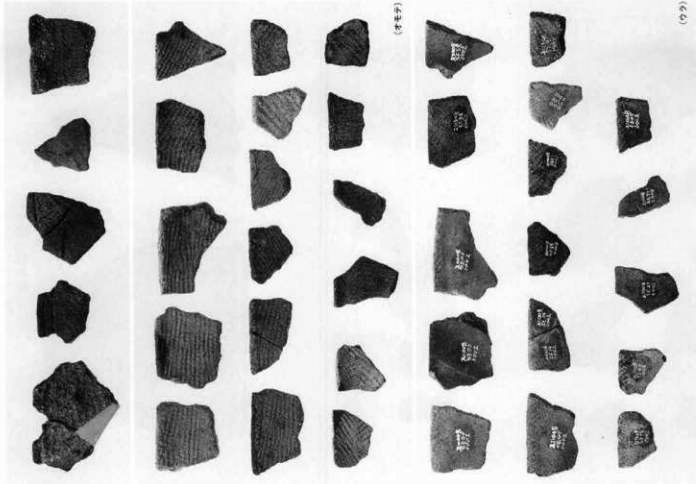




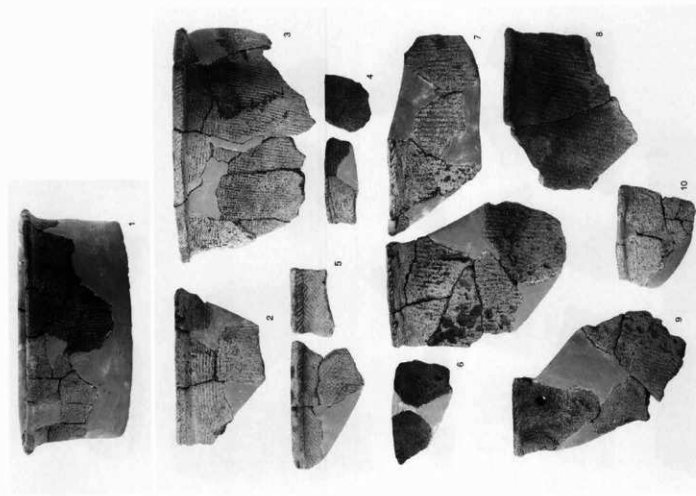
石器集中地点外 (2)



石器集中地点外 (1)



第 I 群土器 (2)



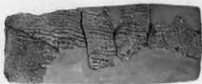
第 I 群土器 (1)



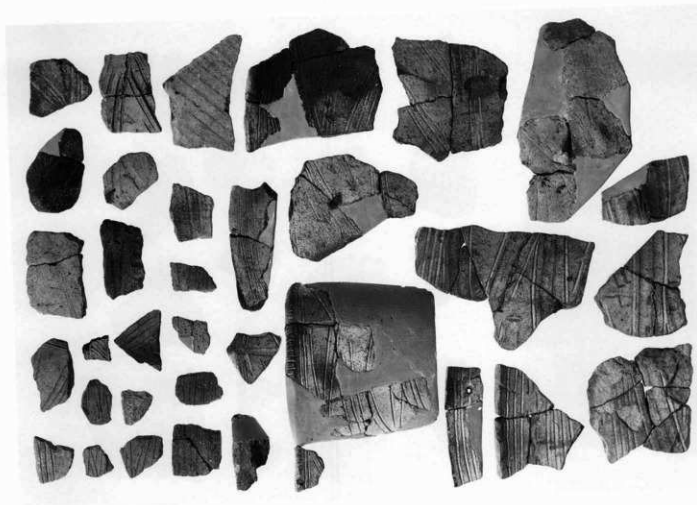
第II群土器



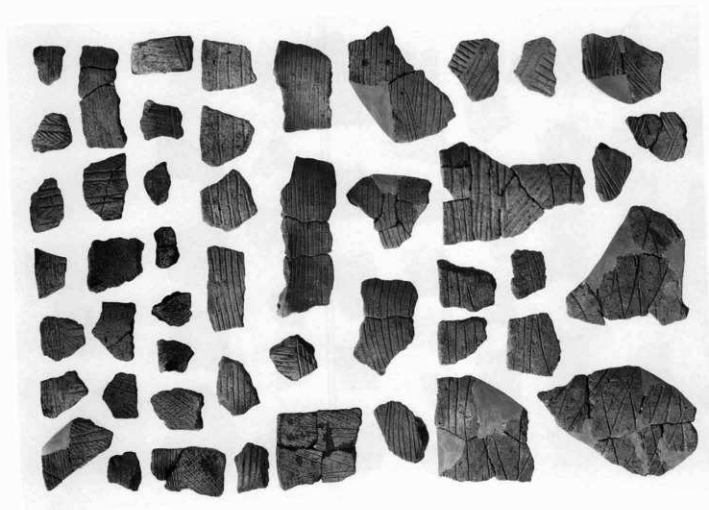
第III群土器 (1)



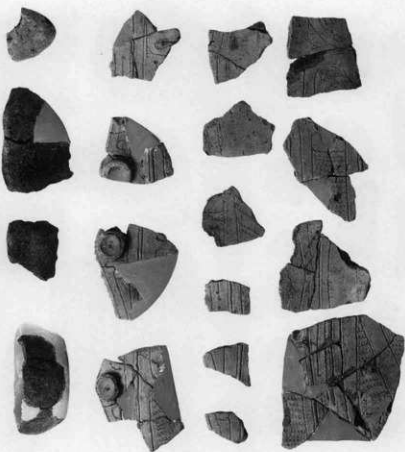
第I群土器 (3)



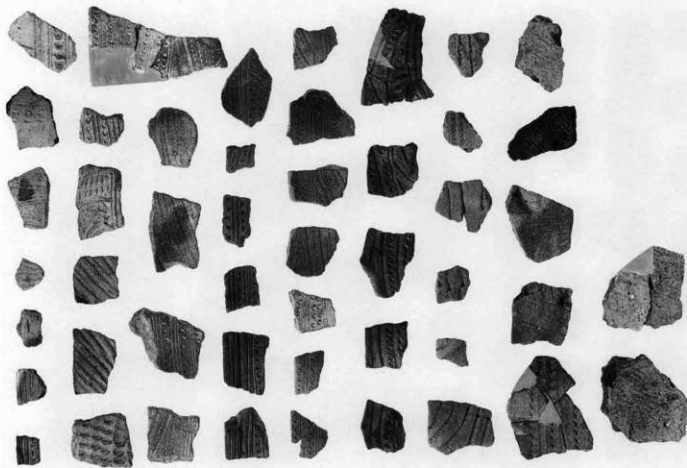
第三群土器 (3)



第三群土器 (2)

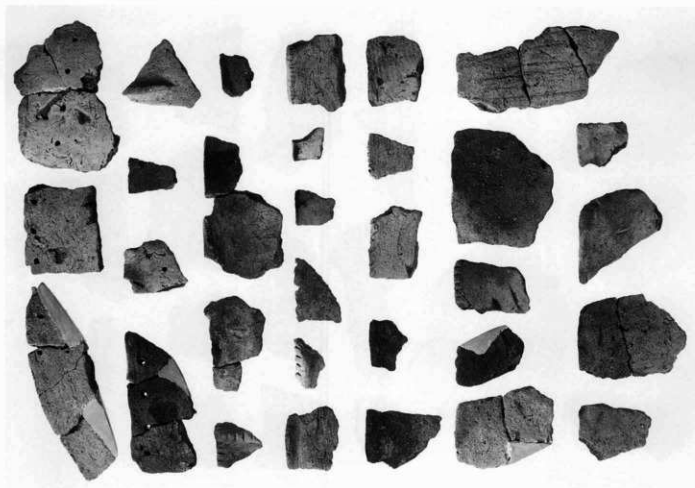


第Ⅲ群土器 (5)

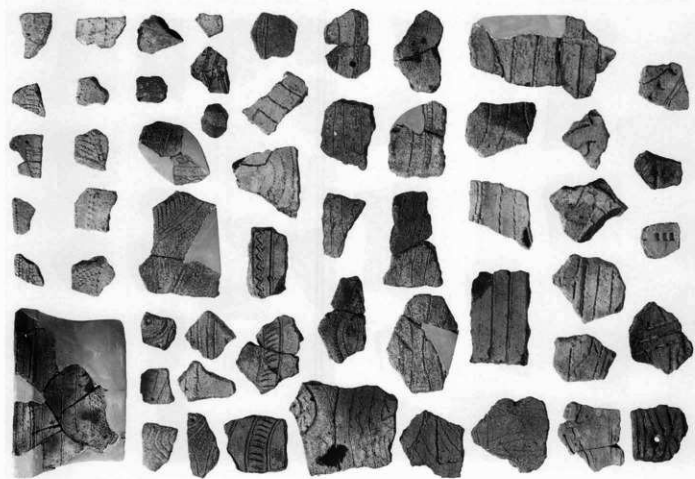


第Ⅲ群土器 (4)

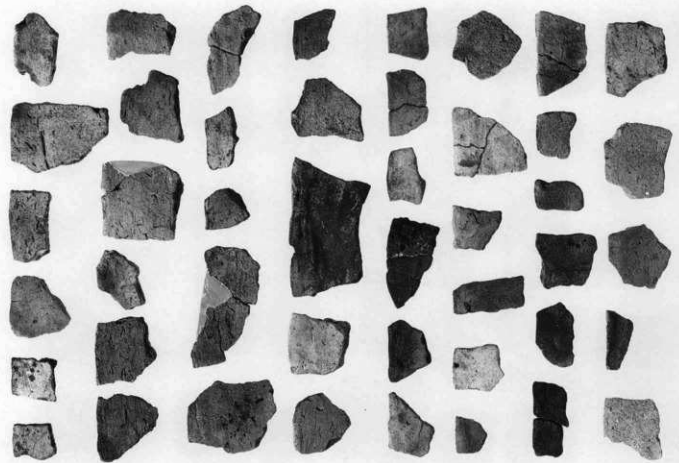




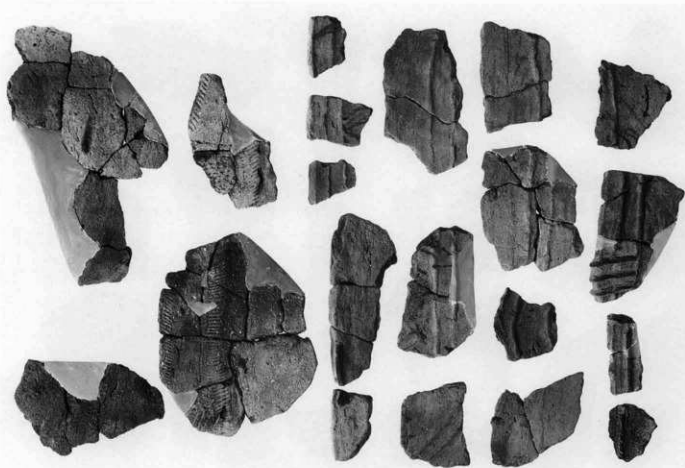
第Ⅲ群土器 (7)



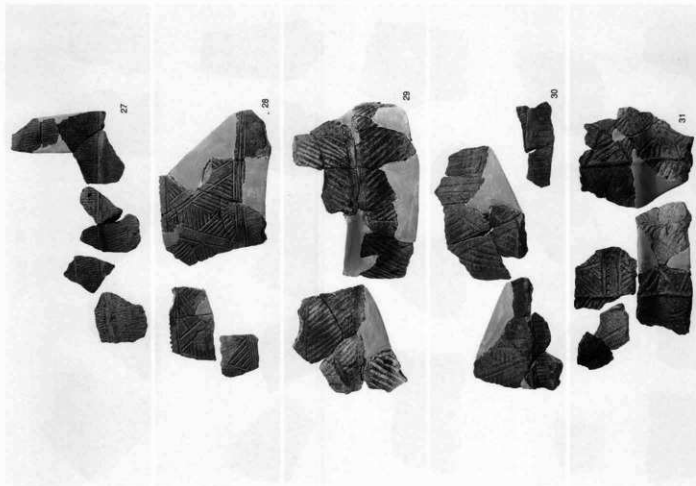
第Ⅲ群土器 (6)



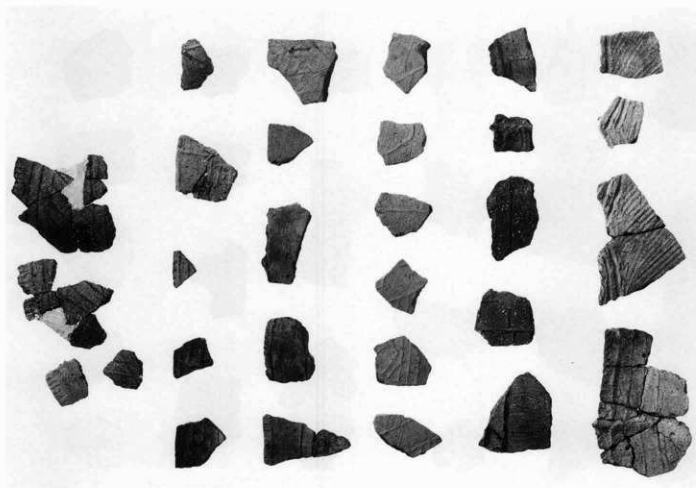
第Ⅲ群土器 (8)



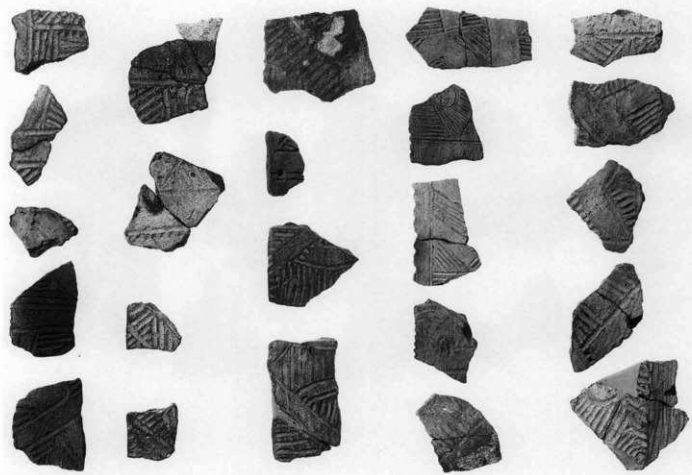
第Ⅲ群土器 (9)



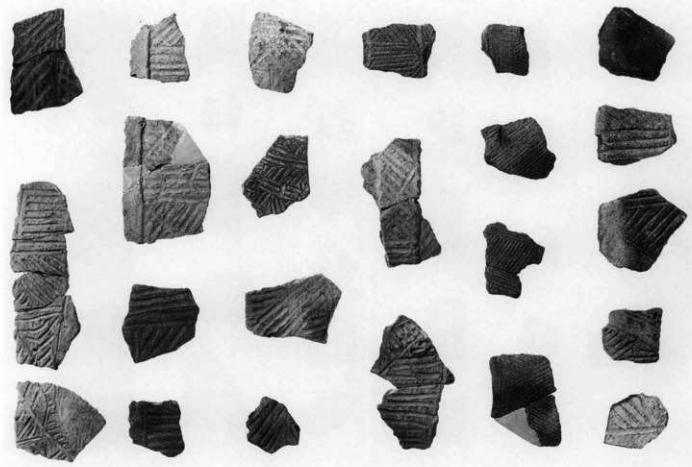
第IV群土器 (2)



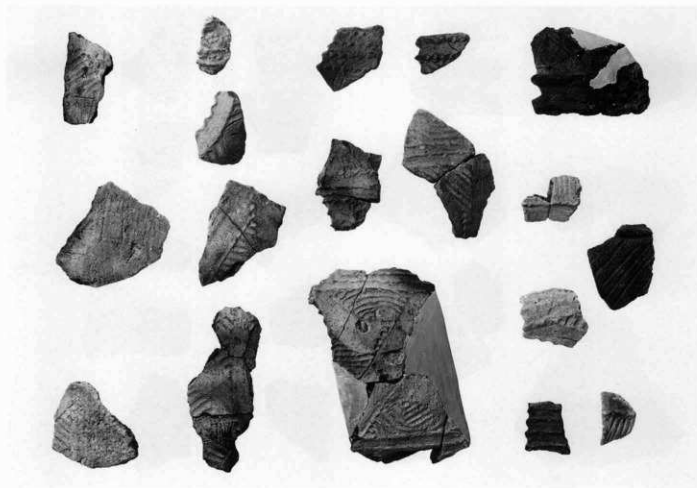
第IV群土器 (1)



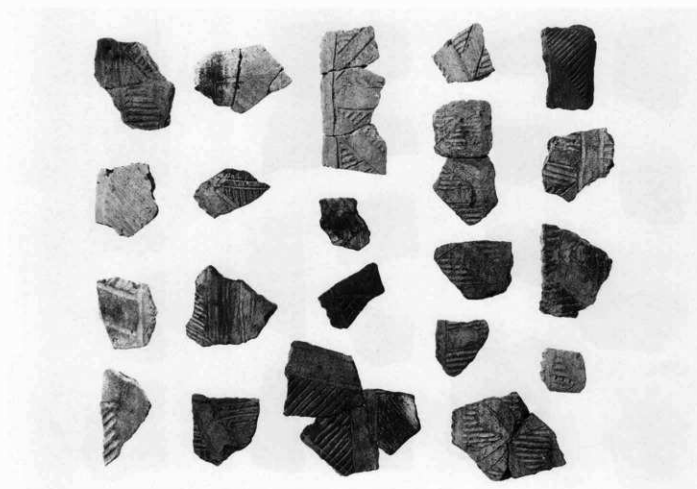
第IV群土器(4)



第IV群土器(3)



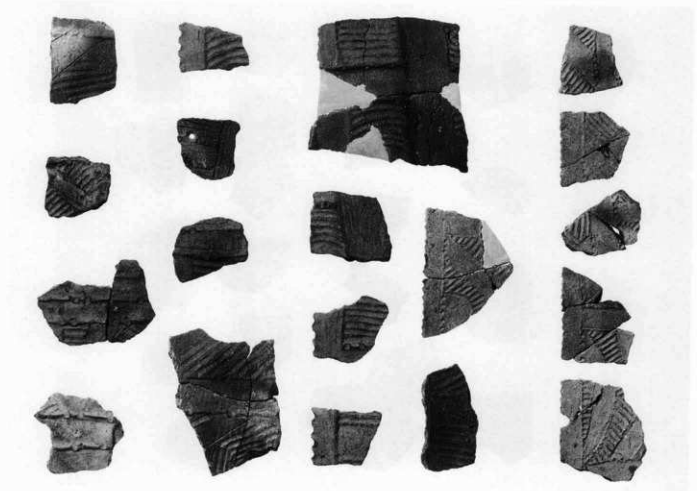
第IV群土器 (6)



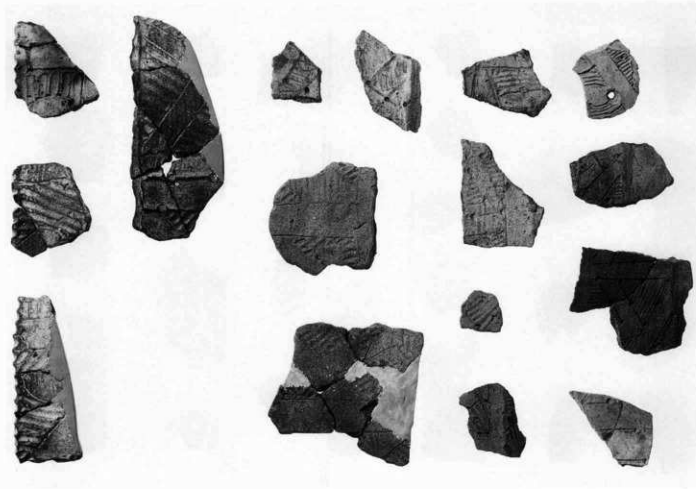
第IV群土器 (5)



第IV群土器 (8)



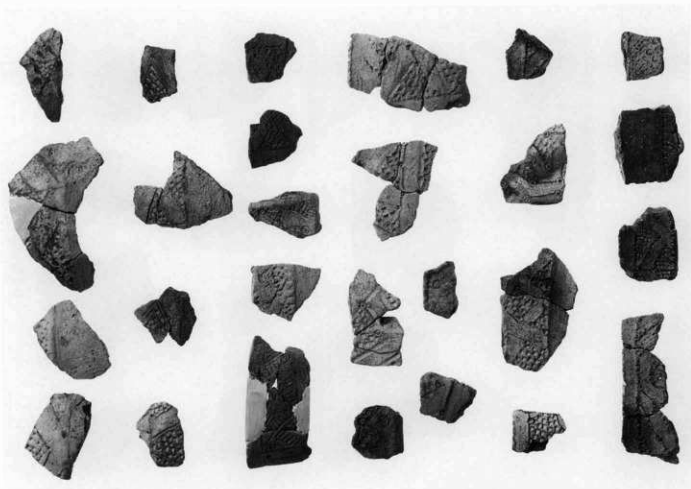
第IV群土器 (7)



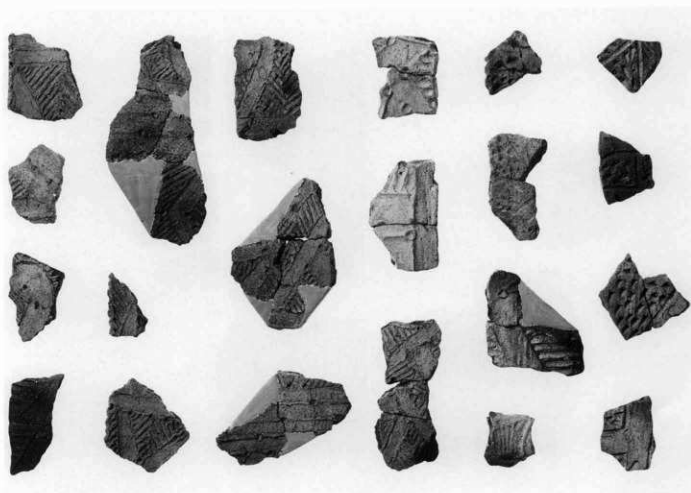
第IV群土器 (10)



第IV群土器 (9)

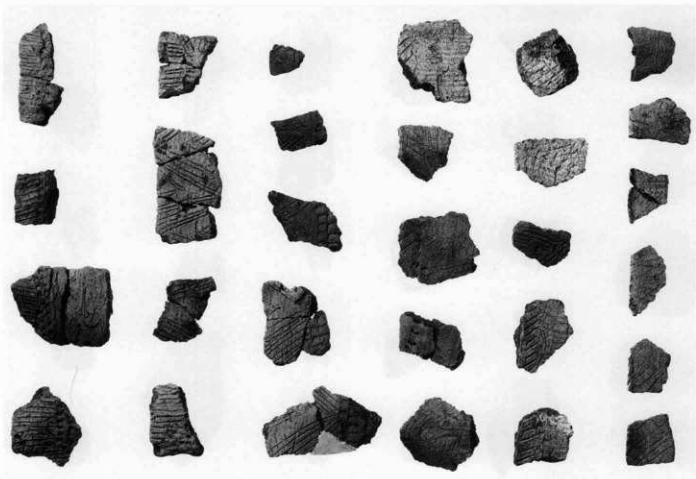


第IV群土器 (12)

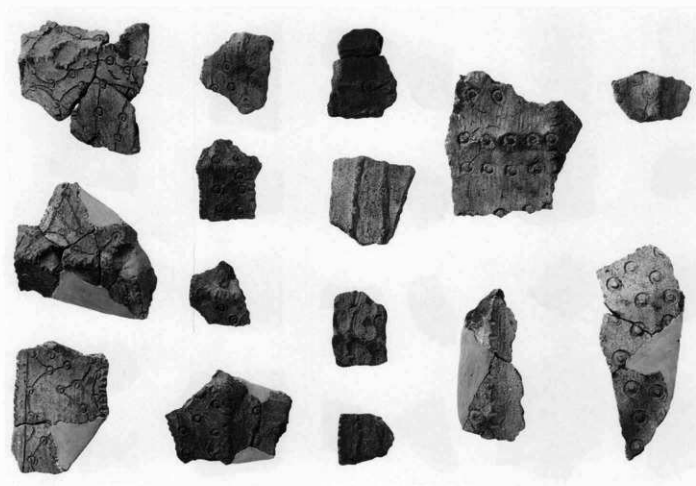


第IV群土器 (11)

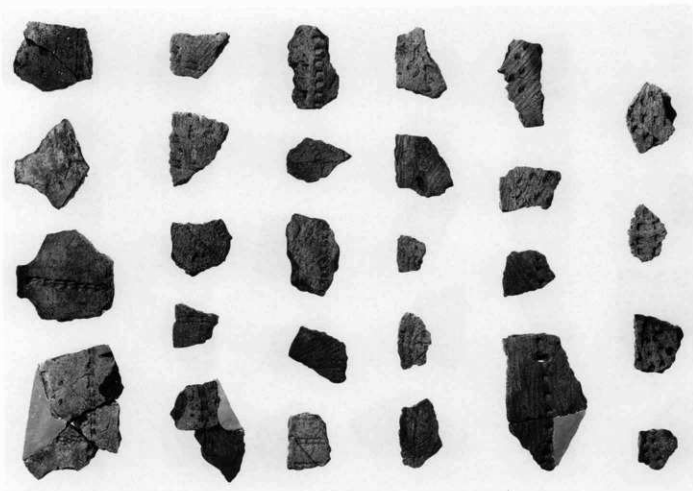




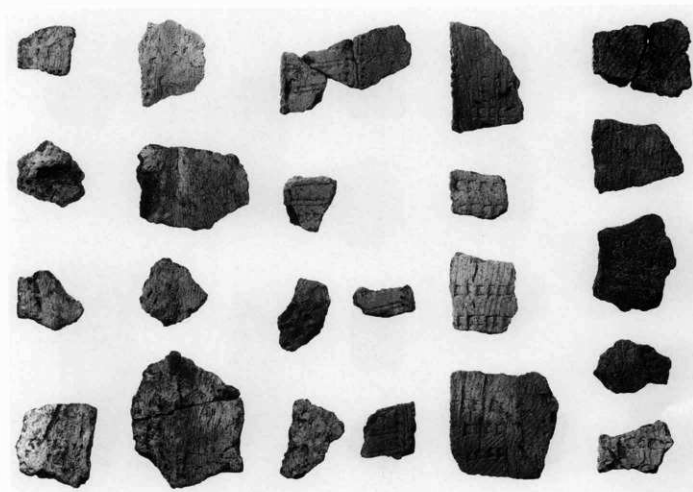
第IV群土器 (14)



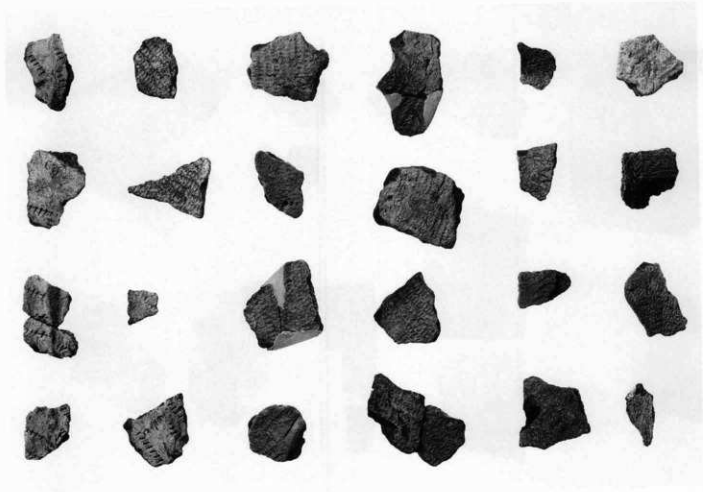
第IV群土器 (13)



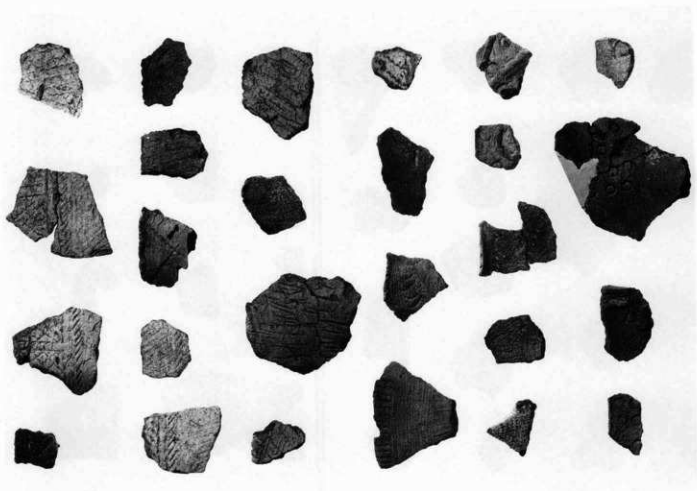
第IV群土器 (16)



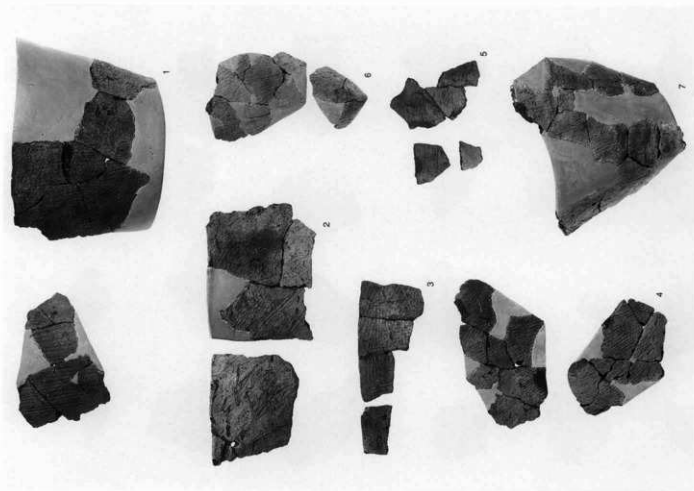
第IV群土器 (15)



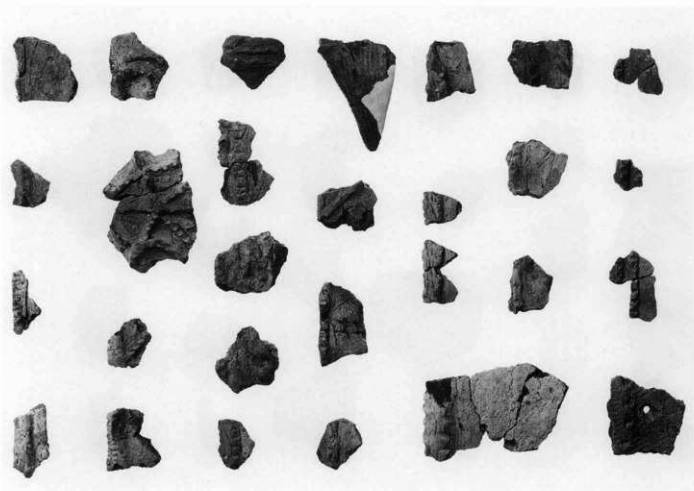
第IV群土器 (18)



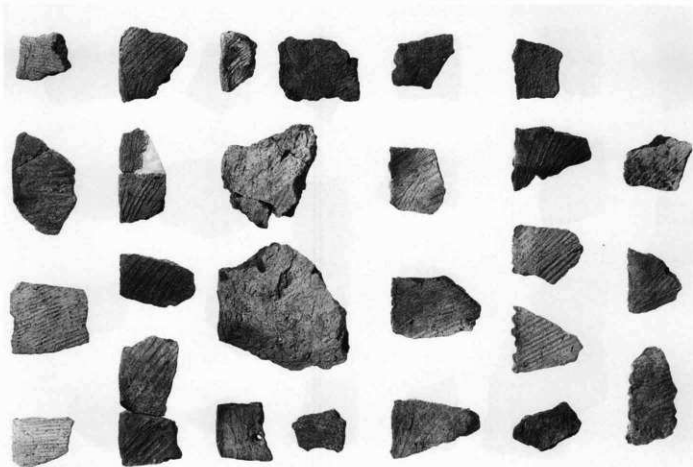
第IV群土器 (17)



第IV群土器 (20)



第IV群土器 (19)



第IV群土器 (22)



9



10



12



14



8

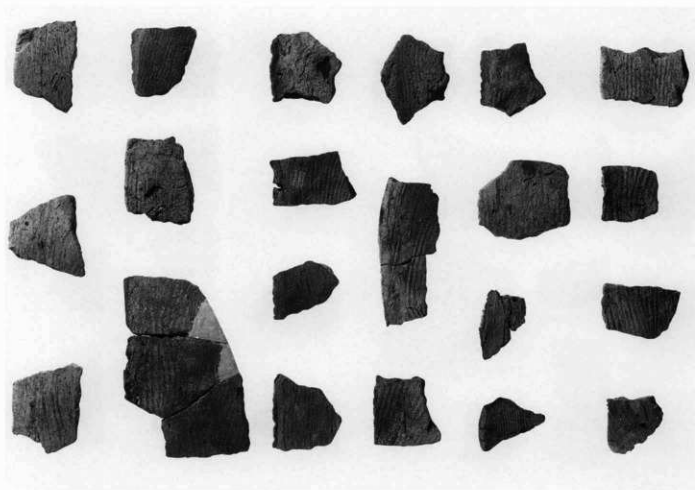


11

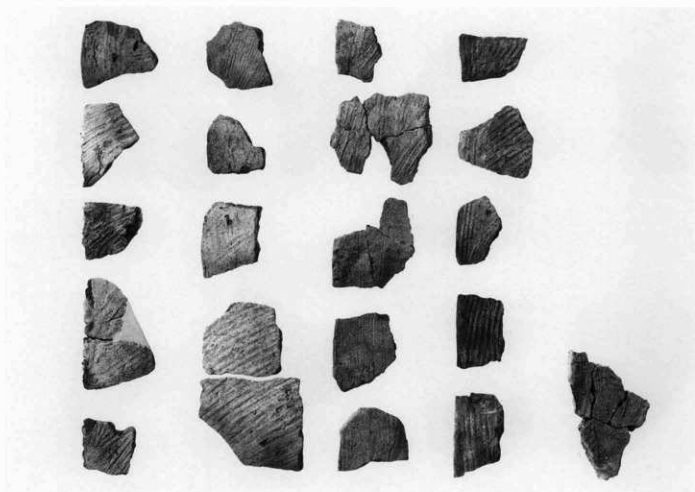


13

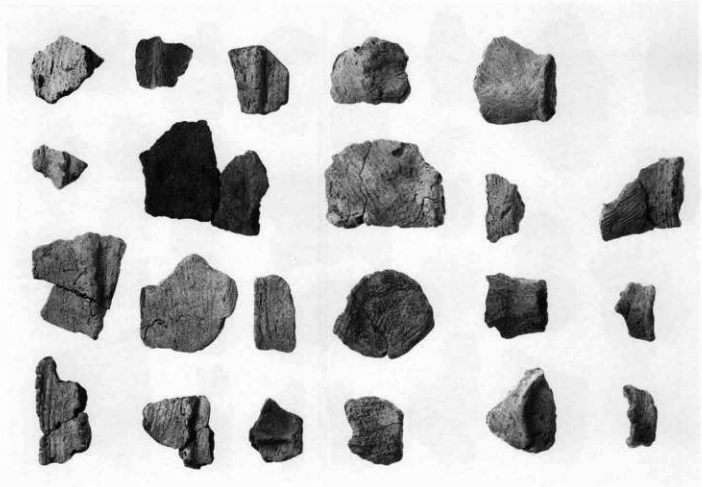
第IV群土器 (21)



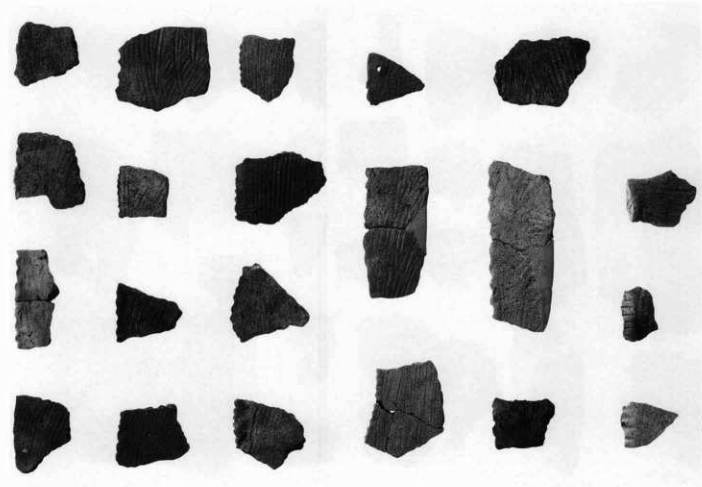
第Ⅳ群土器 (24)



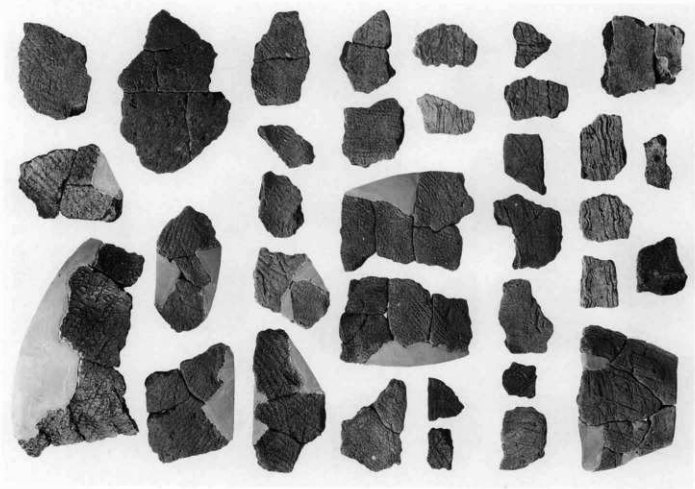
第Ⅳ群土器 (23)



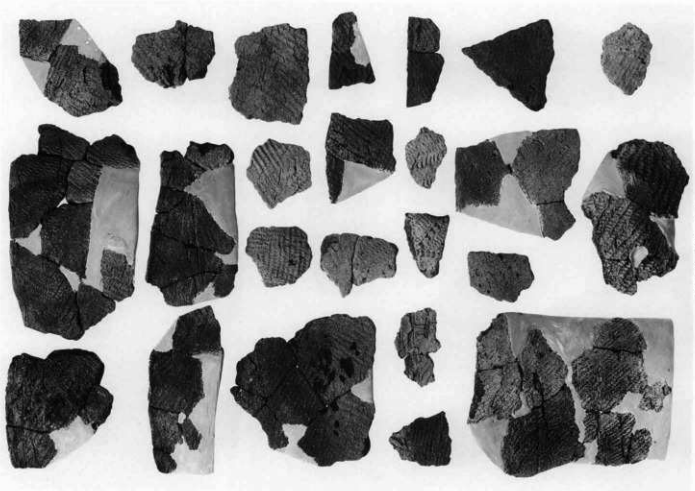
第IV群土器 (26)



第IV群土器 (25)

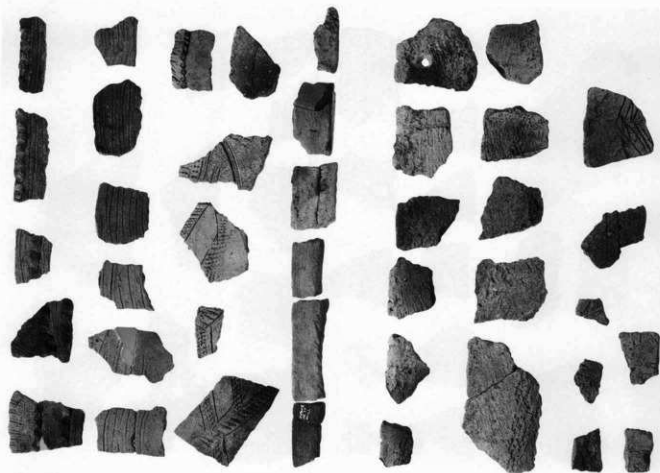


第V群土器(2)

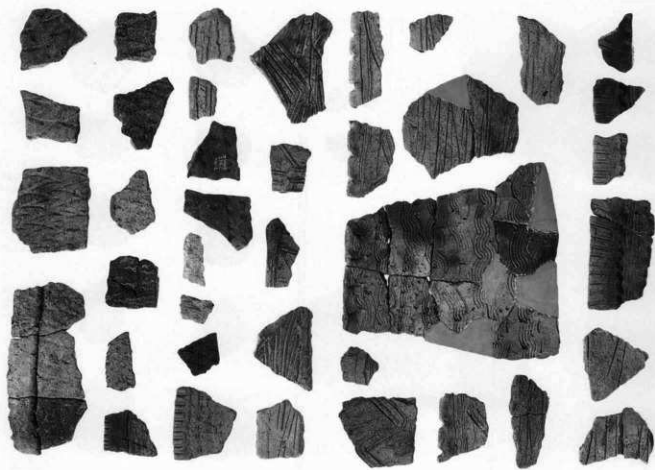


第V群土器(1)

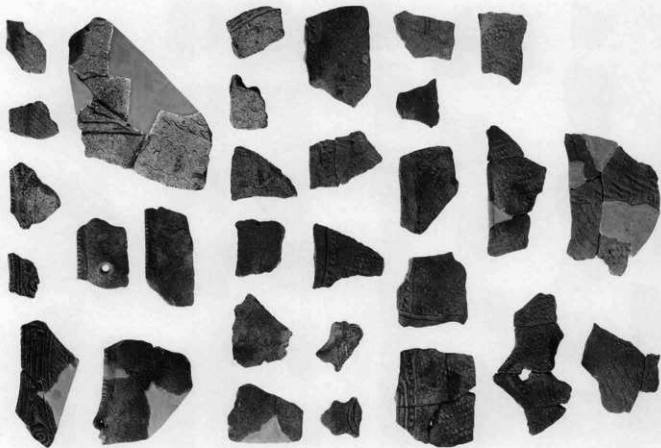




第V群土器(4)



第V群土器(3)



第VI群土器 (2)



3



1

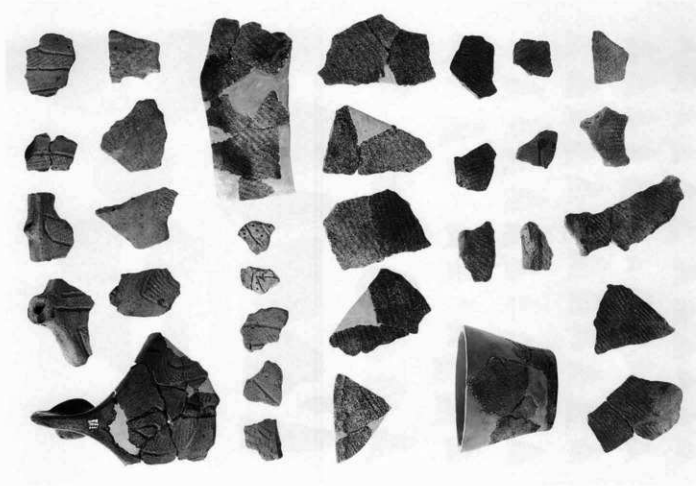


2

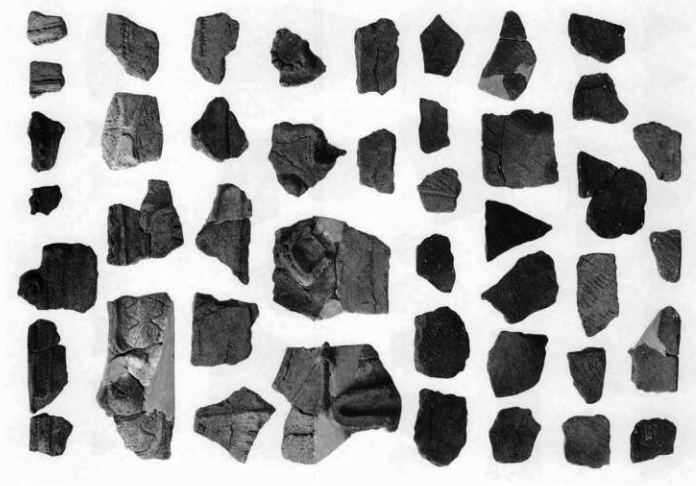


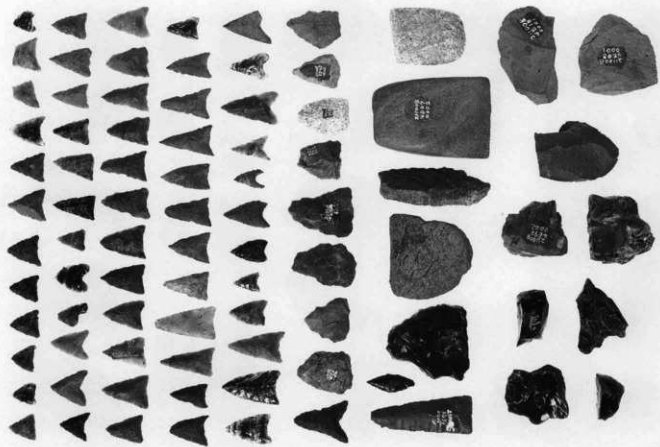
第VI群土器 (1), 土製品

第Ⅳ群土器

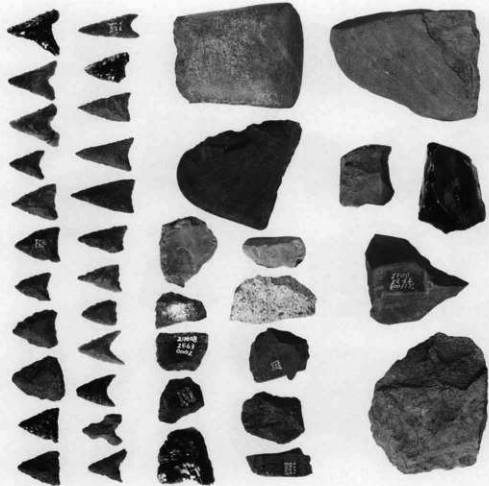


第Ⅴ群土器 (3)





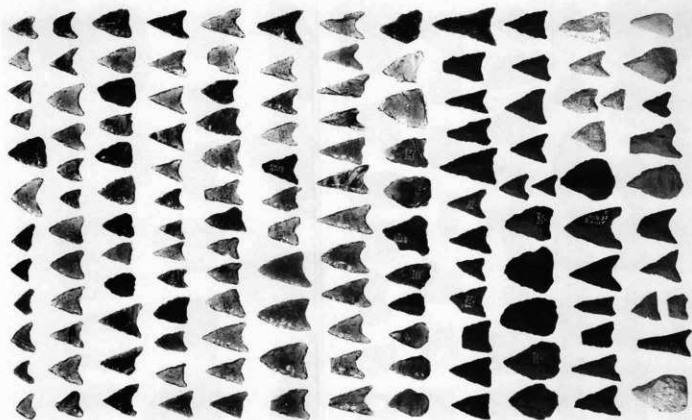
B群出土石器(1)



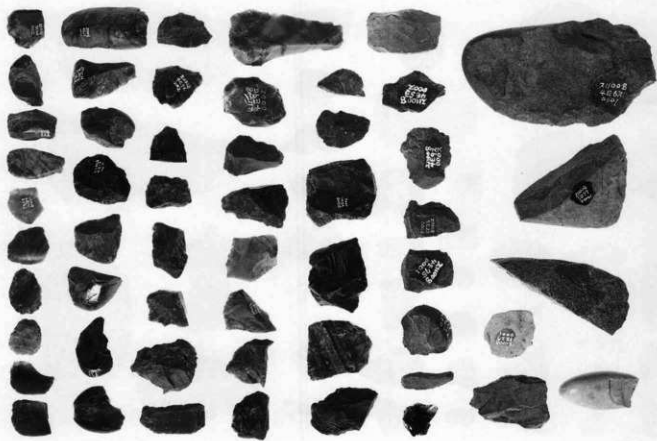
A群出土石器



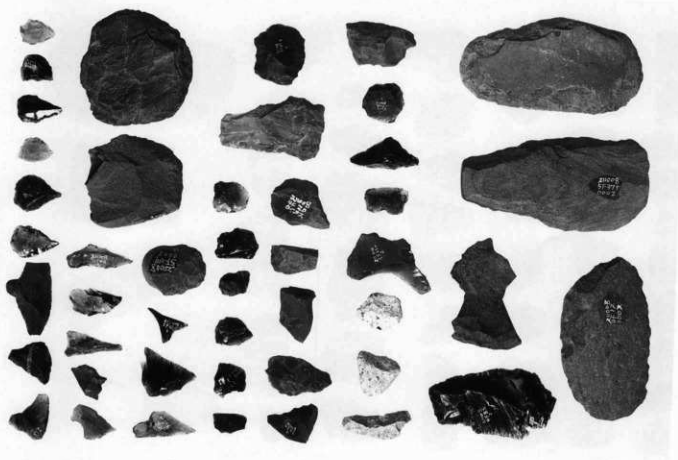
D群出土石器



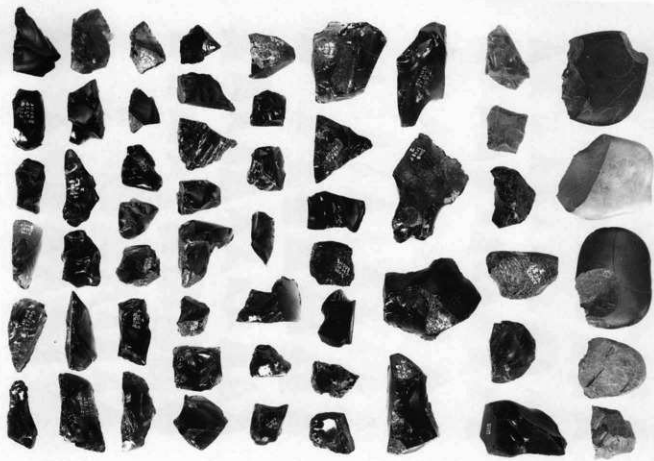
C群出土石器(1)



B群出土石器(2)

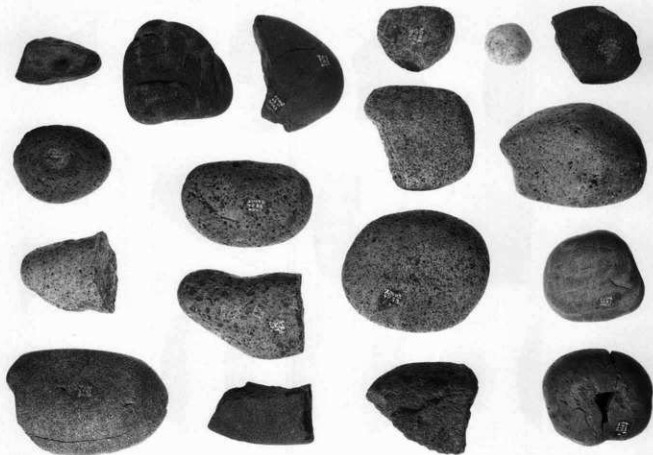


C群出土石器 (2)

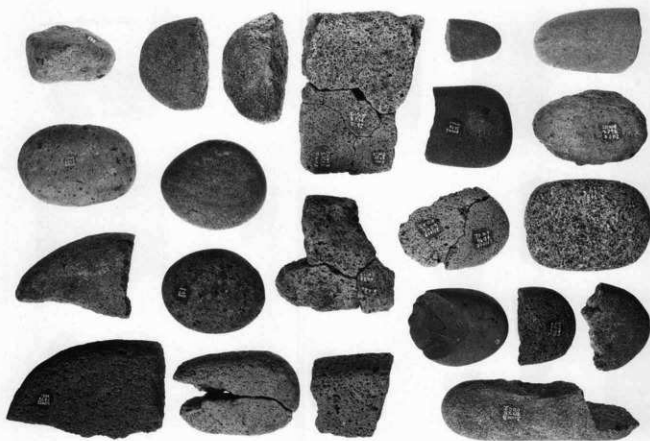


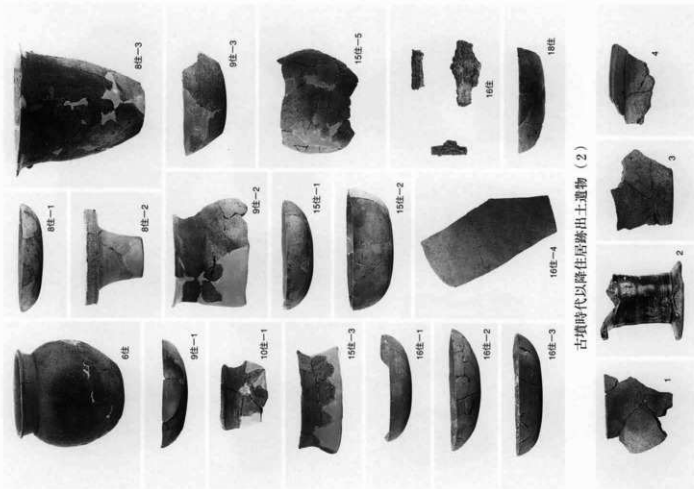
C群出土石器 (3)

礫石器 (2)



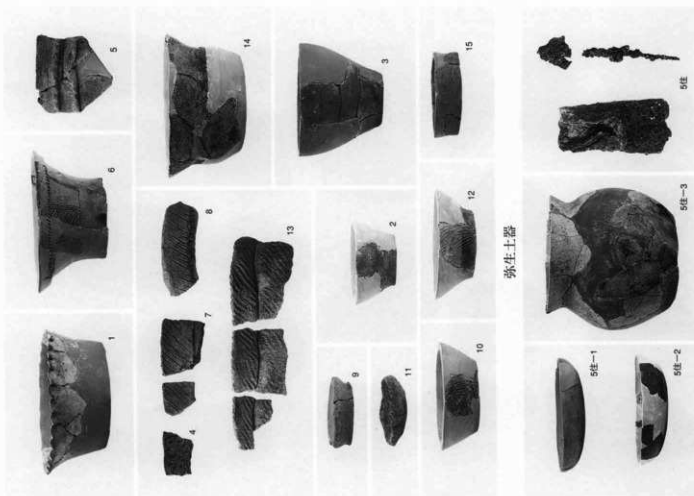
礫石器 (1)





古墳時代以降住居跡出土遺物 (2)

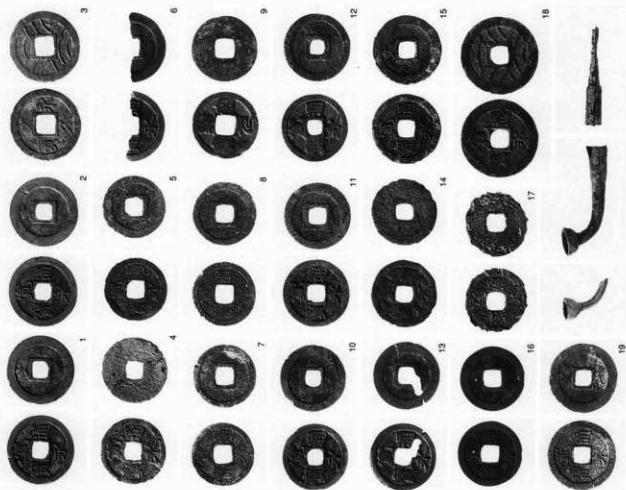
グリッド出土土遺物



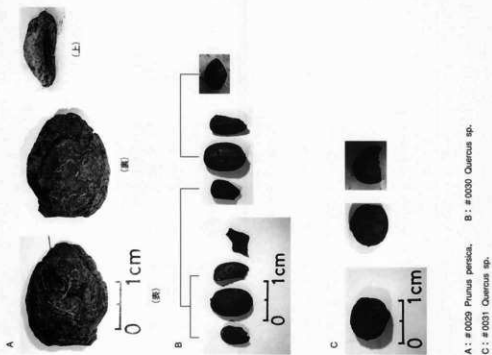
弥生土器

古墳時代以降住居跡出土遺物 (1)





出土钱货，近世金属製品



A : # 0029 *Prunus persica*. B : # 0030 *Quercus* sp.  
C : # 0031 *Quercus* sp.

報告書抄録

ふりがな	しんとくきょうこくさいくこうまいぞうぶんかざいはくつちょうさほうこくしよ							
書名	新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書							
副書名	東峰御幸畑東遺跡 (空港No.62遺跡)							
巻次	XⅧ							
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第483集							
編著者名	宮 承行 永塚俊司 麻生正信 横山 仁 鳴田浩司							
編集機関	財団法人 千葉県文化財センター							
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809番地2 TEL043-422-8811							
発行	西暦 2004年3月25日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
東峰御幸畑 東遺跡 (空港No.62 遺跡)	千葉県成田市 東峰字御幸畑 89-1他	12221	008	35度 46分 33秒	140度 23分 52秒	19780708 ～ 19810306	84,000	新東京国際空港建設に伴う 事前調査
所収遺跡名	種別	種別	主な遺構	主な遺物		特記事項		
東峰御幸畑 東遺跡 (空港No.62 遺跡)	包蔵地 集落跡 製鉄跡	旧石器	石器集中地点 15地点	石斧, 台形様石器, ナイフ形石器, 尖頭器スクレイパー, 剥片		複数の文化層から石器群が出土		
		縄文	陥穴 23基 炉穴 2基 土坑 40基 礫群 1地点	井草Ⅰ式, 井草Ⅱ式, 押型文, 三戸式, 田戸下層式, 田戸上層式, 野島式, 鷗ヶ島台式, 茅山上・下層式, 黒浜式, 浮島・興津式, 五領ヶ台式, 阿玉台式, 後期土器, 石鏃, 削器, 磨石, 磨製石斧, 敲石		沈線文系・条痕文系土器が多量に出土 縄文系土器の古手が出土 石鏃の製作跡を検出		
		弥生	住居跡 4軒	十玉台式		後期住居跡を検出		
		古墳時代後期から奈良時代初め	住居跡 14軒 スラグ溜まり 1基	土師器, 須恵器, 羽口, 小鉄塊, 鉄滓, 炉壁, 砂鉄炭化種子		鍛冶跡を検出		
		中・近世	溝状遺構13条 野馬上手1条 方形竅穴状遺構 4基	陶器, 銭貨, 煙管		矢作牧の野馬土手, 野馬堀を検出		

千葉県文化財センター調査報告第483集

新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書 X IX

—東峰御幸畑東遺跡（空港No.62遺跡）—

---

平成16年3月25日発行

編 集 財団法人 千葉県文化財センター  
発 行 新東京国際空港公社  
千葉県成田市木の根字神台24番地  
新東京国際空港内  
財団法人 千葉県文化財センター  
千葉県四街道市鹿渡809-2  
印 刷 株式会社 ラ イ フ  
千葉県成田市東和Ⅲ595

---

